

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	がっこうのほん テンリだいがく 学校法人 天理大学							
フリガナ大学の名称	テンリだいがく 天理大学							
大学本部の位置	奈良県天理市柚之内町1050番地							
大学の目的	本大学は、教育基本法および学校教育法に則り、天理教教義に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、もって人類の福祉と文化の発展に貢献する人材、殊に世界布教に従事すべき者を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的	人文学部は、宗教や思想などの精神文化への知識と理解を基礎に人文学の知的体系的成果を教授することにより、現代社会の絶え間ない複雑な環境変化や社会的課題に対して、主体的に判断でき能動的に行動することができるとともに、「陽気ぐらし」世界の建設を掲げる建学の精神を具現化に資する国内外で他者への献身できる教養と態度を身につけた人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人文学部	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	奈良県天理市柚之内町 1050番地
	宗教学科	4	20	—	80	学士 (宗教学)	令和6年4月 第1年次	
	国文学国語学科	4	40	—	160	学士 (国文学)	令和6年4月 第1年次	
	歴史文化学科	4	50	—	200	学士 (歴史文化学)	令和6年4月 第1年次	
	心理学科	4	40	—	160	学士 (心理学)	令和6年4月 第1年次	
	社会教育学科	4	40	—	160	学士 (社会教育学)	令和6年4月 第1年次	
	社会福祉学科	4	50	—	200	学士 (社会福祉学)	令和6年4月 第1年次	
計		240	—	960				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>人間学部（廃止）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宗教学科 (△40)</li> <li>人間関係学科臨床心理専攻 (△30)</li> <li>人間関係学科生涯教育専攻 (△20)</li> <li>人間関係学科社会福祉専攻 (△30)</li> </ul> <p>※令和6年4月学生募集停止</p> <p>文学部（廃止）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国文学国語学科 (△40)</li> <li>歴史文化学科 (△50)</li> </ul> <p>※令和6年4月学生募集停止</p> <p>国際学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語学科英米語専攻（廃止） (△70)</li> <li>外国語学科中国語専攻（廃止） (△30)</li> <li>外国語学科韓国・朝鮮語専攻（廃止） (△30)</li> <li>外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻（廃止） (△35)</li> <li>地域文化学科（廃止） (△195)</li> </ul> <p>※令和6年4月学生募集停止</p> <p>国際学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語学科〔定員減〕 (△105) (令和6年4月)</li> </ul> <p>※英米語専攻(70)、中国語専攻(30)、韓国・朝鮮語専攻(30)、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻(35)の入学定員合計165名を60名に変更</p> <p>体育学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体育学科〔定員増〕 (40)</li> </ul>							

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の 変更等)	国際学部韓国・朝鮮語学科 (40) (令和5年7月届出)													
	国際学部中国語学科 (40) (令和5年7月届出)													
	国際学部英米語学科 (60) (令和5年7月届出)													
	国際学部国際文化学科 (50) (令和5年7月届出)													
	国際学部日本学科 (40) (令和5年7月届出)													
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数								
		講義	演習	実験・実習	計									
	人文学部宗教学科	143 科目	32 科目	21 科目	197 科目	124 単位								
	人文学部国文学国語学科	151 科目	59 科目	22 科目	233 科目	124 単位								
	人文学部歴史文化学科	170 科目	74 科目	33 科目	278 科目	124 単位								
	人文学部心理学科	141 科目	37 科目	22 科目	201 科目	124 単位								
	人文学部社会教育学科	149 科目	37 科目	32 科目	220 科目	124 単位								
人文学部社会福祉学科	152 科目	43 科目	26 科目	222 科目	124 単位									
教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等						
			教授	准教授	講師	助教	計	助手						
	新 設	人文学部宗教学科	3	1	2	0	6	0	101					
			(3)	(1)	(2)	(0)	(6)	(0)	(86)					
			人文学部国文学国語学科	3	1	1	0	5	0	114				
				(3)	(1)	(1)	(0)	(5)	(0)	(97)				
				人文学部歴史文化学科	5	1	1	0	7	0	119			
					(6)	(1)	(1)	(0)	(8)	(0)	(96)			
					人文学部心理学科	6	0	0	0	6	0	119		
						(6)	(0)	(0)	(0)	(6)	(0)	(95)		
						人文学部社会教育学科	3	1	1	0	5	0	107	
							(3)	(1)	(1)	(0)	(5)	(0)	(93)	
							人文学部社会福祉学科	7	4	1	0	12	0	112
								(7)	(4)	(1)	(0)	(12)	(0)	(94)
								人文学部	5	2	2	0	9	0
	(5)	(2)							(2)	(0)	(9)	(0)	(0)	
	国際学部韓国・朝鮮語学科	4							1	0	0	5	0	124
		(4)	(1)						(0)	(0)	(5)	(0)	(109)	
		国際学部中国語学科	4						1	0	0	5	0	125
			(4)	(1)					(0)	(0)	(5)	(0)	(108)	
国際学部英米語学科			3	3					1	0	7	0	117	
			(3)	(4)	(1)				(0)	(8)	(0)	(101)		
			国際学部国際文化学科	4	2				0	0	6	0	125	
				(5)	(2)	(0)			(0)	(7)	(0)	(108)		
				国際学部日本学科	4	1			0	0	5	0	118	
					(5)	(0)	(1)		(0)	(6)	(0)	(100)		
					計	51	18		9	0	78	0	—	
						(54)	(18)	(10)	(0)	(82)	(0)	(—)		
						既 設	国際学部外国語学科	7	3	1	0	11	0	128
	(7)							(4)	(1)	(0)	(12)	(0)	(90)	
	国際学部							0	2	0	0	2	0	0
		(0)						(2)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	
		体育学部体育学科						10	11	3	1	25	0	110
(10)								(11)	(3)	(1)	(25)	(0)	(110)	
医療学部看護学科								10	5	8	8	31	0	121
			(10)					(5)	(8)	(6)	(29)	(3)	(121)	
			医療学部臨床検査学科					7	3	4	3	17	0	141
				(7)				(3)	(3)	(3)	(16)	(1)	(141)	
				附属おやさと研究所				3	0	1	0	4	0	0
					(3)			(0)	(1)	(0)	(4)	(0)	(0)	
					計			37	24	17	12	90	0	—
						(37)	(25)	(16)	(10)	(88)	(4)	(—)		
						合 計	88	42	26	12	168	0	—	
	(91)						(43)	(26)	(10)	(170)	(4)	(—)		

令和5年7月  
届出済み(予定)

令和5年7月  
届出済み(予定)

令和5年7月  
届出済み(予定)

令和5年7月  
届出済み(予定)

令和5年7月  
届出済み(予定)

令和5年7月  
届出済み(予定)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計			
	事 務 職 員		101 (101)	49 (49)	150 (150)	人		
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員		25 (25)	4 (4)	29 (29)			
	そ の 他 の 職 員		10 (10)	3 (3)	13 (13)			
	計		136 (136)	56 (56)	192 (192)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	148,332.61㎡	0 ㎡	0 ㎡	148,332.61㎡			
	運 動 場 用 地	163,322.48㎡	0 ㎡	0 ㎡	163,322.48㎡			
	小 計	311,655.09㎡	0 ㎡	0 ㎡	311,655.09㎡			
	そ の 他	27,034.99㎡	0 ㎡	0 ㎡	27,034.99㎡			
	合 計	338,690.08㎡	0 ㎡	0 ㎡	338,690.08㎡			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		81,584.21㎡ ( 81,584.21㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	81,584.21㎡ ( 81,584.21㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	60 室	44 室	22 室	11 室 (補助職員 0人)	5 室 (補助職員 0人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数			
		人文学部宗教学科			6	室		
		人文学部国文学国語学科			5	室		
		人文学部歴史文化学科			8	室		
		人文学部心理学科			6	室		
		人文学部社会教育学科			5	室		
		人文学部社会福祉学科			12	室		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定 不能なため、大学 全体の数
	人文学部宗教学科	665,080 [134,290] (640,270 [133,330])	7,910 [2,200] (7,850 [2,180])	28,250 [27,010] (28,240 [27,000])	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	
	人文学部国文学国語学科	665,080 [134,290] (640,270 [133,330])	7,910 [2,200] (7,850 [2,180])	28,250 [27,010] (28,240 [27,000])	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	
	人文学部歴史文化学科	665,080 [134,290] (640,270 [133,330])	7,910 [2,200] (7,850 [2,180])	28,250 [27,010] (28,240 [27,000])	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	
	人文学部心理学科	665,080 [134,290] (640,270 [133,330])	7,910 [2,200] (7,850 [2,180])	28,250 [27,010] (28,240 [27,000])	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	
	人文学部社会教育学科	665,080 [134,290] (640,270 [133,330])	7,910 [2,200] (7,850 [2,180])	28,250 [27,010] (28,240 [27,000])	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	
	人文学部社会福祉学科	665,080 [134,290] (640,270 [133,330])	7,910 [2,200] (7,850 [2,180])	28,250 [27,010] (28,240 [27,000])	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	
	計	665,080 [134,290] (640,270 [133,330])	7,910 [2,200] (7,850 [2,180])	28,250 [27,010] (28,240 [27,000])	13,930 (13,610)	0 (0)	0 (0)	
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		14,348.40㎡		349	154,000			
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体	
		16,377.25㎡		武道館 (柔剣道場)		弓道場		
				空手道場		トレーニングルーム		

経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む
	教員1人当り研究費等		390千円	390千円	390千円	390千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		5,730千円	5,730千円	5,730千円	5,730千円	—千円	—千円	
	図書購入費	11,093千円	11,093千円	11,093千円	11,093千円	11,093千円	—千円	—千円	
	設備購入費	8,473千円	8,473千円	8,473千円	8,473千円	8,473千円	—千円	—千円	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,080千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、私立大学等経常費補助金、手数料、資産運用収入、雑収入等						
既設大学等の状況	大学の名称	天理大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	人間学部	年	人	年次人	人		倍		奈良県天理市 杣之内町1050番地
	宗教学科	4	40	—	160	学士 (宗教学)	0.58	平成 4年度	
	人間関係学科	4	80	—	320	学士 (臨床心理) 学士 (生涯教育) 学士 (社会福祉)	0.93	平成 4年度	
	文学部						0.75		奈良県天理市 杣之内町1050番地
	国文学国語学科	4	40	—	160	学士 (国文学)	0.78	昭和 24年度	
	歴史文化学科	4	50	—	200	学士 (歴史文化)	0.72	平成 4年度	
	国際学部						0.69		奈良県天理市 杣之内町1050番地
	外国語学科	4	165	—	660	学士 (韓国・朝鮮語) 学士 (中国語) 学士 (英語) 学士 (スペイン語 またはブラジル ポルトガル語)	0.68	平成 22年度	
	地域文化学科	4	195	—	780	学士 (地域文化)	0.70	平成 22年度	
	体育学部						1.09		奈良県天理市 田井庄町80
	体育学科	4	200	—	800	学士 (体育学)	1.09	昭和 30年度	
	医療学部						1.03		奈良県天理市 別所町80-1
	看護学科	4	70	—	280	学士 (看護学)	1.13	令和 5年度	
	臨床検査学科	4	30	—	120	学士 (臨床検査学)	0.77	令和 5年度	
	宗教文化研究科						0.00		奈良県天理市 杣之内町1050番地
	宗教文化研究専攻	2	6	—	12	修士 (宗教文化研究)	0.00	平成 29年度	
	臨床人間学研究科						0.81		奈良県天理市 杣之内町1050番地
	臨床心理学専攻	2	8	—	16	修士 (臨床心理学)	0.81	平成 16年度	
体育学研究科						0.66		奈良県天理市 杣之内町1050番地	
体育学専攻	2	12	—	24	修士 (体育学)	0.66	平成 27年度		

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：天理大学附属天理図書館          目的：天理大学における教育研究に資するため、図書及びその他の資料を収集、整理、保存          所在地：奈良県天理市杣之内町1050番地          設置年月：大正14年8月          規模等：延面積 11,482㎡ 蔵書数 150万冊</p> <p>名称：天理大学附属おやさと研究所          目的：天理教及び世界諸民族の宗教・文化を研究調査する          所在地：奈良県天理市杣之内町1050番地          設置年月：昭和17年12月</p> <p>名称：天理大学附属天理参考館          目的：民俗学・民族学・考古学に関する学術研究資料を総合的に収集、整理、保存          所在地：奈良県天理市守目堂町250番地          設置年月：昭和5年4月          規模等：延面積 13,556㎡ 収蔵資料 30万点</p>	
----------------	--	--

## 組 織 の 移 行 表

令和5年度

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
天理大学			
人間学部			
宗教学科	40	—	160
人間関係学科			
臨床心理専攻	30	—	120
生涯教育専攻	20	—	80
社会福祉専攻	30	—	120
計	120	—	480
文学部			
国文学国語学科	40	—	160
歴史文化学科	50	—	200
計	90	—	360
国際学部			
外国語学科			
英米語専攻	70	—	280
中国語専攻	30	—	120
韓国・朝鮮語専攻	30	—	120
スペイン語・ ブラジルポルトガル語専攻	35	—	140
地域文化学科	195	—	780
計	360	—	1,440
体育学部			
体育学科	200	—	800
計	200	—	800
医療学部			
看護学科	70	—	280
臨床検査学科	30	—	120
計	100	—	400
合計	870	—	3,480

令和6年度

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
天理大学				
	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
計	0	—	0	
人文学部				
宗教学科	20	—	80	学部の設置(届出)
国文学国語学科	40	—	160	学部の設置(届出)
歴史文化学科	50	—	200	学部の設置(届出)
心理学科	40	—	160	学部の設置(届出)
社会教育学科	40	—	160	学部の設置(届出)
社会福祉学科	50	—	200	学部の設置(届出)
計	240	—	960	
国際学部				
外国語学科				
英米語専攻	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
中国語専攻	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
韓国・朝鮮語専攻	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
スペイン語・ ブラジルポルトガル語専攻	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
計	60	—	240	学則の変更
地域文化学科	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
韓国・朝鮮語学科	40	—	160	学部の学科の設置(届出)
中国語学科	40	—	160	学部の学科の設置(届出)
英米語学科	60	—	240	学部の学科の設置(届出)
国際文化学科	50	—	200	学部の学科の設置(届出)
日本学科	40	—	160	学部の学科の設置(届出)
計	290	—	1,160	
体育学部				
体育学科	240	—	960	定員変更(40)
計	240	—	960	
医療学部				
看護学科	70	—	280	
臨床検査学科	30	—	120	
計	100	—	400	
合計	870	—	3,480	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文学部宗教学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
総合 教育科目 天理 スピリット 科目群	建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2			○			2	1	2			
	英語1	1・2・3・4前	1				○			1				兼14
	英語2	1・2・3・4後	1				○			1				兼14
	韓国・朝鮮語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	韓国・朝鮮語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	中国語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	中国語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	教養アカデミック英語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	教養アカデミック英語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	実践アカデミック英語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	実践アカデミック英語2	1・2・3・4前		1			○							兼2
	アカデミック英語上級	1・2・3・4後		1			○							兼1
	多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	1・2・3・4前後		2			○							兼1
	多文化理解と言語（中国語）	1・2・3・4前後		2			○							兼1
	多文化理解と言語（英語）	1・2・3・4前後		2			○							兼1
	多文化理解と言語（タイ語）	1・2・3・4前後		2			○							兼1
	多文化理解と言語（インドネシア語）	1・2・3・4前後		2			○							兼1
	多文化理解と言語（ドイツ語）	1・2・3・4前後		2			○							兼1
	多文化理解と言語（フランス語）	1・2・3・4前後		2			○							兼1
	多文化理解と言語（ロシア語）	1・2・3・4前後		2			○							兼1
	多文化理解と言語（スペイン語）	1・2・3・4前後		2			○							兼1
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	1・2・3・4前後		2			○							兼1
	多文化理解と言語（日本語）	1・2・3・4前		2			○							兼1
	日本事情1	1・2・3・4前		2			○							兼1
	日本事情2	1・2・3・4後		2			○							兼1
	健康スポーツ科学1	1・2・3・4前		2			○							兼8
	健康スポーツ科学2	1・2・3・4後		2			○							兼6
	国際社会におけるスポーツの役割	1・2・3・4前後		2			○							兼2
	保健医療の仕組みと健康づくり	1・2・3・4後		2			○							兼1
	ローキャリアクト天理SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休		1					○					兼3 共同 集中
	ローキャリアクト天理SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休		1					○					兼3 共同 集中
	国際協力入門	1・2・3・4前		2			○							兼1
	国際協力実習	1・2・3・4休		2					○					兼1 集中
	国際協力演習1	1・2・3・4前		2				○						兼1
	国際協力演習2	1・2・3・4後		2				○						兼1
	国際ボランティア論	2・3・4後		2			○							兼1
	天理大学特別講義1	1・2・3・4前		2			○							兼1
	天理大学特別講義2	1・2・3・4前		2			○							兼1
	天理大学特別講義3	1・2・3・4前		2			○							兼1
	天理大学特別講義4	1・2・3・4前		2			○							兼1
	天理異文化伝道	2・3・4前		2			○							兼1
小計（41科目）		—	4	65	0		—		2	1	2	0	0	兼42

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア教育科目群	キャリアプランニング	1・2・3前後		2		○									兼3
	キャリアデザイン1	2・3・4前		2		○									兼1
	キャリアデザイン2	2・3・4後		2		○									兼1
	インターンシップ1	1・2・3通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ2	1・2・3通		2				○							兼1 集中
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1				○							兼1 集中
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2				○							兼1 集中
小計(7科目)	—		0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	1前	2				○				1				
	基礎ゼミナール2	1後		2			○			1					
	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○									兼2
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2		○									兼1
	データリテラシー	2・3・4前後		2		○									兼1
	コンピュータ入門	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	情報処理	2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかるレポート作成	1・2・3・4前後		2		○									兼4
	基礎からわかる近代史	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる数学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
基礎からわかる生物・化学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
小計(12科目)	—		2	22	0	—			0	0	1	0	0	兼11	
総合教育科目 一般教養教育科目群	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	地球環境論	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	科学と現代	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	数学と論理	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	統計学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	統計学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	経営学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経営学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	地理学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	地理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○									兼2
	法学	1・2・3・4前		2		○									兼2
	経済学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経済学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	政治学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	社会学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	民法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	民法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	行政法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	行政法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	哲学概論1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	哲学概論2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	倫理学1	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	倫理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	心理学1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	心理学2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	ジェンダー・セクシャリティ	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	宗教と芸能	1・2・3・4後		2		○									兼1
	労働と社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	障害学	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	世界の文学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
世界の文学2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
宗教と現代社会	1・2・3・4前後		2		○					1					
人権と差別1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
人権と差別2	1・2・3・4後		2		○									兼3	



科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
総合 教育 科目 群	日本手話A	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	日本手話B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	アウトドアスポーツ	1・2・3・4通		1				○							兼1	集中
	レクリエーションスポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	ニューススポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	小計 (42科目)	—	0	81	0	—			0	0	1	0	0	兼31		
	合計 (102科目)	—	6	180	0	—			2	1	2	0	0	兼73		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
宗教学科専攻科目	天理教学概論 1	1前	2			○			1						
	天理教学概論 2	1後	2			○			1						
	天理教教祖伝概説 1	1前	2			○									兼1
	天理教教祖伝概説 2	1後	2			○									兼1
	宗教史概説 1	1前	2			○			1						
	宗教史概説 2	1後	2			○									兼1
	宗教研究基礎演習	1後	2				○			1	1				
	宗教学概論 1	2前	2			○			1						
	宗教学概論 2	2後	2			○			1						
	現代宗教を読み解くゼミ 1	2前	2				○			1	1				
	現代宗教を読み解くゼミ 2	2後	2				○			1	1				
	伝道実習 1	1休			1			○			1				集中
	伝道実習 2	1休			1			○			1				集中
	伝道実習 3	2前			1			○			1				
	伝道実習 4	2後			1			○			1				
	天理教原典学 1 概説	2前		2		○									兼1
	天理教原典学 2 概説	2後		2		○									兼1
	天理教原典学 3 概説	2前		2		○									兼1
	天理教学特殊講義 1	3・4前		2		○					1				
	天理教学特殊講義 2	3・4後		2		○					1				
	天理教学特殊講義 3	3・4前		2		○									兼1
	天理教史特殊講義 1	3・4後		2		○			1						
	天理教史特殊講義 2	3・4後		2		○									兼1
	宗教学特殊講義 1	3・4前		2		○				1					
	宗教学特殊講義 2	3・4後		2		○					1				
	宗教学特殊講義 3	3・4前		2		○			1						
	宗教学特殊講義 4	3・4後		2		○			1						
	宗教史特殊講義 1	2前		2		○									兼1
	宗教史特殊講義 2	2後		2		○			1						
	宗教史特殊講義 3	2前		2		○			1						
	宗教史特殊講義 4	2後		2		○			1						
	宗教史特殊講義 5	2前		2		○					1				
	宗教史特殊講義 6	2後		2		○					1				
	宗教科指導法 1	3前		2		○			1						
	宗教科指導法 2	3後		2		○			1						
	宗教科指導法 3	3前		2		○				1					
	宗教科指導法 4	3後		2		○					1				
	宗教研究演習 1	3前		2			○				2				
	宗教研究演習 2	3後		2			○				2				
	宗教課題演習 1	4前		2			○		1	1					
	宗教課題演習 2	4後		2			○		1	1					
	卒業論文	4通		6					1						
小計 (42科目)	—		36	48	0		—	3	1	2	0	0		兼6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
人文科学部門	日本語学入門	1前			2	○										兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○										兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○										兼1	
	日本語文法論 1	2前			2	○										兼1	
	日本語文法論 2	2後			2	○										兼1	
	日本語音声学	2後			2	○										兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○										兼1	
	日本語教授法 1	3前			2		○									兼1	
	日本語教授法 2	3後			2		○									兼1	
	第二言語習得論	3前			2		○									兼1	
	日本語指導法	4前			2		○									兼1	
	日本語教育評価法	4後			2		○									兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○								兼1	集中
小計 (13科目)	—		0	0	26		—		0	0	0	0	0	0	兼2		
資格科目	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○										兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○										兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○										兼1	
	情報サービス演習 1	3・4後			2		○									兼1	
	情報サービス演習 2	3・4後			2		○									兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○										兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○										兼1	
	情報資源組織演習 1	3・4後			2		○									兼1	
	情報資源組織演習 2	3・4後			2		○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○										兼1	
	図書館情報学特論	4前			2	○										兼1	
	博物館実習 1	3前			2			○								兼2	共同
	博物館実習 2	4通			1			○								兼3	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○										兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○										兼1	
矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○										兼1		
矯正保護支援実践論	2・3・4後			2	○										兼2	オムニバス	
犯罪被害者支援論	2・3・4後			2	○										兼1		
小計 (18科目)	—		0	0	35		—		0	0	0	0	0	0	兼13		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育史	2・3・4前			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼2
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼3 集中
	教職実践演習 (中・高)	4後			2			○							兼5
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼3 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4後			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4通			2	○									兼1 集中
小計 (22科目)	—		0	0	41		—		0	0	0	0	0	0	兼12
合計 (53科目)	—		0	0	102		—		0	0	0	0	0	0	兼27
合計 (197科目)	—		42	228	102		—		3	1	2	0	0	0	兼101
学位又は称号	学士 (宗教学)		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
総合教育科目：天理スピリット科目群8単位以上、キャリア科目群2単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群4単位以上計20単位以上 宗教学科専攻科目：必修科目36単位、選択必修科目34単位以上 計70単位以上 総合教育科目、宗教学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位 (年間)						1学年の学期区分			2			期			
						1学期の授業期間			15			週			
						1時限の授業時間			90			分			

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文学部国文学国語学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	天理教概説1	1・2・3・4前	2			○								兼10
	天理教概説2	1・2・3・4後	2			○								兼10
	天理教学1	2・3・4前		2		○								兼3
	天理教学2	2・3・4後		2		○								兼3
	建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2			○								兼5
	英語1	1・2・3・4前	1				○							兼15
	英語2	1・2・3・4後	1				○							兼15
	韓国・朝鮮語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	韓国・朝鮮語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	中国語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	中国語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	教養アカデミック英語1	1・2・3・4前	1				○							兼1
	教養アカデミック英語2	1・2・3・4後	1				○							兼1
	実践アカデミック英語1	1・2・3・4前	1				○							兼1
	実践アカデミック英語2	1・2・3・4前	1				○							兼2
	アカデミック英語上級	1・2・3・4後	1				○							兼1
	多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（中国語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（英語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（タイ語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（インドネシア語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ドイツ語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（フランス語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ロシア語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（スペイン語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（日本語）	1・2・3・4前	2				○							兼1
	日本事情1	1・2・3・4前		2			○							兼1
	日本事情2	1・2・3・4後		2			○							兼1
	健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	2				○							兼8
	健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	2				○							兼6
	国際社会におけるスポーツの役割	1・2・3・4前後	2				○							兼2
	保健医療の仕組みと健康づくり	1・2・3・4後	2				○							兼1
	ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休		1					○					兼3 共同 集中
	ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休		1					○					兼3 共同 集中
	国際協力入門	1・2・3・4前	2				○							兼1
	国際協力実習	1・2・3・4休	2						○					兼1 集中
	国際協力演習1	1・2・3・4前	2					○						兼1
	国際協力演習2	1・2・3・4後	2					○						兼1
	国際ボランティア論	2・3・4後	2				○							兼1
	天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義3	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理異文化伝道	2・3・4前	2				○							兼1
小計（45科目）		—	8	69	0		—		0	0	0	0	0	兼55

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア教育科目群	キャリアプランニング	1・2・3前後		2		○									兼3
	キャリアデザイン1	2・3・4前		2		○									兼1
	キャリアデザイン2	2・3・4後		2		○									兼1
	インターンシップ1	1・2・3通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ2	1・2・3通		2				○							兼1 集中
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1				○							兼1 集中
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2				○							兼1 集中
小計(7科目)	—		0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	1前	2				○								兼2
	基礎ゼミナール2	1後		2				○							兼1
	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○									兼2
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2		○									兼1
	データリテラシー	2・3・4前後		2		○									兼1
	コンピュータ入門	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	情報処理	2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかるレポート作成	1・2・3・4前後		2		○									兼4
	基礎からわかる近代史	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる数学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
基礎からわかる生物・化学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
小計(12科目)	—		2	22	0	—			0	0	0	0	0	兼13	
総合教育科目	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	地球環境論	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	科学と現代	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	数学と論理	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	統計学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	統計学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	経営学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経営学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	地理学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	地理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○									兼2
	法学	1・2・3・4前		2		○									兼2
	経済学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経済学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	政治学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	社会学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	民法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	民法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	行政法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	行政法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	哲学概論1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	哲学概論2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	倫理学1	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	倫理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	心理学1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	心理学2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	ジェンダー・セクシャリティ	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	宗教と芸能	1・2・3・4後		2		○									兼1
	労働と社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	障害学	1・2・3・4前後		2		○									兼2
世界の文学1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
世界の文学2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
宗教と現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
人権と差別1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
人権と差別2	1・2・3・4後		2		○									兼3	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
総合 教育 科目 群	日本手話A	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	日本手話B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	アウトドアスポーツ	1・2・3・4通		1				○							兼1	集中
	レクリエーションスポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	ニューススポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	小計 (42科目)	—	0	81	0	—			0	0	0	0	0	0	兼32	
	合計 (106科目)	—	10	184	0	—			0	0	0	0	0	0	兼88	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国文学国語学科専攻科目	国文学基礎演習	1前	2				○		1						
	国文学概論 1	1前	2				○		1						
	国文学概論 2	1後	2				○		1						
	上代文学講読 1	1・2前		2				○			1				
	上代文学講読 2	1・2後		2				○			1				
	中古文学講読 1	1・2前		2				○	1						
	中古文学講読 2	1・2後		2				○	1						
	中世文学講読 1	1・2前		2				○							兼1
	中世文学講読 2	1・2後		2				○							兼1
	近世文学講読 1	1・2前		2				○	1						
	近世文学講読 2	1・2後		2				○	1						
	近代文学講読 1	1・2前		2				○	1						
	近代文学講読 2	1・2後		2				○	1						
	上代文学特論 1	2前		2				○			1				
	上代文学特論 2	2後		2				○			1				
	中古文学特論 1	2前		2				○							兼1
	中古文学特論 2	2後		2				○	1						
	中世文学特論 1	2前		2				○							兼1
	中世文学特論 2	2後		2				○							兼1
	近世文学特論 1	2前		2				○	1						
	近世文学特論 2	2後		2				○	1						
	近代文学特論 1	2前		2				○	1						
	近代文学特論 2	2後		2				○	1						
	古典文学史 1	2・3前		2				○	1						
	古典文学史 2	2・3後		2				○	1						
	近代文学史 1	2・3前		2				○	1						
	近代文学史 2	2・3後		2				○	1						
	国文学演習（上代） 1	3前		2				○			1				
	国文学演習（上代） 2	3後		2				○			1				
	国文学演習（中古） 1	3前		2				○	1						
	国文学演習（中古） 2	3後		2				○	1						
	国文学演習（近世） 1	3前		2				○	1						
	国文学演習（近世） 2	3後		2				○	1						
	国文学演習（近代） 1	3前		2				○	1						
	国文学演習（近代） 2	3後		2				○	1						
	国語学基礎演習	1前	2					○		1					
	国語学概論 1	1前	2					○		1					
	国語学概論 2	1後	2					○		1					
	国語学特論（言語構造） 1	2前		2				○							兼1
	国語学特論（言語構造） 2	2後		2				○							兼1
	国語学特論（言語運用） 1	2前		2				○							兼1
	国語学特論（言語運用） 2	2後		2				○							兼1
	国語学特論（言語実態） 1	2前		2				○		1					
	国語学特論（言語実態） 2	2後		2				○		1					
	国語史 1	2・3前		2				○							兼1
国語史 2	2・3後		2				○							兼1	
国語学演習（言語構造） 1	3前		2				○							兼1	
国語学演習（言語構造） 2	3後		2				○							兼1	
国語学演習（言語運用） 1	3前		2				○							兼1	
国語学演習（言語運用） 2	3後		2				○							兼1	
国語学演習（言語実態） 1	3前		2				○		1						
国語学演習（言語実態） 2	3後		2				○		1						
漢文学基礎演習	1後	2					○			1					
漢文学特論 1	2前		2				○			1					
漢文学特論 2	2後		2				○			1					
実用国語表現	2・3前		2				○							兼1	
音声言語	2・3後		2				○							兼1	



科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
国 文 学 国 語 学 科 専 攻 科 目	天理図書館資料論（上代・中古）	2・3前		2			○		1						隔年
	天理図書館資料論（中世・近世）	2・3後		2			○								隔年
	大和の地域文化論（文学）	2・3・4前		2		○			1						
	大和の地域文化論（言語）	2・3・4後		2		○				1					
	文章表現1	3前		2			○		1						
	文章表現2	3後		2			○		1						
	書道（書写を中心とする）	2前		1				○							兼1
	国語科指導法1	3前		2		○				1					
	国語科指導法2	3後		2		○				1					
	国語科指導法3	3前		2		○									兼1
	国語科指導法4	3後		2		○			1						
	卒業論文演習	4通	4				○		3	1	1				
	卒業論文	4通	6						1						
	小計（70科目）	—		24	121	0		—	3	1	1	0	0		兼6

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習 1	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習 2	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習 3	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習 4	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論 1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論 2	2後			2	○									兼1	
	日本語音声学	2後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法 1	3前			2			○							兼1	
	日本語教授法 2	3後			2			○							兼1	
	第二言語習得論	3前			2			○							兼1	
	日本語指導法	4前			2			○							兼1	
	日本語教育評価法	4後			2			○							兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (13科目)	—	0	0	26			—	0	0	0	0	0	0	兼2	
資格 科目	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習 1	3・4後			2			○							兼1	
	情報サービス演習 2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習 1	3・4後			2			○							兼1	
	情報資源組織演習 2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論	4前			2	○									兼1	
	博物館実習 1	3前			2			○							兼2	共同
	博物館実習 2	4通			1			○							兼3	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1		
矯正保護支援実践論	2・3・4後			2	○									兼2	オムニバス	
犯罪被害者支援論	2・3・4後			2	○									兼1		
	小計 (18科目)	—	0	0	35			—	0	0	0	0	0	0	兼13	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育史	2・3・4前			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼2
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼3 集中
	教職実践演習 (中・高)	4後			2			○							兼5
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼3 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4後			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4通			2	○									兼1 集中
小計 (22科目)	—		0	0	41		—		0	0	0	0	0	0	兼12
合計 (57科目)	—		0	0	106		—		0	0	0	0	0	0	兼28
合計 (233科目)	—		34	305	106		—		3	1	1	0	0	0	兼114
学位又は称号	学士 (国文学)	学位又は学科の分野				文学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
総合教育科目：天理スピリット科目群12単位以上、キャリア科目群2単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群4単位以上計24単位以上 国文学国語学科専攻科目：必修科目24単位 選択科目は選択必修科目の必要単位を含め48単位以上 計72単位以上 総合教育科目、国文学国語学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位 (年間)						1学年の学期区分			2 期						
						1学期の授業期間			15 週						
						1時限の授業時間			90 分						

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文学部歴史文化学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	天理教概説1	1・2・3・4前	2			○								兼10
	天理教概説2	1・2・3・4後	2			○								兼10
	天理教学1	2・3・4前		2		○								兼3
	天理教学2	2・3・4後		2		○								兼3
	建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2			○								兼5
	英語1	1・2・3・4前	1				○							兼15
	英語2	1・2・3・4後	1				○							兼15
	韓国・朝鮮語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	韓国・朝鮮語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	中国語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	中国語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	教養アカデミック英語1	1・2・3・4前	1				○							兼1
	教養アカデミック英語2	1・2・3・4後	1				○							兼1
	実践アカデミック英語1	1・2・3・4前	1				○							兼1
	実践アカデミック英語2	1・2・3・4前	1				○							兼2
	アカデミック英語上級	1・2・3・4後	1				○							兼1
	多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（中国語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（英語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（タイ語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（インドネシア語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ドイツ語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（フランス語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ロシア語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（スペイン語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（日本語）	1・2・3・4前	2				○							兼1
	日本事情1	1・2・3・4前		2			○							兼1
	日本事情2	1・2・3・4後		2			○							兼1
	健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	2				○							兼8
	健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	2				○							兼6
	国際社会におけるスポーツの役割	1・2・3・4前後	2				○							兼2
	保健医療の仕組みと健康づくり	1・2・3・4後	2				○							兼1
	ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休		1					○					兼3 共同 集中
	ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休		1					○					兼3 共同 集中
	国際協力入門	1・2・3・4前	2				○							兼1
	国際協力実習	1・2・3・4休	2						○					兼1 集中
	国際協力演習1	1・2・3・4前	2					○						兼1
	国際協力演習2	1・2・3・4後	2					○						兼1
	国際ボランティア論	2・3・4後	2				○							兼1
	天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義3	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理異文化伝道	2・3・4前	2				○							兼1
小計（45科目）		—	8	69	0		—		0	0	0	0	0	兼55

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア教育科目群	キャリアプランニング	1・2・3前後		2		○									兼3
	キャリアデザイン1	2・3・4前		2		○									兼1
	キャリアデザイン2	2・3・4後		2		○									兼1
	インターンシップ1	1・2・3通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ2	1・2・3通		2				○							兼1 集中
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1				○							兼1 集中
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2				○							兼1 集中
小計(7科目)	—		0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	1前	2				○		1		1				
	基礎ゼミナール2	1後		2			○		2						
	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○									兼2
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2		○									兼1
	データリテラシー	2・3・4前後		2		○									兼1
	コンピュータ入門	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	情報処理	2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかるレポート作成	1・2・3・4前後		2		○									兼4
	基礎からわかる近代史	1・2・3・4前後		2		○				1					
	基礎からわかる現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる数学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
基礎からわかる生物・化学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
小計(12科目)	—		2	22	0	—			2	1	1	0	0	兼10	
総合教育科目	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	地球環境論	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	科学と現代	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	数学と論理	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	統計学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	統計学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	経営学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経営学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	地理学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	地理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○									兼2
	法学	1・2・3・4前		2		○									兼2
	経済学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経済学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	政治学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	社会学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	民法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	民法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	行政法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	行政法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	哲学概論1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	哲学概論2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	倫理学1	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	倫理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	心理学1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	心理学2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	ジェンダー・セクシャリティ	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	宗教と芸能	1・2・3・4後		2		○				1					
	労働と社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	障害学	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	世界の文学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
世界の文学2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
宗教と現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
人権と差別1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
人権と差別2	1・2・3・4後		2		○									兼3	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
一般 教養 教育 科目 群  総合 教育 科目	日本語A	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	日本語B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	アウトドアスポーツ	1・2・3・4通		1				○							兼1	集中
	レクリエーションスポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	ニューススポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	小計(42科目)	—	0	81	0	—			1	0	0	0	0	0	兼31	
	合計(106科目)	—	10	184	0	—			2	1	1	0	0	0	兼84	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
歴史文化学科専攻科目	歴史学概論	1前	2			○			1							
	考古学概論	1前	2			○			1							
	民俗学概論	1前	2			○					1					
	歴史文化基礎演習	1後	2				○		1	1	1					共同
	日本史要説	1後		2		○			1							
	東洋史要説	1後		2		○										兼1
	西洋史要説	1後		2		○										兼1
	日本考古学要説	1後		2		○			1							
	日本民俗学要説	1後		2		○					1					
	くずし字入門	1後		2		○			1							
	人文地理学概論	1・2前		2		○										兼1
	自然地理学概論	1・2前		2		○										兼1
	地誌	1・2前		2		○										兼1
	美術史	1・2前		2		○										兼1
	文化財行政学	2・3前	2			○			1							
	文化財科学・保存科学	2・3後		2		○			1							
	大和の文化遺産を学ぶ1	2・3前		2		○			1							
	大和の文化遺産を学ぶ2	2・3後		2		○										兼1
	大和の文化遺産を学ぶ3	2・3後		2		○			1							
	博物館学概論	2・3後		2		○										兼1
	博物館経営総論	2・3後		2		○										兼1
	博物館教育論	2・3前		2		○										兼1
	博物館情報・メディア論	2・3後		2		○			1							
	博物館展示論	3・4後		2		○			1							
	博物館資料論	3・4前		2		○			1							
	博物館資料保存論	3・4前		2		○			1							
	社会科指導法1	3前		2		○										兼1
	社会科指導法2	3前		2		○										兼1
	社会・地理歴史科指導法1	3後		2		○										兼1
	社会・地理歴史科指導法2	3後		2		○										兼1
	英語文献講読1	3前		2			○		1							
	英語文献講読2	3後		2			○		1							
	卒業論文	4通	6						1							
小計(33科目)	—	16	54	0		—		5	1	1	0	0			兼9	
歴史学コース科目	歴史学研究入門1	2前		2			○			1						
	歴史学研究入門2	2後		2			○		1							
	文化交流史の研究1	2・3前		2		○										兼1
	文化交流史の研究2	2・3後		2		○										兼1
	日本古代史の研究	2・3前		2		○										兼1
	日本中世史の研究	2・3前		2		○			1							
	日本近世史の研究	2・3後		2		○			1							
	日本近代史の研究	2・3前		2		○				1						
	東アジア史の研究	2・3後		2		○										兼1
	古文書学	2・3後		2		○			1							
	日本古代史料の講読1	2・3前		2			○									兼1
	日本古代史料の講読2	2・3後		2			○									兼1
	日本中世史料の講読1	2・3前		2			○		1							
	日本中世史料の講読2	2・3後		2			○		1							
	日本近世史料の講読1	2・3前		2			○		1							
	日本近世史料の講読2	2・3後		2			○		1							
	日本近代史料の講読1	2・3前		2			○			1						
	日本近代史料の講読2	2・3後		2			○			1						
歴史学史料実習1	2前		1				○	1							共同	
歴史学史料実習2	2後		1				○		1						共同	
歴史学史料実習3	3前		1				○	2	1						共同	
歴史学史料実習4	3後		1				○	2	1						共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
歴史学 コース科目	日本古代中世史演習 1	3・4前		2				○								隔年
	日本古代中世史演習 2	3・4後		2				○								隔年
	日本古代中世史演習 3	3・4前		2				○		1						隔年
	日本古代中世史演習 4	3・4後		2				○		1						隔年
	日本近世史演習 1	3・4前		2				○								隔年
	日本近世史演習 2	3・4後		2				○								隔年
	日本近世史演習 3	3・4前		2				○		1						隔年
	日本近世史演習 4	3・4後		2				○		1						隔年
	日本近代史演習 1	3・4前		2				○								隔年
	日本近代史演習 2	3・4後		2				○								隔年
	日本近代史演習 3	3・4前		2				○			1					隔年
日本近代史演習 4	3・4後		2				○			1					隔年	
小計 (34科目)	—		0	64	0			—	2	1	0	0	0		兼3	
考古学 コース科目	考古学研究入門 1	2前		2				○		1						
	考古学研究入門 2	2後		2				○		1						
	旧石器・縄文時代の考古学	2・3後		2			○									兼1
	弥生時代の考古学	2・3前		2			○		1							
	古墳時代の考古学	2・3後		2			○		1							
	飛鳥・奈良時代の考古学	2・3前		2			○		1							
	中近世の考古学	2・3前		2			○									兼1
	東アジア考古学	2・3前		2			○		1							
	西アジア考古学	2・3後		2			○		1							
	遺跡探査学	2・3後		2			○									兼1
	遺跡の保存と活用	3・4後		2			○		1							
	考古資料の情報化	3・4前		2			○		1							
	考古学実習 1	2・3前		1					○	2						共同
	考古学実習 2	2・3後		1					○	2						共同
	考古学実習 3	2・3休		1					○	3						共同 集中
	考古学実習 4	3休		1					○	1						共同 集中
	先史考古学演習 1	3・4前		2				○								隔年
	先史考古学演習 2	3・4後		2				○								隔年
	先史考古学演習 3	3・4前		2				○	1							隔年
	先史考古学演習 4	3・4後		2				○	1							隔年
	原史考古学演習 1	3・4前		2				○								隔年
	原史考古学演習 2	3・4後		2				○								隔年
	原史考古学演習 3	3・4前		2				○	1							隔年
原史考古学演習 4	3・4後		2				○	1							隔年	
歴史考古学演習 1	3・4前		2				○								隔年	
歴史考古学演習 2	3・4後		2				○								隔年	
歴史考古学演習 3	3・4前		2				○	1							隔年	
歴史考古学演習 4	3・4後		2				○	1							隔年	
小計 (28科目)	—		0	52	0			—	3	0	0	0	0		兼3	
民俗学 コース科目	民俗学研究入門 1	2前		2				○								兼1
	民俗学研究入門 2	2後		2				○								
	民俗学と現代社会	2・3前		2			○				1					
	生活文化史	2・3前		2			○				1					兼1
	フィールドワークからみる民俗文化	2・3前		2			○				1					
	民話と伝承	2・3後		2			○									兼1
	宗教民俗学	2・3前		2			○									兼1
	民俗資料論	2・3後		2			○									兼1
	民俗学実習 1	2・3前		1					○		1					兼1 共同
	民俗学実習 2	2・3後		1					○		1					兼1 共同
	民俗学実習 3	2・3休		1					○		1					兼1 共同 集中
	民俗学実習 4	3休		1					○							兼1 共同 集中
	歴史民俗学演習 1	3・4前		2				○								隔年
	歴史民俗学演習 2	3・4後		2				○								隔年
歴史民俗学演習 3	3・4前		2				○								兼1 隔年	
歴史民俗学演習 4	3・4後		2				○								兼1 隔年	



科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
民俗学 コース 科目	現代民俗学演習 1	3・4前		2			○									隔年
	現代民俗学演習 2	3・4後		2			○									隔年
	現代民俗学演習 3	3・4前		2			○				1					隔年
	現代民俗学演習 4	3・4後		2			○				1					隔年
	小計 (20科目)	—	0	36	0		—		0	0	1	0	0		兼3	
	合計 (115科目)	—	16	206	0		—		5	1	1	0	0		兼15	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習 1	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習 2	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習 3	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習 4	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論 1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論 2	2後			2	○									兼1	
	日本語音声学	2後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法 1	3前			2			○							兼1	
	日本語教授法 2	3後			2			○							兼1	
	第二言語習得論	3前			2			○							兼1	
	日本語指導法	4前			2			○							兼1	
	日本語教育評価法	4後			2			○							兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (13科目)	—	0	0	26			—	0	0	0	0	0	兼2		
資格 科目	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習 1	3・4後			2			○							兼1	
	情報サービス演習 2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習 1	3・4後			2			○							兼1	
	情報資源組織演習 2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論	4前			2	○									兼1	
	博物館実習 1	3前			2			○	1						兼1	共同
	博物館実習 2	4通			1			○							兼3	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	矯正保護支援実践論	2・3・4後			2	○									兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2・3・4後			2	○									兼1	
	小計 (18科目)	—	0	0	35			—	1	0	0	0	0	兼12		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○										兼1	
	教育原理	2・3・4前後			2	○										兼1	
	教育史	2・3・4前			2	○										兼1	
	教育課程論	3・4前後			2	○										兼1	
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○										兼1	
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○										兼1	
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○										兼1	
	教育方法学 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	3前後			2	○										兼2	
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○										兼1	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○										兼2	
	教育実習講義	3後			1	○										兼3	
	介護等体験	3通			1			○								兼3	集中
	教職実践演習 (中・高)	4後			2			○								兼5	
	教育実習 1	4通			2			○								兼1	集中
	教育実習 2	4通			2			○								兼1	集中
	人権教育論 1	2・3・4前			2	○										兼3	
	人権教育論 2	2・3・4後			2	○										兼3	
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○										兼1	
	学校教育支援	2・3・4通			1			○								兼3	集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前後			2	○										兼1	
	教育史特論	2・3・4後			2	○										兼1	
	臨床教育学特論	2・3・4通			2	○										兼1	集中
小計 (22科目)	—		0	0	41		—			0	0	0	0	0	兼12		
合計 (57科目)	—		0	0	106		—			1	0	0	0	0	兼27		
合計 (278科目)	—		26	390	106		—			5	1	1	0	0	兼119		
学位又は称号	学士 (歴史文化学)	学位又は学科の分野				文学関係											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
総合教育科目：天理スピリット科目群12単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群4単位以上 計22単位以上 歴史文化学科専攻科目：必修科目16単位 選択科目はコース毎の選択必修科目の必要単位を含め54単位以上 計70単位以上 総合教育科目、歴史文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位 (年間)						1 学年の学期区分			2 期								
						1 学期の授業期間			15 週								
						1 時限の授業時間			90 分								

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文学部心理学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	天理教概説1	1・2・3・4前	2			○								兼10
	天理教概説2	1・2・3・4後	2			○								兼10
	天理教学1	2・3・4前		2		○								兼3
	天理教学2	2・3・4後		2		○								兼3
	建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2			○								兼5
	英語1	1・2・3・4前	1				○							兼15
	英語2	1・2・3・4後	1				○							兼15
	韓国・朝鮮語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	韓国・朝鮮語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	中国語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	中国語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	教養アカデミック英語1	1・2・3・4前	1				○							兼1
	教養アカデミック英語2	1・2・3・4後	1				○							兼1
	実践アカデミック英語1	1・2・3・4前	1				○							兼1
	実践アカデミック英語2	1・2・3・4前	1				○							兼2
	アカデミック英語上級	1・2・3・4後	1				○							兼1
	多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（中国語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（英語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（タイ語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（インドネシア語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ドイツ語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（フランス語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ロシア語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（スペイン語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（日本語）	1・2・3・4前	2				○							兼1
	日本事情1	1・2・3・4前		2			○							兼1
	日本事情2	1・2・3・4後		2			○							兼1
	健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	2				○							兼8
	健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	2				○							兼6
	国際社会におけるスポーツの役割	1・2・3・4前後	2				○							兼2
	保健医療の仕組みと健康づくり	1・2・3・4後	2				○							兼1
	ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休		1					○					兼3 共同 集中
	ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休		1					○					兼3 共同 集中
	国際協力入門	1・2・3・4前	2				○							兼1
	国際協力実習	1・2・3・4休	2						○					兼1 集中
	国際協力演習1	1・2・3・4前	2					○						兼1
	国際協力演習2	1・2・3・4後	2					○						兼1
	国際ボランティア論	2・3・4後	2				○							兼1
	天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義3	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理異文化伝道	2・3・4前	2				○							兼1
小計（45科目）		—	8	69	0		—		0	0	0	0	0	兼55

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア教育科目群	キャリアプランニング	1・2・3前後		2		○									兼3
	キャリアデザイン1	2・3・4前		2		○									兼1
	キャリアデザイン2	2・3・4後		2		○									兼1
	インターンシップ1	1・2・3通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ2	1・2・3通		2				○							兼1 集中
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1				○							兼1 集中
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2				○							兼1 集中
小計(7科目)	—		0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	1前	2				○								兼2
	基礎ゼミナール2	1後		2				○							兼2
	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○									兼2
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2		○									兼1
	データリテラシー	2・3・4前後		2		○									兼1
	コンピュータ入門	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	情報処理	2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかるレポート作成	1・2・3・4前後		2		○									兼4
	基礎からわかる近代史	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる数学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
基礎からわかる生物・化学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
小計(12科目)	—		2	22	0	—			0	0	0	0	0	兼12	
総合教育科目 一般教養教育科目群	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	地球環境論	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	科学と現代	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	数学と論理	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	統計学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	統計学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	経営学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経営学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	地理学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	地理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○									兼2
	法学	1・2・3・4前		2		○									兼2
	経済学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経済学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	政治学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	社会学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	民法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	民法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	行政法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	行政法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	哲学概論1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	哲学概論2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	倫理学1	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	倫理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	心理学1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	心理学2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	ジェンダー・セクシャリティ	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	宗教と芸能	1・2・3・4後		2		○									兼1
	労働と社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	障害学	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	世界の文学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	世界の文学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
宗教と現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
人権と差別1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
人権と差別2	1・2・3・4後		2		○									兼3	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
総合 教育 科目 群	日本手話A	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	日本手話B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	アウトドアスポーツ	1・2・3・4通		1				○							兼1	集中
	レクリエーションスポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	ニューススポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	小計 (42科目)	—	0	81	0	—			0	0	0	0	0	0	兼32	
	合計 (106科目)	—	10	184	0	—			0	0	0	0	0	0	兼86	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
心理学科専攻科目	心理学概論	1・2・3・4前	2			○										兼1	
	臨床心理学概論	1・2・3・4前	2			○			1								
	公認心理師の職責	1・2休		2		○										兼1	集中
	心理学研究法	2後		4			○									兼1	
	心理学統計法	2後		2		○										兼1	
	多変量解析法	4前		2		○										兼1	
	心理学実験法	2前		4			○									兼1	
	知覚・認知心理学	2・3・4前		2		○										兼1	
	学習・言語心理学	2・3・4後		2		○										兼1	
	感情・人格心理学	2・3・4前		2		○										兼1	
	神経・生理心理学	2・3・4休		2		○										兼1	集中
	社会・集団・家族心理学	2・3・4後		2		○										兼1	
	発達心理学	2・3・4前		2		○										兼1	
	障害者・障害児心理学	2・3・4前		2		○				1							
	心理的アセスメント1	2前		4			○									兼1	
	心理的アセスメント2	2後		4			○									兼1	
	心理学的支援法	3・4後		2		○				1							
	健康・医療心理学	2・3・4休		2		○										兼1	集中
	福祉心理学	3・4前		2		○										兼1	
	教育・学校心理学	3・4後		2		○				1							
	司法・犯罪心理学	2・3・4後		2		○										兼1	
	産業・組織心理学	2・3・4前		2		○										兼1	
	人体の構造と機能及び疾病	2・3・4前		2		○										兼1	
	精神疾患とその治療1	2・3・4前		2		○										兼1	
	精神疾患とその治療2	2・3・4後		2		○										兼1	
	関係行政論	3・4通		2		○										兼2	オムニバス 集中
	精神分析学	3・4前		2		○				1							
	ユング心理学	3・4後		2		○				1							
	投影法演習	3・4後		4			○			1							
	対人スキル演習	3・4後		4			○			1							
	臨床心理学課題演習	3前		2			○			1							
	対人社会課題演習	3前		2			○			1							
	心理演習	3後		2			○			1							
	心理実習	4通		2				○		6							集中
	心理学入門演習	1後		2				○		1							
	心理学研究演習1	4前		2				○		6							
	心理学研究演習2	4後		2				○		6							
	卒業課題研究	4通		4						1							
小計 (38科目)		—	14	76	0		—		6	0	0	0	0		兼13		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習 1	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習 2	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習 3	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習 4	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論 1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論 2	2後			2	○									兼1	
	日本語音声学	2後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法 1	3前			2			○							兼1	
	日本語教授法 2	3後			2			○							兼1	
	第二言語習得論	3前			2			○							兼1	
	日本語指導法	4前			2			○							兼1	
	日本語教育評価法	4後			2			○							兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (13科目)	—	0	0	26			—	0	0	0	0	0	0	兼2	
資格 科目	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習 1	3・4後			2			○							兼1	
	情報サービス演習 2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習 1	3・4後			2			○							兼1	
	情報資源組織演習 2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論	4前			2	○									兼1	
	博物館実習 1	3前			2			○							兼2	共同
	博物館実習 2	4通			1			○							兼3	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	矯正保護支援実践論	2・3・4後			2	○									兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2・3・4後			2	○									兼1	
	小計 (18科目)	—	0	0	35			—	0	0	0	0	0	兼13		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育史	2・3・4前			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○			1						兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼3 集中
	教職実践演習 (中・高)	4後			2			○							兼5
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼3 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4後			2	○									兼1
臨床教育学特論	2・3・4通			2	○									兼1 集中	
小計 (22科目)	—		0	0	41		—		1	0	0	0	0	0	兼11
合計 (57科目)	—		0	0	106		—		1	0	0	0	0	0	兼27
合計 (201科目)	—		24	260	106		—		6	0	0	0	0	0	兼119
学位又は称号	学士 (心理学)		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
総合教育科目：天理スピリット科目群12単位以上、キャリア科目群2単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群4単位以上計24単位以上 心理学科専攻目：必修科目14単位 選択科目は選択必修科目の必要単位を含め42単位以上 計56単位以上 総合教育科目、心理学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位 (年間)						1学年の学期区分			2			期			
						1学期の授業期間			15			週			
						1時限の授業時間			90			分			

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文学部社会教育学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	天理教概説1	1・2・3・4前	2			○								兼10
	天理教概説2	1・2・3・4後	2			○								兼10
	天理教学1	2・3・4前		2		○								兼3
	天理教学2	2・3・4後		2		○								兼3
	建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2			○								兼5
	英語1	1・2・3・4前	1				○							兼15
	英語2	1・2・3・4後	1				○							兼15
	韓国・朝鮮語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	韓国・朝鮮語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	中国語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	中国語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	教養アカデミック英語1	1・2・3・4前	1				○							兼1
	教養アカデミック英語2	1・2・3・4後	1				○							兼1
	実践アカデミック英語1	1・2・3・4前	1				○							兼1
	実践アカデミック英語2	1・2・3・4前	1				○							兼2
	アカデミック英語上級	1・2・3・4後	1				○							兼1
	多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（中国語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（英語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（タイ語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（インドネシア語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ドイツ語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（フランス語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ロシア語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（スペイン語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（日本語）	1・2・3・4前	2				○							兼1
	日本事情1	1・2・3・4前		2			○							兼1
	日本事情2	1・2・3・4後		2			○							兼1
	健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	2				○							兼8
	健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	2				○							兼6
	国際社会におけるスポーツの役割	1・2・3・4前後	2				○							兼2
	保健医療の仕組みと健康づくり	1・2・3・4後	2				○							兼1
	ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休		1					○					兼3 共同 集中
	ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休		1					○					兼3 共同 集中
	国際協力入門	1・2・3・4前	2				○							兼1
	国際協力実習	1・2・3・4休	2						○					兼1 集中
	国際協力演習1	1・2・3・4前	2					○						兼1
	国際協力演習2	1・2・3・4後	2					○						兼1
	国際ボランティア論	2・3・4後	2				○							兼1
	天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義3	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理異文化伝道	2・3・4前	2				○							兼1
小計（45科目）		—	8	69	0		—		0	0	0	0	0	兼55

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア教育科目群	キャリアプランニング	1・2・3前後		2		○									兼3
	キャリアデザイン1	2・3・4前		2		○									兼1
	キャリアデザイン2	2・3・4後		2		○									兼1
	インターンシップ1	1・2・3通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ2	1・2・3通		2				○							兼1 集中
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1				○							兼1 集中
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2				○							兼1 集中
小計(7科目)	—		0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	1前	2				○		1		1				
	基礎ゼミナール2	1後		2			○		1	1					
	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○									兼2
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2		○									兼1
	データリテラシー	2・3・4前後		2		○									兼1
	コンピュータ入門	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	情報処理	2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかるレポート作成	1・2・3・4前後		2		○									兼4
	基礎からわかる近代史	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる数学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
基礎からわかる生物・化学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
小計(12科目)	—		2	22	0	—			2	1	1	0	0	兼11	
総合教育科目 一般教養教育科目群	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	地球環境論	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	科学と現代	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	数学と論理	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	統計学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	統計学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	経営学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経営学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	地理学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	地理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○									兼2
	法学	1・2・3・4前		2		○									兼2
	経済学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経済学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	政治学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	社会学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	民法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	民法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	行政法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	行政法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	哲学概論1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	哲学概論2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	倫理学1	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	倫理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	心理学1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	心理学2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	ジェンダー・セクシャリティ	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	宗教と芸能	1・2・3・4後		2		○									兼1
	労働と社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	障害学	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	世界の文学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	世界の文学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
宗教と現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
人権と差別1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
人権と差別2	1・2・3・4後		2		○									兼3	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
総合 教育 科目 群	日本手話A	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	日本手話B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	アウトドアスポーツ	1・2・3・4通		1				○							兼1	集中
	レクリエーションスポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	ニューススポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	小計 (42科目)	—	0	81	0	—			0	0	0	0	0	0	兼32	
	合計 (106科目)	—	10	184	0	—			2	1	1	0	0	0	兼86	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
社会教育学科専攻科目	生涯学習概論1	1前	2			○			1						兼1		
	生涯学習概論2	1後	2			○			1								
	教育学概論1	1・2・3・4前		2		○			1						兼1		
	社会教育基礎演習1	1前	2				○		3	1	1						
	社会教育基礎演習2	1後	2				○		1	1	1						
	生涯学習支援演習1	2前	2				○		1		1						
	生涯学習支援演習2	2後	2				○		1		1						
	生涯学習支援論1	2前	2				○			1						兼1	
	生涯学習支援論2	2後	2				○		1								
	社会教育経営論1	3前		2			○		1								
	社会教育経営論2	3後		2			○		1		1						
	社会教育経営論3	3前		2			○			1							
	社会教育経営論4	3後		2			○			1							
	文化スポーツ支援論1	3前		2			○		1								
	文化スポーツ支援論2	3後		2			○		1								
	社会教育特講1	2・3・4前		2			○		1								
	社会教育特講2	2・3・4後		2			○			1							
	社会教育特講3	2・3・4前		2			○		1								
	社会教育特講4	2・3・4後		2			○									兼1	
	生涯学習特論1	2・3・4前		2			○			1							
	生涯学習特論2	2・3・4後		2			○		1								
	生涯学習特論3	2・3・4前		2			○			1							
	生涯学習特論4	2・3・4後		2			○		1								
	生涯学習特論5	2・3・4前		2			○				1						
	生涯学習特論6	2・3・4後		2			○				1						
	生涯学習特論7	2・3・4前		2			○		1								
	生涯学習特論8	2・3・4後		2			○			1							
	図書館情報学概論	1・2・3・4前		2			○		1								
	図書館サービス概論	1・2・3・4後		2			○		1								
	図書館マネジメント論	2・3・4前		2			○		1								
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後		2			○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前		2			○		1								
	文化政策学概論	2・3・4前		2			○				1						
	地域産業論	3・4前		2			○		1								
	地域金融論	3・4後		2			○		1								
	広報・PR論	3・4前		2			○		1								
	臨地文化施設実習	1後	1					○	2	1							
	野外教育実習	1・2・3・4通		1				○								兼1	集中
	プロジェクト実習1	1・2・3・4通		1				○		1							集中
	プロジェクト実習2	1・2・3・4通		1				○	1								集中
	プロジェクト実習3	2・3・4通		1				○			1						集中
	プロジェクト実習4	2・3・4通		1				○	1								集中
	プロジェクト実習5	3・4通		1				○								兼1	集中
	プロジェクト実習6	3・4通		1				○	1								集中
	地域協働実習	2・3・4通		1				○	1								集中
	社会教育実習1	3前・休		2				○	1								集中
	社会教育実習2	3前・休		2				○		1							集中
	社会教育演習1(コーディネーター支援)	3前		2				○	1								
	社会教育演習2(コーディネーター支援)	3後		2				○	1								
	社会教育演習1(文化行政)	3前		2				○			1						
	社会教育演習2(地域文化共創)	3後		2				○			1						
	社会教育演習1(文化スポーツ支援)	3前		2				○	1								
	社会教育演習2(文化スポーツ支援)	3後		2				○	1								
	社会教育課題研究1	4前	2					○	2	1	1						
	社会教育課題研究2	4後	2					○	2	1	1						
	卒業課題研究	4通		4					1								
	卒業論文	4通		6					1								
小計(57科目)	—	—	21	90	0		—	3	1	1	0	0		兼4			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
天理 教学 部門	伝道実習 1	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習 2	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習 3	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習 4	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論 1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論 2	2後			2	○									兼1	
	日本語音声学	2後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法 1	3前			2		○								兼1	
	日本語教授法 2	3後			2		○								兼1	
	第二言語習得論	3前			2		○								兼1	
	日本語指導法	4前			2		○								兼1	
	日本語教育評価法	4後			2		○								兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (13科目)	—	0	0	26			—	0	0	0	0	0	0	兼2	
資格 科目	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習 1	3・4後			2		○								兼1	
	情報サービス演習 2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○			1							
	情報資源組織演習 1	3・4後			2		○		1							
	情報資源組織演習 2	3・4後			2		○		1							
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論	4前			2	○			1							
	博物館実習 1	3前			2			○							兼2	共同
	博物館実習 2	4通			1			○							兼3	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	矯正保護支援実践論	2・3・4後			2	○									兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2・3・4後			2	○									兼1	
	小計 (18科目)	—	0	0	35			—	1	0	0	0	0	0	兼12	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育史	2・3・4前			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼2
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼3 集中
	教職実践演習 (中・高)	4後			2			○							兼5
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼3 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4後			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4通			2	○									兼1 集中
小計 (22科目)	—		0	0	41		—		0	0	0	0	0	0	兼12
合計 (57科目)	—		0	0	106		—		1	0	0	0	0	0	兼27
合計 (220科目)	—		31	274	106		—		3	1	1	0	0	0	兼107
学位又は称号	学士 (社会教育学)	学位又は学科の分野			文学関係/教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法					授業期間等										
総合教育科目：天理スピリット科目群16単位以上、キャリア科目群4単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群6単位以上計32単位以上 社会教育学科専攻科目：必修科目21単位 選択科目は選択必修科目の必要単位を含め39単位以上 計60単位以上 総合教育科目、社会教育学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位 (年間)					1学年の学期区分			2 期							
					1学期の授業期間			15 週							
					1時限の授業時間			90 分							

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文学部社会福祉学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	天理教概説1	1・2・3・4前	2			○								兼10
	天理教概説2	1・2・3・4後	2			○								兼10
	天理教学1	2・3・4前		2		○								兼3
	天理教学2	2・3・4後		2		○								兼3
	建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2			○								兼5
	英語1	1・2・3・4前	1				○							兼15
	英語2	1・2・3・4後	1				○							兼15
	韓国・朝鮮語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	韓国・朝鮮語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	中国語1	1・2・3・4前		1			○							兼1
	中国語2	1・2・3・4後		1			○							兼1
	教養アカデミック英語1	1・2・3・4前	1				○							兼1
	教養アカデミック英語2	1・2・3・4後	1				○							兼1
	実践アカデミック英語1	1・2・3・4前	1				○							兼1
	実践アカデミック英語2	1・2・3・4前	1				○							兼2
	アカデミック英語上級	1・2・3・4後	1				○							兼1
	多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（中国語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（英語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（タイ語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（インドネシア語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ドイツ語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（フランス語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ロシア語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（スペイン語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	1・2・3・4前後	2				○							兼1
	多文化理解と言語（日本語）	1・2・3・4前	2				○							兼1
	日本事情1	1・2・3・4前		2			○							兼1
	日本事情2	1・2・3・4後		2			○							兼1
	健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	2				○							兼8
	健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	2				○							兼6
	国際社会におけるスポーツの役割	1・2・3・4前後	2				○							兼2
	保健医療の仕組みと健康づくり	1・2・3・4後	2				○							兼1
	ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休		1					○	1				兼2 共同 集中
	ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休		1					○	1				兼2 共同 集中
	国際協力入門	1・2・3・4前	2				○			1				
	国際協力実習	1・2・3・4休	2						○	1				集中
	国際協力演習1	1・2・3・4前	2					○		1				
	国際協力演習2	1・2・3・4後	2					○		1				
	国際ボランティア論	2・3・4後	2				○			1				
	天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義3	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○							兼1
	天理異文化伝道	2・3・4前	2				○							兼1
小計（45科目）		—	8	69	0		—		1	0	0	0	0	兼54



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア教育科目群	キャリアプランニング	1・2・3前後		2		○			1						兼2
	キャリアデザイン1	2・3・4前		2		○									兼1
	キャリアデザイン2	2・3・4後		2		○									兼1
	インターンシップ1	1・2・3通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ2	1・2・3通		2				○							兼1 集中
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1				○							兼1 集中
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2				○							兼1 集中
小計(7科目)	—	0	12	0			—	1	0	0	0	0		兼5	
基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	1前	2				○		2	1					
	基礎ゼミナール2	1後		2			○		3						
	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○									兼2
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2		○									兼1
	データリテラシー	2・3・4前後		2		○									兼1
	コンピュータ入門	1・2・3・4前後		2		○									兼2
	情報処理	2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかるレポート作成	1・2・3・4前後		2		○			1						兼3
	基礎からわかる近代史	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	基礎からわかる数学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
基礎からわかる生物・化学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
小計(12科目)	—	2	22	0			—	4	1	0	0	0		兼10	
総合教育科目	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	地球環境論	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	科学と現代	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	数学と論理	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	統計学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	統計学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	経営学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経営学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	地理学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	地理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○									兼2
	法学	1・2・3・4前		2		○									兼2
	経済学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経済学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	政治学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	社会学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	民法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	民法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	行政法1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	行政法2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	哲学概論1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	哲学概論2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	倫理学1	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	倫理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	心理学1	1・2・3・4前		2		○									兼2
	心理学2	1・2・3・4後		2		○									兼2
	ジェンダー・セクシャリティ	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	宗教と芸能	1・2・3・4後		2		○									兼1
	労働と社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	障害学	1・2・3・4前後		2		○									兼2
世界の文学1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
世界の文学2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
宗教と現代社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
人権と差別1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
人権と差別2	1・2・3・4後		2		○									兼3	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
総合 教育 科目 群	日本手話A	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	日本手話B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	アウトドアスポーツ	1・2・3・4通		1				○							兼1	集中
	レクリエーションスポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	ニューススポーツ	2・3・4前		1				○							兼2	
	小計 (42科目)	—	0	81	0			—	0	0	0	0	0	0	兼32	
	合計 (106科目)	—	10	184	0			—	4	1	0	0	0	0	兼85	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
社会福祉学科専攻科目	社会福祉学演習1	2前	2				○		5						
	社会福祉学演習2	3後	2				○		4	1					
	社会福祉学演習3	4前	2				○		5	3					
	社会福祉学演習4	4後	2				○		5	3					
	社会福祉概論1	1・2・3・4前	2				○		1						
	社会福祉概論2	1・2・3・4後	2				○		1						
	人体の構造と機能及び疾病	2・3・4前		2			○		1						
	社会学と社会システム	1・2・3・4後		2			○								兼1
	社会保障論1	2・3・4前		2			○		1						
	社会保障論2	2・3・4後		2			○		1						
	社会福祉調査法	3・4前		2			○		1						
	ソーシャルワーク論1	1・2・3・4前	2				○			1					
	ソーシャルワーク論2	1・2・3・4後		2			○			1					
	ソーシャルワーク論3	2・3・4前		2			○			1					
	ソーシャルワーク論4	2・3・4後		2			○			1					
	ソーシャルワーク論5	3・4後		2			○				1				
	ソーシャルワーク論6	3・4後		2			○				1				
	地域福祉と包括的支援体制1	2・3・4前		2			○		1						
	地域福祉と包括的支援体制2	2・3・4後		2			○		1						
	福祉経営論	4前		2			○		1						
	障害者福祉論	1・2・3・4前		2			○		1						
	児童福祉論	1・2・3・4前		2			○			1					
	高齢者福祉論	1・2・3・4後		2			○				1				
	公的扶助論	2・3・4前		2			○		1						
	医療福祉論	2・3・4前		2			○		1						
	権利擁護を支える法制度	2・3・4前		2			○		1						
	刑事司法と福祉	2・3・4後		2			○								兼1
	ソーシャルワーク演習1	2前		2				○		1	1				兼1
	ソーシャルワーク演習2	2後		2				○		1	1				兼1
	ソーシャルワーク演習3	3前		2				○	1	1	1				
	ソーシャルワーク演習4	3後		2				○	1	1	1				
	ソーシャルワーク演習5	4前		2				○	1		1				兼1
	ソーシャルワーク実習指導1	2後		2				○	2	1					
	ソーシャルワーク実習指導2	3前		2				○	2	2	1				
	ソーシャルワーク実習指導3	3後		2				○	2	2	1				
	ソーシャルワーク実習1	2後		2					1	1	1				
	ソーシャルワーク実習2	3休		4					2	2	1				集中
	地域連携実習	2・3・4休		2					4	1					集中
	天理教社会福祉論	1・2・3・4前	2				○		1						
	精神医学と精神医療1	2・3・4前		2			○								兼1
	精神医学と精神医療2	2・3・4後		2			○								兼1
	現代の精神保健の課題と支援1	2・3・4前		2			○								兼1
	現代の精神保健の課題と支援2	2・3・4後		2			○								兼1
	精神保健福祉の原理1	2・3・4前		2			○			1					
	精神保健福祉の原理2	2・3・4後		2			○			1					
	現代家族論	1・2・3・4後		2			○								兼1
	ソーシャルワーク理論と方法(専門)1	3・4前		2			○			1					
ソーシャルワーク理論と方法(専門)2	3・4後		2			○			1						
精神障害リハビリテーション論	2・3・4前		2			○		1							
精神保健福祉制度論	2・3・4後		2			○			1						
精神保健福祉援助演習1	2・3後		2				○		1						
精神保健福祉援助演習2	3・4前		2				○		1						
精神保健福祉援助演習3	3・4後		2				○		1						
精神保健福祉援助実習A	3・4休		5						2					集中	
精神保健福祉援助実習B	4休		3						2					集中	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
社会福祉学科専攻科目	精神保健福祉援助実習指導 1	2・3後		2			○			2						
	精神保健福祉援助実習指導 2	3・4前		2			○			2						
	精神保健福祉援助実習指導 3	3・4後		2			○			2						
	卒業論文	4通	6						1							
	小計 (59科目)	—	22	106	0		—		7	4	1	0	0	兼5		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習 1	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習 2	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習 3	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習 4	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論 1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論 2	2後			2	○									兼1	
	日本語音声学	2後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法 1	3前			2		○								兼1	
	日本語教授法 2	3後			2		○								兼1	
	第二言語習得論	3前			2		○								兼1	
	日本語指導法	4前			2		○								兼1	
	日本語教育評価法	4後			2		○								兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (13科目)	—	0	0	26			—	0	0	0	0	0	0	兼2	
資格 科目	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習 1	3・4後			2		○								兼1	
	情報サービス演習 2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習 1	3・4後			2		○								兼1	
	情報資源組織演習 2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論	4前			2	○									兼1	
	博物館実習 1	3前			2			○							兼2	共同
	博物館実習 2	4通			1			○							兼3	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	矯正保護支援実践論	2・3・4後			2	○									兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2・3・4後			2	○									兼1	
	小計 (18科目)	—	0	0	35			—	0	0	0	0	0	兼13		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○										兼1	
	教育原理	2・3・4前後			2	○										兼1	
	教育史	2・3・4前			2	○										兼1	
	教育課程論	3・4前後			2	○										兼1	
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○										兼1	
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○										兼1	
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○										兼1	
	教育方法学 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	3前後			2	○										兼2	
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○										兼1	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○										兼2	
	教育実習講義	3後			1	○										兼3	
	介護等体験	3通			1			○								兼3	集中
	教職実践演習 (中・高)	4後			2			○								兼5	
	教育実習1	4通			2			○								兼1	集中
	教育実習2	4通			2			○								兼1	集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○										兼3	
	人権教育論2	2・3・4後			2	○										兼3	
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○										兼1	
	学校教育支援	2・3・4通			1			○								兼3	集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前後			2	○										兼1	
	教育史特論	2・3・4後			2	○										兼1	
	臨床教育学特論	2・3・4通			2	○										兼1	集中
小計 (22科目)	—		0	0	41		—					0	0	0	0	0	兼12
合計 (57科目)	—		0	0	106		—					0	0	0	0	0	兼28
合計 (222科目)	—		32	290	106		—					7	4	1	0	0	兼112
学位又は称号	学士 (社会福祉学)	学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係												
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
総合教育科目：天理スピリット科目群12単位以上、キャリア科目群2単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群4単位以上計24単位以上 社会福祉学科専攻科目：必修科目22単位 選択科目48単位以上 計70単位以上 総合教育科目、社会福祉学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位 (年間)						1学年の学期区分					2 期						
						1学期の授業期間					15 週						
						1時限の授業時間					90 分						

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間学部宗教学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前	2			○			1	1	1				
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			1	1	1	0	0		
基礎 教育 科目	基礎ゼミナール	1前	2				○			1	1			兼1	
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	1	1	0	0	兼1	
	英語	英語A 1	1前	1				○						兼1	
	英語A 2	1後	1					○						兼1	
	英語B 1	1前	1					○						兼1	
	英語B 2	1後	1					○						兼1	
	小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
	健康スポーツ	健康スポーツ科学1	1前		2		○								兼10
	健康スポーツ科学2	1後		2		○									兼6
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼11	
	リメ ディ アル 科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○								兼4
	基礎からわかる近代史	1前後		2		○									兼1
	基礎からわかる現代世界	1前後		2		○									兼1
	基礎からわかる数学	1前後		2		○									兼1
基礎からわかる生物・化学	1後		2		○									兼1	
コンピュータ入門	1前後		2		○									兼3	
小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼11		
総合 教育 科目	キャリアプランニング	1前後		2		○								兼4	
	キャリアデザイン1	2前		2		○								兼1	
	キャリアデザイン2	2前		2		○								兼1	
	キャリアデザイン3	2後		2		○								兼1	
	インターンシップ1	1・2・3通		1				○						兼1 集中	
	インターンシップ2	1・2・3通		2				○						兼1 集中	
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1				○						兼1 集中	
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2				○						兼1 集中	
小計（8科目）	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼8		
教養 科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○								兼2	
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2		○								隔年	
	データリテラシー	2・3・4前後		2		○								隔年	
	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	地球環境論	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	科学と現代	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	数学と論理	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	情報処理	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	統計学	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	経営学1	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	経営学2	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	地理学1	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	地理学2	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	法学	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	経済学概論1	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	経済学概論2	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	政治学	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	民法1	2・3・4前		2		○								兼1	
	民法2	2・3・4後		2		○								兼1	
行政法1	2・3・4前		2		○								兼1		
行政法2	2・3・4後		2		○								兼1		
哲学概論A	1・2・3・4前		2		○								兼2		
哲学概論B	1・2・3・4後		2		○								兼2		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合教育科目	教養科目 一般科目	倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸能	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1					○						兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1					○						兼2		
		生涯スポーツ (アウトドアスポーツ)	2・3・4通	1					○						兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1					○						兼3	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1					○						兼3	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1					○						兼3	共同 集中	
		森に生きる (オーストラリアコース)	1・2・3・4休	1					○							共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計 (53科目)		—	0	99	0	—			0	0	0	0	0	兼41	
		合計 (75科目)		—	8	129	0	—			1	1	1	0	0	兼56	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間学部 共通科目	人間論 1	2・3・4後		2		○									兼1
	人間論 2	2・3・4後		2		○				1					
	人間論 3	2・3・4前		2		○									兼1
	人間論 4	2・3・4前		2		○									兼1
	現代家族論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	矯正保護支援実践論	2・3・4後		2		○									兼2 オムニバス
	犯罪被害者支援論	2・3・4後		2		○									兼1
	小計 (7科目)	—	0	14	0			—	0	1	0	0	0		兼7
宗教学科 専攻科目	天理教学概論 1	1前	2			○			1						
	天理教学概論 2	1後	2			○			1						
	天理教教祖伝概説 1	1前	2			○									兼1
	天理教教祖伝概説 2	1後	2			○									兼1
	宗教史概説 1	1前	2			○			1						
	宗教史概説 2	1後	2			○									兼1
	宗教学概論 1	2前	2			○			1						
	宗教学概論 2	2後	2			○			1						
	天理教原典学 1 概説	2前		2											兼1
	天理教原典学 2 概説	2前		2			○								兼1
	天理教原典学 3 概説	2後		2			○								兼1
	天理教学特殊講義 1	3・4前		2			○								兼1
	天理教学特殊講義 2	3・4前		2			○								兼1
	天理教学特殊講義 3	3・4後		2			○								兼1
	天理教学特殊講義 4	3・4後		2			○					1			
	天理教史特殊講義 1	3・4前		2			○								兼1
	天理教史特殊講義 2	3・4後		2			○			1					
	天理教史特殊講義 3	3・4後		2			○								兼1
	宗教学特殊講義 1	3・4前		2			○				1				
	宗教学特殊講義 2	3・4後		2			○								兼1
	宗教学特殊講義 3	3・4前		2			○			1					
	宗教学特殊講義 4	3・4前		2			○								兼1
	宗教史特殊講義 1	2前		2			○								兼1
	宗教史特殊講義 2	2後		2			○			1					
	宗教史特殊講義 3	2前		2			○			1					
	宗教史特殊講義 4	2後		2			○			1					
	宗教史特殊講義 5	2前		2			○								兼1
	宗教史特殊講義 6	2後		2			○								兼1
	宗教科指導法 1	3前		2			○			1					
	宗教科指導法 2	3後		2			○			1					
	宗教科指導法 3	3前		2			○			1					
	宗教科指導法 4	3後		2			○				1				
	宗教研究基礎演習	1後	2					○			1	1			
	宗教研究演習 1	3前	2					○		1	1	1			
	宗教研究演習 2	3後	2					○		1	1	1			
	宗教課題演習 1	4前	2					○		1	1	1			
	宗教課題演習 2	4後	2					○		1	1	1			
	卒業論文	4通	4							1					
小計 (38科目)	—	30	48	0			—	3	1	1	0	0		兼8	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○		1					集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○		1					集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○		1					
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○		1					
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	1	0	0	0		
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1
	日本語文法論1	2前			2	○									兼1
	日本語文法論2	2後			2	○									兼1
	日本語語用論	3後			2	○									兼1
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1
	日本語教授法1	3前			2			○							兼1
	日本語教授法2	3後			2			○							兼1
	日本語指導法	4前			2			○							兼1
	日本語教育評価法	4後			2			○							兼1
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1 集中
	小計 (12科目)	—	0	0	24			—	0	0	0	0	0	兼4	
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1
	情報サービス演習1	3・4後			2			○							兼1
	情報サービス演習2	3・4後			2			○							兼1
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1
	情報資源組織演習1	3・4後			2			○							兼1
	情報資源組織演習2	3・4後			2			○							兼1
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1
	図書館情報学特論B	4後			2	○									隔年
	博物館展示論	3・4前			2	○									兼1
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○									兼1
	博物館実習1	3前			2			○							兼2 共同
	博物館実習2	4通			1			○							兼4 共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1
	小計 (23科目)	—	0	0	45			—	0	0	0	0	0	兼10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前後			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—		0	0	39		—		0	0	0	0	0	0	兼11
合計（60科目）	—		0	0	112		—		0	1	0	0	0	0	兼25
合計（180科目）	—		38	191	112		—		3	1	1	0	0	0	兼90
学位又は称号	学士（宗教学）		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
総合教育科目：建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 人間学部共通科目：4単位以上 宗教学科専攻科目：必修科目30単位、選択必修科目36単位以上 計66単位以上 総合教育科目、人間学部共通科目、宗教学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）							1学年の学期区分		2			期			
							1学期の授業期間		15			週			
							1時限の授業時間		90			分			

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人間学部人間関係学科臨床心理専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
天理 教科 目	天理教学A 1	1・2・3・4前		2		○									兼8	
	天理教学A 2	1・2・3・4後		2		○									兼8	
	天理教学B 1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
	天理教学B 2	1・2・3・4後		2		○									兼3	
	天理教学C 1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	天理教学C 2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前	2			○									兼3	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3		
基礎 教育 科目	基礎ゼミナール	1前	2												兼2	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼2		
	英語	英語A 1	1前	1				○								兼3
		英語A 2	1後	1				○								兼3
		英語B 1	1前	1				○								兼3
		英語B 2	1後	1				○								兼3
		小計 (4科目)	—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼6	
	健康 スポ ーツ	健康スポーツ科学1	1前		2		○									兼10
		健康スポーツ科学2	1後		2		○									兼6
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼11	
	総合 教育 科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○			1						兼3
		基礎からわかる近代史	1前後		2		○									兼1
		基礎からわかる現代世界	1前後		2		○									兼1
基礎からわかる数学		1前後		2		○									兼1	
基礎からわかる生物・化学		1後		2		○									兼1	
コンピュータ入門		1前後		2		○									兼3	
小計 (6科目)		—	0	12	0	—		1	0	0	0	0	0	0	兼10	
キャリア 科目	キャリアプランニング	1前後		2		○			1						兼3	
	キャリアデザイン1	2前		2		○									兼1	
	キャリアデザイン2	2前		2		○									兼1	
	キャリアデザイン3	2後		2		○			1							
	インターンシップ1	1・2・3通		1											兼1 集中	
	インターンシップ2	1・2・3通		2											兼1 集中	
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1											兼1 集中	
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2											兼1 集中	
小計 (8科目)	—	0	14	0	—		2	0	0	0	0	0	0	兼6		
教養 科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○									兼2	
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2		○									隔年	
	データリテラシー	2・3・4前後		2		○									隔年	
	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	地球環境論	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	科学と現代	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	数学と論理	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	情報処理	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	統計学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	経営学1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経営学2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	地理学1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	地理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	法学	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	経済学概論1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経済学概論2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
政治学	1・2・3・4前後		2		○									兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合 教育 科目	教養 科目 一般 科目	民法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		民法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		行政法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		行政法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		哲学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		哲学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸能	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1						○					兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1						○					兼2		
		生涯スポーツ(アウトドアスポーツ)	2・3・4通	1						○					兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1						○	1				兼2	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1						○	1				兼2	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1						○	1				兼2	共同 集中	
		森に生きる(オーストラリアコース)	1・2・3・4休	1						○						共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計(53科目)		—	0	99	0	—			1	0	0	0	0	兼40	
		合計(81科目)		—	8	141	0	—			2	0	0	0	0	兼70	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間学部共通科目	人間論 1	2・3・4後		2		○									兼1	
	人間論 2	2・3・4後		2		○									兼1	
	人間論 3	2・3・4前		2		○			1							
	人間論 4	2・3・4前		2		○			1							
	現代家族論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	矯正保護支援実践論	2・3・4後		2		○									兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2・3・4後		2		○									兼1	
	小計 (7科目)	—	0	14	0		—		2	0	0	0	0	0	兼6	
人間関係学科共通科目	心理学概論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	臨床心理学概論	1・2・3・4前		2		○			1							
	教育学概論 1	1・2・3・4前		2		○			1							
	教育学概論 2	1・2・3・4後		2		○			1							
	社会福祉概論 1	1・2・3・4前		2		○			1							
	社会福祉概論 2	1・2・3・4後		2		○			1							
	天理教社会福祉論	1・2・3・4前		2		○			1							
	小計 (7科目)	—	0	14	0		—		4	0	0	0	0	0	兼1	
臨床心理専攻科目	公認心理師の職責	1・2休		2		○									兼1	集中
	心理学研究法	2後		4			○								兼1	
	心理学統計法	2後		2		○									兼1	
	多変量解析法	4前		2		○									兼1	
	心理学実験法	2前		4			○								兼1	
	知覚・認知心理学	2・3・4前		2		○									兼1	
	学習・言語心理学	2・3・4後		2		○									兼1	
	感情・人格心理学	2・3・4前		2		○									兼1	
	神経・生理心理学	2・3・4休		2		○									兼1	集中
	社会・集団・家族心理学	2・3・4後		2		○									兼1	
	発達心理学	2・3・4前		2		○									兼1	
	障害者・障害児心理学	2・3・4前		2		○									兼1	
	心理的アセスメント 1	2前		4			○								兼1	
	心理的アセスメント 2	2後		4			○								兼1	
	心理学的支援法	3・4後		2		○			1							
	健康・医療心理学	2・3・4休		2		○									兼1	集中
	福祉心理学	3・4前		2		○									兼1	
	教育・学校心理学	3・4後		2		○									兼1	
	司法・犯罪心理学	2・3・4後		2		○									兼1	
	産業・組織心理学	2・3・4前		2		○									兼1	
	人体の構造と機能及び疾病	2・3・4後		2		○									兼1	
	精神疾患とその治療 1	2・3・4前		2		○									兼1	
	精神疾患とその治療 2	2・3・4後		2		○									兼1	
	関係行政論	3・4通		2		○									兼2	オムニバス 集中
	精神分析学	3・4前	2			○			1							
	ユング心理学	3・4後	2			○			1							
	投影法演習	3・4後		4			○		1							
	心理演習	3・4後		2			○		2							
	心理実習	4通		2				○	5							集中
	臨床心理学入門演習	1後	2				○		1							
	臨床心理学課題演習	3前	2				○		2							
	臨床心理学研究演習 1	4前	2				○		5							
	臨床心理学研究演習 2	4後	2				○		5							
	卒業課題研究	4通	4						1							
小計 (34科目)	—	16	64	0		—		5	0	0	0	0	0	兼14		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論2	2後			2	○									兼1	
	日本語語用論	3後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法1	3前			2		○								兼1	
	日本語教授法2	3後			2		○								兼1	
	日本語指導法	4前			2		○								兼1	
	日本語教育評価法	4後			2		○								兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (12科目)	—	0	0	24			—	0	0	0	0	0	0	兼4	
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習1	3・4後			2		○								兼1	
	情報サービス演習2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習1	3・4後			2		○								兼1	
	情報資源組織演習2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論B	4後			2	○										隔年
	博物館展示論	3・4後			2	○									兼1	
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○									兼1	
	博物館実習1	3前			2			○							兼2	共同
	博物館実習2	4通			1			○							兼4	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	小計 (23科目)	—	0	0	45			—	0	0	0	0	0	0	兼10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—	0	0	39	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	
合計（60科目）	—	0	0	112	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼25	
合計（189科目）	—	24	233	112	—	—	—	10	0	0	0	0	0	兼107	
学位又は称号	学士（臨床心理）	学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
総合教育科目：天理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 人間学部共通科目：4単位以上 人間関係学科共通科目：8単位以上 臨床心理専攻専攻科目：必修科目16単位、選択必修科目32単位以上 計48単位以上 人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、臨床心理専攻専攻科目 計70単位以上 総合教育科目、人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、臨床心理専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）						1学年の学期区分					2 期				
						1学期の授業期間					15 週				
						1時限の授業時間					90 分				



別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(人間学部人間関係学科生涯教育専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教科目	天理教学A 1	1・2・3・4前		2			○								兼8	
	天理教学A 2	1・2・3・4後		2			○								兼8	
	天理教学B 1	1・2・3・4前		2			○								兼3	
	天理教学B 2	1・2・3・4後		2			○								兼3	
	天理教学C 1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	天理教学C 2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0		—		0	0	0	0	0	0	兼11	
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前	2				○								兼3	
	小計 (1科目)	—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	0	兼3	
基礎 教育科目	基礎ゼミナール	1前	2						1						兼1	
	小計 (1科目)	—	2	0	0		—		1	0	0	0	0	0	兼1	
	英語	英語A 1	1前	1				○								兼3
		英語A 2	1後	1				○								兼3
		英語B 1	1前	1				○								兼3
		英語B 2	1後	1				○								兼3
		小計 (4科目)	—	4	0	0		—		0	0	0	0	0	0	兼6
	健康 スポーツ	健康スポーツ科学1	1前		2			○								兼10
		健康スポーツ科学2	1後		2			○								兼6
	小計 (2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	0	兼11	
	リ メ デ イ ア ル 科 目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2			○			1					兼3
		基礎からわかる近代史	1前後		2			○								兼1
		基礎からわかる現代世界	1前後		2			○								兼1
基礎からわかる数学		1前後		2			○								兼1	
基礎からわかる生物・化学		1後		2			○								兼1	
コンピュータ入門		1前後		2			○								兼3	
小計 (6科目)	—	0	12	0		—		1	0	0	0	0	0	兼10		
キ ャ リ ア 科 目	キャリアプランニング	1前後		2			○			1					兼3	
	キャリアデザイン1	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン2	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン3	2後		2			○			1						
	インターンシップ1	1・2・3通		1											兼1 集中	
	インターンシップ2	1・2・3通		2											兼1 集中	
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1											兼1 集中	
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2											兼1 集中	
小計 (8科目)	—	0	14	0		—		2	0	0	0	0	0	兼6		
教 養 科 目	データサイエンス・AI入門	1前後		2			○								兼2	
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2			○								隔年	
	データリテラシー	2・3・4前後		2			○								隔年	
	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	地球環境論	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	科学と現代	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	数学と論理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	情報処理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	統計学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	経営学1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	経営学2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	地理学1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	地理学2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4後		2			○								兼2	
	法学	1・2・3・4前		2			○								兼2	
	経済学概論1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	経済学概論2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
政治学	1・2・3・4前後		2			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合 教育 科目	教養 科目 一般 科目	民法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		民法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		行政法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		行政法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		哲学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		哲学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸能	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1						○					兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1						○					兼2		
		生涯スポーツ(アウトドアスポーツ)	2・3・4通	1						○					兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1						○	1				兼2	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1						○	1				兼2	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1						○	1				兼2	共同 集中	
		森に生きる(オーストラリアコース)	1・2・3・4休	1						○						共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計(53科目)	—	—	0	99	0	—			1	0	0	0	0	兼40	
		合計(81科目)	—	—	8	141	0	—			3	0	0	0	0	兼70	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
人間学部共通科目	人間論 1	2・3・4後		2		○										兼1	
	人間論 2	2・3・4後		2		○										兼1	
	人間論 3	2・3・4前		2		○			1								
	人間論 4	2・3・4前		2		○			1								
	現代家族論	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	矯正保護支援実践論	2・3・4後		2		○										兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2・3・4後		2		○										兼1	
	小計 (7科目)	—	0	14	0		—		2	0	0	0	0	0		兼6	
人間関係学科共通科目	心理学概論	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	臨床心理学概論	1・2・3・4前		2		○			1								
	教育学概論 1	1・2・3・4前		2		○			1								
	教育学概論 2	1・2・3・4後		2		○			1								
	社会福祉概論 1	1・2・3・4前		2		○			1								
	社会福祉概論 2	1・2・3・4後		2		○			1								
	天理教社会福祉論	1・2・3・4前		2		○			1								
	小計 (7科目)	—	0	14	0		—		4	0	0	0	0	0		兼1	
生涯教育専攻科目	生涯教育基礎演習 1	1前	2				○		1	1	1						
	生涯教育基礎演習 2	1後	2				○		1	1	1						
	生涯教育演習 1	2前	2				○		1		1						
	生涯教育演習 2	2後	2				○		1		1						
	社会教育演習 1	3前	2				○		1		1						
	社会教育演習 2	3後	2				○		1		1						
	生涯教育課題研究 1	4前	2				○		1	1	1						
	生涯教育課題研究 2	4後	2				○		1	1	1						
	生涯学習概論 1	1前	2				○		1								
	生涯学習概論 2	1後	2				○		1								
	生涯学習支援論 1	2前		2			○			1							
	生涯学習支援論 2	2後		2			○		1								
	社会教育経営論 1	3前	2				○			1							
	社会教育経営論 2	3後	2				○		1								
	社会教育特講 1	2・3・4前	2				○		1								
	社会教育特講 2	2・3・4後	2				○			1							
	社会教育特講 3	2・3・4後	2				○				1						
	社会教育特講 4	2・3・4前	2				○		1								
	生涯教育特論 1	2・3・4前	2				○		1								
	生涯教育特論 2	2・3・4前	2				○										隔年
	生涯教育特論 3	2・3・4前	2				○				1						
	生涯教育特論 4	2・3・4後	2				○										隔年
	生涯教育特論 5	2・3・4前	2				○		1								
	生涯教育特論 6	2・3・4後	2				○										隔年
	生涯教育特論 7	2・3・4後	2				○			1							
	生涯教育特論 8	2・3・4後	2				○										隔年
	教育史	2・3・4前	2				○										兼1
	博物館学概論	1・2・3・4後	2				○										兼1
	博物館情報・メディア論	2・3・4後	2				○										兼1
	博物館教育論	2・3・4前	2				○										兼1
	図書館情報学概論	1・2・3・4前	2				○										兼1
	生涯教育基礎実習	2後	2							1	1	1					
	社会教育実習	3通		2						1	1	1					
	生涯教育実習 1	1・2・3・4前		1							1						
	生涯教育実習 2	1・2・3・4前		1													隔年
	生涯教育実習 3	1・2・3・4休		1							1						集中
	生涯教育実習 4	1・2・3・4休		1							1						集中
	生涯教育実習 5	1・2・3・4休		1							1						集中
	生涯教育実習 6	1・2・3・4休		1							1						集中
	野外教育実習	1・2・3・4休		1													兼1 集中
	卒業論文	4通	8							1							
小計 (41科目)	—	30	51	0		—		2	1	1	0	0			兼6		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論2	2後			2	○									兼1	
	日本語語用論	3後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法1	3前			2			○							兼1	
	日本語教授法2	3後			2			○							兼1	
	日本語指導法	4前			2			○							兼1	
	日本語教育評価法	4後			2			○							兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (12科目)	—	0	0	24			—	0	0	0	0	0	0	兼4	
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報サービス演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報資源組織演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論B	4後			2	○										隔年
	博物館展示論	3・4後			2	○									兼1	
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○									兼1	
	博物館実習1	3前			2				○						兼2	共同
	博物館実習2	4通			1				○						兼4	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	小計 (23科目)	—	0	0	45			—	0	0	0	0	0	0	兼10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—	0	0	39	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	
合計（60科目）	—	0	0	112	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼25	
合計（196科目）	—	38	220	112	—	—	—	8	1	1	0	0	0	兼98	
学位又は称号	学士（生涯教育）	学位又は学科の分野			文学関係／教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
総合教育科目：天理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 人間学部共通科目：4単位以上 人間関係学科共通科目：8単位以上 生涯教育専攻専攻科目：必修科目30単位、選択必修科目18単位以上 計48単位以上 人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、生涯教育専攻専攻科目 計70単位以上 総合教育科目、人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、生涯教育専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）							1学年の学期区分				2 期				
							1学期の授業期間				15 週				
							1時限の授業時間				90 分				

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(人間学部人間関係学科社会福祉専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教科目	天理教学A 1	1・2・3・4前		2		○									兼8	
	天理教学A 2	1・2・3・4後		2		○									兼8	
	天理教学B 1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
	天理教学B 2	1・2・3・4後		2		○									兼3	
	天理教学C 1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	天理教学C 2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前	2			○									兼3	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	
基礎 教育科目	基礎ゼミナール	1前	2												兼2	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2	
	英語	英語A 1	1前	1				○								兼3
		英語A 2	1後	1				○								兼3
		英語B 1	1前	1				○								兼3
		英語B 2	1後	1				○								兼3
		小計 (4科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6
	健康 スポーツ	健康スポーツ科学1	1前		2		○									兼10
		健康スポーツ科学2	1後		2		○									兼6
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	
	リ メ デ イ ア ル 科 目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○			1						兼3
		基礎からわかる近代史	1前後		2		○									兼1
基礎からわかる現代世界		1前後		2		○									兼1	
基礎からわかる数学		1前後		2		○									兼1	
基礎からわかる生物・化学		1後		2		○									兼1	
コンピュータ入門		1前後		2		○									兼3	
小計 (6科目)	—	0	12	0	—			1	0	0	0	0	0	兼10		
キ ャ リ ア 科 目	キャリアプランニング	1前後		2		○			1						兼3	
	キャリアデザイン1	2前		2		○									兼1	
	キャリアデザイン2	2前		2		○									兼1	
	キャリアデザイン3	2後		2		○			1							
	インターンシップ1	1・2・3通		1											兼1 集中	
	インターンシップ2	1・2・3通		2											兼1 集中	
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1											兼1 集中	
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2											兼1 集中	
小計 (8科目)	—	0	14	0	—			2	0	0	0	0	0	兼6		
教 養 科 目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○									兼2	
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2		○									隔年	
	データリテラシー	2・3・4前後		2		○									隔年	
	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	地球環境論	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	科学と現代	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	数学と論理	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	情報処理	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	統計学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	経営学1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経営学2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	地理学1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	地理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	法学	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	経済学概論1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
経済学概論2	1・2・3・4後		2		○									兼1		
政治学	1・2・3・4前後		2		○									兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合 教育 科目	教養 科目 一般 科目	民法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		民法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		行政法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		行政法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		哲学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		哲学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸能	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1						○					兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1						○					兼2		
		生涯スポーツ(アウトドアスポーツ)	2・3・4通	1						○					兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1						○	1				兼2	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1						○	1				兼2	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1						○	1				兼2	共同 集中	
		森に生きる(オーストラリアコース)	1・2・3・4休	1						○						共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計(53科目)		—	0	99	0	—			1	0	0	0	0	兼40	
		合計(81科目)		—	8	141	0	—			2	0	0	0	0	兼71	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
人間学部 共通科目	人間論 1	2・3・4後		2		○										兼1	
	人間論 2	2・3・4後		2		○										兼1	
	人間論 3	2・3・4前		2		○			1								
	人間論 4	2・3・4前		2		○			1								
	現代家族論	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	矯正保護支援実践論	2・3・4後		2		○										兼2	オムニバス
	犯罪被害者支援論	2・3・4後		2		○										兼1	
	小計 (7科目)	—	0	14	0			—	2	0	0	0	0	0		兼6	
人間関係学 科共通科目	心理学概論	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	臨床心理学概論	1・2・3・4前		2		○			1								
	教育学概論 1	1・2・3・4前		2		○			1								
	教育学概論 2	1・2・3・4後		2		○			1								
	社会福祉概論 1	1・2・3・4前		2		○			1								
	社会福祉概論 2	1・2・3・4後		2		○			1								
	天理教社会福祉論	1・2・3・4前		2		○			1								
	小計 (7科目)	—	0	14	0			—	4	0	0	0	0	0		兼1	
社会福祉 専攻科目	社会福祉学演習 1	1前	2			○			2								
	社会福祉学演習 2	1後	2			○			2								
	社会福祉学演習 3	2前	2			○			1	1							
	社会福祉学演習 4	4前	2			○			2	3							
	社会福祉学演習 5	4後	2			○			2	3							
	人体の構造と機能及び疾病	2・3・4後		2		○										兼1	
	社会学と社会システム	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	社会保障論 1	2・3・4前		2		○			1								
	社会保障論 2	2・3・4後		2		○			1								
	社会福祉調査法	3・4前		2		○				1							
	ソーシャルワーク論 1	1・2・3・4前		2		○				1							
	ソーシャルワーク論 2	1・2・3・4後		2		○				1							
	ソーシャルワーク論 3	2・3・4前		2		○				1							
	ソーシャルワーク論 4	2・3・4後		2		○				1							
	ソーシャルワーク論 5	3・4後		2		○										兼1	
	ソーシャルワーク論 6	3・4後		2		○										兼1	
	地域福祉と包括的支援体制 1	2・3・4前		2		○			1								
	地域福祉と包括的支援体制 2	2・3・4後		2		○			1								
	福祉経営論	4前		2		○										兼1	
	障害者福祉論	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	児童福祉論	1・2・3・4前		2		○				1							
	高齢者福祉論	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	公的扶助論	2・3・4前		2		○										兼1	
	医療福祉論	2・3・4前		2		○			1								
	権利擁護を支える法制度	2・3・4前		2		○										兼1	
	刑事司法と福祉	2・3・4後		2		○										兼1	
	ソーシャルワーク演習 1	2前		2			○			1						兼1	
	ソーシャルワーク演習 2	2後		2			○			1						兼1	
	ソーシャルワーク演習 3	3前		2			○			1						兼1	
	ソーシャルワーク演習 4	3後		2			○			1						兼1	
	ソーシャルワーク演習 5	4前		2			○		1							兼1	
	ソーシャルワーク実習 1	2休		2				○	1	2							集中
	ソーシャルワーク実習 2	3休		4				○	1	3							集中
	ソーシャルワーク実習指導 1	2後		2			○		1	1							
	ソーシャルワーク実習指導 2	3前		2			○		1	3							
	ソーシャルワーク実習指導 3	3後		2			○		1	3							
	精神医学と精神医療 1	2・3・4前		2		○										兼1	
	精神医学と精神医療 2	2・3・4後		2		○										兼1	
	現代の精神保健の課題と支援 1	2・3・4前		2		○										兼1	
	現代の精神保健の課題と支援 2	2・3・4後		2		○										兼1	



科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
社会福祉 専攻科目	精神保健福祉の原理 1	2・3・4前		2		○									兼1	
	精神保健福祉の原理 2	2・3・4後		2		○									兼1	
	ソーシャルワーク理論と方法（専門） 1	3・4前		2		○				1						
	ソーシャルワーク理論と方法（専門） 2	3・4後		2		○				1						
	精神障害リハビリテーション論	2・3・4後		2		○									兼1	
	精神保健福祉制度論	2・3・4前		2		○									兼1	
	精神保健福祉援助演習 1	2・3後		2			○			1						
	精神保健福祉援助演習 2	3・4後		2			○			1						
	精神保健福祉援助演習 3	3・4後		2			○									隔年
	精神保健福祉援助実習 A	3・4休		5			○									隔年 集中
	精神保健福祉援助実習 B	4休		3			○									隔年 集中
	精神保健福祉援助実習指導 1	2・3後		2			○			2						
	精神保健福祉援助実習指導 2	3・4前		2			○			2						
	精神保健福祉援助実習指導 3	3・4後		2			○			2						
	卒業論文	4通		8						1						
小計（55科目）	—		18	104	0		—		2	3	0	0	0	兼10		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論2	2後			2	○									兼1	
	日本語語用論	3後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法1	3前			2		○								兼1	
	日本語教授法2	3後			2		○								兼1	
	日本語指導法	4前			2		○								兼1	
	日本語教育評価法	4後			2		○								兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (12科目)	—	0	0	24			—	0	0	0	0	0	0	兼4	
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習1	3・4後			2		○								兼1	
	情報サービス演習2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習1	3・4後			2		○								兼1	
	情報資源組織演習2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論B	4後			2	○										隔年
	博物館展示論	3・4後			2	○									兼1	
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○									兼1	
	博物館実習1	3前			2			○							兼2	共同
	博物館実習2	4通			1			○							兼4	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	小計 (23科目)	—	0	0	45			—	0	0	0	0	0	0	兼10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—	0	0	39		—		0	0	0	0	0	0	兼11	
合計（60科目）	—	0	0	112		—		0	0	0	0	0	0	兼25	
合計（210科目）	—	26	273	112		—		7	3	0	0	0	0	兼105	
学位又は称号	学士（社会福祉）	学位又は学科の分野			社会学・社会福祉関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
総合教育科目：天理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 人間学部共通科目：4単位以上 人間関係学科共通科目：8単位以上 社会福祉専攻専攻科目：必修科目18単位、選択必修科目30単位以上 計48単位以上 人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、社会福祉専攻専攻科目 計70単位以上 総合教育科目、人間学部共通科目、人間関係学科共通科目、社会福祉専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）							1学年の学期区分			2 期					
							1学期の授業期間			15 週					
							1時限の授業時間			90 分					

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部国文学国語学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
天理 教科 目	天理教学A 1	1・2・3・4前		2		○									兼8	
	天理教学A 2	1・2・3・4後		2		○									兼8	
	天理教学B 1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
	天理教学B 2	1・2・3・4後		2		○									兼3	
	天理教学C 1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	天理教学C 2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前	2			○									兼3	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3		
基礎 教育 科目	基礎ゼミナール	1前	2						1	1					兼1	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—		1	1	0	0	0	0	兼1		
	英語	英語A 1	1前	1				○								兼3
		英語A 2	1後	1				○								兼3
		英語B 1	1前	1				○								兼3
		英語B 2	1後	1				○								兼3
		小計 (4科目)	—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼6	
健康 スポ ーツ	健康スポーツ科学 1	1前		2			○								兼10	
	健康スポーツ科学 2	1後		2			○								兼6	
小計 (2科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼11		
総合 教育 科目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2			○								兼4	
	基礎からわかる近代史	1前後		2			○								兼1	
	基礎からわかる現代世界	1前後		2			○								兼1	
	基礎からわかる数学	1前後		2			○								兼1	
	基礎からわかる生物・化学	1後		2			○								兼1	
	コンピュータ入門	1前後		2			○								兼3	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼11	
キャリア 科目	キャリアプランニング	1前後		2			○								兼4	
	キャリアデザイン 1	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン 2	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン 3	2後		2			○								兼1	
	インターンシップ 1	1・2・3通		1							○				兼1 集中	
	インターンシップ 2	1・2・3通		2							○				兼1 集中	
	海外インターンシップ 1	2・3・4通		1							○				兼1 集中	
	海外インターンシップ 2	2・3・4通		2							○				兼1 集中	
小計 (8科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼8		
教養 科目	データサイエンス・AI入門	1前後		2			○								兼2	
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2			○								隔年	
	データリテラシー	2・3・4前後		2			○								隔年	
	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	地球環境論	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	科学と現代	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	数学と論理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	情報処理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	統計学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	経営学 1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	経営学 2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	地理学 1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	地理学 2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4後		2			○								兼2	
	法学	1・2・3・4前		2			○								兼2	
	経済学概論 1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
経済学概論 2	1・2・3・4後		2			○								兼1		
政治学	1・2・3・4前後		2			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合 教育 科目	教養 科目 一般 科目	民法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		民法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		行政法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		行政法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		哲学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		哲学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸能	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1						○					兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1						○					兼2		
		生涯スポーツ(アウトドアスポーツ)	2・3・4通	1						○					兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きる(オーストラリアコース)	1・2・3・4休	1						○						共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計(53科目)		—	0	99	0	—			0	0	0	0	0	兼41	
		合計(81科目)		—	8	141	0	—			1	1	0	0	0	兼72	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
文学部共通科目	大和の文化遺産を学ぶ1	1・2・3・4後		2		○										兼1
	大和の文化遺産を学ぶ2	1・2・3・4後		2		○										兼1
	大和の文化遺産を学ぶ3	1・2・3・4後		2		○										兼1
	大和の文化遺産を学ぶ4	1・2・3・4前		2		○										兼1
	大和の文化遺産を学ぶ5	1・2・3・4前		2		○				1						
	小計(5科目)	—		0	10	0		—		0	1	0	0	0		
国文学国語学科専攻科目	国文学基礎演習1	1前		2			○		1							
	国文学基礎演習2	1前		2			○		1							
	国文学概論1	1前	2			○			1							
	国文学概論2	1後	2			○			1							
	上代文学講読1	1・2前		2			○				1					
	上代文学講読2	1・2後		2			○				1					
	中古文学講読1	1・2前		2			○		1							
	中古文学講読2	1・2後		2			○		1							
	中世文学講読1	1・2前		2			○									兼1
	中世文学講読2	1・2後		2			○									兼1
	近世文学講読1	1・2前		2			○									兼1
	近世文学講読2	1・2後		2			○									兼1
	近代文学講読1	1・2前		2			○		1							
	近代文学講読2	1・2後		2			○		1							
	上代文学特論1	2前		2		○					1					
	上代文学特論2	2後		2		○					1					
	中古文学特論1	2前		2		○			1							
	中古文学特論2	2後		2		○			1							
	中世文学特論1	2前		2		○										兼1
	中世文学特論2	2後		2		○										兼1
	近世文学特論1	2前		2		○										兼1
	近世文学特論2	2後		2		○										兼1
	近代文学特論1	2前		2		○			1							
	近代文学特論2	2後		2		○			1							
	国文学演習(上代)1	3前		2			○				1					
	国文学演習(上代)2	3後		2			○				1					
	国文学演習(中古)1	3前		2			○		1							
	国文学演習(中古)2	3後		2			○		1							
	国文学演習(中世)1	3前		2			○									隔年
	国文学演習(中世)2	3後		2			○									隔年
	国文学演習(近世)1	3前		2			○		1							
	国文学演習(近世)2	3後		2			○		1							
	国文学演習(近代)1	3前		2			○		1							
	国文学演習(近代)2	3後		2			○		1							
	古典文学史1	2・3前		2		○										兼1
	古典文学史2	2・3後		2		○										兼1
	近代文学史1	2・3前		2		○			1							
	近代文学史2	2・3後		2		○			1							
	国語学基礎演習1	1前		2			○			1						
	国語学基礎演習2	1前		2			○			1						
国語学概論1	1前	2			○										兼1	
国語学概論2	1後	2			○										兼1	
国語学特論(言語構造)1	2前		2		○										兼1	
国語学特論(言語構造)2	2後		2		○										兼1	
国語学特論(言語運用)1	2前		2		○										兼1	
国語学特論(言語運用)2	2後		2		○										兼1	
国語学特論(言語実態)1	2前		2		○				1							
国語学特論(言語実態)2	2後		2		○				1							
国語学演習(言語構造)1	3前		2			○									兼1	
国語学演習(言語構造)2	3後		2			○									兼1	
国語学演習(言語運用)1	3前		2			○									兼1	
国語学演習(言語運用)2	3後		2			○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
国文学 国語学 科専攻 科目	国語学演習（言語実態）1	3前		2			○			1							
	国語学演習（言語実態）2	3後		2			○			1							
	漢文学基礎演習1	1後		2			○				1						
	漢文学基礎演習2	1後		2			○				1						
	漢文学特論1	2前		2		○					1						
	漢文学特論2	2後		2		○					1						
	古典文法1	3前		2			○									兼1	
	古典文法2	3後		2			○									兼1	
	国語表現法1	2前		2			○		1								
	国語表現法2	2後		2			○		1								
	書道（書写を中心とする）	2前		1				○									兼1
	国語科指導法1	3前		2		○				1							
	国語科指導法2	3後		2		○				1							
	国語科指導法3	3前		2		○										兼1	
	国語科指導法4	3後		2		○			1								
	卒業論文演習	4通	4				○		3	1	1						
	卒業論文	4通	6						1								
	小計（69科目）	—	18	125	0		—		3	1	1	0	0			兼7	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論2	2後			2	○									兼1	
	日本語語用論	3後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法1	3前			2			○							兼1	
	日本語教授法2	3後			2			○							兼1	
	日本語指導法	4前			2			○							兼1	
	日本語教育評価法	4後			2			○							兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (12科目)	—	0	0	24			—	0	0	0	0	0	0	兼4	
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報サービス演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報資源組織演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論B	4後			2	○										隔年
	博物館展示論	3・4後			2	○									兼1	
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○									兼1	
	博物館実習1	3前			2				○						兼2	共同
	博物館実習2	4通			1				○						兼4	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	小計 (23科目)	—	0	0	45			—	0	0	0	0	0	0	兼10	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職に関する専門教育科目 資格科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—	0	0	39	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	
合計（60科目）	—	0	0	112	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼25	
合計（215科目）	—	26	276	112	—	—	—	3	1	1	0	0	0	兼101	
学位又は称号	学士（国文学）		学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
総合教育科目：天理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 文学部共通科目：4単位以上 国文学国語学科専攻科目：必修科目18単位、選択必修科目38単位以上 計56単位以上 文学共通科目、国文学国語学科専攻科目 計70単位以上 総合教育科目、文学部共通科目、国文学国語学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）						1学年の学期区分		2			期				
						1学期の授業期間		15			週				
						1時限の授業時間		90			分				

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部歴史文化学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
天理 教科 目	天理教学A 1	1・2・3・4前		2		○									兼8	
	天理教学A 2	1・2・3・4後		2		○									兼8	
	天理教学B 1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
	天理教学B 2	1・2・3・4後		2		○									兼3	
	天理教学C 1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	天理教学C 2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前	2			○									兼3	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3		
基礎 教育 科目	基礎ゼミナール	1前	2						1		1				兼1	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—		1	0	1	0	0	0	兼1		
	英語	英語A 1	1前	1				○								兼3
		英語A 2	1後	1				○								兼3
		英語B 1	1前	1				○								兼3
		英語B 2	1後	1				○								兼3
		小計 (4科目)	—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼6	
	健康 スポ ーツ	健康スポーツ科学1	1前		2			○								兼10
		健康スポーツ科学2	1後		2			○								兼6
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼11	
	リ メ デ イ ア ル 科 目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2			○								兼4
		基礎からわかる近代史	1前後		2			○			1					
基礎からわかる現代世界		1前後		2			○								兼1	
基礎からわかる数学		1前後		2			○								兼1	
基礎からわかる生物・化学		1後		2			○								兼1	
コンピュータ入門		1前後		2			○								兼3	
小計 (6科目)	—	0	12	0	—		0	1	0	0	0	0	0	兼10		
キ ャ リ ア 科 目	キャリアプランニング	1前後		2			○								兼4	
	キャリアデザイン1	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン2	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン3	2後		2			○								兼1	
	インターンシップ1	1・2・3通		1									○		兼1 集中	
	インターンシップ2	1・2・3通		2									○		兼1 集中	
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1									○		兼1 集中	
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2									○		兼1 集中	
小計 (8科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼8		
教 養 科 目	データサイエンス・AI入門	1前後		2			○								兼2	
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2			○								隔年	
	データリテラシー	2・3・4前後		2			○								隔年	
	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	地球環境論	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	科学と現代	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	数学と論理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	情報処理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	統計学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	経営学1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	経営学2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	地理学1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	地理学2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4後		2			○								兼2	
	法学	1・2・3・4前		2			○								兼2	
	経済学概論1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
経済学概論2	1・2・3・4後		2			○								兼1		
政治学	1・2・3・4前後		2			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合 教育 科目	教養 科目 一般 科目	民法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		民法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		行政法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		行政法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		哲学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		哲学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○					1				兼1		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸能	1・2・3・4前	2		○					1						
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1						○					兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1						○					兼2		
		生涯スポーツ(アウトドアスポーツ)	2・3・4通	1						○					兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きる(オーストラリアコース)	1・2・3・4休	1						○						共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計(53科目)		—	0	99	0	—			2	0	0	0	0	兼39	
		合計(81科目)		—	8	141	0	—			2	1	1	0	0	兼69	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文学部共通科目	大和の文化遺産を学ぶ1	1・2・3・4後		2		○									兼1
	大和の文化遺産を学ぶ2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	大和の文化遺産を学ぶ3	1・2・3・4後		2		○			1						
	大和の文化遺産を学ぶ4	1・2・3・4前		2		○			1						
	大和の文化遺産を学ぶ5	1・2・3・4前		2		○									兼1
	小計(5科目)	—	0	10	0				2	0	0	0	0		兼3
歴史文化学科専攻科目	歴史学概論	1前	2			○			1						
	考古学概論	1前	2			○			1						
	民俗学概論	1前	2			○				1					
	日本史要説	1後		2		○			1						
	東洋史要説	1後		2		○			1						
	西洋史要説	1後		2		○									兼1
	日本考古学要説	1後		2		○			1						
	日本民俗学要説	1後		2		○					1				
	古文書入門	1後		2		○			1						
	美術史	1・2・3前		2		○									兼1
	地誌	1・2・3前		2		○									兼1
	人文地理学概論	1・2前		2		○									兼1
	自然地理学概論	1・2前		2		○									兼1
	政治学概論	2・3・4前		2		○									兼1
	法学概論	2・3・4前		2		○									兼1
	社会学通論1	2・3・4前		2		○									兼1
	社会学通論2	2・3・4後		2		○									兼1
	経済学通論	2・3・4後		2		○									兼1
	博物館資料論	3・4前		2		○			1						
	博物館資料保存論	3・4前		2		○			1						
	社会科指導法1	3前		2		○									兼1
	社会科指導法2	3前		2		○									兼1
	社会・地理歴史科指導法1	3後		2		○									兼1
	社会・地理歴史科指導法2	3後		2		○									兼1
	歴史文化基礎演習	1後	2				○		2						共同
	卒業論文演習	4通	4					○	6	1	1				兼1
	卒業論文	4通	6						2						
小計(27科目)	—	18	42	0				7	1	1	0	0		兼9	
歴史学研究コース科目	歴史学研究入門1	2前		2			○		2						
	歴史学研究入門2	2後		2			○		1	1					
	文化交流史の研究1	2・3・4前		2		○			1						
	文化交流史の研究2	2・3・4後		2		○									兼1
	日本古代史の研究	2・3・4前		2		○									兼1
	日本中世史の研究	2・3・4前		2		○			1						
	日本近世史の研究	2・3・4後		2		○			1						
	日本近代史の研究	2・3・4前		2		○				1					
	東アジア史の研究	2・3・4後		2		○			1		1				
	国際政治史の研究	2・3・4前		2		○									兼1
	古文書学	2・3・4後		2		○			1						
	日本古代史料の講読1	2・3前		2			○								兼1
	日本古代史料の講読2	2・3後		2			○								兼1
	日本中世史料の講読1	2・3前		2			○		1						
	日本中世史料の講読2	2・3後		2			○		1						
	日本近世史料の講読1	2・3前		2			○		1						
	日本近世史料の講読2	2・3後		2			○		1						
	日本近代史料の講読1	2・3前		2			○			1					
	日本近代史料の講読2	2・3後		2			○			1					
東洋近世史料の講読1	2・3前		2			○								隔年	
東洋近世史料の講読2	2・3後		2			○								隔年	
東洋近世史料の講読3	2・3前		2			○		1							
東洋近世史料の講読4	2・3後		2			○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
歴史学 研究 コース 科目	西洋近代史料の講読 1	2・3前		2			○									隔年	
	西洋近代史料の講読 2	2・3後		2			○									隔年	
	西洋近代史料の講読 3	2・3前		2			○								兼1		
	西洋近代史料の講読 4	2・3後		2			○								兼1		
	日本近世史料実習 1	2前		1				○	1								
	日本近世史料実習 2	2後		1				○		1							
	日本近世史料実習 3	3前		1				○		1							
	日本近世史料実習 4	3後		1				○		1							
	日本古代中世史演習 1	3前		2				○	1								
	日本古代中世史演習 2	3後		2				○								隔年	
	日本近世史演習 1	3前		2				○	1								
	日本近世史演習 2	3後		2				○	1								
	日本近代史演習 1	3前		2				○		1							
	日本近代史演習 2	3後		2				○		1							
	東洋近世史演習 1	3前		2				○	1								
	東洋近世史演習 2	3後		2				○	1								
	西洋近代史演習 1	3前		2				○								兼1	
	西洋近代史演習 2	3後		2				○								兼1	
	小計 (41科目)	—		0	78	0		—	3	1	0	0	0			兼5	
	歴史文化 学 科 専 攻 科 目	文化財行政学	2・3前		2			○		1							
民俗学と現代社会		2・3前		2			○				1						
文化遺産の保存と活用		2・3後		2			○		1								
旧石器・縄文時代の考古学		2・3後		2			○									兼1	
弥生時代の考古学		2・3前		2			○		1								
古墳時代の考古学		2・3後		2			○									隔年	
飛鳥・奈良時代の考古学		2・3前		2			○		1								
中近世の考古学		2・3休		2			○									兼1 集中	
生活文化史		2・3前		2			○									兼1	
生と死の民俗学		2・3後		2			○		1							兼1	
民話と伝承		2・3後		2			○									兼1	
宗教民俗学		2・3前		2			○		1								
東アジア考古学		2・3前		2			○		1								
西アジア考古学		2・3前		2			○		1								
文化人類学		2・3休		2			○									隔年	
考古学・民俗学特講 1		2・3後		2			○									兼1	
考古学・民俗学特講 2		2・3後		2			○									兼1	
考古学・民俗学特講 3		2・3後		2			○				1						
考古学・民俗学特講 4		2・3前		2			○		1								
考古学・民俗学特講 5		2・3後		2			○		1								
考古学実習 1		2・3前		1					○	2							共同
考古学実習 2		2・3後		1					○	2							共同
考古学実習 3		2・3休		1					○	2							共同 集中
民俗学実習 1		2・3前		1					○	1		1					共同
民俗学実習 2		2・3後		1					○	1		1					共同
民俗学実習 3		2・3休		1					○	1		1					共同 集中
考古学・民俗学研究入門 1	2前		2					○	1								
考古学・民俗学研究入門 2	2後		2					○	1		1						
考古学・民俗学課題研究 1	3前		2					○	3								
考古学・民俗学課題研究 2	3後		2					○	2		1						
小計 (30科目)	—		0	54	0		—	4	0	1	0	0			兼6		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論2	2後			2	○									兼1	
	日本語語用論	3後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法1	3前			2			○							兼1	
	日本語教授法2	3後			2			○							兼1	
	日本語指導法	4前			2			○							兼1	
	日本語教育評価法	4後			2			○							兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (12科目)	—	0	0	24			—	0	0	0	0	0	0	兼4	
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報サービス演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報資源組織演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論B	4後			2	○										隔年
	博物館展示論	3・4後			2	○				1						
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○				1						
	博物館実習1	3前			2				○	2						共同
	博物館実習2	4通			1				○	1					兼3	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	小計 (23科目)	—	0	0	45			—	2	0	0	0	0	0	兼8	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—	0	0	39	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	
合計（60科目）	—	0	0	112	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼23	
合計（244科目）	—	26	325	112	—	—	—	7	1	1	0	0	0	兼105	
学位又は称号	学士（歴史文化）	学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法					授業期間等										
<b>【歴史学研究コース】</b> 総合教育科目：天理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 文学部共通科目：4単位以上 歴史文化学科専攻科目：必修科目18単位、選択必修科目30単位以上 計48単位以上 文学共通科目、歴史文化学科専攻科目 計70単位以上 総合教育科目、文学部共通科目、歴史文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）					1学年の学期区分		2 期								
					1学期の授業期間		15 週								
					1時限の授業時間		90 分								
<b>【考古学・民俗学研究コース】</b> 総合教育科目：天理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 文学部共通科目：4単位以上 歴史文化学科専攻科目：必修科目18単位、選択必修科目35単位以上 計53単位以上 文学共通科目、歴史文化学科専攻科目 計70単位以上 総合教育科目、文学部共通科目、歴史文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）															

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(国際学部外国語学科英米語専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
天理 教科 目	天理教学A 1	1・2・3・4前		2		○									兼8
	天理教学A 2	1・2・3・4後		2		○									兼8
	天理教学B 1	1・2・3・4前		2		○									兼3
	天理教学B 2	1・2・3・4後		2		○									兼3
	天理教学C 1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	天理教学C 2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0		兼11
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前	2			○									兼3
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0		兼3
基礎 教育 科目	基礎ゼミナール	1前	2							2	1				兼1
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	2	1	0	0		兼1
	健康スポーツ科学1	1前	2			○									兼10
	健康スポーツ科学2	1後	2			○									兼6
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼11
	基礎からわかるレポート作成	1前後	2			○									兼4
	基礎からわかる近代史	1前後	2			○									兼1
	基礎からわかる現代世界	1前後	2			○									兼1
	基礎からわかる数学	1前後	2			○									兼1
	基礎からわかる生物・化学	1後	2			○									兼1
コンピュータ入門	1前後	2			○									兼3	
小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0		兼11	
総合 教育 科目	キャリアアプランニング	1前後	2			○									兼4
	キャリアデザイン1	2前	2			○									兼1
	キャリアデザイン2	2前	2			○									兼1
	キャリアデザイン3	2後	2			○									兼1
	インターンシップ1	1・2・3通	1								○				兼1 集中
	インターンシップ2	1・2・3通	2								○				兼1 集中
	海外インターンシップ1	2・3・4通	1								○				兼1 集中
	海外インターンシップ2	2・3・4通	2								○				兼1 集中
	小計 (8科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0		兼8
教養 科目	データサイエンス・AI入門	1前後	2			○									兼2
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後	2			○									隔年
	データリテラシー	2・3・4前後	2			○									隔年
	生活の中の科学	1・2・3・4前後	2			○									兼1
	地球環境論	1・2・3・4前後	2			○									兼1
	科学と現代	1・2・3・4前後	2			○									兼1
	数学と論理	1・2・3・4前後	2			○									兼1
	情報処理	1・2・3・4前後	2			○									兼1
	統計学	1・2・3・4前後	2			○									兼1
	経営学1	1・2・3・4前	2			○									兼1
	経営学2	1・2・3・4後	2			○									兼1
	地理学1	1・2・3・4前	2			○									兼1
	地理学2	1・2・3・4後	2			○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4後	2			○									兼2
	法学	1・2・3・4前	2			○									兼2
	経済学概論1	1・2・3・4前	2			○									兼1
	経済学概論2	1・2・3・4後	2			○									兼1
	政治学	1・2・3・4前後	2			○									兼1
	民法1	2・3・4前	2			○									兼1
	民法2	2・3・4後	2			○									兼1
行政法1	2・3・4前	2			○									兼1	
行政法2	2・3・4後	2			○									兼1	



科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合 教育 科目	教養 科目 一般 科目	哲学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		哲学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸術	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1						○					兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1						○					兼2		
		生涯スポーツ（アウトドアスポーツ）	2・3・4通	1						○					兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きる（オーストラリアコース）	1・2・3・4休	1						○						共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計（53科目）		—	0	99	0	—			0	0	0	0	0	兼41	
		合計（77科目）		—	4	141	0	—			0	2	1	0	0	兼66	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部 共通科目	日本文化概論	1前後	2			○									兼2
	国際文化論	1前後	2			○									兼3
	世界の英語	1・2・3・4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○				1					
	日本と国際社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	文化人類学概論	2・3・4前後		2		○									兼3
	国際法	2・3・4前後		2		○					1				
	国際政治学	2・3・4前後		2		○									兼1
	国際経済論	3・4前		2		○									兼1
	音声学1	2・3・4前		2		○					1				兼1
	音声学2	2・3・4後		2		○					1				兼1
	英語学概論	2・3・4後		2		○					1				
	社会言語学1	2・3・4前		2		○									兼1
	社会言語学2	2・3・4後		2		○									兼1
	言語学概論1	3・4前		2		○									兼1
	言語学概論2	3・4後		2		○									兼1
	English Grammar A	1・2・3・4前		1			○				1				
	English Grammar B	1・2・3・4後		1			○				1				
	English Reading A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Reading B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	English Writing A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Writing B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	Communicative English (基礎)	1・2・3・4前		1			○								兼1
	Communicative English (発展)	1・2・3・4後		1			○								兼1
	College English Grammar A	1・2・3・4前		1			○				1				
	College English Grammar B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語C1	1・2・3・4前		1			○								兼1
	実践英語D1	1・2・3・4前後		1			○								兼1
	実践英語E1	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語F1	1・2・3・4前		1			○								隔年
	実践英語C2	1・2・3・4前		1			○				1				
	実践英語D2	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語A3	1・2・3・4後		1			○				1				
	実践英語B3	1・2・3・4前		1			○								隔年
	Public Speaking (基礎)	1・2・3・4前		1			○								隔年
	Media English	1・2・3・4後		1			○								隔年
	翻訳	1・2・3・4後		1			○								兼1
	通訳	1・2・3・4後		1			○								隔年
	旅行英語	1・2・3・4前後		1			○				1				
	Public Speaking (発展)	1・2・3・4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3・4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1・2・3・4後		2			○								兼1
	Japanese History	1・2・3・4後		2			○								兼1
	Japanese Religions	1・2・3・4前		2			○				1				
国際協力入門1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
国際協力入門2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
国際ボランティア論1	2・3・4前		2			○								兼1	
国際ボランティア論2	2・3・4後		2			○								兼1	
国際協力実習	1・2・3・4休		2					○						兼1 集中	
国際協力演習1	1・2・3・4前		2				○							兼1	
国際協力演習2	1・2・3・4後		2				○							兼1	
天理異文化伝道	2・3・4前後		2			○								兼2	
観光地理学	2・3・4前後		2			○								兼1	
観光デザイン論	2・3・4前後		2			○								兼1	
観光業界論	2・3・4前後		2			○								兼1	
世界遺産論	2・3・4前後		2			○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
国 際 学 部 共 通 科 目	ホスピタリティー観光研究1	2・3・4前後		2		○									兼1	
	ホスピタリティー観光研究2	2・3・4前後		2		○									兼1	
	国内旅行実務	2・3・4前後		2			○								兼1	
	海外旅行実務	2・3・4前後		2			○								兼1	
	国際スポーツ協力論	2・3・4休		1		○									兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2・3・4休		1				○							兼3	集中
	小計 (63科目)	—		4	95	0		—		2	3	0	0	0	兼29	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
英米語専攻専攻科目	英語A (Reading)	1前	1				○								兼3
	英語A (Usage)	1前	1				○								兼3
	英語A (Listening)	1前	1				○								兼3
	英語A (Presentation)	1前	1				○				1				兼2
	英語A (Vocabulary Building)	1前	1				○		1		1				兼1
	英語B (Reading)	1後	1				○								兼2
	英語B (Usage)	1後	1				○		1						兼2
	英語B (Listening)	1後	1				○				1				兼1
	英語B (Speaking)	1後	1				○			2					兼1
	英語B (Presentation)	1後	1				○		1	1	1				
	英語C (Reading)	2前	1				○								兼3
	英語C (Usage)	2前	1				○		1						兼2
	英語C (Writing)	2前	1				○			1					兼2
	英語C (Listening)	2前	1				○			2					兼1
	英語C (Speaking)	2前	1				○				1				兼1
	英語D (Reading)	2後	1				○				1				兼2
	英語D (Usage)	2後	1				○		1						兼2
	英語D (Writing)	2後	1				○								兼2
	英語D (Listening)	2後	1				○			1					兼2
	英語D (Speaking)	2後	1				○			1					兼1
	英語E (Reading)	3前	1				○			1					兼2
	英語E (Rapid Reading)	3前	1				○			2					兼1
	英語E (Writing)	3前	1				○			1					兼2
	英語E (Speaking)	3前	1				○								兼2
	英語E (Presentation)	3前	1				○								兼2
	英語F (Rapid Reading)	3後	1				○								兼2
	英語F (Journalism English)	3後	1				○			1					兼1
	英語F (Writing)	3後	1				○			1					兼1
	英語F (Presentation)	3後	1				○		1						兼1
	英語F (Content Based English)	3後	1				○				1				兼1
	英語G (Content Based English 1)	4前	1				○			2					兼1
	英語G (Content Based English 2)	4前	1				○			2					兼1
	英語H (Content Based English 1)	4後	1				○		1	1					兼1
	英語H (Content Based English 2)	4後	1				○								兼2
	英米文学概論	2・3・4前		2			○								兼1
	英文ジャーナリズム事情	2・3・4休			2		○								隔年
	英米政治経済論	2・3・4前		2			○								隔年
	伝道英語1	2・3・4前		1				○		1					
	伝道英語2	2・3・4後		1				○		1					
	論文作成法	3・4後		2				○			1				
	英語科指導法1	3前		2			○			1					
	英語科指導法2	3後		2			○			1					
英語科指導法3	3前		2			○				1					
英語科指導法4	3後		2			○				1					
英米語入門 (英語学)	2・3・4前後		2			○				1				兼1	
英米語入門 (英米史)	2・3・4後		2			○				1					
英米語入門 (英米社会)	2・3・4前後		2			○		1	1						
英米語入門 (英米文学)	2・3・4後		2			○								兼1	
英米語入門 (英語教育)	2・3・4前後		2			○		1	1						
英米語演習1	3前		2				○		2	2					
英米語演習2	3後		2				○		2	2					
英米語演習3	4前		2				○		1	2				兼2	
英米語演習4	4後		2				○		1	2				兼2	
英米語海外語学実習	2・3・4休		4					○	1	1				集中	
卒業課題研究	4通			2					1						
卒業論文	4通			4					1						
小計 (56科目)		—	42	38	0		—		3	4	1	0	0	兼15	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論2	2後			2	○									兼1	
	日本語語用論	3後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法1	3前			2		○								兼1	
	日本語教授法2	3後			2		○								兼1	
	日本語指導法	4前			2		○								兼1	
	日本語教育評価法	4後			2		○								兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (12科目)	—	0	0	24			—	0	0	0	0	0	0	兼4	
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習1	3・4後			2		○								兼1	
	情報サービス演習2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習1	3・4後			2		○								兼1	
	情報資源組織演習2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論B	4後			2	○										隔年
	博物館展示論	3・4後			2	○									兼1	
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○									兼1	
	博物館実習1	3前			2			○							兼2	共同
	博物館実習2	4通			1			○							兼4	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	小計 (23科目)	—	0	0	45			—	0	0	0	0	0	0	兼10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—	0	0	39	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	
合計（60科目）	—	0	0	112	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼26	
合計（256科目）	—	50	274	112	—	—	—	3	4	1	0	0	0	兼118	
学位又は称号	学士（英語）	学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法					授業期間等										
総合教育科目：文理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目6単位以上、教養科目6単位以上 計18単位以上 国際学部共通科目：必修科目4単位、計8単位以上 英米語専攻専攻科目：必修科目46単位、選択必修科目8単位以上 計54単位以上 国際学部共通科目、英米語専攻専攻科目 計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、英米語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）					1学年の学期区分					2 期					
					1学期の授業期間					15 週					
					1時限の授業時間					90 分					

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(国際学部外国語学科中国語専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
天理 教科 目	天理教学A 1	1・2・3・4前		2		○									兼8	
	天理教学A 2	1・2・3・4後		2		○									兼8	
	天理教学B 1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
	天理教学B 2	1・2・3・4後		2		○									兼3	
	天理教学C 1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	天理教学C 2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前	2			○									兼3	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	
基礎 教育 科目	基礎ゼミナール	1前	2							1					兼1	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	1	0	0	0	0	兼1	
	英語	英語A 1	1前	1				○			1					兼2
		英語A 2	1後	1				○			1					兼2
		英語B 1	1前	1				○		1						兼2
		英語B 2	1後	1				○		1						兼2
		小計 (4科目)	—	4	0	0	—			1	1	0	0	0	0	兼3
	健康 スポーツ	健康スポーツ科学1	1前		2			○								兼10
		健康スポーツ科学2	1後		2			○								兼6
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	
	リ メ デ イ ア ル 科 目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2			○								兼4
		基礎からわかる近代史	1前後		2			○								兼1
		基礎からわかる現代世界	1前後		2			○								兼1
		基礎からわかる数学	1前後		2			○								兼1
基礎からわかる生物・化学		1後		2			○								兼1	
コンピュータ入門		1前後		2			○								兼3	
小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11		
キ ャ リ ア 科 目	キャリアプランニング	1前後		2			○								兼4	
	キャリアデザイン1	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン2	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン3	2後		2			○								兼1	
	インターンシップ1	1・2・3通		1							○				兼1 集中	
	インターンシップ2	1・2・3通		2							○				兼1 集中	
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1							○				兼1 集中	
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2							○				兼1 集中	
小計 (8科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8		
教 養 科 目	データサイエンス・AI入門	1前後		2			○								兼2	
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2			○								隔年	
	データリテラシー	2・3・4前後		2			○								隔年	
	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	地球環境論	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	科学と現代	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	数学と論理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	情報処理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	統計学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	経営学1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	経営学2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	地理学1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	地理学2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4後		2			○								兼2	
	法学	1・2・3・4前		2			○								兼2	
	経済学概論1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	経済学概論2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
政治学	1・2・3・4前後		2			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合 教育 科目	教養 科目 一般 科目	民法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		民法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		行政法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		行政法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		哲学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		哲学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸能	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1						○					兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1						○					兼2		
		生涯スポーツ(アウトドラスポーツ)	2・3・4通	1						○					兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きる(オーストラリアコース)	1・2・3・4休	1						○						共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計(53科目)		—	0	99	0	—			0	0	0	0	0	兼41	
		合計(81科目)		—	8	141	0	—			1	2	0	0	0	兼68	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部 共通科目	日本文化概論	1前後	2			○									兼2
	国際文化論	1前後	2			○									兼3
	世界の英語	1・2・3・4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○				1					
	日本と国際社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	文化人類学概論	2・3・4前後		2		○									兼3
	国際法	2・3・4前後		2		○					1				
	国際政治学	2・3・4前後		2		○									兼1
	国際経済論	3・4前		2		○									兼1
	音声学1	2・3・4前		2		○					1				兼1
	音声学2	2・3・4後		2		○					1				兼1
	英語学概論	2・3・4後		2		○					1				
	社会言語学1	2・3・4前		2		○									兼1
	社会言語学2	2・3・4後		2		○									兼1
	言語学概論1	3・4前		2		○									兼1
	言語学概論2	3・4後		2		○									兼1
	English Grammar A	1・2・3・4前		1			○				1				
	English Grammar B	1・2・3・4後		1			○				1				
	English Reading A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Reading B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	English Writing A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Writing B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	Communicative English (基礎)	1・2・3・4前		1			○								兼1
	Communicative English (発展)	1・2・3・4後		1			○								兼1
	College English Grammar A	1・2・3・4前		1			○				1				
	College English Grammar B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語C1	1・2・3・4前		1			○								兼1
	実践英語D1	1・2・3・4前後		1			○								兼1
	実践英語E1	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語F1	1・2・3・4前		1			○								隔年
	実践英語C2	1・2・3・4前		1			○				1				
	実践英語D2	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語A3	1・2・3・4後		1			○				1				
	実践英語B3	1・2・3・4前		1			○								隔年
	Public Speaking (基礎)	1・2・3・4前		1			○								隔年
	Media English	1・2・3・4後		1			○								隔年
	翻訳	1・2・3・4後		1			○								兼1
	通訳	1・2・3・4後		1			○								隔年
	旅行英語	1・2・3・4前後		1			○				1				
	Public Speaking (発展)	1・2・3・4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3・4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1・2・3・4後		2			○								兼1
	Japanese History	1・2・3・4後		2			○								兼1
	Japanese Religions	1・2・3・4前		2			○				1				
Introduction to Japanese Philosophy	1・2・3・4後		1				○				1				
Introduction to Understanding Social Issues	1・2・3・4後		1				○							兼1	
Introduction to the Study of Religion	1・2・3・4後		1				○			1					
Peace and Security Studies	1・2・3・4前		1				○				1				
World History : Golden Age/Dark Age	1・2・3・4前		1				○				1				
国際協力入門1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
国際協力入門2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
国際ボランティア論1	2・3・4前		2			○								兼1	
国際ボランティア論2	2・3・4後		2			○								兼1	
国際協力実習	1・2・3・4休		2					○						兼1 集中	
国際協力演習1	1・2・3・4前		2				○							兼1	
国際協力演習2	1・2・3・4後		2				○							兼1	
天理異文化伝道	2・3・4前後		2			○				1				兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際学部 共通科目	観光地理学	2・3・4前後		2		○									兼1	
	観光デザイン論	2・3・4前後		2		○									兼1	
	観光業界論	2・3・4前後		2		○									兼1	
	世界遺産論	2・3・4前後		2		○									兼1	
	ホスピタリティー観光研究1	2・3・4前後		2		○									兼1	
	ホスピタリティー観光研究2	2・3・4前後		2		○									兼1	
	国内旅行実務	2・3・4前後		2			○								兼1	
	海外旅行実務	2・3・4前後		2				○							兼1	
	国際スポーツ協力論	2・3・4休		1		○									兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2・3・4休		1				○							兼3	集中
小計 (68科目)	—		4	100	0		—		2	4	1	0	0	兼29		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
中国語専攻専攻科目	中国語A(文法)	1前	2				○			1						
	中国語A(発音)	1前	2				○		1							
	中国語A(リスニング)	1前	2				○		1							
	中国語B(文法)	1後	2				○			1						
	中国語B(発音)	1後	2				○		1							
	中国語B(リスニング)	1後	2				○		1							
	中国語C(文法)	2前	2				○		1							
	中国語C(会話)	2前	2				○									兼1
	中国語D(読解)	2後	2				○			1						
	中国語D(会話)	2後	2				○									兼1
	中国語E(通訳)	3前	2				○									兼1
	中国語E(読解)	3前	2				○		1							
	中国語F(通訳)	3後	2				○									兼1
	中国語F(読解)	3後	2				○		1							
	伝道中国語1	2前		1			○									兼1
	伝道中国語2	2後		1			○									兼1
	広東語A	2前		1			○									兼1
	広東語B	2後		1			○									兼1
	台湾語A	2前		1			○									兼1
	台湾語B	2後		1			○									兼1
	ビジネス中国語	3前		1			○									兼1
	ネイティブ中国語1	3前		1			○									兼1
	ネイティブ中国語2	3後		1			○		1							
	実践中国語A	2前		1			○			1						
	実践中国語B	2後		1			○		1							
	スピーチ中国語A	2前		1			○		1							
	スピーチ中国語B	2後		1			○		1							
	中国語学概論1	2前		2			○									兼1
	中国語学概論2	2後		2			○									兼1
	中国文学概論1	2前		2			○									兼1
	中国文学概論2	2後		2			○									兼1
	中国史1	2前		2			○									兼1
	中国史2	2後		2			○									兼1
	中国文化史1	2前		2			○									兼1
	中国文化史2	2後		2			○									兼1
	台湾社会文化論1	2前		2			○									兼1
	台湾社会文化論2	2後		2			○									兼1
	近現代中国と国際政治1	2前		2			○			1						
	近現代中国と国際政治2	2後		2			○			1						
	中国語科指導法1	3前		2			○		1							
	中国語科指導法2	3後		2			○		1							
	中国語演習1	3前	2					○	1							
	中国語演習2	3後	2					○	1							
	中国語演習3	4前	2					○	2	1						
	中国語演習4	4後	2					○	2	1						
	中国語海外語学実習	2・3・4休	4						1	1						集中
	卒業課題研究	4通		2					1							
	卒業論文	4通		4					1							
小計(48科目)	—		40	47	0		—	3	1	0	0	0			兼9	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論2	2後			2	○									兼1	
	日本語語用論	3後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法1	3前			2			○							兼1	
	日本語教授法2	3後			2			○							兼1	
	日本語指導法	4前			2			○							兼1	
	日本語教育評価法	4後			2			○							兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (12科目)	—	0	0	24			—	0	0	0	0	0	0	兼4	
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報サービス演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報資源組織演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論B	4後			2	○										隔年
	博物館展示論	3・4後			2	○									兼1	
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○									兼1	
	博物館実習1	3前			2			○							兼2	共同
	博物館実習2	4通			1			○							兼4	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	小計 (23科目)	—	0	0	45			—	0	0	0	0	0	0	兼10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—	0	0	39	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	
合計（60科目）	—	0	0	112	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼26	
合計（257科目）	—	52	288	112	—	—	—	5	5	1	0	0	0	兼120	
学位又は称号	学士（中国語）	学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法					授業期間等										
総合教育科目：文理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目4単位、計8単位以上 中国語専攻専攻科目：必修科目40単位、選択必修科目16単位以上 計56単位以上 国際学部共通科目、中国語専攻専攻科目 計72単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、中国語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）					1学年の学期区分					2 期					
					1学期の授業期間					15 週					
					1時限の授業時間					90 分					

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(国際学部外国語学科韓国・朝鮮語専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
天理 教科 目	天理教学A 1	1・2・3・4前		2			○								兼8	
	天理教学A 2	1・2・3・4後		2			○								兼8	
	天理教学B 1	1・2・3・4前		2			○								兼3	
	天理教学B 2	1・2・3・4後		2			○								兼3	
	天理教学C 1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	天理教学C 2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	小計 (6科目)	—		0	12	0		—		0	0	0	0	0	0	兼11
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前		2			○								兼3	
	小計 (1科目)	—		2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼3	
基礎 教育 科目	基礎ゼミナール	1前		2							1				兼1	
	小計 (1科目)	—		2	0	0		—		0	1	0	0	0	兼1	
	英語	英語A 1	1前		1				○			1				兼2
		英語A 2	1後		1				○			1				兼2
		英語B 1	1前		1				○		1					兼2
		英語B 2	1後		1				○		1					兼2
		小計 (4科目)	—		4	0	0		—		1	1	0	0	0	兼3
	健康 スポ ーツ	健康スポーツ科学1	1前		2			○								兼10
		健康スポーツ科学2	1後		2			○								兼6
	小計 (2科目)	—		0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼11	
	リ メ デ イ ア ル 科 目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2			○								兼4
		基礎からわかる近代史	1前後		2			○								兼1
基礎からわかる現代世界		1前後		2			○								兼1	
基礎からわかる数学		1前後		2			○								兼1	
基礎からわかる生物・化学		1後		2			○								兼1	
コンピュータ入門		1前後		2			○								兼3	
小計 (6科目)	—		0	12	0		—		0	0	0	0	0	兼11		
キ ャ リ ア 科 目	キャリアプランニング	1前後		2			○								兼4	
	キャリアデザイン1	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン2	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン3	2後		2			○								兼1	
	インターンシップ1	1・2・3通		1							○				兼1 集中	
	インターンシップ2	1・2・3通		2							○				兼1 集中	
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1							○				兼1 集中	
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2							○				兼1 集中	
小計 (8科目)	—		0	14	0		—		0	0	0	0	0	兼8		
教 養 科 目	データサイエンス・AI入門	1前後		2			○								兼2	
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2			○								隔年	
	データリテラシー	2・3・4前後		2			○								隔年	
	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	地球環境論	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	科学と現代	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	数学と論理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	情報処理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	統計学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	経営学1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	経営学2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	地理学1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	地理学2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4後		2			○								兼2	
	法学	1・2・3・4前		2			○								兼2	
	経済学概論1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	経済学概論2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
政治学	1・2・3・4前後		2			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合 教育 科目	教養 科目 一般 科目	民法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		民法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		行政法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		行政法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		哲学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		哲学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸能	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1						○					兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1						○					兼2		
		生涯スポーツ(アウトドアスポーツ)	2・3・4通	1						○					兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きる(オーストラリアコース)	1・2・3・4休	1						○						共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計(53科目)		—	0	99	0	—			0	0	0	0	0	兼41	
		合計(81科目)		—	8	141	0	—			1	2	0	0	0	兼68	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部 共通科目	日本文化概論	1前後	2			○									兼2
	国際文化論	1前後	2			○									兼3
	世界の英語	1・2・3・4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○				1					
	日本と国際社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	文化人類学概論	2・3・4前後		2		○									兼3
	国際法	2・3・4前後		2		○				1					
	国際政治学	2・3・4前後		2		○									兼1
	国際経済論	3・4前		2		○									兼1
	音声学1	2・3・4前		2		○				1					兼1
	音声学2	2・3・4後		2		○				1					兼1
	英語学概論	2・3・4後		2		○				1					
	社会言語学1	2・3・4前		2		○									兼1
	社会言語学2	2・3・4後		2		○									兼1
	言語学概論1	3・4前		2		○									兼1
	言語学概論2	3・4後		2		○									兼1
	English Grammar A	1・2・3・4前		1			○			1					
	English Grammar B	1・2・3・4後		1			○			1					
	English Reading A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Reading B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	English Writing A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Writing B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	Communicative English (基礎)	1・2・3・4前		1			○								兼1
	Communicative English (発展)	1・2・3・4後		1			○								兼1
	College English Grammar A	1・2・3・4前		1			○				1				
	College English Grammar B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語C1	1・2・3・4前		1			○								兼1
	実践英語D1	1・2・3・4前後		1			○								兼1
	実践英語E1	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語F1	1・2・3・4前		1			○								隔年
	実践英語C2	1・2・3・4前		1			○			1					
	実践英語D2	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語A3	1・2・3・4後		1			○				1				
	実践英語B3	1・2・3・4前		1			○								隔年
	Public Speaking (基礎)	1・2・3・4前		1			○								隔年
	Media English	1・2・3・4後		1			○								隔年
	翻訳	1・2・3・4後		1			○								兼1
	通訳	1・2・3・4後		1			○								隔年
	旅行英語	1・2・3・4前後		1			○			1					
	Public Speaking (発展)	1・2・3・4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3・4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1・2・3・4後		2			○								兼1
	Japanese History	1・2・3・4後		2			○								兼1
	Japanese Religions	1・2・3・4前		2			○			1					
Introduction to Japanese Philosophy	1・2・3・4後		1				○				1				
Introduction to Understanding Social Issues	1・2・3・4後		1				○							兼1	
Introduction to the Study of Religion	1・2・3・4後		1				○		1						
Peace and Security Studies	1・2・3・4前		1				○			1					
World History : Golden Age/Dark Age	1・2・3・4前		1				○			1					
国際協力入門1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
国際協力入門2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
国際ボランティア論1	2・3・4前		2			○								兼1	
国際ボランティア論2	2・3・4後		2			○								兼1	
国際協力実習	1・2・3・4休		2					○						兼1 集中	
国際協力演習1	1・2・3・4前		2				○							兼1	
国際協力演習2	1・2・3・4後		2				○							兼1	
天理異文化伝道	2・3・4前後		2			○								兼2	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際学部 共通科目	観光地理学	2・3・4前後		2		○									兼1	
	観光デザイン論	2・3・4前後		2		○									兼1	
	観光業界論	2・3・4前後		2		○									兼1	
	世界遺産論	2・3・4前後		2		○									兼1	
	ホスピタリティー観光研究1	2・3・4前後		2		○									兼1	
	ホスピタリティー観光研究2	2・3・4前後		2		○									兼1	
	国内旅行実務	2・3・4前後		2			○								兼1	
	海外旅行実務	2・3・4前後		2			○								兼1	
	国際スポーツ協力論	2・3・4休		1		○									兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2・3・4休		1				○							兼3	集中
小計 (68科目)	—		4	100	0		—		2	4	1	0	0	兼29		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
韓国・朝鮮語専攻専攻科目	韓国・朝鮮語A(文法)	1前	3				○		1	1						
	韓国・朝鮮語A(会話)	1前	2				○		2							兼2
	韓国・朝鮮語A(発音)	1前	1				○									兼2
	韓国・朝鮮語B(文法)	1後	3				○		1	1						
	韓国・朝鮮語B(会話)	1後	2				○		2							兼1
	韓国・朝鮮語B(講読)	1後	1				○		1							
	韓国・朝鮮語C(文法)	2前	1				○			1						
	韓国・朝鮮語C(会話)	2前	1				○		1							兼1
	韓国・朝鮮語C(講読)	2前	1				○		1							
	韓国・朝鮮語C(作文)	2前	1				○		1							
	韓国・朝鮮語D(文法)	2後	1				○			1						
	韓国・朝鮮語D(会話)	2後	1				○		1							兼1
	韓国・朝鮮語D(講読)	2後	1				○		1							
	韓国・朝鮮語D(作文)	2後	1				○		1							
	韓国・朝鮮語E(会話)	3前	1				○			1						兼1
	韓国・朝鮮語E(講読)	3前	1				○		1							
	韓国・朝鮮語E(作文)	3前	1				○		1							
	韓国・朝鮮語E(表現)	3前	1				○									兼2
	韓国・朝鮮語F(会話)	3後	1				○									兼2
	韓国・朝鮮語F(講読)	3後	1				○		1							
	韓国・朝鮮語F(作文)	3後	1				○									兼1
	韓国・朝鮮語F(表現)	3後	1				○									兼2
	実践韓国・朝鮮語A	2・3・4前			1			○								兼1
	実践韓国・朝鮮語B	2・3・4後			1			○								兼1
	映像で学ぶ韓国・朝鮮語	2・3・4前			1			○								兼1
	韓国・朝鮮語古典講読	2・3・4後			1			○	1							
	通訳翻訳韓国・朝鮮語A	3・4前			1			○	1							
	通訳翻訳韓国・朝鮮語B	3・4後			1			○	1							
	応用韓国・朝鮮語A	3・4前			1			○								兼1
	応用韓国・朝鮮語B	3・4後			1			○								兼1
	伝道韓国・朝鮮語1	3・4前			1			○								兼1
	伝道韓国・朝鮮語2	3・4後			1			○								兼1
	韓国・朝鮮語学概論1	2・3・4前			2			○	1							
	韓国・朝鮮語学概論2	2・3・4後			2			○		1						
	韓国・朝鮮文学概論1	2・3・4前			2			○	1							
	韓国・朝鮮文学概論2	2・3・4後			2			○	1							
	韓国・朝鮮史1	2・3・4前			2			○	1							
	韓国・朝鮮史2	2・3・4後			2			○	1							
	韓国・朝鮮社会文化論1	2・3・4前			2			○								兼1
	韓国・朝鮮社会文化論2	2・3・4後			2			○								兼1
	韓国・朝鮮文化交流史1	2・3・4前			2			○	1							
	韓国・朝鮮文化交流史2	2・3・4後			2			○	1							
	韓国・朝鮮事情1	3・4前			2			○								兼1
	韓国・朝鮮事情2	3・4後			2			○								兼1
	韓国・朝鮮語科指導法1	3前			2			○		1						
	韓国・朝鮮語科指導法2	3後			2			○	1							
	韓国・朝鮮入門	1前		2				○	1							
	韓国・朝鮮語演習1	3前		2				○	2	1						
	韓国・朝鮮語演習2	3後		2				○	2	1						
	韓国・朝鮮語演習3	4前		2				○	3							
	韓国・朝鮮語演習4	4後		2				○	3							
	韓国・朝鮮語海外語学実習	2・3・4休		4				○	2							集中
	卒業課題研究	4通			2				1							
	卒業論文	4通			4				1							
小計(54科目)	—		42	44	0		—	3	1	0	0	0			兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論2	2後			2	○									兼1	
	日本語語用論	3後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法1	3前			2			○							兼1	
	日本語教授法2	3後			2			○							兼1	
	日本語指導法	4前			2			○							兼1	
	日本語教育評価法	4後			2			○							兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (12科目)	—	0	0	24			—	0	0	0	0	0	0	兼4	
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報サービス演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報資源組織演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論B	4後			2	○										隔年
	博物館展示論	3・4後			2	○									兼1	
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○									兼1	
	博物館実習1	3前			2				○						兼2	共同
	博物館実習2	4通			1				○						兼4	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	小計 (23科目)	—	0	0	45			—	0	0	0	0	0	0	兼10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—		0	0	39		—		0	0	0	0	0	0	兼11
合計（60科目）	—		0	0	112		—		0	0	0	0	0	0	兼26
合計（263科目）	—		54	285	112		—		5	5	1	0	0	0	兼117
学位又は称号	学士（韓国・朝鮮語）		学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
総合教育科目：文理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目4単位、計8単位以上 韓国・朝鮮語専攻専攻科目：必修科目42単位、選択必修科目10単位以上 計52単位以上 国際学部共通科目、韓国・朝鮮語専攻専攻科目 計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、韓国・朝鮮語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）						1学年の学期区分			2 期						
						1学期の授業期間			15 週						
						1時限の授業時間			90 分						

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(国際学部外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
天理 教科 目	天理教学A 1	1・2・3・4前		2			○								兼8	
	天理教学A 2	1・2・3・4後		2			○								兼8	
	天理教学B 1	1・2・3・4前		2			○								兼3	
	天理教学B 2	1・2・3・4後		2			○								兼3	
	天理教学C 1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	天理教学C 2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	小計 (6科目)	—		0	12	0		—		0	0	0	0	0	0	兼11
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前		2			○								兼3	
	小計 (1科目)	—		2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼3	
基礎 教育 科目	基礎ゼミナール	1前		2							1				兼1	
	小計 (1科目)	—		2	0	0		—		0	1	0	0	0	兼1	
	英語	英語A 1	1前		1				○			1				兼2
		英語A 2	1後		1				○			1				兼2
		英語B 1	1前		1				○		1					兼2
		英語B 2	1後		1				○		1					兼2
		小計 (4科目)	—		4	0	0		—		1	1	0	0	0	兼3
	健康 スポーツ	健康スポーツ科学1	1前		2			○								兼10
		健康スポーツ科学2	1後		2			○								兼6
		小計 (2科目)	—		0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼11
	リ メ デ イ ア ル 科 目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2			○								兼4
基礎からわかる近代史		1前後		2			○								兼1	
基礎からわかる現代世界		1前後		2			○								兼1	
基礎からわかる数学		1前後		2			○								兼1	
基礎からわかる生物・化学		1後		2			○								兼1	
コンピュータ入門		1前後		2			○								兼3	
小計 (6科目)	—		0	12	0		—		0	0	0	0	0	兼11		
キ ャ リ ア 科 目	キャリアプランニング	1前後		2			○								兼4	
	キャリアデザイン1	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン2	2前		2			○								兼1	
	キャリアデザイン3	2後		2			○								兼1	
	インターンシップ1	1・2・3通		1							○				兼1 集中	
	インターンシップ2	1・2・3通		2							○				兼1 集中	
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1							○				兼1 集中	
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2							○				兼1 集中	
小計 (8科目)	—		0	14	0		—		0	0	0	0	0	兼8		
教 養 科 目	データサイエンス・AI入門	1前後		2			○								兼2	
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2			○								隔年	
	データリテラシー	2・3・4前後		2			○								隔年	
	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	地球環境論	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	科学と現代	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	数学と論理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	情報処理	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	統計学	1・2・3・4前後		2			○								兼1	
	経営学1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	経営学2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	地理学1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	地理学2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4後		2			○								兼2	
	法学	1・2・3・4前		2			○								兼2	
	経済学概論1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	経済学概論2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
政治学	1・2・3・4前後		2			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合 教育 科目	教養 科目 一般 科目	民法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		民法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		行政法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		行政法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		哲学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		哲学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸能	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1						○					兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1						○					兼2		
		生涯スポーツ(アウトドアスポーツ)	2・3・4通	1						○					兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きる(オーストラリアコース)	1・2・3・4休	1						○						共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計(53科目)		—	0	99	0	—			0	0	0	0	0	兼41	
		合計(81科目)		—	8	141	0	—			1	2	0	0	0	兼68	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部 共通科目	日本文化概論	1前後	2			○									兼2
	国際文化論	1前後	2			○									兼3
	世界の英語	1・2・3・4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○				1					
	日本と国際社会	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	文化人類学概論	2・3・4前後		2		○									兼3
	国際法	2・3・4前後		2		○				1					
	国際政治学	2・3・4前後		2		○									兼1
	国際経済論	3・4前		2		○									兼1
	音声学1	2・3・4前		2		○				1					兼1
	音声学2	2・3・4後		2		○				1					兼1
	英語学概論	2・3・4後		2		○				1					
	社会言語学1	2・3・4前		2		○									兼1
	社会言語学2	2・3・4後		2		○									兼1
	言語学概論1	3・4前		2		○									兼1
	言語学概論2	3・4後		2		○									兼1
	English Grammar A	1・2・3・4前		1			○			1					
	English Grammar B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	English Reading A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Reading B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	English Writing A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Writing B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	Communicative English (基礎)	1・2・3・4前		1			○								兼1
	Communicative English (発展)	1・2・3・4後		1			○								兼1
	College English Grammar A	1・2・3・4前		1			○				1				
	College English Grammar B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語C1	1・2・3・4前		1			○								兼1
	実践英語D1	1・2・3・4前後		1			○								兼1
	実践英語E1	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語F1	1・2・3・4前		1			○								隔年
	実践英語C2	1・2・3・4前		1			○			1					
	実践英語D2	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語A3	1・2・3・4後		1			○				1				
	実践英語B3	1・2・3・4前		1			○								隔年
	Public Speaking (基礎)	1・2・3・4前		1			○								隔年
	Media English	1・2・3・4後		1			○								隔年
	翻訳	1・2・3・4後		1			○								兼1
	通訳	1・2・3・4後		1			○								隔年
	旅行英語	1・2・3・4前後		1			○			1					
	Public Speaking (発展)	1・2・3・4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3・4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1・2・3・4後		2			○								兼1
	Japanese History	1・2・3・4後		2			○								兼1
	Japanese Religions	1・2・3・4前		2			○			1					
	Introduction to Japanese Philosophy	1・2・3・4後		1				○				1			
	Introduction to Understanding Social Issues	1・2・3・4後		1				○							兼1
Introduction to the Study of Religion	1・2・3・4後		1				○		1						
Peace and Security Studies	1・2・3・4前		1				○			1					
World History : Golden Age/Dark Age	1・2・3・4前		1				○			1					
国際協力入門1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
国際協力入門2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
国際ボランティア論1	2・3・4前		2			○								兼1	
国際ボランティア論2	2・3・4後		2			○								兼1	
国際協力実習	1・2・3・4休		2					○						兼1 集中	
国際協力演習1	1・2・3・4前		2				○							兼1	
国際協力演習2	1・2・3・4後		2				○							兼1	
天理異文化伝道	2・3・4前後		2			○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際学部 共通科目	観光地理学	2・3・4前後		2		○									兼1	
	観光デザイン論	2・3・4前後		2		○									兼1	
	観光業界論	2・3・4前後		2		○									兼1	
	世界遺産論	2・3・4前後		2		○									兼1	
	ホスピタリティー観光研究1	2・3・4前後		2		○									兼1	
	ホスピタリティー観光研究2	2・3・4前後		2		○									兼1	
	国内旅行実務	2・3・4前後		2			○								兼1	
	海外旅行実務	2・3・4前後		2			○								兼1	
	国際スポーツ協力論	2・3・4休		1		○									兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2・3・4休		1				○							兼3	集中
小計 (68科目)	—		4	100	0		—		2	4	1	0	0	兼29		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻科目	スペイン語A (文法)	1前		2			○		1						兼1
	スペイン語A (会話)	1前		2			○			1					兼1
	スペイン語A (視聴覚)	1前		2			○								兼2
	スペイン語B (文法)	1後		2			○		1						兼1
	スペイン語B (会話)	1後		2			○			1					兼1
	スペイン語B (視聴覚)	1後		2			○								兼2
	スペイン語C (文法)	2前		1			○								兼1
	スペイン語C (会話)	2前		1			○								兼1
	スペイン語C (視聴覚)	2前		1			○				1				
	スペイン語C (表現)	2前		1			○								兼1
	スペイン語D (文法)	2後		1			○								兼1
	スペイン語D (会話)	2後		1			○								兼1
	スペイン語D (視聴覚)	2後		1			○				1				
	スペイン語D (表現)	2後		1			○								兼1
	スペイン語E (文法)	3前		1			○			1					
	スペイン語E (会話)	3前		1			○								兼1
	スペイン語E (視聴覚)	3前		1			○								兼1
	スペイン語E (表現)	3前		1			○								兼1
	スペイン語F (文法)	3後		1			○			1					
	スペイン語F (会話)	3後		1			○								兼1
	スペイン語F (視聴覚)	3後		1			○								兼1
	スペイン語F (表現)	3後		1			○								兼1
	ブラジルポルトガル語A (文法)	1前		2				○		1					
	ブラジルポルトガル語A (会話)	1前		2				○		1					
	ブラジルポルトガル語A (視聴覚)	1前		2				○		1					兼1
	ブラジルポルトガル語B (文法)	1後		2				○		1					
	ブラジルポルトガル語B (会話)	1後		2				○		1					
	ブラジルポルトガル語B (視聴覚)	1後		2				○		1					兼1
	ブラジルポルトガル語C (文法)	2前		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語C (会話)	2前		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語C (視聴覚)	2前		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語C (講読)	2前		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語D (文法)	2後		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語D (会話)	2後		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語D (視聴覚)	2後		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語D (講読)	2後		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語E (文法)	3前		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語E (会話)	3前		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語E (視聴覚)	3前		1				○							兼1
	ブラジルポルトガル語E (講読)	3前		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語F (文法)	3後		1				○		1					
	ブラジルポルトガル語F (会話)	3後		1				○		1					
ブラジルポルトガル語F (視聴覚)	3後		1				○							兼1	
ブラジルポルトガル語F (講読)	3後		1				○		1						
実践スペイン語	2・3・4後		1				○							兼1	
伝道スペイン語1	2・3・4前		1				○							兼1	
伝道スペイン語2	2・3・4後		1				○		1						
翻訳・通訳スペイン語1	3・4前		1				○							兼1	
翻訳・通訳スペイン語2	3・4後		1				○		1						
スペイン語応用会話	3・4後		1				○			1					
総合スペイン語	3・4後		1				○							兼1	
実践ブラジルポルトガル語	2・3・4前		1				○							兼1	
伝道ブラジルポルトガル語1	2・3・4前		1				○							兼1	
伝道ブラジルポルトガル語2	2・3・4後		1				○							兼1	
翻訳・通訳ブラジルポルトガル語1	3・4前		1				○		1						
翻訳・通訳ブラジルポルトガル語2	3・4後		1				○		1						
ブラジルポルトガル語応用会話	3・4前		1				○		1						
総合ブラジルポルトガル語	3・4後		1				○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目	イペロアメリカ語学概論1	2・3・4前		2		○				1						
	イペロアメリカ語学概論2	2・3・4前		2		○									兼1	
	イペロアメリカ文学概論1	2・3・4前		2		○									兼1	
	イペロアメリカ文学概論2	2・3・4後		2		○									兼1	
	イペロアメリカ社会文化概論1	2・3・4後		2		○				1						
	イペロアメリカ社会文化概論2	2・3・4後		2		○				1						
	スペイン語圏史	2・3・4前		2		○				1						
	ポルトガル語圏史	2・3・4前		2		○				1						
	スペイン語圏入門	1前	2			○				1						
	ブラジルポルトガル語圏入門	1前	2			○				1						
	イペロアメリカ演習1	3前	2				○			1	1					
	イペロアメリカ演習2	3後	2					○		1	1					
	イペロアメリカ演習3	4前	2					○		2	1					
	イペロアメリカ演習4	4後	2					○		2	1					
	イペロアメリカ海外語学実習	2・3休		4					○	1	1					集中
	卒業課題研究	4通		2						1						
	卒業論文	4通		4						1						
	小計 (75科目)	—		12	96	0			—	3	1	0	0	0	兼10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○									兼1	
	日本語教育入門	1後			2	○									兼1	
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論1	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論2	2後			2	○									兼1	
	日本語語用論	3後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法1	3前			2			○							兼1	
	日本語教授法2	3後			2			○							兼1	
	日本語指導法	4前			2			○							兼1	
	日本語教育評価法	4後			2			○							兼1	
	日本語教育実習	4通			2			○							兼1	集中
	小計 (12科目)	—	0	0	24			—	0	0	0	0	0	0	兼4	
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報サービス演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習1	3・4後			2			○							兼1	
	情報資源組織演習2	3・4後			2			○							兼1	
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論B	4後			2	○										隔年
	博物館展示論	3・4後			2	○									兼1	
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○									兼1	
	博物館実習1	3前			2				○						兼2	共同
	博物館実習2	4通			1				○						兼4	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
	小計 (23科目)	—	0	0	45			—	0	0	0	0	0	0	兼10	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—	0	0	39	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	
合計（60科目）	—	0	0	112	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼26	
合計（284科目）	—	24	337	112	—	—	—	5	5	1	0	0	0	兼122	
学位又は称号	学士（スペイン語またはブラジルポルトガル語）			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
総合教育科目：天理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目4単位、計8単位以上 スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目：必修科目12単位、選択必修科目44単位以上 計56単位以上 国際学部共通科目、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目 計72単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）							1学年の学期区分		2 期						
							1学期の授業期間		15 週						
							1時限の授業時間		90 分						

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(国際学部地域文化学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
天理 教科 目	天理教学A 1	1・2・3・4前		2		○									兼8
	天理教学A 2	1・2・3・4後		2		○									兼8
	天理教学B 1	1・2・3・4前		2		○									兼3
	天理教学B 2	1・2・3・4後		2		○									兼3
	天理教学C 1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	天理教学C 2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0		兼11
建学の精神科目	建学の精神と現代社会	2・3・4前	2			○									兼3
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0		兼3
基礎 教育 科目	基礎ゼミナール	1前	2						5	3					兼2
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			5	3	0	0	0		兼2
	英語A 1	1前	1				○								兼6
	英語A 2	1後	1				○								兼6
	英語B 1	1前	1				○								兼6
	英語B 2	1後	1				○								兼6
	小計 (4科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0		兼11
健康 スポ ーツ	健康スポーツ科学1	1前		2		○									兼10
	健康スポーツ科学2	1後		2		○									兼6
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼11
リ メ デ イ ア ル 科 目	基礎からわかるレポート作成	1前後		2		○									兼4
	基礎からわかる近代史	1前後		2		○									兼1
	基礎からわかる現代世界	1前後		2		○									兼1
	基礎からわかる数学	1前後		2		○									兼1
	基礎からわかる生物・化学	1後		2		○									兼1
	コンピュータ入門	1前後		2		○									兼3
小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0		兼11	
キ ャ リ ア 科 目	キャリアプランニング	1前後		2		○									兼4
	キャリアデザイン1	2前		2		○									兼1
	キャリアデザイン2	2前		2		○			1						
	キャリアデザイン3	2後		2		○									兼1
	インターンシップ1	1・2・3通		1								○			兼1 集中
	インターンシップ2	1・2・3通		2								○			兼1 集中
	海外インターンシップ1	2・3・4通		1								○			兼1 集中
	海外インターンシップ2	2・3・4通		2								○			兼1 集中
小計 (8科目)	—	0	14	0	—			1	0	0	0	0		兼7	
教 養 科 目	データサイエンス・AI入門	1前後		2		○									兼2
	データサイエンス・AI応用	2・3・4前後		2		○									隔年
	データリテラシー	2・3・4前後		2		○									隔年
	生活の中の科学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	地球環境論	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	科学と現代	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	数学と論理	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	情報処理	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	統計学	1・2・3・4前後		2		○									兼1
	経営学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経営学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	地理学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	地理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4後		2		○									兼2
	法学	1・2・3・4前		2		○									兼2
	経済学概論1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	経済学概論2	1・2・3・4後		2		○									兼1
政治学	1・2・3・4前後		2		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合 教育 科目	教養 科目 一般 科目	民法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		民法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		行政法1	2・3・4前	2		○									兼1		
		行政法2	2・3・4後	2		○									兼1		
		哲学概論A	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		哲学概論B	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		倫理学1	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		倫理学2	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		心理学1	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		心理学2	1・2・3・4後	2		○									兼2		
		ジェンダー・セクシュアリティ	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		近現代の遺産と未来	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		オリンピックと国際社会	1・2・3・4前後	2		○									兼2		
		宗教と芸能	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		労働と社会	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		障害学	1・2・3・4休	2		○									兼2	集中	
		世界の文学	1・2・3・4前後	2		○						1			兼1		
		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前後	2		○					1						
		人権と差別1	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		人権と差別2	1・2・3・4後	2		○									兼3		
		日本事情1	1・2・3・4前	2		○						1					
		日本事情2	1・2・3・4後	2		○						1					
		日本手話A	1・2・3・4前後	2		○									兼1		
		日本手話B	1・2・3・4後	2		○									兼1		
		健康スポーツ1	2・3・4前	1						○					兼2		
		健康スポーツ2	2・3・4後	1						○					兼2		
		生涯スポーツ(アウトドアスポーツ)	2・3・4通	1						○					兼1	集中	
		森に生きるA	1・2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるB	2・3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きるC	3・4休	1						○					兼3	共同 集中	
		森に生きる(オーストラリアコース)	1・2・3・4休	1						○						共同 集中 隔年	
		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		天理大学特別講義3	1・2・3・4後	2				○								隔年	
		天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2				○								隔年	
		小計(53科目)		—	0	99	0	—			1	0	2	0	0	兼38	
		合計(81科目)		—	8	141	0	—			6	3	2	0	0	兼74	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際学部 共通科目	日本文化概論	1前後	2			○			1						兼1
	国際文化論	1前後	2			○			2						兼1
	世界の英語	1・2・3・4前		2		○									兼1
	異文化コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	異文化コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本と国際社会	1・2・3・4前後		2		○			1						
	文化人類学概論	2・3・4前後		2		○			2	1					
	国際法	2・3・4前後		2		○									兼1
	国際政治学	2・3・4前後		2		○									兼1
	国際経済論	3・4前		2		○									兼1
	音声学1	2・3・4前		2		○									兼2
	音声学2	2・3・4後		2		○									兼2
	英語学概論	2・3・4後		2		○									兼1
	社会言語学1	2・3・4前		2		○									兼1
	社会言語学2	2・3・4後		2		○									兼1
	言語学概論1	3・4前		2		○									兼1
	言語学概論2	3・4後		2		○									兼1
	English Grammar A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Grammar B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	English Reading A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Reading B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	English Writing A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	English Writing B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	Communicative English (基礎)	1・2・3・4前		1			○								兼1
	Communicative English (発展)	1・2・3・4後		1			○								兼1
	College English Grammar A	1・2・3・4前		1			○								兼1
	College English Grammar B	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語C1	1・2・3・4前		1			○								兼1
	実践英語D1	1・2・3・4前後		1			○								兼1
	実践英語E1	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語F1	1・2・3・4前		1			○								隔年
	実践英語C2	1・2・3・4前		1			○								兼1
	実践英語D2	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語A3	1・2・3・4後		1			○								兼1
	実践英語B3	1・2・3・4前		1			○								隔年
	Public Speaking (基礎)	1・2・3・4前		1			○								隔年
	Media English	1・2・3・4後		1			○								隔年
	翻訳	1・2・3・4後		1			○								兼1
	通訳	1・2・3・4後		1			○								隔年
	旅行英語	1・2・3・4前後		1			○								兼1
	Public Speaking (発展)	1・2・3・4後		1			○								隔年
	Academic Reading	3・4後		1			○								隔年
	Japanese Culture and Society	1・2・3・4後		2			○								兼1
	Japanese History	1・2・3・4後		2			○								兼1
	Japanese Religions	1・2・3・4前		2			○								兼1
Introduction to Japanese Philosophy	1・2・3・4後		1				○							兼1	
Introduction to Understanding Social Issues	1・2・3・4後		1				○							兼1	
Introduction to the Study of Religion	1・2・3・4後		1				○							兼1	
Peace and Security Studies	1・2・3・4前		1				○							兼1	
World History : Golden Age/Dark Age	1・2・3・4前		1				○							兼1	
国際協力入門1	1・2・3・4前		2			○								兼1	
国際協力入門2	1・2・3・4後		2			○								兼1	
国際ボランティア論1	2・3・4前		2			○								兼1	
国際ボランティア論2	2・3・4後		2			○								兼1	
国際協力実習	1・2・3・4休		2					○						兼1 集中	
国際協力演習1	1・2・3・4前		2				○							兼1	
国際協力演習2	1・2・3・4後		2				○							兼1	
天理異文化伝道	2・3・4前後		2			○			1					兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
国 際 学 部 共 通 科 目	観光地理学	2・3・4前後		2		○									兼1	
	観光デザイン論	2・3・4前後		2		○			1							
	観光業界論	2・3・4前後		2		○									兼1	
	世界遺産論	2・3・4前後		2		○			1							
	ホスピタリティー観光研究1	2・3・4前後		2		○									兼1	
	ホスピタリティー観光研究2	2・3・4前後		2		○									兼1	
	国内旅行実務	2・3・4前後		2			○								兼1	
	海外旅行実務	2・3・4前後		2			○								兼1	
	国際スポーツ協力論	2・3・4休		1		○									兼3	集中
	国際スポーツ交流実習	2・3・4休		1				○							兼3	集中
小計 (68科目)	—		4	100	0		—		8	1	0	0	0	兼27		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
地域文化学科専攻科目	地域研究方法論	2前後	2			○			3						兼1	
	東アジア地域研究入門	1前後		2		○			2							
	東南アジア・オセアニア地域研究入門	1前後		2		○			2	1						
	ヨーロッパ地域研究入門	1前後		2		○			1							
	アフリカ地域研究入門	1前後		2		○				1						
	ラテンアメリカ地域研究入門	1前後		2		○									兼1	
	北アメリカ地域研究入門	1前後		2		○									兼1	
	日本研究入門	1前後		2		○					1					
	ナラロジー研究入門	1前後		2		○			1							
	世界の地理	1前後		2		○									兼1	
	世界の歴史	1前後		2		○			1							
	世界の情勢	1前後		2		○			1							
	世界の観光	1前後		2		○			1							
	世界のスポーツ文化	1前後		2		○										隔年
	世界史のなかの日本	1後		2		○			1							
	世界の文化交流と日本	1後		2		○									兼1	
	多文化共生論	2前後		2		○				2						
	スポーツ文化概論	2前		2		○										隔年
	スポーツ文化特論	3後		2		○										隔年
	アラブ文化概論	3前後		2		○										隔年
	異文化実習	1・2・3・4休		4				○		1						集中
	異文化体験活動1	1・2・3・4休		1				○	1							集中
	異文化体験活動2	1・2・3・4休		1				○	1							集中
	異文化体験活動3	1・2・3・4休		1				○	1							集中
	異文化体験活動4	1・2・3・4休		1				○	1							集中
	生活文化演習1	3前		2			○		3	2						
	生活文化演習2	3後		2			○		3	2						
	生活文化演習3	4前		2			○		2	2					兼1	
	生活文化演習4	4後		2			○		2	2					兼1	
	表現文化演習1	3前		2			○		1	2	1				兼1	
	表現文化演習2	3後		2			○		1	2	1				兼1	
	表現文化演習3	4前		2			○		3	2	1					
	表現文化演習4	4後		2			○		3	2	1					
	社会文化演習1	3前		2			○		6	1	1					
	社会文化演習2	3後		2			○		6	1	1					
	社会文化演習3	4前		2			○		6	1	1				兼1	
	社会文化演習4	4後		2			○		6	1	1				兼1	
	ナラロジー演習1	3前		2			○									隔年
	ナラロジー演習2	3後		2			○									隔年
	ナラロジー演習3	4前		2			○		1							
	ナラロジー演習4	4後		2			○		1							
	卒業論文	4通	4						4							
	卒業課題研究	4通	2						1							
小計(43科目)	—	—	6	80	0	—	—	15	5	3	0	0	0	兼7		
アジア・オセアニア研究コース科目	アジア生活文化概論	2後		2		○		1								
	アジア表現文化概論	2前		2		○		1								
	アジア社会文化概論	2前後		2		○		2								
	アジア地域文化概論	2前後		2		○		1	1							
	オセアニア地域文化概論	2後		2		○								兼1		
	アジア・オセアニアと日本	2前後		2		○		1								
	アジア地域関係史	2前後		2		○		1								
	アジア生活文化特論	3・4前		2		○		1								
	アジア表現文化特論	3・4前		2		○		1								
	アジア社会文化特論	3・4後		2		○		2								
	アジア地域文化特論	3・4後		2		○			1							
	オセアニア地域文化特論	3・4前		2		○								兼1		
	アジア・オセアニア多文化共生論	3・4前後		2		○			1							
	アジア・オセアニア現代事情	3・4前後		2		○		1						兼1		
小計(14科目)	—	—	0	28	0	—	—	4	1	0	0	0	0	兼2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ヨーロッパ・アフリカ研究コース科目	ヨーロッパ生活文化概論	2前後		2		○					1				
	ヨーロッパ表現文化概論	2前後		2		○			1		1				
	ヨーロッパ社会文化概論	2前後		2		○								兼1	
	スラヴ地域文化概論	2前後		2		○			1						
	アフリカ地域文化概論	2前後		2		○				1					
	ヨーロッパ・アフリカと日本	2前		2		○			1						
	ヨーロッパ・アフリカ関係史	2前後		2		○			1						
	ヨーロッパ生活文化特論	3・4前後		2		○			2						
	ヨーロッパ表現文化特論	3・4前後		2		○				1					
	ヨーロッパ社会文化特論	3・4前後		2		○								兼1	
	スラヴ地域文化特論	3・4前後		2		○			1						
	アフリカ地域文化特論	3・4前後		2		○				1					
	ヨーロッパ多文化共生論	3・4前後		2		○				1					
	ヨーロッパ・アフリカ現代事情	3・4前後		2		○				1					
小計(14科目)	—	0	28	0	—	—	—	3	3	1	0	0	兼2		
アメリカ研究コース科目	ラテンアメリカ生活文化概論	2前後		2		○			1						
	ラテンアメリカ表現文化概論	2前後		2		○								兼1	
	ラテンアメリカ社会文化概論	2前後		2		○								兼1	
	北アメリカ地域文化概論	2前後		2		○								兼1	
	アメリカ研究概論	2前後		2		○								兼1	
	アメリカと日本	2前後		2		○								兼1	
	大西洋地域関係史	2前後		2		○			1						
	ラテンアメリカ生活文化特論	3・4前後		2		○			1						
	ラテンアメリカ表現文化特論	3・4前後		2		○								兼1	
	ラテンアメリカ社会文化特論	3・4前後		2		○			1						
	北アメリカ地域文化特論	3・4前後		2		○								兼1	
	アメリカ研究特論	3・4前後		2		○								兼1	
	アメリカ多文化共生論	3・4前後		2		○			1						
	アメリカ現代事情	3・4前後		2		○								兼1	
小計(14科目)	—	0	28	0	—	—	—	3	0	0	0	0	兼6		
日本研究コース科目	日本生活文化概論	2前		2		○			1						
	日本表現文化概論	2後		2		○								兼1	
	日本社会文化概論	2前		2		○					1				
	ナラロジー概論	2後		2		○									隔年
	日本コミュニケーション文化概論	2前		2		○			1						
	日本精神文化概論	2後		2		○			1						
	日本多文化共生概論	2前		2		○			1						
	日本生活文化特論	3・4後		2		○			1						
	日本表現文化特論	3・4前		2		○								兼1	
	日本社会文化特論	3・4後		2		○					1				
	ナラロジー特論	3・4前		2		○			1						
	日本情報文化特論	3・4後		2		○									隔年
	日本環境文化特論	3・4前		2		○					1				
	日本経営文化特論	3・4後		2		○					1				
小計(14科目)	—	0	28	0	—	—	—	2	0	1	0	0	兼2		
地域言語科目	韓国・朝鮮語 レベルA 1	1前		2			○		1					兼1	
	韓国・朝鮮語 レベルA 2	1前		2			○							兼2	
	韓国・朝鮮語 レベルB 1	1後		2			○							兼2	
	韓国・朝鮮語 レベルB 2	1後		2			○							兼2	
	韓国・朝鮮語 レベルC 1	2前		1			○		1						
	韓国・朝鮮語 レベルC 2	2前		1			○							兼1	
	韓国・朝鮮語 レベルD 1	2後		1			○							兼1	
	韓国・朝鮮語 レベルD 2	2後		1			○							兼1	
	韓国・朝鮮語演習	2後		2			○							兼1	
	中国語 レベルA 1	1前		2			○							兼1	
	中国語 レベルA 2	1前		2			○							兼2	
	中国語 レベルB 1	1後		2			○							兼1	
	中国語 レベルB 2	1後		2			○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域文化学専攻科目	中国語レベルC 1	2前		1			○								兼1
	中国語レベルC 2	2前		1			○								兼1
	中国語レベルD 1	2後		1			○								兼1
	中国語レベルD 2	2後		1			○								兼1
	中国語演習	2後		2			○								兼1
	タイ語レベルA 1	1前		2			○		1						
	タイ語レベルA 2	1前		2			○		1						
	タイ語レベルB 1	1後		2			○		1						
	タイ語レベルB 2	1後		2			○		1						
	タイ語レベルC 1	2前		1			○		1						
	タイ語レベルC 2	2前		1			○								兼1
	タイ語レベルD 1	2後		1			○		1						
	タイ語レベルD 2	2後		1			○								兼1
	タイ語演習	2後		2			○			1					
	インドネシア語レベルA 1	1前		2			○								兼2
	インドネシア語レベルA 2	1前		2			○								兼2
	インドネシア語レベルB 1	1後		2			○								兼2
	インドネシア語レベルB 2	1後		2			○								兼2
	インドネシア語レベルC 1	2前		1			○								兼1
	インドネシア語レベルC 2	2前		1			○								兼1
	インドネシア語レベルD 1	2後		1			○								兼1
	インドネシア語レベルD 2	2後		1			○								兼1
	インドネシア語演習	2後		2			○		1						
	ドイツ語レベルA 1	1前		2			○				1				
	ドイツ語レベルA 2	1前		2			○								兼2
	ドイツ語レベルB 1	1後		2			○				1				
	ドイツ語レベルB 2	1後		2			○								兼2
	ドイツ語レベルC 1	2前		1			○								兼1
	ドイツ語レベルC 2	2前		1			○								兼1
	ドイツ語レベルD 1	2後		1			○								兼1
	ドイツ語レベルD 2	2後		1			○								兼1
	ドイツ語演習	2後		2			○			1					兼1
	フランス語レベルA 1	1前		2			○		1						
	フランス語レベルA 2	1前		2			○								兼2
	フランス語レベルB 1	1後		2			○		1						
	フランス語レベルB 2	1後		2			○								兼2
	フランス語レベルC 1	2前		1			○								兼1
	フランス語レベルC 2	2前		1			○								兼1
	フランス語レベルD 1	2後		1			○								兼1
	フランス語レベルD 2	2後		1			○								兼1
	フランス語演習	2後		2			○								兼1
	ロシア語レベルA 1	1前		2			○			1					
ロシア語レベルA 2	1前		2			○								兼2	
ロシア語レベルB 1	1後		2			○			1						
ロシア語レベルB 2	1後		2			○								兼2	
ロシア語レベルC 1	2前		1			○								兼1	
ロシア語レベルC 2	2前		1			○								兼1	
ロシア語レベルD 1	2後		1			○								兼1	
ロシア語レベルD 2	2後		1			○								兼1	
ロシア語演習	2後		2			○			1						
スペイン語レベルA 1	1前		2			○		1	1					兼2	
スペイン語レベルA 2	1前		2			○			1					兼3	
スペイン語レベルB 1	1後		2			○		1	1					兼2	
スペイン語レベルB 2	1後		2			○			1					兼3	
スペイン語レベルC 1	2前		1			○								兼1	
スペイン語レベルC 2	2前		1			○		1							
スペイン語レベルD 1	2後		1			○								兼1	
スペイン語レベルD 2	2後		1			○		1							
スペイン語演習	2後		2			○			1					兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
地域文化学科専攻科目 地域言語科目	ブラジルポルトガル語レベルA 1	1前		2			○		1								
	ブラジルポルトガル語レベルA 2	1前		2			○								兼1		
	ブラジルポルトガル語レベルB 1	1後		2			○		1								
	ブラジルポルトガル語レベルB 2	1後		2			○								兼1		
	ブラジルポルトガル語レベルC 1	2前		1			○		1							兼1	
	ブラジルポルトガル語レベルC 2	2前		1			○									兼1	
	ブラジルポルトガル語レベルD 1	2後		1			○		1							兼1	
	ブラジルポルトガル語レベルD 2	2後		1			○									兼1	
	ブラジルポルトガル語演習	2後		2			○		1								
	入門日本語A (会話)	1前		1				○								兼1	
	入門日本語A (文法A)	1前		1				○			1						
	入門日本語A (文法B)	1前		1				○			1						
	入門日本語A (作文)	1前		1				○								兼1	
	入門日本語A (講読)	1前		1				○								兼1	
	入門日本語A (表記)	1前		1				○								兼1	
	入門日本語A (総合)	1前		1				○								兼1	
	入門日本語A (表現)	1前		1				○			1						
	入門日本語B (会話)	1後		1				○								兼1	
	入門日本語B (文法A)	1後		1				○			1						
	入門日本語B (文法B)	1後		1				○			1						
	入門日本語B (作文)	1後		1				○								兼1	
	入門日本語B (講読)	1後		1				○								兼1	
	入門日本語B (表記)	1後		1				○								兼1	
	入門日本語B (総合)	1後		1				○								兼1	
	入門日本語B (表現)	1後		1				○			1						
	基礎日本語A (会話)	1・2前後		1				○		1						兼2	
	基礎日本語A (文法A)	1・2前後		1				○		1						兼1	
	基礎日本語A (文法B)	1・2前後		1				○		1						兼1	
	基礎日本語A (作文)	1・2前後		1				○								兼2	
	基礎日本語A (講読)	1・2前後		1				○								兼2	
	基礎日本語A (表記)	1・2前後		1				○								兼2	
	基礎日本語A (総合)	1・2前後		1				○								兼2	
	基礎日本語A (表現)	1・2前後		1				○			1					兼1	
	基礎日本語B (会話)	1・2前後		1				○		1						兼2	
	基礎日本語B (文法A)	1・2前後		1				○		1						兼1	
	基礎日本語B (文法B)	1・2前後		1				○		1						兼1	
	基礎日本語B (作文)	1・2前後		1				○								兼2	
	基礎日本語B (講読)	1・2前後		1				○								兼2	
	基礎日本語B (表記)	1・2前後		1				○								兼2	
	基礎日本語B (総合)	1・2前後		1				○								兼2	
	基礎日本語B (表現)	1・2前後		1				○			1					兼1	
	発展日本語A (実践)	1・2・3前		1				○								兼1	
	発展日本語A (会話)	1・2・3前		1				○								兼1	
	発展日本語A (作文)	1・2・3前		1				○								兼1	
	発展日本語A (講読)	1・2・3前		1				○								兼1	
発展日本語A (ビジネス)	1・2・3前		1				○			1							
発展日本語B (実践)	1・2・3後		1				○								兼1		
発展日本語B (会話)	1・2・3後		1				○								兼1		
発展日本語B (作文)	1・2・3後		1				○								兼1		
発展日本語B (講読)	1・2・3後		1				○								兼1		
発展日本語B (ビジネス)	1・2・3後		1				○			1							
小計 (123科目)		—	0	168	0		—		7	4	3	0	0		兼32		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
天理 教学 部門	伝道実習1 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習2 (理論を含む)	1・2・3・4休			1			○							兼1	集中
	伝道実習3 (理論を含む)	2・3・4前			1			○							兼1	
	伝道実習4 (理論を含む)	2・3・4後			1			○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	0	4			—	0	0	0	0	0	0	兼1	
人文 科学 部門	日本語学入門	1前			2	○			1							
	日本語教育入門	1後			2	○			1							
	日本語語彙論	2前			2	○									兼1	
	日本語文法論1	2前			2	○			1							
	日本語文法論2	2後			2	○			1							
	日本語語用論	3後			2	○									兼1	
	言語の対照研究	3前			2	○									兼1	
	日本語教授法1	3前			2		○								兼1	
	日本語教授法2	3後			2		○								兼1	
	日本語指導法	4前			2		○		1							
	日本語教育評価法	4後			2		○				1					
	日本語教育実習	4通			2			○	1							集中
小計 (12科目)	—	0	0	24			—	1	0	1	0	0	0	兼2		
資格 科目	図書館マネジメント論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報システム論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報サービス概論	1・2・3・4後			2	○									兼1	
	情報サービス論	3・4前			2	○									兼1	
	児童・YAサービス論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報サービス演習1	3・4後			2		○								兼1	
	情報サービス演習2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織論	3・4前			2	○									兼1	
	情報資源組織演習1	3・4後			2		○								兼1	
	情報資源組織演習2	3・4後			2		○								兼1	
	図書館情報学基礎特論	2・3・4後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	3・4前			2	○									兼1	
	図書館とメディアの歴史	2・3・4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論A	4前			2	○									兼1	
	図書館情報学特論B	4後			2	○										隔年
	博物館展示論	3・4後			2	○									兼1	
	博物館経営総論	2・3・4後			2	○									兼1	
	博物館実習1	3前			2			○							兼2	共同
	博物館実習2	4通			1			○							兼4	共同 集中
	矯正概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	更生保護概論	1・2・3・4前			2	○									兼1	
	矯正保護教育 (施設参観を含む)	3・4後			2	○									兼1	
小計 (23科目)	—	0	0	45			—	0	0	0	0	0	0	兼10		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	1前後			2	○									兼1
	教育原理	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育課程論	3・4前後			2	○									兼1
	学校教育心理学	2・3・4前後			2	○									兼1
	学校教育社会学	2・3・4前後			2	○									兼1
	道徳の理論及び指導法	3・4前後			2	○									兼1
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	3前後			2	○									兼2
	教育相談の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前後			2	○									兼1
	教育実習講義	3後			1	○									兼3
	介護等体験	3通			1			○							兼4 集中
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼4
	教育実習1	4通			2			○							兼1 集中
	教育実習2	4通			2			○							兼1 集中
	人権教育論1	2・3・4前			2	○									兼3
	人権教育論2	2・3・4後			2	○									兼3
	特別な支援の必要な生徒の理解	1前			2	○									兼1
	学校教育支援	2・3・4通			1			○							兼4 集中
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前			2	○									兼1
	教育史特論	2・3・4前			2	○									兼1
	臨床教育学特論	2・3・4休			2	○									兼1 集中
小計（21科目）	—	0	0	39	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	
合計（60科目）	—	0	0	112	—	—	—	1	0	1	0	0	0	兼24	
合計（431科目）	—	18	601	112	—	—	—	14	5	3	0	0	0	兼145	
学位又は称号	学士（地域文化）	学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法					授業期間等										
<p>【アジア・オセアニア研究コース、ヨーロッパ・アフリカ研究コース、アメリカ研究コース】 総合教育科目：天理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目10単位以上、教養科目6単位以上 計22単位以上 国際学部共通科目：必修科目4単位、計8単位以上 地域文化学科専攻科目：必修科目6単位、選択必修科目50単位以上 計56単位以上 国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目 計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）</p> <p>【日本研究コース】 総合教育科目：天理教科目4単位以上、建学の精神科目2単位、基礎教育科目6単位以上、教養科目6単位以上 計18単位以上 国際学部共通科目：必修科目4単位、計8単位以上 地域文化学科専攻科目：必修科目6単位、選択必修科目52単位以上 計58単位以上 国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目 計70単位以上 総合教育科目、国際学部共通科目、地域文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目 計124単位以上修得すること。 履修科目の登録上限：48単位（年間）</p>					1学年の学期区分		2 期								
					1学期の授業期間		15 週								
					1時限の授業時間		90 分								

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部宗教学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	建学の精神と天理大学のあゆみ	天理大学の「建学の精神」に込められた意味を理解し、その精神を身につけ、国際社会および地域社会に貢献できるようになることを目指し、天理大学の「建学の精神」に込められた意味を、本学の創設者、中山正善天理教二代真柱の理念・思想を通して理解する。また、天理大学の歴史的な歩みを辿ったうえで、天理図書館や天理参考館といった文化施設、及び「天理スポーツ」の理念や歴史についても、創設者の人物像や理念を通して理解する。	
		英語 1	大学で学修するために必要な基盤となる英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎力を養成する。「聞く」「話す」では、特に、簡単な内容の会話を理解し、それに対応できる力、「読む」「書く」では、単文レベルの英文の構造を理解し、書くことができる力、簡単な英文の内容を理解できる力を重視して養成する。プレゼンテーションやペアワークなど、具体的、かつ、実践的なアクティビティも含めて豊かで確かな英語の基礎力を確立する。	
		英語 2	英語1で培った基礎力を土台に、大学で学修するために必要な英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎固めをする。この4つの領域について「英語1」よりもやや難度の高い英文を読み、その内容を把握し、自分のことばでまとめる力を育成する。さらに、人の意見を聞き、複数の文を使って自分の意見を英語で伝える力を養成する。ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションなど、より多くのアクティビティを通じて英語をツールとして使用することに慣れ親しむ。	
		韓国・朝鮮語 1	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。順序としては、文字と発音を修得した後、基礎的な文法事項・構文・語彙の修得を進める。この科目でまず重要なことは朝鮮半島で使用されている文字「ハングル」を正確に読んで発音できるようにすることである。これがまず第一段階の学習となる。次に体言文を習得する段階に入るが、同時に各種音韻変化を学ぶことで、正確な発音を身に付けさせる。基本となる助詞、位置・存在表現等を修得、さらに用言文を上称・略待上称形で使えるように指導することがその次の目標となる。使用頻度が高く、ごく基本的とされる接続語尾についても学び、表現の幅を広げるようにする。	
		韓国・朝鮮語 2	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。基礎的な文法事項・構文・語彙の修得に努めつつ、初歩的な言語運用能力の育成を目指すことが目標となる。韓国・朝鮮語1で学習した存在表現、上称・略待上称形をさらに練習して、変則用言といわれる単語を個別に分類する作業を通して、変則用言をきちんと使いこなす訓練を行う。数字表現、許可表現、可能表現なども学ぶことにより表現の幅を広げるようにする。語学力を向上させるうえで、語彙の習得も欠かせない要素の一つである。日本語同様、漢字語彙が7割を超す韓国・朝鮮語でもその利点を生かし、語彙力を養い、韓国・朝鮮語の理解の土台を築くようにする。	
		中国語 1	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。具体的には、「ピンイン」と呼ばれるローマ字の発音表記を体系的に学び、中国語の日常会話レベルの文について、ピンインを見ながら標準的な発音で漢字で書かれた単語やセンテンスを音読したり、パソコンやスマホでローマ字入力・漢字変換する訓練を行う。	
		中国語 2	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。「中国語1」で学んだピンインによる音読や入力の基礎を固めながら、それぞれの会話場面において自分に関係する事柄を、すでに学んだ語彙や表現を用いて相手に伝える訓練を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	教養アカデミック英語 1	この科目では「英語 1」と「英語 2」で培った英語の基礎力を土台に、英文を「書く」ことに重点を置く。自分の伝えたいことが伝えられる英文を書くために、「書く」という点から基本的な英文法のおさらいをする。さらに、音読練習や口頭作文練習、和訳など様々な活動を通じて「書くための英文法」を定着させる。単文だけでなく、複文や重文など一文レベルの文がある程度正しく書けるようになった段階で、隣接する文同士のつながりについて学習し、パラグラフライティングができるようになるための素地を固める。	
		教養アカデミック英語 2	この科目では「教養アカデミック英語 1」で培った「書く力」を土台にまとまりのある内容を持った英語の文章（1パラグラフ）が書ける力を養成する。パラグラフの構造やパラグラフの種類について学び、自分が書きたい内容に合わせて適切なパラグラフのタイプを選択し、読み手に論理的に分かりやすい構成の英文が書けるようになることを目指す。さらに、トピックに合わせた簡単な英語のプレゼンテーションを行うことにより英語による発信力を高める。	
		実践アカデミック英語 1	この科目は「アカデミック英語 2」を履修するための科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された文字数（日本語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行い、多くの英文を読んでその内容を日本語で要約する練習を行う。英語で読み、日本語で要約することにより、英文読解力だけでなく、読み手に分かりやすい日本語で文章を書く力も養成する。	
		実践アカデミック英語 2	この科目は「アカデミック英語 1」の応用科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された単語数（英語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行う。英語の文章構成についてもトピックを維持する方法や隣接する文同士のつながりのよくする方法について学ぶ。多くの英文を読んでその内容を英語で要約することにより、実用英語技能検定（英検）やTOEFLなどの資格試験にも十分に対応できる力を養成する。	
		アカデミック英語上級	この科目は大学を卒業し、社会人になったときに必要とされる力を育むことを目指した科目であり、「プロジェクト型言語学習 (Project-based Language Learning)」の形式を採る。ポスター発表や口頭発表、テレビ番組制作など様々なアクティビティについて、チームで協力し、企画から発表までの一連の作業を行うことにより、企画力や協働性、情報収集力、情報を整理し、まとめる力、発信力などを養成する。	
		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、韓国・朝鮮語圏の文化や社会について学び、あわせて韓国・朝鮮語の基礎を学習しながら、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。文化的な理解と言語の理解はあたかも車輪の両輪のように対象となる国の理解を大きく進展させる意味を有している。人々が朝鮮半島の地でどのように暮らし、どのような文化を育み、歴史・社会の中で何が起きてきたのか、これらを知るとともに、最低でも文字を読み、入門レベルではあるが語学の基礎にも接してみることで、この地に生きる人々の感性や考え方の根底に一步でも近づいてみることにしたい。	
		多文化理解と言語（中国語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。また現在、中国・台湾・香港・シンガポールなどのいわゆる中国語圏から日本に来て中長期滞在している人は日本の在留外国人総数の約3分の1を占めており、彼らが日本社会で私たちと共に幸せに暮らしていける社会を構築するには、まず私たちが彼らの言葉と文化を理解する必要がある。さらには彼らが独自の文化を有するがゆえに受け入れがたい日本特有の習慣についても知っておくことが望まれる。本科目では、広く中国語圏で通用する標準的な中国語の基礎を学習しながら、中国語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（英語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。英語は、イギリスの歴史的な歩みの影響によって、現在世界で最も広く用いられる言語の一つとなっている。しかし、世界の様々な地域で用いられている英語は全く同一のものではなく、当然ながら英語が用いられている地域の社会や文化も一様ではない。本科目では、英語に対する基礎的な理解を通して、英語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	多文化理解と言語（タイ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。東南アジアのタイに目を向けてみると、日タイ両国は政治、経済、文化等幅広い面で緊密かつ重層的な関係を築いており、人的交流が極めて活発である。タイの人々は日本に強い関心を持っており、さまざまなメディアやイベントをとおして、日本の情報に日々接することができる。日タイが今まで以上に緊密なパートナーシップを構築するためには、私たちがタイの言葉や文化を知り、相互理解を促進することが必要である。本科目では、タイ語の基礎を学習しながら、タイの文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（インドネシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。インドネシア共和国は多民族国家であり、2億7千万人を超える国民は、異なる言語を母語とする民族集団からなる。インドネシア共和国の成立以後、公用語として定められたインドネシア語を母語とする人々は徐々に増加しているものの、多くの国民にとってインドネシア語は母語の次に覚える第二言語である。本科目では、インドネシア語の基礎を学習しながら、インドネシア語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ドイツ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。日本では「日本人とドイツ人は似ている」と言われることも多いが、当然のことながら日本とドイツの国民性には相違点も多い。特に、日本人は場の空気や感情を重んじるのに対して、ドイツ人は合理性や論理性を重んじるという点に着目すると、両者の隔たりの大きさが感じ取れる。ドイツ人の論理性を重んじる傾向は、ドイツ語の特徴とも関連している。本科目では、ドイツ語の基礎を学習してドイツ語への理解を深めながら、ドイツ的思考法がドイツの社会や文化にどう影響しているかを考察する。日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（フランス語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、フランス語の基礎を学習しながら、フランス語圏の文化や社会について学ぶ。特に、歴史的な関係からアフリカからの移民を多く抱えるフランス社会の諸問題を取り上げ、宗教や言語、価値観など、異なる文化が接触することによって引き起こされるさまざまな事例を見ていくことによって、多文化共生社会のあり方を考察し、その実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ロシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ロシア語の基礎を学習しながら、旧ソ連諸国をはじめとする世界に広がるロシア語圏の文化や社会について学ぶ。ロシア語が用いられている国や地域での多様性に触れ、共通点や相違点、また問題点について考える。本科目では、ロシア語の基礎を学習してロシア語への理解を深めながら、日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（スペイン語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、スペイン語の基礎を学習しながら、スペイン語圏の多様な文化や社会について学ぶ。スペイン語はスペインとラテンアメリカなどの20以上の国や地域で話され、米国でも話者数が飛躍的に増加している国際性豊かな言語である。また日本国内においても、スペイン語圏出身者は約8万人にのぼる。日本との長い交流の歴史や現在も続く緊密な社会経済関係について理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ポルトガル語の基礎を学習しながら、ポルトガル語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。具体的には、ポルトガル語の読み方や基本的なあいさつなどを学びながら、ブラジルがどのような国であるかを知り、それを通して日本に在住するブラジル人に視野を広げる。本科目の主要な目標は2つある。1. ブラジルがどのような社会や文化を有する国なのかを知る。それを通して、異文化理解への視座を学ぶ。2. 在日ブラジル人の歴史や現状を知る。それを通して、日本における多文化共生について考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	多文化理解と言語（日本語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では留学生を対象にして、日本語及び、アイヌ語、琉球諸語（琉球諸方言）など、比較対象となる諸言語・諸方言に対する基礎的な理解を通して、日本語が話されている諸地域の文化や社会について学ぶ。そして「日本」や「日本人」を相対化することによって、より大きな視野から日本列島を考え、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		日本事情 1	留学生を対象にして日本の祭礼について概説する。最初に、儀礼・祭礼についての文化人類学・民俗学の概念・分類について紹介する。次に日本政府の祭礼に対する文化政策（「無形文化財」、「無形文化遺産」、「日本遺産（Japan Heritage）」など）について紹介する。そして、「日本三大祭り」ともいわれる「神田祭」（東京都）、「祇園祭」（京都市）、「天神祭」（大阪市）など、日本各地の著名な祭礼を具体的に取りあげて紹介する。	
		日本事情 2	留学生を対象にして日本の産業について概説する。最初に、地理学・経済学・社会学などの知見に拠りながら、戦後の産業構造の変化について紹介する。次に伝統産業保護政策として日本政府が「伝統的工芸品」に指定している産品を、「高山茶釜」（奈良県）など、具体的にいくつか取りあげて紹介する。そして「まちづくり」、「農工商連携」、「外国人材の受け入れ」など、現在の日本の産業が抱える重要課題を具体的に取りあげて紹介する。	
		健康スポーツ科学 1	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		健康スポーツ科学 2	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		国際社会におけるスポーツの役割	スポーツには、国籍や人種、言語や文化が違っても一緒に活動し、協力し、競い合うことで共感が生まれ、楽しさや友情を深める力を有する。現代社会では、スポーツを通じた国際交流がなくてはならない存在であり、「多様性の尊重」や「持続可能な社会の実現」にも欠かせない。本授業では、スポーツの国際展開について古代から現代までのオリンピックの歴史と諸問題を学び、国際親善や世界平和に果たすスポーツの意義や役割を理解する。	
		保健医療の仕組みと健康づくり	急激な少子高齢化や医療技術の進歩など、保健医療を取り巻く環境が大きく変わるなかで、厚生労働省は2035年に向けて、人々が自ら健康の維持・増進に主体的に関与し、デザインでき、ひとりひとりが主役となれる健やかな社会、健康先進国を目指している。この授業では、現在の保健医療の仕組みと、地域で暮らす人々がその仕組みをどのように活用するのかを学ぶ。さらに自分自身と周囲の人々がその仕組みを活用して主体的に健康づくりに取り組むための基礎力を養う。	
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる入門編	身近な環境問題に目を向け、それを自分事としてとらえることは、これからの社会を生きていくために重要なものである。環境や林業や里山が抱える課題、過疎化した地域の課題、衰退していく街の課題について、その課題に取り組む人々との交流を通じて、SDGsとは具体的に何を目標として行動すべきかを学ぶ。林業や農業についてのアプローチの手立てについては、現地に赴き実習を含めた講習を行う。さらに、その有効な活用方法ならびに技術面の指導を実習を通じて習得する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる実践編	ローカリーアクト天理SDGs森に生きる入門編に引き続き、奈良県内外、主として天理市内での林業体験及び里山整備、耕作放棄地などでの実習を行う。過疎化する地域の課題を現地の方との話し合いを通じて理解し、何が出来るか？を考える「場」を持つ。持続可能な開発目標(SDGs)や持続可能な開発のための教育(ESD)を目的とした実習を行う。その際、学生が自ら考えて行動する問題解決型学習(PBL)を採用し、さまざまな課題を自分事としてとらえられるようにする。	共同
		国際協力入門	「貧困」を解消することが「開発Development」という行為である。近年注目されている「SDGs(持続可能な開発目標)」の「D」は「開発Development」を指しており、同じく貧困削減のための取り組みを指している。この授業では「経済開発」「社会開発」「人間開発」「参加型開発」「持続可能な開発(SDGs)」などの開発理論を講義形式で理解し、開発プロジェクトの計画・立案について、グループ・ワークで体験的に学ぶ。開発援助とは「人を助ける」行為であるため、「人を助ける」哲学・価値観について学ぶことを基本学習とする。定期試験期間に期末テストを実施する。	
		国際協力実習	この実習では「国際参加プロジェクト」の現地ボランティア活動を行う。本実習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。以上の点に注意し、授業登録を希望する学生は、必ず国際交流センター室の担当者に問い合わせること。新型コロナウイルスの影響により、現地活動が実施できない場合は、上記の通りではなく、授業方法や成績評価方法について変更を余儀なくされることがある。変更する際は、授業等を通じて受講者に周知する。	
		国際協力演習 1	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動(2月実施予定)から帰国後の事後研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。事後研修の主な活動内容は、現地での活動経験に基づくレポート、活動報告の作成と編集、動画・写真データを使用した活動報告用の映像資料の作成である。また、学内外で開催する帰国報告会、地域教育機関と連携した国際交流授業の開催など、地域連携・社会貢献を目的とした諸活動の実践を含む。	
		国際協力演習 2	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動(2月実施予定)に向けての事前研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。活動準備の内容は、現地での活動内容に基づき決定される。現地小学校での教育支援活動であれば、現地学校での授業準備が事前研修となる。現地高等教育機関との交流活動では日本文化紹介などのプレゼンテーションの準備を行う。講義で授業を行う一方、現地ボランティア活動の具体的な準備活動が主な授業内容となる。	
		国際ボランティア論	人はなぜ、何のためにボランティアをするのか、ボランティアという行為はどのような意味をもつのかを理解できるようになる。また、国際協力の視点からボランティア活動を捉え、世界の貧困や格差を解消するための国際ボランティアの取り組みを理解し、実践することができるようになる。ボランティアという行為について学術的な視点から説明ができるようになり、世界の貧困や格差の問題に対して、自らの問題として捉え、積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を身に付けることができる。	
		天理大学特別講義 1	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度については、NPO法人環境市民ネットワーク天理が主体となる寄付講座「まほろばエコロジー講座」を15回にわたって開講する。天理大学は2012年に奈良県下の大学としては初の「エコキャンパス宣言」を行い、建学の精神に基づいたキャンパスの環境保全を指向するとともに、大学生や市民を対象とした学習講座を開催した。このたび、天理大学の授業として開講する「まほろばエコロジー講座」は、環境問題に関わる各分野の専門家によるレクチャーを15回受けることにより、環境問題の基礎知識を体系的に学ぶことができる。講座後の検定試験で、一定の成績を修めた受講生を対象に、当NPO法人が「まほろば環境市民」に認定される。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
天理スピリット科目群	天理大学特別講義 2	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
	天理大学特別講義 3	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
	天理大学特別講義 4	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
	天理異文化伝道	天理教による海外布教伝道の歴史を振り返り、世界のさまざまな国や地域で展開されている布教の現状を映像などを通して見ていく。また「文化」とは何かを確認した上で、海外伝道を「異文化圏における伝道」という視点で捉え、異なる文化の中で繰り広げられている実際の布教伝道を通じて見られる「異文化接触」に関して考えていく。さらにそこから、貧富の差や言葉の問題、他宗教との関係、グローバル化などをキーワードとして問題提起を行い、これからの異文化伝道の方向性について意見を深めていく。	
キャリア教育科目群	キャリアプランニング	生き方や働き方を主体的に考え、キャリアを設計することができるようになることを目標とし、自己を深く理解し、社会貢献につながる自己実現を目指すための主に次のことを学修する。 ・自分の価値観、強みと弱みを把握し、自己理解を深める。 ・社会に出て必要とされる力（基礎学力、専門学力、リーダーシップやコミュニケーション力）は何かを把握し、それを身につけるための有意義な大学生活の過ごし方を設計する。 キャリアをデザインする上で具体的に仕事の内容や重要な自己を理解したうえで、民間企業や官公庁などで働いている人を講師として迎え、実務上必要とされる能力や仕事のやりがい、キャリア形成についての話を聴く。各業種の内容と必要とされる能力を知り、社会に出てからのキャリアデザインについて考える。また、インターンシップの意義、就職試験で使われているSPI、履歴書の書き方、就職活動の進め方について知る。	
	キャリアデザイン 1	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
	キャリアデザイン 2	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	キャリア教育科目群	インターンシップ 1	インターンシップ 1 では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		インターンシップ 2	インターンシップ 2 では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ 1	海外インターンシップ 1 では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ 2	海外インターンシップ 2 では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール 1	正しい情報を自ら集め、組み立て、展開していく力、さらに自分の考えや情報を正しく相手に伝える力をつけるために、大学や社会で求められる「読む・書く・話す・聞く」能力の獲得をめざし、ノートテイキング（筆記）、スピーチ（発話）、リーディング（読解）、ライティング（作文）という4つの技能について学ぶ。また基礎的なパソコンの操作方法やワープロソフトを使った文書の作成、プレゼンテーション資料作成ソフトを使ったスライド作成等についても学ぶ。	
		基礎ゼミナール 2	基礎ゼミナール 1 の「読む・書く・話す・聞く」の能力の向上、および実際のデータを収集し、分析することを通して、統計的分析の能力を身につけることを目標とする。自らの問題意識から、適切なテーマを設定し、主張したい論点を述べるために必要な実データを収集し、統計手法を用いて分析する。分析結果やグラフなどを整理して自分の考えを発表する。中間発表を行うことで議論を深め、最終的にこれらをまとめた小論文を作成し、発表する。	
		データサイエンス・AI入門	Society5.0時代に活躍するためには、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養が必要である。本科目では、次の3つのことを習得することを目標とした学修を行う。(1) 社会におけるデータサイエンスやAIの活用事例を知ることによってこれらの技術についての理解を深める。(2) データを活用する上で留意すべき法制度や倫理などについて理解し、適切なデータの利活用のための知識を得る。(3) データ分析の基礎的な活用方法を身につけ、帰納的推論と演繹的推論の差異、長所短所について理解する。	
		データサイエンス・AI応用	データサイエンス・AI入門に続いて、本科目ではより実践的にデータサイエンス・AIを学修し、基礎力を向上させることを目標とする。社会において多様なデータの蓄積が行われており、そのデータを利活用できる能力が求められている。データ解析・機械学習などに事例を挙げてデータサイエンスやAIについての技術について学修する。データ解析では統計学の利用方法、機械学習を使った分類・クラスタリング・強化学習、さらにAIの発展に貢献しているディープラーニングについて、事例をもとに実際にデータを処理することを通して理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	基礎リテラシー科目群	データリテラシー	情報社会において求められる情報処理能力を身につけることを目標とする。自らの考えを正しく相手に伝えるためには実データを正しく分析した結果を効果的に示すことが重要である。データの収集方法・統計分析・分析結果の解釈方法などを学修し、データに基づいて判断する能力、いわゆるデータリテラシーを身につける。EXCELを使って統計分析方法を学修し、分析した結果の統計情報を正しく理解する方法とグラフなどを用いて、効果的にデータの特徴を可視化する方法について具体的に学修する。	
		コンピュータ入門	ビジネス社会において求められるコンピュータやネットワークなどの情報技術に関する基礎的知識、およびパソコンを使った情報活用能力を身につけることを目標とする。情報技術に関しては、コンピュータ・インターネットの仕組み、情報処理技術、情報倫理やセキュリティについての知識を学修する。またパソコンを使い、基本ソフト（Windows）およびアプリケーションソフト（Word、Excel、Powerpointなど）の基本的な操作方法について学修し、実データを使ってデータを整理した上でデータの特徴を効果的に示す能力を身につける。	
		情報処理	「プログラミングとは何か」を実際にプログラムを作成することを通して理解する。自分が意図した通りにコンピュータが情報を処理することができるよう試行錯誤していくことを通して、プログラムを完成させることが楽しいと感じ、プログラミングに興味を持つことができることを目標とする。C言語の基本的なルールについて学習し、プログラミングの基礎を理解するとともに、コンピュータが自分の意図した通りに正しく実行するようにしていくプロセスを繰り返し行うことでプログラミング技能を身につける。	
		基礎からわかるレポート作成	レポートや論文の作成技法を修得し、日本語表現能力を高めることができ、現代社会のかかえる様々なテーマについて関心を深めるとともに、自分の意見を形成していく方法を体得することができることを目指し、テキストを用いて作文技法の基礎を習得する。また、各人が設定したテーマについて、資料検索・収集、構想ノート作成に基づいてレポートを執筆し、クラスで口頭発表を行う。資料検索やレポート執筆はパソコンを使用して行い、コンピュータ技能の向上を図る。	
		基礎からわかる近代史	日本近代史の基礎的な知識や流れを学ぶことができることに加え、日本近代社会と現代社会とのつながり・断絶を理解することができるようになることを目指し、幕末・明治維新からアジア・太平洋戦争前後の日本歴史の流れを基礎から学び直す。その際は政治・経済方面だけでなく、軍事・教育・宗教・娯楽など、近代日本社会を構成していた諸要素にもしっかり目配りする。現代社会とのつながりや断絶について考察し、自らの歴史に対する視点を確立する。	
		基礎からわかる現代社会	現代の日本と国際社会における政治・経済・社会の土台をなすシステムについて、また、今日の私たちが直面し、解決を求められている諸課題について、他の全学科目および専攻分野での学修をつうじて知見を深めるうえで、また教養を備えた責任ある市民として、積極的に社会に参加するうえで必要な基礎知識を習得する。講義では、具体的な問題を題材にするなどして、情報をみずから収集し、得られた知識と合わせて分析する力も養う。	
		基礎からわかる数学	数学に関する基礎的な能力の向上をめざす。そのため、小・中・高で学んだ算数、数学のなかで、式の計算、速さ、面積、体積、方程式、不等式、関数、場合の数、順列、組合せ、確率、データの分析などを取り上げ、生活の中にある事例など具体的な問題場面を取り上げるながら、数学への興味・関心を高めながら、演習を通して自ら考え、問題を解決する能力を身につける。その際、SPI等の就職試験でも役立つ内容も視野に入れて授業を展開する。	
		基礎からわかる生物・化学	当該科目は、生物学・化学の基本的な知識や考え方を理解でき、習得できることを目的とする。内容は、生物・化学基礎の理解を改めて確認し、遺伝子と現代医学の潮流、細胞と癌、神経と認知症、エネルギー・代謝と糖尿病、免疫と感染症、血液と白血病など、病気と関連づけて分かりやすく生物学の本質の理解が深まるように講義・演習を行う。さらに、物質・溶液の化学、有機化学、生体を構成する物質などについて、簡単な内容に絞って講義・演習を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	生活の中の科学	自分自身の健康に関心を持ち、スポーツの実践や身体を動かすことの大切さの再認識とその実践意欲の高揚化をはかり、学んだ内容を自らの健康の維持、増進に生かしていく能力を養うことをめざし、人間の基本的な条件である健康について、主に運動生理学およびスポーツ医学、栄養学などの諸点から解説する。健康の概念を理解し、生涯にわたって自らの健康の保持増進をはかるためには何が必要であるのかを理解するために、本講義では健康管理に関連のある最新情報を紹介し、現代人にとって必要な健康維持に関する知識を理解する。	
	地球環境論	温暖化や希少生物の絶滅、環境汚染など、現在の地球環境は人類が克服困難な問題で溢れている。これらの問題は、さまざまな要因が複雑にからみあって形成されており、本質を理解するには幅広い視野で多面的に物事を捉える力が必要となる。この授業では、環境問題に対する取り組みについて学び、日本における過去の公害問題やその対策手法・技術から、地球環境と人類との関係について考えていく。環境問題に対する基礎的な素養を習得し、日頃から地球環境にやさしい行動を実践できるようになることを目指す。	
	科学と現代	現代社会を支える科学・技術について、その歴史的発展過程を交えながら基本的な概念や考え方について講義する。講義の前半では、宇宙論と原子論の歴史的な変遷を取り上げる。講義の後半では、青色発光ダイオードやリチウムイオン電池といった身近にある科学・技術のトピックスを題材としてとりあげ、先端科学の知見とその歴史的背景を紹介する。現代社会における科学の意義や役割について自らの生活と関連付けながら考察していく。	
	数学と論理	「論理」は数学に限らず、あらゆる学問で、そして社会の健全な発展のために重要な概念、法則である。この能力を培うことができるのは、数学の知識によってではなく、各自が考えることによるのみ可能である。数学の言葉を記号化することによって、不偏的な数学語（数文）に翻訳することで、言語の異なる人々が、世界共通の「論理」で数学を理解できるようになる。代数的構造の主要な概念である「群」に関して、論理の展開を体験する。	
	統計学 1	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。統計学の初歩的で実践的な知識を身に付けることを目的に、記述統計学（資料の整理、代表値、分散と標準偏差）統計学の基礎（確率、確率分布、二項分布、正規分布）推測統計学（母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母平均の検定など）をExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して取り扱う。	
	統計学 2	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。この授業では、データを分析し、問題の原因を追及することができる能力を身に付けることを目指し、クロス集計や多変量解析などの基礎について具体的なデータをExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して理解する。	
	経営学 1	経営学に関する基本知識を理解、習得すると同時に、企業と産業の現実の動向を知り、特に「サプライチェーン」についての問題関心を養うことを目指して、巨大企業の存立を支える株式会社制度の形成や展開、その現代的な課題について考察していく。現代企業の具体的なあり方は、それぞれの産業における技術と市場、国ごとの条件に規定されて、多様である。ここでは、フレキシビリティの構築をキーワードとして、産業・企業の現実の動向を探っていく。	
	経営学 2	現代企業の環境変化への対応のあり方を探っていく。企業は、生産・流通を含むトータルなシステムとして、市場動向への迅速な対応を図ることが求められている。この授業では、まず事業システムとの関連において、マーケティング分野の基礎を理解する。次に中小企業に注目する。中小企業は巨大企業を軸とする企業システムを根底から支えるのと同時に、ベンチャービジネスとして、あるいは中小企業間での情報、物流ネットワークの形成によって、相対的自立性を備えて存在していることを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	地理学 1	グローバル時代とよばれる現代、幅広い世界が舞台となり、多様な地域が強くむすびついてゆくなかで、異文化やその多様性の理解が求められる。この授業では、地球規模でみる自然環境や人間活動の関係を「文化圏とその地理的背景」というテーマでとらえる。具体的にはさまざまな「文化圏」（地域）を対象として、それぞれの文化圏がどのような環境下で成立・発展してきたのかという「地域の法則性」について考察するとともに理解していく。	
	地理学 2	グローバル時代とよばれる現代、「孤立」した都市はない。都市は「みえない糸」で複雑にむすびついている。そのむすびつきは地球規模で全世界に広がっている。また、都市は多くの人々の生活の舞台でもある。この授業では、「都市の地理学」をテーマにおき、都市の実態を日本、奈良県、天理市という地域スケールのちがいをからみてゆく。そして、宗教都市である大学所在地の天理という場所をテーマにして、地域研究や地誌的な立場から、大学所在地としての身近な地域の「地理学」を理解する。	
	日本国憲法	我々の生活に欠かせない法、特に憲法について学び、わが国の基本的な仕組みを説明できること、さらに、そのしくみについて批判的に検討できることを目指し、基礎知識であるわが国の統治機構について学び、憲法について現在問題となっている憲法の総論にあたる部分、すなわち憲法の成り立ち、基本原理、幸福追求権、平等権、表現の自由などの重要なトピックを取り上げる。また、憲法に関する新しい問題が発生したり、重要な憲法に関連する裁判所の判断（判例）が出た場合には、適宜授業の中で取り扱う。	
	法学	我々の社会生活において、法がどのような役割を果たしているのか、またどのように作用しているのかを理解し、法学について、基本的な知識を体系的に身に着けるとともに、具体的な裁判例を検討して応用力を養うことができることを目指して、民事法、刑事法について学ぶ。民事法については、実体法である民法を主に取り上げ、財産や家族に関する争いを裁定する法である民法の概要を学び、刑事法については、手続法である刑事訴訟法を主に取り上げ、捜査や裁判の手続き、及びその運用についての問題点などを学び理解する。	
	経済学 1	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになるとともに、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになることを目指す。この授業では歴史を学ぶ前提として地理学の面白さを伝え、そのあと、古代中国のさまざまな発明からイギリス産業革命までをとりあげ、世界経済の発展をたどり理解する。	
	経済学 2	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになる。そして、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになる。この授業ではおもに20世紀と現在の世界経済をたどる。イギリス産業革命の影響からアメリカが独立し電力革命を経て20世紀の経済大国になるまでを理解する。また、中国経済の成長がアメリカ経済とデジタル面でどのような競争関係にあるかもとりあげる。	
	政治学	政治に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、学問的観点から政治と向き合うことができるようになることを目的とし、なぜ民主主義がふさわしい政治体制だとされているのか、民主主義は実際にどのように運用されているのか、政策はどのように作られるのか、といった点に加えて、これまでの政治学そのものに疑問を投げかける視点や国際政治について学ぶなかで、自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指す。	
社会学	社会学の研究対象となるさまざまな領域について、日本を中心とした現代社会の事例を参照しながら、その代表的な領域に触れることで、社会学の学説史や主要概念とともに、社会的な見方や考え方の基本を習得する。講義では、行政統計やメディアの情報などを積極的に扱うことをつうじて、市民としての見解や行動をかたちづくる上で必要な情報やデータにどのようにアクセスし、それを読み取り、さらには活用していくかについても学修する。		



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	民法 1	一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語などについて学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、民法の作用について、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
	民法 2	民法 1 に続いて、一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語等について学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
	行政法 1	行政法の概要・基本原理を理解できること、行政法と行政の体系を理解できること、行政および行政法に関する知識を学びそれを身につけることができること、主体的に自立した市民として行政に参画できる能力を身につけることができることを目指し、行政法の基本原理を学んでいく。法学部生以外には、馴染みが薄い行政や行政法とは何かについて、身近な例を取り上げできるだけ理解できるように説明をしていく。そのうえで、法治主義、国や地方の行政とそれを支える公務員制度等を学ぶ。	
	行政法 2	国家補償法の概要に関する知識を得ること、国家賠償法と行政救済との関係について体系的な理解を深めること、行政により市民が被害や損害を受けたとき、どのような法的救済の仕組みがあるのかを理解できること、地方自治とは、どのようなものか深めることができることを目指し、行政法を具体化する行政と市民の権利利益を保護する行政救済法および救済制度を学ぶ。その際、事例（裁判例、判例）を主な素材にして具体的な行政救済法と救済制度を学ぶ。	
	哲学概論 1	古代から近代にかけての西洋哲学について、その概要を原典を読んで学ぶことを通じ、哲学者の考えに直に触れ、議論の論理展開を細かく追うとともに、その作業を通じて取り出された哲学的な問いを自らにひきつけて考察し考える。これらの一連のプロセスを通じて、哲学を学ぶとは、哲学者の名前や学派のキーワードや概要を暗記することではなく、先人の思考を引き受け、いまを生きる一人一人が自分の力で考えようとする営みであることを理解する。	
	哲学概論 2	哲学概論 1 で扱った古代から近代における哲学的問いの展開についての理解を元にしなが、西洋近代哲学について、著名な哲学者の原典（日本語訳）を取り扱う。内容の詳細な検討と理解にもとづき、自ら問いを設定し、それについて考えを記述するという一連のプロセスを何度か繰り返し、哲学という営みを実際に経験することを通して哲学的について理解するとともに、哲学的な見方や考え方を実際に活用できる形で身に付けていくようにする。	
	倫理学 1	倫理学という学問的な切り口から人間的現実をとらえる。とくに欧米の近現代の哲学者の倫理思想を紹介しながら、私たちの人間理解を豊かにしてくれるような、人間知としてより深められた倫理的人間学を探究する。そのために、倫理思想に関するいくつかのトピック（たとえば、重要な概念や思想家、思想潮流など）を説き起こしながら、倫理学の基礎となる人間観、および、哲学・倫理学の諸概念について考察することを通して理解する。	
	倫理学 2	倫理学 1 が倫理学基礎論をテーマとしたのに対して、倫理学 2 は応用倫理学を扱う。倫理学は正に、「人間が行動する筋道」を問う学問である。その守備範囲である、愛・幸福・自由・悪・正義などといったテーマは抽象的で近寄りやすいイメージを与えるが、実は誰にでも取り組める、親しみやすい学問である。応用倫理学の諸分野の中から、生命倫理、愛の倫理、政治倫理、宗教倫理、労働倫理、環境倫理などについて取り上げて検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般 教養 教育 科目 目 群	心理学 1	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、前半は「記憶」「知覚」「学習」などの心理学の基礎的な概念について、簡単な実験などを用いて体験的に理解できるよう授業を進め、後半は実際の人の心について、事例の紹介や心理テストの体験など通じて自分自身の心について触れる機会を設ける。	
	心理学 2	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、授業の概要 講義期間の前半と後半で、2つのテーマを取り上げる。前半は「心の発達」、後半は「無意識の世界」に関する内容となる。前半は、生まれてから現在の青年期に至るまでの心の発達の道筋をたどる。後半は、自分でもコントロールできない心の世界「無意識」について、その働きを理解する。	
	ジェンダー・セクシャリティ	「性」とは何か、性の多様性とはどのようなことか。性的マイノリティとは何をいうのかを課題とし、セクシュアリティの内実を「生」と関連しながら、事例をもって紹介しつつ、現実起こっている「性」と「生」の問題に向き合う。現代の課題のひとつとして、「ジェンダーの視点」「ジェンダー平等」「セクシュアリティ」について、特に、文化や伝統、文化など、私たちの社会の精神的背景となっているものに、ジェンダーという視点を導入することの意義を検証していきたい。また、「男女共同参画社会基本法」や国際連合の世界女性会議を中心とした動向に注目する。	
	近現代の遺産と未来	21世紀の現代社会が抱える人権・差別問題とその解決について、マイノリティの視点から学ぶ。沖縄の歴史を学ぶことを通して、日本の近代化、とくに戦後の高度成長期に資本至上主義の価値形成のもとで深化した労働問題、女性問題、外国人差別、トランスジェンダーをはじめとする様々なマイノリティへの差別・排除という現代日本が抱える課題および冷戦期の政治的暴力が顕在化する社会を相対的に捉え直し、多様で異なる存在を相互に尊重することができる公平で成熟した本来の意味での近代社会を創造していくための視点を養う。	
	宗教と芸能	日本の古代から近世、近代のそれぞれの時代に展開していた、宗教を契機とした文化（芸能）に関して理解し、芸能が地域社会に支えられていることや、地域社会における芸能の特徴、役割、意味について説明することができることを目指す。主に扱う事例は、奈良で古い歴史を持つ春日若宮祭礼である。この祭礼には、雅楽・田楽・猿楽など多くの芸能が付随している。しかも歴史の中で変容しており、この変化を追うことで芸能から時代を投影することができる。このほか、南都の法会、地域の都市祭礼、おかげ参りについても言及する。	
	労働と社会	近年、労働形態の多様化により労働のありかたが変わることで、一国の経済状況のみならず、人々の生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与えている。この授業では、とりわけ19世紀後半から現代にかけての労働と労働に関する思想を中心に読みとくことで、現代社会の日々の日常のなかで労働のありようについて再考する。そのためには、労働そのものについて理解するだけでなく、それが社会の中でどのように機能しているか、そしてその背景を読みときながら、考察する。	
	障害学	障害には様々な側面（医学モデル、社会モデル、当事者視点等）があり様々な方向から考察していかねばならない。障害について考えることは各個人の生活や人権意識そのものに関わって行くものであり正解のない問いである。授業では障害観の歴史の変遷、医学モデル、社会モデル、障害者を取り巻く多くの事象を学び、学生自身も小中学校で経験してきた特別支援教育を振り返り、当事者視点、多様性について自分事として考えることを通して、共生社会を生きる基礎的な知識を身につけ行動力につながる学びとする。	
	世界の文学 1	世界文学とは世界的な普遍性を持つ文学であることを、作品の精読を通して理解するとともに、自分なりの解釈ができることを目指す。その手段としてその国や地域における固有の文化、思想、哲学について学び、時代精神を理解する。それでもなお残る謎や不可解な部分を掘り下げて追究し、文学作品に通底する人生の不可知について理解するとともに、もって人生についての考察を行うため、具体的な英文学の作品をいくつか取り上げて講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	世界の文学2	世界文学を理解する手法の一つである比較文学研究を通して、ある国・地域固有の文化、時代精神、哲学がいかに越境し、相互に影響を与えていくかについて学び、世界文学の共通性、普遍性、文学そのものに内在する謎を掘り下げて追求する。テキストそのものを読み込む内在批評と同時に、テキストには書かれていない外在批評について学び、人類に普遍的なテーマを知ること、人生を生きる上での指針を得るため、英文学作品と日本文学作品を取り上げて講義を行う。	
	カルチュラルスタディーズ	カルチュラルスタディーズの方法論と研究調査は、1970-80年代のイギリスで盛んに行われ、1990年代半ばに日本社会に入ってきた。この授業では、カルチュラルスタディーズの核心である「文化と権力の間の関係」が欧米並びにアジアでどう展開しているのかを多様な文化を事例に解説していく。こうした学問の動向をふまえ、本授業では、受講生が各自で文化調査を実施し、多様な文化をとりあげるなかで、カルチュラルスタディーズの現状について学ぶとともに文化的格差の理解を試みる。	
	宗教と現代社会	社会的存在としての人間にとって、宗教がいかなる意味や役割をもつのかという問いを基本に据え、その問いを、インターネット、災害支援、労働、生命倫理、戦争、スピリチュアリティといった、現代世界における多様な問題との関連という視点から具体的に考える。特に、伝統的な宗教の理解を踏まえながらも、その今日的な変容といった観点から、従来は宗教とは見做されていなかった領域において、「宗教的」な要素を見出せることを学ぶ。	
	人権と差別1	人類の多年にわたる歩みにおいて、宗教（宗教的なもの）は、人びとの精神形成や、人と人が結び社会的関係の形成に大きな役割を果たしてきた。宗教は、人と人との関係をより望ましい方向に導いていくという肯定的な働きを果たすとともに、人びとの関係に歪みをもたらすという否定的な働きを示すこともしばしばあった。歴史のなかから宗教と差別の関係を読み解いていくことは、これからの社会を担う私たちにとても大きな意味を持つものだと考えている。この授業では、前近代日本社会の宗教と差別の問題について授業を進める。まず、人権や差別の定義、宗教の定義など基本的概念の確認を行ったうえで、古代から近世までの、部落差別問題を核として宗教と差別の関わりについて考察していく。	
	人権と差別2	これから社会人（教師も含む）になるにあたって、必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決をはかるか、自分で考えることができるようになることを目指し、社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る。事例などを交え、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、コミュニケーション力などが育成できるよう、より実践的な人権学習の方法を学ぶ。	
	日本手話A	聾者の言語である「手話」を学び、人と人との関わり方や「共生社会」構築のうえでどのように自らが寄与するのかを考える。「手話は言語である」の意味を説明できること、自己紹介を手話で表現できること等を目指す。2006年に国際連合で採択された「障害者の権利条約」を根拠として、言語としての「手話」について基礎から学び、日常会話に必要な手話単語の習得や、手話表現技術を学ぶ。随時、手話学及び障害学の講義、ビデオ学習を行う。	
	日本手話B	「日本手話A」の単位取得者を対象にする。聾文化を理解し、社会における人と人とのあり方を学び、「聾文化」について自らの言葉で説明できること、日常会話を手話で表現できることなどを目指す。「聾文化」をテーマにして、聾者と聴者の世界の違いを踏まえ「共生社会」とは何なのか、受講生とともに考える授業にしたい。日常会話は勿論のこと、ある程度の手話通訳が可能になるまでを目標として、実技演習を中心に進めていく。	
	アウトドアスポーツ	自然環境を活かして行われるアウトドアスポーツ（野外活動）について、いくつかの活動を取り上げ、生涯に渡って親しむために必要な知識・技能を身につける。アウトドアスポーツ（野外活動）の魅力、各種目に必要な知識・技術、自然の中で行われるがゆえの危険とその回避方法など、学外での実習を通して身につける。学外実習では、主に、カヌー、登山、ハイキング、キャンピングスノースポーツなどのアウトドアスポーツをおこなう。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	一般教養教育科目群	レクリエーションスポーツ	レクリエーションスポーツは、誰でも、どこでも、気軽に楽しめるスポーツであり、既存のルールやコート、用具を簡素化したり、工夫したりすることで年齢に関係なく手軽に楽しめるスポーツである。本授業では、ウォーキング系、ボール系、自然系、ラケットバット系種目などの各種レクリエーションスポーツを行い、勝敗にこだわらないスポーツの楽しみ方を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいく基盤を構築する。	
		ニュースポーツ	ニュースポーツは、レクリエーションスポーツと同様に、新しく考案された各種スポーツで、軽スポーツや柔らかいスポーツとされるニュースポーツに触れ、楽しむことを目的とする。本授業では、ディスク系、ヒーリング系、スティック系、ロープ系の種目等を体験し、勝敗にこだわらないニュースポーツの楽しさ、創造性、柔軟性、独自性、多様性を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいくいわゆる生涯スポーツに繋げていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
宗教学科専攻科目	天理教学概論 1	天理教学を学び、かつ研究を進めていくうえで必要な基礎的知識を学び、研究の姿勢や方法を身につける。人はなぜこの世界に生まれ、何のために生きているのか。生命はいつ、どこで始まったのか。こうした人間の根本的な問いについて、天理教を信仰する人々には、教祖を通して開示された親神の「教え」がある。人類に与えられた究極の「こたえ」であるこの「教え」を学び、実践し、真実の「こたえ」と共に生きることを意味を求め続けていくことが、天理教学の課題である。	
	天理教学概論 2	人間は、生や死、世界をめぐる根本的な問いについて「考え」（哲学）、また直感的にこたえを「表し」（芸術）、あるいは超越的な立場からこたえを「示し」てきた（宗教）。天理教を信仰する人々には、教祖を通して開示された親神の「教え」がある。この「教え」を学び、探求し、実践し、真実の「こたえ」とともに生きることを意味を求め続けていくことが、天理教学の課題である。「天理教学概論1」の学習を踏まえ、この「概論2」では、特に歴史研究や実践活動の研究の意義について学ぶ。	
	天理教教祖伝概説 1	教祖のひながたを深く学ぶことによって、その意味を正しく理解し、自分自身の生涯の指針として実際に役立つことができるようにすることを目的とする。授業の進め方としては、『稿本天理教教祖伝』を各章ごとに解説し、『教祖伝逸話篇』や原典も参照しながら、教祖の生涯を学ぶ。各章二時間ないし三時間程度で拝読し、読み解いていく。具体的には、教祖が「月日のやしる」に定まった経緯（第一章「月日やしる」）から説き起こし、つとめの教示とその意義（第五章「たすけづとめ」）について解説する。	
	天理教教祖伝概説 2	「天理教教祖伝概説1」で修得した『稿本天理教教祖伝』前半の理解を踏まえたうえで、この「概説2」ではその後半、第六章「ちば定め」から入り、明治期以降の教祖のひながたのあゆみについて、明治二年から執筆が始まった「おふでさき」の言葉も参照しつつ解説していく。さらに、「御苦労」の史実と意義について、また教祖が扉を開かれた意義についても考察する。最後に、「教祖存命の理」について、教祖伝の分脈におけるその意義について解説する。	
	宗教史概説 1	いわゆる「アブラハムの宗教」、つまりユダヤ教・キリスト教・イスラームという、共通の出自と思想的な類似性を持つ三つの一神教的伝統の歴史と思想に関する基本的な事柄について学ぶ。特に、それらの歴史的経緯において、信仰共同体、聖典、教義などがいかにして形成されるに至ったかについての基本的な知識の習得を通して、これらの宗教伝統に対する誤解や偏見を見極めることのできるフェアな能力（宗教リテラシー）を身につけることを目指す。	
	宗教史概説 2	東洋の思想や文化の形成・発展には、インドで生まれたヒンドゥー教と仏教という二つの宗教伝統が非常に大きく影響した。この二つの宗教伝統が、アジアでどのように受容され、その過程においてどのように変容していったのかを通史的に紹介する。具体的には、古代インドにおける宗教状況から始め、学期前半では主にヒンドゥー教の歴史的展開について、後半では仏教の起こりと思想、及び中央アジアや東南アジア、さらには日本への影響について、その歴史的な流れを追いながら解説する。	
	宗教研究基礎演習	宗教学の基礎的な知識を身につけながら、大学での学習および研究に不可欠な文章の読解能力と「自ら考える力」を養う。具体的には、担当教員の指導のもとで特定の基礎的なテキストを読み進めながら、宗教の諸要素や多様な現象形態についての理解を深めるとともに、学生自身が理解したそれぞれの内容を授業中のディスカッションの際に発表し合い、討議を重ねることを通して、宗教学的なものの方や考え方に習熟し、「宗教学」という学問の基本的性格と全体像を把握する。	
	宗教学概論 1	宗教研究に関する知識と理解を深めるとともに、経験科学としての宗教学の立場と研究分野、方法論など、宗教学という学問の全体的な輪郭を把握することを目的とする。宗教とはなにか、信仰とはなにか、といった課題について深く理解したうえで、宗教学という学問の成立過程の思想的・文化史的背景について解説する。西洋における宗教学の学説史のみならず、それを踏まえた上で、日本における「宗教学」の成立と展開についても紹介したい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
宗教学科専攻科目	宗教学概論 2	祈り、祭り、儀礼、聖地巡礼、慰霊と追悼といった「宗教」を構成する主な要素について、現代的な諸相を紹介・検討しながら、それらについて考える際に有益な宗教諸学の古典的な理論について学ぶ。そうした考察を通して、宗教学（宗教研究）が人間を理解するための手掛かりとして大きな意義を担っていることを理解するとともに、現代の世界において、宗教あるいは宗教的なものの多様な形態がいかなる現れにおいて見ることができるのかについて考察する。	
	現代宗教を読み解くゼミ 1	日本において現在話題になっている政治と宗教、寄付、2世問題などの問題や、世界的な政治や経済の動向と宗教の問題など、現在起こっている諸問題を「宗教」の視点から考えることを念頭に、さまざまなテキストを読み解いていく。具体的には、毎時間、テキストの内容をレジュメ化してプレゼンテーションし、それに対して質疑応答、ディスカッションを行い、まとめに、内容の要約と自らの意見を文章化することによって、テキストと世界の諸問題を読み解く力と、自らの意見を論理的に説明する力を養う。	
	現代宗教を読み解くゼミ 2	「宗教」を中心的なテーマに据えつつ、ウクライナ問題や世界的な感染症等のマクロな課題から、大学生活や就職活動など身近な問題など幅広い文献を読み、現代社会を生きる上で必要な知識と読み書きの技術の習得を目指す。とくに、複雑な世の有様を安易に簡略化せず、複雑なまま理解するために、一人ひとりの習熟度に応じた読解を目指す。また、レポート作成においては適切な要約・引用の仕方を練習しながら、他者の意見と自分の意見を明確に区別しつつ、他者の知恵を借りることを学ぶ。	
	伝道実習 1	天理教の信仰に関する講演会、教会本部や大学構内でのひのきしん活動などを通じて他者へ貢献することの意義を学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふぼく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に主体的に貢献できる人間になることを目的とする。具体的には、大学行事である「おつとめまなび」への参加、毎月1回のひのきしん活動への参加、「信仰フォーラム講演会」への出席、とそれぞれに関する感想文ないし報告書を提出する。	
	伝道実習 2	天理教の信仰に関する講演会、天理教教会本部における「お節会」のひのきしんなどを通じて人とつながり、人につくすよるこびを学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふぼく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に貢献できる人間になることを目的とする。「おつとめまなび」に参加し、講話についての感想文を提出する。また、教会本部お節会のひのきしんや「信仰フォーラム講演会」に出席し、その感想文を提出する。	
	伝道実習 3	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の「祭儀式」における所作と重要な祭儀である「つとめ」の「おてふり」について、実習を通して学ぶ。それぞれ、教会本部より講師を招き、直接指導を受ける。それぞれの授業の最終日に、天理教の祭儀に関する基礎的な知識と所作、「つとめ」の手ぶりについて筆記・実技の試験を行ない、習熟を促す。	
	伝道実習 4	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の重要な祭儀である「つとめ」において使用する「鳴物」について、実習を通して学ぶ。教会本部より講師を招き、いくつかのグループに分かれて直接指導を受ける。最終の2回は、全体で九つの鳴物をあわせる総合練習を行い、鳴物の基礎的な知識と奏法だけでなく、それぞれの鳴物が合わせあって勤めるというつとめの心構えを学ぶ。	
	天理教原典学 1 概説	まず、天理教原典における「おふでさき」の位置づけについて解説したうえで、その編集の歴史及び研究史について概観する。特に研究史については、その問題点についても議論する。そのうえで、「おふでさき」の各号ごとに、その特質、執筆の目的、及びその内容について、できる限り詳しく検討していく。それと併せ、履修学生も毎週各自で「おふでさき」の該当箇所を読み、疑問点などを見つけてくることを求める。それらを授業で取り上げて解釈を深めたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
宗教学科専攻科目	天理教原典学 2 概説	天理教の教理と信仰における原典の位置、ならびに原典における「みかぐらうた」の位置を確認し、それぞれの原典について解題する。また、「みかぐらうた」を唱えつつ読むことによって、天理教の教理と信仰の奥行を理解するとともに、「みかぐらうた」のおうたを学術的に読み味わう努力をする。さらに、「おつとめ」とその歴史の概要を理解する。毎回の授業時間のうち、前半は「みかぐらうた」を唱えつつ各下りを解説する。後半は主に板書を用いて講義を進める。	
	天理教原典学 3 概説	天理教原典の位置とその内容について概観し、「おふでさき」と「おさしづ」との関係について解説する。そのうえで、「おさしづ」における教理展開の特徴について論じ、原典のこたばを体系的に理解する手引きをする。さらに、具体的にいくつかの「おさしづ」のおこたばを読み味わうことによって、天理教の教理と信仰の奥行きを理解することを目指す。また、教祖のひながたや、先人の教話における「おさしづ」の意義についても検討する。	
	天理教学特殊講義 1	現代世界において人々に天理教をどのように伝えていけばいいのかを考えるために、「取次ぎ者の話の台本」とも言われる「こふき」について学ぶ。具体的には、二代真柱の『こふきの研究』にもとづいて「こふき」の基本的な意味や、教学におけるその位置づけ等について確認した後、『天理教関係古文書① 加見兵四郎・日本古記』を用いて、東海大教会初代会長加見兵四郎が遺した「こふき」本の原文にふれていく。原文を直接読んでいくことで、教祖の時代から伝わる教えに直にふれつつ、現代を生きる者の信仰を改めて捉え直していく。	
	天理教学特殊講義 2	現代社会における「人だすけ」の実践例に接することで、社会問題に天理教の立場からいかに応答・対応できるかについて、自ら深く考える姿勢を身につける。具体的内容としては、天理よろづ相談所「憩の家」事情部の活動と、東日本大震災における天理教の災害救援ひのきしん隊の活動、天理教の里親活動の特徴をみていく。その際、活動の紹介だけでなく、その活動を支えている天理教の病観、心身観、救済観にもふれながら、現代社会が抱えている課題にいかに向き合っていくのかを共に考えていく。	
	天理教学特殊講義 3	天理教の「教会」の歴史や意義について学び、それぞれが「教会」に主体的に関わっていくきっかけをつかむことを目指す。テキストとして深谷忠政著『天理教教会学序説』を用いながら、天理教における「教会」の歴史や学術的な意義などについて概説する。そうした学習を通して、受講生一人ひとりが自分自身と「教会」とのつながりを振り返り、今後の信仰生活における教会との関わり方について、自らの考えを深めていってもらいたい。	
	天理教史特殊講義 1	明治・大正・昭和初期という日本の歴史の激流のなかで、現在の教会制度の基盤を形成してきた天理教の歴史は、近代的宗教概念の導入と定着により、目まぐるしく宗教政策の転換をくり返した近代日本の政治体制や社会状況と密接に関わっている。また、一方でその歴史過程には、教祖の深い思惑や意志の反映を感じる場面が少なくない。この授業では、ご存命の教祖の思召をたずねる「信仰史」の立場から、近代日本における天理教の歴史を辿る。	
	天理教史特殊講義 2	天理教史の全体の流れを理解し、その中の諸事象を学びつつ、将来に生かせる言葉や方法を身につけることを目指す。まず明治20年以降の教会史を三つの段階に分け、それぞれの時代的な特徴について理解する。さらに、伝道史については各地方ごとに先人の足跡を辿っていく。最後に、本教の海外伝道の歴史についても概観する。こうして教祖から一貫して流れる信仰の精神をたどり、その歴史的理解を通して、さらに私たちが生きる現代について考えたい。	
	宗教学特殊講義 1	政治と宗教をテーマに、アメリカ合衆国をおもに事例として取り上げながら、国家の成り立ちや社会の状況と宗教との関わりを学び、宗教が果たしてきた役割・機能を理解する。特に、アメリカ合衆国の建国や、合衆国憲法における政教分離など、宗教に関わる国の基本的な制度の成り立ちを確認したうえで、20世紀以後のアメリカにおける宗教、とりわけ、キリスト教の神学的な運動と社会の動きとの関わりを、新聞記事などを取りあげながら概観する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
宗教学科専攻科目	宗教学特殊講義 2	人間は社会との関わりのなかで生きているため、一人で生きていくことはできない。本授業では、現代において宗教が直面するさまざまな課題に注目することで、現代社会における宗教の位置や意義について検討する。授業では、災害復興、生命倫理、労働、戦争、世俗化、スピリチュアリティといったテーマを取り上げ、それらにおいて宗教がいかなる役割を果たしているのかについて、日本における具体的な事例を挙げながら解説していく。	
	宗教学特殊講義 3	これからの「世界」を生きるために、世界の宗教文化について学ぶことを目的とする。具体的には、現代世界のさまざまな宗教文化について、文明論的な視座からその分布を再検討するとともに、各地の宗教思想の歴史的な成り立ちを紹介し、これからの世界を生きるために必要な宗教文化の基礎的な知識を学ぶ。また、最新のニュースや動画配信などを活用しながら、現代世界の宗教事情をリアルタイムで紹介し、宗教に関する情報や知識をより現実的に学ぶことを目指したい。	
	宗教学特殊講義 4	一神教的宗教思想伝統において「悪」の問題がいかに捉えられてきたかという問いを、特にキリスト教神学・思想における見解、また西洋哲学における議論を軸に概観する。学期前半では、グノーシス主義や新プラトン主義に対するキリスト教弁証家、東・西教父らの見解、及び中世スコラ学における主な議論を紹介する。後半からは、西欧思想史における「神議論」の生成、及びそれに対する西洋近代哲学のさまざまな反応とその宗教思想史的な含意について考察する。	
	宗教史特殊講義 1	アジアを中心に世界に広まった仏教は、伝播の過程で様々な要素を取り込み、多様な発展を遂げ、それぞれの地域において独自の文化を形成していった。歴史を遡ると、仏教は地域的にはインドを源泉とし、思想的には釈迦という一人の出家者に帰一する。この授業では、仏伝や碑文、歴史書などを手掛かりに仏教の源流を訪ね、インド仏教を通史的に紹介する。前半では釈迦の生い立ちから出家、入滅までの歩みを辿り、後半ではサンガの形成から大乘仏教の形成と展開について解説する。	
	宗教史特殊講義 2	6世紀の日本に伝来した仏教は既存の文化や社会の枠組みと融合しながら、日本の人々の暮らしと歴史に大きな影響を及ぼすとともに、日本的な「宗教性」の発露ともいべきユニークな仏教思想を展開してきた。この授業では日本仏教の思想的展開を学ぶことによって、現代の日本社会にも共通する課題について考えていきたい。また、日本人の生活のなかに溶け込んでいる、身近な「仏教」の制度や習慣などについても、具体的な事例に即して広く紹介していきたい。	
	宗教史特殊講義 3	イエス・キリストの教説から生起した新しい宗教運動としてのキリスト教が、西欧社会の歴史の中でいかなる展開を遂げ、またそれが近・現代世界の中でいかなる位置を占めるに至ったかという問題を、思想史的・社会的視点から巨視的に概観する。まずはキリスト教の旧約的背景から説き起こし、中世盛期のカトリック教会までの歴史的展開を、教会、聖典、神学、伝道などをキーワードにして、中世までのキリスト教の歴史を巨視的に捉える視点を習得する。	
	宗教史特殊講義 4	「宗教史特殊講義 3」の学習を踏まえ、この「特殊講義 4」では、中世末期から近代に還流するまでの西洋キリスト教の歴史的展開、特に宗教改革とその帰結の意義について学ぶ。キリスト教という宗教が、現代の西洋世界の精神的基盤としてのみならず、現代世界における法・政治・経済といった広範な領域を背後から規定するものであることを理解する。それによって、キリスト教とその文化圏の歴史的背景についての基礎的な知識を習得してもらうことがねらいである。	
	宗教史特殊講義 5	イスラーム（イスラム教）は、多くの人間がその名前を知っていながらも、その教えの内容についてはほとんど知られていない。私達には一見したところ厳格に見えるイスラームを、思想レベルから説明することができることを目指す。イスラームを基礎から学ぶ入門的な授業である。内容としては、イスラームの基礎知識から入り、神の言葉としての正典「クルアーン」、預言者ムハンマドについて解説する。そのうえで、イスラームの法学、神学、及び神秘主義の伝統について概観する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
宗教学科専攻科目	宗教史特殊講義 6	現代世界において、イスラーム（イスラム教）は、「テロ」や「危険」などの否定的なイメージでしばしば理解されている。しかしながら、多くの人間は、イスラーム教の教えの内容についてはほとんど十分な知識を持っていない。そこで、本授業では、現代世界におけるイスラームについて説明することができるようになることを目指す。より具体的には、近代世界におけるイスラームの思想的・実践的課題の諸相を取り上げ、それぞれについて具体的な事例を通して解説していく。	
	宗教科指導法 1	宗教を教科として教えることの意味、とくに学校教育の現場で教えることの意味について学習し、教育科目の一つとして「天理教」を教授することの意味について考える。また、教科としての「天理教」の内容や教授方法の特色についても、現役の宗教科担当の高校教員をゲストスピーカーとして迎え、実践的な指導をする。そのうえで、実際に『天理教教典』や『稿本天理教教祖伝』の模擬授業を行ない、教案の作成や講義の進め方といった、具体的な授業の方法について学ぶ。また、宗教科指導におけるICTの活用法についても学んでもらいたい。	
	宗教科指導法 2	宗教科指導法 1 で修得した「宗教科」についての知識と技能を復習したうえで、特に天理学園内の中学校・高等学校の「宗教科」の指導に要求される具体的な知識および実践方法を習得するため、現役の宗教科高校教員を迎え、実践的な授業構成について講義を受ける。また、「指導法 1」と同様に、「宗教科」の授業において積極的にITCを活用する方法について、履修学生が主体的に習得することを目指す。毎回の授業の終わりには、授業の振り返りとしてディスカッションを行う。	
	宗教科指導法 3	中学校・高等学校における「宗教科」の教員資格免許取得を目指す学生を対象に、宗教科教育の理論と実践について学ぶ。特に宗教系私立学校の「宗教」の授業を想定し、そこで要求される教員としての基本的な姿勢や具体的な技能の修得を目指す。特に、宗教科指導法 1・2 で修得した「宗教科」についての知識と技能を復習したうえで、天理学園管内の中学校・高等学校の「宗教科」の指導に要求される具体的な知識および実践方法を修得する。	
	宗教科指導法 4	学校教育の場における宗教教育の意義および位置付けを確認し、中学校・高等学校の生徒に宗教について授業を行う際、実際にどこまでの知識が必要であり、また、どのような心構えで行わねばならないかといったことについて、講義を通して学び、模擬授業を通して身に付けていく。本学での資格免許取得者は、天理教管内の学校で科目「教義」を担当することになるので、天理教の教義が中心になるが、他の宗教についてもある程度理解しておく必要がある。	
	宗教研究演習 1	宗教学における古典的著作、あるいは天理教における原典などの重要なテキストを選び、そうした古典的文献を正確かつ丹念に読み進めていく。基本的には受講生全員で担当を分担し、各自で当該箇所を読解を行い、レジュメを作成して授業でそれを発表する。さらに、当該テキストについて、全体の授業を通して学んだ知見をもとに、学期末にレポートを執筆する。そうしたテキスト読解とレポートの執筆の作業を通して、卒業論文執筆の際の基礎的な能力を修得する。	
	宗教研究演習 2	宗教研究演習 1 で修得した知見を踏まえ、選択したテキストを読み進め、受講生全員が担当箇所を読解について発表する。3年次秋学期に行われるこの演習では、特に卒業論文に向けて自らの問題意識を明確にすべく、参考文献の収集の方法などについてもより具体的に学んでいく。さらに、そうして修得した知見を、学期末のレポート執筆におけるより実践的・主体的な学びに繋げていく。また、参考文献リストの作成や注の表記など、論分執筆に必要な具体的な知見も併せて学んでいく。	
	宗教課題演習 1	卒業論文執筆にあたって必要となる作業について、段階的に習得していく。具体的には、図書館やインターネットを使っての資料・文献収集、それらの読み方、テーマの絞り方、論文の構成の仕方（議論の展開の仕方）、論文執筆に際しての細かな注意事項などを学んでいく。春学期は、論文執筆における具体的な作業、例えば図書館、ネット検索、参考文献リスト、章立て、文献引用などについて学びながら、春学期末の「中間発表」の準備を進める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
宗教学科専攻科目	宗教課題演習 2	卒業論文執筆にあたって必要となる作業について、段階的に習得していくことを目指す。具体的には、図書館やインターネットを用いた資料・文献収集、それらの読み方、テーマの絞り方、論文の構成の仕方（議論の展開の仕方）、論文執筆に際しての細かな注意事項などを学んでいく。秋学期は、論文における議論の展開の仕方などを中心に学びながら、卒業論文の執筆を進めていく。毎回の授業で、一週間の進捗状況を受講生全員に報告してもらう。	
	卒業論文	卒業論文は、宗教学科での4年間の学びの集大成として位置づけられる。まずは、3年次秋学期の後半に提出した仮題目をもとに、そのテーマについて論文を執筆するために必要となる参考文献・資料を収集する。さらに、収集した文献・資料を的確に読解し、あるいは実地調査などを通して探究し、自らの議論の論点や構成、展開について、メモなどをとりながら具体的な形に収斂させていく。そしてそれらを章構成にしたがって文章化し、論文の体裁にまとめている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 人文科学部門	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か?」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力(話す・聞く・書く・読む)の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として立ち立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞(名詞、動詞、い形容詞、な形容詞)の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態(ます形、辞書形、て形、た形、ない形など)のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類)をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	
	日本語文法論 2	「日本語文法論1」の内容をもとに、主に日本語教育の初級段階で導入される重要な文法事項について考える。「ハとガ」「授受の表現(あげる・くれる・もらう)」「ヴォイス(受身・使役)」「動詞の自他」「テンス」「敬語」などを取りあげ、日本語学習者が難しいと感じる点、学習者の誤用が現れやすい点などを、諸言語との対照もまじえながら、わかりやすく説明するにはどうすればよいかについても考える。学生の積極的な意見交換が求められる。	
	日本語音声学	日本語の発音・アクセントの特徴とそれを教えるための留意点を整理したうえで、他言語を母語とする学習者が日本語の音声学ぶ際に誤りやすい点について考える。具体的には、日本語の音声の調音点・調音法、日本語の高低アクセントの実態、日本語の母音の無声化の現象などの理解をもとに、ともすれば「お国ことば」が混じりやすい主に関西出身の学生の日本語の発音を、日本語教師として通用するようなよりスタンダードなものに変えることを目指す。	
	言語の対照研究	日本語教育において、学習者の困難点を予測し、誤りの原因を推理し、適切な教材・カリキュラムを作るには、学習者の母語と日本語との比較・対照が必要である。それらを研究対象とする対照言語学について学ぶ。この授業ではまず、日本語と英語の文法的な相違を概観したうえで、中国語圏日本語学習者が誤りやすい文法現象について解説する。そのうえで、履修生が学習する外国語の知識も生かしながら、諸言語と日本語の対照も行う。	
	日本語教授法 1	現在国内外の日本語教育現場では、どのような学生が、どのような機関で、どのように学んでいるのかを理解する。日本語教師の資質、教員の検定試験についても概説する。次に、指定教科書を使って、学習項目のたて方、練習方法、教具や教室活動などを分析し、実際の授業がイメージできるようにする。授業前半では、国際交流基金の調査をもとに、世界の日本語教育の実態についての発表を行う。後半は数種の日本語教材の内容を精査し、効果的な授業の進め方について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
資格科目	人文科学部門	日本語教授法 2	履修者が日本語の授業を担当するために必要な知識やスキルを身につける。まず、いろいろな外国語教授法について学び、それぞれの長所・短所について議論しながら、実際の授業に応用できないか考える。次に、それらの教授法を用いて、模擬授業を行ってみる。履修生に「日本語を日本語で教える」ことの難しさ・奥深さを感じてもらうことが狙いである。この授業は、4年次で取り組む日本語教育実習に向けた準備段階と位置づけられる。	
		第二言語習得論	「外国語がどのように習得されるか」にかかわる普遍的なプロセスを多角的に学ぶ。例えば、「子どもは大人よりも外国語学習が得意か?」「インプットとアウトプットのどちらが大事か?」「大人も子供が母語を学ぶのと同じように学ぶべきか?」などのさまざまな疑問を切り口として、日本語教育に役立つような知見の獲得を目指す。そしてその知見を日本語教育の現場で生かすための実践的な取り組みを、授業で見られる具体的なケースをもとに討論する。	
		日本語指導法	4年次で取り組む「日本語教育実習」にそなえ、教壇に立つ経験を積むことを目指す。『みんなの日本語初級Ⅰ』をテキストに、担当の文型を教えるための30分程度の模擬授業を行う。あわせて、授業の教案の書き方についても学ぶ。履修者が担当するのは、「て形」「辞書形」「ない形」「た形」の導入およびその説明、運用のための練習に加え、「～がほしいです」「～たいです」「～がわかります」「～が上手です」などの文型である。	
		日本語教育評価法	実際の教育にあたる者は学習者の表現をどのように評価すればよいのかを考える。また、選択されている教材について、不足部分を検討し、副教材作成に至るまでの教材開発の流れについて知る。日本語教育における評価の実態、コースデザインと教材の関連性、教材開発の手順、ニーズ調査方法と留意点、主教材の分析と評価、分析結果に基づいたコース・デザイン、教材作成の留意点、学習目標とシラバス、などの分析を通して、副教材作りに取り組む。	
		日本語教育実習	学外の日本語教育機関で一週間ほど、日本語教師の業務を実地に学ぶ。実習先は奈良県内、大阪市内の日本語教育機関が中心で、海外（台湾）の協定校で実習を行うこともある。実習前半は主に授業見学と実習先教員のアシスタントをしながらさまざまな教員の授業スタイルを学び、授業がない時間には教案作成にも取り組む。実習後半には教壇実習として、実際のクラスで30分～60分程度の授業を行う。教壇実習終了後には指導教員からのフィードバックを受ける。	
社会科学部門	図書館情報システム論	今日の図書館における各種の業務・サービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接に結びついている。この授業では図書館の業務・サービスを実施するのに必要な、基礎的な情報技術について、さまざまな事例を通じて理解を深める。特に、(1)コンピュータ技術・ネットワーク技術の基礎的知識を踏まえ、図書館のさまざまな活動を支える「図書館業務システム」の現状を理解すること、(2)電子上の各種資料の管理・利用に関する注意点を理解すること、を主なねらいとする。		
	情報サービス論	図書館サービスの重要な局面のひとつに、「利用者の情報要求（情報ニーズ）に対し、図書館内外の情報資源をもとに回答する」という情報サービスがある。ここには、「参考図書をもとにした回答」という従来型のレファレンス・サービスだけではなく、インターネットなどの電子的情報源をもとにした回答、図書館からの情報発信、図書館利用教育、といったさまざまな取り組みが含まれる。この授業ではレファレンス・サービスを中心としつつ、さまざまな情報サービスについて解説する。		
	児童・YAサービス論	図書館における児童サービスは、図書館サービスのスタートラインであると共に子どもにとっての読書の入り口となっている。この授業ではサービスの意義と歴史、サービスの持つ特殊性、児童資料の種類と特色、サービスの在り方等に加えて、児童書に触れ、作品を取り上げての具体的な評価、子どもと本をつなぐ方法・技術（読み聞かせ・おはなし会の実演や体験）などを身につける。また児童サービスから一般サービスへの移行段階としてのYAサービスについても、この授業で取り上げる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 社会科学部門	情報サービス演習 1	この授業では図書館での情報サービスのうち、「利用者からの情報の要求に対し、何らかの根拠たりうる情報・情報源を提示しつつ応答する」という「レファレンスサービス」について、演習を行う。各回において具体的な情報源を解説しつつ、実際の課題を解いてもらう。図書館の「レファレンスサービス」に必要なさまざまな情報源について、調査対象となる事柄ごとに具体例を理解し、使い分けができるようになることを、ねらいとする。	
	情報サービス演習 2	図書館での情報サービスを展開する上で、各種データベースやインターネット上のさまざまな情報源を検索し、また検索結果を評価する技能を身につけることは、利用者の情報要求を満たすために今後ますます必要となる。この授業では、主にインターネット上の無料の情報源について、演習を通じて検索・活用する方法を習得することをねらいとする。言い換えれば、この種の各々の情報源の信頼性を確認しつつ、検索の仕方や活用法を理解し、目的や対象に応じた使い分けができるようになることが、受講者の到達目標となる。	
	図書館情報資源概論	図書館サービスを成り立たせる重要な要素のひとつは、「情報資源」の存在と、それを収集して構築した「コレクション」である。ここでいう「情報資源」は、伝統的な紙媒体の図書・雑誌といった「資料」にとどまらず、インターネット上の電子メディアなども含めたものを指す。この授業においては、図書館情報資源の種類と特徴を論じ、また図書館における情報資源の取り扱い、資料選択とその基準、コレクションの構築・保存・評価などについて説明する。	
	情報資源組織論	「情報の組織化」とは、図書館が収集した情報を利用に供するために、利用者の検索の便を考慮し、一定の方式（ルール）に従って、その情報源が有している各種の情報を整理・圧縮し、体系化することをいう。情報組織化の主な技術のうち、一つは情報を客観的に記述し、種々のことがらから検索するための技術である記述目録法、もう一つは情報の内容（主題）を分析・要約・表現するための技術である主題索引法である。本科目では、現行の具体的なルールの解説に加え、より原理的な考え方の理解に主眼を置いて講義する。	
	情報資源組織演習 1	図書館の情報資源についての主題索引法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・主題分析の方法が理解でき、対象資料の主題を明示できる。 ・分類法の構造と使用法が理解でき、説明できる。 ・特定の主題を分類法の記号に置き換えることができる。 ・分類表によって付与された分類記号がどのような主題を表しているかが分かる。 授業内では、日本十進分類法（NDC）の最新版に基づき、その適用規則を解説した上で、演習を行う。	
	情報資源組織演習 2	図書館の情報資源についての記述目録法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・記述対象資料に表示されている情報が書誌要素としてどれに該当するかが分析ができるようになる ・記述対象資料に表示されている情報を加工し、記述目録規則に従って記録することができるようになる。さらに、その情報について、データベースのコーディング規則に従って記録できるようになる。 授業内では、日本目録規則（NCR）およびJapan MARC formatそれぞれにつき、実務での運用に堪える版（バージョン）を取り上げ、適用方法を解説した上で、演習を行う。	
	図書館情報資源特論	図書館が管理・保存しアクセスに供する「情報資源」のうち、学術的な情報資源（学術情報）に焦点を当て、その生産・流通の実態、および図書館としての管理・保存・アクセス等をめぐる課題や取り組みについて解説する。特に、さまざまな領域の研究者がどのような研究活動を行い、その上でどのような成果を発信するか、またその成果の蓄積・共有のために図書館がどのような役割を担うか、さらには電子的環境でこれらがどのような新たな展開を見せているか、といった側面について、理解することを目的とする。	
	図書館情報学特論	日本古典籍資料とは何か、また、さまざまな国の古典籍資料のなかで、日本古典籍資料の各特徴について概観する。更に、図書館における古典籍資料業務の大まかな全体像について、見学や資料を参照しながら理解する。次いで、古典籍資料を実際に取り扱うための基本的な知識・スキルを学び、実際に手にとった取り扱いの基本を習得する。また、日本古典籍資料の組織化についての現状を知り、古典籍の総合目録の特徴や活用法を通して、その現状と課題を考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 社会科学部門	博物館実習 1	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者とともに、歴史資料・考古資料・民俗資料・美術資料の取扱い方法や展示方法など、歴史系博物館の学芸員として必要な基本的知識と技術を修得する。また、各種の博物館施設を見学し、多様な博物館の実態と課題を学ぶ。これにより、博物館や学芸員の業務の実際を理解し、実践的能力を養い、次の段階の館園実習で十分な成果があげられるよう、実際の知識・技能・態度見識を身につける。	共同
	博物館実習 2	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者の指導により、博物館の現場で行われている展示作業、資料整理、教育普及事業、資料調査などの学芸業務の一部を補助すると共に、具体的な実務を体験する。あわせて館内の展示施設やその他の施設・設備の状況を実地に学習する。実施にあたっては、原則として本学の附属博物館である天理大学附属天理参考館を実習館とし、同館の学芸員が指導にあたる。十分な指導が可能なよう適正な受講生数を配分したクラスを設け、それぞれ学芸員が担当し、通年中5日分の実習を集中講義で行う。	共同
	矯正概論	矯正の歴史と理念、矯正の機構と概要、関連法（刑事施設法、少年院法、少年鑑別所法など）の改正経緯と改正主旨、刑事施設の収容状況と受刑者の処遇、少年院及び少年鑑別所の沿革・組織・収容状況・処遇、外部協力者（教誨師・篤志面接委員）の活動について理解を深める。また、刑務官・法務教官・法務技官の職務などについて概説することを通して、概括的な矯正の歴史と現在の制度、及び、矯正に関連する職への理解を深める。	
	更生保護概論	更生保護は、犯罪や非行に陥った人たちの改善更生や再犯防止にとどまらず、犯罪の発生そのものを未然に防止する方策にまで拡大し、更には、心神喪失等の状況で罪を犯した人に対する医療観察制度や、被害者に対する施策なども導入され、警察、検察、裁判、矯正の諸制度とともに、現在刑事政策の重要な一翼を担っている。この授業では、更生保護の沿革を概観し、現行の更生保護制度の仕組み、手続き等、及び、実務経験からの処遇等について講義し、受講者とともに、犯罪や非行に陥った人たちの社会内処遇を考究する。	
	矯正保護教育（施設参観を含む）	刑事司法制度、刑事施設における各種改善指導、少年施設における矯正教育、更生保護制度の概要と課題、関係機関や民間協力者と連携した社会復帰支援、その他（刑務官・法務教官・法務技官・保護観察官）について概説する。この授業では、刑事施設や少年施設における各種教育活動の実情と課題について理解を深め、更に関係機関や民間企業等との連携の実情と課題、「世界一安全な国、日本」を実現するためには何が必要で、国民一人一人が何をなすべきかを正しく理解する。	
	矯正保護支援実践論	（概要）罪を犯す少年たちの心理的及び社会的背景から、その問題点を探ることにより、当事者の気持ちに寄り添った支援が出来るようになるとともに、再犯を防ぐため、将来保護司や教誨師などの公的な立場又は施設職員になり、社会生活への円滑な移行に役立たせるために準備性・計画性を持って、更生保護の支援が出来るようになることを目標に授業を展開する。保護司あるいは児童養護施設職員としての実務経験をもとに、犯罪者や非行少年の更正と社会復帰のための支援実践、また犯罪者や非行少年を抱える家族への支援のあり方と方法、さらには、矯正保護支援活動における問題点や課題などを、実践例をふまえながら理解する。授業は、オムニバス形式で行う。 （オムニバス方式/全15回） （84 高橋秀紀/6回） 保護司としての実務経験をふまえて、更生保護活動の具体的な内容と意義、矯正保護施設の現況と課題、性犯罪対象者の再犯事例などを内容として講義する。 （87 山本道次）/9回） 施護員の実務経験をふまえて、主な事例とその背景、児童虐待の現状と課題、家庭環境に問題を抱える事例、更生保護活動の実践例などを講義する。	オムニバス方式
	犯罪被害者支援論	捜査・刑事裁判などの刑事手続の流れや基本原則、法律の内容、これまで犯罪被害者が置かれてきた状況、犯罪被害者支援のための制度等についての知識や奈良を中心に犯罪被害者支援に関わる機関の取り組み等について、長年弁護士の立場から犯罪被害者救済の実務を担ってきた授業担当者からその実状を講義し、必要な知識を身につける。 弁護士として日頃裁判実務に関わり、現場で犯罪被害者を支援している経験から、支援の実際についても講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職論	我が国における教育の動向を踏まえながら、講義やグループでのワークショップを通して、今日の学校教育や教職の社会的意義や役割について理解する。事例や法令等の規程をもとに「教職の意義や教員の役割」について考察し、「教員の職務内容」や「服務や義務」について学ぶとともに、現代の学校教育の課題について知り、課題解決に向かって考え、行動できる素地を培う。「チーム学校」の一員として活躍できる資質や能力について考察する。	
	教育原理	私たちの教育言説のもとになっている思想・概念・用語について、基本的な知識を身につける。また、資料・教材を具体的に提示し、それに即しながら「教育とは何か」という問いについて考察を深める。こうした作業を通して、現代の学校教育に関するさまざまな状況・問題を学び、その歴史的経緯について考えるとともに、現代の教育に関して問題を発見する力、およびその問題を論理的に考える力、自分の考察・主張を他者に表現する力を身につける。	
	教育史	「教育」という営みは、歴史的・社会的な流れの中でどのように変遷・変容していったのか。時代ごとに教育の歴史的な流れを概観することを通して、教育史に関する基本的な知識を身につける。その上で、「資料」の解釈・評価・批判的検討を通して、受講生自身が「考える」（自らの主張・認識・価値観を論理的で具体的な文章として表現する）という練習を積むことを通して、「教育的に考える」ことの意味・意義について、自分なりの考えを深める。	
	教育課程論	教育課程論は、教員免許状を取得するための必修科目であり、教育課程の役割や意義、我が国の学校における教育課程の変遷(明治以前から昭和初期までの学校教育課程)ならびに学習指導要領の変遷について理解し、教育課程編成の基本原則について学ぶことを目標にする。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントしていく、カリキュラム・マネジメントの重要性や意義についても考察を深められるようにする。	
	学校教育心理学	学校教育に必要な心理学の知見について、「発達」「学習」「やる気」「知能と創造性」「人格(個性)」「適応」「障がい」「コミュニケーション」などのテーマに分けて講義を行う。「発達」については諸理論の概説を行いながら、人の心理的発達についての理解を深め、「学習」においては人に備わっている学びや記憶の仕組みを理解する。また「やる気・意欲」の引き出し方、「知能・創造性」の仕組みと発揮のための援助の仕方について解説し、生徒の「人格(個性)」に対する教育的かかわりについて、「適応」や「障がい」「コミュニケーション」の視点を加味しながら、心をもって生きている存在としての生徒を総合的にとらえていくことができるようになることを目指す。	
	学校教育社会学	教師の長時間労働、「いじめ」や学校の安全など、現代の教育現場では多様な問題が生じている。こうした学校教育をめぐる様々な問題を複眼的視点(制度的・社会的・経営的視点)から考えることができるようになるために、学校や子どもたちの生活をめぐる問題を具体的に理解し、現状の対応策や今後の課題について知識・理解を深める。また、今後のより良い教育・学校とはどのようにあるべきか、自らの考えをまとめることを通じて、現代的課題に対応する力を身につける。	
	道徳の理論及び指導法	国内外における道徳教育の理論やそれをめぐる歴史的経緯等の理論的側面と、学校における道徳科の学習指導案の作成方法等の実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な力を身につけることを目指す。 道徳教育について、「道徳」とは何か、何が「道徳教育」なのかという根本的な問いにまで遡りながら学ぶ。 道徳教育の基礎・基本、道徳教育の歴史、道徳教育の現状と課題について順に理解を深めていき、最終的には道徳教育の授業の実践が可能となるような授業展開とする。	
	教育方法学(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	教育方法学では、教育方法の基礎理論と実践を理解し、これからの時代に重要となる、主体的・対話的で深い学びの実現のための教育方法の在り方を理解できることを目標にする。そのために、教育の目的に応じた授業を行なう上で必要ないろいろな教育技術について知り、授業設計とその実践の方法について学んでいく。中でも、情報通信技術(ICT)を活用した教育の理論と方法については、具体的なツールやソフトを使用しながら、実際に授業で実践できるように、使い方や活用の仕方をパソコン教室で実地に学んでいく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 教職に関する専門教育科目	教育相談の理論及び方法	教育相談について、今日教育現場での需要が高まっているカウンセリングの理論と技術を紹介しながら、一人一人の生徒の悩みや困難に寄り添い、応えていくための実践的な知識についての講義を行う。不登校やいじめ、非行、思春期の精神的な失調に対する対応の仕方についても解説を行い、グループディスカッションなども取り入れながら、生徒とのかかわり方が身につく授業を工夫する。また、生徒のリアルに触れられるように、思春期の心模様を描いた映像資料も多く取り入れながら、実際に生徒とのかかわりに役に立つ学びを提供する。	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
	教育実習講義	教育実習に臨む前の3回生時に開講する授業である。授業では、まず、教育実習における心構えや必要な準備、学習指導案の書き方などについて、テキストをもとに具体的に学んでいく。次に、開講の各クラスにおいて、現場の中学・高校の現役教員を外部講師として招いて、実際の授業のノウハウについて、詳しく教授を受ける。そして最後に、ICTの活用なども取り入れた実際の教育実習における授業について、模擬授業を行い、教育実習に対する実践的な準備を行う。	
	介護等体験	中学校教員免許取得のための科目であり、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験に参加し、多様な人の生き方に触れることを通して、教師としての人間理解の枠組みを広げ、様々な生きる課題や困難を抱えた人とともに成長していけるための素養を培うことを目指す。テキストを用いながら、「人とかかわり」「尊厳とは?」「介護とは?」「施設とは?」などの内容について、計4回の事前指導を行い、活動後には課題レポートに取り組むことによって、体験を教職の実践に生かせるように工夫する。	
	教職実践演習（中・高）	教職実践演習では、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、教職をスタートするにあたって、必要な資質能力、知識や技能について身に付け、教員としての実践力を総合的に高めることを目指す。授業においては、テキストを用いながら教職課程におけるこれまでの学びを総合的に振り返りつつ、小学校現場でのフィールドワーク、テーマやトピックに応じたグループワークやプレゼンテーションなど、演習形式で授業を展開する。	
	教育実習1	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2~3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。(本学では高校教員免許取得のみを目指す学生は、教育実習1のみの登録で可としている)	
	教育実習2	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2~3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。(本学では中学校教員免許の取得を目指す学生は、教育実習1と合わせて教育実習2も登録することとしている)	
	人権教育論1	豊かな人権意識を持った教員の育成のために、まず、公教育の原理や社会的役割について学ぶ。次いで学校教員として理解しておく必要のある多様な人権課題について学び、人権尊重の意識を高める教育はどのように可能となるのかについて考察を進める。具体的には、さまざまな差別の問題や在日外国人の人権問題、男女平等の問題や性的少数者の問題、こどもの貧困の問題などについて学び、このような問題を解決していくためには、どのような人権教育の展開が可能で必要なかということについて学んでいく。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 教職に関する専門教育科目	人権教育論2	人権課題を教材として、どのような授業が可能となるか、グループに分かれて実践的な指導案の作成をおこない、相互に批判し議論しながら授業力を高めていくことを目指す。そのために最初に授業の作り方の基礎を学び、最後にまとめとして多様な人権課題に対応できる教育のあり方について認識を深める。本授業で扱うテーマとしては、「健常とは？障害とは？」「性をめぐる課題」「民族と文化の多様性をめぐる課題」などを設定して、具体的に授業展開ができる力を養っていく。	
	特別な支援の必要な生徒の理解	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標に授業を行う。	
	学校教育支援	教師としての実践力を養うために、教育実習のほかに、実際の学校現場に赴いて、ボランティアとして教育支援に携わる科目である。主に大学と提携を結んでいる市町村の幼・小・中学校に学校支援ボランティアとして出向き、教員の指導の下に、学習支援補助、部活動補助、行事活動補助、部活動補助などを行うことによって、実際の児童・生徒とのかかわり方を体験的に学ぶ授業である。本授業は、事前指導、中間報告会、最終報告会などを実施して、学生相互の学び合い、教員を目指す者同士の連帯感を感じてもらえる機会を提供することも目指す。	
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	特別活動に関しては、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という三つの視点を中心に、指導に必要な知識・素養を身につけ、また、総合的な学習の時間に関しては、実社会・実生活における諸課題を探究する学びを実現するために必要な、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。講義では、課題の見つけ方、自分の問題・関心のありか、問いの立て方を、ウェビングやワークショップを通して、探究の技法を習得することを目指す。	
	教育史特論	教育について幅広い視野から考えるための具体的な題材として「教育」をめぐる「論争」の「歴史」について取り上げる。それぞれの時代状況のなかでどのような課題が議論・論争され、その結果として教育・学校がどのように変遷・展開されてきたのか。近現代日本の教育をめぐる「論争」にかかわる基本的な知識を深める。その上で、自分自身はその教育論争について何を感じるのか、それをどのように考えるのか、授業資料を自分なりに「解釈する」ことを通じて歴史的な思考・認識を深める。	
	臨床教育学特論	臨床教育学とは、教育現場が抱える様々な課題（いじめ・不登校・教師-子ども関係等）に対して、教育哲学、教育人間学、臨床心理学等の複数の領域にまたがる学際的な方法を構想・実践することによって応えようとする学問領域である。臨床教育学という新しい学問領域の成立が求められた1980年代後半の時代背景をふり返るとともに、それ以降約30年を経た現代において何がテーマとなり、臨床教育学はそれにどのようにどのような方法で応えようとしているのか、最新の議論までを含めて概説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部国文学国語学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 教育 科目	天理 スピ リット 科目 群	天理教概説1	「宗教」についての基礎的な理解を踏まえたうえで、天理教の思想や実践について概説し、それらがいかなる教えや歴史的経緯に由来するものなのか、あるいはそれらが何を指そうとしているのかについて説明する。具体的には、主に『稿本天理教教祖伝』をテキストとして、教祖中山みきの生涯と教えについて学んでいく。天理教についての知識や体験がほとんどない学生の受講を前提として、教祖の生涯や教えに親しんでもらうことを目標とする。	
		天理教概説2	天理教についての知識や体験がほとんどない学生が受講するという前提で、天理教の成り立ちや基本的な教理などを中心に学び、それを自分の言葉で簡潔に説明できることを目指す。秋学期では、春期で学習した内容を踏まえ、天理教の歴史やそのさまざまな活動内容について、より詳しく学んでいく。特に『天理教教典』を主なテキストとしながら、天理教の教義（教祖、神、救済、人間etc.）の内容、及びその多様な信仰実践のあり方について学ぶ。	
		天理教学1	天理教学と天理教原典の連関についての基礎的な理解を踏まえたうえで、教祖の教えがいかなる歴史的経緯の中で「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」という原典として成立したのかについて学ぶ。さらにそれら原典と「こふき話」との関係性についても解説する。また、『天理教教典』や『稿本天理教教祖伝』の成立、及びそれらと原典との関係性や位置づけの違いについても学ぶことによって、天理教信仰における原典の重要性を認識する。	
		天理教学2	天理教学1で学んだ原典成立の歴史的経緯について改めて触れたうえで、それぞれの原典の内容について解説する。また、そうした原典の中で説かれる教祖の基本的な教え（八つのほこり、十柱の神名による守護の説き分け、ほこり）についての理解を深め、またそれらを先人の信仰者たちがいかに自らの生活において実践していたかについて解説する。それによって、教祖の教えを実践することの今日的な意義について、具体的に理解することを目指す。	
		建学の精神と天理大学のあゆみ	天理大学の「建学の精神」に込められた意味を理解し、その精神を身につけ、国際社会および地域社会に貢献できるようになることを目指し、天理大学の「建学の精神」に込められた意味を、本学の創設者、中山正善天理教二代真柱の理念・思想を通して理解する。また、天理大学の歴史的な歩みを辿ったうえで、天理図書館や天理参考館といった文化施設、及び「天理スポーツ」の理念や歴史についても、創設者の人物像や理念を通して理解する。	
		英語1	大学で学修するために必要な基盤となる英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎力を養成する。「聞く」「話す」では、特に、簡単な内容の会話を理解し、それに対応できる力、「読む」「書く」では、単文レベルの英文の構造を理解し、書くことができる力、簡単な英文の内容を理解できる力を重視して養成する。プレゼンテーションやペアワークなど、具体的、かつ、実践的なアクティビティも含めて豊かで確かな英語の基礎力を確立する。	
		英語2	英語1で培った基礎力を土台に、大学で学修するために必要な英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎固めをする。この4つの領域について「英語1」よりもやや難度の高い英文を読み、その内容を把握し、自分のことばでまとめる力を育成する。さらに、人の意見を聞き、複数の文を使って自分の意見を英語で伝える力を養成する。ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションなど、より多くのアクティビティを通じて英語をツールとして使用することに慣れ親しむ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 天理スピリット科目群	韓国・朝鮮語 1	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。順序としては、文字と発音を修得した後、基礎的な文法事項・構文・語彙の修得を進める。この科目でまず重要なことは朝鮮半島で使用されている文字「ハングル」を正確に読んで発音できるようにすることである。これがまず第一段階の学習となる。次に体言文を習得する段階に入るが、同時に各種音韻変化を学ぶことで、正確な発音を身に付けさせる。基本となる助詞、位置・存在表現等を修得、さらに用言文を上称・略待上称の形で使えるように指導することがその次の目標となる。使用頻度が高く、ごく基本的とされる接続語尾についても学び、表現の幅を広げるようにする。	
	韓国・朝鮮語 2	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。基礎的な文法事項・構文・語彙の修得に努めつつ、初歩的な言語運用能力の育成を目指すことが目標となる。韓国・朝鮮語 1 で学習した存在表現、上称・略待上称形をさらに練習して、変則用言といわれる単語を個別に分類する作業を通して、変則用言をきちんと使いこなす訓練を行う。数字表現、許可表現、可能表現なども学ぶことにより表現の幅を広げるようにする。語学力を向上させるうえで、語彙の習得も欠かせない要素の一つである。日本語同様、漢字語彙が7割を超す韓国・朝鮮語でもその利点を生かし、語彙力を養い、韓国・朝鮮語の理解の土台を築くようにする。	
	中国語 1	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。具体的には、「ピンイン」と呼ばれるローマ字の発音表記を体系的に学び、中国語の日常会話レベルの文について、ピンインを見ながら標準的な発音で漢字で書かれた単語やセンテンスを音読したり、パソコンやスマホでローマ字入力・漢字変換する訓練を行う。	
	中国語 2	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。「中国語 1」で学んだピンインによる音読や入力の基礎を固めながら、それぞれの会話場面において自分に関係する事柄を、すでに学んだ語彙や表現を用いて相手に伝える訓練を行う。	
	教養アカデミック英語 1	この科目では「英語 1」と「英語 2」で培った英語の基礎力を土台に、英文を「書く」ことに重点を置く。自分の伝えたいことが伝えられる英文を書くために、「書く」という点から基本的な英文法のおさらいをする。さらに、音読練習や口頭作文練習、和訳など様々な活動を通じて「書くための英文法」を定着させる。単文だけでなく、複文や重文など一文レベルの文がある程度正しく書けるようになった段階で、隣接する文同士のつながりについて学習し、パラグラフライティングができるようになるための素地を固める。	
	教養アカデミック英語 2	この科目では「教養アカデミック英語 1」で培った「書く力」を土台にまとまりのある内容を持った英語の文章（1パラグラフ）が書ける力を養成する。パラグラフの構造やパラグラフの種類について学び、自分が書きたい内容に合わせて適切なパラグラフのタイプを選択し、読み手に論理的に分かりやすい構成の英文が書けるようになることを目指す。さらに、トピックに合わせた簡単な英語のプレゼンテーションを行うことにより英語による発信力を高める。	
	実践アカデミック英語 1	この科目は「アカデミック英語 2」を履修するための科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された文字数（日本語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行い、多くの英文を読んでその内容を日本語で要約する練習を行う。英語で読み、日本語で要約することにより、英文読解力だけでなく、読み手に分かりやすい日本語で文章を書く力も養成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	実践アカデミック英語2	この科目は「アカデミック英語1」の応用科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された単語数（英語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行う。英語の文章構成についてもトピックを維持する方法や隣接する文同士のつながりのよくする方法について学ぶ。多くの英文を読んでその内容を英語で要約することにより、実用英語技能検定（英検）やTOEFLなどの資格試験にも十分に対応できる力を養成する。	
		アカデミック英語上級	この科目は大学を卒業し、社会人になったときに必要とされる力を育むことを目指した科目であり、「プロジェクト型言語学習(Project-based Language Learning)」の形式を採る。ポスター発表や口頭発表、テレビ番組制作など様々なアクティビティについて、チームで協力し、企画から発表までの一連の作業を行うことにより、企画力や協働性、情報収集力、情報を整理し、まとめる力、発信力などを養成する。	
		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、韓国・朝鮮語圏の文化や社会について学び、あわせて韓国・朝鮮語の基礎を学習しながら、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。文化的な理解と言語の理解はあかかも車輪の両輪のように対象となる国の理解を大きく進展させる意味を有している。人々が朝鮮半島の地でどのように暮らし、どのような文化を育み、歴史・社会の中で何が起きてきたのか、これらを知るとともに、最低でも文字を読み、入門レベルではあるが語学の基礎にも接してみることで、この地に生きる人々の感性や考え方の根底に一步でも近づいてみることをしたい。	
		多文化理解と言語（中国語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。また現在、中国・台湾・香港・シンガポールなどのいわゆる中国語圏から日本に来て中長期滞在している人は日本の在留外国人総数の約3分の1を占めており、彼らが日本社会で私たちと共に幸せに暮らしていける社会を構築するには、まず私たちが彼らの言葉と文化を理解する必要がある。さらには彼らが独自の文化を有するがゆえに受け入れがたい日本特有の習慣についても知っておくことが望まれる。本科目では、広く中国語圏で通用する標準的な中国語の基礎を学習しながら、中国語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（英語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。英語は、イギリスの歴史的な歩みの影響によって、現在世界で最も広く用いられる言語の一つとなっている。しかし、世界の様々な地域で用いられている英語は全く同一のものではなく、当然ながら英語が用いられている地域の社会や文化も一様ではない。本科目では、英語に対する基礎的な理解を通して、英語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（タイ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。東南アジアのタイに目を向けてみると、日タイ両国は政治、経済、文化等幅広い面で緊密かつ重層的な関係を築いており、人的交流が極めて活発である。タイの人々は日本に強い関心を持っており、さまざまなメディアやイベントをとおして、日本の情報に日々接することができる。日タイが今まで以上に緊密なパートナーシップを構築するためには、私たちがタイの言葉や文化を知り、相互理解を促進することが必要である。本科目では、タイ語の基礎を学習しながら、タイの文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（インドネシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。インドネシア共和国は多民族国家であり、2億7千万人を超える国民は、異なる言語を母語とする民族集団からなる。インドネシア共和国の成立以後、公用語として定められたインドネシア語を母語とする人々は徐々に増加しているものの、多くの国民にとってインドネシア語は母語の次に覚える第二言語である。本科目では、インドネシア語の基礎を学習しながら、インドネシア語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	多文化理解と言語（ドイツ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。日本では「日本人とドイツ人は似ている」と言われることも多いが、当然のことながら日本とドイツの国民性には相違点も多い。特に、日本人は場の空気や感情を重んじるのに対して、ドイツ人は合理性や論理性を重んじるという点に着目すると、両者の隔たりの大きさが感じ取れる。ドイツ人の論理性を重んじる傾向は、ドイツ語の特徴とも関連している。本科目では、ドイツ語の基礎を学習してドイツ語への理解を深めながら、ドイツ的思考法がドイツの社会や文化にどう影響しているかを考察する。日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（フランス語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、フランス語の基礎を学習しながら、フランス語圏の文化や社会について学ぶ。特に、歴史的な関係からアフリカからの移民を多く抱えるフランス社会の諸問題を取り上げ、宗教や言語、価値観など、異なる文化が接触することによって引き起こされるさまざまな事例を見ていくことによって、多文化共生社会のあり方を考察し、その実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（ロシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ロシア語の基礎を学習しながら、旧ソ連諸国をはじめとする世界に広がるロシア語圏の文化や社会について学ぶ。ロシア語が用いられている国や地域での多様性に触れ、共通点や相違点、また問題点について考える。本科目では、ロシア語の基礎を学習してロシア語への理解を深めながら、日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（スペイン語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、スペイン語の基礎を学習しながら、スペイン語圏の多様な文化や社会について学ぶ。スペイン語はスペインとラテンアメリカなどの20以上の国や地域で話され、米国でも話者数が飛躍的に増加している国際性豊かな言語である。また日本国内においても、スペイン語圏出身者は約8万人にのぼる。日本との長い交流の歴史や現在も続く緊密な社会経済関係について理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（ポルトガル語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ポルトガル語の基礎を学習しながら、ポルトガル語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。具体的には、ポルトガル語の読み方や基本的なあいさつなどを学びながら、ブラジルがどのような国であるかを知り、それを通して日本に在住するブラジル人に視野を広げる。本科目の主要な目標は2つある。1. ブラジルがどのような社会や文化を有する国なのかを知る。それを通して、異文化理解への視座を学ぶ。2. 在日ブラジル人の歴史や現状を知る。それを通して、日本における多文化共生について考察する。	
		多文化理解と言語（日本語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では留学生を対象にして、日本語及び、アイヌ語、琉球諸語（琉球諸方言）など、比較対象となる諸言語・諸方言に対する基礎的な理解を通して、日本語が話されている諸地域の文化や社会について学ぶ。そして「日本」や「日本人」を相対化することによって、より大きな視野から日本列島を考え、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		日本事情 1	留学生を対象にして日本の祭礼について概説する。最初に、儀礼・祭礼についての文化人類学・民俗学の概念・分類について紹介する。次に日本政府の祭礼に対する文化政策（「無形文化財」、「無形文化遺産」、「日本遺産（Japan Heritage）」など）について紹介する。そして、「日本三大祭り」ともいわれる「神田祭」（東京都）、「祇園祭」（京都市）、「天神祭」（大阪市）など、日本各地の著名な祭礼を具体的に取りあげて紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	日本事情 2	留学生を対象にして日本の産業について概説する。最初に、地理学・経済学・社会学などの知見に抛りながら、戦後の産業構造の変化について紹介する。次に伝統産業保護政策として日本政府が「伝統的工芸品」に指定している産品を、「高山茶釜」（奈良県）など、具体的にいくつか取りあげて紹介する。そして「まちづくり」、「農工商連携」、「外国人材の受け入れ」など、現在の日本の産業が抱える重要課題を具体的に取りあげて紹介する。	
		健康スポーツ科学 1	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		健康スポーツ科学 2	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		国際社会におけるスポーツの役割	スポーツには、国籍や人種、言語や文化が違っても一緒に活動し、協力し、競い合うことで共感が生まれ、楽しさや友情を深める力を有する。現代社会では、スポーツを通じた国際交流がなくてはならない存在であり、「多様性の尊重」や「持続可能な社会の実現」にも欠かせない。本授業では、スポーツの国際展開について古代から現代までのオリンピックの歴史と諸問題を学び、国際親善や世界平和に果たすスポーツの意義や役割を理解する。	
		保健医療の仕組みと健康づくり	急激な少子高齢化や医療技術の進歩など、保健医療を取り巻く環境が大きく変わるなかで、厚生労働省は2035年に向けて、人々が自ら健康の維持・増進に主体的に関与し、デザインでき、ひとりひとりが主役となれる健やかな社会、健康先進国を目指している。この授業では、現在の保健医療の仕組みと、地域で暮らす人々がその仕組みをどのように活用するのかを学ぶ。さらに自分自身と周囲の人々がその仕組みを活用して主体的に健康づくりに取り組むための基礎力を養う。	
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる入門編	身近な環境問題に目を向け、それを自分事としてとらえることは、これからの社会を生きていくために重要なものである。環境や林業や里山が抱える課題、過疎化した地域の課題、衰退していく街の課題について、その課題に取り組む人々との交流を通じて、SDGsとは具体的に何を目標として行動すべきかを学ぶ。林業や農業についてのアプローチの手立てについては、現地に赴き実習を含めた講習を行う。さらに、その有効な活用方法ならびに技術面の指導を実習を通じて習得する。	共同
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる実践編	ローカリーアクト天理SDGs森に生きる入門編に引き続き、奈良県内外、主として天理市内での林業体験及び里山整備、耕作放棄地などでの実習を行う。過疎化する地域の課題を現地の方との話し合いを通じて理解し、何が出来るか？を考える「場」を持つ。持続可能な開発目標(SDGs)や持続可能な開発のための教育(ESD)を目的とした実習を行う。その際、学生が自ら考えて行動する問題解決型学習(PBL)を採用し、さまざまな課題を自分事としてとらえられるようにする。	共同
		国際協力入門	「貧困」を解消することが「開発Development」という行為である。近年注目されている「SDGs(持続可能な開発目標)」の「D」は「開発Development」を指しており、同じく貧困削減のための取り組みを指している。この授業では「経済開発」「社会開発」「人間開発」「参加型開発」「持続可能な開発(SDGs)」などの開発理論を講義形式で理解し、開発プロジェクトの計画・立案について、グループ・ワークで体験的に学ぶ。開発援助とは「人を助ける」行為であるため、「人を助ける」哲学・価値観について学ぶことを基本学習とする。定期試験期間に期末テストを実施する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	国際協力実習	この実習では「国際参加プロジェクト」の現地ボランティア活動を行う。本実習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。以上の点に注意し、授業登録を希望する学生は、必ず国際交流センター室の担当者に問い合わせること。新型コロナウイルス感染症の影響により、現地活動が実施できない場合は、上記の通りではなく、授業方法や成績評価方法について変更を余儀なくされることがある。変更する際は、授業等を通じて受講者に周知する。	
		国際協力演習 1	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）から帰国後の事後研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。事後研修の主な活動内容は、現地での活動経験に基づくレポート、活動報告の作成と編集、動画・写真データを使用した活動報告用の映像資料の作成である。また、学内外で開催する帰国報告会、地域教育機関と連携した国際交流授業の開催など、地域連携・社会貢献を目的とした諸活動の実践を含む。	
		国際協力演習 2	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）に向けての事前研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。活動準備の内容は、現地での活動内容に基づき決定される。現地小学校での教育支援活動であれば、現地学校での授業準備が事前研修となる。現地高等教育機関との交流活動では日本文化紹介などのプレゼンテーションの準備を行う。講義で授業を行う一方、現地ボランティア活動の具体的な準備活動が主な授業内容となる。	
		国際ボランティア論	人はなぜ、何のためにボランティアをするのか、ボランティアという行為はどのような意味をもつのかを理解できるようになる。また、国際協力の視点からボランティア活動を捉え、世界の貧困や格差を解消するための国際ボランティアの取り組みを理解し、実践することができるようになる。ボランティアという行為について学術的な視点から説明ができるようになり、世界の貧困や格差の問題に対して、自らの問題として捉え、積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を身に付けることができる。	
		天理大学特別講義 1	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度については、NPO法人環境市民ネットワーク天理が主体となる寄付講座「まほろばエコロジー講座」を15回にわたって開講する。天理大学は2012年に奈良県下の大学としては初の「エコキャンパス宣言」を行い、建学の精神に基づいたキャンパスの環境保全を指向するとともに、大学生や市民を対象とした学習講座を開催した。このたび、天理大学の授業として開講する「まほろばエコロジー講座」は、環境問題に関わる各分野の専門家によるレクチャーを15回受けることにより、環境問題の基礎知識を体系的に学ぶことができる。講座後の検定試験で、一定の成績を修めた受講生を対象に、当NPO法人が「まほろば環境市民」に認定される。	
		天理大学特別講義 2	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理大学特別講義 3	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理大学特別講義 4	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理異文化伝道	天理教による海外布教伝道の歴史を振り返り、世界のさまざまな国や地域で展開されている布教の現状を映像などを通して見ていく。また「文化」とは何かを確認した上で、海外伝道を「異文化圏における伝道」という視点で捉え、異なる文化の中で繰り広げられている実際の布教伝道を通じて見られる「異文化接触」に関して考えていく。さらにそこから、貧富の差や言葉の問題、他宗教との関係、グローバル化などをキーワードとして問題提起を行い、これからの異文化伝道の方向性について意見を深めていく。	
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	生き方や働き方を主体的に考え、キャリアを設計することができるようになることを目標とし、自己を深く理解し、社会貢献につながる自己実現を目指すための主に次のことを学修する。 ・自分の価値観、強みと弱みを把握し、自己理解を深める。 ・社会に出て必要とされる力（基礎学力、専門学力、リーダーシップやコミュニケーション力）は何かを把握し、それを身につけるための有意義な大学生活の過ごし方を設計する。 キャリアをデザインする上で具体的に仕事の内容や重要な自己を理解したうえで、民間企業や官公庁などで働いている人を講師として迎え、実務上必要とされる能力や仕事のやりがい、キャリア形成についての話を聴く。各業種の内容と必要とされる能力を知り、社会に出てからのキャリアデザインについて考える。また、インターンシップの意義、就職試験で使われているSPI、履歴書の書き方、就職活動の進め方について知る。	
		キャリアデザイン 1	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		キャリアデザイン 2	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		インターンシップ 1	インターンシップ1では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		インターンシップ 2	インターンシップ2では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	キャリア教育科目群	海外インターンシップ1	海外インターンシップ1では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ2	海外インターンシップ2では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	正しい情報を自ら集め、組み立て、展開していく力、さらに自分の考えや情報を正しく相手に伝える力をつけるために、大学や社会で求められる「読む・書く・話す・聞く」能力の獲得をめざし、ノートテイキング（筆記）、スピーチ（発話）、リーディング（読解）、ライティング（作文）という4つの技能について学ぶ。また基礎的なパソコンの操作方法やワープロソフトを使った文書の作成、プレゼンテーション資料作成ソフトを使ったスライド作成等についても学ぶ。	
		基礎ゼミナール2	基礎ゼミナール1の「読む・書く・話す・聞く」の能力の向上、および実際のデータを収集し、分析することを通して、統計的分析の能力を身につけることを目標とする。自らの問題意識から、適切なテーマを設定し、主張したい論点を述べるために必要な実データを収集し、統計手法を用いて分析する。分析結果やグラフなどを整理して自分の考えを発表する。中間発表を行うことで議論を深め、最終的にこれらをまとめた小論文を作成し、発表する。	
		データサイエンス・AI入門	Society5.0時代に活躍するためには、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養が必要である。本科目では、次の3つのことを習得することを目標とした学修を行う。（1）社会におけるデータサイエンスやAIの活用事例を知ることによってこれらの技術についての理解を深める。（2）データを活用する上で留意すべき法制度や倫理などについて理解し、適切なデータの利活用のための知識を得る。（3）データ分析の基礎的な活用方法を身につけ、帰納的推論と演繹的推論の差異、長所短所について理解する。	
		データサイエンス・AI応用	データサイエンス・AI入門に続いて、本科目ではより実践的にデータサイエンス・AIを学修し、基礎力を向上させることを目標とする。社会において多様なデータの蓄積が行われており、そのデータを利活用できる能力が求められている。データ解析・機械学習などに事例を挙げてデータサイエンスやAIについての技術について学修する。データ解析では統計学の利用方法、機械学習を使った分類・クラスタリング・強化学習、さらにAIの発展に貢献しているディープラーニングについて、実例をもとに実際にデータを処理することを通して理解を深める。	
		データリテラシー	情報社会において求められる情報処理能力を身につけることを目標とする。自らの考えを正しく相手に伝えるためには実データを正しく分析した結果を効果的に示すことが重要である。データの収集方法・統計分析・分析結果の解釈方法などを学修し、データに基づいて判断する能力、いわゆるデータリテラシーを身に付ける。EXCELを使って統計分析方法を学修し、分析した結果の統計情報を正しく理解する方法とグラフなどを用いて、効果的にデータの特徴を可視化する方法について具体的に学修する。	
		コンピュータ入門	ビジネス社会において求められるコンピュータやネットワークなどの情報技術に関する基礎的知識、およびパソコンを使った情報活用能力を身につけることを目標とする。情報技術に関しては、コンピュータ・インターネットの仕組み、情報処理技術、情報倫理やセキュリティについての知識を学修する。またパソコンを使い、基本ソフト（Windows）およびアプリケーションソフト（Word、Excel、Powerpointなど）の基本的な操作方法について学修し、実データを使ってデータを整理した上でデータの特徴を効果的に示す能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	基礎リテラシー科目群	情報処理	「プログラミングとは何か」を実際にプログラムを作成することを通して理解する。自分が意図した通りにコンピュータが情報を処理することができるよう試行錯誤していくことを通して、プログラムを完成させることが楽しいと感じ、プログラミングに興味を持つことができることを目標とする。C言語の基本的なルールについて学習し、プログラミングの基礎を理解するとともに、コンピュータが自分の意図した通りに正しく実行するようにしていくプロセスを繰り返し行うことでプログラミング技能を身につける。	
		基礎からわかるレポート作成	レポートや論文の作成技法を修得し、日本語表現能力を高めることができ、現代社会のかかえる様々なテーマについて関心を深めるとともに、自分の意見を形成していく方法を体得することができることを目指し、テキストを用いて作文技法の基礎を習得する。また、各人が設定したテーマについて、資料検索・収集、構想ノート作成に基づいてレポートを執筆し、クラスで口頭発表を行う。資料検索やレポート執筆はパソコンを使用して行い、コンピュータ技能の向上を図る。	
		基礎からわかる近代史	日本現代史の基礎的な知識や流れを学ぶことができることに加え、日本近代社会と現代社会とのつながり・断絶を理解することができるようになることを目指し、幕末・明治維新からアジア・太平洋戦争前後の日本歴史の流れを基礎から学び直す。その際は政治・経済方面だけでなく、軍事・教育・宗教・娯楽など、近代日本社会を構成していた諸要素にもしっかり目配りする。現代社会とのつながりや断絶について考察し、自らの歴史に対する視点を確立する。	
		基礎からわかる現代社会	現代の日本と国際社会における政治・経済・社会の土台をなすシステムについて、また、今日の私たちが直面し、解決を求められている諸課題について、他の全学科目および専攻分野での学修をつうじて知見を深めるうえで、また教養を備えた責任ある市民として、積極的に社会に参加するうえで必要な基礎知識を習得する。講義では、具体的な問題を題材にするなどして、情報をみずから収集し、得られた知識と合わせて分析する力も養う。	
		基礎からわかる数学	数学に関する基礎的な能力の向上をめざす。そのため、小・中・高で学んだ算数、数学のなかで、式の計算、速さ、面積、体積、方程式、不等式、関数、場合の数、順列、組合せ、確率、データの分析などを取り上げ、生活の中にある事例など具体的な問題場面を取り上げながら、数学への興味・関心を高めながら、演習を通して自ら考え、問題を解決する能力を身につける。その際、SPI等の就職試験でも役立つ内容も視野に入れて授業を展開する。	
	基礎からわかる生物・化学	当該科目は、生物学・化学の基本的な知識や考え方を理解でき、習得できることを目的とする。内容は、生物・化学基礎の理解を改めて確認し、遺伝子と現代医学の潮流、細胞と癌、神経と認知症、エネルギー・代謝と糖尿病、免疫と感染症、血液と白血病など、病気と関連づけて分かりやすく生物学の本質の理解が深まるように講義・演習を行う。さらに、物質・溶液の化学、有機化学、生体を構成する物質などについて、簡単な内容に絞って講義・演習を行う。		
	一般教養教育科目群	生活の中の科学	自分自身の健康に関心を持ち、スポーツの実践や身体を動かすことの大切さの再認識とその実践意欲の高揚化をはかり、学んだ内容を自らの健康の維持、増進に生かしていく能力を養うことをめざし、人間の基本的な条件である健康について、主に運動生理学およびスポーツ医学、栄養学などの諸点から解説する。健康の概念を理解し、生涯にわたって自らの健康の保持増進をはかるためには何が必要であるのかを理解するために、本講義では健康管理に関連のある最新情報を紹介し、現代人にとって必要な健康維持に関する知識を理解する。	
		地球環境論	温暖化や希少生物の絶滅、環境汚染など、現在の地球環境は人類が克服困難な問題で溢れている。これらの問題は、さまざまな要因が複雑にからみあって形成されており、本質を理解するには幅広い視野で多面的に物事を捉える力が必要となる。この授業では、環境問題に対する取り組みについて学び、日本における過去の公害問題やその対策手法・技術から、地球環境と人類との関係について考えていく。環境問題に対する基礎的な素養を習得し、日頃から地球環境にやさしい行動を実践できるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	科学と現代	現代社会を支える科学・技術について、その歴史的発展過程を交えながら基本的な概念や考え方について講義する。講義の前半では、宇宙論と原子論の歴史的な変遷を取り上げる。講義の後半では、青色発光ダイオードやリチウムイオン電池といった身近にある科学・技術のトピックスを題材としてとりあげ、先端科学の知見とその歴史的背景を紹介する。現代社会における科学の意義や役割について自らの生活と関連付けながら考察していく。	
	数学と論理	「論理」は数学に限らず、あらゆる学問で、そして社会の健全な発展のために重要な概念、法則である。この能力を培うことができるのは、数学の知識によってではなく、各自が考えることによるのみ可能である。数学の言葉を記号化することによって、不偏的な数学語（数文）に翻訳することで、言語の異なる人々が、世界共通の「論理」で数学を理解できるようになる。代数的構造の主要な概念である「群」に関して、論理の展開を体験する。	
	統計学 1	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。統計学の初歩的で実践的な知識を身に付けることを目的に、記述統計学（資料の整理、代表値、分散と標準偏差）統計学の基礎（確率、確率分布、二項分布、正規分布）推測統計学（母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母平均の検定など）をExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して取り扱う。	
	統計学 2	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。この授業では、データを分析し、問題の原因を追及することができる能力を身に付けることを目指し、クロス集計や多変量解析などの基礎について具体的なデータをExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して理解する。	
	経営学 1	経営学に関する基本知識を理解、習得すると同時に、企業と産業の現実の動向を知り、特に「サプライチェーン」についての問題関心を養うことを目指して、巨大企業の存立を支える株式会社制度の形成や展開、その現代的な課題について考察していく。現代企業の具体的なあり方は、それぞれの産業における技術と市場、国ごとの条件に規定されて、多様である。ここでは、フレキシビリティの構築をキーワードとして、産業・企業の現実の動向を探っていく。	
	経営学 2	現代企業の環境変化への対応のあり方を探っていく。企業は、生産・流通を含むトータルなシステムとして、市場動向への迅速な対応をすることが求められている。この授業では、まず事業システムとの関連において、マーケティング分野の基礎を理解する。次に中小企業に注目する。中小企業は巨大企業を軸とする企業システムを根底から支えるのと同時に、ベンチャービジネスとして、あるいは中小企業間での情報、物流ネットワークの形成によって、相対的自立性を備えて存在していることを理解する。	
	地理学 1	グローバル時代とよばれる現代、幅広い世界が舞台となり、多様な地域が強くむすびついてゆくなかで、異文化やその多様性の理解が求められる。この授業では、地球規模でみる自然環境や人間活動の関係を「文化圏とその地理的背景」というテーマでとらえる。具体的にはさまざまな「文化圏」（地域）を対象として、それぞれの文化圏がどのような環境下で成立・発展してきたのかという「地域の法則性」について考察するとともに理解していく。	
	地理学 2	グローバル時代とよばれる現代、「孤立」した都市はない。都市は「みえない糸」で複雑にむすびついている。そのむすびつきは地球規模で全世界に広がっている。また、都市は多くの人々の生活の舞台でもある。この授業では、「都市の地理学」をテーマにおき、都市の実態を日本、奈良県、天理市という地域スケールのちがいをみてゆく。そして、宗教都市である大学所在地の天理という場所をテーマにして、地域研究や地誌的な立場から、大学所在地としての身近な地域の「地理学」を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	日本国憲法	我々の生活に欠かせない法、特に憲法について学び、わが国の基本的な仕組みを説明できること、さらに、そのしくみについて批判的に検討できることを目指し、基礎知識であるわが国の統治機構について学び、憲法について現在問題となっている憲法の総論にあたる部分、すなわち憲法の成り立ち、基本原理、幸福追求権、平等権、表現の自由などの重要なトピックを取り上げる。また、憲法に関する新しい問題が発生したり、重要な憲法に関連する裁判所の判断（判例）が出た場合には、適宜授業の中で取り扱う。	
	法学	我々の社会生活において、法がどのような役割を果たしているのか、またどのように作用しているのか理解し、法学について、基本的な知識を体系的に身に付けるとともに、具体的な裁判例を検討して応用力を養うことができることを目指して、民事法、刑事法について学ぶ。民事法については、実体法である民法を主に取り上げ、財産や家族に関する争いを裁定する法である民法の概要を学び、刑事法については、手続法である刑事訴訟法を主に取り上げ、捜査や裁判の手続き、及びその運用についての問題点などを学び理解する。	
	経済学 1	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになるとともに、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになることを目指す。この授業では歴史を学ぶ前提として地理学の面白さを伝え、そのあと、古代中国のさまざまな発明からイギリス産業革命までをとりあげ、世界経済の発展をたどり理解する。	
	経済学 2	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになる。そして、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになる。この授業ではおもに20世紀と現在の世界経済をたどる。イギリス産業革命の影響からアメリカが独立し電力革命を経て20世紀の経済大国になるまでを理解する。また、中国経済の成長がアメリカ経済とデジタル面でどのような競争関係にあるかもとりあげる。	
	政治学	政治に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、学問的観点から政治と向き合うことができるようになることを目的とし、なぜ民主主義がふさわしい政治体制だとされているのか、民主主義は実際にどのように運用されているのか、政策はどのように作られるのか、といった点に加えて、これまでの政治学そのものに疑問を投げかける視点や国際政治について学ぶなかで、自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指す。	
	社会学	社会学の研究対象となるさまざまな領域について、日本を中心とした現代社会の事例を参照しながら、その代表的な領域に触れることで、社会学の学説史や主要概念とともに、社会的な見方や考え方の基本を習得する。講義では、行政統計やメディアの情報などを積極的に扱うことをつうじて、市民としての見解や行動をかたちづくる上で必要な情報やデータにどのようにアクセスし、それを読み取り、さらには活用していくかについても学修する。	
	民法 1	一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語などについて学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、民法の作用について、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
	民法 2	民法 1 に続いて、一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語等について学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	行政法 1	行政法の概要・基本原理を理解できること、行政法と行政の体系を理解できること、行政および行政法に関する知識を学びそれを身につけることができること、主体的に自立した市民として行政に参画できる能力を身につけることができることを目指し、行政法の基本原理を学んでいく。法学部生以外には、馴染みが薄い行政や行政法とは何かについて、身近な例を取り上げできるだけ理解できるように説明をしていく。そのうえで、法治主義、国や地方の行政とそれを支える公務員制度等を学ぶ。	
	行政法 2	国家補償法の概要に関する知識を得ること、国家賠償法と行政救済との関係について体系的な理解を深めること、行政により市民が被害や損害を受けたとき、どのような法的救済の仕組みがあるのかを理解できること、地方自治とは、どのようなものか深めることができることを目指し、行政法を具体化する行政と市民の権利利益を保護する行政救済法および救済制度を学ぶ。その際、事例（裁判例、判例）を主な素材にして具体的な行政救済法と救済制度を学ぶ。	
	哲学概論 1	古代から近代にかけての西洋哲学について、その概要を原典を読んで学ぶことを通じ、哲学者の考えに直に触れ、議論の論理展開を細かく追うとともに、その作業を通じて取り出された哲学的な問いを自らにひきつけて考察し考える。これらの一連のプロセスを通じて、哲学を学ぶとは、哲学者の名前や学派のキーワードや概要を暗記することではなく、先人の思考を引き受け、いまを生きる一人一人が自分の力で考えようとする営みであることを理解する。	
	哲学概論 2	哲学概論 1 で扱った古代から近代における哲学的問いの展開についての理解を元にしなが、西洋近代哲学について、著名な哲学者の原典（日本語訳）を取り扱う。内容の詳細な検討と理解にもとづき、自ら問いを設定し、それについて考えを記述するという一連のプロセスを何度か繰り返し、哲学という営みを実際に経験することを通して哲学的について理解するとともに、哲学的な見方や考え方を実際に活用できる形で身に付けていくようにする。	
	倫理学 1	倫理学という学問的な切り口から人間の現実をとらえる。とくに欧米の近現代の哲学者の倫理思想を紹介しながら、私たちの人間理解を豊かにしてくれるような、人間知としてより深められた倫理的人間学を探究する。そのために、倫理思想に関するいくつかのトピック（たとえば、重要な概念や思想家、思想潮流など）を説き起こしながら、倫理学の基礎となる人間観、および、哲学・倫理学の諸概念について考察することを通して理解する。	
	倫理学 2	倫理学 1 が倫理学基礎論をテーマとしたのに対して、倫理学 2 は応用倫理学を扱う。倫理学は正に、「人間が行動する筋道」を問う学問である。その守備範囲である、愛・幸福・自由・悪・正義などといったテーマは抽象的で近寄りがたいイメージを与えるが、実は誰にでも取り組める、親しみやすい学問である。応用倫理学の諸分野の中から、生命倫理、愛の倫理、政治倫理、宗教倫理、労働倫理、環境倫理などについて取り上げて検討する。	
	心理学 1	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、前半は「記憶」「知覚」「学習」などの心理学の基礎的な概念について、簡単な実験などを用いて体験的に理解できるよう授業を進め、後半は実際の人の心について、事例の紹介や心理テストの体験など通じて自分自身の心について触れる機会を設ける。	
心理学 2	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、授業の概要 講義期間の前半と後半で、2つのテーマを取り上げる。前半は「心の発達」、後半は「無意識の世界」に関する内容となる。前半は、生まれてから現在の青年期に至るまでの心の発達の道筋をたどる。後半は、自分でもコントロールできない心の世界「無意識」について、その働きを理解する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	ジェンダー・セクシャリティ	「性」とは何か、性の多様性とはどのようなことか。性的マイノリティとは何をいうのかを課題とし、セクシュアリティの内実を「生」と関連しながら、事例をもって紹介しつつ、現実起こっている「性」と「生」の問題に向き合う。現代の課題のひとつとして、「ジェンダーの視点」「ジェンダー平等」「セクシュアリティ」について、特に、文化や伝統、文化など、私たちの社会の精神的背景となっているものに、ジェンダーという視点を導入することの意義を検証していきたい。また、「男女共同参画社会基本法」や国際連合の世界女性会議を中心とした動向に注目する。	
	近現代の遺産と未来	21世紀の現代社会が抱える人権・差別問題とその解決について、マイノリティの視点から学ぶ。沖縄の歴史を学ぶことを通して、日本の近代化、とくに戦後の高度成長期に資本至上主義の価値形成のもとで深化した労働問題、女性問題、外国人差別、トランスジェンダーをはじめとする様々なマイノリティへの差別・排除という現代日本が抱える課題および冷戦期の政治的暴力が顕在化する社会を相対的に捉え直し、多様で異なる存在を相互に尊重することができる公平で成熟した本来の意味での近代社会を創造していくための視点を養う。	
	宗教と芸能	日本の古代から近世、近代のそれぞれの時代に展開していた、宗教を契機とした文化（芸能）に関して理解し、芸能が地域社会に支えられていることや、地域社会における芸能の特徴、役割、意味について説明することができることを目指す。主に扱う事例は、奈良で古い歴史を持つ春日若宮祭礼である。この祭礼には、雅楽・田楽・猿楽など多くの芸能が付随している。しかも歴史の中で変容しており、この変化を追うことで芸能から時代を投影することができる。このほか、南都の法会、地域の都市祭礼、おかげ参りについても言及する。	
	労働と社会	近年、労働形態の多様化により労働のありかたが変わることで、一国の経済状況のみならず、人々の生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与えている。この授業では、とりわけ19世紀後半から現代にかけての労働と労働に関する思想を中心に読みとくことで、現代社会の日々の日常のなかで労働のありようについて再考する。そのためには、労働そのものについて理解するだけでなく、それが社会の中でどのように機能しているか、そしてその背景を読みときながら、考察する。	
	障害学	障害には様々な側面（医学モデル、社会モデル、当事者視点等）があり様々な方向から考察していかなければならない。障害について思考することは各個人の生活や人権意識そのものに関わって行くものであり正解のない問いである。授業では障害観の歴史の変遷、医学モデル、社会モデル、障害者を取り巻く多くの事象を学び、学生自身も小中学校で経験してきた特別支援教育を振り返り、当事者視点、多様性について自分事として考えることを通して、共生社会を生きる基礎的な知識を身につけ行動力につながる学びとする。	
	世界の文学 1	世界文学とは世界的な普遍性を持つ文学であることを、作品の精読を通して理解するとともに、自分なりの解釈ができることを目指す。その手段としてその国や地域における固有の文化、思想、哲学について学び、時代精神を理解する。それでもなお残る謎や不可解な部分を掘り下げて追究し、文学作品に通底する人生の不可知について理解するとともに、もって人生についての考察を行うため、具体的な英文学の作品をいくつか取り上げて講義を行う。	
	世界の文学 2	世界文学を理解する手法の一つである比較文学研究を通して、ある国・地域固有の文化、時代精神、哲学がいかに越境し、相互に影響を与えていくかについて学び、世界文学の共通性、普遍性、文学そのものに内在する謎を掘り下げて追求する。テキストそのものを読み込む内在批評と同時に、テキストには書かれていない外在批評について学び、人類に普遍のテーマを知ることで、人生を生きる上での指針を得るため、英文学作品と日本文学作品を取り上げて講義を行う。	
	カルチュラルスタディーズ	カルチュラルスタディーズの方法論と研究調査は、1970-80年代のイギリスで盛んに行われ、1990年代半ばに日本社会に入ってきた。この授業では、カルチュラルスタディーズの核心である「文化と権力の間の関係」が欧米並びにアジアでどう展開しているのかを多様な文化を事例に解説していく。こうした学問の動向をふまえ、本授業では、受講生が各自で文化調査を実施し、多様な文化をとりあげるなかで、カルチュラルスタディーズの現状について学ぶとともに文化的格差の理解を試みる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	宗教と現代社会	社会的存在としての人間にとって、宗教がいかなる意味や役割をもつのかという問いを基本に据え、その問いを、インターネット、災害支援、労働、生命倫理、戦争、スピリチュアリティといった、現代世界における多様な問題との関連という視点から具体的に考える。特に、伝統的な宗教の理解を踏まえながらも、その今日的な変容といった観点から、従来は宗教とは見做されていなかった領域において、「宗教的」な要素を見出せることを学ぶ。	
	人権と差別1	人類の多年にわたる歩みにおいて、宗教（宗教的なもの）は、人びとの精神形成や、人と人が取り結ぶ社会的関係の形成に大きな役割を果たしてきた。宗教は、人と人との関係をより望ましい方向に導いていくという肯定的な働きを果たすとともに、人びとの関係に歪みをもたらすという否定的な働きを示すこともしばしばあった。歴史のなかから宗教と差別の関係を読み解いていくことは、これからの社会を担う私たちにとても大きな意味を持つものだと考えている。この授業では、前近代日本社会の宗教と差別の問題について授業を進める。まず、人権や差別の定義、宗教の定義など基本的概念の確認を行ったうえで、古代から近世までの、部落差別問題を核として宗教と差別の関わりについて考察していく。	
	人権と差別2	これから社会人（教師も含む）になるにあたって、必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決をはかるか、自分で考えることができるようになることを目指し、社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る。事例などを交え、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、コミュニケーション力などが育成できるよう、より実践的な人権学習の方法を学ぶ。	
	日本手話A	聾者の言語である「手話」を学び、人と人との関わり方や「共生社会」構築のうえでどのように自らが寄与するのかを考える。「手話は言語である」の意味を説明できること、自己紹介を手話で表現できること等を目指す。2006年に国際連合で採択された「障害者の権利条約」を根拠として、言語としての「手話」について基礎から学び、日常会話に必要な手話単語の習得や、手話表現技術を学ぶ。随時、手話学及び障害学の講義、ビデオ学習を行う。	
	日本手話B	「日本手話A」の単位取得者を対象にする。聾文化を理解し、社会における人と人とのあり方を学び、「聾文化」について自らの言葉で説明できること、日常会話を手話で表現できることなどを旨とする。「聾文化」をテーマにして、聾者と聴者の世界の違いを踏まえ「共生社会」とは何なのか、受講学生とともに考える授業にしたい。日常会話は勿論のこと、ある程度の手話通訳が可能になるまでを目標として、実技演習を中心に進めていく。	
	アウトドアスポーツ	自然環境を活かして行われるアウトドアスポーツ（野外活動）について、いくつかの活動を取り上げ、生涯に渡って親しむために必要な知識・技能を身につける。アウトドアスポーツ（野外活動）の魅力、各種目に必要な知識・技術、自然の中で行われるがゆえの危険とその回避方法など、学外での実習を通して身につける。学外実習では、主に、カヌー、登山、ハイキング、キャンピングスノースポーツなどのアウトドアスポーツをおこなう。	
	レクリエーションスポーツ	レクリエーションスポーツは、誰でも、どこでも、気軽に楽しめるスポーツであり、既存のルールやコート、用具を簡素化したり、工夫したりすることで年齢に関係なく手軽に楽しめるスポーツである。本授業では、ウォーキング系、ボール系、自然系、ラケットバット系種目などの各種レクリエーションスポーツを行い、勝敗にこだわらないスポーツの楽しみ方を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいく基盤を構築する。	
	ニュースポーツ	ニュースポーツは、レクリエーションスポーツと同様に、新しく考案された各種スポーツで、軽スポーツや柔らかいスポーツとされるニュースポーツに触れ、楽しむことを目的とする。本授業では、ディスク系、ヒーリング系、スティック系、ロープ系の種目等を体験し、勝敗にこだわらないニュースポーツの楽しさ、創造性、柔軟性、独自性、多様性を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいくいわゆる生涯スポーツに繋げていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国文学国語学科専攻科目	国文学基礎演習	文学作品を読みこなすための切り口（研究方法）を学んだうえで、任意の作品から問題点をみつけだし、それを解決するという文学研究の基礎となる一連の作業を演習形式でおこなう。文学研究のために必要とされる基礎知識と方法を習得し、提示された課題やレポートに援用できる力、専門分野で必須とされる資料の所在を知り、調査に活用できる力、みずからの力で問題点を発見することができる力、発見した問題点について、適切に調査・分析、報告し、さらに根拠を明示したレポートが作成できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国文学概論 1	国文学を学ぶうえで必須かつ基礎的な知識と方法、研究史、研究方法、文学理念などを、それぞれのテーマごとに、テキストを用いて、かつ具体的な作品に即して、概説する。講義形式でおこなう。国文学にかんする基礎的な知識や用語などを学び、それを説明できる力、国文学にかんする基礎的な理念や方法などを習得し、実際の作品を調べて解説できる力、国文学にかんする基礎的な知識や方法などを生かしながら自主的に学修する態度を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国文学概論 2	国文学（とくに女性作家の作品）を学ぶうえで必須かつ基礎的な知識と方法、研究史、研究方法、文学理念などを、それぞれのテーマごとに、テキストを用いて、かつ具体的な作品に即して、概説する。講義形式でおこなう。国文学にかんする基礎的な知識や用語などを学び、それを説明できる力、国文学にかんする基礎的な理念や方法などを習得し、実際の作品を調べて解説できる力、国文学にかんする基礎的な知識や方法などを生かしながら自主的に学修する態度を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	上代文学講読 1	『万葉集』のうち伝説を詠む作品や物語性の強い作品を読解し、歌と語りの関係について考察する。作品や作者の歴史的・文化的背景をふくめて解説する。さらに読解した作品についてプレゼンテーションをおこない、作品の理解を深める。演習形式でおこなう。『万葉集』の歌と伝説・説話にまつわる作品を正確に読解できる力、読解した作品についてプレゼンテーション形式で解説できる力、『万葉集』の作品について、レポートの形式によって論述できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	上代文学講読 2	贈答・問答歌の表現に注目し、そこに詠まれる万葉びとの心や、歌のテクニックを探究する。作品や作者の歴史的・文化的背景をふくめて解説する。さらに読解した作品についてプレゼンテーションをおこない、作品の理解を深める。演習形式でおこなう。『万葉集』の贈答歌・問答歌を正確に読解できる力、読解した作品についてプレゼンテーション形式で解説できる力、『万葉集』の作品について、レポートの形式によって論述できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	中古文学講読 1	『竹取物語』の成立、構造、作者、享受、伝本、研究史について講義したうえで、作品を熟読し、そこに表現される内容を考察する。また、『竹取物語』に関連する作品もその考察の範囲にふくめる。演習形式でおこなう。『竹取物語』の構想や表現の特徴を踏まえつつ、その内容を十分に説明できる力、「つくり物語」というジャンルの方法を精確に説明できる力、『竹取物語』について学術的な理解をし、説明できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	中古文学講読 2	『伊勢物語』の成立、構造、作者、享受、伝本、研究史について講義したうえで、作品を熟読し、そこに表現される和歌と物語とを考察していく。『古今和歌集』や『大和物語』など、『伊勢物語』に関連する作品もその考察の範囲にふくめる。演習形式でおこなう。『伊勢物語』の構想や表現の特徴を踏まえつつ、その内容を十分に説明できる力、歌物語というジャンルの方法を精確に説明できる力、『伊勢物語』の各章段について、学術的な理解をし、説明できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	中世文学講読 1	「歴史」を叙述した『水鏡』のなかでも、異本とされる前田家本は「説話」的な要素が多くふくまれている。『水鏡』のうち神武天皇・神功皇后応神天皇各条の読解とおして、説話研究に必要な知識や手法によって、作品の背景にある思想をひもとく。演習形式でおこなう。中世文学の研究に必要な知識、文学研究のいくつかの手法を学び、それらを実践して発表できる力、みずから問題提起をし、考察した内容を論理的な文章でまとめられる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	



科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国 文学 国語 学科 専攻 科目	中世文学講読 2	「歴史」を叙述した『水鏡』のなかでも、異本とされる前田家本は「説話」的な要素が多くふくまれている。『水鏡』のうち雄略天皇・欽明天皇・敏達天皇等各条の読解をとおして、説話研究に必要な知識や手法によって、作品の背景にある思想をひもとく。演習形式でおこなう。 中世文学の研究に必要な知識、文学研究のいくつかの手法を学び、それらを実践して発表できる力、みずから問題提起をし、考察した内容を論理的な文章でまとめられる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	近世文学講読 1	井原西鶴の浮世草子のなかから複数話を選び、それぞれに主題・副題をふまえて精読する。また、作品の解釈につながる時代背景や文化などについて考察する。演習形式でおこなう。 近世期の文学作品の解釈にかんする基礎知識・研究方法を習得し、調査報告やレポート作成に援用できる力、与えられた課題について、みずからの力で問題点を発見することができる力、発見した問題点について、適切に〈調査／分析／報告〉できる力、報告内容にもとづき、客観的根拠を明示したレポートが作成できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	近世文学講読 2	上田秋成の読本のなかから複数話を選び、精読する。とくに作品成立の背景にある他作品との影響関係や典拠の撰取状況を中心に考察する。演習形式でおこなう。 近世期の文学作品の解釈にかんする基礎知識・研究方法を習得し、調査報告やレポート作成に援用できる力、与えられた課題について、みずからの力で問題点を発見することができる力、発見した問題点について、適切に〈調査／分析／報告〉できる力、報告内容にもとづき、客観的根拠を明示したレポートが作成できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	近代文学講読 1	近代に成立した文学テクストを読解し、研究する方法の基礎を知る。具体的には、太宰治の中期の小説のなかから、比較的早い時期に執筆された短編作品を題材として取りあげて、小説をその構造から分析する視点を持つことを目指す。演習形式でおこなう。 近代の文学テクストを読解し、研究する方法の基礎を知り、具体的なテクストを対象として資料調査をおこなうとともに、客観的な理由をあげながらみずからの意見を発表できる力を身につけることを目標とする。	
	近代文学講読 2	近代に成立した文学テクストを読解し、研究する方法の基礎を知る。具体的には、太宰治の中期の小説のなかから、比較的遅い時期に執筆された作品を題材としてその方法を実践するとともに、小説をその話法構造から分析できることを目指す。演習形式でおこなう。 近代の文学テクストを読解・研究する方法を実践できるようになり、具体的なテクストを対象として資料調査をおこなうとともに、客観的な理由をあげながらみずからの意見を説得力をもって発表できるようになることを目標とする。	
	上代文学特論 1	『万葉集』にかんする基礎的な知識を講義したうえで、代表的な歌人や作品を読解し、『万葉集』について概観する。さらに、作品が成立した背景や文学史上の意義などについて考察する。講義形式でおこなう。 『万葉集』にかんする基礎知識を理解し、説明できる力、研究史や表現の分析をとおし、『万葉集』の作品を正確に読解できる力、『万葉集』の概要や作品について、客観的かつ論理的な文章で解説・論述できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	上代文学特論 2	『万葉集』の相聞歌・恋歌についての基礎的な知識を講義形式で概説する。また、『古事記』や『日本書紀』などに載る人物や出来事の記述を参照し、『万葉集』の作品の背後にある歴史を踏まえて読解する。さらに、作品が成立した背景や、文学史上の意義などについて考察する。講義形式でおこなう。 『万葉集』の相聞歌・恋歌についての基礎知識を理解し、説明できる力、『古事記』や『日本書紀』などの文献を参照しながら『万葉集』の作品を正確に読解できる力、『万葉集』の概要や作品について客観的かつ論理的な文章で解説・論述できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国文学 国語学科 専攻科目	中古文学特論 1	まず、在原業平の平安時代評を中心に人物および時代的背景を検討し、次に、変体仮名を学習（第一段）するとともに写本時代の文化的特質についても講義する。さらに平安朝文学を概観したあと、二条后関連章段（第四段など）や伊勢斎宮関連章段（第六十九段など）を中心に講義する。その際、受講生それぞれに課題を与え、主体的に授業に参加してもらおう。講義形式でおこなう。 『伊勢物語』の講読をとおして古典作品を解釈する力、原文の翻刻や語義の調査など、国文学研究に必須の作業を体験し、問題点を自身のことばで議論できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	中古文学特論 2	『源氏物語』のなかから「絵合巻」を取りあげて、原文で読み進めるとともに、『源氏物語』の構想や表現について考えていく。なお、「皇統・密通」など、本巻のなかで語られるテーマや『源氏物語』の研究史（近代・現代）についてもそれぞれ考察する。講義形式でおこなう。 『源氏物語』にかんする基礎的な知識をまとめられる力、「絵合巻」の内容や表現について説明できる力、『源氏物語』の写本の変体仮名を読む力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	中世文学特論 1	遁世の第一人者として語られた玄賓にまつわるさまざまな話を読解し、遁世者としての像がどのようにして形成されてきたのか、さらに、玄賓像や遁世観の変遷について講義する。講義形式でおこなう。 同話・類話との比較や注釈書の分析などの研究手法にくわえ、あるテーマについて作品ごとの差異や時代による変遷があることを認めつつ多角的に考察できる力、みずから問題提起をし、考察した内容を論理的な文章でまとめる力を身につけることを教育目標とする。	
	中世文学特論 2	石上神宮、大神神社、春日大社などの縁起（由緒）を読解し、神社の由緒がさまざまな語られ方をしていることを確認し、各縁起（由緒）の違いが持つ意味について講義する。さらに、寺社縁起（由緒）の位置づけについても考える。講義形式でおこなう。 注釈書や絵画資料などの活用や原本の調査といった研究手法にくわえ、あるテーマについて、作品ごとの差異や時代による変遷があることを認めつつ多角的に考察できる力、みずから問題提起をし、考察した内容を論理的な文章でまとめることができる力を身につけることを教育目標とする。	
	近世文学特論 1	江戸時代後期に出版された地誌である「名所図会」の名をもつ作品群をとりあげ、そこからみえてくる江戸時代の文化とその表象について学ぶ。具体的には、『都名所図会』『拾遺都名所図会』等の上方地域で出版された「名所図会」を中心に、そこに記述・描写された内容から垣間みえる近世期の上方地域における文化的特質について考察する。講義形式でおこなう。 近世期の文化とその表象にかんする知識を習得し、個別の問いに回答できる力、近世期の文化とその表象について、みずからの力で解釈し、系統だてて説明できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	近世文学特論 2	江戸時代後期に出版された地誌である「名所図会」の名をもつ作品群をとりあげ、そこからみえてくる江戸時代の文化とその表象について学ぶ。具体的には、『都名所図会』『江戸名所図会』ならびに『東海道名所図会』をてがかりに、そこに記述・描写された内容を比較し、江戸時代の文化的特質について考察する。講義形式でおこなう。 近世期の文化とその表象にかんする知識を習得し、個別の問いに回答できる力、近世期の文化とその表象について、みずからの力で解釈し、系統だてて説明できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	近代文学特論 1	明治時代初期から大正期に至る時期の作家や思想家たちが、異なる文化をどのように受けとめ、みずからの表現をつくりだしたのか、国家間の政治的・経済的関係、諸制度の相違、渡航の動機と条件などに注目しながら考察し、異文化間の様々な交流を分析的に見る姿勢を修得する。講義形式でおこなう。 日本の近代文学が、さまざまな異文化との交流によって形づくられてきたことを知ることによって、異なるものとの混交が新しい文化を産むことに気付くとともに、身近な事例を分析的に見るまなざしを身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国文学 国語学科 専攻科目	近代文学特論 2	大正時代後期から昭和にかけて、作家や移民たちが、異なる文化をどのように受けとめ、みずからの表現をつくりだしたのか、国家間の政治的・経済的関係、諸制度の相違、渡航の動機と条件などに注目しながら考察し、異文化間の様々な交流を分析的に見る姿勢を修得する。講義形式でおこなう。 日本の近代文学、様々な異文化との交流によって形作られてきたことを知ることで、異なるものとの混淆が当たらしい文化を産むことに気付くとともに、身近な事例を分析的に見るまなざしを身につけることを目標とする。	
	古典文学史 1	上代から中古の各時代の文学史について概説する。古典文学史を鳥瞰することが大きな目的ではあるが、個別の課題や問題についても講義をする。文学史に敷衍して、日本文学の形態や理念、また研究の成果も説明する。文学史を通しての「古典文学」が向き合うべき課題についても問題提起をしたい。講義形式でおこなう。 上代から中古の文学史の全体を説明できる力、上代から中古の日本文学の特徴を説明できる力、文学作品の描かれた各時代の社会的・思想的背景や価値観を説明できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	古典文学史 2	国文学研究における時代区分にしたがい、それぞれの時代に成立した文学作品を取りあげながら、歴史の変遷を概観する。本講義では、中世・近世にスポットをあて、時間の流れとテーマとにわけて論じる。講義形式でおこなう。 中世・近世に成立した文学作品にかんする知識を習得し、個別の問いに回答できる力、中世・近世に成立した文学作品について、それぞれの特徴や社会的・文化的背景をとらえながら、系統だてて説明できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	近代文学史 1	「内面」「国家」「メディア」「身体」「読者」などの語をキーワードとしながら、江戸時代後期以降から明治時代にいたる時期を代表するテキストを取りあげて、その変遷の概要と社会的背景とを俯瞰していく。講義形式でおこなう。 日本における「近代化」とはどのような社会的変化を指すのか、またそのなかで文学はどのように変わっていったのか、近代以前と後のそれぞれの文学作品に触れながら、その概要について説明できる力を身につけることを目標とする。	
	近代文学史 2	「大衆」「都市空間」「戦争」「身体」「読者」などの語をキーワードとしながら、昭和初年以降から1980年代にいたる時期を代表するテキストを取りあげて、その変遷の概要と社会的背景とを俯瞰していく。講義形式でおこなう。 昭和初年から1980年代まで、日本の社会はどのように変化したのか、またそのなかで文学はどのように変わっていったのか、それぞれの時代を代表する文学作品に触れながら、その概要について説明できる力を身につけることを目標とする。	
	国文学演習（上代） 1	『万葉集』の季節にまつわる作品について、文献を調査し、資料を作成して発表する。また、他の受講者の発表に対して質疑応答をおこなう。さらに、発表した作品について考察したことをレポートにまとめる。演習形式でおこなう。 『万葉集』の季節にまつわる作品とその文学史的な流れが解説できる力、『万葉集』の季節にまつわる作品の本文校訂ができ、正確に読解することができる力、文献調査や作品分析をもとに資料を作成し、発表することができる力、『万葉集』の作品について、学術的なレポートの形式で論述できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国文学演習（上代） 2	『万葉集』巻十六の作品について、文献を調査し、資料を作成して発表する。また、他の受講者の発表に対して質疑応答をおこなう。さらに、発表した作品について考察したことをレポートにまとめる。演習形式でおこなう。 『万葉集』巻十六の作品とその文学史的な流れが解説できる力、『万葉集』巻十六の作品の本文校訂ができ、正確に読解することができる力、文献調査や作品分析をもとに資料を作成し、発表することができる力、『万葉集』巻十六の作品について、学術的なレポートの形式で論述できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国文学演習（中古） 1	おおくの『源氏物語』の登場人物のなかから、とくに藤壺と末摘花とに着目しながら、その問題点について考察する。演習形式でおこなう。 『源氏物語』がどのように書かれ、またどのような構想を持った作品であるのか説明できる力、『源氏物語』の本文、表現、解釈などを具体的に提示できる力、研究の意義付けや先行する研究論文の読み方、口頭発表の手順、レポートの執筆など、学術的な研究に必要とされる方法を、それぞれ身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国文学 国語学科専攻科目	国文学演習（中古） 2	おおくの『源氏物語』の登場人物のなかから、とくに葵の上と六条御息所、紫の上に着目しながら、その問題点について考察する。演習形式でおこなう。 『源氏物語』がどのように書かれ、またどのような構想を持った作品であるのか説明できる力、『源氏物語』の本文、表現、解釈などを具体的に提示できる力、研究の意義付けや先行する研究論文の読み方、口頭発表の手順、レポートの執筆など、学術的な研究に必要なとされる方法を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国文学演習（近世） 1	近世前期に成立した文学作品を精読する過程で浮上する問題点について、担当者が調査・分析し、報告する。また、それぞれの報告内容について、聴講者からの質疑・批判と、それに対する担当者からの回答・反論とおこなう。演習形式でおこなう。 近世期の文学作品の解釈にかんする知識・方法を習得し、調査報告・レポート作成に援用できる力、与えられた課題について、みずからの力で問題点を発見することができる力、発見した問題点について、適切に（調査／分析／報告）できる力、聴講者からの質疑にたいして、適切に回答できる／報告内容にもとづき、客観的根拠を明示したレポートが作成できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国文学演習（近世） 2	近世後期に成立した文学作品を精読する過程で浮上する問題点について、担当者が調査・分析し、報告する。また、それぞれの報告内容について、聴講者からの質疑・批判と、それに対する担当者からの回答・反論とおこなう。演習形式でおこなう。 近世期の文学作品の解釈にかんする知識・方法を習得し、調査報告・レポート作成に援用できる力、与えられた課題について、みずからの力で問題点を発見することができる力、発見した問題点について、適切に（調査／分析／報告）できる力、聴講者からの質疑にたいして、適切に回答できる／報告内容にもとづき、客観的根拠を明示したレポートが作成できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国文学演習（近代） 1	近代日本の文学テキストを研究するために必要な基礎作業を確認し、さまざまな研究方法の概要と特質とを学んだのち、具体的な作品を対象として資料調査や分析をおこない、その結果を発表する。演習形式でおこなう。 近代日本の文学テキストを研究するためのさまざまな方法を知るとともに、時代を代表する作家たちの短編小説を題材に、みずから問題を設定し論理性と説得力とをもってそれに答え、それを伝えることができる力を身につけることを目標とする。	
	国文学演習（近代） 2	近代日本の文学テキストを研究するために必要な諸作業を実践し、さまざまな研究方法の概要と特質を作品に応じて活用できるようになることを目指す。具体的な作品を対象として資料調査や分析をおこない、その結果を発表する。みずからの考えを客観的な資料や論理によって説得力をもって伝えることができるとともに、参加者からの質問や意見を取り入れて発表内容を改善することができるようになる。演習形式でおこなう。 近代日本の文学テキストを研究するためのさまざまな方法を知り、時代を代表する作家たちの短編小説を題材に、みずから問題を設定し論理性と説得力をもってそれに答え、それを伝えることができる力を身につけることを目標とする。	
	国語学基礎演習	国語学における基礎的内容とそれらを実際に情報処理機器で入力したり活用したりする方法について演習する。また、データの収集や集計、分析について、情報処理機器を活用した効率的な方法について指導する。演習形式でおこなう。 国語学の基礎的・基本的内容とコンピュータを活用した国語学研究の実際について（情報処理機器を活用し検索した参考文献リストの作成やWord、Excelなどのアプリケーションソフトを使った言語データベースの作成方法や集計方法、統計分析の基礎的的操作）を学び、活用できる力、音声記号の入力やコーパスを活用できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国語学概論 1	国語学の諸分野について、基礎的な概念や専門用語、さまざまな学説を学ぶことによって、各分野における固有の研究方法を知らるとともに、国語学関係の他の授業を受講するために必要とされる能力を得る。講義形式でおこなう。 音声・音韻および語彙にかんする基礎的な知識を獲得し、2年次以降に配当する国語学関連の授業の内容を理解するために必要とされる能力を修得するとともに、みずから興味を持って日本語に接する態度を身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国文学国語学科専攻科目	国語学概論 2	<p>国語学の諸分野について、基礎的な概念や専門用語、さまざまな学説を学ぶことによって、各分野における固有の研究方法を知らるとともに、国語学関連の他の授業を受講するために必要とされる能力を得る。講義形式でおこなう。</p> <p>文章史・方言および敬語法にかんする基礎的な知識を獲得し、2年次以降に配当する国語学関連の授業の内容を理解するために必要とされる能力を修得するとともに、みずから興味を持って日本語に接する態度を身につけることを目標とする。</p>	
	国語学特論（言語構造） 1	<p>日本語を母語にもつ日本人にとっては、日本語は「あたりまえ」の存在であり、通常感覚ではそこに何らかの構造を認めることは困難である。日本語学は、古くは、古典語の研究、近くは、日本語学習者への日本語教育の経験を通して、日本語の構造を対象化してきた。講義形式でおこなう。</p> <p>本講義では、これらのプロセスを踏まえ、日本語に関するいくつかの文法事項について、受講生に日本語の構造を再発見させる。より具体的には、文の成立要件やヴォイス、主題化、助詞に関するいくつかの問題を検討することによって、日本語における表現と文法の関係についての知識を獲得し、日本語の本質を理解することを目標とする。</p>	
	国語学特論（言語構造） 2	<p>日本語を母語にもつ日本人にとっては、日本語は「あたりまえ」の存在であり、通常感覚ではそこに何らかの構造を認めることは困難である。日本語学は、古くは、古典語の研究、近くは、日本語学習者への日本語教育の経験を通して、日本語の構造を対象化してきた。講義形式でおこなう。</p> <p>本講義では、これらのプロセスを踏まえ、日本語に関するいくつかの文法事項について、受講生に日本語の構造を再発見させる。より具体的にはモダリティ形式、アスペクト・テンスや副詞に関するいくつかの問題を検討することによって、日本語における表現と文法の関係についての知識を獲得し、日本語の本質を理解することを目標とする。</p>	
	国語学特論（言語運用） 1	<p>「てにをは」（助詞・助動詞の一部を含む）の理解をキーワードにして、私たちの日常において身近なところでよく見聞きする日本語文章を例にとって考察する。教科書を用いるが、各講を学生が分担してグループワーク形式によって調査・発表という、学生主体のアクティブラーニング形式をとる。講義形式でおこなう。</p> <p>日本語文法を基礎から学習し、文章構造について理解を深め、現代日本語の日常的な運用場面において文法的な思考を持って分析する能力、「構文論・統語論」の分野での専門的な研究方法を日常の現代語に対して適用できる力、日本語を支える「てにをは」（助詞）の機能、重要性を認識できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。</p>	
	国語学特論（言語運用） 2	<p>「語構成」「音節」構造をキーワードにして、私たちの日常において身近な日本語の語彙を例にとって考察する。身近な親しみやすいことばの例を取りあげながらも、しっかり「日本語学する」ことを目的に、語構成論、音節構造についての音声学・音韻論的な知識を学ぶ。各講を学生が分担してグループワーク形式によって調査・発表という、学生主体のアクティブラーニング形式をとる。講義形式でおこなう。</p> <p>日本語文法を基礎から学習し理解を深め、おもに「語彙論・語構成論」の分野において、学説的な知識と専門研究の方法、日本語の単語・語彙についての構造的な理解を深め、語構成・音節構造・接辞・派生などの専門知識を習得し、駆使できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。</p>	
	国語学特論（言語実態） 1	<p>ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する。ここでは、日本語の変化の中でもとりわけ、関西方言に注目し変異や変化の要因について詳細に確認する。講義形式でおこなう。</p> <p>国語学のなかでも方言学や言語地理学および社会言語学の知識、関西方言を中心に、ことばの変異や変化と社会の相関について最新の研究成果から学び、そのうえで、各自が自身の興味や疑問解決のための手順を、それぞれ身につけることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国文学国語学科専攻科目	国語学特論（言語実態） 2	日本の各地で話されている方言について概観したうえで、現在の関西地域で話されている方言全般を、社会言語学的な視点から考察し、その実態や変化を理解する。講義形式でおこなう。 国語学のなかでも方言学や言語地理学および社会言語学の知識を修得するとともに、関西地域で話される方言を中心に、ことばの変異や変化と社会の相関について最新の研究成果から学び、そのうえで、各自が自身の興味や疑問解決のための手順を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国語史 1	現在、我々が使用している日本語は、決して固定した存在ではなく、変遷を経てきたものであり、また変化しつつある存在である。どのような言語も長い歴史を持つが、日本語は古代から近代にいたるまで豊富な文献資料が残っており、この変化の過程をたどりやすいという特徴がある。こうしたことをふまえ、日本語の変化のプロセスを知り、現代の日本語の構造について、より深く理解する。講義形式でおこなう。 音韻・表記・語彙の問題を中心に、日本語史の基礎的な知識を身につけることを目標とする。	
	国語史 2	現在、我々が現在使用している日本語は、決して固定した存在ではなく、変遷を経てきたものであり、また変化しつつある存在である。どのような言語も長い歴史を持つが、日本語は古代から近代にいたるまで豊富な文献資料が残っており、この変化の過程をたどりやすいという特徴がある。こうしたことをふまえ、日本語の変化のプロセスを知り、現代の日本語の構造について、より深く理解する。講義形式でおこなう。 文法・待遇表現・文章文体・言語生活の問題を中心に、日本語史の基礎的な知識を身につけることを目標とする。	
	国語学演習（言語構造） 1	言語資料に基づき、受講者各自が日本語構造にかんする問いを立て、調査し、仮説を検証し、その結果を発表する。その発表内容について、参加者全員でディスカッションをおこなう。演習形式でおこなう。 先行研究をふまえた問いの立て方、資料の特性を理解したデータの取り扱い方、仮説と論証を吟味する力、わかりやすいプレゼンテーションの方法、ディスカッションのスキル、さらにはこれらのプロセスを学生に経験させ、各自の関心にしたがった研究をみずからの力でおこなえる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国語学演習（言語構造） 2	言語資料に基づき、受講者各自が日本語構造にかんする問いを立て、調査し、仮説を検証し、その結果を発表する。その発表内容について、参加者全員でディスカッションをおこなう。演習形式でおこなう。 先行研究をふまえた問いの立て方、資料の特性を理解したデータの取り扱い方、仮説と論証を吟味する力、わかりやすいプレゼンテーションの方法、ディスカッションのスキル、さらにはこれらのプロセスを学生に経験させ、各自の関心にしたがった研究をみずからの力でおこなえる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国語学演習（言語運用） 1	「てにをは」（助詞・助動詞の一部を含む）の理解をキーワードに、日常において身近な日本語の文章を例にして考察する。演習形式でおこなう。 日本語の文法を基礎から学び、文章の構造について理解を深め、文法的な思考によって現代の日本語の日常的な運用について分析する力、構文論・統語論の研究方法を現代の日本語に適用できる力、協働学習において主体的・能動的に問題を解決できる力、プレゼンテーションにおいて他者に自身の考えを伝達できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国語学演習（言語運用） 2	「語構成」「音節」の構造をキーワードに、日常において身近な日本語の語彙を例にして考察する。演習形式でおこなう。 日本語の文法を基礎から学び、「語構成」「音節」にかんする理解を深め、語彙論・語構成論の分野における知識と研究方法、日本語の単語・語彙を構造的に理解し、語構成・音節構造・接辞・派生などの専門知識を駆使できる力、協働学習において主体的・能動的に問題を解決できる力、プレゼンテーションにおいて他者に自身の考えを伝達できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	国語学演習（言語実態） 1	方言学や言語地理学および社会言語学の学問分野の内容について講義する。そのうえで、実際の言語調査のプロセスである、調査票の作成・予備調査・本調査・調査票結果の入力、集計・調査結果の分析・調査結果の考察（レポート作成）のなかでも、調査結果の入力、集計までを演習する。演習形式でおこなう。 国語学のなかでも方言学や言語地理学および社会言語学の実践について研究方法およびそれらにともなう技術的な内容について演習する。そのうえで、各自が自身の興味や疑問解決のために、みずから調査し考察できる力を身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国文学 国語学 学科専攻科目	国語学演習（言語実態）2	実際の言語調査のプロセスである、調査票の作成・予備調査・本調査・調査票結果の入力、集計・調査結果の分析・調査結果の考察（レポート作成）のなかでも、「調査結果の入力、集計」以降のプロセスの演習について、指導する。演習形式でおこなう。 国語学のなかでも方言学や言語地理学および社会言語学の実践について研究方法およびそれらにともなう技術的な内容について演習する。そのうえで、各自が自身の興味や疑問解決のために、みずから調査し考察できる力を身につけることを目標とする。	
	漢文学基礎演習	漢文を構成する漢字についての理解を深め、日本語と漢語の関係性について、また、漢文学に対する概論的な知識や、漢詩文を読解するにあたって必要な文法や返り点の仕組みについて、それぞれ解説する。辞書の引き方、返り点、文法について、ワークなどをおおして学修する。演習形式でおこなう。 漢詩文の読解に必要な基礎的な知識、日本語と漢字の関係について理解できる力、辞書を引きながら漢詩文を訓読できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	漢文学特論1	日本の文学や文化と密接にかかわりのある漢詩文について、歴史的・文化的背景を含めて解説する。あわせて、作品を読解するために必要な語句・語法についても解説することで漢文学に対する理解を深め、作品とその作者や歴史・文化的背景、文学史上の意義などについて考察する。講義形式でおこなう。 日本、中国の漢詩作品を正確に読解できる力、漢文学の日本文学・日本文化への影響を理解し、作品についてレポートの形式によって論述できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	漢文学特論2	漢文学史のなかでもとくに重要な作品（『論語』や史書、詩文など）を中心に読解する。あわせて、作品を読解するために必要な語句・語法についても解説することで漢文学に対する理解を深め、作品とその作者や歴史・文化的背景、文学史上の意義などについて考察する。講義形式でおこなう。 作品を正確に読解できる力、作品の文学史的意義、作者や作品の背景について理解する力、それらをレポートの形式によって論述できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	実用国語表現	ビジネス文書や手紙文など、実生活のうえで必要となる文章作成について、その基礎的な知識を獲得して実際の技能を修得する。また、論文などの論理的な文章を書く仕組みについて学び、実践する。演習形式でおこなう。 言語の四技能のうち、「書く」能力に焦点をあて、わかりやすく、説得力のある文章が作成できる力、模範的文例や、よくある間違い例を分析・検討しつつ実作の訓練を重ね、TPOに応じた適切な文章を書く力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	音声言語	話しことばの本質に関する知識を獲得するとともに、スピーチやディベート、プレゼンテーションの技法を学び、実践的な訓練をおおして能力を修得する。また、落語や漫才などの「話芸」を分析して、音声を媒体とする表現について考察する。演習形式でおこなう。 言語の四技能のうち、「話す」能力に焦点をあて、話し言葉の本質を理解し、説明できる力、スピーチやディベートの技法を修得し、実践できる力、音声を媒体とする表現活動について分析できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	天理図書館資料論（上代・中古）	天理大学附属天理図書館が所蔵する古典籍について教示し、実践的に調査する。具体的には、おもに『天理図書館善本叢書』掲載の影印本のうち上代文学または中古文学にかかわる資料を使用し、変体仮名・くずし字の解説、翻字をおこない、その内容の読解を試みる。また、天理図書館の古典籍収集の歴史、基本的な書誌学技能の習得、デジタルコンテンツの活用をふくめた資料調査の実践やなまの古典籍の閲覧・調査・報告をおこなう。演習形式でおこなう。 天理大学附属天理図書館が所蔵する古典籍（とくに上代文学または中古文学にかかわる資料）にかんする知識、古典籍を扱ううえで基本的な調査能力を、それぞれ身につけることを目標とする。	隔年
	天理図書館資料論（中世・近世）	天理大学附属天理図書館が所蔵する古典籍のうち、とくに中世文学・近世文学に成立した資料について、その現物を閲覧し、原文を解説しながら、資料の取り扱いと調査の方法とを、それぞれ実習をつうじて学ぶ。演習形式でおこなう。 古典籍（とくに中世文学・近世文学にかかわる資料）にかんする書誌学的な知識、資料をたたく扱い、調査する力、資料の内容を理解するとともにその文学的価値をみいだすことができる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国文学 国語学科 専攻科目	大和の地域文化論（文学）	現在の奈良県にかかわる古典文学の作品を具体的に取りあげ、各時代において大和地域がいかに表象され、それを受容した人びとはどのようなイメージを共有していたのか、さらにはそれらのイメージが現在の「古都奈良」にあたえた影響について、それぞれ考察する。講義形式でおこなう。 大和地域の特質について文学的・文化史的な知見から説明できる力、古典文学の作品解釈が現在の奈良県の文化的資源にあたえた影響について説明できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。	隔年
	大和の地域文化論（言語）	古代大和で生成された万葉仮名が平仮名や片仮名に変遷していく過程を確認するとともに、標準語や共通語、方言といった用語の学術的意味にくわえ、日本の方言の実態や特徴、分布の状況について確認し、とりわけ、方言圏論をとおして上代においては「大和のことば」が日本語の標準であった事実や、それらが、伝播し各地の方言に姿を変えて残存していることを確認する。最後に、奈良県方言を含む近畿中央部の方言の特徴について概説する。講義形式でおこなう。 「大和のことば・人々の暮らし・ものの考え方」のうち、とりわけ「ことば（方言）」に焦点をあてて、大和（奈良）が日本語に果たした歴史的役割や大和の方言の文化的意味、現在の標準語や諸方言との関係について説明できる力を身につけることを目標とする。	
	文章表現 1	文章を書くことに慣れるために、インタビュー記事などを作成する。創作活動は広告のコピーや随筆など、段階をふむことによって、スキルを修得し、最終的には各自の関心にしたがって、1本の完成した小説を書きあげる。演習形式でおこなう。 文学作品について、作品の構造的な理解をふまえた深い関心を持ちつつ、音韻・修辞・構成といった言語表現の多様な側面を分析できる力、実作をつうじて、文学的な文章を創作する力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	文章表現 2	小説とはどういうものなのか、まず先輩の作品を読むところからイメージを作り、状況の分析、会話と地の文、テーマの設定、キャラクターの設定などについて学び、期日までに作品を提出する。作品は多くの場合、3つのキーワードを含めて書くことを求める。演習形式でおこなう。 小説の創作を体験することによって、文学作品に主体的な関心を持ちつつ、最終的には各自の関心にしたがって、1本の完成した小説を書きあげる力、小説という複雑・高度な存在を、さまざまな視点から分析できる力、実作をつうじて、文学的な文章を書く力を、それぞれ身につけることを目標とする。	
	書道（書写を中心とする）	中学校の教育課程における「国語科（書写）」の実技指導やその授業計画等について学習する。「国語科（書写）」の取り扱いのうち、とくに、書写の指導にあたる観点から、毛筆・硬筆の実技を中心に、授業を展開していく。実習形式でおこなう。 「国語科（書写）」の授業や教育の現場において必要とされる書写技法の習得、書写指導の考え方や知識、さらには授業の展開（示範・添削・評価）などを身につけ、生徒たちに支援できる力を養うことを目標とする。	
	国語科指導法 1	学習指導要領解説の講義・講読により、中学校・高等学校国語科の目標および内容ならびに全体構造を理解する。また、教科書に掲載されている、各教材の扱い方（おもに評論）や指導法を講義と模擬授業をとおして理解する。なお、国語科教育における基礎的・基本的知識内容の確認を小テストによっておこなう。演習形式でおこなう。 講義・模擬授業をとおして、学習指導要領における国語科の目標・内容・全体構造を説明できる力、それぞれの学習内容について、目標の到達度に応じて適切に学習評価できる力、国語科と国文学・国語学のそれぞれの学問領域の関係を理解し、教材研究に活用できる力、発展的な学習内容の探求方法と学問領域の相関とを理解し、学習指導に生かせる力などを、それぞれ身につけることを目標とする。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国文学国語学科専攻科目	国語科指導法 2	<p>学習指導要領解説の講義・講読により、中学校・高等学校国語科の目標および内容ならびに全体構造を理解する。また、教科書に掲載されている、各教材の扱い方（おもに読む・書く・話す）や指導法を講義と模擬授業とをとおして理解する。なお、国語科教育における基礎的基本的知識内容の確認を小テストによっておこなう。演習形式でおこなう。</p> <p>講義・模擬授業をとおして、学習指導要領における国語科の目標・内容・全体構造を説明できる力、それぞれの学習内容について、目標の到達度に応じて適切に学習評価できる力、国語科と国文学・国語学のそれぞれの学問領域の関係を理解し、教材研究に活用できる力、発展的な学習内容の探求方法と学問領域の相関とを理解し、学習指導に生かせる力などを、それぞれ身につけることを目標とする。</p>	
	国語科指導法 3	<p>中学校・高等学校の学習指導要領に即して国語科教育の理念と実践について学び、国語の具体的授業像を持つ。受講生が、将来国語科教員として教材研究に必要な基本的姿勢や方法、および学習指導案作成の方法の習得を目指す。とくに模擬授業では、受講生自身が教材を選び、その教材研究をとおして授業設計をし、学習指導案を作成したうえで、模擬授業を実施してもらう。その後の反省会をとおして、学習指導要領に則った、より実践的な国語科指導法の習得をめざす。演習形式でおこなう。</p> <p>中学校・高等学校の学習指導要領にもとづき国語科の教育目標・内容について理解するとともに、ICTを活用した授業展開の工夫ができるだけのスキル、模擬授業をとおして、学習指導案の作成や、実際の授業場面を想定した教材研究を主体的におこなえる力を、それぞれ身につけることを目標とする。</p>	
	国語科指導法 4	<p>学習指導要領に即して国語科教育の理念と実践について学び、国語科教員にふさわしい素養や知識を養う。中学校や高等学校の国語科教育の内容・本質を理解し、教材研究や指導法等の基礎的資質を学ぶ。演習形式でおこなう。</p> <p>中学校・高等学校で授業をするための知識やスキルを修得し、指導案を立案し、模擬授業として受講者の前で発表できる力、模擬授業の内容について、根拠をふまえた意見をもって、討議できる力、他者の模擬授業を評価ができる力を、それぞれ身につけることを目標とする。</p>	
	卒業論文演習	<p>前半では、各専門分野の作品・テーマを対象とする卒業論文を作成するために、テーマを選定し、資料・先行研究の調査・収集をおこなう。これと並行し、論理的な文章を書くための技術を学ぶ。また、中間発表や進捗状況の報告をおこないつつ、各自のテーマにかんする問題点を発見し、考察する。後半では、卒業論文の作成にとりかかる。最終的に、具体的・客観的な根拠にもとづいた卒業論文を完成させ、定められた期限内に提出する。演習形式でおこなう。</p> <p>卒業論文を作成するための方法・技術を習得し、テーマにかかわる情報を収集し、分類・整理できる力、みずからの力でテーマを発見し、そのテーマについて、適切に調査・分析できる力、調査・分析した結果にもとづき、卒業論文の〈アウトライン／原稿〉を作成できる力、習得した方法・技術を、卒業論文の作成過程に活用できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。</p>	
	卒業論文	<p>各分野の卒業論文演習を受講し、それぞれの授業担当教員の指導を受けたうえで、自身で設定したテーマにもとづく卒業論文を作成する。また、作成した卒業論文の様式に過不足がないことを確認し、定められた期間内に提出する。さらに、提出した卒業論文の内容をふまえ、口述試問で問いかけられた問題に対し、回答をする。自身と他者との意見を整理する力、客観的な根拠を示しながら考察する力、指定された期間内に卒業論文を作成する力、作成した卒業論文の内容に対する問いかけに回答できる力を、それぞれ身につけることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
天理 教学 部門	伝道実習 1	天理教の信仰に関する講演会、教会本部や大学構内でのひのきしん活動などを通じて他者へ貢献することの意義を学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふべく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に主体的に貢献できる人間になることを目的とする。具体的には、大学行事である「おつとめまなび」への参加、毎月1回のひのきしん活動への参加、「信仰フォーラム講演会」への出席とそれぞれに関する感想文ないし報告書を提出する。	
	伝道実習 2	天理教の信仰に関する講演会、天理教教会本部における「お節会」のひのきしんなどを通じて人とつながり、人につくすよるこびを学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふべく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に貢献できる人間になることを目的とする。「おつとめまなび」に参加し、講話についての感想文を提出する。また、教会本部お節会のひのきしんや「信仰フォーラム講演会」に出席し、その感想文を提出する。	
	伝道実習 3	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の「祭儀式」における所作と重要な祭儀である「つとめ」の「おてふり」について、実習を通して学ぶ。それぞれ、教会本部より講師を招き、直接指導を受ける。それぞれの授業の最終日に、天理教の祭儀に関する基礎的な知識と所作、「つとめ」の手ぶりについて筆記・実技の試験を行ない、習熟を促す。	
	伝道実習 4	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の重要な祭儀である「つとめ」において使用する「鳴物」について、実習を通して学ぶ。教会本部より講師を招き、いくつかのグループに分かれて直接指導を受ける。最終の2回は、全体で九つの鳴物をあわせる総合練習を行い、鳴物の基礎的な知識と奏法だけでなく、それぞれの鳴物が合わせあって勤めるというつとめの心構えを学ぶ。	
資格 科目	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か？」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力（話す・聞く・書く・読む）の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞（名詞、動詞、い形容詞、な形容詞）の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態（ます形、辞書形、て形、た形、ない形など）のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類）をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	
人文 科学 部門	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か？」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力（話す・聞く・書く・読む）の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞（名詞、動詞、い形容詞、な形容詞）の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態（ます形、辞書形、て形、た形、ない形など）のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類）をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 人文科学部門	日本語文法論 2	「日本語文法論 1」の内容をもとに、主に日本語教育の初級段階で導入される重要な文法事項について考える。「ハとガ」「授受の表現（あげる・くれる・もらう）」「ヴォイス（受身・使役）」「動詞の自他」「テンス」「敬語」などを取りあげ、日本語学習者が難しいと感じる点、学習者の誤用が現れやすい点などを、諸言語との対照もまじえながら、わかりやすく説明するにはどうすればよいかについても考える。学生の積極的な意見交換が求められる。	
	日本語音声学	日本語の発音・アクセントの特徴とそれを教えるための留意点を整理したうえで、他言語を母語とする学習者が日本語の音声を学ぶ際に誤りやすい点について考える。具体的には、日本語の音声の調音点・調音法、日本語の高低アクセントの実態、日本語の母音の無声化の現象などの理解をもとに、ともすれば「お国ことば」が混じりやすい主に関西出身の学生の日本語の発音を、日本語教師として通用するようなよりスタンダードなものに変えることを目指す。	
	言語の対照研究	日本語教育において、学習者の困難点を予測し、誤りの原因を推測し、適切な教材・カリキュラムを作るには、学習者の母語と日本語との比較・対照が必要である。それらを研究対象とする対照言語学について学ぶ。この授業ではまず、日本語と英語の文法的な相違を概観したうえで、中国語圏日本語学習者が誤りやすい文法事項現象について解説する。そのうえで、履修者が学習する外国語の知識も生かしながら、諸言語と日本語の対照も行う。	
	日本語教授法 1	現在国内外の日本語教育現場では、どのような学生が、どのような機関で、どのように学んでいるのかを理解する。日本語教師の資質、教員の検定試験についても概説する。次に、指定教科書を使って、学習項目のたて方、練習方法、教具や教室活動などを分析し、実際の授業がイメージできるようにする。授業前半では、国際交流基金の調査をもとに、世界の日本語教育の実態についての発表を行う。後半は数種の日本語教材の内容を精査し、効果的な授業の進め方について考える。	
	日本語教授法 2	履修者が日本語の授業を担当するために必要な知識やスキルを身につける。まず、いろいろな外国語教授法について学び、それぞれの長所・短所について議論しながら、実際の授業に応用できないか考える。次に、それらの教授法を用いて、模擬授業を行ってみる。履修生に「日本語を日本語で教える」ことの難しさ・奥深さを感じてもらおうことが狙いである。この授業は、4年次で取り組む日本語教育実習に向けた準備段階と位置づけられる。	
	第二言語習得論	「外国語がどのように習得されるか」にかかわる普遍的なプロセスを多角的に学ぶ。例えば、「子どもは大人よりも外国語学習が得意か?」「インプットとアウトプットのどちらが大事か?」「大人も子供が母語を学ぶのと同じように学ぶべきか?」などのさまざまな疑問を切り口として、日本語教育に役立つような知見の獲得を目指す。そしてその知見を日本語教育の現場で生かすための実践的な取り組みを、授業で見られる具体的なケースをもとに討論する。	
	日本語指導法	4年次で取り組む「日本語教育実習」にそなえ、教壇に立つ経験を積むことを目指す。『みんなの日本語初級 I』をテキストに、担当の文型を教えるための30分程度の模擬授業を行う。あわせて、授業の教案の書き方についても学ぶ。履修者が担当するのは、「て形」「辞書形」「ない形」「た形」の導入およびその説明、運用のための練習に加え、「～がほしいです」「～たいです」「～がわかります」「～が上手です」などの文型である。	
	日本語教育評価法	実際の教育にあたる者は学習者の表現をどのように評価すればよいのかを考える。また、選択されている教材について、不足部分を検討し、副教材作成に至るまでの教材開発の流れについて知る。日本語教育における評価の実態、コースデザインと教材の関連性、教材開発の手順、ニーズ調査方法と留意点、主教材の分析と評価、分析結果に基づいたコース・デザイン、教材作成の留意点、学習目標とシラバス、などの分析を通して、副教材作りに取り組む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	人文科学部門	日本語教育実習	学外の日本語教育機関で一週間ほど、日本語教師の業務を実地に学ぶ。実習先は奈良県内、大阪市内の日本語教育機関が中心で、海外（台湾）の協定校で実習を行うこともある。実習前半は主に授業見学と実習先教員のアシスタントをしながらさまざまな教員の授業スタイルを学び、授業がない時間には教案作成にも取り組む。実習後半には教壇実習として、実際のクラスで30分～60分程度の授業を行う。教壇実習終了後には指導教員からのフィードバックを受ける。
	社会科学部門	図書館情報システム論	今日の図書館における各種の業務・サービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接に結びついている。この授業では図書館の業務・サービスを実施するのに必要な、基礎的な情報技術について、さまざまな実例を通じて理解を深める。特に、(1) コンピュータ技術・ネットワーク技術の基礎的知識を踏まえ、図書館のさまざまな活動を支える「図書館業務システム」の現状を理解すること、(2) 電子上の各種資料の管理・利用に関する注意点を理解すること、を主なねらいとする。
		情報サービス論	図書館サービスの重要な局面のひとつに、「利用者の情報要求（情報ニーズ）に対し、図書館内外の情報資源をもとに回答する」という情報サービスがある。ここには、「参考図書をもとにした応答」という従来型のレファレンス・サービスだけではなく、インターネットなどの電子的情報源をもとにした応答、図書館からの情報発信、図書館利用教育、といったさまざまな取り組みが含まれる。この授業ではレファレンス・サービスを中心としつつ、さまざまな情報サービスについて解説する。
		児童・YAサービス論	図書館における児童サービスは、図書館サービスのスタートラインであると共に子どもにとっての読書の入り口となっている。この授業ではサービスの意義と歴史、サービスの持つ特殊性、児童資料の種類と特色、サービスの在り方等に加えて、児童書に触れ、作品を取り上げての具体的な評価、子どもと本をつなぐ方法・技術（読み聞かせ・おはなし会の実演や体験）などを身につける。また児童サービスから一般サービスへの移行段階としてのYAサービスについても、この授業で取り上げる。
		情報サービス演習 1	この授業では図書館での情報サービスのうち、「利用者からの情報の要求に対し、何らかの根拠たりうる情報・情報源を提示しつつ応答する」という「レファレンスサービス」について、演習を行う。各回において具体的な情報源を解説しつつ、実際の課題を解いてもらう。図書館の「レファレンスサービス」に必要なさまざまな情報源について、調査対象となる事柄ごとに具体例を理解し、使い分けができるようになることを、ねらいとする。
		情報サービス演習 2	図書館での情報サービスを展開する上で、各種データベースやインターネット上のさまざまな情報源を検索し、また検索結果を評価する技能を身につけることは、利用者の情報要求を満たすために今後ますます必要となる。この授業では、主にインターネット上の無料の情報源について、演習を通じて検索・活用する方法を習得することをねらいとする。言い換えれば、この種の各々の情報源の信頼性を確認しつつ、検索の仕方や活用法を理解し、目的や対象に応じた使い分けができるようになることが、受講者の到達目標となる。
		図書館情報資源概論	図書館サービスを成り立たせる重要な要素のひとつは、「情報資源」の存在と、それを収集して構築した「コレクション」である。ここでいう「情報資源」は、伝統的な紙媒体の図書・雑誌といった「資料」とどまらず、インターネット上の電子メディアなども含めたものを指す。この授業においては、図書館情報資源の種類と特徴を論じ、また図書館における情報資源の取り扱い、資料選択とその基準、コレクションの構築・保存・評価などについて説明する。
		情報資源組織論	「情報の組織化」とは、図書館が収集した情報を利用に供するために、利用者の検索の便を考慮し、一定の方式（ルール）に従って、その情報源が有している各種の情報を整理・圧縮し、体系化することをいう。情報組織化の主な技術のうち、一つは情報を客観的に記述し、種々のことがらから検索するための技術である記述目録法、もう一つは情報の内容（主題）を分析・要約・表現するための技術である主題索引法である。本科目では、現行の具体的なルールの解説に加え、より原理的な考え方の理解に主眼を置いて講義する。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 社会科学部門	情報資源組織演習 1	図書館の情報資源についての主題索引法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・主題分析の方法が理解でき、対象資料の主題を明示できる。 ・分類法の構造と使用法が理解でき、説明できる。 ・特定の主題を分類法の記号に置き換えることができる。 ・分類表によって付与された分類記号がどのような主題を表しているかが分かる。 授業内では、日本十進分類法（NDC）の最新版に基づき、その適用規則を解説した上で、演習を行う。	
	情報資源組織演習 2	図書館の情報資源についての記述目録法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・記述対象資料に表示されている情報が書誌要素としてどれに該当するかが分析ができるようになる ・記述対象資料に表示されている情報を加工し、記述目録規則に従って記録することができるようになる。さらに、その情報について、データベースのコーディング規則に従って記録できるようになる。 授業内では、日本目録規則（NCR）およびJapan MARC formatそれぞれにつき、実務での運用に堪える版（バージョン）を取り上げ、適用方法を解説した上で、演習を行う。	
	図書館情報資源特論	図書館が管理・保存しアクセスに供する「情報資源」のうち、学術的な情報資源（学術情報）に焦点を当て、その生産・流通の実態、および図書館としての管理・保存・アクセス等をめぐる課題や取り組みについて解説する。特に、さまざまな領域の研究者がどのような研究活動を行い、その上でどのような成果を発信するか、またその成果の蓄積・共有のために図書館がどのような役割を担うか、さらには電子的環境でこれらがどのような新たな展開を見せているか、といった側面について、理解することを目的とする。	
	図書館情報学特論	日本古典籍資料とは何か、また、さまざまな国の古典籍資料のなかで、日本古典籍資料の各特徴について概観する。更に、図書館における古典籍資料業務の大まかな全体像について、見学や資料を参照しながら理解する。次いで、古典籍資料を実際に取り扱うための基本的な知識・スキルを学び、実際に手にとった取り扱いの基本を習得する。また、日本古典籍資料の組織化についての現状を知り、古典籍の総目録の特徴や利用法を通して、その現状と課題を考える。	
	博物館実習 1	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者とともに、歴史資料・考古資料・民俗資料・美術資料の取扱い方法や展示方法など、歴史系博物館の学芸員として必要な基本的知識と技術を修得する。また、各種の博物館施設を見学し、多様な博物館の実態と課題を学ぶ。これにより、博物館や学芸員の業務の実際を理解し、実践的能力を養い、次の段階の館園実習で十分な成果があげられるよう、実際的な知識・技能・態度見識を身につける。	共同
	博物館実習 2	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者の指導により、博物館の現場で行われている展示作業、資料整理、教育普及事業、資料調査などの学芸業務の一部を補助すると共に、具体的な実務を体験する。あわせて館内の展示施設やその他の施設・設備の状況を实地に学習する。実施にあたっては、原則として本学の附属博物館である天理大学附属天理参考館を実習館とし、同館の学芸員が指導にあたる。十分な指導が可能なよう適正な受講生数を配分したクラスを設け、それぞれ学芸員が担当し、通年中5日分の実習を集中講義で行う。	共同
	矯正概論	矯正の歴史と理念、矯正の機構と概要、関連法（刑事施設法、少年院法、少年鑑別所法など）の改正経緯と改正主旨、刑事施設の収容状況と受刑者の処遇、少年院及び少年鑑別所の沿革・組織・収容状況・処遇、外部協力者（教誨師・篤志面接委員）の活動について理解を深める。また、刑務官・法務教官・法務技官の職務などについて概説することを通して、概括的な矯正の歴史と現在の制度、及び、矯正に関連する職への理解を深める。	
	更生保護概論	更生保護は、犯罪や非行に陥った人たちの改善更生や再犯防止にとどまらず、犯罪の発生そのものを未然に防止する方策にまで拡大し、更には、心神喪失等の状況で罪を犯した人に対する医療観察制度や、被害者に対する施策なども導入され、警察、検察、裁判、矯正の諸制度とともに、現在刑事政策の重要な一翼を担っている。この授業では、更生保護の沿革を概観し、現行の更生保護制度の仕組み、手続き等、及び、実務経験からの処遇等について講義し、受講者とともに、犯罪や非行に陥った人たちの社会内処遇を考究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学部門	矯正保護教育（施設参観を含む）	刑事司法制度、刑事施設における各種改善指導、少年施設における矯正教育、更生保護制度の概要と課題、関係機関や民間協力者と連携した社会復帰支援、その他（刑務官・法務教官・法務技官・保護観察官）について概説する。この授業では、刑事施設や少年施設における各種教育活動の実情と課題について理解を深め、更に関係機関や民間企業等との連携の実情と課題、「世界一安全な国、日本」を表現するためには何が必要で、国民一人一人が何をなすべきかを正しく理解する。	
	矯正保護支援実践論	（概要）罪を犯す少年たちの心理的及び社会的背景から、その問題点を探ることにより、当事者の気持ちに寄り添った支援が出来るようになるとともに、再犯を防ぐため、将来保護司や教諭師などの公的な立場又は施設職員になり、社会生活への円滑な移行に役立たせるために準備性・計画性を持って、更生保護の支援が出来るようになることを目標に授業を展開する。保護司あるいは児童養護施設職員としての実務経験をもとに、犯罪者や非行少年の更正と社会復帰のための支援実践、また犯罪者や非行少年を抱える家族への支援のあり方と方法、さらには、矯正保護支援活動における問題点や課題などを、実践例をふまえながら理解する。授業は、オムニバス形式で行う。 （オムニバス方式/全15回） （96 高橋秀紀/6回） 保護司としての実務経験をふまえ、更生保護活動の具体的内容と意義、矯正保護施設の現況と課題、性犯罪対象者の再犯事例などを内容として講義する。 （99 山本道次/9回） 施護員の实務経験をふまえて、主な事例とその背景、児童虐待の現状と課題、家庭環境に問題を抱える事例、更生保護活動の実践例などを講義する。	オムニバス方式
	犯罪被害者支援論	捜査・刑事裁判などの刑事手続の流れや基本原則、法律の内容、これまで犯罪被害者が置かれてきた状況、犯罪被害者支援のための制度等についての知識や奈良を中心に犯罪被害者支援に関わる機関の取り組み等について、長年弁護士の立場から犯罪被害者救済の実務を担ってきた授業担当者からその実状を講義し、必要な知識を身につける。 弁護士として日頃裁判実務に関わり、現場で犯罪被害者を支援している経験から、支援の実際についても講義する。	
資格科目	教職論	我が国における教育の動向を踏まえながら、講義やグループでのワークショップを通して、今日の学校教育や教職の社会的意義や役割について理解する。事例や法令等の規程をもとに「教職の意義や教員の役割」について考察し、「教員の職務内容」や「服務や義務」について学ぶとともに、現代の学校教育の課題について知り、課題解決に向かって考え、行動できる素地を培う。「チーム学校」の一員として活躍できる資質や能力について考察する。	
教職に関する専門教育科目	教育原理	私たちの教育言説のもとになっている思想・概念・用語について、基本的な知識を身につける。また、資料・教材を具体的に提示し、それに即しながら「教育とは何か」という問いについて考察を深める。こうした作業を通して、現代の学校教育に関するさまざまな状況・問題を学び、その歴史的経緯について考えとともに、現代の教育に関して問題を発見する力、およびその問題を論理的に考える力、自分の考察・主張を他者に表現する力を身につける。	
	教育史	「教育」という営みは、歴史的・社会的な流れの中でどのように変遷・変容していったのか。時代ごとに教育の歴史的な流れを概観することを通して、教育史に関する基本的な知識を身につける。その上で、「資料」の解釈・評価・批判的検討を通して、受講生自身が「考える」（自らの主張・認識・価値観を論理的で具体的な文章として表現する）という練習を積むことを通して、「教育」を「歴史的に考える」ことの意味・意義について、自分なりの考えを深める。	
	教育課程論	教育課程論は、教員免許状を取得するための必修科目であり、教育課程の役割や意義、我が国の学校における教育課程の変遷（明治以前から昭和初期までの学校教育課程）ならびに学習指導要領の変遷について理解し、教育課程編成の基本原則について学ぶことを目標にする。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントしていく、カリキュラム・マネジメントの重要性や意義についても考察を深められるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する専門教育科目 資格科目	学校教育心理学	学校教育に必要な心理学の知見について、「発達」「学習」「やる気」「知能と創造性」「人格（個性）」「適応」「障がい」「コミュニケーション」などのテーマに分けて講義を行う。「発達」については諸理論の概説を行いながら、人の心理的発達についての理解を深め、「学習」においては人に備わっている学びや記憶の仕組みを理解する。また「やる気・意欲」の引き出し方、「知能・創造性」の仕組みと発揮のための援助の仕方について解説し、生徒の「人格（個性）」に対する教育的かかわりについて、「適応」や「障がい」「コミュニケーション」の視点を加味しながら、心をもって生きている存在としての生徒を総合的にとらえていくことができるようになることを目指す。	
	学校教育社会学	教師の長時間労働、「いじめ」や学校の安全など、現代の教育現場では多様な問題が生じている。こうした学校教育をめぐる様々な問題を複眼的視点（制度的・社会的・経営的視点）から考えることができるようになるために、学校や子どもたちの生活をめぐる問題を具体的に理解し、現状の対応策や今後の課題について知識・理解を深める。また、今後のより良い教育・学校とはどのようなべきか、自らの考えをまとめることを通じて、現代的課題に対応しうる力を身につける。	
	道徳の理論及び指導法	国内外における道徳教育の理論やそれをめぐる歴史的経緯等の理論的側面と、学校における道徳科の学習指導案の作成方法等の実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な力を身につけることを目指す。 道徳教育について、「道徳」とは何か、何が「道徳教育」なのかという根本的な問いにまで遡りながら学ぶ。 道徳教育の基礎・基本、道徳教育の歴史、道徳教育の現状と課題について順に理解を深めていき、最終的には道徳教育の授業の実践が可能となるような授業展開とする。	
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	教育方法学では、教育方法の基礎理論と実践を理解し、これからの時代に重要となる、主体的・対話的で深い学びの実現のための教育方法の在り方を理解できることを目標にする。そのために、教育の目的に応じた授業を行なう上で必要ないろいろな教育技術について知り、授業設計とその実践の方法について学んでいく。中でも、情報通信技術（ICT）を活用した教育の理論と方法については、具体的なツールやソフトを使用しながら、実際に授業で実践できるように、使い方や活用の仕方をパソコン教室で実地に学んでいく。	
	教育相談の理論及び方法	教育相談について、今日教育現場での需要が高まっているカウンセリングの理論と技術を紹介しながら、一人一人の生徒の悩みや困難に寄り添い、応えていくための実践的な知識についての講義を行う。不登校やいじめ、非行、思春期の精神的な失調に対する対応の仕方についても解説を行い、グループディスカッションなども取り入れながら、生徒とのかかわり方が身につく授業を工夫する。また、生徒のリアルに触れられるように、思春期の心模様を描いた映像資料も多く取り入れながら、実際に生徒とのかかわりに役に立つ学びを提供する。	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めいくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
	教育実習講義	教育実習に臨む前の3回生時に開講する授業である。授業では、まず、教育実習における心構えや必要な準備、学習指導案の書き方などについて、テキストをもとに具体的に学んでいく。次に、開講の各クラスにおいて、現場の中学・高校の現役教員を外部講師として招いて、実際の授業のノウハウについて、詳しく教授を受ける。そして最後に、ICTの活用なども取り入れた実際の教育実習における授業について、模擬授業を行い、教育実習に対する実践的な準備を行う。	
	介護等体験	中学校教員免許取得のための科目であり、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験に参加し、多様な人の生き方に触れることを通じて、教師としての人間理解の枠組みを広げ、様々な生きる課題や困難を抱えた人とともに成長していけるための素養を培うことを目指す。テキストを用いながら、「人とのかかわり」「尊厳とは？」「介護とは？」「施設とは？」などの内容について、計4回の事前指導を行い、活動後には課題レポートに取り組むことにより、体験を教職の実践に生かせるように工夫する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職実践演習（中・高）	教職実践演習では、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、教職をスタートするにあたって、必要な資質能力、知識や技能について身に付け、教員としての実践力を総合的に高めることを目指す。 授業においては、テキストを用いながら教職課程におけるこれまでの学びを総合的に振り返りつつ、小学校現場でのフィールドワーク、テーマやトピックに応じたグループワークやプレゼンテーションなど、演習形式で授業を展開する。	
	教育実習 1	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2～3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。(本学では高校教員免許取得のみを目指す学生は、教育実習 1 のみの登録で可としている)	
	教育実習 2	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2～3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。(本学では中学校教員免許の取得を目指す学生は、教育実習 1 と合わせて教育実習 2 も登録することとしている)	
	人権教育論 1	豊かな人権意識を持った教員の育成のために、まず、公教育の原理や社会的役割について学ぶ。次いで学校教員として理解しておく必要のある多様な人権課題について学び、人権尊重の意識を高める教育はどのように可能となるのかについて考察を進める。具体的には、さまざまな差別の問題や在日外国人の人権問題、男女平等の問題や性的少数者の問題、こどもの貧困の問題などについて学び、このような問題を解決していくためには、どのような人権教育の展開が可能で必要なかということについて学んでいく。	
	人権教育論 2	人権課題を教材として、どのような授業が可能となるか、グループに分かれて実践的な指導案の作成をおこない、相互に批判し議論しながら授業力を高めていくことを目指す。そのために最初に授業の作り方の基礎を学び、最後にまとめとして多様な人権課題に対応できる教育のあり方について認識を深める。本授業で扱うテーマとしては、「健常とは？障害とは？」 「性をめぐる課題」 「民族と文化の多様性をめぐる課題」などを設定して、具体的に授業展開ができる力を養っていく。	
	特別な支援の必要な生徒の理解	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標に授業を行う。	
	学校教育支援	教師としての実践力を養うために、教育実習のほかに、実際の学校現場に赴いて、ボランティアとして教育支援に携わる科目である。主に大学と提携を結んでいる市町村の幼・小・中学校に学校支援ボランティアとして出向き、教員の指導の下に、学習支援補助、部活動補助、行事活動補助、部活動補助などを行うことによって、実際の児童・生徒とのかかわり方を体験的に学ぶ授業である。本授業は、事前指導、中間報告会、最終報告会などを実施して、学生相互の学び合い、教員を目指す者同士の連帯感を感じてもらえる機会を提供することも目指す。	
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	特別活動に関しては、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という三つの視点を中心に、指導に必要な知識・素養を身につけ、また、総合的な学習の時間に関しては、実社会・実生活における諸課題を探究する学びを実現するために必要な、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。講義では、課題の見つけ方、自分の問題・関心のありか、問いの立て方を、ウェビングやワークショップを通して、探究の技法を習得することを目指す。	



科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	教育史特論	教育について幅広い視野から考えるための具体的な題材として「教育」をめぐる「論争」の「歴史」について取り上げる。それぞれの時代状況のなかでどのような課題が議論・論争され、その結果として教育・学校がどのように変遷・展開されてきたのか。近現代日本の教育をめぐる「論争」にかかわる基本的な知識を深める。その上で、自分自身はその教育論争について何を感じるのか、それをどのように考えるのか、授業資料を自分なりに「解釈する」ことを通じて歴史的な思考・認識を深める。	
		臨床教育学特論	臨床教育学とは、教育現場が抱える様々な課題（いじめ・不登校・教師・子ども関係等）に対して、教育哲学、教育人間学、臨床心理学等の複数の領域にまたがる学際的な方法を構想・実践することによって応えようとする学問領域である。 臨床教育学という新しい学問領域の成立が求められた1980年代後半の時代背景をふり返るとともに、それ以降約30年を経た現代において何がテーマとなり、臨床教育学はそれにどのようにどのような方法で応えようとしているのか、最新の議論までを含めて概説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部歴史文化学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理教概説1	「宗教」についての基礎的な理解を踏まえたうえで、天理教の思想や実践について概説し、それらがいかなる教えや歴史的経緯に由来するものなのか、あるいはそれらが何を指そうとしているのかについて説明する。具体的には、主に『稿本天理教教祖伝』をテキストとして、教祖中山みきの生涯と教えについて学んでいく。天理教についての知識や体験がほとんどない学生の受講を前提として、教祖の生涯や教えに親しんでもらうことを目標とする。	
		天理教概説2	天理教についての知識や体験がほとんどない学生が受講するという前提で、天理教の成り立ちや基本的な教理などを中心に学び、それを自分の言葉で簡潔に説明できることを目指す。秋学期では、春期で学習した内容を踏まえ、天理教の歴史やそのさまざまな活動内容について、より詳しく学んでいく。特に『天理教教典』を主なテキストとしながら、天理教の教義（教祖、神、救済、人間etc.）の内容、及びその多様な信仰実践のあり方について学ぶ。	
		天理教学1	天理教学と天理教原典の連関についての基礎的な理解を踏まえたうえで、教祖の教えがいかなる歴史的経緯の中で「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」という原典として成立したのかについて学ぶ。さらにそれら原典と「こふき話」との関係性についても解説する。また、『天理教教典』や『稿本天理教教祖伝』の成立、及びそれらと原典との関係性や位置づけの違いについても学ぶことによって、天理教信仰における原典の重要性を認識する。	
		天理教学2	天理教学1で学んだ原典成立の歴史的経緯について改めて触れたうえで、それぞれの原典の内容について解説する。また、そうした原典の中で説かれる教祖の基本的な教え（八つのほこり、十柱の神名による守護の説き分け、ほこり）についての理解を深め、またそれらを先人の信仰者たちがいかに自らの生活において実践していたかについて解説する。それによって、教祖の教えを実践することの今日的な意義について、具体的に理解することを目指す。	
		建学の精神と天理大学のあゆみ	天理大学の「建学の精神」に込められた意味を理解し、その精神を身につけ、国際社会および地域社会に貢献できるようになることを目指し、天理大学の「建学の精神」に込められた意味を、本学の創設者、中山正善天理教二代真柱の理念・思想を通して理解する。また、天理大学の歴史的な歩みを辿ったうえで、天理図書館や天理参考館といった文化施設、及び「天理スポーツ」の理念や歴史についても、創設者の人物像や理念を通して理解する。	
		英語1	大学で学修するために必要な基盤となる英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎力を養成する。「聞く」「話す」では、特に、簡単な内容の会話を理解し、それに対応できる力、「読む」「書く」では、単文レベルの英文の構造を理解し、書くことができる力、簡単な英文の内容を理解できる力を重視して養成する。プレゼンテーションやペアワークなど、具体的、かつ、実践的なアクティビティも含めて豊かで確かな英語の基礎力を確立する。	
		英語2	英語1で培った基礎力を土台に、大学で学修するために必要な英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎固めをする。この4つの領域について「英語1」よりもやや難度の高い英文を読み、その内容を把握し、自分のことばでまとめる力を育成する。さらに、人の意見を聞き、複数の文を使って自分の意見を英語で伝える力を養成する。ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションなど、より多くのアクティビティを通じて英語をツールとして使用することに慣れ親しむ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 天理スピリット科目群	韓国・朝鮮語 1	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。順序としては、文字と発音を修得した後、基礎的な文法事項・構文・語彙の修得を進める。この科目でまず重要なことは朝鮮半島で使用されている文字「ハングル」を正確に読んで発音できるようにすることである。これがまず第一段階の学習となる。次に体言文を習得する段階に入るが、同時に各種音韻変化を学ぶことで、正確な発音を身に付けさせる。基本となる助詞、位置・存在表現等を修得、さらに用言文を上称・略待上称の形で使えるように指導することがその次の目標となる。使用頻度が高く、ごく基本的とされる接続語尾についても学び、表現の幅を広げるようにする。	
	韓国・朝鮮語 2	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。基礎的な文法事項・構文・語彙の修得に努めつつ、初歩的な言語運用能力の育成を目指すことが目標となる。韓国・朝鮮語 1 で学習した存在表現、上称・略待上称形をさらに練習して、変則用言といわれる単語を個別に分類する作業を通して、変則用言をきちんと使いこなす訓練を行う。数字表現、許可表現、可能表現なども学ぶことにより表現の幅を広げるようにする。語学力を向上させるうえで、語彙の習得も欠かせない要素の一つである。日本語同様、漢字語彙が7割を超す韓国・朝鮮語でもその利点を生かし、語彙力を養い、韓国・朝鮮語の理解の土台を築くようにする。	
	中国語 1	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにするにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。具体的には、「ピンイン」と呼ばれるローマ字の発音表記を体系的に学び、中国語の日常会話レベルの文について、ピンインを見ながら標準的な発音で漢字で書かれた単語やセンテンスを音読したり、パソコンやスマホでローマ字入力・漢字変換する訓練を行う。	
	中国語 2	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにするにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。「中国語 1」で学んだピンインによる音読や入力の基礎を固めながら、それぞれの会話場面において自分に関係する事柄を、すでに学んだ語彙や表現を用いて相手に伝える訓練を行う。	
	教養アカデミック英語 1	この科目では「英語 1」と「英語 2」で培った英語の基礎力を土台に、英文を「書く」ことに重点を置く。自分の伝えたいことが伝えられる英文を書くために、「書く」という点から基本的な英文法のおさらいをする。さらに、音読練習や口頭作文練習、和訳など様々な活動を通じて「書くための英文法」を定着させる。単文だけでなく、複文や重文など一文レベルの文がある程度正しく書けるようになった段階で、隣接する文同士のつながりについて学習し、パラグラフライティングができるようになるための素地を固める。	
	教養アカデミック英語 2	この科目では「教養アカデミック英語 1」で培った「書く力」を土台にまとまりのある内容を持った英語の文章（1パラグラフ）が書ける力を養成する。パラグラフの構造やパラグラフの種類について学び、自分が書きたい内容に合わせて適切なパラグラフのタイプを選択し、読み手に論理的に分かりやすい構成の英文が書けるようになることを目指す。さらに、トピックに合わせた簡単な英語のプレゼンテーションを行うことにより英語による発信力を高める。	
	実践アカデミック英語 1	この科目は「アカデミック英語 2」を履修するための科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された文字数（日本語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行い、多くの英文を読んでその内容を日本語で要約する練習を行う。英語で読み、日本語で要約することにより、英文読解力だけでなく、読み手に分かりやすい日本語で文章を書く力も養成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	実践アカデミック英語2	この科目は「アカデミック英語1」の応用科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された単語数（英語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行う。英語の文章構成についてもトピックを維持する方法や隣接する文同士のつながりのよくする方法について学ぶ。多くの英文を読んでその内容を英語で要約することにより、実用英語技能検定（英検）やTOEFLなどの資格試験にも十分に対応できる力を養成する。	
		アカデミック英語上級	この科目は大学を卒業し、社会人になったときに必要とされる力を育むことを目指した科目であり、「プロジェクト型言語学習 (Project-based Language Learning)」の形式を採る。ポスター発表や口頭発表、テレビ番組制作など様々なアクティビティについて、チームで協力し、企画から発表までの一連の作業を行うことにより、企画力や協働性、情報収集力、情報を整理し、まとめる力、発信力などを養成する。	
		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、韓国・朝鮮語圏の文化や社会について学び、あわせて韓国・朝鮮語の基礎を学習しながら、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。文化的な理解と言語の理解はあかかも車輪の両輪のように対象となる国の理解を大きく進展させる意味を有している。人々が朝鮮半島の地でどのように暮らし、どのような文化を育み、歴史・社会の中で何が起きてきたのか、これらを知るとともに、最低でも文字を読み、入門レベルではあるが語学の基礎にも接してみることで、この地に生きる人々の感性や考え方の根底に一步でも近づいてみることをしたい。	
		多文化理解と言語（中国語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。また現在、中国・台湾・香港・シンガポールなどのいわゆる中国語圏から日本に来て中長期滞在している人は日本の在留外国人総数の約3分の1を占めており、彼らが日本社会で私たちと共に幸せに暮らしていける社会を構築するには、まず私たちが彼らの言葉と文化を理解する必要がある。さらには彼らが独自の文化を有するがゆえに受け入れがたい日本特有の習慣についても知っておくことが望まれる。本科目では、広く中国語圏で通用する標準的な中国語の基礎を学習しながら、中国語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（英語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。英語は、イギリスの歴史的な歩みの影響によって、現在世界で最も広く用いられる言語の一つとなっている。しかし、世界の様々な地域で用いられている英語は全く同一のものではなく、当然ながら英語が用いられている地域の社会や文化も一様ではない。本科目では、英語に対する基礎的な理解を通して、英語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（タイ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。東南アジアのタイに目を向けてみると、日タイ両国は政治、経済、文化等幅広い面で緊密かつ重層的な関係を築いており、人的交流が極めて活発である。タイの人々は日本に強い関心を持っており、さまざまなメディアやイベントをとおして、日本の情報に日々接することができる。日タイが今まで以上に緊密なパートナーシップを構築するためには、私たちがタイの言葉や文化を知り、相互理解を促進することが必要である。本科目では、タイ語の基礎を学習しながら、タイの文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（インドネシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。インドネシア共和国は多民族国家であり、2億7千万人を超える国民は、異なる言語を母語とする民族集団からなる。インドネシア共和国の成立以後、公用語として定められたインドネシア語を母語とする人々は徐々に増加しているものの、多くの国民にとってインドネシア語は母語の次に覚える第二言語である。本科目では、インドネシア語の基礎を学習しながら、インドネシア語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 天理スピリット科目群	多文化理解と言語（ドイツ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。日本では「日本人とドイツ人は似ている」と言われることも多いが、当然のことながら日本とドイツの国民性には相違点も多い。特に、日本人は場の空気や感情を重んじるのに対して、ドイツ人は合理性や論理性を重んじるという点に着目すると、両者の隔たりの大きさが感じ取れる。ドイツ人の論理性を重んじる傾向は、ドイツ語の特徴とも関連している。本科目では、ドイツ語の基礎を学習してドイツ語への理解を深めながら、ドイツ的思考法がドイツの社会や文化にどう影響しているかを考察する。日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（フランス語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、フランス語の基礎を学習しながら、フランス語圏の文化や社会について学ぶ。特に、歴史的な関係からアフリカからの移民を多く抱えるフランス社会の諸問題を取り上げ、宗教や言語、価値観など、異なる文化が接触することによって引き起こされるさまざまな事例を見ていくことによって、多文化共生社会のあり方を考察し、その実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ロシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ロシア語の基礎を学習しながら、旧ソ連諸国をはじめとする世界に広がるロシア語圏の文化や社会について学ぶ。ロシア語が用いられている国や地域での多様性に触れ、共通点や相違点、また問題点について考える。本科目では、ロシア語の基礎を学習してロシア語への理解を深めながら、日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（スペイン語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、スペイン語の基礎を学習しながら、スペイン語圏の多様な文化や社会について学ぶ。スペイン語はスペインとラテンアメリカなどの20以上の国や地域で話され、米国でも話者数が飛躍的に増加している国際性豊かな言語である。また日本国内においても、スペイン語圏出身者は約8万人にのぼる。日本との長い交流の歴史や現在も続く緊密な社会経済関係について理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ポルトガル語の基礎を学習しながら、ポルトガル語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。具体的には、ポルトガル語の読み方や基本的なあいさつなどを学びながら、ブラジルがどのような国であるかを知り、それを通して日本に在住するブラジル人に視野を広げる。本科目の主要な目標は2つある。1. ブラジルがどのような社会や文化を有する国なのかを知る。それを通して、異文化理解への視座を学ぶ。2. 在日ブラジル人の歴史や現状を知る。それを通して、日本における多文化共生について考察する。	
	多文化理解と言語（日本語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では留学生を対象にして、日本語及び、アイヌ語、琉球諸語（琉球諸方言）など、比較対象となる諸言語・諸方言に対する基礎的な理解を通して、日本語が話されている諸地域の文化や社会について学ぶ。そして「日本」や「日本人」を相対化することによって、より大きな視野から日本列島を考え、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	日本事情 1	留学生を対象にして日本の祭礼について概説する。最初に、儀礼・祭礼についての文化人類学・民俗学の概念・分類について紹介する。次に日本政府の祭礼に対する文化政策（「無形文化財」、「無形文化遺産」、「日本遺産（Japan Heritage）」など）について紹介する。そして、「日本三大祭り」ともいわれる「神田祭」（東京都）、「祇園祭」（京都市）、「天神祭」（大阪市）など、日本各地の著名な祭礼を具体的に取りあげて紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	日本事情 2	留学生を対象にして日本の産業について概説する。最初に、地理学・経済学・社会学などの知見に抛りながら、戦後の産業構造の変化について紹介する。次に伝統産業保護政策として日本政府が「伝統的工芸品」に指定している産品を、「高山茶釜」（奈良県）など、具体的にいくつか取りあげて紹介する。そして「まちづくり」、「農工商連携」、「外国人材の受け入れ」など、現在の日本の産業が抱える重要課題を具体的に取りあげて紹介する。	
		健康スポーツ科学 1	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		健康スポーツ科学 2	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		国際社会におけるスポーツの役割	スポーツには、国籍や人種、言語や文化が違っても一緒に活動し、協力し、競い合うことで共感が生まれ、楽しさや友情を深める力を有する。現代社会では、スポーツを通じた国際交流がなくてはならない存在であり、「多様性の尊重」や「持続可能な社会の実現」にも欠かせない。本授業では、スポーツの国際展開について古代から現代までのオリンピックの歴史と諸問題を学び、国際親善や世界平和に果たすスポーツの意義や役割を理解する。	
		保健医療の仕組みと健康づくり	急激な少子高齢化や医療技術の進歩など、保健医療を取り巻く環境が大きく変わるなかで、厚生労働省は2035年に向けて、人々が自ら健康の維持・増進に主体的に関与し、デザインでき、ひとりひとりが主役となれる健やかな社会、健康先進国を目指している。この授業では、現在の保健医療の仕組みと、地域で暮らす人々がその仕組みをどのように活用するのかを学ぶ。さらに自分自身と周囲の人々がその仕組みを活用して主体的に健康づくりに取り組むための基礎力を養う。	
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる入門編	身近な環境問題に目を向け、それを自分事としてとらえることは、これからの社会を生きていくために重要なものである。環境や林業や里山が抱える課題、過疎化した地域の課題、衰退していく街の課題について、その課題に取り組む人々との交流を通じて、SDGsとは具体的に何を目標として行動すべきかを学ぶ。林業や農業についてのアプローチの手立てについては、現地に赴き実習を含めた講習を行う。さらに、その有効な活用方法ならびに技術面の指導を実習を通じて習得する。	共同
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる実践編	ローカリーアクト天理SDGs森に生きる入門編に引き続き、奈良県内外、主として天理市内での林業体験及び里山整備、耕作放棄地などでの実習を行う。過疎化する地域の課題を現地の方との話し合いを通じて理解し、何ができるか？を考える「場」を持つ。持続可能な開発目標(SDGs)や持続可能な開発のための教育(ESD)を目的とした実習を行う。その際、学生が自ら考えて行動する問題解決型学習(PBL)を採用し、さまざまな課題を自分事としてとらえられるようにする。	共同
		国際協力入門	「貧困」を解消することが「開発Development」という行為である。近年注目されている「SDGs(持続可能な開発目標)」の「D」は「開発Development」を指しており、同じく貧困削減のための取り組みを指している。この授業では「経済開発」「社会開発」「人間開発」「参加型開発」「持続可能な開発(SDGs)」などの開発理論を講義形式で理解し、開発プロジェクトの計画・立案について、グループ・ワークで体験的に学ぶ。開発援助とは「人を助ける」行為であるため、「人を助ける」哲学・価値観について学ぶことを基本学習とする。定期試験期間に期末テストを実施する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	国際協力実習	この実習では「国際参加プロジェクト」の現地ボランティア活動を行う。本実習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。以上の点に注意し、授業登録を希望する学生は、必ず国際交流センター室の担当者に問い合わせること。新型コロナウイルス感染症の影響により、現地活動が実施できない場合は、上記の通りではなく、授業方法や成績評価方法について変更を余儀なくされることがある。変更する際は、授業等を通じて受講者に周知する。	
		国際協力演習 1	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）から帰国後の事後研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。事後研修の主な活動内容は、現地での活動経験に基づくレポート、活動報告の作成と編集、動画・写真データを使用した活動報告用の映像資料の作成である。また、学内外で開催する帰国報告会、地域教育機関と連携した国際交流授業の開催など、地域連携・社会貢献を目的とした諸活動の実践を含む。	
		国際協力演習 2	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）に向けての事前研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。活動準備の内容は、現地での活動内容に基づき決定される。現地小学校での教育支援活動であれば、現地学校での授業準備が事前研修となる。現地高等教育機関との交流活動では日本文化紹介などのプレゼンテーションの準備を行う。講義で授業を行う一方、現地ボランティア活動の具体的な準備活動が主な授業内容となる。	
		国際ボランティア論	人はなぜ、何のためにボランティアをするのか、ボランティアという行為はどのような意味をもつのかを理解できるようになる。また、国際協力の視点からボランティア活動を捉え、世界の貧困や格差を解消するための国際ボランティアの取り組みを理解し、実践することができるようになる。ボランティアという行為について学術的な視点から説明ができるようになり、世界の貧困や格差の問題に対して、自らの問題として捉え、積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を身に付けることができる。	
		天理大学特別講義 1	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度については、NPO法人環境市民ネットワーク天理が主体となる寄付講座「まほろばエコロジー講座」を15回にわたって開講する。天理大学は2012年に奈良県下の大学としては初の「エコキャンパス宣言」を行い、建学の精神に基づいたキャンパスの環境保全を指向するとともに、大学生や市民を対象とした学習講座を開催した。このたび、天理大学の授業として開講する「まほろばエコロジー講座」は、環境問題に関わる各分野の専門家によるレクチャーを15回受けることにより、環境問題の基礎知識を体系的に学ぶことができる。講座後の検定試験で、一定の成績を修めた受講生を対象に、当NPO法人が「まほろば環境市民」に認定される。	
		天理大学特別講義 2	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理大学特別講義 3	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理大学特別講義 4	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理異文化伝道	天理教による海外布教伝道の歴史を振り返り、世界のさまざまな国や地域で展開されている布教の現状を映像などを通して見ていく。また「文化」とは何かを確認した上で、海外伝道を「異文化圏における伝道」という視点で捉え、異なる文化の中で繰り広げられている実際の布教伝道を通じて見られる「異文化接触」に関して考えていく。さらにそこから、貧富の差や言葉の問題、他宗教との関係、グローバル化などをキーワードとして問題提起を行い、これからの異文化伝道の方向性について意見を深めていく。	
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	生き方や働き方を主体的に考え、キャリアを設計することができるようになることを目標とし、自己を深く理解し、社会貢献につながる自己実現を目指すための主に次のことを学修する。 ・自分の価値観、強みと弱みを把握し、自己理解を深める。 ・社会に出て必要とされる力（基礎学力、専門学力、リーダーシップやコミュニケーション力）は何かを把握し、それを身につけるための有意義な大学生活の過ごし方を設計する。 キャリアをデザインする上で具体的に仕事の内容や重要な自己を理解したうえで、民間企業や官公庁などで働いている人を講師として迎え、実務上必要とされる能力や仕事のやりがい、キャリア形成についての話を聴く。各業種の内容と必要とされる能力を知り、社会に出てからのキャリアデザインについて考える。また、インターンシップの意義、就職試験で使われているSPI、履歴書の書き方、就職活動の進め方について知る。	
		キャリアデザイン 1	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		キャリアデザイン 2	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		インターンシップ 1	インターンシップ1では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		インターンシップ 2	インターンシップ2では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	キャリア教育科目群	海外インターンシップ1	海外インターンシップ1では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ2	海外インターンシップ2では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	正しい情報を自ら集め、組み立て、展開していく力、さらに自分の考えや情報を正しく相手に伝える力をつけるために、大学や社会で求められる「読む・書く・話す・聞く」能力の獲得をめざし、ノートテイキング（筆記）、スピーチ（発話）、リーディング（読解）、ライティング（作文）という4つの技能について学ぶ。また基礎的なパソコンの操作方法やワープロソフトを使った文書の作成、プレゼンテーション資料作成ソフトを使ったスライド作成等についても学ぶ。	
		基礎ゼミナール2	基礎ゼミナール1の「読む・書く・話す・聞く」の能力の向上、および実際のデータを収集し、分析することを通して、統計的分析の能力を身につけることを目標とする。自らの問題意識から、適切なテーマを設定し、主張したい論点を述べるために必要な実データを収集し、統計手法を用いて分析する。分析結果やグラフなどを整理して自分の考えを発表する。中間発表を行うことで議論を深め、最終的にこれらをまとめた小論文を作成し、発表する。	
		データサイエンス・AI入門	Society5.0時代に活躍するためには、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養が必要である。本科目では、次の3つのことを習得することを目標とした学修を行う。（1）社会におけるデータサイエンスやAIの活用事例を知ることによってこれらの技術についての理解を深める。（2）データを活用する上で留意すべき法制度や倫理などについて理解し、適切なデータの利活用のための知識を得る。（3）データ分析の基礎的な活用方法を身につけ、帰納的推論と演繹的推論の差異、長所短所について理解する。	
		データサイエンス・AI応用	データサイエンス・AI入門に続いて、本科目ではより実践的にデータサイエンス・AIを学修し、基礎力を向上させることを目標とする。社会において多様なデータの蓄積が行われており、そのデータを利活用できる能力が求められている。データ解析・機械学習などに事例を挙げてデータサイエンスやAIについての技術について学修する。データ解析では統計学の利用方法、機械学習を使った分類・クラスタリング・強化学習、さらにAIの発展に貢献しているディープラーニングについて、実例をもとに実際にデータを処理することを通して理解を深める。	
		データリテラシー	情報社会において求められる情報処理能力を身につけることを目標とする。自らの考えを正しく相手に伝えるためには実データを正しく分析した結果を効果的に示すことが重要である。データの収集方法・統計分析・分析結果の解釈方法などを学修し、データに基づいて判断する能力、いわゆるデータリテラシーを身に付ける。EXCELを使って統計分析方法を学修し、分析した結果の統計情報を正しく理解する方法とグラフなどを用いて、効果的にデータの特徴を可視化する方法について具体的に学修する。	
		コンピュータ入門	ビジネス社会において求められるコンピュータやネットワークなどの情報技術に関する基礎的知識、およびパソコンを使った情報活用能力を身につけることを目標とする。情報技術に関しては、コンピュータ・インターネットの仕組み、情報処理技術、情報倫理やセキュリティについての知識を学修する。またパソコンを使い、基本ソフト（Windows）およびアプリケーションソフト（Word、Excel、Powerpointなど）の基本的な操作方法について学修し、実データを使ってデータを整理した上でデータの特徴を効果的に示す能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	基礎リテラシー科目群	情報処理	「プログラミングとは何か」を実際にプログラムを作成することを通して理解する。自分が意図した通りにコンピュータが情報を処理することができるよう試行錯誤していくことを通して、プログラムを完成させることが楽しいと感じ、プログラミングに興味を持つことができることを目標とする。C言語の基本的なルールについて学習し、プログラミングの基礎を理解するとともに、コンピュータが自分の意図した通りに正しく実行するようにしていくプロセスを繰り返し行うことでプログラミング技能を身につける。	
		基礎からわかるレポート作成	レポートや論文の作成技法を修得し、日本語表現能力を高めることができ、現代社会のかかえる様々なテーマについて関心を深めるとともに、自分の意見を形成していく方法を体得することができるを目指し、テキストを用いて作文技法の基礎を習得する。また、各人が設定したテーマについて、資料検索・収集、構想ノート作成に基づいてレポートを執筆し、クラスで口頭発表を行う。資料検索やレポート執筆はパソコンを使用して行い、コンピュータ技能の向上を図る。	
		基礎からわかる近代史	日本現代史の基礎的な知識や流れを学ぶことができることに加え、日本近代社会と現代社会とのつながり・断絶を理解することができるようになることを目指し、幕末・明治維新からアジア・太平洋戦争前後の日本歴史の流れを基礎から学び直す。その際は政治・経済方面だけでなく、軍事・教育・宗教・娯楽など、近代日本社会を構成していた諸要素にもしっかり目配りする。現代社会とのつながりや断絶について考察し、自らの歴史に対する視点を確立する。	
		基礎からわかる現代社会	現代の日本と国際社会における政治・経済・社会の土台をなすシステムについて、また、今日の私たちが直面し、解決を求められている諸課題について、他の全学科目および専攻分野での学修をつうじて知見を深めるうえで、また教養を備えた責任ある市民として、積極的に社会に参加するうえで必要な基礎知識を習得する。講義では、具体的な問題を題材にするなどして、情報をみずから収集し、得られた知識と合わせて分析する力も養う。	
		基礎からわかる数学	数学に関する基礎的な能力の向上をめざす。そのため、小・中・高で学んだ算数、数学のなかで、式の計算、速さ、面積、体積、方程式、不等式、関数、場合の数、順列、組合せ、確率、データの分析などを取り上げ、生活の中にある事例など具体的な問題場面を取り上げながら、数学への興味・関心を高めながら、演習を通して自ら考え、問題を解決する能力を身につける。その際、SPI等の就職試験でも役立つ内容も視野に入れて授業を展開する。	
	基礎からわかる生物・化学	当該科目は、生物学・化学の基本的な知識や考え方を理解でき、習得できることを目的とする。内容は、生物・化学基礎の理解を改めて確認し、遺伝子と現代医学の潮流、細胞と癌、神経と認知症、エネルギー・代謝と糖尿病、免疫と感染症、血液と白血病など、病気と関連づけて分かりやすく生物学の本質の理解が深まるように講義・演習を行う。さらに、物質・溶液の化学、有機化学、生体を構成する物質などについて、簡単な内容に絞って講義・演習を行う。		
	一般教養教育科目群	生活の中の科学	自分自身の健康に関心を持ち、スポーツの実践や身体を動かすことの大切さの再認識とその実践意欲の高揚化をはかり、学んだ内容を自らの健康の維持、増進に生かしていく能力を養うことをめざし、人間の基本的な条件である健康について、主に運動生理学およびスポーツ医学、栄養学などの諸点から解説する。健康の概念を理解し、生涯にわたって自らの健康の保持増進をはかるためには何が必要であるのかを理解するために、本講義では健康管理に関連のある最新情報を紹介し、現代人にとって必要な健康維持に関する知識を理解する。	
		地球環境論	温暖化や希少生物の絶滅、環境汚染など、現在の地球環境は人類が克服困難な問題で溢れている。これらの問題は、さまざまな要因が複雑にからみあって形成されており、本質を理解するには幅広い視野で多面的に物事を捉える力が必要となる。この授業では、環境問題に対する取り組みについて学び、日本における過去の公害問題やその対策手法・技術から、地球環境と人類との関係について考えていく。環境問題に対する基礎的な素養を習得し、日頃から地球環境にやさしい行動を実践できるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	科学と現代	現代社会を支える科学・技術について、その歴史的発展過程を交えながら基本的な概念や考え方について講義する。講義の前半では、宇宙論と原子論の歴史的な変遷を取り上げる。講義の後半では、青色発光ダイオードやリチウムイオン電池といった身近にある科学・技術のトピックスを題材としてとりあげ、先端科学の知見とその歴史的背景を紹介する。現代社会における科学の意義や役割について自らの生活と関連付けながら考察していく。	
	数学と論理	「論理」は数学に限らず、あらゆる学問で、そして社会の健全な発展のために重要な概念、法則である。この能力を培うことができるのは、数学の知識によってではなく、各自が考えることによるのみ可能である。数学の言葉を記号化することによって、不偏的な数学語（数文）に翻訳することで、言語の異なる人々が、世界共通の「論理」で数学を理解できるようになる。代数的構造の主要な概念である「群」に関して、論理の展開を体験する。	
	統計学 1	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。統計学の初歩的で実践的な知識を身に付けることを目的に、記述統計学（資料の整理、代表値、分散と標準偏差）統計学の基礎（確率、確率分布、二項分布、正規分布）推測統計学（母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母平均の検定など）をExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して取り扱う。	
	統計学 2	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。この授業では、データを分析し、問題の原因を追及することができる能力を身に付けることを目指し、クロス集計や多変量解析などの基礎について具体的なデータをExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して理解する。	
	経営学 1	経営学に関する基本知識を理解、習得すると同時に、企業と産業の現実の動向を知り、特に「サプライチェーン」についての問題関心を養うことを目指して、巨大企業の存立を支える株式会社制度の形成や展開、その現代的な課題について考察していく。現代企業の具体的なあり方は、それぞれの産業における技術と市場、国ごとの条件に規定されて、多様である。ここでは、フレキシビリティの構築をキーワードとして、産業・企業の現実の動向を探っていく。	
	経営学 2	現代企業の環境変化への対応のあり方を探っていく。企業は、生産・流通を含むトータルなシステムとして、市場動向への迅速な対応を図ることが求められている。この授業では、まず事業システムとの関連において、マーケティング分野の基礎を理解する。次に中小企業に注目する。中小企業は巨大企業を軸とする企業システムを根底から支えるのと同時に、ベンチャービジネスとして、あるいは中小企業間での情報、物流ネットワークの形成によって、相対的自立性を備えて存在していることを理解する。	
	地理学 1	グローバル時代とよばれる現代、幅広い世界が舞台となり、多様な地域が強くむすびついてゆくなかで、異文化やその多様性の理解が求められる。この授業では、地球規模でみる自然環境や人間活動の関係を「文化圏とその地理的背景」というテーマでとらえる。具体的にはさまざまな「文化圏」（地域）を対象として、それぞれの文化圏がどのような環境下で成立・発展してきたのかという「地域の法則性」について考察するとともに理解していく。	
	地理学 2	グローバル時代とよばれる現代、「孤立」した都市はない。都市は「みえない糸」で複雑にむすびついている。そのむすびつきは地球規模で全世界に広がっている。また、都市は多くの人々の生活の舞台でもある。この授業では、「都市の地理学」をテーマにおき、都市の実態を日本、奈良県、天理市という地域スケールのちがいをみえてゆく。そして、宗教都市である大学所在地の天理という場所をテーマにして、地域研究や地誌的な立場から、大学所在地としての身近な地域の「地理学」を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	日本国憲法	我々の生活に欠かせない法、特に憲法について学び、わが国の基本的な仕組みを説明できること、さらに、そのしくみについて批判的に検討できることを目指し、基礎知識であるわが国の統治機構について学び、憲法について現在問題となっている憲法の総論にあたる部分、すなわち憲法の成り立ち、基本原理、幸福追求権、平等権、表現の自由などの重要なトピックを取り上げる。また、憲法に関する新しい問題が発生したり、重要な憲法に関連する裁判所の判断（判例）が出た場合には、適宜授業の中で取り扱う。	
	法学	我々の社会生活において、法がどのような役割を果たしているのか、またどのように作用しているのか理解し、法学について、基本的な知識を体系的に身に付けるとともに、具体的な裁判例を検討して応用力を養うことができることを目指して、民事法、刑事法について学ぶ。民事法については、実体法である民法を主に取り上げ、財産や家族に関する争いを裁定する法である民法の概要を学び、刑事法については、手続法である刑事訴訟法を主に取り上げ、捜査や裁判の手続き、及びその運用についての問題点などを学び理解する。	
	経済学 1	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになるとともに、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになることを目指す。この授業では歴史を学ぶ前提として地理学の面白さを伝え、そのあと、古代中国のさまざまな発明からイギリス産業革命までをとりあげ、世界経済の発展をたどり理解する。	
	経済学 2	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになる。そして、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになる。この授業ではおもに20世紀と現在の世界経済をたどる。イギリス産業革命の影響からアメリカが独立し電力革命を経て20世紀の経済大国になるまでを理解する。また、中国経済の成長がアメリカ経済とデジタル面でどのような競争関係にあるかもとりあげる。	
	政治学	政治に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、学問的観点から政治と向き合うことができるようになることを目的とし、なぜ民主主義がふさわしい政治体制だとされているのか、民主主義は実際にどのように運用されているのか、政策はどのように作られるのか、といった点に加えて、これまでの政治学そのものに疑問を投げかける視点や国際政治について学ぶなかで、自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指す。	
	社会学	社会学の研究対象となるさまざまな領域について、日本を中心とした現代社会の事例を参照しながら、その代表的な領域に触れることで、社会学の学説史や主要概念とともに、社会的な見方や考え方の基本を習得する。講義では、行政統計やメディアの情報などを積極的に扱うことをつうじて、市民としての見解や行動をかたちづくる上で必要な情報やデータにどのようにアクセスし、それを読み取り、さらには活用していくかについても学修する。	
	民法 1	一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語などについて学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、民法の作用について、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
	民法 2	民法 1 に続いて、一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語等について学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	行政法 1	行政法の概要・基本原理を理解できること、行政法と行政の体系を理解できること、行政および行政法に関する知識を学びそれを身につけることができること、主体的に自立した市民として行政に参画できる能力を身につけることができることを目指し、行政法の基本原理を学んでいく。法学部生以外には、馴染みが薄い行政や行政法とは何かについて、身近な例を取り上げできるだけ理解できるように説明をしていく。そのうえで、法治主義、国や地方の行政とそれを支える公務員制度等を学ぶ。	
	行政法 2	国家補償法の概要に関する知識を得ること、国家賠償法と行政救済との関係について体系的な理解を深めること、行政により市民が被害や損害を受けたとき、どのような法的救済の仕組みがあるのかを理解できること、地方自治とは、どのようなものか深めることができることを目指し、行政法を具体化する行政と市民の権利利益を保護する行政救済法および救済制度を学ぶ。その際、事例（裁判例、判例）を主な素材にして具体的な行政救済法と救済制度を学ぶ。	
	哲学概論 1	古代から近代にかけての西洋哲学について、その概要を原典を読んで学ぶことを通じ、哲学者の考えに直に触れ、議論の論理展開を細かく追うとともに、その作業を通じて取り出された哲学的な問いを自らにひきつけて考察し考える。これらの一連のプロセスを通じて、哲学を学ぶとは、哲学者の名前や学派のキーワードや概要を暗記することではなく、先人の思考を引き受け、いまを生きる一人一人が自分の力で考えようとする営みであることを理解する。	
	哲学概論 2	哲学概論 1 で扱った古代から近代における哲学的問いの展開についての理解を元にしなが、西洋近代哲学について、著名な哲学者の原典（日本語訳）を取り扱う。内容の詳細な検討と理解にもとづき、自ら問いを設定し、それについて考えを記述するという一連のプロセスを何度か繰り返し、哲学という営みを実際に経験することを通して哲学的について理解するとともに、哲学的な見方や考え方を実際に活用できる形で身に付けていくようにする。	
	倫理学 1	倫理学という学問的な切り口から人間の現実をとらえる。とくに欧米の近現代の哲学者の倫理思想を紹介しながら、私たちの人間理解を豊かにしてくれるような、人間知としてより深められた倫理的人間学を探究する。そのために、倫理思想に関するいくつかのトピック（たとえば、重要な概念や思想家、思想潮流など）を説き起こしながら、倫理学の基礎となる人間観、および、哲学・倫理学の諸概念について考察することを通して理解する。	
	倫理学 2	倫理学 1 が倫理学基礎論をテーマとしたのに対して、倫理学 2 は応用倫理学を扱う。倫理学は正に、「人間が行動する筋道」を問う学問である。その守備範囲である、愛・幸福・自由・悪・正義などといったテーマは抽象的で近寄りがたいイメージを与えるが、実は誰にでも取り組める、親しみやすい学問である。応用倫理学の諸分野の中から、生命倫理、愛の倫理、政治倫理、宗教倫理、労働倫理、環境倫理などについて取り上げて検討する。	
	心理学 1	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、前半は「記憶」「知覚」「学習」などの心理学の基礎的な概念について、簡単な実験などを用いて体験的に理解できるよう授業を進め、後半は実際の人の心について、事例の紹介や心理テストの体験など通じて自分自身の心について触れる機会を設ける。	
	心理学 2	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、授業の概要 講義期間の前半と後半で、2つのテーマを取り上げる。前半は「心の発達」、後半は「無意識の世界」に関する内容となる。前半は、生まれてから現在の青年期に至るまでの心の発達の道筋をたどる。後半は、自分でもコントロールできない心の世界「無意識」について、その働きを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	ジェンダー・セクシャリティ	「性」とは何か、性の多様性とはどのようなことか。性的マイノリティとは何をいうのかを課題とし、セクシュアリティの内実を「生」と関連しながら、事例をもって紹介しつつ、現実起こっている「性」と「生」の問題に向き合う。現代の課題のひとつとして、「ジェンダーの視点」「ジェンダー平等」「セクシュアリティ」について、特に、文化や伝統、文化など、私たちの社会の精神的背景となっているものに、ジェンダーという視点を導入することの意義を検証していきたい。また、「男女共同参画社会基本法」や国際連合の世界女性会議を中心とした動向に注目する。	
	近現代の遺産と未来	21世紀の現代社会が抱える人権・差別問題とその解決について、マイノリティの視点から学ぶ。沖縄の歴史を学ぶことを通して、日本の近代化、とくに戦後の高度成長期に資本至上主義の価値形成のもとで深化した労働問題、女性問題、外国人差別、トランスジェンダーをはじめとする様々なマイノリティへの差別・排除という現代日本が抱える課題および冷戦期の政治的暴力が顕在化する社会を相対的に捉え直し、多様で異なる存在を相互に尊重することができる公平で成熟した本来の意味での近代社会を創造していくための視点を養う。	
	宗教と芸能	日本の古代から近世、近代のそれぞれの時代に展開していた、宗教を契機とした文化（芸能）に関して理解し、芸能が地域社会に支えられていることや、地域社会における芸能の特徴、役割、意味について説明することができることを目指す。主に扱う事例は、奈良で古い歴史を持つ春日若宮祭礼である。この祭礼には、雅楽・田楽・猿楽など多くの芸能が付随している。しかも歴史の中で変容しており、この変化を追うことで芸能から時代を投影することができる。このほか、南都の法会、地域の都市祭礼、おかげ参りについても言及する。	
	労働と社会	近年、労働形態の多様化により労働のありかたが変わることで、一国の経済状況のみならず、人々の生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与えている。この授業では、とりわけ19世紀後半から現代にかけての労働と労働に関する思想を中心に読みとくことで、現代社会の日々の日常のなかで労働のありようについて再考する。そのためには、労働そのものについて理解するだけでなく、それが社会の中でどのように機能しているか、そしてその背景を読みときながら、考察する。	
	障害学	障害には様々な側面（医学モデル、社会モデル、当事者視点等）があり様々な方向から考察していかなければならない。障害について思考することは各個人の生活や人権意識そのものに関わって行くものであり正解のない問いである。授業では障害観の歴史の変遷、医学モデル、社会モデル、障害者を取り巻く多くの事象を学び、学生自身も小中学校で経験してきた特別支援教育を振り返り、当事者視点、多様性について自分事として考えることを通して、共生社会を生きる基礎的な知識を身につけ行動力につながる学びとする。	
	世界の文学 1	世界文学とは世界的な普遍性を持つ文学であることを、作品の精読を通して理解するとともに、自分なりの解釈ができることを目指す。その手段としてその国や地域における固有の文化、思想、哲学について学び、時代精神を理解する。それでもなお残る謎や不可解な部分を掘り下げて追究し、文学作品に通底する人生の不可知について理解するとともに、もって人生についての考察を行うため、具体的な英文学の作品をいくつか取り上げて講義を行う。	
	世界の文学 2	世界文学を理解する手法の一つである比較文学研究を通して、ある国・地域固有の文化、時代精神、哲学がいかに越境し、相互に影響を与えていくかについて学び、世界文学の共通性、普遍性、文学そのものに内在する謎を掘り下げて追求する。テキストそのものを読み込む内在批評と同時に、テキストには書かれていない外在批評について学び、人類に普遍のテーマを知ることで、人生を生きる上での指針を得るため、英文学作品と日本文学作品を取り上げて講義を行う。	
	カルチュラルスタディーズ	カルチュラルスタディーズの方法論と研究調査は、1970-80年代のイギリスで盛んに行われ、1990年代半ばに日本社会に入ってきた。この授業では、カルチュラルスタディーズの核心である「文化と権力の間の関係」が欧米並びにアジアでどう展開しているのかを多様な文化を事例に解説していく。こうした学問の動向をふまえ、本授業では、受講生が各自で文化調査を実施し、多様な文化をとりあげるなかで、カルチュラルスタディーズの現状について学ぶとともに文化的格差の理解を試みる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	宗教と現代社会	社会的存在としての人間にとって、宗教がいかなる意味や役割をもつのかという問いを基本に据え、その問いを、インターネット、災害支援、労働、生命倫理、戦争、スピリチュアリティといった、現代世界における多様な問題との関連という視点から具体的に考える。特に、伝統的な宗教の理解を踏まえながらも、その今日的な変容といった観点から、従来は宗教とは見做されていなかった領域において、「宗教的」な要素を見出せることを学ぶ。	
	人権と差別1	人類の多年にわたる歩みにおいて、宗教（宗教的なもの）は、人びとの精神形成や、人と人が取り結ぶ社会的関係の形成に大きな役割を果たしてきた。宗教は、人と人との関係をより望ましい方向に導いていくという肯定的な働きを果たすとともに、人びとの関係に歪みをもたらすという否定的な働きを示すこともしばしばあった。歴史のなかから宗教と差別の関係を読み解いていくことは、これからの社会を担う私たちにとても大きな意味を持つものだと考えている。この授業では、前近代日本社会の宗教と差別の問題について授業を進める。まず、人権や差別の定義、宗教の定義など基本的概念の確認を行ったうえで、古代から近世までの、部落差別問題を核として宗教と差別の関わりについて考察していく。	
	人権と差別2	これから社会人（教師も含む）になるにあたって、必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決をはかるか、自分で考えることができるようになることを目指し、社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る。事例などを交え、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、コミュニケーション力などが育成できるよう、より実践的な人権学習の方法を学ぶ。	
	日本手話A	聾者の言語である「手話」を学び、人と人との関わり方や「共生社会」構築のうえでどのように自らが寄与するのかを考える。「手話は言語である」の意味を説明できること、自己紹介を手話で表現できること等を目指す。2006年に国際連合で採択された「障害者の権利条約」を根拠として、言語としての「手話」について基礎から学び、日常会話に必要な手話単語の習得や、手話表現技術を学ぶ。随時、手話学及び障害学の講義、ビデオ学習を行う。	
	日本手話B	「日本手話A」の単位取得者を対象にする。聾文化を理解し、社会における人と人とのあり方を学び、「聾文化」について自らの言葉で説明できること、日常会話を手話で表現できることなどを旨とする。「聾文化」をテーマにして、聾者と聴者の世界の違いを踏まえ「共生社会」とは何なのか、受講学生とともに考える授業にしたい。日常会話は勿論のこと、ある程度の手話通訳が可能になるまでを目標として、実技演習を中心に進めていく。	
	アウトドアスポーツ	自然環境を活かして行われるアウトドアスポーツ（野外活動）について、いくつかの活動を取り上げ、生涯に渡って親しむために必要な知識・技能を身につける。アウトドアスポーツ（野外活動）の魅力、各種目に必要な知識・技術、自然の中で行われるがゆえの危険とその回避方法など、学外での実習を通して身につける。学外実習では、主に、カヌー、登山、ハイキング、キャンピングスノースポーツなどのアウトドアスポーツをおこなう。	
	レクリエーションスポーツ	レクリエーションスポーツは、誰でも、どこでも、気軽に楽しめるスポーツであり、既存のルールやコート、用具を簡素化したり、工夫したりすることで年齢に関係なく手軽に楽しめるスポーツである。本授業では、ウォーキング系、ボール系、自然系、ラケットバット系種目などの各種レクリエーションスポーツを行い、勝敗にこだわらないスポーツの楽しみ方を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいく基盤を構築する。	
	ニュースポーツ	ニュースポーツは、レクリエーションスポーツと同様に、新しく考案された各種スポーツで、軽スポーツや柔らかいスポーツとされるニュースポーツに触れ、楽しむことを目的とする。本授業では、ディスク系、ヒーリング系、スティック系、ロープ系の種目等を体験し、勝敗にこだわらないニュースポーツの楽しさ、創造性、柔軟性、独自性、多様性を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいくいわゆる生涯スポーツに繋げていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
歴史文化学科専攻科目	歴史学概論	歴史学は過去の時代に起こった出来事を対象とするが、どのような出来事をどのように取り上げるかによって、導き出される過去の姿は大きく変わる。E・H・カー『歴史とは何か』を中心に、近代以降の歴史学の歩みを紹介しながら、歴史を研究するとは具体的に何をすることなのか、何を目指しているのかを考えていく。歴史学という学問の目的と方法を理解し、学修を進めるための基礎を得ることを目標とする。また、日本近代における歴史観の変遷と論点について、その概要を理解する。	
	考古学概論	考古学とは、人類の過去＝歴史を研究する学問分野のひとつである。本授業では、考古学とはどのような学問か、考古学の発達の歩み、基本的枠組み、概念、理論、方法、用語、考えなど、基本的な知識を身につける。考古学が研究対象とする遺跡と遺物については、まずその特性を理解しておく必要があり、大学近辺の遺跡や附属天理参考館の展示資料など、具体的な事例を通して理解を深める。そして考古学的方法で、過去の人類の歴史や文化がどのように明らかにされてきたのかを学んでゆく。	
	民俗学概論	初めて民俗学を学ぶ初学者向けの講義として、歴史と環境から切り離せないものとして、私たちの暮らしを考える学問である民俗学について、身近な事柄から日常を問直し、これからの生活や社会・文化のあり方を考える。講義では、これまでの研究の蓄積を踏まえるとともに、近年における国内外の新たな研究動向にも目を配りつつ学習する。民俗学の基本的な問いや考え方、研究方法について理解し、具体的な事例に対し、民俗学的なアプローチから考え、説明できるようになることを目指す。	
	歴史文化基礎演習	大学で学ぶ歴史文化と高校での日本史・世界史との違いを理解し、知識の集積として歴史文化をとらえるのではなく、過去や現代の諸問題について、その背景をふくめて理解するためのツールとして活用できるようにする。あわせて歴史学・民俗学・考古学の基礎を学び、それぞれの学問の特性を理解し、2年次以後、自ら専門を選択できるようにする。授業は歴史学・考古学・民俗学のそれぞれを専門とする教員が担当し、3分野の専門的特質を、実践的に学ぶ。	共同
	日本史要説	現代の日本社会がどのような過去の積み重ねの上に成り立っているのかを学ぶ。古代以来のアジア諸国との関係、中世の幕府という独特な体制、災害と戦う近世社会、鉄道・軍隊・スポーツから見た近代化など、多角的な日本社会の成り立ちについて概説する。日本史の基本的な流れを知る。日本社会の多様性や特徴について学び、日本史の基本的な論点や考え方を習得する。現代社会につながる歴史の事象について、事例をあげて解説できるようになることを目標とする。	
	東洋史要説	歴史時代に入った頃の東アジアは、無数の国や生活圏がネットワークを成しているに過ぎず、より広い領域に一体となった動きはなかった。7世紀になって、唐王朝のもとに東アジア世界が一つの政治的秩序を形成するが、この秩序は8世紀半ばに起った唐の内乱を境として崩壊してしまう。その後、北アジアに興った国家と中国の王朝国家が対立する歴史が続き、18世紀に至って現在の東アジア世界の原型が成立する。こうした過程を通じて、東アジア世界はより深い結びつきをもち、一体となった政治的動きを示すようになっていく。本講では、東アジア世界がどのようにして成り立ち、発展していったかを学べるようにする。	
	西洋史要説	高等学校の歴史の授業で、イギリスの歴史については断片的に紹介されることはあっても、それを西洋史の枠内で通史的に説明する授業はない。この授業では、16世紀から20世紀までのイギリス史を中心とした西洋史を概観することで、西洋社会の状況を歴史学的に理解するための材料を提供する。この授業により、現代イギリス史を中心とした西洋史について基本的な知識を身につけることができ、また、西洋史を理解するための資料収集に積極的に取り組む姿勢を持つことができるようにしたい。さらに、近現代イギリス史を軸とした西洋史について説明することができるように求めている。	
	日本考古学要説	日本考古学は、日本列島に展開した人間の営みの歴史について、物質的な観点、すなわち、遺跡や遺物を通して調査研究する学問である。本授業では、日本考古学の発達の歴史と研究の現状を概観し、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代（飛鳥・奈良時代・平安前期）、中世など、各時代の考古学について、個別トピックに即しながら基礎的な知識を身につける。そのうえで、これまでどのような成果があったのかを知ると同時に、現在どこに課題があるのかについて理解を深める。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
歴史文化学科専攻科目	日本民俗学要説	初めて民俗学を学ぶ初学者向けの講義として、民俗学の草創期から現代に至るまでの民俗学の学史や、民俗学の主要な方法論や資料論について講義する。具体的には、初期の民俗学が志向した学問的問いから、今日の民俗学が抱える課題まで、通時的に概観することを目指す。また、フィールドワークや聞き書きといった、民俗学が得意としてきた方法論についてもその特徴と課題について講義する。さらに、モノや史資料の扱いや記録に関する方法論についても講義する。	
	くずし字入門	この授業ではくずし字（特に近世史料）の基本を学ぶ。具体的には、近世史料でよく目にする「検地帳」「年貢免状」「奉公人請状」「借用証文」「宗旨送状」などから、近世文書とはどういうものかを知ると同時に、米（石・斗・升・合）・銀（貫・匁）などの単位、あるいは年月日の読みを知る。考古学・民俗学であっても史料に書かれたくずし字を読むスキルが求められることがあり、初歩的な読みのトレーニングをとおして、文字を通して過去の出来事に接する歴史学の楽しみを知ってもらいたい。	
	人文地理学概論	人文地理学とは、人間活動の営みである社会、経済、文化、産業活動における空間的パターンと、その形成プロセスを解明する学問である。本授業では、人文地理学に関する一般的知識について学ぶとともに、人文地理学の理論を概説する。また、地理学の考え方にもとづいて、社会をどのように分析するか、その分析の方法を説明し、例示する。それにより、地理的な見方・考え方を習得し、特に中高等学校における地理学を教える能力を身につける。	
	自然地理学概論	この授業では、自然地理学とはどのような学問分野であるかを理解し、地球上の水資源や水循環について、基本的な用語を説明する能力を養う。特に、河川・湖沼における水の動きと水環境に関わるメカニズムと基本的な用語、さらに気候・気象についての基本的な概念と用語を説明することができるよう講義を進める。あわせて、河川や沿岸における災害の発生メカニズムを理解し、防災・減災についても、自然地理学の知識を活用して考えることができるようになることを目指す。	
	地誌	地誌学とは、単に国内や海外の他地域の地理的諸事象を知るだけではなく、国内の諸地域を比較し、あるいは日本と比較して海外を知り、さらに日本そのものを知る学問である。本授業では、イギリスを事例として地誌学に関する一般的知識について学び、地誌学の理論と地誌学の考え方に基づいて、社会をいかに分析するか、その分析の方法を概説する。それにより、地誌的な見方・考え方を習得し、特に中高等学校における地誌学を教える能力を身につける。	
	美術史	古来、日本では、中国伝来品を「唐物」（舶来品の異名ともなる）として尊んできており、現在の日本の博物館・美術館施設においても、中国古美術品は東洋古美術作品のなかで、かなりの割合を占める。この授業では、中国各時代に生まれた美術品にある優れた技術・表現力とその影響を様々な美術や文化、特に日本美術のなかみにみていく。日本人が受け継いできた文化や美的感覚が中国美術に影響を受けつつ、長い美的創造の歴史をつくってきたことを、実感し、洞察してほしい。	
	文化財行政学	日本における文化財保護は、制度として100年を越える歴史があり、その歩みと現状、今後の課題について学んでゆく。現行の文化財保護法について、その仕組みと特徴を理解し、文化財保護法に基づいて、実際にどのような文化財が指定・選定・登録され、保護の対象となっているか、奈良県内の事例を中心に学ぼう。施策として行われている国や地方の文化財保護行政の実態や課題について理解し、将来、文化財保護の行政や関連機関の業務に携わる場合にも、適応できる文化財保護や活用に対する考え方と、基本的な知識を身につける。	
	文化財科学・保存科学	文化財科学全般と、その一分野の保存科学を主題とする。文化財研究における主要な自然科学分析の原理と、研究事例を紹介する。加えて埋蔵文化財を中心として、保存処理の方法論と実例の解説をおこない、保存科学の考え方や原理に関する理解を得ることを目指す。文化財の保存活用・学術的課題の解決にむけて、博物館学芸員としての実務に従事してきた経験をもとに、具体的に解説し、多角的なアプローチを策定できるための基礎知識を得ることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
歴史文化学科専攻科目	大和の文化遺産を学ぶ1	主に奈良県（大和国）の鎌倉時代・室町時代・安土桃山時代・江戸時代前期の文化遺産（寺社建築、仏像・神像、絵画、城跡、古文書など）に焦点をあて、具体的に分析することにより、奈良県の特徴について概説する。文化遺産の意義を理解し、文化遺産を取り巻く課題について学ぶ。奈良県における中世史の基本的な流れについて知る。文化遺産の意義について習得する。奈良県の特徴について学び、事例をあげて解説できるようになることを目標とする。	
	大和の文化遺産を学ぶ2	図表・写真・DVDなどを使いながら、奈良県およびその周辺地域にある文化遺産（神社・寺院・古墳・仏像・建築・遺跡・地名など）の代表的なものについて、歴史学の立場から分かりやすく解説する。奈良県内の文化遺産を紹介していくと共に、「奈良」や「文化遺産」を知るために重要となる事柄を紹介していく。授業は文化遺産の見方（地形・地名・旧暦・郡・大字）などの基本を押さえたうえで、弥生時代から近代にいたる文化遺産を紹介し、最後に文化遺産の保存と活用、観光について触れる。	
	大和の文化遺産を学ぶ3	天理大学の立地する大和は古代国家発祥の地であり、古墳時代以降は列島の都があった場所である。本授業では、このような環境を活かし、奈良県内各地域の考古学的な文化遺産、すわなち、遺跡や遺物を手がかりにして、奈良時代から時代を遡る形でトピックを設定し、奈良盆地で展開した歴史について学んでゆく。また、考古学が研究対象とする遺跡や遺物が文化遺産としての側面を持ち、現代的な意義や課題があることについて理解を深める。	
	博物館学概論	専門的な博物館学の各論に進む前提として、博物館の定義、分類、理念、目的、機能、法律、制度、組織、歴史、現状、課題を説明する。また、ひごろ目に触れやすい展示やイベントだけでなく、施設・運営の観点でも博物館を評価する視点を養う。博物館学芸員としての実践的な経験を踏まえ、初めて博物館に関する授業を受けることを前提にしつつ、具体的な事例から上記の課題である理念や定義を説明する。随時、映像資料などを使って具体的な展示当の実例を学び、その理解を深める。	
	博物館経営総論	博物館経営の特性を学んだ後、その基盤について、建築・施設・設備といった具体的なトピックを導入とし、組織・行財政・財務について理解する。ついで、博物館にかかわる諸団体との連携活動を学ぶ。特に、生涯学習の観点も参照しながら、市民参画や地域社会との連携を理解する。さらに、博物館の管理運営と評価について、危機管理、博物館倫理、利用者、使命と評価といった課題を学ぶ。博物館学芸員としての実践的な経験を活かし、実例を提示しつつ授業を進める。	
	博物館教育論	博物館教育の意義や理念を修得し、博物館活動としての展示、研究、調査などの具体的な実践活動を学び、教育機関としての博物館の役割を総合的に理解する。授業担当者が大学附属博物館（天理参考館）の学芸員であるメリットを生かし、博物館見学やワークショップの実践などを通して、現場が直面している教育的課題を具体的に紹介する。また、各地の博物館が取り組んでいる様々な活動例を提示し、実践的な知識を深める。今後ますます教育機関としての重要性が高まる博物館の役割を理解しつつ、自らのアイデアを具体化し、実現可能な展示を創り上げ、企画運営するスキルを向上させる。	
	博物館情報・メディア論	博物館は、資料のもつ情報を来館者に的確に伝達するため、題箋やパネル等、様々なメディアを活用する必要がある。近年では、デジタル化の進展にともない、デジタルアーカイブの活用やWEB上での博物館情報の公開・活用が促進される等、博物館情報の活用はあらたな段階に移りつつある。本講義ではそういった現状を踏まえ、博物館学勤務経験のある授業担当者の経験をもとに、博物館における情報の意義や具体的な内容、メディアの活用方法等について学ぶ。	
	博物館展示論	博物館展示は、博物館活動の「オモテ」の部分である。博物館が行う資料の収集・保存、調査研究の成果を展示でいかに表現するかについては、理論と技術の両面を備える必要がある。授業ではまず、内外の歴史・民俗・民族系博物館を中心に展示の実例を見て、国や地域、設立母体によって異なる展示の諸相を考える。また、展示ケース・展示照明・展示グラフィクスといった技術の問題を取り上げる。最後に附属天理参考館の展示をもとにして、展示計画を作成する。これらを長年の博物館学芸員としての実践的な経験をもとに解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
歴史文化学科専攻科目	博物館資料論	博物館の展示で何気なく見ている資料は、展示されることのないほかのものとのように違うのか。本授業ではまず、博物館資料とはどういうものを指すのかを考え、ヨーロッパと日本における博物館資料形成の歴史をたどる。次いで、さまざまな博物館資料を取り上げ、その特性の理解を図る。取り上げる博物館資料は、人文系博物館資料の中でも本学の学科構成に合わせたものとする。終盤では資料の管理について考察する。これらの授業により、博物館資料の収集や整理保管、保存・展示に関する知識や技術を習得するとともに、博物館資料の調査研究活動について、理念・目的・方法・実際を理解する。	
	博物館資料保存論	長年の文化財保存修復者、博物館学芸員としての実践的な経験をふまえて、博物館資料を適切に保存する意義を論じ、具体的な資料保存・保全の方法を学ぶ。また、展示と収蔵という、資料保全の観点からは相反する業務を円滑に進めるために必要となる、適切な博物館環境の整備・管理に関する知識を、温室管理、I P M、防災等、多面的な角度から学ぶ。そのうえで、自然環境、歴史的環境、景観等の自然・文化資源の有効活用に博物館が果たす役割について学ぶ。	
	社会科指導法 1	この講義は、社会科教育の歴史と特質、意義や目標、内容を理解し、中学校教員として必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。具体的には、中学校学習指導要領「社会」における目標と内容構成（たとえば「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」）について解説し、中学校における授業の実際について具体的な授業実践の事例を分析・検討を行い、指導方法、評価方法、教材開発など、社会科の授業をデザインするための基本について考察する。	
	社会科指導法 2	社会科の目標・内容および授業構成の基本原則を理解し、中学校の現場で行われている授業の実際について、学習指導案、授業実践の分析・検討を通して教材開発、授業展開、指導方法について考察でき、教授・学習の在り方、社会認識形成と公民的資質の関係について捉えることができるようにする。そのうえで、社会科教育の実践力の基礎を培う。具体的には、社会科教育の目標・内容及び授業構成の基本原則について解説する。中学校における授業の実際について学習指導案や授業実践の分析・検討を行い、教材開発、展開について考察する。受講者による学習指導案の作成、模擬授業、討論を行う。	
	社会・地理歴史科指導法 1	この講義は、地理歴史科教育の歴史と特質、意義や目標、内容を理解し、高等学校教員として必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。概要として、高等学校学習指導要領「地理歴史科」における目標と内容構成、地理歴史科の成立と学習指導要領の変遷などを解説する。高等学校における授業の実際について具体的な授業実践の事例を分析・検討を行い、指導方法、評価方法、教材開発など、地理歴史科の授業をデザインするための基本についても考察する。	
	社会・地理歴史科指導法 2	本講義では、地理歴史科の目標・内容および授業構成の基本原則を理解したうえで、高等学校の現場で行われている授業の実際について、学習指導案、授業実践の分析・検討を通して教材開発、授業展開、指導方法について考察、教授・学習の在り方、社会認識形成と公民的資質の関係について捉えることができるようになり、地理歴史科教育の実践力の基礎を培うことを目的とする。具体的には、高等学校における授業の実際について学習指導案や授業実践の分析・検討を行い、教材開発、展開について考察する。受講者による学習指導案の作成、模擬授業、討論を行う。	
	英語文献講読 1	現在学術的活動における実質的な共通語となっている、英語による研究書の講読を通じて、歴史学・考古学・民俗学の学術論文・報告書等を正しく読み解くために必要な語彙・文法・構文の知識の獲得を目指す。大学院入試レベルの平易な英文による、歴史学に関する概説書をえらび、予読を前提として順に発表してもらう。これに文型・構文の捉え方、文法に基づく確実な英文理解、背景の知識に関する解説を加えながら理解を深め、学習を定着させることで、学術英語の読解に対する基礎的な能力を養う。	
	英語文献講読 2	英語による専門的な内容の文献の講読を通じて、歴史学・考古学・民俗学の学術論文・報告書等を正しく読み解くための実践的な技能の獲得を目指す。歴史学・考古学・文化人類学等に関する、専門的かつ抽象的な内容の英文による研究書の一部ないし学術論文をえらび、予読を前提として順に発表してもらう。これに文型・構文の捉え方、背景の知識に関する発展的な解説、内容の理解に関する討議を加えることで、独力で学術英語を読解してゆくに足る実践力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
歴史学 文化学 専攻科目	卒業論文	卒業論文は、これまでの学生生活において蓄積した研究成果の総決算であり、集大成である。自らの問題意識に則して、論文のテーマを設定することが大切である。先行研究をまとめただけのレポートや、テーマを特に設定せず概説的に述べただけのもの、また従来の学説をそのまま引用し自説のように見せかけているものは不可とする。ループリックに従い、先行研究を読む力、問いを立てる能力、調査プランの立案能力、資料の読解・分析能力、学術文書の作成能力を問う。	
	歴史学研究入門1	『岩波講座 日本歴史』・『日本史講座』（東京大学出版会）などの論文集の中から、自らの興味・関心につながる先行研究を探す目を養い、選んだ論文の内容を要約して、それを解説するという人文科学の基礎を学ぶ。また『天理市史』を用い、地域に関する歴史書の読解力を高める。これらを通じ、日本史学の研究方法・動向・史料についての理解を深め、研究論文の読解力を高めるとともに、自ら研究課題を見出し、調査し、発表する力を養う。	
	歴史学研究入門2	『日本の時代史』などの論文集の中から、自らの興味・関心につながる先行研究を探す目を養い、選んだ論文の内容を要約して、それを解説するという人文科学の基礎を学ぶ。その発表と討議を通じて、日本史の研究手法や研究動向についての理解を深める。また『天理市史』を用い、地域に関する歴史書の読解力を高める。これらを通じて、研究課題を見出し調査して、発表する能力を養う。そして、専門的な論考を読み、論旨を正確に説明できるようになることを目的とする。	
	文化交流史の研究1	ユーラシア大陸の東西を結ぶ交通・交易の発展を概観し、それが世界の政治・経済・文化の発展とどのように結びついているかを理解することを目的とする。ユーラシアの遠距離を結ぶ幹線は、古くは内陸アジアを通る陸路が中心であったが、造船・航海技術の発達により、15世紀頃には海路の方が中心となる。それによって世界的な移動・輸送の規模が拡大し、グローバルな世界の成立につながっていく。この授業では、そうした交通・交易の発展と、それが世界の一体化を導いていく過程を学ぶ。	
	文化交流史の研究2	日本の近代化過程において、明治政府が、欧米の先進文化を急速に移入するために、各分野・部門にわたり指導者ないし教師として雇用した外国人である「お雇い外国人」の業績を手がかりに、幕末から明治半ばにかけての日本における、西洋建築、西洋美術の受容についておおよその知識を得る。あわせてお雇い外国人が日本の古美術や伝統工芸を保存することに果たした役割について知る。その際、日本の伝統的な美術、工芸に対するお雇い外国人たちの関心に、どの程度ジャポニスムの影響があったのかを合わせて考える。	
	日本古代史の研究	この授業では、DVDや図表などを使いながら、日本古代史（古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代）の概略を、それぞれの時代を代表する人物（たとえば、卑弥呼・聖徳太子・聖武天皇など）を通して分かりやすく説明していくと共に、最近の日本古代史の研究動向や研究方法なども解説する。そのうえで、日本古代史（古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代）の歴史の流れ、注目される特徴、疑問点などを各自が自らの言葉で説明できるようになることを目的とする。	
	日本中世史の研究	中世後期の室町・戦国社会の成立と展開について、畿内を中心に東国や西国などの地域と対比しながら、幕府や大名など武家権力だけでなく、顕密仏教や戦国仏教など寺社権力の動向、諸都市の変容や発展について概説する。日本中世史、特に室町・戦国時代の社会について、その多様性や特徴、基礎的な知識を知る。室町・戦国時代の研究方法や学術用語について学び、最新の考え方を習得する。室町・戦国時代の事象について、事例をあげて解説できるようになることを目標とする。	
	日本近世史の研究	この授業では、織田政権・豊臣政権・江戸時代前期（家康から綱吉政権）の政策を中心にその概要を知る。その際、江戸時代の通史と、その記述のもとになった基礎的な史料を読み、史料の理解から歴史の流れを学ぶ。また、新しい史料の発見や史料の解釈などの変更によって、歴史の記述が変わってきていることを学ぶ。また奈良などの地域史料の分析を通して、当時の社会の一端を具体的に示す。これらを通して、歴史に取り組むことの面白さを知り勉学の意欲を高める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
歴史文化学科専攻科目	歴史学コース科目	日本近代史の研究	日本近代に形成・展開された歴史認識・叙述について、神話・偽史・英雄伝・旧藩顕彰・オカルティズムといった様々な視点から考察し、日本及び地域社会との関係の諸相について学ぶ。時期としては明治～昭和期を主に対象とするが、起源を求めて江戸以前にさかのぼる可能性もある。日本近代において種々展開された歴史叙述を真偽ともに再検討することにより、現在へとつながる課題に対し、自分で回答できるようになることを目標とする。	
		東アジア史の研究	15～17世紀の東アジア世界の政治的・経済的変動について学ぶ。この時代の東アジアは、明朝が超大国の位置を占め、中国から撤退して長期的に衰退の道を辿っていたモンゴルがそれと対立する状況にあった。この状況は16世紀後半に一応解消するが、それまでに中国東南部を中心とする経済発展と世界的な流通の拡大により、域内全体の既存の秩序が揺らいでいた。この授業では、こうした旧秩序の崩壊とそれに代る新しい秩序の成立について学び、前近代の東アジア世界の構造と成り立ちを理解することを目的とする。	
		古文書学	日本では律令制が導入され、公的な文書の形式が決定された。しかし、政治体制の変化や公家・武家・寺家に権力が分掌されるようになると、多様な形式の古文書が生み出されるようになる。こうした背景や社会を理解するとともに、古文書学の基本である様式論を中心としながら、機能論について概説する。日本の古代・中世・近世の社会の概要について知る。日本史、特に文献史学を研究する上で、基本史料である古文書についての基礎的な知識を習得する。和様漢文の訓読が一定程度できるようになることを目標とする。	
		日本古代史料の講読 1	日本古代史料（古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代）の読み方を分かりやすく説明していくと共に、実際に読解しながら自分なりに日本古代の政治・経済・外交・文化の特徴を発見していくことを目的とする。前半では、代表的な古代の2次史料について解説しながら、疑問点や注目点などについてディスカッションしていく。後半では、各自で興味がある史料を読解し、その内容・疑問点・注目点をプレゼンテーションし、聞いている人とディスカッションしながら学習を深めていく。	
		日本古代史料の講読 2	日本古代史料（古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代）の読み方を分かりやすく説明していくと共に、実際に読解しながら自分なりに日本古代の政治・経済・外交・文化の特徴を発見していくことを目的とする。前半では、代表的な古代の1次史料について解説しながら、疑問点や注目点などについて、皆とディスカッションしていく。後半は、各自で興味がある史料を読解し、その内容・疑問点・注目点をプレゼンテーションし、聞いている人とディスカッションしながら学習を深めていく。	
		日本中世史料の講読 1	活字の史料集『吾妻鏡』をテキストとして授業を進める。レ点や一・二点、上中下点などに従い、日本独特の和様漢文の読み下し方について学ぶ。鎌倉時代に使用された古語の意味を理解する。鎌倉幕府の歴史観について知るとともに、編纂者の意図など、編纂史料を読解する際の注意点を習得する。鎌倉時代の和様漢文の史料について学び、訓読法を習得する。鎌倉時代の和様漢文の史料の意味を理解し、現代語訳ができるようになることを目標とする。	
		日本中世史料の講読 2	活字の史料集『中世法制史料集』5巻をテキストとして授業を進める。レ点や一・二点、上中下点などに従い、日本独特の和様漢文の読み下し方について学ぶ。戦国時代に使用された語句の意味を理解する。戦国大名の発給文書の特徴、直状と奉書の違いや発給の手順に見る権力の構造や社会背景について知る。戦国時代の和様漢文の史料について学び、訓読法を習得する。戦国時代の和様漢文の史料の意味を理解し、現代語訳ができるようになることを目標とする。	
		日本近世史料の講読 1	『奈良奉行所記録』（清文堂出版）を読み、そこに記されている内容を正しく理解する。この史料は、奈良奉行所の町代が書き留めた役務日記で、奉行所の動向、裁判、町方の様子が示されていて、奈良の近世史を知るうえで格好の史料である。本格的に近世史料（翻刻）に接する初めての授業であり、まずは史料に慣れ、帰りがなくても読み下すことができること、そのために常用される単語の読みおよび意味の理解を身に付ける。あわせて史料に出てくる奈良のフィールドワークを実施する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
歴史文化学科専攻科目	歴史学コース科目	日本近世史料の講読 2	「公事裁許之扣帳」（『藤堂藩大和山城奉行記録』清文堂出版）を読み、そこに記されている内容を正しく理解する。この史料は、大和・山城国の津藩の領民が起こした訴訟の判決に関する藩の記録である。訴訟となった事件そのものの理解（誰が誰をなぜ訴えたのか）、訴訟のプロセス（訴訟には誰が関係しているのか）、判決あるいは解決の方法などを正しく理解し、事件の背景（たとえば村の慣行や家産の継承など）などを考察することで、近世社会の特質を分析する。	
		日本近代史料の講読 1	明治5年に創刊された新聞『日新新聞』を会読する。同紙は近代奈良県初の新聞であるとともに、県の公報の役割も果たしており、全ての県内町村に頒布されたものである。まずは紙面を読むことにより、日本近代史料で用いられている用語・用字など、史料を読解するための基礎となる力を身につける。さらに、当該期の政治・経済・社会・文化などについての基礎知識を得て、史料の背景にある問題についてもあわせて指摘できるようになることを目標とする。	
		日本近代史料の講読 2	明治5年に創刊された新聞『日新新聞』を会読する。近代奈良県初の新聞である同紙は、東京・大阪等の都市で発行された新聞（『東京日日新聞』『大坂新聞』ほか）の記事を転載することも多かったが、県内のニュースに関しては、自ら取材して記事としていた。同紙の特に奈良県に関する記事を読み解き、その現場に実際に足を運ぶことにより、日本近代社会の形成期に地域で生まれた諸問題を理解する。近世・近代社会と現在との違いも意識したい。	
		歴史学史料実習 1	日本史を研究したり、文化財専門職に就職したりする際に必須の技術となる、古文書の仮名や漢字のくずし字の読解について学ぶ。中世や近世の史料（写真版のコピー）を使用し、一文字ずつ筆の運びを見ていき、どのように仮名や漢字をくずしていくのかを確認していく。また音読も確認する。和様漢文の文体を理解する。日本の中世・近世社会の基礎的な仕組みについて知る。使用頻度の高い漢字や、決まり文句のくずし字を読めるようになることを目標とする。	共同
		歴史学史料実習 2	奈良県を中心とする地域の近現代文書（写真版のコピー）を読み進め、史料（くずし字）の読解力を高める。用いる文書は、過去に史料実習で整理した地域の文書群の中から選び、近現代史料の入門篇として取り組みやすい公文書を中心とする。それら現地に残された公文書（多くは区有文書）を読解することにより、日本近現代の地域社会における問題群（土地・水利・産業・教育・軍事・宗教など）について、史料に則して学ぶことが出来る。	共同
		歴史学史料実習 3	この授業では、天理図書館の未整理史料の整理にあたり、文書資料整理の現場を知る。担当教員および図書館員の指示に従い、文書のタイトル、差出宛名、形態、破損状況など基礎的な情報を調書にとる。また、データ化するための入力作業を行う。古文書、とりわけ近世の地方文書の調査・整理は、文化財の保存・活用には欠かせない。この実習を通して、地方文書にはどのような形式・内容があり、目録には何を記載するのかを知るとともに、くずし字読解のスキルを上げ、将来、古文書を扱える文化財担当者の基礎を築いていく。	共同
		歴史学史料実習 4	この授業では、歴史学実習 3 に引き続き、天理図書館の未整理史料の整理にあたる。担当教員および図書館員の指示に従い、文書のタイトル、差出宛名、形態、破損状況など基礎的な情報を調書にとる。また、データ化するための入力作業を行う。この実習を通して、地方文書にはどのような形式・内容があり、目録には何を記載するのかを知るとともに、くずし字読解のスキルを上げ、自力でタイトル・内容を記述し、将来、古文書を扱える文化財担当者の基礎を築いていく。	共同
		日本古代中世史演習 1	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら日本古代中世史を中心とした研究テーマを決める。研究テーマを決める。3年次のは、『日本の時代史』『岩波講座日本歴史』などから、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
歴史文化学科専攻科目	歴史学コース科目	日本古代中世史演習 2	春学期の進捗をふまえ、各自、日本古代中世史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
		日本古代中世史演習 3	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら日本古代中世史を中心とした研究テーマを決める。研究テーマを決める。3年次のは、『日本の時代史』『岩波講座日本歴史』などから、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年
		日本古代中世史演習 4	春学期の進捗をふまえ、各自、日本古代中世史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
		日本近世史演習 1	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら日本近世史を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年
		日本近世史演習 2	春学期の進捗をふまえ、各自、日本近世史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
		日本近世史演習 3	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら日本近世史を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年
		日本近世史演習 4	春学期の進捗をふまえ、各自、日本近世史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
		日本近代史演習 1	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら日本近代史を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
歴史学 コース科目  歴史文化学科専攻科目  考古学 コース科目	日本近代史演習 2	春学期の進捗をふまえ、各自、日本近代史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
	日本近代史演習 3	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら日本近代史を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年
	日本近代史演習 4	春学期の進捗をふまえ、各自、日本近代史を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
	考古学研究入門 1	考古学に関わるテーマを見いだす手がかりとして、附属天理参考館に展示されている考古資料について、教員のアドバイスを受けて受講生各自が課題を設定し、観察と初歩的な研究を行う。各自が設定した課題について、それぞれ文献収集、情報収集を行いながら研究を進め、研究成果をまとめたプレゼンテーションをおこなう。またディスカッションを通して、発表者を含め、受講生全員が考古学に関する理解を深める。この過程を通して、情報ライブラリー・図書館等の利用法、関連資料の収集法、レジュメ・資料の作成法、プレゼンテーションの方法などを実践的に学んでゆく。	
	考古学研究入門 2	本授業では、考古学の基礎的手法の習得を目指す。学期半ばに1日を使って実施するフィールドワークをはきんで、前半と後半に分ける。前半は、フィールドワークの準備として資料集を作成する。調査報告書など学術的な文献にあたり、必要な情報を抜き出しとまとめ、フィールドワークに活かす力を養う。後半では、考古学の学術的な文献の読解に取り組み、順にプレゼンテーションする。発表要旨、文献リストの作成を通して、学術活動の基礎を学ぶ。	
	旧石器・縄文時代の考古学	旧石器時代および縄文時代の文化に関し最新の知識を身につけ、さらに研究方法を深く学ぶことで、この時代を探索するための基礎的な方法を習得することができるようにする。そのため、日本列島最古の人類文化である旧石器文化と土器を製作し定住的生活スタイルを確立した縄文文化に関する研究の最前線に関して、具体的な資料に基づいて概説する。具体的には、旧石器時代の衣食住、土器文化の出現、縄文土器の編年・文様など、縄文時代の衣食住などを取り上げ、あわせて現代における「縄文ブーム」と縄文時代研究についても言及する。	
	弥生時代の考古学	日本列島において本格的な水稻農耕が開始された時代とされる弥生時代は、また、大陸からの急速な技術・知識の伝来にともなって、著しい社会変革が発生した時代でもある。本授業では、弥生時代の遺跡や遺物を対象とした考古学的な調査研究の歩みとその成果について、専門的な知識を身につける。奈良盆地に位置する唐古・鍵遺跡とその出土遺物、附属天理参考館の展示資料など、具体的な事例を通して実践的に学び、考古学における考え方、すなわち、方法論・理論についても理解を深める。	
	古墳時代の考古学	日本考古学における重要な一時代である古墳時代についての専門的知識を獲得することを目的とする。古墳時代研究には膨大な蓄積があり、研究分野の細分化が進んでいるため、時代の全体像を把握するのがかえって困難になってきている。授業の序盤では、古墳時代の概要の理解に努め、次いでこの時代を代表する要素である古墳の具体的変遷を通観する。それらのあとに古墳時代を構成する諸要素のうち重要な問題を個別に取り上げて、順に学んでいく。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
歴史文化 学 科 専 攻 科 目	考古学 コ ー ス 科 目	飛鳥・奈良時代の考古学	奈良時代は木簡等をはじめとする豊富な文献史料が登場し、考古資料の解釈においても古墳時代までよりも高い精度の議論が可能となる時代である。その一方、時代の全体像を理解するために求められる情報も多岐にわたるため、授業ではその基礎となる項目について概説する。 飛鳥時代・奈良時代それぞれについて、寺院、都城、瓦の生産と流通、土器の生産と流通、金属生産の各テーマを通じて概観し、時代の流れと特質について、比較しながら理解を深められるよう進める。	
		中近世の考古学	考古学は、過去人類が残した物質的資料としての「遺跡」と「遺物」というモノから歴史を分析する学問である。ただし、モノからモノを研究するのではなく、あくまで歴史叙述へのまなざしを失ってはならない。本講義では中世とはなにかを念頭に置いて、考古資料を用いた中世社会の復元を講じる。それにより、中近世考古学とはどのような学問かを理解すること、中近世の社会構造を考古学から知ること、遺構・遺物から社会を復原する手法を学ぶことができるようになってもらいたい。	
		東アジア考古学	東アジアあるいは世界の考古学において重要な中国および中国北方の考古学についての専門的知識を獲得することを目的とする。中国には農耕を基盤とする文明が早くに成立し、日本列島を含む東アジア世界に大きな影響を及ぼした。一方、気候が冷涼で農耕に適さない中国北方は、ユーラシアに広がる遊牧系の文化に属し、中国文明と対峙した。本授業では新石器時代から秦漢期までの両地域の比較を通じて、中国文明と周辺地域、ユーラシアにおける中国文明などの問題を考える。	
		西アジア考古学	古代西アジア世界において、明確で一貫した時間軸をもつエジプト、アナトリア・メソポタミア・エジプトの中間に位置し、大文明の動向を鋭敏に反映するレヴァント地域、主に交易を通じて西アジア、東地中海世界のつながりを体現するフェニキア諸都市の動向、の3つのトピックを通じて、広大で複雑な古代西アジア世界を理解するための基礎知識とともに、19世紀以来当地の発掘調査を通して発展してきた、都市遺跡や金属生産遺跡、土器に関する調査・研究方法を学ぶ。	
		遺跡探査学	本講義では、文化財探査の各手法の原理と特徴について学び、実際の探査方法、得られたデータの解析と判読方法を身につけることを目的とする。考古遺跡を対象とした各種の非破壊調査法の概要を述べ、物理探査法の中から、主として地中レーダ探査法、磁気探査法、電気比抵抗探査法を取り上げ、その原理、特徴、得られる成果について解説を行う。また、天理大学が保有する探査装置を使用して探査実習を行う。具体的には、探査の原理と方法について板書、スライド、プリント資料等を使用して説明を行った後、地中レーダ探査機、磁気探査機、電気探査機を使用し、大学構内において探査を体験し、得られたデータの解析、判読方法について学習する。	
		遺跡の保存と活用	考古学の研究対象である遺跡や遺物は、同時に、文化遺産として現代的な価値を持ち、その保存や活用について社会的な関心が高まっている。遺跡や遺物は、文化財保護法においては、埋蔵文化財として記録保存がはかれるとともに、重要なものが史跡や有形文化財として保護され、地域資源としての活用が期待される。その現状と課題について学び、自治体等の文化財専門職員の職務について知識を身につける。また、パブリック・アーケオロジー（公共考古学）の理論を学び、遺跡の保存と活用に関する現代的な諸問題について、具体例を通して理解を深める。	
		考古資料の情報化	発掘調査で出土した遺構や遺物が考古学の研究資料として活用されるためには、他の研究者による検証が可能な形での製図や写真撮影等、情報化がなされたうえで、報告書等の形で公開されること必須である。考古学実習等で習得した測量・実測などの基礎技術をもとに、実際の発掘調査での出土資料を素材として、多量の考古資料の効率的な整理、資料の性質に応じた情報化、研究資料としての公正な情報共有などについて、理論と実践の方法を学ぶ。	
		考古学実習 1	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた経験もふまえて具体的に解説し、遺跡と遺構の測量・実測の方法を、実践を通じて学ぶ。第1に比較的大きな対象（主に遺跡）に対応する技術として、放射測量の基本である平板測量、レベルを用いた水準測量、両者を組み合わせて行う等高線測量を順に実践し学ぶ。次いで、比較的小さな対象（主に遺構）に対応する技術としてオフセット測量を学ぶ。オフセット測量の事前作業としてトランシットを用いた基準杭設置を実践する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
歴史文化学科専攻科目	考古学コース科目	考古学実習 2	考古学は資料（遺跡・遺構・遺物）からさまざまな情報を抽出し、記録し、伝え、それを題材に議論する学問である。議論の題材にするためには、資料がもつ情報の扱い方に一定の基準が求められる。考古学実習では、学術的に必要な水準を満たした考古学資料の操作方法を習得する。考古学実習 2 では主に、野外調査と野外調査から持ち帰った資料の整理・調査に必要な知識を学び実践する。近年、急速に進むデジタル化に対応できる実習内容とする。	共同
		考古学実習 3	この授業は、「考古学実習 1」「考古学実習 2」で学んだ考古学の調査研究のための基本技術を、実際の発掘調査において実践する集中実習である。習得する技能は、調査計画を立案する能力、掘る技術、土質・土層を見きわめる能力、出土品を適切に扱う技術、調査の進展および判明した事実を的確に記録する技術など多岐に及ぶ。実習の舞台となる発掘調査は、天理市教育委員会と合同で行うものであり、地域連携や地域課題解決の実践的学びでもある。	共同
		考古学実習 4	「考古学実習 3」で学んだ発掘調査の技術をさらに高める集中実習である。考古学実習 3 と同じフィールドでの発掘調査において、基礎的な発掘・製図に関する技術を土台とした、より高度な調査能力の習得を目指す。発掘調査に関わるさまざまな技術は、考古学実習 3 の 2 単位分の実習で十分に習得できるものではなく、実践を重ねて習得していくことが望まれる。また、考古学実習 3 の受講者と同じ調査に参加することで、発掘調査を指導する立場の実践ともなる。	共同
		先史考古学演習 1	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら先史考古学を中心とした研究テーマを決める。3 年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4 年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年
	先史考古学演習 2	春学期の進捗をふまえ、各自、先史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3 年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4 年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年	
	先史考古学演習 3	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら先史考古学を中心とした研究テーマを決める。3 年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4 年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年	
	先史考古学演習 4	春学期の進捗をふまえ、各自、先史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3 年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4 年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年	
	原史考古学演習 1	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら原史考古学を中心とした研究テーマを決める。3 年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4 年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
歴史文化学科専攻科目	考古学コース科目	原史考古学演習 2	春学期の進捗をふまえ、各自、原史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
		原史考古学演習 3	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら原史考古学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年
		原史考古学演習 4	春学期の進捗をふまえ、各自、原史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
		歴史考古学演習 1	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら歴史考古学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年
	歴史考古学演習 2	春学期の進捗をふまえ、各自、歴史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年	
	歴史考古学演習 3	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら歴史考古学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年	
	歴史考古学演習 4	春学期の進捗をふまえ、各自、歴史考古学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年	
民俗学コース科目	民俗学研究入門 1	本授業では、演習の形式を基本としつつ、民俗学の研究分野やテーマを見いだす練習を行う。天理大学附属天理参考館の民俗展示の見学や、大学周辺の集落や寺社の巡見を行い、そこで見られる民俗資料について、観察、記録、初歩的な調査や研究を行う。その過程で、民俗資料の実態と存在の様相について理解を深める。あわせて、関連資料の収集法、レジюмеや資料の作成法、プレゼンテーションやディスカッションの方法などを実践的に学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
歴史文化学科専攻科目	民俗学コース科目	民俗学研究入門 2	大学周辺の集落や寺社で行う民俗学の巡見や観察調査を通じて、事前の文献調査や、説明資料の作成といった準備作業を経験し、その知識や検索・整理などのテクニックを習得する。また、民俗学の基本的な学術文献の読解に取り組み、理解した内容を各自でプレゼンテーションする。そのための発表要旨、文献リストの作成作業を通して、卒業論文の執筆にむけた学術活動の基礎を学ぶ。最後はこれらをレポートにまとめて、学びの総括とする。	
		民俗学と現代社会	日本では一年を通じて、様々な祭りが行われている。祭りは、私たちの暮らしにおいても身近な存在であり、日本文化の特徴を考える上でも大変重要である。本講義では、日本における祭礼文化の多様性や、そこで演じられる芸能、また祭りの運営や維持に関わる人々やコミュニティについて論じる。さらに、近年の祭りを取り巻く現代的な状況として、観光資源化やユネスコ無形文化遺産との関わりとその問題点についても論じる。本講義では、日本各地の様々な祭礼や芸能について、映像資料等も用いながら講義を進める。	
		生活文化史	人間の活動とその成果はすべて「文化」であり、人間の歴史そのものが「文化史」と言える。さらに、「文化」は特定の集団に属する人が共有する一定の特性で、行動規範や価値観を規定する。他者を理解するには「文化」の理解が不可欠である。「日本の文化」と、対極にある「異文化」を学ぶことで、将来に活かすグローバルな視点と寛容なコミュニケーション能力を養成する。授業では、適宜、天理大学附属天理参考館の資料を直接目にして理解を深めるようにする。	
		フィールドワークからみる民俗文化	フィールドワークの基本である「あるく・みる・きく」を通じて、私たちの生活文化や歴史文化について民俗学的視点から考える。これまで民俗学が蓄積してきたフィールドワークをもとに作成された地誌類、報告書、画像・映像資料、学術論文等をもとに、私たちの暮らしのなかに累積された人々の営みや民俗について講義する。さらに、私たちの暮らしに関わる具体的な場面や対象について民俗学的視点から理解し、記述するための方法論を学ぶ。	
		民話と伝承	文字に頼らずに、永年にわたって伝承されてきた豊かな文化情報の一つとして、伝説や昔話などの「民間説話」、いいかえれば「民話」を学ぶ。本授業を通し、口頭で伝えられてきた民間説話、すなわち「口承文芸」の内容や分類、調査や研究の方法、具体的な民話本文の表現や構造を理解する。これにより、民話に籠められた先人の信仰・思考法・叡智などを学ぶ。あわせて、民話の面白さを実感するとともに、深層における意味を理解し、その奥深さの認識をめざす。	
		宗教民俗学	本授業では、宗教民俗あるいは民俗宗教や民間信仰と呼ばれる信仰と文化の領域を扱う。具体的には、年中行事に現れる民俗的な神観念を説明し、生活と一体化した伝統的信仰の理解をはかる。また、日本における祭の構造と意味、神観念、祭祀組織について基本的事項を説明し、祭りを見る基本的視点の習得をはかる。さらに俗信や民間説話に潜在する民俗信仰を説明し、その意味を考える。これらにより、民俗信仰の歴史性や文化的価値を把握する。	
		民俗資料論	本授業では、ほかの民俗学の講義や演習、実習で扱われる機会の比較的小さい民具などの有形民俗資料や、地図、地名、地誌、石造物、絵画など、民俗学の研究においても役立つ関連資料について、基本的事項を解説する。あわせて、それらの存在形態や入手法、調査・研究法とその実例を学ぶ。これにより、卒業論文の調査・研究・執筆に備えるほかにも、文化財関係の業務や、博物館での調査・研究・活用などにも有益な知識・技能の習得をはかる。	
		民俗学実習 1	民俗学の現地調査に関し、企画・準備・実施・整理・報告などの作業を通して、フィールド・ワークに必要な基本的知識と調査技術を身につける。特に、実習 1 では、調査地や調査内容の選定、行程や日程の検討、調査地・調査内容に関する文献調査と研究、聞き取り・観察といった調査方法の検討や練習などの作業を行う。これらにより、事前の準備に関わる知識・技術を、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて習得する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
歴史文化学科専攻科目	民俗学コース科目	民俗学の現地調査に関し、企画・準備・実施・整理・報告などの作業を通して、フィールド・ワークに必要な基本的知識と調査技術を身につける。特に、実習2では、実習3の集中授業で行った現地調査の結果を整理し、確認し、先行研究と対照して価値を検討する。さらに、その内容を報告書にまとめるなどの作業を行う。これらにより、調査結果の整理・報告に関わる知識・技術を、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて習得する。	共同
		民俗学の現地調査に関し、企画・準備・実施・整理・報告などの作業を通して、フィールド・ワークに必要な基本的知識と調査技術を身につける。特に、実習3では、集中授業で現地調査を実施し、聞き取り、観察を行い、インタビュー、メモ、録音、撮影などの技法を練習する。実習中には随時ミーティングを行い、調査結果の共有と検討を行う。これらにより、調査の実施に関わる基本的な知識・技術を、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて習得する。	共同
		民俗学の現地調査に関し、企画・準備・実施・整理・報告などの作業を通して、フィールド・ワークに必要な知識と調査技術を身につける。特に、実習4では、集中授業の現地調査に主体的に関り、聞き取り、観察を主導し、インタビュー、メモ、録音、撮影などの技法を実践する。実習中には随時ミーティングをサポートし、調査結果の共有と検討を行う。これらにより、調査の実施に関わる実践的な知識・技術を、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて習得する。	共同
		受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら歴史民俗学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年
		春学期の進捗をふまえ、各自、歴史民俗学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
		受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら歴史民俗学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年
		春学期の進捗をふまえ、各自、現代民俗学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら現代民俗学を中心とした研究テーマを決める。3年次のは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
歴史文化学科専攻科目	民俗学コース科目	現代民俗学演習 2	春学期の進捗をふまえ、各自、現代民俗学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のものは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のものは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年
		現代民俗学演習 3	受講生が各自の関心のもと、教員と相談しながら現代民俗学を中心とした研究テーマを決める。3年次のものは、関心のあるテーマに関する論文を教員と相談のうえで選び、研究法・研究の現状を把握することを目指す。4年次のものは、卒業論文作成に向けて各自のテーマに関する研究史をまとめ、論点の抽出と研究の方向性、方法論の検討をおこない、卒業論文の構成案を作成する。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。	隔年
		現代民俗学演習 4	春学期の進捗をふまえ、各自、現代民俗学を中心とした研究の進展をはかる。3年次のものは、関心のある分野について、主要な論文の熟読を通じて特定のテーマに関する研究動向の把握、主たる論点の理解を目指す。4年次のものは、卒業論文の完成に向け、教員の指導のもと、収集した資料の分析、考察をおこなう。いずれの受講者も交替で研究発表、ディスカッションをおこなう。また、論文の作成に関し、参考文献一覧や注の書き方、図表の作成など具体的な技術を身につける。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
天理 教学 部門	伝道実習 1	天理教の信仰に関する講演会、教会本部や大学構内でのひのきしん活動などを通じて他者へ貢献することの意義を学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふべく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に主体的に貢献できる人間になることを目的とする。具体的には、大学行事である「おつとめまなび」への参加、毎月1回のひのきしん活動への参加、「信仰フォーラム講演会」への出席とそれぞれに関する感想文ないし報告書を提出する。	
	伝道実習 2	天理教の信仰に関する講演会、天理教教会本部における「お節会」のひのきしんなどを通じて人とつながり、人につくすよるこびを学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふべく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に貢献できる人間になることを目的とする。「おつとめまなび」に参加し、講話についての感想文を提出する。また、教会本部お節会のひのきしんや「信仰フォーラム講演会」に出席し、その感想文を提出する。	
	伝道実習 3	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の「祭儀式」における所作と重要な祭儀である「つとめ」の「おてふり」について、実習を通して学ぶ。それぞれ、教会本部より講師を招き、直接指導を受ける。それぞれの授業の最終日に、天理教の祭儀に関する基礎的な知識と所作、「つとめ」の手ぶりについて筆記・実技の試験を行ない、習熟を促す。	
	伝道実習 4	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の重要な祭儀である「つとめ」において使用する「鳴物」について、実習を通して学ぶ。教会本部より講師を招き、いくつかのグループに分かれて直接指導を受ける。最終の2回は、全体で九つの鳴物をあわせる総合練習を行い、鳴物の基礎的な知識と奏法だけでなく、それぞれの鳴物が合わせあって勤めるというつとめの心構えを学ぶ。	
資格 科目	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か?」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力(話す・聞く・書く・読む)の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞(名詞、動詞、い形容詞、な形容詞)の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態(ます形、辞書形、て形、た形、ない形など)のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類)をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	
人文 科学 部門	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か?」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力(話す・聞く・書く・読む)の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞(名詞、動詞、い形容詞、な形容詞)の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態(ます形、辞書形、て形、た形、ない形など)のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類)をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 人文科学部門	日本語文法論 2	「日本語文法論 1」の内容をもとに、主に日本語教育の初級段階で導入される重要な文法事項について考える。「ハとガ」「授受の表現（あげる・くれる・もらう）」「ヴォイス（受身・使役）」「動詞の自他」「テンス」「敬語」などを取りあげ、日本語学習者が難しいと感じる点、学習者の誤用が現れやすい点などを、諸言語との対照もまじえながら、わかりやすく説明するにはどうすればよいかについても考える。学生の積極的な意見交換が求められる。	
	日本語音声学	日本語の発音・アクセントの特徴とそれを教えるための留意点を整理したうえで、他言語を母語とする学習者が日本語の音声を学ぶ際に誤りやすい点について考える。具体的には、日本語の音声の調音点・調音法、日本語の高低アクセントの実態、日本語の母音の無声化の現象などの理解をもとに、とすれば「お国ことば」が混じりやすい主に関西出身の学生の日本語の発音を、日本語教師として通用するようなよりスタンダードなものに変えることを目指す。	
	言語の対照研究	日本語教育において、学習者の困難点を予測し、誤りの原因を推測し、適切な教材・カリキュラムを作るには、学習者の母語と日本語との比較・対照が必要である。それらを研究対象とする対照言語学について学ぶ。この授業ではまず、日本語と英語の文法的な相違を概観したうえで、中国語圏日本語学習者が誤りやすい文法事項現象について解説する。そのうえで、履修者が学習する外国語の知識も生かしながら、諸言語と日本語の対照も行う。	
	日本語教授法 1	現在国内外の日本語教育現場では、どのような学生が、どのような機関で、どのように学んでいるのかを理解する。日本語教師の資質、教員の検定試験についても概説する。次に、指定教科書を使って、学習項目のたて方、練習方法、教具や教室活動などを分析し、実際の授業がイメージできるようにする。授業前半では、国際交流基金の調査をもとに、世界の日本語教育の実態についての発表を行う。後半は数種の日本語教材の内容を精査し、効果的な授業の進め方について考える。	
	日本語教授法 2	履修者が日本語の授業を担当するために必要な知識やスキルを身につける。まず、いろいろな外国語教授法について学び、それぞれの長所・短所について議論しながら、実際の授業に応用できないか考える。次に、それらの教授法を用いて、模擬授業を行ってみる。履修生に「日本語を日本語で教える」ことの難しさ・奥深さを感じてもらおうことが狙いである。この授業は、4年次で取り組む日本語教育実習に向けた準備段階と位置づけられる。	
	第二言語習得論	「外国語がどのように習得されるか」にかかわる普遍的なプロセスを多角的に学ぶ。例えば、「子どもは大人よりも外国語学習が得意か?」「インプットとアウトプットのどちらが大事か?」「大人も子供が母語を学ぶのと同じように学ぶべきか?」などのさまざまな疑問を切り口として、日本語教育に役立つような知見の獲得を目指す。そしてその知見を日本語教育の現場で生かすための実践的な取り組みを、授業で見られる具体的なケースをもとに討論する。	
	日本語指導法	4年次で取り組む「日本語教育実習」にそなえ、教壇に立つ経験を積むことを目指す。『みんなの日本語初級 I』をテキストに、担当の文型を教えるための30分程度の模擬授業を行う。あわせて、授業の教案の書き方についても学ぶ。履修者が担当するのは、「て形」「辞書形」「ない形」「た形」の導入およびその説明、運用のための練習に加え、「～がほしいです」「～たいです」「～がわかります」「～が上手です」などの文型である。	
	日本語教育評価法	実際の教育にあたる者は学習者の表現をどのように評価すればよいのかを考える。また、選択されている教材について、不足部分を検討し、副教材作成に至るまでの教材開発の流れについて知る。日本語教育における評価の実態、コースデザインと教材の関連性、教材開発の手順、ニーズ調査方法と留意点、主教材の分析と評価、分析結果に基づいたコース・デザイン、教材作成の留意点、学習目標とシラバス、などの分析を通して、副教材作りに取り組む。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文科学部門  資格科目  社会科学部門	日本語教育実習	学外の日本語教育機関で一週間ほど、日本語教師の業務を実地に学ぶ。実習先は奈良県内、大阪市内の日本語教育機関が中心で、海外（台湾）の協定校で実習を行うこともある。実習前半は主に授業見学と実習先教員のアシスタントをしながらさまざまな教員の授業スタイルを学び、授業がない時間には教案作成にも取り組む。実習後半には教壇実習として、実際のクラスで30分～60分程度の授業を行う。教壇実習終了後には指導教員からのフィードバックを受ける。	
	図書館情報システム論	今日の図書館における各種の業務・サービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接に結びついている。この授業では図書館の業務・サービスを実施するのに必要な、基礎的な情報技術について、さまざまな実例を通じて理解を深める。特に、(1) コンピュータ技術・ネットワーク技術の基礎的知識を踏まえ、図書館のさまざまな活動を支える「図書館業務システム」の現状を理解すること、(2) 電子上の各種資料の管理・利用に関する注意点を理解すること、を主なねらいとする。	
	情報サービス論	図書館サービスの重要な局面のひとつに、「利用者の情報要求（情報ニーズ）に対し、図書館内外の情報資源をもとに回答する」という情報サービスがある。ここには、「参考図書をもとにした応答」という従来型のレファレンス・サービスだけではなく、インターネットなどの電子的情報源をもとにした応答、図書館からの情報発信、図書館利用教育、といったさまざまな取り組みが含まれる。この授業ではレファレンス・サービスを中心としつつ、さまざまな情報サービスについて解説する。	
	児童・YAサービス論	図書館における児童サービスは、図書館サービスのスタートラインであると共に子どもにとっての読書の入り口となっている。この授業ではサービスの意義と歴史、サービスの持つ特殊性、児童資料の種類と特色、サービスの在り方等に加えて、児童書に触れ、作品を取り上げての具体的な評価、子どもと本をつなぐ方法・技術（読み聞かせ・おはなし会の実演や体験）などを身につける。また児童サービスから一般サービスへの移行段階としてのYAサービスについても、この授業で取り上げる。	
	情報サービス演習 1	この授業では図書館での情報サービスのうち、「利用者からの情報の要求に対し、何らかの根拠たりうる情報・情報源を提示しつつ応答する」という「レファレンスサービス」について、演習を行う。各回において具体的な情報源を解説しつつ、実際の課題を解いてもらう。図書館の「レファレンスサービス」に必要なさまざまな情報源について、調査対象となる事柄ごとに具体例を理解し、使い分けができるようになることを、ねらいとする。	
	情報サービス演習 2	図書館での情報サービスを展開する上で、各種データベースやインターネット上のさまざまな情報源を検索し、また検索結果を評価する技能を身につけることは、利用者の情報要求を満たすために今後ますます必要となる。この授業では、主にインターネット上の無料の情報源について、演習を通じて検索・活用する方法を習得することをねらいとする。言い換えれば、この種の各々の情報源の信頼性を確認しつつ、検索の仕方や活用法を理解し、目的や対象に応じた使い分けができるようになることが、受講者の到達目標となる。	
	図書館情報資源概論	図書館サービスを成り立たせる重要な要素のひとつは、「情報資源」の存在と、それを収集して構築した「コレクション」である。ここでいう「情報資源」は、伝統的な紙媒体の図書・雑誌といった「資料」とどまらず、インターネット上の電子メディアなども含めたものを指す。この授業においては、図書館情報資源の種類と特徴を論じ、また図書館における情報資源の取り扱い、資料選択とその基準、コレクションの構築・保存・評価などについて説明する。	
	情報資源組織論	「情報の組織化」とは、図書館が収集した情報を利用に供するために、利用者の検索の便を考慮し、一定の方式（ルール）に従って、その情報源が有している各種の情報を整理・圧縮し、体系化することをいう。情報組織化の主な技術のうち、一つは情報を客観的に記述し、種々のことがらから検索するための技術である記述目録法、もう一つは情報の内容（主題）を分析・要約・表現するための技術である主題索引法である。本科目では、現行の具体的なルールの解説に加え、より原理的な考え方の理解に主眼を置いて講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 社会科学部門	情報資源組織演習 1	図書館の情報資源についての主題索引法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・主題分析の方法が理解でき、対象資料の主題を明示できる。 ・分類法の構造と使用法が理解でき、説明できる。 ・特定の主題を分類法の記号に置き換えることができる。 ・分類表によって付与された分類記号がどのような主題を表しているかが分かる。 授業内では、日本十進分類法（NDC）の最新版に基づき、その適用規則を解説した上で、演習を行う。	
	情報資源組織演習 2	図書館の情報資源についての記述目録法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・記述対象資料に表示されている情報が書誌要素としてどれに該当するかが分析ができるようになる ・記述対象資料に表示されている情報を加工し、記述目録規則に従って記録することができるようになる。さらに、その情報について、データベースのコーディング規則に従って記録できるようになる。 授業内では、日本目録規則（NCR）およびJapan MARC formatそれぞれにつき、実務での運用に堪える版（バージョン）を取り上げ、適用方法を解説した上で、演習を行う。	
	図書館情報資源特論	図書館が管理・保存しアクセスに供する「情報資源」のうち、学術的な情報資源（学術情報）に焦点を当て、その生産・流通の実態、および図書館としての管理・保存・アクセス等をめぐる課題や取り組みについて解説する。特に、さまざまな領域の研究者がどのような研究活動を行い、その上でどのような成果を発信するか、またその成果の蓄積・共有のために図書館がどのような役割を担うか、さらには電子的環境でこれらがどのような新たな展開を見せているか、といった側面について、理解することを目的とする。	
	図書館情報学特論	日本古典籍資料とは何か、また、さまざまな国の古典籍資料のなかで、日本古典籍資料の各特徴について概観する。更に、図書館における古典籍資料業務の大まかな全体像について、見学や資料を参照しながら理解する。次いで、古典籍資料を実際に取り扱うための基本的な知識・スキルを学び、実際に手にとった取り扱いの基本を習得する。また、日本古典籍資料の組織化についての現状を知り、古典籍の総目録の特徴や利用法を通して、その現状と課題を考える。	
	博物館実習 1	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者とともに、歴史資料・考古資料・民俗資料・美術資料の取扱い方法や展示方法など、歴史系博物館の学芸員として必要な基本的知識と技術を修得する。また、各種の博物館施設を見学し、多様な博物館の実態と課題を学ぶ。これにより、博物館や学芸員の業務の実際を理解し、実践的能力を養い、次の段階の館園実習で十分な成果があげられるよう、実際的な知識・技能・態度見識を身につける。	共同
	博物館実習 2	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者の指導により、博物館の現場で行われている展示作業、資料整理、教育普及事業、資料調査などの学芸業務の一部を補助すると共に、具体的な実務を体験する。あわせて館内の展示施設やその他の施設・設備の状況を实地に学習する。実施にあたっては、原則として本学の附属博物館である天理大学附属天理参考館を実習館とし、同館の学芸員が指導にあたる。十分な指導が可能なよう適正な受講生数を配分したクラスを設け、それぞれ学芸員が担当し、通年中5日分の実習を集中講義で行う。	共同
	矯正概論	矯正の歴史と理念、矯正の機構と概要、関連法（刑事施設法、少年院法、少年鑑別所法など）の改正経緯と改正主旨、刑事施設の収容状況と受刑者の処遇、少年院及び少年鑑別所の沿革・組織・収容状況・処遇、外部協力者（教誨師・篤志面接委員）の活動について理解を深める。また、刑務官・法務教官・法務技官の職務などについて概説することを通して、概括的な矯正の歴史と現在の制度、及び、矯正に関連する職への理解を深める。	
	更生保護概論	更生保護は、犯罪や非行に陥った人たちの改善更生や再犯防止にとどまらず、犯罪の発生そのものを未然に防止する方策にまで拡大し、更には、心神喪失等の状況で罪を犯した人に対する医療観察制度や、被害者に対する施策なども導入され、警察、検察、裁判、矯正の諸制度とともに、現在刑事政策の重要な一翼を担っている。この授業では、更生保護の沿革を概観し、現行の更生保護制度の仕組み、手続き等、及び、実務経験からの処遇等について講義し、受講者とともに、犯罪や非行に陥った人たちの社会内処遇を考究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学部門	矯正保護教育（施設参観を含む）	刑事司法制度、刑事施設における各種改善指導、少年施設における矯正教育、更生保護制度の概要と課題、関係機関や民間協力者と連携した社会復帰支援、その他（刑務官・法務教官・法務技官・保護観察官）について概説する。この授業では、刑事施設や少年施設における各種教育活動の実情と課題について理解を深め、更に関係機関や民間企業等との連携の実情と課題、「世界一安全な国、日本」を表現するためには何が必要で、国民一人一人が何をなすべきかを正しく理解する。	
	矯正保護支援実践論	（概要）罪を犯す少年たちの心理的及び社会的背景から、その問題点を探ることにより、当事者の気持ちに寄り添った支援が出来るようになるとともに、再犯を防ぐため、将来保護司や教諭師などの公的な立場又は施設職員になり、社会生活への円滑な移行に役立たせるために準備性・計画性を持って、更生保護の支援が出来るようになることを目標に授業を展開する。保護司あるいは児童養護施設職員としての実務経験をもとに、犯罪者や非行少年の更正と社会復帰のための支援実践、また犯罪者や非行少年を抱える家族への支援のあり方と方法、さらには、矯正保護支援活動における問題点や課題などを、実践例をふまえながら理解する。授業は、オムニバス形式で行う。 （オムニバス方式/全15回） （103 高橋秀紀/6回） 保護司としての実務経験をふまえ、更生保護活動の具体的内容と意義、矯正保護施設の現況と課題、性犯罪対象者の再犯事例などを内容として講義する。 （106 山本道次/9回） 施護員の实務経験をふまえて、主な事例とその背景、児童虐待の現状と課題、家庭環境に問題を抱える事例、更生保護活動の実践例などを講義する。	オムニバス方式
	犯罪被害者支援論	捜査・刑事裁判などの刑事手続の流れや基本原則、法律の内容、これまで犯罪被害者が置かれてきた状況、犯罪被害者支援のための制度等についての知識や奈良を中心に犯罪被害者支援に関わる機関の取り組み等について、長年弁護士の立場から犯罪被害者救済の実務を担ってきた授業担当者からその実状を講義し、必要な知識を身につける。 弁護士として日頃裁判実務に関わり、現場で犯罪被害者を支援している経験から、支援の実際についても講義する。	
資格科目	教職論	我が国における教育の動向を踏まえながら、講義やグループでのワークショップを通して、今日の学校教育や教職の社会的意義や役割について理解する。事例や法令等の規程をもとに「教職の意義や教員の役割」について考察し、「教員の職務内容」や「服務や義務」について学ぶとともに、現代の学校教育の課題について知り、課題解決に向かって考え、行動できる素地を培う。「チーム学校」の一員として活躍できる資質や能力について考察する。	
教職に関する専門教育科目	教育原理	私たちの教育言説のもとになっている思想・概念・用語について、基本的な知識を身につける。また、資料・教材を具体的に提示し、それに即しながら「教育とは何か」という問いについて考察を深める。こうした作業を通して、現代の学校教育に関するさまざまな状況・問題を学び、その歴史的経緯について考えとともに、現代の教育に関して問題を発見する力、およびその問題を論理的に考える力、自分の考察・主張を他者に表現する力を身につける。	
	教育史	「教育」という営みは、歴史的・社会的な流れの中でどのように変遷・変容していったのか。時代ごとに教育の歴史的な流れを概観することを通して、教育史に関する基本的な知識を身につける。その上で、「資料」の解釈・評価・批判的検討を通して、受講生自身が「考える」（自らの主張・認識・価値観を論理的で具体的な文章として表現する）という練習を積むことを通して、「教育」を「歴史的に考える」ことの意味・意義について、自分なりの考えを深める。	
	教育課程論	教育課程論は、教員免許状を取得するための必修科目であり、教育課程の役割や意義、我が国の学校における教育課程の変遷(明治以前から昭和初期までの学校教育課程)ならびに学習指導要領の変遷について理解し、教育課程編成の基本原則について学ぶことを目標にする。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントしていく、カリキュラム・マネジメントの重要性や意義についても考察を深められるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する専門教育科目 資格科目	学校教育心理学	学校教育に必要な心理学の知見について、「発達」「学習」「やる気」「知能と創造性」「人格（個性）」「適応」「障がい」「コミュニケーション」などのテーマに分けて講義を行う。「発達」については諸理論の概説を行いながら、人の心理的発達についての理解を深め、「学習」においては人に備わっている学びや記憶の仕組みを理解する。また「やる気・意欲」の引き出し方、「知能・創造性」の仕組みと発揮のための援助の仕方について解説し、生徒の「人格（個性）」に対する教育的かかわりについて、「適応」や「障がい」「コミュニケーション」の視点を加味しながら、心をもって生きている存在としての生徒を総合的にとらえていくことができるようになることを目指す。	
	学校教育社会学	教師の長時間労働、「いじめ」や学校の安全など、現代の教育現場では多様な問題が生じている。こうした学校教育をめぐる様々な問題を複眼的視点（制度的・社会的・経営的視点）から考えることができるようになるために、学校や子どもたちの生活をめぐる問題を具体的に理解し、現状の対応策や今後の課題について知識・理解を深める。また、今後のより良い教育・学校とはどのようなべきか、自らの考えをまとめることを通じて、現代的課題に対応しうる力を身につける。	
	道徳の理論及び指導法	国内外における道徳教育の理論やそれをめぐる歴史的経緯等の理論的側面と、学校における道徳科の学習指導案の作成方法等の実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な力を身につけることを目指す。 道徳教育について、「道徳」とは何か、何が「道徳教育」なのかという根本的な問いにまで遡りながら学ぶ。 道徳教育の基礎・基本、道徳教育の歴史、道徳教育の現状と課題について順に理解を深めていき、最終的には道徳教育の授業の実践が可能となるような授業展開とする。	
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	教育方法学では、教育方法の基礎理論と実践を理解し、これからの時代に重要となる、主体的・対話的で深い学びの実現のための教育方法の在り方を理解できることを目標にする。そのために、教育の目的に応じた授業を行なう上で必要ないろいろな教育技術について知り、授業設計とその実践の方法について学んでいく。中でも、情報通信技術（ICT）を活用した教育の理論と方法については、具体的なツールやソフトを使用しながら、実際に授業で実践できるように、使い方や活用の仕方をパソコン教室で実際に学んでいく。	
	教育相談の理論及び方法	教育相談について、今日教育現場での需要が高まっているカウンセリングの理論と技術を紹介しながら、一人一人の生徒の悩みや困難に寄り添い、応えていくための実践的な知識についての講義を行う。不登校やいじめ、非行、思春期の精神的な失調に対する対応の仕方についても解説を行い、グループディスカッションなども取り入れながら、生徒とのかかわり方が身につく授業を工夫する。また、生徒のリアルに触れられるように、思春期の心模様を描いた映像資料も多く取り入れながら、実際に生徒とのかかわりに役に立つ学びを提供する。	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めいくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
	教育実習講義	教育実習に臨む前の3回生時に開講する授業である。授業では、まず、教育実習における心構えや必要な準備、学習指導案の書き方などについて、テキストをもとに具体的に学んでいく。次に、開講の各クラスにおいて、現場の中学・高校の現役教員を外部講師として招いて、実際の授業のノウハウについて、詳しく教授を受ける。そして最後に、ICTの活用なども取り入れた実際の教育実習における授業について、模擬授業を行い、教育実習に対する実践的な準備を行う。	
	介護等体験	中学校教員免許取得のための科目であり、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験に参加し、多様な人の生き方に触れることを通じて、教師としての人間理解の枠組みを広げ、様々な生きる課題や困難を抱えた人とともに成長していけるための素養を培うことを目指す。テキストを用いながら、「人とのかかわり」「尊厳とは？」「介護とは？」「施設とは？」などの内容について、計4回の事前指導を行い、活動後には課題レポートに取り組むことにより、体験を教職の実践に生かせるように工夫する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職実践演習（中・高）	教職実践演習では、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、教職をスタートするにあたって、必要な資質能力、知識や技能について身に付け、教員としての実践力を総合的に高めることを目指す。 授業においては、テキストを用いながら教職課程におけるこれまでの学びを総合的に振り返りつつ、小学校現場でのフィールドワーク、テーマやトピックに応じたグループワークやプレゼンテーションなど、演習形式で授業を展開する。	
	教育実習 1	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2~3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。（本学では高校教員免許取得のみを目指す学生は、教育実習 1 のみの登録で可としている）	
	教育実習 2	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2~3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。（本学では中学校教員免許の取得を目指す学生は、教育実習 1 と合わせて教育実習 2 も登録することとしている）	
	人権教育論 1	豊かな人権意識を持った教員の育成のために、まず、公教育の原理や社会的役割について学ぶ。次いで学校教員として理解しておく必要のある多様な人権課題について学び、人権尊重の意識を高める教育はどのように可能となるのかについて考察を進める。具体的には、さまざまな差別の問題や在日外国人の人権問題、男女平等の問題や性的少数者の問題、こどもの貧困の問題などについて学び、このような問題を解決していくためには、どのような人権教育の展開が可能で必要なかということについて学んでいく。	
	人権教育論 2	人権課題を教材として、どのような授業が可能となるか、グループに分かれて実践的な指導案の作成をおこない、相互に批判し議論しながら授業力を高めていくことを目指す。そのために最初に授業の作り方の基礎を学び、最後にまとめとして多様な人権課題に対応できる教育のあり方について認識を深める。本授業で扱うテーマとしては、「健常とは？障害とは？」 「性をめぐる課題」 「民族と文化の多様性をめぐる課題」などを設定して、具体的に授業展開ができる力を養っていく。	
	特別な支援の必要な生徒の理解	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標に授業を行う。	
	学校教育支援	教師としての実践力を養うために、教育実習のほかに、実際の学校現場に赴いて、ボランティアとして教育支援に携わる科目である。主に大学と提携を結んでいる市町村の幼・小・中学校に学校支援ボランティアとして出向き、教員の指導の下に、学習支援補助、部活動補助、行事活動補助、部活動補助などを行うことによって、実際の児童・生徒とのかかわり方を体験的に学ぶ授業である。本授業は、事前指導、中間報告会、最終報告会などを実施して、学生相互の学び合い、教員を目指す者同士の連帯感を感じてもらえる機会を提供することも目指す。	
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	特別活動に関しては、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という三つの視点を中心に、指導に必要な知識・素養を身につけ、また、総合的な学習の時間に関しては、実社会・実生活における諸課題を探究する学びを実現するために必要な、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。講義では、課題の見つけ方、自分の問題・関心のありか、問いの立て方を、ウェビングやワークショップを通して、探究の技法を習得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	教育史特論	教育について幅広い視野から考えるための具体的な題材として「教育」をめぐる「論争」の「歴史」について取り上げる。それぞれの時代状況のなかでどのような課題が議論・論争され、その結果として教育・学校がどのように変遷・展開されてきたのか。近現代日本の教育をめぐる「論争」にかかわる基本的な知識を深める。その上で、自分自身はその教育論争について何を感じるのか、それをどのように考えるのか、授業資料を自分なりに「解釈する」ことを通じて歴史的な思考・認識を深める。	
		臨床教育学特論	臨床教育学とは、教育現場が抱える様々な課題（いじめ・不登校・教師・子ども関係等）に対して、教育哲学、教育人間学、臨床心理学等の複数の領域にまたがる学際的な方法を構想・実践することによって応えようとする学問領域である。 臨床教育学という新しい学問領域の成立が求められた1980年代後半の時代背景をふり返るとともに、それ以降約30年を経た現代において何がテーマとなり、臨床教育学はそれにどのようにどのような方法で応えようとしているのか、最新の議論までを含めて概説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理教概説1	「宗教」についての基礎的な理解を踏まえたうえで、天理教の思想や実践について概説し、それらがいかなる教えや歴史的経緯に由来するものなのか、あるいはそれらが何を指そうとしているのかについて説明する。具体的には、主に『稿本天理教教祖伝』をテキストとして、教祖中山みきの生涯と教えについて学んでいく。天理教についての知識や体験がほとんどない学生の受講を前提として、教祖の生涯や教えに親しんでもらうことを目標とする。	
		天理教概説2	天理教についての知識や体験がほとんどない学生が受講するという前提で、天理教の成り立ちや基本的な教理などを中心に学び、それを自分の言葉で簡潔に説明できることを目指す。秋学期では、春期で学習した内容を踏まえ、天理教の歴史やそのさまざまな活動内容について、より詳しく学んでいく。特に『天理教教典』を主なテキストとしながら、天理教の教義（教祖、神、救済、人間etc.）の内容、及びその多様な信仰実践のあり方について学ぶ。	
		天理教学1	天理教学と天理教原典の連関についての基礎的な理解を踏まえたうえで、教祖の教えがいかなる歴史的経緯の中で「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」という原典として成立したのかについて学ぶ。さらにそれら原典と「こふき話」との関係性についても解説する。また、『天理教教典』や『稿本天理教教祖伝』の成立、及びそれらと原典との関係性や位置づけの違いについても学ぶことによって、天理教信仰における原典の重要性を認識する。	
		天理教学2	天理教学1で学んだ原典成立の歴史的経緯について改めて触れたうえで、それぞれの原典の内容について解説する。また、そうした原典の中で説かれる教祖の基本的な教え（八つのほこり、十柱の神名による守護の説き分け、ほこり）についての理解を深め、またそれら先人の信仰者たちがいかに自らの生活において実践していたかについて解説する。それによって、教祖の教えを実践することの今日的な意義について、具体的に理解することを目指す。	
		建学の精神と天理大学のあゆみ	天理大学の「建学の精神」に込められた意味を理解し、その精神を身につけ、国際社会および地域社会に貢献できるようになることを目指し、天理大学の「建学の精神」に込められた意味を、本学の創設者、中山正善天理教二代真柱の理念・思想を通して理解する。また、天理大学の歴史的な歩みを辿ったうえで、天理図書館や天理参考館といった文化施設、及び「天理スポーツ」の理念や歴史についても、創設者の人物像や理念を通して理解する。	
		英語1	大学で学修するために必要な基盤となる英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎力を養成する。「聞く」「話す」では、特に、簡単な内容の会話を理解し、それに対応できる力、「読む」「書く」では、単文レベルの英文の構造を理解し、書くことができる力、簡単な英文の内容を理解できる力を重視して養成する。プレゼンテーションやペアワークなど、具体的、かつ、実践的なアクティビティも含めて豊かで確かな英語の基礎力を確立する。	
		英語2	英語1で培った基礎力を土台に、大学で学修するために必要な英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎固めをする。この4つの領域について「英語1」よりもやや難度の高い英文を読み、その内容を把握し、自分のことばでまとめる力を育成する。さらに、人の意見を聞き、複数の文を使って自分の意見を英語で伝える力を養成する。ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションなど、より多くのアクティビティを通じて英語をツールとして使用することに慣れ親しむ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 天理スピリット科目群	韓国・朝鮮語 1	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。順序としては、文字と発音を修得した後、基礎的な文法事項・構文・語彙の修得を進める。この科目でまず重要なことは朝鮮半島で使用されている文字「ハングル」を正確に読んで発音できるようにすることである。これがまず第一段階の学習となる。次に体言文を習得する段階に入るが、同時に各種音韻変化を学ぶことで、正確な発音を身に付けさせる。基本となる助詞、位置・存在表現等を修得、さらに用言文を上称・略待上称の形で使えるように指導することがその次の目標となる。使用頻度が高く、ごく基本的とされる接続語尾についても学び、表現の幅を広げるようにする。	
	韓国・朝鮮語 2	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。基礎的な文法事項・構文・語彙の修得に努めつつ、初歩的な言語運用能力の育成を目指すことが目標となる。韓国・朝鮮語 1 で学習した存在表現、上称・略待上称形をさらに練習して、変則用言といわれる単語を個別に分類する作業を通して、変則用言をきちんと使いこなす訓練を行う。数字表現、許可表現、可能表現なども学ぶことにより表現の幅を広げるようにする。語学力を向上させるうえで、語彙の習得も欠かせない要素の一つである。日本語同様、漢字語彙が7割を超す韓国・朝鮮語でもその利点を生かし、語彙力を養い、韓国・朝鮮語の理解の土台を築くようにする。	
	中国語 1	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。具体的には、「ピンイン」と呼ばれるローマ字の発音表記を体系的に学び、中国語の日常会話レベルの文について、ピンインを見ながら標準的な発音で漢字で書かれた単語やセンテンスを音読したり、パソコンやスマホでローマ字入力・漢字変換する訓練を行う。	
	中国語 2	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。「中国語 1」で学んだピンインによる音読や入力の基礎を固めながら、それぞれの会話場面において自分に関係する事柄を、すでに学んだ語彙や表現を用いて相手に伝える訓練を行う。	
	教養アカデミック英語 1	この科目では「英語 1」と「英語 2」で培った英語の基礎力を土台に、英文を「書く」ことに重点を置く。自分の伝えたいことが伝えられる英文を書くために、「書く」という点から基本的な英文法のおさらいをする。さらに、音読練習や口頭作文練習、和訳など様々な活動を通じて「書くための英文法」を定着させる。単文だけでなく、複文や重文など一文レベルの文がある程度正しく書けるようになった段階で、隣接する文同士のつながりについて学習し、パラグラフライティングができるようになるための素地を固める。	
	教養アカデミック英語 2	この科目では「教養アカデミック英語 1」で培った「書く力」を土台にまとまりのある内容を持った英語の文章（1パラグラフ）が書ける力を養成する。パラグラフの構造やパラグラフの種類について学び、自分が書きたい内容に合わせて適切なパラグラフのタイプを選択し、読み手に論理的に分かりやすい構成の英文が書けるようになることを目指す。さらに、トピックに合わせた簡単な英語のプレゼンテーションを行うことにより英語による発信力を高める。	
	実践アカデミック英語 1	この科目は「アカデミック英語 2」を履修するための科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された文字数（日本語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行い、多くの英文を読んでその内容を日本語で要約する練習を行う。英語で読み、日本語で要約することにより、英文読解力だけでなく、読み手に分かりやすい日本語で文章を書く力も養成する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	実践アカデミック英語2	この科目は「アカデミック英語1」の応用科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された単語数（英語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行う。英語の文章構成についてもトピックを維持する方法や隣接する文同士のつながりのよくする方法について学ぶ。多くの英文を読んでその内容を英語で要約することにより、実用英語技能検定（英検）やTOEFLなどの資格試験にも十分に対応できる力を養成する。	
		アカデミック英語上級	この科目は大学を卒業し、社会人になったときに必要とされる力を育むことを目指した科目であり、「プロジェクト型言語学習 (Project-based Language Learning)」の形式を採る。ポスター発表や口頭発表、テレビ番組制作など様々なアクティビティについて、チームで協力し、企画から発表までの一連の作業を行うことにより、企画力や協働性、情報収集力、情報を整理し、まとめる力、発信力などを養成する。	
		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、韓国・朝鮮語圏の文化や社会について学び、あわせて韓国・朝鮮語の基礎を学習しながら、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。文化的な理解と言語の理解はあかかも車輪の両輪のように対象となる国の理解を大きく進展させる意味を有している。人々が朝鮮半島の地でどのように暮らし、どのような文化を育み、歴史・社会の中で何が起きてきたのか、これらを知るとともに、最低でも文字を読み、入門レベルではあるが語学の基礎にも接してみることで、この地に生きる人々の感性や考え方の根底に一步でも近づいてみることをしたい。	
		多文化理解と言語（中国語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。また現在、中国・台湾・香港・シンガポールなどのいわゆる中国語圏から日本に来て中長期滞在している人は日本の在留外国人総数の約3分の1を占めており、彼らが日本社会で私たちと共に幸せに暮らしていける社会を構築するには、まず私たちが彼らの言葉と文化を理解する必要がある。さらには彼らが独自の文化を有するがゆえに受け入れがたい日本特有の習慣についても知っておくことが望まれる。本科目では、広く中国語圏で通用する標準的な中国語の基礎を学習しながら、中国語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（英語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。英語は、イギリスの歴史的な歩みの影響によって、現在世界で最も広く用いられる言語の一つとなっている。しかし、世界の様々な地域で用いられている英語は全く同一のものではなく、当然ながら英語が用いられている地域の社会や文化も一様ではない。本科目では、英語に対する基礎的な理解を通して、英語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（タイ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。東南アジアのタイに目を向けてみると、日タイ両国は政治、経済、文化等幅広い面で緊密かつ重層的な関係を築いており、人的交流が極めて活発である。タイの人々は日本に強い関心を持っており、さまざまなメディアやイベントをとおして、日本の情報に日々接することができる。日タイが今まで以上に緊密なパートナーシップを構築するためには、私たちがタイの言葉や文化を知り、相互理解を促進することが必要である。本科目では、タイ語の基礎を学習しながら、タイの文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（インドネシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。インドネシア共和国は多民族国家であり、2億7千万人を超える国民は、異なる言語を母語とする民族集団からなる。インドネシア共和国の成立以後、公用語として定められたインドネシア語を母語とする人々は徐々に増加しているものの、多くの国民にとってインドネシア語は母語の次に覚える第二言語である。本科目では、インドネシア語の基礎を学習しながら、インドネシア語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 天理スピリット科目群	多文化理解と言語（ドイツ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。日本では「日本人とドイツ人は似ている」と言われることも多いが、当然のことながら日本とドイツの国民性には相違点も多い。特に、日本人は場の空気や感情を重んじるのに対して、ドイツ人は合理性や論理性を重んじるという点に着目すると、両者の隔たりの大きさが感じ取れる。ドイツ人の論理性を重んじる傾向は、ドイツ語の特徴とも関連している。本科目では、ドイツ語の基礎を学習してドイツ語への理解を深めながら、ドイツ的思考法がドイツの社会や文化にどう影響しているかを考察する。日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（フランス語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、フランス語の基礎を学習しながら、フランス語圏の文化や社会について学ぶ。特に、歴史的な関係からアフリカからの移民を多く抱えるフランス社会の諸問題を取り上げ、宗教や言語、価値観など、異なる文化が接触することによって引き起こされるさまざまな事例を見ていくことによって、多文化共生社会のあり方を考察し、その実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ロシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ロシア語の基礎を学習しながら、旧ソ連諸国をはじめとする世界に広がるロシア語圏の文化や社会について学ぶ。ロシア語が用いられている国や地域での多様性に触れ、共通点や相違点、また問題点について考える。本科目では、ロシア語の基礎を学習してロシア語への理解を深めながら、日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（スペイン語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、スペイン語の基礎を学習しながら、スペイン語圏の多様な文化や社会について学ぶ。スペイン語はスペインとラテンアメリカなどの20以上の国や地域で話され、米国でも話者数が飛躍的に増加している国際性豊かな言語である。また日本国内においても、スペイン語圏出身者は約8万人にのぼる。日本との長い交流の歴史や現在も続く緊密な社会経済関係について理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ポルトガル語の基礎を学習しながら、ポルトガル語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。具体的には、ポルトガル語の読み方や基本的なあいさつなどを学びながら、ブラジルがどのような国であるかを知り、それを通して日本に在住するブラジル人に視野を広げる。本科目の主要な目標は2つある。1. ブラジルがどのような社会や文化を有する国なのかを知る。それを通して、異文化理解への視座を学ぶ。2. 在日ブラジル人の歴史や現状を知る。それを通して、日本における多文化共生について考察する。	
	多文化理解と言語（日本語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では留学生を対象にして、日本語及び、アイヌ語、琉球諸語（琉球諸方言）など、比較対象となる諸言語・諸方言に対する基礎的な理解を通して、日本語が話されている諸地域の文化や社会について学ぶ。そして「日本」や「日本人」を相対化することによって、より大きな視野から日本列島を考え、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	日本事情 1	留学生を対象にして日本の祭礼について概説する。最初に、儀礼・祭礼についての文化人類学・民俗学の概念・分類について紹介する。次に日本政府の祭礼に対する文化政策（「無形文化財」、「無形文化遺産」、「日本遺産（Japan Heritage）」など）について紹介する。そして、「日本三大祭り」ともいわれる「神田祭」（東京都）、「祇園祭」（京都市）、「天神祭」（大阪市）など、日本各地の著名な祭礼を具体的に取りあげて紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	日本事情 2	留学生を対象にして日本の産業について概説する。最初に、地理学・経済学・社会学などの知見に抛りながら、戦後の産業構造の変化について紹介する。次に伝統産業保護政策として日本政府が「伝統的工芸品」に指定している産品を、「高山茶釜」（奈良県）など、具体的にいくつか取りあげて紹介する。そして「まちづくり」、「農工商連携」、「外国人材の受け入れ」など、現在の日本の産業が抱える重要課題を具体的に取りあげて紹介する。	
		健康スポーツ科学 1	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		健康スポーツ科学 2	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		国際社会におけるスポーツの役割	スポーツには、国籍や人種、言語や文化が違っても一緒に活動し、協力し、競い合うことで共感が生まれ、楽しさや友情を深める力を有する。現代社会では、スポーツを通じた国際交流がなくてはならない存在であり、「多様性の尊重」や「持続可能な社会の実現」にも欠かせない。本授業では、スポーツの国際展開について古代から現代までのオリンピックの歴史と諸問題を学び、国際親善や世界平和に果たすスポーツの意義や役割を理解する。	
		保健医療の仕組みと健康づくり	急激な少子高齢化や医療技術の進歩など、保健医療を取り巻く環境が大きく変わるなかで、厚生労働省は2035年に向けて、人々が自ら健康の維持・増進に主体的に関与し、デザインでき、ひとりひとりが主役となれる健やかな社会、健康先進国を目指している。この授業では、現在の保健医療の仕組みと、地域で暮らす人々がその仕組みをどのように活用するのかを学ぶ。さらに自分自身と周囲の人々がその仕組みを活用して主体的に健康づくりに取り組むための基礎力を養う。	
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる入門編	身近な環境問題に目を向け、それを自分事としてとらえることは、これからの社会を生きていくために重要なものである。環境や林業や里山が抱える課題、過疎化した地域の課題、衰退していく街の課題について、その課題に取り組む人々との交流を通じて、SDGsとは具体的に何を目標として行動すべきかを学ぶ。林業や農業についてのアプローチの手立てについては、現地に赴き実習を含めた講習を行う。さらに、その有効な活用方法ならびに技術面の指導を実習を通じて習得する。	共同
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる実践編	ローカリーアクト天理SDGs森に生きる入門編に引き続き、奈良県内外、主として天理市内での林業体験及び里山整備、耕作放棄地などでの実習を行う。過疎化する地域の課題を現地の方との話し合いを通じて理解し、何が出来るか？を考える「場」を持つ。持続可能な開発目標(SDGs)や持続可能な開発のための教育(ESD)を目的とした実習を行う。その際、学生が自ら考えて行動する問題解決型学習(PBL)を採用し、さまざまな課題を自分事としてとらえられるようにする。	共同
		国際協力入門	「貧困」を解消することが「開発Development」という行為である。近年注目されている「SDGs(持続可能な開発目標)」の「D」は「開発Development」を指しており、同じく貧困削減のための取り組みを指している。この授業では「経済開発」「社会開発」「人間開発」「参加型開発」「持続可能な開発(SDGs)」などの開発理論を講義形式で理解し、開発プロジェクトの計画・立案について、グループ・ワークで体験的に学ぶ。開発援助とは「人を助ける」行為であるため、「人を助ける」哲学・価値観について学ぶことを基本学習とする。定期試験期間に期末テストを実施する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	国際協力実習	この実習では「国際参加プロジェクト」の現地ボランティア活動を行う。本実習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。以上の点に注意し、授業登録を希望する学生は、必ず国際交流センター室の担当者に問い合わせること。新型コロナウイルス感染症の影響により、現地活動が実施できない場合は、上記の通りではなく、授業方法や成績評価方法について変更を余儀なくされることがある。変更する際は、授業等を通じて受講者に周知する。	
		国際協力演習 1	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）から帰国後の事後研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。事後研修の主な活動内容は、現地での活動経験に基づくレポート、活動報告の作成と編集、動画・写真データを使用した活動報告用の映像資料の作成である。また、学内外で開催する帰国報告会、地域教育機関と連携した国際交流授業の開催など、地域連携・社会貢献を目的とした諸活動の実践を含む。	
		国際協力演習 2	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）に向けての事前研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。活動準備の内容は、現地での活動内容に基づき決定される。現地小学校での教育支援活動であれば、現地学校での授業準備が事前研修となる。現地高等教育機関との交流活動では日本文化紹介などのプレゼンテーションの準備を行う。講義で授業を行う一方、現地ボランティア活動の具体的な準備活動が主な授業内容となる。	
		国際ボランティア論	人はなぜ、何のためにボランティアをするのか、ボランティアという行為はどのような意味をもつのかを理解できるようになる。また、国際協力の視点からボランティア活動を捉え、世界の貧困や格差を解消するための国際ボランティアの取り組みを理解し、実践することができるようになる。ボランティアという行為について学術的な視点から説明ができるようになり、世界の貧困や格差の問題に対して、自らの問題として捉え、積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を身に付けることができる。	
		天理大学特別講義 1	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度については、NPO法人環境市民ネットワーク天理が主体となる寄付講座「まほろばエコロジー講座」を15回にわたって開講する。天理大学は2012年に奈良県下の大学としては初の「エコキャンパス宣言」を行い、建学の精神に基づいたキャンパスの環境保全を指向するとともに、大学生や市民を対象とした学習講座を開催した。このたび、天理大学の授業として開講する「まほろばエコロジー講座」は、環境問題に関わる各分野の専門家によるレクチャーを15回受けることにより、環境問題の基礎知識を体系的に学ぶことができる。講座後の検定試験で、一定の成績を修めた受講生を対象に、当NPO法人が「まほろば環境市民」に認定される。	
		天理大学特別講義 2	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理大学特別講義 3	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理大学特別講義 4	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理異文化伝道	天理教による海外布教伝道の歴史を振り返り、世界のさまざまな国や地域で展開されている布教の現状を映像などを通して見ていく。また「文化」とは何かを確認した上で、海外伝道を「異文化圏における伝道」という視点で捉え、異なる文化の中で繰り広げられている実際の布教伝道を通じて見られる「異文化接触」に関して考えていく。さらにそこから、貧富の差や言葉の問題、他宗教との関係、グローバル化などをキーワードとして問題提起を行い、これからの異文化伝道の方向性について意見を深めていく。	
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	生き方や働き方を主体的に考え、キャリアを設計することができるようになることを目標とし、自己を深く理解し、社会貢献につながる自己実現を目指すための主に次のことを学修する。 ・自分の価値観、強みと弱みを把握し、自己理解を深める。 ・社会に出て必要とされる力（基礎学力、専門学力、リーダーシップやコミュニケーション力）は何かを把握し、それを身につけるための有意義な大学生活の過ごし方を設計する。 キャリアをデザインする上で具体的に仕事の内容や重要な自己を理解したうえで、民間企業や官公庁などで働いている人を講師として迎え、実務上必要とされる能力や仕事のやりがい、キャリア形成についての話を聴く。各業種の内容と必要とされる能力を知り、社会に出てからのキャリアデザインについて考える。また、インターンシップの意義、就職試験で使われているSPI、履歴書の書き方、就職活動の進め方について知る。	
		キャリアデザイン 1	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		キャリアデザイン 2	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		インターンシップ 1	インターンシップ1では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		インターンシップ 2	インターンシップ2では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	キャリア教育科目群	海外インターンシップ1	海外インターンシップ1では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ2	海外インターンシップ2では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	正しい情報を自ら集め、組み立て、展開していく力、さらに自分の考えや情報を正しく相手に伝える力をつけるために、大学や社会で求められる「読む・書く・話す・聞く」能力の獲得をめざし、ノートテイキング（筆記）、スピーチ（発話）、リーディング（読解）、ライティング（作文）という4つの技能について学ぶ。また基礎的なパソコンの操作方法やワープロソフトを使った文書の作成、プレゼンテーション資料作成ソフトを使ったスライド作成等についても学ぶ。	
		基礎ゼミナール2	基礎ゼミナール1の「読む・書く・話す・聞く」の能力の向上、および実際のデータを収集し、分析することを通して、統計的分析の能力を身につけることを目標とする。自らの問題意識から、適切なテーマを設定し、主張したい論点を述べるために必要な実データを収集し、統計手法を用いて分析する。分析結果やグラフなどを整理して自分の考えを発表する。中間発表を行うことで議論を深め、最終的にこれらをまとめた小論文を作成し、発表する。	
		データサイエンス・AI入門	Society5.0時代に活躍するためには、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養が必要である。本科目では、次の3つのことを習得することを目標とした学修を行う。（1）社会におけるデータサイエンスやAIの活用事例を知ることによってこれらの技術についての理解を深める。（2）データを活用する上で留意すべき法制度や倫理などについて理解し、適切なデータの利活用のための知識を得る。（3）データ分析の基礎的な活用方法を身につけ、帰納的推論と演繹的推論の差異、長所短所について理解する。	
		データサイエンス・AI応用	データサイエンス・AI入門に続いて、本科目ではより実践的にデータサイエンス・AIを学修し、基礎力を向上させることを目標とする。社会において多様なデータの蓄積が行われており、そのデータを利活用できる能力が求められている。データ解析・機械学習などに事例を挙げてデータサイエンスやAIについての技術について学修する。データ解析では統計学の利用方法、機械学習を使った分類・クラスタリング・強化学習、さらにAIの発展に貢献しているディープラーニングについて、実例をもとに実際にデータを処理することを通して理解を深める。	
		データリテラシー	情報社会において求められる情報処理能力を身につけることを目標とする。自らの考えを正しく相手に伝えるためには実データを正しく分析した結果を効果的に示すことが重要である。データの収集方法・統計分析・分析結果の解釈方法などを学修し、データに基づいて判断する能力、いわゆるデータリテラシーを身に付ける。EXCELを使って統計分析方法を学修し、分析した結果の統計情報を正しく理解する方法とグラフなどを用いて、効果的にデータの特徴を可視化する方法について具体的に学修する。	
		コンピュータ入門	ビジネス社会において求められるコンピュータやネットワークなどの情報技術に関する基礎的知識、およびパソコンを使った情報活用能力を身につけることを目標とする。情報技術に関しては、コンピュータ・インターネットの仕組み、情報処理技術、情報倫理やセキュリティについての知識を学修する。またパソコンを使い、基本ソフト（Windows）およびアプリケーションソフト（Word、Excel、Powerpointなど）の基本的な操作方法について学修し、実データを使ってデータを整理した上でデータの特徴を効果的に示す能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	基礎リテラシー科目群	情報処理	「プログラミングとは何か」を実際にプログラムを作成することを通して理解する。自分が意図した通りにコンピュータが情報を処理することができるよう試行錯誤していくことを通して、プログラムを完成させることが楽しいと感じ、プログラミングに興味を持つことができることを目標とする。C言語の基本的なルールについて学習し、プログラミングの基礎を理解するとともに、コンピュータが自分の意図した通りに正しく実行するようにしていくプロセスを繰り返し行うことでプログラミング技能を身につける。	
		基礎からわかるレポート作成	レポートや論文の作成技法を修得し、日本語表現能力を高めることができ、現代社会のかかえる様々なテーマについて関心を深めるとともに、自分の意見を形成していく方法を体得することができることを目指し、テキストを用いて作文技法の基礎を習得する。また、各人が設定したテーマについて、資料検索・収集、構想ノート作成に基づいてレポートを執筆し、クラスで口頭発表を行う。資料検索やレポート執筆はパソコンを使用して行い、コンピュータ技能の向上を図る。	
		基礎からわかる近代史	日本現代史の基礎的な知識や流れを学ぶことができることに加え、日本近代社会と現代社会とのつながり・断絶を理解することができるようになることを目指し、幕末・明治維新からアジア・太平洋戦争前後の日本歴史の流れを基礎から学び直す。その際は政治・経済方面だけでなく、軍事・教育・宗教・娯楽など、近代日本社会を構成していた諸要素にもしっかり目配りする。現代社会とのつながりや断絶について考察し、自らの歴史に対する視点を確立する。	
		基礎からわかる現代社会	現代の日本と国際社会における政治・経済・社会の土台をなすシステムについて、また、今日の私たちが直面し、解決を求められている諸課題について、他の全学科目および専攻分野での学修をつうじて知見を深めるうえで、また教養を備えた責任ある市民として、積極的に社会に参加するうえで必要な基礎知識を習得する。講義では、具体的な問題を題材にするなどして、情報をみずから収集し、得られた知識と合わせて分析する力も養う。	
		基礎からわかる数学	数学に関する基礎的な能力の向上をめざす。そのため、小・中・高で学んだ算数、数学のなかで、式の計算、速さ、面積、体積、方程式、不等式、関数、場合の数、順列、組合せ、確率、データの分析などを取り上げ、生活の中にある事例など具体的な問題場面を取り上げるながら、数学への興味・関心を高めながら、演習を通して自ら考え、問題を解決する能力を身につける。その際、SPI等の就職試験でも役立つ内容も視野に入れて授業を展開する。	
	基礎からわかる生物・化学	当該科目は、生物学・化学の基本的な知識や考え方を理解でき、習得できることを目的とする。内容は、生物・化学基礎の理解を改めて確認し、遺伝子と現代医学の潮流、細胞と癌、神経と認知症、エネルギー・代謝と糖尿病、免疫と感染症、血液と白血病など、病気と関連づけて分かりやすく生物学の本質の理解が深まるように講義・演習を行う。さらに、物質・溶液の化学、有機化学、生体を構成する物質などについて、簡単な内容に絞って講義・演習を行う。		
	一般教養教育科目群	生活の中の科学	自分自身の健康に関心を持ち、スポーツの実践や身体を動かすことの大切さの再認識とその実践意欲の高揚化をはかり、学んだ内容を自らの健康の維持、増進に生かしていく能力を養うことをめざし、人間の基本的な条件である健康について、主に運動生理学およびスポーツ医学、栄養学などの諸点から解説する。健康の概念を理解し、生涯にわたって自らの健康の保持増進をはかるためには何が必要であるのかを理解するために、本講義では健康管理に関連のある最新情報を紹介し、現代人にとって必要な健康維持に関する知識を理解する。	
		地球環境論	温暖化や希少生物の絶滅、環境汚染など、現在の地球環境は人類が克服困難な問題で溢れている。これらの問題は、さまざまな要因が複雑にからみあって形成されており、本質を理解するには幅広い視野で多面的に物事を捉える力が必要となる。この授業では、環境問題に対する取り組みについて学び、日本における過去の公害問題やその対策手法・技術から、地球環境と人類との関係について考えていく。環境問題に対する基礎的な素養を習得し、日頃から地球環境にやさしい行動を実践できるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	科学と現代	現代社会を支える科学・技術について、その歴史的発展過程を交えながら基本的な概念や考え方について講義する。講義の前半では、宇宙論と原子論の歴史的な変遷を取り上げる。講義の後半では、青色発光ダイオードやリチウムイオン電池といった身近にある科学・技術のトピックスを題材としてとりあげ、先端科学の知見とその歴史的背景を紹介する。現代社会における科学の意義や役割について自らの生活と関連付けながら考察していく。	
	数学と論理	「論理」は数学に限らず、あらゆる学問で、そして社会の健全な発展のために重要な概念、法則である。この能力を培うことができるのは、数学の知識によってではなく、各自が考えることによるのみ可能である。数学の言葉を記号化することによって、不偏的な数学語（数文）に翻訳することで、言語の異なる人々が、世界共通の「論理」で数学を理解できるようになる。代数的構造の主要な概念である「群」に関して、論理の展開を体験する。	
	統計学 1	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。統計学の初歩的で実践的な知識を身に付けることを目的に、記述統計学（資料の整理、代表値、分散と標準偏差）統計学の基礎（確率、確率分布、二項分布、正規分布）推測統計学（母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母平均の検定など）をExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して取り扱う。	
	統計学 2	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。この授業では、データを分析し、問題の原因を追及することができる能力を身に付けることを目指し、クロス集計や多変量解析などの基礎について具体的なデータをExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して理解する。	
	経営学 1	経営学に関する基本知識を理解、習得すると同時に、企業と産業の現実の動向を知り、特に「サプライチェーン」についての問題関心を養うことを目指して、巨大企業の存立を支える株式会社制度の形成や展開、その現代的な課題について考察していく。現代企業の具体的なあり方は、それぞれの産業における技術と市場、国ごとの条件に規定されて、多様である。ここでは、フレキシビリティの構築をキーワードとして、産業・企業の現実の動向を探っていく。	
	経営学 2	現代企業の環境変化への対応のあり方を探っていく。企業は、生産・流通を含むトータルなシステムとして、市場動向への迅速な対応を営むことが求められている。この授業では、まず事業システムとの関連において、マーケティング分野の基礎を理解する。次に中小企業に注目する。中小企業は巨大企業を軸とする企業システムを根底から支えるのと同時に、ベンチャービジネスとして、あるいは中小企業間での情報、物流ネットワークの形成によって、相対的自立性を備えて存在していることを理解する。	
	地理学 1	グローバル時代とよばれる現代、幅広い世界が舞台となり、多様な地域が強くむすびついてゆくなかで、異文化やその多様性の理解が求められる。この授業では、地球規模でみる自然環境や人間活動の関係を「文化圏とその地理的背景」というテーマでとらえる。具体的にはさまざまな「文化圏」（地域）を対象として、それぞれの文化圏がどのような環境下で成立・発展してきたのかという「地域の法則性」について考察するとともに理解していく。	
	地理学 2	グローバル時代とよばれる現代、「孤立」した都市はない。都市は「みえない糸」で複雑にむすびついている。そのむすびつきは地球規模で全世界に広がっている。また、都市は多くの人々の生活の舞台でもある。この授業では、「都市の地理学」をテーマにおき、都市の実態を日本、奈良県、天理市という地域スケールのちがいをみてゆく。そして、宗教都市である大学所在地の天理という場所をテーマにして、地域研究や地誌的な立場から、大学所在地としての身近な地域の「地理学」を理解する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	日本国憲法	我々の生活に欠かせない法、特に憲法について学び、わが国の基本的な仕組みを説明できること、さらに、そのしくみについて批判的に検討できることを目指し、基礎知識であるわが国の統治機構について学び、憲法について現在問題となっている憲法の総論にあたる部分、すなわち憲法の成り立ち、基本原理、幸福追求権、平等権、表現の自由などの重要なトピックを取り上げる。また、憲法に関する新しい問題が発生したり、重要な憲法に関連する裁判所の判断（判例）が出た場合には、適宜授業の中で取り扱う。	
	法学	我々の社会生活において、法がどのような役割を果たしているのか、またどのように作用しているのか理解し、法学について、基本的な知識を体系的に身に付けるとともに、具体的な裁判例を検討して応用力を養うことができることを目指して、民事法、刑事法について学ぶ。民事法については、実体法である民法を主に取り上げ、財産や家族に関する争いを裁定する法である民法の概要を学び、刑事法については、手続法である刑事訴訟法を主に取り上げ、捜査や裁判の手続き、及びその運用についての問題点などを学び理解する。	
	経済学 1	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになるとともに、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになることを目指す。この授業では歴史を学ぶ前提として地理学の面白さを伝え、そのあと、古代中国のさまざまな発明からイギリス産業革命までをとりあげ、世界経済の発展をたどり理解する。	
	経済学 2	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになる。そして、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになる。この授業ではおもに20世紀と現在の世界経済をたどる。イギリス産業革命の影響からアメリカが独立し電力革命を経て20世紀の経済大国になるまでを理解する。また、中国経済の成長がアメリカ経済とデジタル面でどのような競争関係にあるかもとりあげる。	
	政治学	政治に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、学問的観点から政治と向き合うことができるようになることを目的とし、なぜ民主主義がふさわしい政治体制だとされているのか、民主主義は実際にどのように運用されているのか、政策はどのように作られるのか、といった点に加えて、これまでの政治学そのものに疑問を投げかける視点や国際政治について学ぶなかで、自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指す。	
	社会学	社会学の研究対象となるさまざまな領域について、日本を中心とした現代社会の事例を参照しながら、その代表的な領域に触れることで、社会学の学説史や主要概念とともに、社会的な見方や考え方の基本を習得する。講義では、行政統計やメディアの情報などを積極的に扱うことをつうじて、市民としての見解や行動をかたちづくる上で必要な情報やデータにどのようにアクセスし、それを読み取り、さらには活用していくかについても学修する。	
	民法 1	一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語などについて学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、民法の作用について、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
	民法 2	民法 1 に続いて、一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語等について学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	行政法 1	行政法の概要・基本原理を理解できること、行政法と行政の体系を理解できること、行政および行政法に関する知識を学びそれを身につけることができること、主体的に自立した市民として行政に参画できる能力を身につけることができることを目指し、行政法の基本原理を学んでいく。法学部生以外には、馴染みが薄い行政や行政法とは何かについて、身近な例を取り上げできるだけ理解できるように説明をしていく。そのうえで、法治主義、国や地方の行政とそれを支える公務員制度等を学ぶ。	
	行政法 2	国家補償法の概要に関する知識を得ること、国家賠償法と行政救済との関係について体系的な理解を深めること、行政により市民が被害や損害を受けたとき、どのような法的救済の仕組みがあるのかを理解できること、地方自治とは、どのようなものか深めることができることを目指し、行政法を具体化する行政と市民の権利利益を保護する行政救済法および救済制度を学ぶ。その際、事例（裁判例、判例）を主な素材にして具体的な行政救済法と救済制度を学ぶ。	
	哲学概論 1	古代から近代にかけての西洋哲学について、その概要を原典を読んで学ぶことを通じ、哲学者の考えに直に触れ、議論の論理展開を細かく追うとともに、その作業を通じて取り出された哲学的な問いを自らにひきつけて考察し考える。これらの一連のプロセスを通じて、哲学を学ぶとは、哲学者の名前や学派のキーワードや概要を暗記することではなく、先人の思考を引き受け、いまを生きる一人一人が自分の力で考えようとする営みであることを理解する。	
	哲学概論 2	哲学概論 1 で扱った古代から近代における哲学的問いの展開についての理解を元にしなが、西洋近代哲学について、著名な哲学者の原典（日本語訳）を取り扱う。内容の詳細な検討と理解にもとづき、自ら問いを設定し、それについて考えを記述するという一連のプロセスを何度か繰り返し、哲学という営みを実際に経験することを通して哲学的について理解するとともに、哲学的な見方や考え方を実際に活用できる形で身に付けていくようにする。	
	倫理学 1	倫理学という学問的な切り口から人間の現実をとらえる。とくに欧米の近現代の哲学者の倫理思想を紹介しながら、私たちの人間理解を豊かにしてくれるような、人間知としてより深められた倫理的人間学を探究する。そのために、倫理思想に関するいくつかのトピック（たとえば、重要な概念や思想家、思想潮流など）を説き起こしながら、倫理学の基礎となる人間観、および、哲学・倫理学の諸概念について考察することを通して理解する。	
	倫理学 2	倫理学 1 が倫理学基礎論をテーマとしたのに対して、倫理学 2 は応用倫理学を扱う。倫理学は正に、「人間が行動する筋道」を問う学問である。その守備範囲である、愛・幸福・自由・悪・正義などといったテーマは抽象的で近寄りがたいイメージを与えるが、実は誰にでも取り組める、親しみやすい学問である。応用倫理学の諸分野の中から、生命倫理、愛の倫理、政治倫理、宗教倫理、労働倫理、環境倫理などについて取り上げて検討する。	
	心理学 1	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、前半は「記憶」「知覚」「学習」などの心理学の基礎的な概念について、簡単な実験などを用いて体験的に理解できるよう授業を進め、後半は実際の人の心について、事例の紹介や心理テストの体験など通じて自分自身の心について触れる機会を設ける。	
	心理学 2	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、授業の概要 講義期間の前半と後半で、2つのテーマを取り上げる。前半は「心の発達」、後半は「無意識の世界」に関する内容となる。前半は、生まれてから現在の青年期に至るまでの心の発達の道筋をたどる。後半は、自分でもコントロールできない心の世界「無意識」について、その働きを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	ジェンダー・セクシャリティ	「性」とは何か、性の多様性とはどのようなことか。性的マイノリティとは何をいうのかを課題とし、セクシュアリティの内実を「生」と関連しながら、事例をもって紹介しつつ、現実起こっている「性」と「生」の問題に向き合う。現代の課題のひとつとして、「ジェンダーの視点」「ジェンダー平等」「セクシュアリティ」について、特に、文化や伝統、文化など、私たちの社会の精神的背景となっているものに、ジェンダーという視点を導入することの意義を検証していきたい。また、「男女共同参画社会基本法」や国際連合の世界女性会議を中心とした動向に注目する。	
	近現代の遺産と未来	21世紀の現代社会が抱える人権・差別問題とその解決について、マイノリティの視点から学ぶ。沖縄の歴史を学ぶことを通して、日本の近代化、とくに戦後の高度成長期に資本至上主義の価値形成のもとで深化した労働問題、女性問題、外国人差別、トランスジェンダーをはじめとする様々なマイノリティへの差別・排除という現代日本が抱える課題および冷戦期の政治的暴力が顕在化する社会を相対的に捉え直し、多様で異なる存在を相互に尊重することができる公平で成熟した本来の意味での近代社会を創造していくための視点を養う。	
	宗教と芸能	日本の古代から近世、近代のそれぞれの時代に展開していた、宗教を契機とした文化（芸能）に関して理解し、芸能が地域社会に支えられていることや、地域社会における芸能の特徴、役割、意味について説明することができることを目指す。主に扱う事例は、奈良で古い歴史を持つ春日若宮祭礼である。この祭礼には、雅楽・田楽・猿楽など多くの芸能が付随している。しかも歴史の中で変容しており、この変化を追うことで芸能から時代を投影することができる。このほか、南都の法会、地域の都市祭礼、おかげ参りについても言及する。	
	労働と社会	近年、労働形態の多様化により労働のありかたが変わることで、一国の経済状況のみならず、人々の生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与えている。この授業では、とりわけ19世紀後半から現代にかけての労働と労働に関する思想を中心に読みとくことで、現代社会の日々の日常のなかで労働のありようについて再考する。そのためには、労働そのものについて理解するだけでなく、それが社会の中でどのように機能しているか、そしてその背景を読みとくながら、考察する。	
	障害学	障害には様々な側面（医学モデル、社会モデル、当事者視点等）があり様々な方向から考察していかなければならない。障害について思考することは各個人の生活や人権意識そのものに関わって行くものであり正解のない問いである。授業では障害観の歴史の変遷、医学モデル、社会モデル、障害者を取り巻く多くの事象を学び、学生自身も小中学校で経験してきた特別支援教育を振り返り、当事者視点、多様性について自分事として考えることを通して、共生社会を生きる基礎的な知識を身につけ行動力につながる学びとする。	
	世界の文学 1	世界文学とは世界的な普遍性を持つ文学であることを、作品の精読を通して理解するとともに、自分なりの解釈ができることを目指す。その手段としてその国や地域における固有の文化、思想、哲学について学び、時代精神を理解する。それでもなお残る謎や不可解な部分を掘り下げて追究し、文学作品に通底する人生の不可知について理解するとともに、もって人生についての考察を行うため、具体的な英文学の作品をいくつか取り上げて講義を行う。	
	世界の文学 2	世界文学を理解する手法の一つである比較文学研究を通して、ある国・地域固有の文化、時代精神、哲学がいかに越境し、相互に影響を与えていくかについて学び、世界文学の共通性、普遍性、文学そのものに内在する謎を掘り下げて追求する。テキストそのものを読み込む内在批評と同時に、テキストには書かれていない外在批評について学び、人類に普遍のテーマを知ることで、人生を生きる上での指針を得るため、英文学作品と日本文学作品を取り上げて講義を行う。	
	カルチュラルスタディーズ	カルチュラルスタディーズの方法論と研究調査は、1970-80年代のイギリスで盛んに行われ、1990年代半ばに日本社会に入ってきた。この授業では、カルチュラルスタディーズの核心である「文化と権力の間の関係」が欧米並びにアジアでどう展開しているのかを多様な文化を事例に解説していく。こうした学問の動向をふまえ、本授業では、受講生が各自で文化調査を実施し、多様な文化をとりあげるなかで、カルチュラルスタディーズの現状について学ぶとともに文化的格差の理解を試みる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	宗教と現代社会	社会的存在としての人間にとって、宗教がいかなる意味や役割をもつのかという問いを基本に据え、その問いを、インターネット、災害支援、労働、生命倫理、戦争、スピリチュアリティといった、現代世界における多様な問題との関連という視点から具体的に考える。特に、伝統的な宗教の理解を踏まえながらも、その今日的な変容といった観点から、従来は宗教とは見做されていなかった領域において、「宗教的」な要素を見出せることを学ぶ。	
	人権と差別1	人類の多年にわたる歩みにおいて、宗教（宗教的なもの）は、人びとの精神形成や、人と人が取り結ぶ社会的関係の形成に大きな役割を果たしてきた。宗教は、人と人との関係をより望ましい方向に導いていくという肯定的な働きを果たすとともに、人びとの関係に歪みをもたらすという否定的な働きを示すこともしばしばあった。歴史のなかから宗教と差別の関係を読み解いていくことは、これからの社会を担う私たちにとても大きな意味を持つものだと考えている。この授業では、前近代日本社会の宗教と差別の問題について授業を進める。まず、人権や差別の定義、宗教の定義など基本的概念の確認を行ったうえで、古代から近世までの、部落差別問題を核として宗教と差別の関わりについて考察していく。	
	人権と差別2	これから社会人（教師も含む）になるにあたって、必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決をはかるか、自分で考えることができるようになることを目指し、社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る。事例などを交え、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、コミュニケーション力などが育成できるよう、より実践的な人権学習の方法を学ぶ。	
	日本手話A	聾者の言語である「手話」を学び、人と人との関わり方や「共生社会」構築のうえでどのように自らが寄与するのかを考える。「手話は言語である」の意味を説明できること、自己紹介を手話で表現できること等を目指す。2006年に国際連合で採択された「障害者の権利条約」を根拠として、言語としての「手話」について基礎から学び、日常会話に必要な手話単語の習得や、手話表現技術を学ぶ。随時、手話学及び障害学の講義、ビデオ学習を行う。	
	日本手話B	「日本手話A」の単位取得者を対象にする。聾文化を理解し、社会における人と人とのあり方を学び、「聾文化」について自らの言葉で説明できること、日常会話を手話で表現できることなどを旨とする。「聾文化」をテーマにして、聾者と聴者の世界の違いを踏まえ「共生社会」とは何なのか、受講学生とともに考える授業にしたい。日常会話は勿論のこと、ある程度の手話通訳が可能になるまでを目標として、実技演習を中心に進めていく。	
	アウトドアスポーツ	自然環境を活かして行われるアウトドアスポーツ（野外活動）について、いくつかの活動を取り上げ、生涯に渡って親しむために必要な知識・技能を身につける。アウトドアスポーツ（野外活動）の魅力、各種目に必要な知識・技術、自然の中で行われるがゆえの危険とその回避方法など、学外での実習を通して身につける。学外実習では、主に、カヌー、登山、ハイキング、キャンピングスノースポーツなどのアウトドアスポーツをおこなう。	
	レクリエーションスポーツ	レクリエーションスポーツは、誰でも、どこでも、気軽に楽しめるスポーツであり、既存のルールやコート、用具を簡素化したり、工夫したりすることで年齢に関係なく手軽に楽しめるスポーツである。本授業では、ウォーキング系、ボール系、自然系、ラケットバット系種目などの各種レクリエーションスポーツを行い、勝敗にこだわらないスポーツの楽しみ方を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいく基盤を構築する。	
	ニュースポーツ	ニュースポーツは、レクリエーションスポーツと同様に、新しく考案された各種スポーツで、軽スポーツや柔らかいスポーツとされるニュースポーツに触れ、楽しむことを目的とする。本授業では、ディスク系、ヒーリング系、スティック系、ロープ系の種目等を体験し、勝敗にこだわらないニュースポーツの楽しさ、創造性、柔軟性、独自性、多様性を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいくいわゆる生涯スポーツに繋げていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学科専攻科目	心理学概論	心理学は「こころ」を研究する科学である。この講義では、はじめて心理学を学ぶ人を対象に、心理学の基礎的内容を幅広く学び、人間の心理と行動について、科学的に扱う方法を理解することを目的とし、心理学の基礎的事項を概説する。特に、日常生活のさまざまな場面や状況における人間の行動について、心理学の知識や理論に基づいて解説する。講義形式で授業を行う。理解を深めるために、毎回確認課題を行い、リアクションペーパーの提出を求める。 具体的な到達目標は以下2点である。 1 心理学の成り立ちを説明できる。 2 人の「こころ」の基本的な仕組み及び働きを説明できる。	
	臨床心理学概論	臨床心理学分野の全体像を学ぶ授業である。具体的には様々な理論、その理論が成立した背景、また実践ではどのように用いられ、限界はどうであるのか。臨床心理士としての多くの経験をもとに、臨床における基本的な姿勢や、技法について学ぶ。学派を問わず臨床心理学における基本的な倫理的態度とはどのようなものであるのかも学ぶ。心理発達上の各年代の発達課題を知り、アセスメントへの視点を持つこと、アセスメントの技法や種類を学ぶ。また社会の中で臨床心理学が生かされるためには、様々な分野において、どのようなことが必要とされるのかなども学ぶ。	
	公認心理師の職責	心理専門職の国家資格である公認心理師の職責について、その職務内容と職業倫理を習得し、説明できるようになることが目標となる授業である。公認心理師がどのような分野・領域で活動しているかを知り、社会から求められるあり方を学ぶ。また、法的義務や倫理についても理解する。 具体的な到達目標は、以下の8項目が中心である。 1 公認心理師の役割 2 公認心理師の法的義務及び倫理 3 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 4 情報の適切な取扱い 5 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要 6 分野における公認心理師の具体的な業務 7 自己課題発見・解決能力 8 生涯学習への準備 9 多職種連携及び地域連携	
	心理学研究法	心理学研究法のひとつである質問紙を用いた調査法を、受講者が実際に行うことで、研究仮説の立て方、調査実施手順、結果の処理、結果のレポート記載方法、考察の基本を習得できることを到達目標とする授業である。質問紙調査の作業を通じて、①質問紙法で調査できることはなにか、②質問項目の記述方法、③項目分析の方法、④質問紙の信頼性・妥当性について学習する。心理尺度を作成し、調査を実施する過程を、グループ活動を通してプロジェクト形式で学んでいく。	
	心理学統計法	調査研究を進めるためには、様々なデータの収集法および解析法がある。この授業では、統計の基礎的な考え方を理解するとともに、統計的検定の原理原則を学び、収集したデータを分析するための手法の選択したり、得られた結果の解釈と記述が適切にできるようになることを目的とする。到達目標は以下2点である。 1 心理学で用いられる統計手法について概説できる。 2 統計に関する基礎的な内容について理解し、データを用いて実証的に考えることができるようになる。	
	多変量解析法	調査研究を進めるためには、様々なデータの収集法および解析法がある。この授業では、心理学の調査研究において実際によく使用される様々な統計的検定の手法（t検定、カイ2乗検定、分散分析、重回帰分析、因子分析、クラスター分析等）を取り上げ、収集したデータを分析するための手法の選択や、分析結果の解釈、論文への記載方法などを理解し、それらを適切に行うことができるようになることを目的とする。到達目標は以下2点である。 1 調査研究を行うにあたって必要とされる統計の実践的な考え方・知識を習得する。 2 統計的検定の具体的な手法を学び、実際に様々な統計的検定の手法を用いることができるようになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学科専攻科目	心理学実験法	心理学上の重要なテーマを取り上げ、実験を通じて心理学の基本的な研究法、実験計画の立案、適切な分析手法を学ぶ。また、様式に則ったレポートを作成することにより、論文作成の基本を習得することをねらいとする。授業においては、いくつかの心理学のテーマに関連した実験を行う。実際に実験を体験することで、実験条件の設計方法や、データの処理方法、説得力のある考察の仕方など、心理学実験の基礎的な方法論を学ぶ。原則として、1つの実験テーマにつき2週にわたって授業と実験実習を行う。1週目はテーマの解説を行い、配布された資料をもとに実際に実験を行い、2週目に実験で得られたデータの処理や統計分析を行い、具体的なレポートの書き方について解説する。	
	知覚・認知心理学	日本心理学会が2018年8月に提示している知覚・認知心理学の公認心理師標準シラバス（学部教育）に準拠して主に次の3分野から概説する。 1 人の感覚・知覚等の機序 2 人の認知・記憶等の機序 3 認知と思考のゆがみと障害 以下1から6を到達目標とする。 1 感覚・知覚の基本特性をその説明概念の知識をもとに説明できる。 2 認知特性を情報処理心理学的にとらえることができる。 3 記憶の仕組みと特性について説明できる。 4 知識の基本的構造を認知心理学的に説明できる。 5 注意の特性について説明できる。 6 認知の歪みと障害についての知識をもとに障害の理解に役立てることができる。	
	学習・言語心理学	日本心理学会が2018年8月に提示している学習・言語心理学の公認心理師標準シラバス（学部教育）に準拠して次の2つのトピックスについて概説する。 1 人の行動が変化する過程：学習心理学・行動主義心理学・行動分析学 2 言語の習得における機序：生成文法・認知言語学・言語発達理論・言語障害 以下1～7を到達目標とする。 1 行動主義学習理論に基づいた学習のメカニズムについて説明できる。 2 反応強化法の知識をもとにスキル学習などの指導ができる。 3 学習支援に役立つ理論を説明できる。 4 行動研究方法によって行動観察研究に取り組める。 5 言語心理学理論の概要を説明できる。 6 言語発達の過程を分析的に説明でき、言語発達の問題を評価できる。 7 言語発達の遅れや言語障害の理由を理論的に説明できる。	
	感情・人格心理学	感情に関する理論及び感情喚起の機序、感情が行動に及ぼす影響、人格の概念及び形成過程、また、人格の類型、特性等について学ぶ。 以下を到達目標とする。感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できること、感情が行動に及ぼす影響について概説できること、人格の概念及び形成過程について概説できること、人格の類型、特性等について概説できること。必要に応じて配布するプリント、板書、パワーポイント等を用いながら、講義形式で進める。受講生は、毎回の授業で、用紙（疑問、意見、感想などを書く）を提出する。 準備学修（予習・復習）・時間事前学修では、それまでの授業で扱った内容に関するプリント等に目を通しておくこと。事後学修では、授業の内容を振り返り、復習を行うこと。	
	神経・生理心理学	脳神経系の構造及び機能について概説できること、記憶・感情等の生理学的反応の機序について概説できること、高次脳機能の障害および必要な支援について説明できることを到達目標とし、初期知覚から高次認知機能までの心理学的知見を紹介しながら、その心理学的現象に対応した生理的機構を講義する。知見の紹介だけでなく、研究方法や計測方法に関しても講義する。配布資料・動画を使い、講義形式で進める。各回の終了時に確認テストを実施する。受講者は事前学修として、各回の内容を参考文献やインターネット検索を活用して予習し、疑問点を列挙しておくこと、また事後学修として、各回の講義内容と質疑応答の内容を復習して十分に理解しておくことが望ましい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学科専攻科目	社会・集団・家族心理学	対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できること、人の態度及び行動についてさまざまな理論を用いて説明できること、家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できることを到達目標とし、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度及び行動についてのさまざまな理論、また、家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について学ぶ。受講生は、毎回の授業で、用紙（疑問、意見、感想などを書く）を提出する。事前学修では、それまでの授業で扱った内容に関するプリント等に目を通しておくこと、事後学修では、授業の内容を振り返り、復習を行うことが望ましい。	
	発達心理学	公認心理師育成標準シラバス（日本心理学会2018年8月提示）に準拠して次の5つのトピックスについて概説する。 1 発達の生物学的基礎と認知・感情・社会性の諸側面からの発達 2 自己認知の発達心理学的諸概念と自己意識の発達 3 胎児期から老年期までの段階ごとのトピックス（主にエリクソン理論とピアジェ理論） 4 非定型発達の理解 5 高齢者の心理的特性と理解 以下1から5を到達目標とする 1 認知機能の発達及び感情・社会性の発達について概説できる。 2 自己と他者の関係性とその心理的発達について説明できる。 3 誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達及び各発達段階での特徴と課題について説明できる。 4 発達障害等非定型発達についての基礎的な事項や考え方を概説できる。 5 高齢者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。	
	障害者・障害児心理学	身体障害、知的障害及び精神障害について概説できること、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について説明できることを到達目標とし、講義を通じて、心理学の視点から「障害」を理解するための基礎的知識を習得する。 また、演習を通じて「障害」が生じていると考えられる状況において機能する心理学的援助について学ぶ。「障害」の意味、「障害」の心理学的理解、「障害」と心理学的援助、「障害」受容の再考といったテーマに関する講義を行う。その際、理解を深めるために視聴覚教材を用いる。また、「障害」が生じていると考えられる状況において機能する心理学的援助について学ぶために、グループで課題に取り組む演習を実施する。さらに、グループでのシェアリング（感じたこと、気づいたことを分かち合う）をくり返し、省察の機会を多く設ける。	
	心理的アセスメント1	発達検査・知能検査・認知機能検査について、各々の心理検査がどのような理論を背景に成り立ち、人のどのような側面を理解するのに役立つのかについて概説する。心理検査の実習から検査の実施方法、正しい結果の解釈について学ぶ。心理検査についての概説、検査実習をとおして、心理検査を用いた心理的アセスメントの目的・方法・倫理について理解する。 以下1～4を到達目標とする。 1 心理的アセスメントに有用な情報とその把握方法について知り、説明できる。 2 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義及び限界について学び、説明できる。 3 心理検査の適応及び実施方法について学び、正しく実施し、検査結果を解釈できるようになることを目指す。 4 適切な記録、報告、振り返りの方法を学ぶ。	
	心理的アセスメント2	質問紙法や投影法といったパーソナリティ検査について、各々の心理検査がどのような理論を背景に成り立ち、人のどのような側面を理解するのに役立つのかについて概説する。心理検査の実習から検査の実施方法、正しい結果の解釈について学ぶ。心理検査についての概説、検査実習をとおして、心理検査を用いた心理的アセスメントの目的・方法・倫理について理解する。 以下1～4を到達目標とする。 1 心理的アセスメントに有用な情報とその把握方法について知り、説明できる。 2 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義及び限界について学び、説明できる。 3 心理検査の適応及び実施方法について学び、正しく実施し、検査結果を解釈できるようになることを目指す。 4 適切な記録、報告、振り返りの方法を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学専攻科目	心理学的支援法	心理療法には様々な学派・技法があり、それぞれの歴史や背景を持っている。これらについての概説から、それぞれの違いや通底する共通理念について理解する。ここで得られた知識は、机上のものにとどまらず、実践と直結するものであることを、授業内のワークを通して知ることになる。 諸技法を適切に取り扱うには、ともに取り組む要支援者ごとの心理的特性や状態を良く知ることが必要である。その背景には、理論的理解だけでなく、十分な想像力や感性も求められることとなる。本授業では、そのような力を伸ばしながら、各々の限界についても検討できることが最終的な目標となる。	
	健康・医療心理学	ストレスと心身の疾病との関係について理解する。医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について学ぶ。保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解する。災害時等に必要心理に関する支援について学ぶ。人間が「病む」あるいは「治る」、「健康とは何か」「病気とは何か」ということについての意味を深く捉える姿勢を養っていく。 以下1～4を到達目標とする。 1 医療現場における心理的援助の具体的方法を知り、説明することができる。 2 医療に関する知見を深め、「健康」「病」「死」について自分なりの考えを培うことができる。 3 医療現場で遭遇する患者や家族の悩みや不安を理解し、的確な心理的援助について説明することができる。 4 医療現場における多職種連携や地域連携について理解し、説明することができる。	
	福祉心理学	福祉現場において生じる問題やその背景、心理社会的課題及び必要な支援について学ぶ。講義やディスカッションを通して、福祉領域における心理学を専門とする対人援助の基本を理解する。加えて、児童虐待についての基本的知識及びその支援について解説する。これらの授業は、担当者の児童相談所、知的・身体障害者更生相談所、福祉型障害児入所施設、及び配偶者暴力相談支援センター等での実務経験を踏まえて行う。次の3つの観点から到達目標を設定する。 <知識>福祉現場における児童・障害・女性・高齢者等の問題や課題、それらの背景と支援についての知識を習得し、説明することができる。 <技能>福祉領域での実践において必要とされるコミュニケーション・スキルの基本を習得する。 <態度>福祉をテーマにした最近のトピックスに触れることや、受講生同士のやりとりを通して、他者と協働して支援できる資質を積極的に身につけようとする。	
	教育・学校心理学	教育現場において生じる問題及びその背景について説明できること、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できることを到達目標とし、講義を通じて、心理学の視点から「教育」を理解するための基礎的知識を習得する。 演習を通じて、教育現場における心理学的支援方法について学ぶ。教育現場において生じる問題、心理社会的課題及び必要な支援方法に関する講義を行う。その際、理解を深めるために視聴覚教材を用いる。また、心理学的支援方法について学ぶために、グループで課題に取り組む演習を実施する。さらに、グループでのシェアリング（感じたこと、気づいたことを分かち合う）をくり返し、省察の機会を多く設ける。	
	司法・犯罪心理学	司法・犯罪領域における心理臨床の理論や業務を理解するために、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につけるとともに、司法・犯罪分野の問題に対して必要な心理に関する支援についての基本的知識を身につける。なお、本授業では、担当者が長年法務省矯正局の心理職として犯罪及び非行を犯した人々に接してきた知見、また同矯正研修所長として教育研修にあたってきたことから得た知見をふまえて授業を進める。	
	産業・組織心理学	企業において強いストレスを感じている労働者は50%を超えており、産業領域におけるメンタルヘルスは重要度の高い問題である。本科目では、労働者特有のストレスや労働者心理、産業領域における心理臨床活動に必要な法制度などを概説しながら、労働者個人だけでなく、組織（集団）に対する臨床心理学的支援のあり方について学ぶ。最後に事例検討を行うことで、産業領域におけるメンタルヘルスの問題について現実的に考えながら、より深い理解に繋げていく。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学専攻科目	人体の構造と機能及び疾病	ライフステージにおける心身の変化と健康課題（心身の加齢・老化、各ライフステージ別の健康課題、人の成長・発達・老化等）、健康及び疾病の捉え方（健康及び疾病の概念、ICF）、身体構造と心身機能（人体部位の名称、基幹系と臓器の役割）、疾病と障害の成り立ち及び回復過程（疾病の発生原因・外的要因・内的要因、病変の成立、障害の概要、リハビリテーションの概要と範囲）、疾病と障害及びその予防・治療・予後・リハビリテーション、公衆衛生等、保健・福祉・教育の領域で必要とされる医学に関わる知識を習得させ、理解を促す。	
	精神疾患とその治療 1	本講義では、神経症水準の精神疾患を患う人々が抱える困難の基本的理解を得ることを目的とする。また、精神科医療の現場において臨床心理士・公認心理師が担っている役割を理解し、現代社会におけるメンタルヘルスの課題や将来展望を自ら考える姿勢を身につける。 到達目標としては、精神疾患の状態像、病因、治療、疾患をもつことの苦しみについて、臨床心理学および精神医学の観点を学び、説明できるようになること。具体的には1 精神疾患について説明できるようになる（代表的な精神疾患についての症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）。2 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について説明できるようになる。3 医療機関との連携について説明できるようになる。	
	精神疾患とその治療 2	本講義では、精神病水準の精神疾患を患う人々が抱える困難や、発達障害・認知症の人々が抱える困難の基本的理解を得ることを目的とする。また、医療分野の法律や薬剤の効能、他業種との連携について学ぶことで、現代社会におけるメンタルヘルスの課題や将来展望を自ら考える姿勢を身につける。 到達目標としては、精神疾患の状態像、病因、治療、疾患をもつことの苦しみについて、臨床心理学および精神医学の観点を学び、説明できるようになることとする。具体的には1 精神疾患について説明できるようになる。（代表的な精神疾患についての症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）。2 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について説明できるようになる。3 医療機関との連携について説明できるようになる。	
	関係行政論	（概要）保健医療分野・福祉分野・教育分野・司法・犯罪分野 及び 産業・労働分野、これら心理支援に関わりの深い5分野に関連のある法律、制度についての知識や考える力を身に付ける。 （オムニバス方式/全15回） （104 北條正崇/7回） 弁護士として多岐の分野での経験をもつ担当者が、各分野における法律を担当する。 （54 笹川宏樹/8回） 児童相談所、知的障害者更生相談所、身体障害者更生相談所、福祉型障害児入所施設、配偶者暴力相談支援センター等の福祉関連の現場経験をもつ担当者が、各分野における制度を担当する。	オムニバス方式
	精神分析学	この講義は、精神分析という名のものに包括される人間理解の視点や臨床活動について、基本的理解を得ることを目的としている。本講義では、基本的概念や、フロイトの理論形成の過程と臨床との関連、フロイト以降の精神分自我心理学、対象関係論、対人関係精神分析理論など、それぞれの臨床家の理論が実際の面接過程からどのように生み出され、臨床においてどのように生かされているかを概説する。特に重視するのは、心的イメージという概念を理解できることである。そのためには体験が必要であるとの考えに基づき、授業は、講義および受講生とのディスカッションを主とするが、グループによるディスカッションを行うなどアクティブラーニングも取り入れる。	
	ユング心理学	深層心理学の一翼を担うC. G. ユングによる分析心理学の主要な概念を理解し、説明できること、心理療法の実践において重要となるユング心理学の理論を説明できること、ユング心理学の観点から今日の臨床心理学的問題をとらえ、説明することができることを到達目標とし、ユング心理学の基本的な理論や概念を説明する。また、それらの理論や概念が実際の心理療法においてどのような意義を持つか説明する。特に、夢分析、箱庭療法、現代的な意識の在り方について解説する。	
	投影法演習	心理臨床の現場でよく用いられる投影法テストについて、その歴史や用途の知識を身につけ、実施方法を一定、実践的に習得する。数多くある投影法的手法のうち、代表的なテストをとりあげ、それぞれについて自分及び被検者について実施し、テスト実施のやり方や留意点を学ぶとともに、その結果の解釈法について学習する。授業担当者は、長年、臨床心理士として、さまざまな医療機関において、投影法による心理テストの実務に携わってきた経験を活かして授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学専攻科目	対人スキル演習	心理学的知見に基づいて開発された心理教育プログラムに参加することを通じて、社会人として役立つ対人スキルを体験的に学んでいく。プログラムにおける体験を振り返るリフレクション（省察）や体験を分かち合うシェアリングによって、対人関係に関する心理学的知見を実践的に理解する機会を豊富に用意する。授業担当者は、長年にわたり心理教育プログラムの開発や実践に携わってきた経験を活かして授業を行う。グループでの演習を取り入れるため、主体的に参加し学ぶ姿勢を持つことが必要である。	
	臨床心理学課題演習	臨床心理学の基本概念や主要な研究者の理論について、文献を読み込み、要約してグループ発表を行う。また、発表に対して質疑や意見の提示を積極的に行い、ディスカッションを行うことで、相互に理解を深める。受講生の積極的な取り組みが求められる。4年次に向けて自らの研究テーマを探求するきっかけとなるよう意識的に取り組むことが必要である。 到達目標は以下1～4である。 1 臨床心理学の基礎文献を読み解き、基本概念や重要なテーマなどについて説明できるようになる。 2 専門書をグループで精読することで、卒業課題研究執筆に必要な文献の読解力を獲得する。 3 文献に記されている内容を要約し、レジュメにまとめ、プレゼンテーションできるようになる。 4 プレゼンテーションを元に議論し、自ら主体的に知識を得、疑問を解決しようとする態度を身につける。	
	対人社会課題演習	社会における心理学的問題について自分で課題を発見し、課題解決のための方法を探る実践的演習である。実践的活動の中で発見された課題について、関連文献を読み、課題を分析し、ディスカッションを通して考察を深め、課題解決のための糸口を探り、言葉にして記述することを到達目標とする。主体的な取り組みが重要となり、またグループでのディスカッションや取り組みを通じて伝える力や理解力、コミュニケーション力を身につけることも目的とする。	
	心理演習	この授業では、心理療法の基礎となる「聴く」ことを体験的に学んでいく。内容としては、具体的な相談場面等を想定したロールプレイによる実習を基本とし、その他にも事例検討やグループ箱庭などを行う。こうした実習を通して、心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能（(1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援 等）、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成の仕方、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び地域連携の心得、セラピストとしての職業倫理及び公認心理師の法的義務について概説する。なお、授業は長年相談活動を行ってきた者が担当する（公認心理師・臨床心理士有資格者）。	
	心理実習	本実習は、保健医療分野、教育分野、福祉分野等の施設において見学実習である。事前指導・現場実習・中間指導・事後指導を通して、臨床の現場理解及びチームでの心理支援について理解し、説明できるようになることを目標とする。学内指導および現場実習においては、他者の意見を聴き、自分と異なる価値観を理解・尊重した上で、自分の考えを述べられることを重視する。事前・中間・事後指導とともに、病院、幼稚園、児童養護施設、天理大学附属カウンセリングルームで、総計82時間の実習を行う。受講生は、当該施設の実習指導者から、授業方法に明示する実習内容について指導を受ける。また、実習担当教員は、受講生および実習指導者と連絡調整や巡回を密に行い、その情報のもと事前・中間・事後指導を行うとともに、受講生の実習状況を把握し、学生のメンタルケアも実施する。	
	心理学入門演習	心理学についての平易なテキストをクラス全体で通読することによって、心理学の歴史や研究領域、基本的な視点、古典の主だった学説について知り、説明できるようになることが到達目標である。くわえて、これから4年間、心理学を学んでゆくにあたり、各自の関心領域がどこにあるのかを明らかにし、今後の学習意欲が動機が高まることを目指す。テキストを輪読し、取り上げられているテーマについて、こちらから補足説明する。そのうえで、受講者とそのテーマについて、討議する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学専攻科目	心理学研究演習 1	卒業課題研究作成のための演習を目的とする。各自の論文作成の具体に即して、研究テーマの絞込み、先行研究の検索、問題設定、研究手法について学んでゆく。並行して心理学研究の研究倫理を身につける。また各自が必要な文献や研究論文を検索し、必要な情報を得られる力も身につける。全員発表と個別発表の形式によって、各人が研究計画を発表する。それを土台にして受講生全員で議論し、教員が必要な助言、指導を行う。本授業で立案する研究計画は、心理学研究演習 2 に継続してゆく。	
	心理学研究演習 2	卒業課題研究作成のための演習を目的とする。心理学研究演習 1 に続き、受講者は、研究論文や参考文献を読み込み、先行研究を理解したうえで、各自のテーマに即した論文を作成する。その際、必要な助言、指導を各自の研究の進捗状況に応じて受けながら、研究を行い、結果を卒業課題研究に取りまとめる。心理学研究演習 1 をふまえたうえで、担当者が研究計画・実施状況を発表する（発表は複数回）。それを土台にして受講生全員で議論し、教員が必要な助言、指導を行う。	
	卒業課題研究	4年間の学びの集大成として、心理学的な視点にたち、自ら問題を設定できること、論理的に思考し適切にデータを収集できること、結果について論理的に考察し、まとめることができること、研究倫理を理解し遵守できることなどを目標にし、各自のテーマに従って、研究論文（レポート）にまとめる。執筆にあたっては、各ゼミ（心理学研究演習 1・2）にて指導を行うが、各自、研究計画を立て、それに基づいたデータ収集、分析を行い、考察をまとめる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
天理 教学 部門	伝道実習 1	天理教の信仰に関する講演会、教会本部や大学構内でのひのきしん活動などを通じて他者へ貢献することの意義を学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふべく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に主体的に貢献できる人間になることを目的とする。具体的には、大学行事である「おつとめまなび」への参加、毎月1回のひのきしん活動への参加、「信仰フォーラム講演会」への出席とそれぞれに関する感想文ないし報告書を提出する。	
	伝道実習 2	天理教の信仰に関する講演会、天理教教会本部における「お節会」のひのきしんなどを通じて人とつながり、人につくすよるこびを学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふべく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に貢献できる人間になることを目的とする。「おつとめまなび」に参加し、講話についての感想文を提出する。また、教会本部お節会のひのきしんや「信仰フォーラム講演会」に出席し、その感想文を提出する。	
	伝道実習 3	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の「祭儀式」における所作と重要な祭儀である「つとめ」の「おてふり」について、実習を通して学ぶ。それぞれ、教会本部より講師を招き、直接指導を受ける。それぞれの授業の最終日に、天理教の祭儀に関する基礎的な知識と所作、「つとめ」の手ぶりについて筆記・実技の試験を行ない、習熟を促す。	
	伝道実習 4	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の重要な祭儀である「つとめ」において使用する「鳴物」について、実習を通して学ぶ。教会本部より講師を招き、いくつかのグループに分かれて直接指導を受ける。最終の2回は、全体で九つの鳴物をあわせる総合練習を行い、鳴物の基礎的な知識と奏法だけでなく、それぞれの鳴物が合わせあって勤めるというつとめの心構えを学ぶ。	
資格 科目	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か?」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力(話す・聞く・書く・読む)の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校まで学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞(名詞、動詞、い形容詞、な形容詞)の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態(ます形、辞書形、て形、ない形など)のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類)をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	
人文 科学 部門	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か?」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力(話す・聞く・書く・読む)の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校まで学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞(名詞、動詞、い形容詞、な形容詞)の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態(ます形、辞書形、て形、ない形など)のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類)をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 人文科学部門	日本語文法論 2	「日本語文法論 1」の内容をもとに、主に日本語教育の初級段階で導入される重要な文法事項について考える。「ハとガ」「授受の表現（あげる・くれる・もらう）」「ヴォイス（受身・使役）」「動詞の自他」「テンス」「敬語」などを取りあげ、日本語学習者が難しいと感じる点、学習者の誤用が現れやすい点などを、諸言語との対照もまじえながら、わかりやすく説明するにはどうすればよいかについても考える。学生の積極的な意見交換が求められる。	
	日本語音声学	日本語の発音・アクセントの特徴とそれを教えるための留意点を整理したうえで、他言語を母語とする学習者が日本語の音声を学ぶ際に誤りやすい点について考える。具体的には、日本語の音声の調音点・調音法、日本語の高低アクセントの実態、日本語の母音の無声化の現象などの理解をもとに、ともすれば「お国ことば」が混じりやすい主に関西出身の学生の日本語の発音を、日本語教師として通用するようなよりスタンダードなものに変えることを目指す。	
	言語の対照研究	日本語教育において、学習者の困難点を予測し、誤りの原因を推理し、適切な教材・カリキュラムを作るには、学習者の母語と日本語との比較・対照が必要である。それらを研究対象とする対照言語学について学ぶ。この授業ではまず、日本語と英語の文法的な相違を概観したうえで、中国語圏日本語学習者が誤りやすい文法事項現象について解説する。そのうえで、履修者が学習する外国語の知識も生かしながら、諸言語と日本語の対照も行う。	
	日本語教授法 1	現在国内外の日本語教育現場では、どのような学生が、どのような機関で、どのように学んでいるのかを理解する。日本語教師の資質、教員の検定試験についても概説する。次に、指定教科書を使って、学習項目のたて方、練習方法、教具や教室活動などを分析し、実際の授業がイメージできるようにする。授業前半では、国際交流基金の調査をもとに、世界の日本語教育の実態についての発表を行う。後半は数種の日本語教材の内容を精査し、効果的な授業の進め方について考える。	
	日本語教授法 2	履修者が日本語の授業を担当するために必要な知識やスキルを身につける。まず、いろいろな外国語教授法について学び、それぞれの長所・短所について議論しながら、実際の授業に応用できないか考える。次に、それらの教授法を用いて、模擬授業を行ってみる。履修生に「日本語を日本語で教える」ことの難しさ・奥深さを感じてもらおうことが狙いである。この授業は、4年次で取り組む日本語教育実習に向けた準備段階と位置づけられる。	
	第二言語習得論	「外国語がどのように習得されるか」にかかわる普遍的なプロセスを多角的に学ぶ。例えば、「子どもは大人よりも外国語学習が得意か?」「インプットとアウトプットのどちらが大事か?」「大人も子供が母語を学ぶのと同じように学ぶべきか?」などのさまざまな疑問を切り口として、日本語教育に役立つような知見の獲得を目指す。そしてその知見を日本語教育の現場で生かすための実践的な取り組みを、授業で見られる具体的なケースをもとに討論する。	
	日本語指導法	4年次で取り組む「日本語教育実習」にそなえ、教壇に立つ経験を積むことを目指す。『みんなの日本語初級 I』をテキストに、担当の文型を教えるための30分程度の模擬授業を行う。あわせて、授業の教案の書き方についても学ぶ。履修者が担当するのは、「て形」「辞書形」「ない形」「た形」の導入およびその説明、運用のための練習に加え、「～がほしいです」「～たいです」「～がわかります」「～が上手です」などの文型である。	
	日本語教育評価法	実際の教育にあたる者は学習者の表現をどのように評価すればよいのかを考える。また、選択されている教材について、不足部分を検討し、副教材作成に至るまでの教材開発の流れについて知る。日本語教育における評価の実態、コースデザインと教材の関連性、教材開発の手順、ニーズ調査方法と留意点、主教材の分析と評価、分析結果に基づいたコース・デザイン、教材作成の留意点、学習目標とシラバス、などの分析を通して、副教材作りに取り組む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文科学部門       資格科目  社会科学部門	日本語教育実習	学外の日本語教育機関で一週間ほど、日本語教師の業務を実地に学ぶ。実習先は奈良県内、大阪市内の日本語教育機関が中心で、海外（台湾）の協定校で実習を行うこともある。実習前半は主に授業見学と実習先教員のアシスタントをしながらさまざまな教員の授業スタイルを学び、授業がない時間には教案作成にも取り組む。実習後半には教壇実習として、実際のクラスで30分～60分程度の授業を行う。教壇実習終了後には指導教員からのフィードバックを受ける。	
	図書館情報システム論	今日の図書館における各種の業務・サービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接に結びついている。この授業では図書館の業務・サービスを実施するのに必要な、基礎的な情報技術について、さまざまな実例を通じて理解を深める。特に、(1) コンピュータ技術・ネットワーク技術の基礎的知識を踏まえ、図書館のさまざまな活動を支える「図書館業務システム」の現状を理解すること、(2) 電子上の各種資料の管理・利用に関する注意点を理解すること、を主なねらいとする。	
	情報サービス論	図書館サービスの重要な局面のひとつに、「利用者の情報要求（情報ニーズ）に対し、図書館内外の情報資源をもとに回答する」という情報サービスがある。ここには、「参考図書をもとにした応答」という従来型のレファレンス・サービスだけではなく、インターネットなどの電子的情報源をもとにした応答、図書館からの情報発信、図書館利用教育、といったさまざまな取り組みが含まれる。この授業ではレファレンス・サービスを中心としつつ、さまざまな情報サービスについて解説する。	
	児童・YAサービス論	図書館における児童サービスは、図書館サービスのスタートラインであると共に子どもにとっての読書の入り口となっている。この授業ではサービスの意義と歴史、サービスの持つ特殊性、児童資料の種類と特色、サービスの在り方等に加えて、児童書に触れ、作品を取り上げての具体的な評価、子どもと本をつなぐ方法・技術（読み聞かせ・おはなし会の実演や体験）などを身につける。また児童サービスから一般サービスへの移行段階としてのYAサービスについても、この授業で取り上げる。	
	情報サービス演習 1	この授業では図書館での情報サービスのうち、「利用者からの情報の要求に対し、何らかの根拠たりうる情報・情報源を提示しつつ応答する」という「レファレンスサービス」について、演習を行う。各回において具体的な情報源を解説しつつ、実際の課題を解いてもらう。図書館の「レファレンスサービス」に必要なさまざまな情報源について、調査対象となる事柄ごとに具体例を理解し、使い分けができるようになることを、ねらいとする。	
	情報サービス演習 2	図書館での情報サービスを展開する上で、各種データベースやインターネット上のさまざまな情報源を検索し、また検索結果を評価する技能を身につけることは、利用者の情報要求を満たすために今後ますます必要となる。この授業では、主にインターネット上の無料の情報源について、演習を通じて検索・活用する方法を習得することをねらいとする。言い換えれば、この種の各々の情報源の信頼性を確認しつつ、検索の仕方や活用法を理解し、目的や対象に応じた使い分けができるようになることが、受講者の到達目標となる。	
	図書館情報資源概論	図書館サービスを成り立たせる重要な要素のひとつは、「情報資源」の存在と、それを収集して構築した「コレクション」である。ここでいう「情報資源」は、伝統的な紙媒体の図書・雑誌といった「資料」とどまらず、インターネット上の電子メディアなども含めたものを指す。この授業においては、図書館情報資源の種類と特徴を論じ、また図書館における情報資源の取り扱い、資料選択とその基準、コレクションの構築・保存・評価などについて説明する。	
	情報資源組織論	「情報の組織化」とは、図書館が収集した情報を利用に供するために、利用者の検索の便を考慮し、一定の方式（ルール）に従って、その情報源が有している各種の情報を整理・圧縮し、体系化することをいう。情報組織化の主な技術のうち、一つは情報を客観的に記述し、種々のことがらから検索するための技術である記述目録法、もう一つは情報の内容（主題）を分析・要約・表現するための技術である主題索引法である。本科目では、現行の具体的なルールの解説に加え、より原理的な考え方の理解に主眼を置いて講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 社会科学部門	情報資源組織演習 1	図書館の情報資源についての主題索引法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・主題分析の方法が理解でき、対象資料の主題を明示できる。 ・分類法の構造と使用法が理解でき、説明できる。 ・特定の主題を分類法の記号に置き換えることができる。 ・分類表によって付与された分類記号がどのような主題を表しているかが分かる。 授業内では、日本十進分類法（NDC）の最新版に基づき、その適用規則を解説した上で、演習を行う。	
	情報資源組織演習 2	図書館の情報資源についての記述目録法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・記述対象資料に表示されている情報が書誌要素としてどれに該当するかが分析ができるようになる ・記述対象資料に表示されている情報を加工し、記述目録規則に従って記録することができるようになる。さらに、その情報について、データベースのコーディング規則に従って記録できるようになる。 授業内では、日本目録規則（NCR）およびJapan MARC formatそれぞれにつき、実務での運用に堪える版（バージョン）を取り上げ、適用方法を解説した上で、演習を行う。	
	図書館情報資源特論	図書館が管理・保存しアクセスに供する「情報資源」のうち、学術的な情報資源（学術情報）に焦点を当て、その生産・流通の実態、および図書館としての管理・保存・アクセス等をめぐる課題や取り組みについて解説する。特に、さまざまな領域の研究者がどのような研究活動を行い、その上でどのような成果を発信するか、またその成果の蓄積・共有のために図書館がどのような役割を担うか、さらには電子的環境でこれらがどのような新たな展開を見せているか、といった側面について、理解することを目的とする。	
	図書館情報学特論	日本古典籍資料とは何か、また、さまざまな国の古典籍資料のなかで、日本古典籍資料の各特徴について概観する。更に、図書館における古典籍資料業務の大まかな全体像について、見学や資料を参照しながら理解する。次いで、古典籍資料を実際に取り扱うための基本的な知識・スキルを学び、実際に手にとった取り扱いの基本を習得する。また、日本古典籍資料の組織化についての現状を知り、古典籍の総目録の特徴や利用法を通して、その現状と課題を考える。	
	博物館実習 1	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者とともに、歴史資料・考古資料・民俗資料・美術資料の取扱い方法や展示方法など、歴史系博物館の学芸員として必要な基本的知識と技術を修得する。また、各種の博物館施設を見学し、多様な博物館の実態と課題を学ぶ。これにより、博物館や学芸員の業務の実際を理解し、実践的能力を養い、次の段階の館園実習で十分な成果があげられるよう、実際的な知識・技能・態度見識を身につける。	共同
	博物館実習 2	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者の指導により、博物館の現場で行われている展示作業、資料整理、教育普及事業、資料調査などの学芸業務の一部を補助すると共に、具体的な実務を体験する。あわせて館内の展示施設やその他の施設・設備の状況を实地に学習する。実施にあたっては、原則として本学の附属博物館である天理大学附属天理参考館を実習館とし、同館の学芸員が指導にあたる。十分な指導が可能なよう適正な受講生数を配分したクラスを設け、それぞれ学芸員が担当し、通年中5日分の実習を集中講義で行う。	共同
	矯正概論	矯正の歴史と理念、矯正の機構と概要、関連法（刑事施設法、少年院法、少年鑑別所法など）の改正経緯と改正主旨、刑事施設の収容状況と受刑者の処遇、少年院及び少年鑑別所の沿革・組織・収容状況・処遇、外部協力者（教誨師・篤志面接委員）の活動について理解を深める。また、刑務官・法務教官・法務技官の職務などについて概説することを通して、概括的な矯正の歴史と現在の制度、及び、矯正に関連する職への理解を深める。	
	更生保護概論	更生保護は、犯罪や非行に陥った人たちの改善更生や再犯防止にとどまらず、犯罪の発生そのものを未然に防止する方策にまで拡大し、更には、心神喪失等の状況で罪を犯した人に対する医療観察制度や、被害者に対する施策なども導入され、警察、検察、裁判、矯正の諸制度とともに、現在刑事政策の重要な一翼を担っている。この授業では、更生保護の沿革を概観し、現行の更生保護制度の仕組み、手続き等、及び、実務経験からの処遇等について講義し、受講者とともに、犯罪や非行に陥った人たちの社会内処遇を考究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学部門	矯正保護教育（施設参観を含む）	刑事司法制度、刑事施設における各種改善指導、少年施設における矯正教育、更生保護制度の概要と課題、関係機関や民間協力者と連携した社会復帰支援、その他（刑務官・法務教官・法務技官・保護観察官）について概説する。この授業では、刑事施設や少年施設における各種教育活動の実情と課題について理解を深め、更に関係機関や民間企業等との連携の実情と課題、「世界一安全な国、日本」を表現するためには何が必要で、国民一人一人が何をなすべきかを正しく理解する。	
	矯正保護支援実践論	（概要）罪を犯す少年たちの心理的及び社会的背景から、その問題点を探ることにより、当事者の気持ちに寄り添った支援が出来るようになるとともに、再犯を防ぐため、将来保護司や教諭師などの公的な立場又は施設職員になり、社会生活への円滑な移行に役立たせるために準備性・計画性を持って、更生保護の支援が出来るようになることを目標に授業を展開する。保護司あるいは児童養護施設職員としての実務経験をもとに、犯罪者や非行少年の更正と社会復帰のための支援実践、また犯罪者や非行少年を抱える家族への支援のあり方と方法、さらには、矯正保護支援活動における問題点や課題などを、実践例をふまえながら理解する。授業は、オムニバス形式で行う。 （オムニバス方式/全15回） （102 高橋秀紀/6回） 保護司としての実務経験をふまえ、更生保護活動の具体的内容と意義、矯正保護施設の現況と課題、性犯罪対象者の再犯事例などを内容として講義する。 （105 山本道次/9回） 施護員の実務経験をふまえて、主な事例とその背景、児童虐待の現状と課題、家庭環境に問題を抱える事例、更生保護活動の実践例などを講義する。	オムニバス方式
	犯罪被害者支援論	捜査・刑事裁判などの刑事手続の流れや基本原則、法律の内容、これまで犯罪被害者が置かれてきた状況、犯罪被害者支援のための制度等についての知識や奈良を中心に犯罪被害者支援に関わる機関の取り組み等について、長年弁護士の立場から犯罪被害者救済の実務を担ってきた授業担当者からその実状を講義し、必要な知識を身につける。 弁護士として日頃裁判実務に関わり、現場で犯罪被害者を支援している経験から、支援の実際についても講義する。	
資格科目	教職論	我が国における教育の動向を踏まえながら、講義やグループでのワークショップを通して、今日の学校教育や教職の社会的意義や役割について理解する。事例や法令等の規程をもとに「教職の意義や教員の役割」について考察し、「教員の職務内容」や「服務や義務」について学ぶとともに、現代の学校教育の課題について知り、課題解決に向かって考え、行動できる素地を培う。「チーム学校」の一員として活躍できる資質や能力について考察する。	
教職に関する専門教育科目	教育原理	私たちの教育言説のもとになっている思想・概念・用語について、基本的な知識を身につける。また、資料・教材を具体的に提示し、それに即しながら「教育とは何か」という問いについて考察を深める。こうした作業を通して、現代の学校教育に関するさまざまな状況・問題を学び、その歴史的経緯について考えとともに、現代の教育に関して問題を発見する力、およびその問題を論理的に考える力、自分の考察・主張を他者に表現する力を身につける。	
	教育史	「教育」という営みは、歴史的・社会的な流れの中でどのように変遷・変容していったのか。時代ごとに教育の歴史的な流れを概観することを通して、教育史に関する基本的な知識を身につける。その上で、「資料」の解釈・評価・批判的検討を通して、受講生自身が「考える」（自らの主張・認識・価値観を論理的で具体的な文章として表現する）という練習を積むことを通して、「教育」を「歴史的に考える」ことの意味・意義について、自分なりの考えを深める。	
	教育課程論	教育課程論は、教員免許状を取得するための必修科目であり、教育課程の役割や意義、我が国の学校における教育課程の変遷（明治以前から昭和初期までの学校教育課程）ならびに学習指導要領の変遷について理解し、教育課程編成の基本原則について学ぶことを目標にする。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントしていく、カリキュラム・マネジメントの重要性や意義についても考察を深められるようにする。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する専門教育科目 資格科目	学校教育心理学	学校教育に必要な心理学の知見について、「発達」「学習」「やる気」「知能と創造性」「人格（個性）」「適応」「障がい」「コミュニケーション」などのテーマに分けて講義を行う。「発達」については諸理論の概説を行いながら、人の心理的発達についての理解を深め、「学習」においては人に備わっている学びや記憶の仕組みを理解する。また「やる気・意欲」の引き出し方、「知能・創造性」の仕組みと発揮のための援助の仕方について解説し、生徒の「人格（個性）」に対する教育的かかわりについて、「適応」や「障がい」「コミュニケーション」の視点を加味しながら、心をもって生きている存在としての生徒を総合的にとらえていくことができるようになることを目指す。	
	学校教育社会学	教師の長時間労働、「いじめ」や学校の安全など、現代の教育現場では多様な問題が生じている。こうした学校教育をめぐる様々な問題を複眼的視点（制度的・社会的・経営的視点）から考えることができるようになるために、学校や子どもたちの生活をめぐる問題を具体的に理解し、現状の対応策や今後の課題について知識・理解を深める。また、今後のより良い教育・学校とはどのようなべきか、自らの考えをまとめることを通じて、現代的課題に対応しうる力を身につける。	
	道徳の理論及び指導法	国内外における道徳教育の理論やそれをめぐる歴史的経緯等の理論的側面と、学校における道徳科の学習指導案の作成方法等の実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な力を身につけることを目指す。 道徳教育について、「道徳」とは何か、何が「道徳教育」なのかという根本的な問いにまで遡りながら学ぶ。 道徳教育の基礎・基本、道徳教育の歴史、道徳教育の現状と課題について順に理解を深めていき、最終的には道徳教育の授業の実践が可能となるような授業展開とする。	
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	教育方法学では、教育方法の基礎理論と実践を理解し、これからの時代に重要となる、主体的・対話的で深い学びの実現のための教育方法の在り方を理解できることを目標にする。そのために、教育の目的に応じた授業を行なう上で必要ないろいろな教育技術について知り、授業設計とその実践の方法について学んでいく。中でも、情報通信技術（ICT）を活用した教育の理論と方法については、具体的なツールやソフトを使用しながら、実際に授業で実践できるように、使い方や活用の仕方をパソコン教室で実地に学んでいく。	
	教育相談の理論及び方法	教育相談について、今日教育現場での需要が高まっているカウンセリングの理論と技術を紹介しながら、一人一人の生徒の悩みや困難に寄り添い、応えていくための実践的な知識についての講義を行う。不登校やいじめ、非行、思春期の精神的な失調に対する対応の仕方についても解説を行い、グループディスカッションなども取り入れながら、生徒とのかかわり方が身につく授業を工夫する。また、生徒のリアルに触れられるように、思春期の心模様を描いた映像資料も多く取り入れながら、実際に生徒とのかかわりに役に立つ学びを提供する。	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めいくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
	教育実習講義	教育実習に臨む前の3回生時に開講する授業である。授業では、まず、教育実習における心構えや必要な準備、学習指導案の書き方などについて、テキストをもとに具体的に学んでいく。次に、開講の各クラスにおいて、現場の中学・高校の現役教員を外部講師として招いて、実際の授業のノウハウについて、詳しく教授を受ける。そして最後に、ICTの活用なども取り入れた実際の教育実習における授業について、模擬授業を行い、教育実習に対する実践的な準備を行う。	
	介護等体験	中学校教員免許取得のための科目であり、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験に参加し、多様な人の生き方に触れることを通じて、教師としての人間理解の枠組みを広げ、様々な生きる課題や困難を抱えた人とともに成長していけるための素養を培うことを目指す。テキストを用いながら、「人とのかかわり」「尊厳とは？」「介護とは？」「施設とは？」などの内容について、計4回の事前指導を行い、活動後には課題レポートに取り組みることによって、体験を教職の実践に生かせるように工夫する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職実践演習（中・高）	教職実践演習では、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、教職をスタートするにあたって、必要な資質能力、知識や技能について身に付け、教員としての実践力を総合的に高めることを目指す。 授業においては、テキストを用いながら教職課程におけるこれまでの学びを総合的に振り返りつつ、小学校現場でのフィールドワーク、テーマやトピックに応じたグループワークやプレゼンテーションなど、演習形式で授業を展開する。	
	教育実習 1	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2～3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。（本学では高校教員免許取得のみを目指す学生は、教育実習 1 のみの登録で可としている）	
	教育実習 2	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2～3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。（本学では中学校教員免許の取得を目指す学生は、教育実習 1 と合わせて教育実習 2 も登録することとしている）	
	人権教育論 1	豊かな人権意識を持った教員の育成のために、まず、公教育の原理や社会的役割について学ぶ。次いで学校教員として理解しておく必要のある多様な人権課題について学び、人権尊重の意識を高める教育はどのように可能となるのかについて考察を進める。具体的には、さまざまな差別の問題や在日外国人の人権問題、男女平等の問題や性的少数者の問題、こどもの貧困の問題などについて学び、このような問題を解決していくためには、どのような人権教育の展開が可能で必要なかということについて学んでいく。	
	人権教育論 2	人権課題を教材として、どのような授業が可能となるか、グループに分かれて実践的な指導案の作成をおこない、相互に批判し議論しながら授業力を高めていくことを目指す。そのために最初に授業の作り方の基礎を学び、最後にまとめとして多様な人権課題に対応できる教育のあり方について認識を深める。本授業で扱うテーマとしては、「健常とは？障害とは？」 「性をめぐる課題」 「民族と文化の多様性をめぐる課題」などを設定して、具体的に授業展開ができる力を養っていく。	
	特別な支援の必要な生徒の理解	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標に授業を行う。	
	学校教育支援	教師としての実践力を養うために、教育実習のほかに、実際の学校現場に赴いて、ボランティアとして教育支援に携わる科目である。主に大学と提携を結んでいる市町村の幼・小・中学校に学校支援ボランティアとして出向き、教員の指導の下に、学習支援補助、部活動補助、行事活動補助、部活動補助などを行うことによって、実際の児童・生徒とのかかわり方を体験的に学ぶ授業である。本授業は、事前指導、中間報告会、最終報告会などを実施して、学生相互の学び合い、教員を目指す者同士の連帯感を感じてもらえる機会を提供することも目指す。	
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	特別活動に関しては、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という三つの視点を中心に、指導に必要な知識・素養を身につけ、また、総合的な学習の時間に関しては、実社会・実生活における諸課題を探究する学びを実現するために必要な、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。講義では、課題の見つけ方、自分の問題・関心のありか、問いの立て方を、ウェビングやワークショップを通して、探究の技法を習得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	教育史特論	教育について幅広い視野から考えるための具体的な題材として「教育」をめぐる「論争」の「歴史」について取り上げる。それぞれの時代状況のなかでどのような課題が議論・論争され、その結果として教育・学校がどのように変遷・展開されてきたのか。近現代日本の教育をめぐる「論争」にかかわる基本的な知識を深める。その上で、自分自身はその教育論争について何を感じるのか、それをどのように考えるのか、授業資料を自分なりに「解釈する」ことを通じて歴史的な思考・認識を深める。	
		臨床教育学特論	臨床教育学とは、教育現場が抱える様々な課題（いじめ・不登校・教師・子ども関係等）に対して、教育哲学、教育人間学、臨床心理学等の複数の領域にまたがる学際的な方法を構想・実践することによって応えようとする学問領域である。 臨床教育学という新しい学問領域の成立が求められた1980年代後半の時代背景をふり返るとともに、それ以降約30年を経た現代において何がテーマとなり、臨床教育学はそれにどのようにどのような方法で応えようとしているのか、最新の議論までを含めて概説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部社会教育学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 教育 科目	天理 スピ リット 科目 群	天理教概説1	「宗教」についての基礎的な理解を踏まえたうえで、天理教の思想や実践について概説し、それらがいかなる教えや歴史的経緯に由来するものなのか、あるいはそれらが何を指そうとしているのかについて説明する。具体的には、主に『稿本天理教教祖伝』をテキストとして、教祖中山みきの生涯と教えについて学んでいく。天理教についての知識や体験がほとんどない学生の受講を前提として、教祖の生涯や教えに親しんでもらうことを目標とする。	
		天理教概説2	天理教についての知識や体験がほとんどない学生が受講するという前提で、天理教の成り立ちや基本的な教理などを中心に学び、それを自分の言葉で簡潔に説明できることを目指す。秋学期では、春期で学習した内容を踏まえ、天理教の歴史やそのさまざまな活動内容について、より詳しく学んでいく。特に『天理教教典』を主なテキストとしながら、天理教の教義（教祖、神、救済、人間etc.）の内容、及びその多様な信仰実践のあり方について学ぶ。	
		天理教学1	天理教学と天理教原典の連関についての基礎的な理解を踏まえたうえで、教祖の教えがいかなる歴史的経緯の中で「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」という原典として成立したのかについて学ぶ。さらにそれら原典と「こふき話」との関係性についても解説する。また、『天理教教典』や『稿本天理教教祖伝』の成立、及びそれらと原典との関係性や位置づけの違いについても学ぶことによって、天理教信仰における原典の重要性を認識する。	
		天理教学2	天理教学1で学んだ原典成立の歴史的経緯について改めて触れたうえで、それぞれの原典の内容について解説する。また、そうした原典の中で説かれる教祖の基本的な教え（八つのほこり、十柱の神名による守護の説き分け、ほこり）についての理解を深め、またそれらを先人の信仰者たちがいかに自らの生活において実践していたかについて解説する。それによって、教祖の教えを実践することの今日的な意義について、具体的に理解することを目指す。	
		建学の精神と天理大学のあゆみ	天理大学の「建学の精神」に込められた意味を理解し、その精神を身につけ、国際社会および地域社会に貢献できるようになることを目指し、天理大学の「建学の精神」に込められた意味を、本学の創設者、中山正善天理教二代真柱の理念・思想を通して理解する。また、天理大学の歴史的な歩みを辿ったうえで、天理図書館や天理参考館といった文化施設、及び「天理スポーツ」の理念や歴史についても、創設者の人物像や理念を通して理解する。	
		英語1	大学で学修するために必要な基盤となる英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎力を養成する。「聞く」「話す」では、特に、簡単な内容の会話を理解し、それに対応できる力、「読む」「書く」では、単文レベルの英文の構造を理解し、書くことができる力、簡単な英文の内容を理解できる力を重視して養成する。プレゼンテーションやペアワークなど、具体的、かつ、実践的なアクティビティも含めて豊かで確かな英語の基礎力を確立する。	
		英語2	英語1で培った基礎力を土台に、大学で学修するために必要な英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎固めをする。この4つの領域について「英語1」よりもやや難度の高い英文を読み、その内容を把握し、自分のことばでまとめる力を育成する。さらに、人の意見を聞き、複数の文を使って自分の意見を英語で伝える力を養成する。ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションなど、より多くのアクティビティを通じて英語をツールとして使用することに慣れ親しむ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 天理スピリット科目群	韓国・朝鮮語 1	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。順序としては、文字と発音を修得した後、基礎的な文法事項・構文・語彙の修得を進める。この科目でまず重要なことは朝鮮半島で使用されている文字「ハングル」を正確に読んで発音できるようにすることである。これがまず第一段階の学習となる。次に体言文を習得する段階に入るが、同時に各種音韻変化を学ぶことで、正確な発音を身に付けさせる。基本となる助詞、位置・存在表現等を修得、さらに用言文を上称・略待上称の形で使えるように指導することがその次の目標となる。使用頻度が高く、ごく基本的とされる接続語尾についても学び、表現の幅を広げるようにする。	
	韓国・朝鮮語 2	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。基礎的な文法事項・構文・語彙の修得に努めつつ、初歩的な言語運用能力の育成を目指すことが目標となる。韓国・朝鮮語 1 で学習した存在表現、上称・略待上称形をさらに練習して、変則用言をきちんと使いこなす訓練を行う。数字表現、許可表現、可能表現なども学ぶことにより表現の幅を広げるようにする。語学力を向上させるうえで、語彙の習得も欠かせない要素の一つである。日本語同様、漢字語彙が7割を超す韓国・朝鮮語でもその利点を生かし、語彙力を養い、韓国・朝鮮語の理解の土台を築くようにする。	
	中国語 1	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようににはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。具体的には、「ピンイン」と呼ばれるローマ字の発音表記を体系的に学び、中国語の日常会話レベルの文について、ピンインを見ながら標準的な発音で漢字で書かれた単語やセンテンスを音読したり、パソコンやスマホでローマ字入力・漢字変換する訓練を行う。	
	中国語 2	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようににはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。「中国語 1」で学んだピンインによる音読や入力の基礎を固めながら、それぞれの会話場面において自分に関係する事柄を、すでに学んだ語彙や表現を用いて相手に伝える訓練を行う。	
	教養アカデミック英語 1	この科目では「英語 1」と「英語 2」で培った英語の基礎力を土台に、英文を「書く」ことに重点を置く。自分の伝えたいことが伝えられる英文を書くために、「書く」という点から基本的な英文法のおさらいをする。さらに、音読練習や口頭作文練習、和訳など様々な活動を通じて「書くための英文法」を定着させる。単文だけでなく、複文や重文など一文レベルの文がある程度正しく書けるようになった段階で、隣接する文同士のつながりについて学習し、パラグラフライティングができるようになるための素地を固める。	
	教養アカデミック英語 2	この科目では「教養アカデミック英語 1」で培った「書く力」を土台にまとまりのある内容を持った英語の文章（1パラグラフ）が書ける力を養成する。パラグラフの構造やパラグラフの種類について学び、自分が書きたい内容に合わせて適切なパラグラフのタイプを選択し、読み手に論理的に分かりやすい構成の英文が書けるようになることを目指す。さらに、トピックに合わせた簡単な英語のプレゼンテーションを行うことにより英語による発信力を高める。	
	実践アカデミック英語 1	この科目は「アカデミック英語 2」を履修するための科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された文字数（日本語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行い、多くの英文を読んでその内容を日本語で要約する練習を行う。英語で読み、日本語で要約することにより、英文読解力だけでなく、読み手に分かりやすい日本語で文章を書く力も養成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	実践アカデミック英語2	この科目は「アカデミック英語1」の応用科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された単語数（英語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行う。英語の文章構成についてもトピックを維持する方法や隣接する文同士のつながりのよくする方法について学ぶ。多くの英文を読んでその内容を英語で要約することにより、実用英語技能検定（英検）やTOEFLなどの資格試験にも十分に対応できる力を養成する。	
		アカデミック英語上級	この科目は大学を卒業し、社会人になったときに必要とされる力を育むことを目指した科目であり、「プロジェクト型言語学習(Project-based Language Learning)」の形式を採る。ポスター発表や口頭発表、テレビ番組制作など様々なアクティビティについて、チームで協力し、企画から発表までの一連の作業を行うことにより、企画力や協働性、情報収集力、情報を整理し、まとめる力、発信力などを養成する。	
		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、韓国・朝鮮語圏の文化や社会について学び、あわせて韓国・朝鮮語の基礎を学習しながら、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。文化的な理解と言語の理解はあかかも車輪の両輪のように対象となる国の理解を大きく進展させる意味を有している。人々が朝鮮半島の地でどのように暮らし、どのような文化を育み、歴史・社会の中で何が起きてきたのか、これらを知るとともに、最低でも文字を読み、入門レベルではあるが語学の基礎にも接してみることで、この地に生きる人々の感性や考え方の根底に一步でも近づいてみることをしたい。	
		多文化理解と言語（中国語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。また現在、中国・台湾・香港・シンガポールなどのいわゆる中国語圏から日本に来て中長期滞在している人は日本の在留外国人総数の約3分の1を占めており、彼らが日本社会で私たちと共に幸せに暮らしていける社会を構築するには、まず私たちが彼らの言葉と文化を理解する必要がある。さらには彼らが独自の文化を有するがゆえに受け入れがたい日本特有の習慣についても知っておくことが望まれる。本科目では、広く中国語圏で通用する標準的な中国語の基礎を学習しながら、中国語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（英語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。英語は、イギリスの歴史的な歩みの影響によって、現在世界で最も広く用いられる言語の一つとなっている。しかし、世界の様々な地域で用いられている英語は全く同一のものではなく、当然ながら英語が用いられている地域の社会や文化も一様ではない。本科目では、英語に対する基礎的な理解を通して、英語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（タイ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。東南アジアのタイに目を向けてみると、日タイ両国は政治、経済、文化等幅広い面で緊密かつ重層的な関係を築いており、人的交流が極めて活発である。タイの人々は日本に強い関心を持っており、さまざまなメディアやイベントをとおして、日本の情報に日々接することができる。日タイが今まで以上に緊密なパートナーシップを構築するためには、私たちがタイの言葉や文化を知り、相互理解を促進することが必要である。本科目では、タイ語の基礎を学習しながら、タイの文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（インドネシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。インドネシア共和国は多民族国家であり、2億7千万人を超える国民は、異なる言語を母語とする民族集団からなる。インドネシア共和国の成立以後、公用語として定められたインドネシア語を母語とする人々は徐々に増加しているものの、多くの国民にとってインドネシア語は母語の次に覚える第二言語である。本科目では、インドネシア語の基礎を学習しながら、インドネシア語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 天理スピリット科目群	多文化理解と言語（ドイツ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。日本では「日本人とドイツ人は似ている」と言われることも多いが、当然のことながら日本とドイツの国民性には相違点も多い。特に、日本人は場の空気や感情を重んじるのに対して、ドイツ人は合理性や論理性を重んじるという点に着目すると、両者の隔たりの大きさが感じ取れる。ドイツ人の論理性を重んじる傾向は、ドイツ語の特徴とも関連している。本科目では、ドイツ語の基礎を学習してドイツ語への理解を深めながら、ドイツ的思考法がドイツの社会や文化にどう影響しているかを考察する。日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（フランス語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、フランス語の基礎を学習しながら、フランス語圏の文化や社会について学ぶ。特に、歴史的な関係からアフリカからの移民を多く抱えるフランス社会の諸問題を取り上げ、宗教や言語、価値観など、異なる文化が接触することによって引き起こされるさまざまな事例を見ていくことによって、多文化共生社会のあり方を考察し、その実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ロシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ロシア語の基礎を学習しながら、旧ソ連諸国をはじめとする世界に広がるロシア語圏の文化や社会について学ぶ。ロシア語が用いられている国や地域での多様性に触れ、共通点や相違点、また問題点について考える。本科目では、ロシア語の基礎を学習してロシア語への理解を深めながら、日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（スペイン語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、スペイン語の基礎を学習しながら、スペイン語圏の多様な文化や社会について学ぶ。スペイン語はスペインとラテンアメリカなどの20以上の国や地域で話され、米国でも話者数が飛躍的に増加している国際性豊かな言語である。また日本国内においても、スペイン語圏出身者は約8万人にのぼる。日本との長い交流の歴史や現在も続く緊密な社会経済関係について理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ポルトガル語の基礎を学習しながら、ポルトガル語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。具体的には、ポルトガル語の読み方や基本的なあいさつなどを学びながら、ブラジルがどのような国であるかを知り、それを通して日本に在住するブラジル人に視野を広げる。本科目の主要な目標は2つある。1. ブラジルがどのような社会や文化を有する国なのかを知る。それを通して、異文化理解への視座を学ぶ。2. 在日ブラジル人の歴史や現状を知る。それを通して、日本における多文化共生について考察する。	
	多文化理解と言語（日本語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では留学生を対象にして、日本語及び、アイヌ語、琉球諸語（琉球諸方言）など、比較対象となる諸言語・諸方言に対する基礎的な理解を通して、日本語が話されている諸地域の文化や社会について学ぶ。そして「日本」や「日本人」を相対化することによって、より大きな視野から日本列島を考え、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	日本事情 1	留学生を対象にして日本の祭礼について概説する。最初に、儀礼・祭礼についての文化人類学・民俗学の概念・分類について紹介する。次に日本政府の祭礼に対する文化政策（「無形文化財」、「無形文化遺産」、「日本遺産（Japan Heritage）」など）について紹介する。そして、「日本三大祭り」ともいわれる「神田祭」（東京都）、「祇園祭」（京都市）、「天神祭」（大阪市）など、日本各地の著名な祭礼を具体的に取りあげて紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	日本事情 2	留学生を対象にして日本の産業について概説する。最初に、地理学・経済学・社会学などの知見に抛りながら、戦後の産業構造の変化について紹介する。次に伝統産業保護政策として日本政府が「伝統的工芸品」に指定している産品を、「高山茶釜」（奈良県）など、具体的にいくつか取りあげて紹介する。そして「まちづくり」、「農工商連携」、「外国人材の受け入れ」など、現在の日本の産業が抱える重要課題を具体的に取りあげて紹介する。	
		健康スポーツ科学 1	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		健康スポーツ科学 2	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		国際社会におけるスポーツの役割	スポーツには、国籍や人種、言語や文化が違っても一緒に活動し、協力し、競い合うことで共感が生まれ、楽しさや友情を深める力を有する。現代社会では、スポーツを通じた国際交流がなくてはならない存在であり、「多様性の尊重」や「持続可能な社会の実現」にも欠かせない。本授業では、スポーツの国際展開について古代から現代までのオリンピックの歴史と諸問題を学び、国際親善や世界平和に果たすスポーツの意義や役割を理解する。	
		保健医療の仕組みと健康づくり	急激な少子高齢化や医療技術の進歩など、保健医療を取り巻く環境が大きく変わるなかで、厚生労働省は2035年に向けて、人々が自ら健康の維持・増進に主体的に関与し、デザインでき、ひとりひとりが主役となれる健やかな社会、健康先進国を目指している。この授業では、現在の保健医療の仕組みと、地域で暮らす人々がその仕組みをどのように活用するかを学ぶ。さらに自分自身と周囲の人々がその仕組みを活用して主体的に健康づくりに取り組むための基礎力を養う。	
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる入門編	身近な環境問題に目を向け、それを自分事としてとらえることは、これからの社会を生きていくために重要なものである。環境や林業や里山が抱える課題、過疎化した地域の課題、衰退していく街の課題について、その課題に取り組む人々との交流を通じて、SDGsとは具体的に何を目標として行動すべきかを学ぶ。林業や農業についてのアプローチの手立てについては、現地に赴き実習を含めた講習を行う。さらに、その有効な活用方法ならびに技術面の指導を実習を通じて習得する。	共同
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる実践編	ローカリーアクト天理SDGs森に生きる入門編に引き続き、奈良県内外、主として天理市内での林業体験及び里山整備、耕作放棄地などでの実習を行う。過疎化する地域の課題を現地の方との話し合いを通じて理解し、何ができるか？を考える「場」を持つ。持続可能な開発目標(SDGs)や持続可能な開発のための教育(ESD)を目的とした実習を行う。その際、学生が自ら考えて行動する問題解決型学習(PBL)を採用し、さまざまな課題を自分事としてとらえられるようにする。	共同
		国際協力入門	「貧困」を解消することが「開発Development」という行為である。近年注目されている「SDGs(持続可能な開発目標)」の「D」は「開発Development」を指しており、同じく貧困削減のための取り組みを指している。この授業では「経済開発」「社会開発」「人間開発」「参加型開発」「持続可能な開発(SDGs)」などの開発理論を講義形式で理解し、開発プロジェクトの計画・立案について、グループ・ワークで体験的に学ぶ。開発援助とは「人を助ける」行為であるため、「人を助ける」哲学・価値観について学ぶことを基本学習とする。定期試験期間に期末テストを実施する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	国際協力実習	この実習では「国際参加プロジェクト」の現地ボランティア活動を行う。本実習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。以上の点に注意し、授業登録を希望する学生は、必ず国際交流センター室の担当者に問い合わせること。新型コロナウイルス感染症の影響により、現地活動が実施できない場合は、上記の通りではなく、授業方法や成績評価方法について変更を余儀なくされることがある。変更する際は、授業等を通じて受講者に周知する。	
		国際協力演習 1	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）から帰国後の事後研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。事後研修の主な活動内容は、現地での活動経験に基づくレポート、活動報告の作成と編集、動画・写真データを使用した活動報告用の映像資料の作成である。また、学内外で開催する帰国報告会、地域教育機関と連携した国際交流授業の開催など、地域連携・社会貢献を目的とした諸活動の実践を含む。	
		国際協力演習 2	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）に向けての事前研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。活動準備の内容は、現地での活動内容に基づき決定される。現地小学校での教育支援活動であれば、現地学校での授業準備が事前研修となる。現地高等教育機関との交流活動では日本文化紹介などのプレゼンテーションの準備を行う。講義で授業を行う一方、現地ボランティア活動の具体的な準備活動が主な授業内容となる。	
		国際ボランティア論	人はなぜ、何のためにボランティアをするのか、ボランティアという行為はどのような意味をもつのかを理解できるようになる。また、国際協力の視点からボランティア活動を捉え、世界の貧困や格差を解消するための国際ボランティアの取り組みを理解し、実践することができるようになる。ボランティアという行為について学術的な視点から説明ができるようになり、世界の貧困や格差の問題に対して、自らの問題として捉え、積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を身に付けることができる。	
		天理大学特別講義 1	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度については、NPO法人環境市民ネットワーク天理が主体となる寄付講座「まほろばエコロジー講座」を15回にわたって開講する。天理大学は2012年に奈良県下の大学としては初の「エコキャンパス宣言」を行い、建学の精神に基づいたキャンパスの環境保全を指向するとともに、大学生や市民を対象とした学習講座を開催した。このたび、天理大学の授業として開講する「まほろばエコロジー講座」は、環境問題に関わる各分野の専門家によるレクチャーを15回受けることにより、環境問題の基礎知識を体系的に学ぶことができる。講座後の検定試験で、一定の成績を修めた受講生を対象に、当NPO法人が「まほろば環境市民」に認定される。	
		天理大学特別講義 2	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理大学特別講義 3	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理大学特別講義 4	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理異文化伝道	天理教による海外布教伝道の歴史を振り返り、世界のさまざまな国や地域で展開されている布教の現状を映像などを通して見ていく。また「文化」とは何かを確認した上で、海外伝道を「異文化圏における伝道」という視点で捉え、異なる文化の中で繰り広げられている実際の布教伝道を通じて見られる「異文化接触」に関して考えていく。さらにそこから、貧富の差や言葉の問題、他宗教との関係、グローバル化などをキーワードとして問題提起を行い、これからの異文化伝道の方向性について意見を深めていく。	
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	生き方や働き方を主体的に考え、キャリアを設計することができるようになることを目標とし、自己を深く理解し、社会貢献につながる自己実現を目指すための主に次のことを学修する。 ・自分の価値観、強みと弱みを把握し、自己理解を深める。 ・社会に出て必要とされる力（基礎学力、専門学力、リーダーシップやコミュニケーション力）は何かを把握し、それを身につけるための有意義な大学生活の過ごし方を設計する。 キャリアをデザインする上で具体的に仕事の内容や重要な自己を理解したうえで、民間企業や官公庁などで働いている人を講師として迎え、実務上必要とされる能力や仕事のやりがい、キャリア形成についての話を聴く。各業種の内容と必要とされる能力を知り、社会に出るからのキャリアデザインについて考える。また、インターンシップの意義、就職試験で使われているSPI、履歴書の書き方、就職活動の進め方について知る。	
		キャリアデザイン 1	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		キャリアデザイン 2	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		インターンシップ 1	インターンシップ1では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		インターンシップ 2	インターンシップ2では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	キャリア教育科目群	海外インターンシップ1	海外インターンシップ1では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ2	海外インターンシップ2では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	正しい情報を自ら集め、組み立て、展開していく力、さらに自分の考えや情報を正しく相手に伝える力をつけるために、大学や社会で求められる「読む・書く・話す・聞く」能力の獲得をめざし、ノートテイキング（筆記）、スピーチ（発話）、リーディング（読解）、ライティング（作文）という4つの技能について学ぶ。また基礎的なパソコンの操作方法やワープロソフトを使った文書の作成、プレゼンテーション資料作成ソフトを使ったスライド作成等についても学ぶ。	
		基礎ゼミナール2	基礎ゼミナール1の「読む・書く・話す・聞く」の能力の向上、および実際のデータを収集し、分析することを通して、統計的分析の能力を身につけることを目標とする。自らの問題意識から、適切なテーマを設定し、主張したい論点を述べるために必要な実データを収集し、統計手法を用いて分析する。分析結果やグラフなどを整理して自分の考えを発表する。中間発表を行うことで議論を深め、最終的にこれらをまとめた小論文を作成し、発表する。	
		データサイエンス・AI入門	Society5.0時代に活躍するためには、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養が必要である。本科目では、次の3つのことを習得することを目標とした学修を行う。（1）社会におけるデータサイエンスやAIの活用事例を知ることによってこれらの技術についての理解を深める。（2）データを活用する上で留意すべき法制度や倫理などについて理解し、適切なデータの利活用のための知識を得る。（3）データ分析の基礎的な活用方法を身につけ、帰納的推論と演繹的推論の差異、長所短所について理解する。	
		データサイエンス・AI応用	データサイエンス・AI入門に続いて、本科目ではより実践的にデータサイエンス・AIを学修し、基礎力を向上させることを目標とする。社会において多様なデータの蓄積が行われており、そのデータを利活用できる能力が求められている。データ解析・機械学習などに事例を挙げてデータサイエンスやAIについての技術について学修する。データ解析では統計学の利用方法、機械学習を使った分類・クラスタリング・強化学習、さらにAIの発展に貢献しているディープラーニングについて、実例をもとに実際にデータを処理することを通して理解を深める。	
		データリテラシー	情報社会において求められる情報処理能力を身につけることを目標とする。自らの考えを正しく相手に伝えるためには実データを正しく分析した結果を効果的に示すことが重要である。データの収集方法・統計分析・分析結果の解釈方法などを学修し、データに基づいて判断する能力、いわゆるデータリテラシーを身に付ける。EXCELを使って統計分析方法を学修し、分析した結果の統計情報を正しく理解する方法とグラフなどを用いて、効果的にデータの特徴を可視化する方法について具体的に学修する。	
		コンピュータ入門	ビジネス社会において求められるコンピュータやネットワークなどの情報技術に関する基礎的知識、およびパソコンを使った情報活用能力を身につけることを目標とする。情報技術に関しては、コンピュータ・インターネットの仕組み、情報処理技術、情報倫理やセキュリティについての知識を学修する。またパソコンを使い、基本ソフト（Windows）およびアプリケーションソフト（Word、Excel、Powerpointなど）の基本的な操作方法について学修し、実データを使ってデータを整理した上でデータの特徴を効果的に示す能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	基礎リテラシー科目群	情報処理	「プログラミングとは何か」を実際にプログラムを作成することを通して理解する。自分が意図した通りにコンピュータが情報を処理することができるよう試行錯誤していくことを通して、プログラムを完成させることが楽しいと感じ、プログラミングに興味を持つことができることを目標とする。C言語の基本的なルールについて学習し、プログラミングの基礎を理解するとともに、コンピュータが自分の意図した通りに正しく実行するようにしていくプロセスを繰り返し行うことでプログラミング技能を身につける。	
		基礎からわかるレポート作成	レポートや論文の作成技法を修得し、日本語表現能力を高めることができ、現代社会のかかえる様々なテーマについて関心を深めるとともに、自分の意見を形成していく方法を体得することができるを目指し、テキストを用いて作文技法の基礎を習得する。また、各人が設定したテーマについて、資料検索・収集、構想ノート作成に基づいてレポートを執筆し、クラスで口頭発表を行う。資料検索やレポート執筆はパソコンを使用して行い、コンピュータ技能の向上を図る。	
		基礎からわかる近代史	日本現代史の基礎的な知識や流れを学ぶことができることに加え、日本近代社会と現代社会とのつながり・断絶を理解することができるようになることを目指し、幕末・明治維新からアジア・太平洋戦争前後の日本歴史の流れを基礎から学び直す。その際は政治・経済方面だけでなく、軍事・教育・宗教・娯楽など、近代日本社会を構成していた諸要素にもしっかり目配りする。現代社会とのつながりや断絶について考察し、自らの歴史に対する視点を確立する。	
		基礎からわかる現代社会	現代の日本と国際社会における政治・経済・社会の土台をなすシステムについて、また、今日の私たちが直面し、解決を求められている諸課題について、他の全学科目および専攻分野での学修をつうじて知見を深めるうえで、また教養を備えた責任ある市民として、積極的に社会に参加するうえで必要な基礎知識を習得する。講義では、具体的な問題を題材にするなどして、情報をみずから収集し、得られた知識と合わせて分析する力も養う。	
		基礎からわかる数学	数学に関する基礎的な能力の向上をめざす。そのため、小・中・高で学んだ算数、数学のなかで、式の計算、速さ、面積、体積、方程式、不等式、関数、場合の数、順列、組合せ、確率、データの分析などを取り上げ、生活の中にある事例など具体的な問題場面を取り上げるながら、数学への興味・関心を高めながら、演習を通して自ら考え、問題を解決する能力を身につける。その際、SPI等の就職試験でも役立つ内容も視野に入れて授業を展開する。	
	基礎からわかる生物・化学	当該科目は、生物学・化学の基本的な知識や考え方を理解でき、習得できることを目的とする。内容は、生物・化学基礎の理解を改めて確認し、遺伝子と現代医学の潮流、細胞と癌、神経と認知症、エネルギー・代謝と糖尿病、免疫と感染症、血液と白血病など、病気と関連づけて分かりやすく生物学の本質の理解が深まるように講義・演習を行う。さらに、物質・溶液の化学、有機化学、生体を構成する物質などについて、簡単な内容に絞って講義・演習を行う。		
	一般教養教育科目群	生活の中の科学	自分自身の健康に関心を持ち、スポーツの実践や身体を動かすことの大切さの再認識とその実践意欲の高揚化をはかり、学んだ内容を自らの健康の維持、増進に生かしていく能力を養うことをめざし、人間の基本的な条件である健康について、主に運動生理学およびスポーツ医学、栄養学などの諸点から解説する。健康の概念を理解し、生涯にわたって自らの健康の保持増進をはかるためには何が必要であるのかを理解するために、本講義では健康管理に関連のある最新情報を紹介し、現代人にとって必要な健康維持に関する知識を理解する。	
		地球環境論	温暖化や希少生物の絶滅、環境汚染など、現在の地球環境は人類が克服困難な問題で溢れている。これらの問題は、さまざまな要因が複雑にからみあって形成されており、本質を理解するには幅広い視野で多面的に物事を捉える力が必要となる。この授業では、環境問題に対する取り組みについて学び、日本における過去の公害問題やその対策手法・技術から、地球環境と人類との関係について考えていく。環境問題に対する基礎的な素養を習得し、日頃から地球環境にやさしい行動を実践できるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	科学と現代	現代社会を支える科学・技術について、その歴史的発展過程を交えながら基本的な概念や考え方について講義する。講義の前半では、宇宙論と原子論の歴史的な変遷を取り上げる。講義の後半では、青色発光ダイオードやリチウムイオン電池といった身近にある科学・技術のトピックスを題材としてとりあげ、先端科学の知見とその歴史的背景を紹介する。現代社会における科学の意義や役割について自らの生活と関連付けながら考察していく。	
	数学と論理	「論理」は数学に限らず、あらゆる学問で、そして社会の健全な発展のために重要な概念、法則である。この能力を培うことができるのは、数学の知識によってではなく、各自が考えることによるのみ可能である。数学の言葉を記号化することによって、不偏的な数学語（数文）に翻訳することで、言語の異なる人々が、世界共通の「論理」で数学を理解できるようになる。代数的構造の主要な概念である「群」に関して、論理の展開を体験する。	
	統計学 1	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。統計学の初歩的で実践的な知識を身に付けることを目的に、記述統計学（資料の整理、代表値、分散と標準偏差）統計学の基礎（確率、確率分布、二項分布、正規分布）推測統計学（母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母平均の検定など）をExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して取り扱う。	
	統計学 2	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。この授業では、データを分析し、問題の原因を追及することができる能力を身に付けることを目指し、クロス集計や多変量解析などの基礎について具体的なデータをExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して理解する。	
	経営学 1	経営学に関する基本知識を理解、習得すると同時に、企業と産業の現実の動向を知り、特に「サプライチェーン」についての問題関心を養うことを目指して、巨大企業の存立を支える株式会社制度の形成や展開、その現代的な課題について考察していく。現代企業の具体的なあり方は、それぞれの産業における技術と市場、国ごとの条件に規定されて、多様である。ここでは、フレキシビリティの構築をキーワードとして、産業・企業の現実の動向を探っていく。	
	経営学 2	現代企業の環境変化への対応のあり方を探っていく。企業は、生産・流通を含むトータルなシステムとして、市場動向への迅速な対応を図ることが求められている。この授業では、まず事業システムとの関連において、マーケティング分野の基礎を理解する。次に中小企業に注目する。中小企業は巨大企業を軸とする企業システムを根底から支えるのと同時に、ベンチャービジネスとして、あるいは中小企業間での情報、物流ネットワークの形成によって、相対的自立性を備えて存在していることを理解する。	
	地理学 1	グローバル時代とよばれる現代、幅広い世界が舞台となり、多様な地域が強くむすびついてゆくなかで、異文化やその多様性の理解が求められる。この授業では、地球規模でみる自然環境や人間活動の関係を「文化圏とその地理的背景」というテーマでとらえる。具体的にはさまざまな「文化圏」（地域）を対象として、それぞれの文化圏がどのような環境下で成立・発展してきたのかという「地域の法則性」について考察するとともに理解していく。	
	地理学 2	グローバル時代とよばれる現代、「孤立」した都市はない。都市は「みえない糸」で複雑にむすびついている。そのむすびつきは地球規模で全世界に広がっている。また、都市は多くの人々の生活の舞台でもある。この授業では、「都市の地理学」をテーマにおき、都市の実態を日本、奈良県、天理市という地域スケールのちがいをみてゆく。そして、宗教都市である大学所在地の天理という場所をテーマにして、地域研究や地誌的な立場から、大学所在地としての身近な地域の「地理学」を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	日本国憲法	我々の生活に欠かせない法、特に憲法について学び、わが国の基本的な仕組みを説明できること、さらに、そのしくみについて批判的に検討できることを目指し、基礎知識であるわが国の統治機構について学び、憲法について現在問題となっている憲法の総論にあたる部分、すなわち憲法の成り立ち、基本原理、幸福追求権、平等権、表現の自由などの重要なトピックを取り上げる。また、憲法に関する新しい問題が発生したり、重要な憲法に関連する裁判所の判断（判例）が出た場合には、適宜授業の中で取り扱う。	
	法学	我々の社会生活において、法がどのような役割を果たしているのか、またどのように作用しているのか理解し、法学について、基本的な知識を体系的に身に付けるとともに、具体的な裁判例を検討して応用力を養うことができることを目指して、民事法、刑事法について学ぶ。民事法については、実体法である民法を主に取り上げ、財産や家族に関する争いを裁定する法である民法の概要を学び、刑事法については、手続法である刑事訴訟法を主に取り上げ、捜査や裁判の手続き、及びその運用についての問題点などを学び理解する。	
	経済学 1	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになるとともに、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになることを目指す。この授業では歴史を学ぶ前提として地理学の面白さを伝え、そのあと、古代中国のさまざまな発明からイギリス産業革命までをとりあげ、世界経済の発展をたどり理解する。	
	経済学 2	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになる。そして、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになる。この授業ではおもに20世紀と現在の世界経済をたどる。イギリス産業革命の影響からアメリカが独立し電力革命を経て20世紀の経済大国になるまでを理解する。また、中国経済の成長がアメリカ経済とデジタル面でどのような競争関係にあるかもとりあげる。	
	政治学	政治に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、学問的観点から政治と向き合うことができるようになることを目的とし、なぜ民主主義がふさわしい政治体制だとされているのか、民主主義は実際にどのように運用されているのか、政策はどのように作られるのか、といった点に加えて、これまでの政治学そのものに疑問を投げかける視点や国際政治について学ぶなかで、自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指す。	
	社会学	社会学の研究対象となるさまざまな領域について、日本を中心とした現代社会の事例を参照しながら、その代表的な領域に触れることで、社会学の学説史や主要概念とともに、社会的な見方や考え方の基本を習得する。講義では、行政統計やメディアの情報などを積極的に扱うことをつうじて、市民としての見解や行動をかたちづくる上で必要な情報やデータにどのようにアクセスし、それを読み取り、さらには活用していくかについても学修する。	
	民法 1	一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語などについて学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、民法の作用について、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
	民法 2	民法 1 に続いて、一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語等について学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	行政法 1	行政法の概要・基本原理を理解できること、行政法と行政の体系を理解できること、行政および行政法に関する知識を学びそれを身につけることができること、主体的に自立した市民として行政に参画できる能力を身につけることができることを目指し、行政法の基本原則を学んでいく。法学部生以外には、馴染みが薄い行政や行政法とは何かについて、身近な例を取り上げできるだけ理解できるように説明をしていく。そのうえで、法治主義、国や地方の行政とそれを支える公務員制度等を学ぶ。	
	行政法 2	国家補償法の概要に関する知識を得ること、国家賠償法と行政救済との関係について体系的な理解を深めること、行政により市民が被害や損害を受けたとき、どのような法的救済の仕組みがあるのかを理解できること、地方自治とは、どのようなものか深めることができることを目指し、行政法を具体化する行政と市民の権利利益を保護する行政救済法および救済制度を学ぶ。その際、事例（裁判例、判例）を主な素材にして具体的な行政救済法と救済制度を学ぶ。	
	哲学概論 1	古代から近代にかけての西洋哲学について、その概要を原典を読んで学ぶことを通じ、哲学者の考えに直に触れ、議論の論理展開を細かく追うとともに、その作業を通じて取り出された哲学的な問いを自らにひきつけて考察し考える。これらの一連のプロセスを通じて、哲学を学ぶとは、哲学者の名前や学派のキーワードや概要を暗記することではなく、先人の思考を引き受け、いまを生きる一人一人が自分の力で考えようとする営みであることを理解する。	
	哲学概論 2	哲学概論 1 で扱った古代から近代における哲学的問いの展開についての理解を元にしなが、西洋近代哲学について、著名な哲学者の原典（日本語訳）を取り扱う。内容の詳細な検討と理解にもとづき、自ら問いを設定し、それについて考えを記述するという一連のプロセスを何度か繰り返し、哲学という営みを実際に経験することを通して哲学的について理解するとともに、哲学的な見方や考え方を実際に活用できる形で身に付けていくようにする。	
	倫理学 1	倫理学という学問的な切り口から人間の現実をとらえる。とくに欧米の近現代の哲学者の倫理思想を紹介しながら、私たちの人間理解を豊かにしてくれるような、人間知としてより深められた倫理的人間学を探究する。そのために、倫理思想に関するいくつかのトピック（たとえば、重要な概念や思想家、思想潮流など）を説き起こしながら、倫理学の基礎となる人間観、および、哲学・倫理学の諸概念について考察することを通して理解する。	
	倫理学 2	倫理学 1 が倫理学基礎論をテーマとしたのに対して、倫理学 2 は応用倫理学を扱う。倫理学は正に、「人間が行動する筋道」を問う学問である。その守備範囲である、愛・幸福・自由・悪・正義などといったテーマは抽象的で近寄りがたいイメージを与えるが、実は誰にでも取り組める、親しみやすい学問である。応用倫理学の諸分野の中から、生命倫理、愛の倫理、政治倫理、宗教倫理、労働倫理、環境倫理などについて取り上げて検討する。	
	心理学 1	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、前半は「記憶」「知覚」「学習」などの心理学の基礎的な概念について、簡単な実験などを用いて体験的に理解できるよう授業を進め、後半は実際の人の心について、事例の紹介や心理テストの体験など通じて自分自身の心について触れる機会を設ける。	
	心理学 2	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、授業の概要 講義期間の前半と後半で、2つのテーマを取り上げる。前半は「心の発達」、後半は「無意識の世界」に関する内容となる。前半は、生まれてから現在の青年期に至るまでの心の発達の道筋をたどる。後半は、自分でもコントロールできない心の世界「無意識」について、その働きを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	ジェンダー・セクシャリティ	「性」とは何か、性の多様性とはどのようなことか。性的マイノリティとは何をいうのかを課題とし、セクシュアリティの内実を「生」と関連しながら、事例をもって紹介しつつ、現実起こっている「性」と「生」の問題に向き合う。現代の課題のひとつとして、「ジェンダーの視点」「ジェンダー平等」「セクシュアリティ」について、特に、文化や伝統、文化など、私たちの社会の精神的背景となっているものに、ジェンダーという視点を導入することの意義を検証していきたい。また、「男女共同参画社会基本法」や国際連合の世界女性会議を中心とした動向に注目する。	
	近現代の遺産と未来	21世紀の現代社会が抱える人権・差別問題とその解決について、マイノリティの視点から学ぶ。沖縄の歴史を学ぶことを通して、日本の近代化、とくに戦後の高度成長期に資本至上主義の価値形成のもとで深化した労働問題、女性問題、外国人差別、トランスジェンダーをはじめとする様々なマイノリティへの差別・排除という現代日本が抱える課題および冷戦期の政治的暴力が顕在化する社会を相対的に捉え直し、多様で異なる存在を相互に尊重することができる公平で成熟した本来の意味での近代社会を創造していくための視点を養う。	
	宗教と芸能	日本の古代から近世、近代のそれぞれの時代に展開していた、宗教を契機とした文化（芸能）に関して理解し、芸能が地域社会に支えられていることや、地域社会における芸能の特徴、役割、意味について説明することができることを目指す。主に扱う事例は、奈良で古い歴史を持つ春日若宮祭礼である。この祭礼には、雅楽・田楽・猿楽など多くの芸能が付随している。しかも歴史の中で変容しており、この変化を追うことで芸能から時代を投影することができる。このほか、南都の法会、地域の都市祭礼、おかげ参りについても言及する。	
	労働と社会	近年、労働形態の多様化により労働のありかたが変わることで、一国の経済状況のみならず、人々の生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与えている。この授業では、とりわけ19世紀後半から現代にかけての労働と労働に関する思想を中心に読みとくことで、現代社会の日々の日常のなかで労働のありようについて再考する。そのためには、労働そのものについて理解するだけでなく、それが社会の中でどのように機能しているか、そしてその背景を読みときながら、考察する。	
	障害学	障害には様々な側面（医学モデル、社会モデル、当事者視点等）があり様々な方向から考察していかなければならない。障害について思考することは各個人の生活や人権意識そのものに関わって行くものであり正解のない問いである。授業では障害観の歴史の変遷、医学モデル、社会モデル、障害者を取り巻く多くの事象を学び、学生自身も小中学校で経験してきた特別支援教育を振り返り、当事者視点、多様性について自分事として考えることを通して、共生社会を生きる基礎的な知識を身につけ行動力につながる学びとする。	
	世界の文学 1	世界文学とは世界的な普遍性を持つ文学であることを、作品の精読を通して理解するとともに、自分なりの解釈ができることを目指す。その手段としてその国や地域における固有の文化、思想、哲学について学び、時代精神を理解する。それでもなお残る謎や不可解な部分を掘り下げて追究し、文学作品に通底する人生の不可知について理解するとともに、もって人生についての考察を行うため、具体的な英文学の作品をいくつか取り上げて講義を行う。	
	世界の文学 2	世界文学を理解する手法の一つである比較文学研究を通して、ある国・地域固有の文化、時代精神、哲学がいかに越境し、相互に影響を与えていくかについて学び、世界文学の共通性、普遍性、文学そのものに内在する謎を掘り下げて追求する。テキストそのものを読み込む内在批評と同時に、テキストには書かれていない外在批評について学び、人類に普遍のテーマを知ることで、人生を生きる上での指針を得るため、英文学作品と日本文学作品を取り上げて講義を行う。	
	カルチュラルスタディーズ	カルチュラルスタディーズの方法論と研究調査は、1970-80年代のイギリスで盛んに行われ、1990年代半ばに日本社会に入ってきた。この授業では、カルチュラルスタディーズの核心である「文化と権力の間の関係」が欧米並びにアジアでどう展開しているのかを多様な文化を事例に解説していく。こうした学問の動向をふまえ、本授業では、受講生が各自で文化調査を実施し、多様な文化をとりあげるなかで、カルチュラルスタディーズの現状について学ぶとともに文化的格差の理解を試みる。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	宗教と現代社会	社会的存在としての人間にとって、宗教がいかなる意味や役割をもつのかという問いを基本に据え、その問いを、インターネット、災害支援、労働、生命倫理、戦争、スピリチュアリティといった、現代世界における多様な問題との関連という視点から具体的に考える。特に、伝統的な宗教の理解を踏まえながらも、その今日的な変容といった観点から、従来は宗教とは見做されていなかった領域において、「宗教的」な要素を見出せることを学ぶ。	
	人権と差別1	人類の多年にわたる歩みにおいて、宗教（宗教的なもの）は、人びとの精神形成や、人と人が取り結ぶ社会的関係の形成に大きな役割を果たしてきた。宗教は、人と人との関係をより望ましい方向に導いていくという肯定的な働きを果たすとともに、人びとの関係に歪みをもたらすという否定的な働きを示すこともしばしばあった。歴史のなかから宗教と差別の関係を読み解いていくことは、これからの社会を担う私たちにとても大きな意味を持つものだと考えている。この授業では、前近代日本社会の宗教と差別の問題について授業を進める。まず、人権や差別の定義、宗教の定義など基本的概念の確認を行ったうえで、古代から近世までの、部落差別問題を核として宗教と差別の関わりについて考察していく。	
	人権と差別2	これから社会人（教師も含む）になるにあたって、必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決をはかるか、自分で考えることができるようになることを目指し、社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る。事例などを交え、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、コミュニケーション力などが育成できるよう、より実践的な人権学習の方法を学ぶ。	
	日本手話A	聾者の言語である「手話」を学び、人と人との関わり方や「共生社会」構築のうえでどのように自らが寄与するのかを考える。「手話は言語である」の意味を説明できること、自己紹介を手話で表現できること等を目指す。2006年に国際連合で採択された「障害者の権利条約」を根拠として、言語としての「手話」について基礎から学び、日常会話に必要な手話単語の習得や、手話表現技術を学ぶ。随時、手話学及び障害学の講義、ビデオ学習を行う。	
	日本手話B	「日本手話A」の単位取得者を対象にする。聾文化を理解し、社会における人と人とのあり方を学び、「聾文化」について自らの言葉で説明できること、日常会話を手話で表現できることなどを旨とする。「聾文化」をテーマにして、聾者と聴者の世界の違いを踏まえ「共生社会」とは何なのか、受講学生とともに考える授業にしたい。日常会話は勿論のこと、ある程度の手話通訳が可能になるまでを目標として、実技演習を中心に進めていく。	
	アウトドアスポーツ	自然環境を活かして行われるアウトドアスポーツ（野外活動）について、いくつかの活動を取り上げ、生涯に渡って親しむために必要な知識・技能を身につける。アウトドアスポーツ（野外活動）の魅力、各種目に必要な知識・技術、自然の中で行われるがゆえの危険とその回避方法など、学外での実習を通して身につける。学外実習では、主に、カヌー、登山、ハイキング、キャンピングスノースポーツなどのアウトドアスポーツをおこなう。	
	レクリエーションスポーツ	レクリエーションスポーツは、誰でも、どこでも、気軽に楽しめるスポーツであり、既存のルールやコート、用具を簡素化したり、工夫したりすることで年齢に関係なく手軽に楽しめるスポーツである。本授業では、ウォーキング系、ボール系、自然系、ラケットバット系種目などの各種レクリエーションスポーツを行い、勝敗にこだわらないスポーツの楽しみ方を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいく基盤を構築する。	
	ニュースポーツ	ニュースポーツは、レクリエーションスポーツと同様に、新しく考案された各種スポーツで、軽スポーツや柔らかいスポーツとされるニュースポーツに触れ、楽しむことを目的とする。本授業では、ディスク系、ヒーリング系、スティック系、ロープ系の種目等を体験し、勝敗にこだわらないニュースポーツの楽しさ、創造性、柔軟性、独自性、多様性を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいくいわゆる生涯スポーツに繋げていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会教育学科専攻科目	生涯学習概論 1	<p>本科目は、「生涯学習概論 2」と共に、社会教育領域の初年次導入科目として、まず、生涯学習に関する基本的な知識を概説する。そのためにまず生涯学習の歴史的系譜を概観したうえで、次に、生涯学習社会の現状について理解する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯教育領域におけるもっとも基礎となる知識を習得し、それらを専攻における様々な学びや基本概念として「生涯教育」「生涯学習（社会）」「社会教育」の違いと関係を説明できるようになること。</li> <li>・関連する歴史や基本施策、制度、学習論についての理解を深め、実践活動に応用できるようになる。活動と結びつけて考えられるようになること。</li> </ul>	
	生涯学習概論 2	<p>本科目は、「生涯学習概論 1」に続き、社会教育領域の初年次導入科目として、生涯学習に関する基本的な知識を概説する。本科目においては、特に、生涯学習論の諸領域を概観することで、さらなる学習の基盤をつくる。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生涯学習概論 1」に引き続き、基本的な知識の獲得を目指し、特に「社会教育」に関する基本的な考え方や知識を習得して、自分なりに違和感なく社会教育の資料が読めるようになること。</li> <li>・生涯学習を支える「総合行政」「ネットワーク型行政」のあり方をイメージできるようになること。</li> <li>・生涯学習について、ローカルとグローバルの両面から考察できるようになること。</li> </ul>	
	教育学概論 1	<p>本科目は、「教育」という領域が学術的に探究すべきものであることを示しながら、教育に関する基本的な知識を紹介し、教育学の諸領域を概説する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育という領域について、学術的な視点から自分なりに考えることができるようになること。</li> <li>・教育に関する基本的な知識を理解することで、さまざまな教育現象について背景をふまえて論じることができるようになること。</li> <li>・教育を、人間関係学の中に位置づけて捉えることができるようになること。</li> </ul>	
	社会教育基礎演習 1	<p>本科目は、社会教育領域の初年次導入科目として、演習形式で学科の基礎的なスキルを形成する。社会教育学科における学習習慣の形成を支援するとともに、学科教員との交流、学科生どうしの交流を深め、相互の学び合いについて体感的に経験する場とする。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育学および社会教育実践について概観し、社会教育学科のカリキュラムの目標と編成について理解すること。</li> <li>・社会教育学科で能動的・主体的に学んでいくための基礎的なスキルを身につけること。</li> </ul>	
	社会教育基礎演習 2	<p>「社会教育基礎演習 1」に引き続き、初年次導入科目として地域の幅広い実践に触れ、その経験をもとに社会教育の意義や役割を省察的に学んでいくための基礎的なスキルを身につけることを目的とする。具体的には、「臨地文化施設実習」での現場経験を振り返るカンファレンス、その記録化、プレゼンテーション等の演習に取り組む、先述のスキルの向上を図る。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。専門が異なる複数の教員が毎回共同で授業を担当し、全体講義と小グループでの演習活動を組み合わせて授業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省察的なカンファレンス、記録作成、プレゼンテーションやディスカッション等を通じて、社会教育学科で能動的・主体的に学んでいくための基礎的なスキルを身につける。</li> <li>・現場経験やその省察を通じて、社会教育とのかかわりで自分自身の興味・関心や問題意識を醸成し、それを踏まえて本学科での学びの展望を表現できるようになる。</li> </ul>	
	生涯学習支援演習 1	<p>本科目は、「生涯学習支援論」で得られる知識をベースに、学習支援の技法の実際に触れるものである。学習者の多様性、学習理論と学習支援・ファシリテーションの具体的な技法についての知識を踏まえたうえで、演習形式を通じて授業参加者相互の学習経験および学習支援経験を積むことにより、それらに習熟していく。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習支援の技法の実際を知る。</li> <li>・演習形式で具体的な技法を用いた学習支援に習熟する。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会教育学科専攻科目	生涯学習支援演習 2	<p>本科目は、「生涯学習支援演習 1」に続き、「生涯学習支援論」で得られる知識をベースに、学習支援の技法の実際に触れるものである。特に、人権、環境、まちづくりなどの「現代的課題」に関する学びの機会を想定し、学びの様態と学習支援の実際について考え、演習形式を通じて授業参加者相互の学習経験および学習支援経験を積むことにより、それらに習熟していく。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的課題をテーマにした学びを自分たちでも実践できるようになる。</li> <li>・現代的課題にまつわる学習支援のポイントについて具体的に把握する。</li> </ul>	
	生涯学習支援論 1	<p>本科目では、学習者の多様な特性に応じた学習支援に必要な知識・技能の習得を目的として、生涯学習の理念や構造、学習理論、効果的な学習支援の方法、学習プログラムの編成、参加型学習の実際とファシリテーション技法等について、概説する。それらを踏まえて、地域の多様な学習活動の事例に学びながら、具体的な学習プログラムを構想・計画する演習に取り組み、生涯学習支援に必要な知識・技能の定着を図る。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における生涯学習の意義とその支援をめぐる課題について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>・学習者の特性や学習理論等を踏まえ、効果的な学習支援の方法について考え、提案することができる。また、そこで求められる学習支援者の役割について自らの考えを説明できるようになる。</li> </ul>	
	生涯学習支援論 2	<p>本科目では、「生涯学習支援論 1」とあわせ、生涯学習支援に関する専門的知識・技能の習得を目的とする。特に、例えば人権、環境、まちづくりなどの「現代的課題」に関する学びの機会を想定し、そこでの学びの様態と学習支援の実際について考える。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の現代的諸課題とその背景について、支援者に求められる知識を得ること。</li> <li>・現代的課題にまつわる学習支援のポイントについて理解すること。</li> </ul>	
	社会教育経営論 1	<p>本科目では、社会教育の展開をふまえ、現代において必要とされる社会教育経営の視点や考え方について概説する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的展開等を踏まえ、社会教育の特質をつかむ。</li> <li>・現代社会の特質としての学習ニーズの多様化と高度化の内実について検討する。</li> <li>・現代の社会教育行政に関する枠組みについて理解を深める。</li> <li>・社会教育施設の運営に関する現代的な課題を整理する。</li> <li>・経営の視点から社会教育の今後について議論を深める。</li> </ul>	
	社会教育経営論 2	<p>本科目では、「社会教育経営論 1」に続き、社会教育に評価的思考を持ち込むことの意義と課題について概説する。また、ステークホルダーの協働による学習環境の醸成について、具体例を通して考える。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材のネットワーク化・協働が求められる背景と具体例を検討し、必要性和課題について説明できる。</li> <li>・社会教育の評価に関する意義と課題について理解を深める。</li> <li>・社会教育経営の視点から求められる広報・広聴について検討する。</li> </ul>	
	社会教育経営論 3	<p>多様な主体の連携・協働を図りながら、住民の学習活動を地域社会の持続的発展へとコーディネートしていくための基本的な知識と技能を身につけることを目的とする。具体的には、社会教育行政の仕組み、社会教育施設の事業と運営、学習成果の評価と活用、地域人材の育成、地域ネットワークの形成等について概説する。その上で、社会教育をめぐる近年の動向や論点、実際の実践現場を取り巻く環境変化を踏まえ、社会教育士・社会教育主事をはじめとするコーディネーターに求められる役割について受講者同士のディスカッションを通じて考えていく。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における住民主体の学習活動の意義を再確認した上で、社会教育経営の視点に立ってそれを支える環境、条件、制度や仕組み、現状と課題を説明できる。</li> <li>・具体的な施設をとりあげ、社会教育経営の視点からその施設運営や事業の特徴を調べ、説明することができる。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会教育学専攻科目	社会教育経営論 4	<p>本科目では、「社会教育経営論 3」に引き続き、特に「地域文化の創造・継承・発展」というテーマの下、社会教育に求められる役割や課題について考える。受講者の「社会教育実習」での経験をさらに深める形で実践事例をとりあげ、住民主体の文化芸術活動を地域社会の持続的発展へとつなげるために必要な環境や支援について学ぶ。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会教育経営論 3」の内容を敷衍しながら、「地域文化の創造・継承・発展」を支える社会教育に固有の役割、それをそれを支える環境、条件、制度や仕組み、現状と課題を説明できる。</li> <li>・「社会教育実習」等でかかわった文化施設・社会教育施設での経験を社会教育経営の視点から振り返り、その施設運営や事業の特徴を説明することができる。</li> </ul>	
	文化スポーツ支援論 1	<p>生涯学習社会においては、市民の文化活動・スポーツ活動は重要な役割を果たしている。本科目では、「文化スポーツ支援論 2」と合わせ、そうした文化・スポーツの領域での生涯学習支援を行う際の基本的な知識・技術について紹介し概説する。特に本科目では、文化・スポーツ活動の社会的背景について論じる。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習社会における文化活動・スポーツ活動の役割について説明できるようになる。</li> <li>・今日の社会における文化活動・スポーツ活動について基本的な知識と背景を説明できるようになる。</li> </ul>	
	文化スポーツ支援論 2	<p>本科目では、「文化スポーツ支援論 1」に引き続いて、生涯学習社会における市民の文化活動・スポーツ活動について、基本的な知識・技術を紹介する。特に本科目では、それらの活動を支える具体的な学習支援の観点から考察する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化活動・スポーツ活動について、学習支援の役割について説明できるようになる。</li> <li>・今日の社会における文化活動・スポーツ活動の学習支援について基本的な知識と背景を説明できるようになる。</li> </ul>	
	社会教育特講 1	<p>本科目は、「現代社会と社会教育」をテーマとする。現代社会において社会教育がどのように営まれ、またどのようなものであるべきなのかを概説するとともに、現代社会が抱える具体的な諸課題をとりあげながら、社会教育の果たしうる役割を論じる。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における社会教育のありかたについて、説明できるようになる。</li> <li>・現代社会のさまざまな課題に関連して社会教育の果たしうる役割を説明できるようになる。</li> </ul>	
	社会教育特講 2	<p>本科目は、「シティズンシップと公共性」をテーマとする。変化する社会の中で人間らしく生きていくために、自分たちの未来を自分たちでつくる創造的な学びとその支援がますます重要となってくる。あらゆる人々が主体的に社会に参加・参画し、共に生きる社会をつくっていくために社会教育に求められる役割を概説するとともに、受講者同士のディスカッションを通じてその現状と今後の課題を考える。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びの公共性」という視点に立って、これまでの社会教育の歴史的な展開とこれからの課題を説明できるようになる。</li> <li>・よりよい社会をつくる民主主義的なプロセスにおいて、社会教育に求められる役割と課題を考え、説明できるようになる。</li> </ul>	
	社会教育特講 3	<p>本科目は、「文化政策と社会教育／文化資源とまちづくり」をテーマとする。国や地方自治体が進める文化政策を企画推進し、文化の伝承・発展を企図しているが、地域住民が地域の文化遺産・資源を知り、自発的に伝承・発展をすすめるための、社会教育の役割について概観する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国や地方自治体が進める文化政策の根拠や仕組み、実態を説明することができる。</li> <li>・地域の文化遺産・資源を地域住民と共に確認し、伝承・発展するための企画・立案することができる。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会教育学科専攻科目	社会教育特講 4	<p>本科目は、【地域生涯スポーツと社会教育】をテーマとする。ひとびとが生涯スポーツに親しむばあい、その環境として、地域社会が重要な役割をおびることになる。本科目では、社会教育の観点から、地域社会とのかかわりにおいて生涯スポーツの現状と課題を概説する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会で展開する生涯スポーツの現状の概要を説明できるようになる。</li> <li>・社会教育の観点から地域生涯スポーツの課題について説明できるようになる。</li> </ul>	
	生涯学習特論 1	<p>本科目は、【文化芸術実践論】をテーマとする。地域で展開されている多様な文化芸術実践をとりあげ、生涯学習という視点からその意義や価値を概説する。また、実際に演出家やアーティストを迎えてワークショップ等の演習を経験することで、対話と表現を重視した学習支援のあり方、アートプロジェクトの地域的・組織的な展開にかかわる知識を修得する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくりや生涯学習のかかわりにおいて、文化芸術実践の意義や可能性を説明できるようになる。</li> <li>・文化芸術実践に固有の学びの特性を理解し、その学習を支援する方法について説明できるようになる。</li> </ul>	
	生涯学習特論 2	<p>本科目は、【ビジネスファシリテーションと生涯学習】をテーマとする。ひとびとの集団の活動を促進するファシリテーションは、現在、さまざまな領域でその必要性が強調され始めている。本講義では、広義のビジネス場面あるいは社会生活において私たちが直面する課題を解決する技法としてのファシリテーションについて、生涯学習の視点から論じる。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決の技法としてのファシリテーションの基本的な視点と知識について、生涯学習の視点から説明できるようになる。</li> <li>・ビジネス場面あるいは社会生活においての実務的課題について、ファシリテーションの技法を取り入れることができるようになる。</li> </ul>	
	生涯学習特論 3	<p>本科目は、【NPOとまちづくり】をテーマとする。NPOが地域に根ざした活動を展開していく中で、そこにかかわる多くの当事者・参加者・スタッフの多様な学びの機会が生まれている。NPOの理念、制度や歴史、近年の動向を概説した上で、特にまちづくりの実践に注目し、その中で生まれる学びの固有性を考察する。授業内でNPO関係者との交流し、具体的な実践の現状と課題を学び、生涯学習支援という視点から課題解決の可能性をディスカッションする機会を設定する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOをめぐる基本的な知識を理解し、その意義、現状や課題を説明することができるようになる。</li> <li>・生涯学習の視点に立ち、住民主体のまちづくり実践の意義やその支援のあり方について考え、説明することができるようになる。</li> </ul>	
	生涯学習特論 4	<p>本科目は、【地域社会と学校経営】をテーマとする。「地域学校協働」をめぐる議論の経緯を概観し、実践の成果と課題について検討する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援地域本部から地域学校協働への展開について検討し、変化の背景について説明できる。</li> <li>・学校運営協議会制度についての枠組みを理解し、学校経営に同制度が組み入れられることになった経緯と意義について理解する。</li> <li>・「地域と共にある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」のそれぞれが目指す姿を検討し、それらを両輪として一体的推進が目指される意義について議論を深める。</li> </ul>	
生涯学習特論 5	<p>本科目は、【地域文化教育政策と法制度】をテーマとする。地域文化教育政策に関わる法制度を踏まえ、特に生涯学習の視点から、地域において「文化」の位置づけ・意味づけ、地域の文化資源の活用の実態を概説し、その現状と課題について検討する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域文化教育政策に関わる法制度を理解し、説明できる。</li> <li>・生涯学習の視点に立ち、地域における文化資源の活用にかかわる現状と課題について理解し、説明できる。</li> </ul>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会教育学科専攻科目	生涯学習特論 6	<p>本科目は、【プロジェクトマネジメント論】をテーマとする。社会教育あるいは生涯学習という視点に立ってプロジェクト型の活動を支援するためには、プロジェクトマネジメントの知識と技法を身につけておくことがのぞましい。本講義では、具体的なプロジェクトの全体像を把握し、実際にその運営を経験する演習に取り組みながら、マネジメントにかかわる基本的な知識や手法を実践的かつ省察的に身につけることを目的とする。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトマネジメントの意義や視点を理解し、説明できるようになる。</li> <li>・具体的な事例に即してプロジェクトマネジメントの手法や手続きを考え、説明できるようになる。</li> </ul>	
	生涯学習特論 7	<p>本科目は、【知的財産管理論】をテーマとする。知識基盤社会において、技術だけでなくコンテンツやデザイン、ブランドなどの知的財産を適切に活用し、社会に活かすために、知的財産マネジメントがより重要になっている。知的財産を管理するためのスキルについて概観し、知的財産管理スキルを高める。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産について、対象や法令について説明ができる。</li> <li>・知的財産を管理するための理論と実務的な運用ができる。</li> </ul>	
	生涯学習特論 8	<p>本科目は、【ICTと社会教育】をテーマとする。情報通信社会の急速な進展や新型コロナウイルス感染症対応をきっかけに、生涯学習・社会教育においても対面・集合形式の学習活動を補うICT活用の促進が課題となっている。人間社会とテクノロジーの関係性を考察しながら、これからの生涯学習と地域づくりを支えるICT活用の知識と技能を身につける。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習・社会教育におけるICT活用の動向を踏まえ、その可能性と課題について考え、説明することができるようになる。</li> <li>・ICTの効果的な活用という面から、既存の地域事業の支援や新規事業のアイデアを提案できるようになる。</li> </ul>	
	図書館情報学概論	<p>本科目では、図書館及び図書館情報学の概要を学ぶとともに、図書館の歴史と現状、図書館の生涯学習社会での役割や地域の情報拠点としての重要性並びに意義を認識し、あわせて他の社会教育機関との連携等に関する基礎的知識を修得することで専門的職員である司書の基礎となる能力と態度を養う。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館及び図書館情報学に関する基礎的知識を得ることで、この領域に興味をもつ。</li> <li>・図書館の社会的役割の重要性と意義を認識し、専門性の基礎となる能力と態度、知識を養う。</li> </ul>	
	図書館サービス概論	<p>情報活用能力が必要とされる知識基盤社会において、その地域の情報拠点である図書館は利用者のニーズに応じて必要な資料や情報を提供するサービス、いわゆる図書館サービスを行っている。中でも公共図書館は社会教育施設として利用者にとって最も身近な存在であり、生涯を通じて利用できる施設である。本科目では、公共図書館サービスの役割と意義、機能など基本的な考え方を理解し、専門的職員である司書の基礎的な知識とスキルを修得する。</p> <p>本科目の到達目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共図書館における各種サービスについて、目的や意義などが説明できる。</li> <li>・図書館サービスについて、地域の事情にあわせた企画ができる。</li> </ul>	
	図書館マネジメント論	<p>本科目では、図書館及び図書館サービスに関する法制度を理解した上で、図書館になぜ経営の視点が必要であるかを考える。社会的機関である図書館を運営上認知しなければならない法制度、関連法規について、法体系からの視点と行政機関としての視点から、関係する法規も含めて解説する。制度を前提に、図書館組織を経営していく上での現状と課題について説明するとともに、その知識をもとに、近年の感染症への対応やデジタル化、危機対応などの個別具体的な課題について議論し、実践的な問題解決能力を修得する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館及び図書館サービスに関わる法制度などの法的根拠を理解し、説明できる。</li> <li>・図書館経営上の現状と課題について理解し、これからの社会環境をもとに考察し説明できる。</li> <li>・個別の図書館が置かれた環境に応じて、図書館サービスや運営方針等を立案するなど図書館運営について説明できる。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会教育学科専攻科目	図書館情報学基礎特論	<p>本科目では、地域の情報拠点である公立図書館の役割について理解を深めるために、「地域資料」に焦点を当てる。「郷土資料、地方行政資料」を、この授業ではまとめて「地域資料」として扱い、その実態を確認しつつ、これを公立図書館で収集・保存しサービスする上での意義・現状・課題について概観する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域資料」と呼ばれる多様な資料・情報について、その具体例を理解する。また、地域資料を収集・保存する図書館や、文書館・博物館などの類縁機関の役割を理解する。</li> <li>・また、自分の身近な地域（市町村）の公式ウェブサイトを精査することで、その地域の特色や、情報発信の現状、またその利点・欠点を理解する。</li> <li>・これらの点を踏まえ、「地域のことを知る」意義や課題について、履修者自身にとって身近な地域に引きつけて理解する。</li> </ul>	
	図書館とメディアの歴史	<p>本科目では、日本の歴史的な文化資源である日本古典籍資料について、地域における受容過程も含めてその特徴について概観する。また、地域の情報拠点である公共図書館にも日本古典籍資料や文化資産があり、それらを活用するための業務の大まかな全体像について理解する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・典籍や文書を中心とした各種の記録メディアの発展の歴史と情報伝達や情報受容に関する特性を説明することができる。</li> <li>・記録メディアを収集し、地域の情報拠点である図書館の発展の歴史として、起源から現在のような民主的な図書館にいたる経緯を説明することができる。</li> </ul>	
	文化政策学概論	<p>本科目では、文化政策の基本的な知識を概説する。特に、地域の文化行政および社会教育に携わる能力の基礎として、文化政策にかかわる理念や思想、歴史、現状と課題といった基本的な知識と視点について、具体的な地域文化施策や事例などを踏まえて紹介する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の文化政策の基本的な知識を理解し、説明することができる。</li> <li>・地域における文化行政や社会教育の現状を、文化政策と結び付けて説明することができる。</li> </ul>	
	地域産業論	<p>本科目は寄付講座として、地域産業界の協力を得て地域と産業のについて直接学ぶ。奈良県内には長年地域社会の中で培われてきた伝統的産業があり、他方近代以降に新たに興された産業もある。奈良県という地域と産業との結びつきは時代と共に変化しているが、ICTの進展による産業の在り方と情報やものの流通という外的要因の影響も考慮しながら、地域産業の在り方とまちづくりの視点から地域と産業の関わりや地域の取組について考える。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会にある新旧の産業の実態と変化を説明できる。</li> <li>・地域産業のありかたを学習や文化の視点から捉え自分の考えを述べることができる。</li> </ul>	
	地域金融論	<p>本科目は寄付講座として、地域金融界の協力を得て地域共創と地域経済産業について直接学ぶ。地域金融機関は、地域経済と地域中小企業の担い手として社会的に大きな責任を果たしている。地方共創の視点から、地域から期待される地域金融機関の役割と地域における地域金融機関の存在意義について理解するとともに、金融の基本的なことから今後の地域経済の発展にとって、いかなる金融の役割が求められているかを考える。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の実態を経済と金融という視点から理解し説明できる。</li> <li>・地域金融のあり方を共創の視点からとらえ自分の考えを述べることができる。</li> </ul>	
広報・PR論	<p>本科目は寄付講座として、広告業界の協力を得て地域共創を想定し、効果的で倫理的な戦略的コミュニケーションのあり方について直接学ぶ。現代のメディア環境は誰もが情報の発信者となりうる。地域共創を進める上で地域社会とのよりよい関係性を構築し維持すること（パブリック・リレーションズ）しなければ活動が成り立たない。さまざまな広報媒体の特性やリスクなど、広報・PR活動についての基本的な知識やスキルの修得と理解を目指す。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的なメディア環境と地域の関係性をふまえた広報・PRの役割を理解し説明できる。</li> <li>・さまざまな広報媒体の特性について基本的な知識を持ち、地域共創における広報戦略を自分なりに考えることができる。</li> </ul>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会教育学科専攻科目	臨地文化施設実習	<p>本科目では、社会教育を専門的に学ぶための導入の一環として、地域にあるさまざまな社会教育施設・文化施設にアクセスし、実地にて見学実習に取り組む。担当教員の指導の下に、「社会教育基礎演習2」と連動しながら、社会教育実践の現場に参加し、そこでの経験について、振り返りや意味づけをおこなう。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にあるさまざまな社会教育・文化施設にあらためて目を向け、実地に触れる経験をもとに、それらの意義や特徴を説明できるようになる。</li> <li>・さまざまな施設でいとなまれている実践に触れながら、自分の興味・関心や問題意識につながる糸口を見つけ、それを表現できるようになる。</li> </ul>	
	野外教育実習	<p>本科目では、社会教育・生涯学習の領域で自然の中での体験活動の振興が重要なテーマのひとつとなっていることを踏まえ、実際の野外活動プログラムに参加する実習形式を通じて、参加者自身が体験的に経験を積むとともに、その支援にあたる野外活動に関する基礎を実践的に理解する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野外教育にかかわる専門的、実践的知識・技能を習得し、説明できるようになる。</li> <li>・自然の中での体験活動を学習プログラムとして企画できるようになる。</li> </ul>	
	プロジェクト実習1	<p>本科目では、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間（45時間）以上の実習を行う。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。</li> <li>・プロジェクトに参加する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。</li> </ul>	
	プロジェクト実習2	<p>本科目では、「プロジェクト実習1」を履修したうえでさらに、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間（45時間）以上の実習を行う。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。</li> <li>・プロジェクトに参加する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。</li> <li>・プロジェクトのなかで、より新規の参与者に対して指導的にかかわることができるようになる。</li> </ul>	
	プロジェクト実習3	<p>本科目では、「プロジェクト実習2」を履修したうえでさらに、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間（45時間）以上の実習を行う。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。</li> <li>・プロジェクトに参加する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。</li> <li>・プロジェクトのなかで、より新規の参与者に対して指導的にかかわることができるようになる。</li> </ul>	
	プロジェクト実習4	<p>本科目では、「プロジェクト実習3」を履修したうえでさらに、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間（45時間）以上の実習を行う。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。</li> <li>・プロジェクトに参加する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。</li> <li>・プロジェクトのなかで、より新規の参与者に対して指導的にかかわることができるようになる。</li> </ul>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会教育学科専攻科目	プロジェクト実習 5	<p>本科目では、「プロジェクト実習 4」を履修したうえでさらに、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間（45時間）以上の実習を行う。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。</li> <li>・プロジェクトに参与する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。</li> <li>・プロジェクトのなかで、より新規の参与者に対して指導的にかかわることができるようになる。</li> </ul>	
	プロジェクト実習 6	<p>本科目では、「プロジェクト実習 5」を履修したうえでさらに、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間（45時間）以上の実習を行う。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。</li> <li>・プロジェクトに参与する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。</li> <li>・プロジェクトのなかで、より新規の参与者に対して指導的にかかわることができるようになる。</li> </ul>	
	地域協働実習	<p>本科目では、社会教育・生涯学習の領域において、地域との協働が重要なテーマの一つとなっていることを踏まえ、大学はじめ複数の主体が協働している事業での実習を通じて地域協働の基本を実践的に理解する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協働についての基本的な知識を修得し、説明できるようになる。</li> <li>・実習を通じて、協働活動のなかでおこる課題を発見し、ふりかえりのなかで一定の知見を持つことができるようになる。</li> </ul>	
	社会教育実習 1	<p>本科目では、社会教育の現場に出て、社会教育職員としてのインターンシップ活動に臨む。仕事の中で、実際の地域社会における社会教育の意義や課題についても経験的に考えていく。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の仕事内容や心得について理解し、実習を通じて社会教育士としてのマインドを育む。</li> <li>・実習の記録をもとにクラス全体に実習の成果をフィードバックして、社会教育および社会教育士の活動に関する地域による特徴や違いをつかむ。</li> <li>・現場の状況と大学で学ぶ知識を結び付けて考えられるようになる。</li> </ul>	
	社会教育実習 2	<p>本科目では、社会教育士として活動するために必要な資質及び能力の総合的な定着を図ることを目的として、地域の文化芸術実践にかかわる行政・施設・団体での現場実習に取り組む。さらに、実習での経験を振り返って表現することでその意味をつかみ直し、地域における社会教育及び文化芸術実践の意義や課題について理解を深める。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や施設等の状況を調査・把握し、社会教育をとりまく制度や仕組み、仕事への理解を深める。</li> <li>・社会教育現場での施設運営や学習支援を実践し、そこで求められる知識・技能についても説明できるようになる。</li> <li>・実習での学びを振り返って言語化し、記録やプレゼンテーションを通じて広く共有することができるようになる。</li> </ul>	
	社会教育演習 1（コーディネーター支援）	<p>本科目では、コーディネーターをはじめとした社会教育における学習支援に関わる役割について確認し、学習支援者が直面する課題を整理する。そのうえで、学習支援者の活動をサポートできる方策について受講生が主体的に検討する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援者の役割と課題について理解を深める。</li> <li>・個々の実践を俯瞰して、学習支援者が活動しやすい環境や仕組みづくりを考えるための問いが立てられるようになる。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会教育学専攻科目	社会教育演習2（コーディネーター支援）	本科目では、個人、またはグループで、学習支援者の活動をめぐる問いをもとに研究テーマを設定し、必要に応じて社会調査を行いながら、自分なりの結論を発表する。 本科目の到達目標は以下のとおりである。 ・コーディネーター／学習支援者の抱える課題に目が向くようになる。 ・演習での活動を通じて学科の専攻科目で学んでいる知識等を関連させて活用できるようになる。 ・関連するテーマの探究活動を通して、コーディネーター等の支援を今後を考えていくポイントについて自分なりにつかむことができる。	
	社会教育演習1（文化行政）	本科目は、社会教育を専門領域として探究するために必要となる知識と技術を習得するための演習である。本演習では、特に文化行政の領域を中心として演習を行う。 本科目の到達目標は以下のとおりである。 ・特に文化行政との関連において社会教育を専門的に探究するための専門的文献や資料を適切に読解・活用できるようになる。 ・専門的文献や資料等を読解し、具体的な支援のアクションを計画できるようになる。 ・自らの興味・関心に引き寄せて探究していきたい研究課題を検討し、その内容を説明できるようになる。	
	社会教育演習2（地域文化共創）	本科目は、社会教育を専門領域として探究するために必要となる知識と技術を習得するための演習である。本演習では、特に地域文化を基盤とした新たな可能性を探究する演習を行う。 本科目の到達目標は以下のとおりである。 ・特に地域の文化資源との関連において社会教育を専門的に探究するための専門的文献や資料を適切に読解・活用できるようになる。 ・専門的文献や資料、データ等を読解し、具体的な支援を実践できるようになる。 ・自らの興味・関心に引き寄せて探究していきたい研究課題を検討し、その内容を説明できるようになる。	
	社会教育演習1（文化スポーツ支援）	本科目では、社会教育を専門領域として探究するために必要となる知識と技術を、演習形式を通じて習得する。本演習では特に、文化およびスポーツ活動の領域を中心として演習を行う。 本科目の到達目標は以下の通り。 ・特に文化およびスポーツ活動について、社会教育を専門的に探究するための専門的文献や資料を適切に読解・活用できるようになる。 ・専門的文献や資料、統計データ等の読解を、具体的な支援のアクションに結び付けて説明できるようになる。	
	社会教育演習2（文化スポーツ支援）	本科目では、「社会教育演習1（文化スポーツ支援）」に引き続いて、社会教育とくに文化およびスポーツ活動の領域を中心として専門的に探究するために必要となる知識と技術を、演習形式を通じて習得する。また、その知識・技術をみずからの関心に引き寄せ、次年度の卒業研究に結びつける準備をおこなう。 ・特に文化およびスポーツ活動について、社会教育を専門的に探究するための専門的文献や資料を適切に読解・活用できるようになる。 ・専門的文献や資料、統計データ等の読解を、具体的な支援のアクションに結び付けて説明できるようになる。 ・身につけた専門的知識・技術を、みずからの関心に引き寄せてひとつの研究課題として説明できるようになる。	
	社会教育課題研究1	本科目は、社会教育の領域において、みずからの問題意識に沿って研究課題を設定し、その課題について研究を進める演習科目である。具体的には、本演習を卒業論文あるいは卒業課題研究の作成に結びつける。各自が本学科で修得してきた専門的知識・技術を総合して自身の中に完成させることを目的とする。 本科目の到達目標は以下のとおりである。 ・社会教育の領域で自らの問題意識を育てることができる。 ・自らの問題意識に沿って研究を組織し卒業論文あるいは卒業課題研究の作成に結びつけることができる。	
	社会教育課題研究2	本科目は、「社会教育課題研究1」につづき、社会教育の領域において、みずからの問題意識に沿って研究課題を設定し、その課題について研究を進める演習科目である。具体的には、本演習を卒業論文あるいは卒業課題研究の完成に結びつける。各自が本学科で修得してきた専門的知識・技術を総合して自身の中に完成させることを目的とする。 本科目の到達目標は以下のとおりである。 ・社会教育の領域で自らの問題意識を育てることができる。 ・自らの問題意識に沿って研究を組織し卒業論文あるいは卒業課題研究の完成に結びつけることができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会教育学科専攻科目	卒業課題研究	<p>本科目は、4年間の学修の集大成である。関心のある対象・テーマに関して、研究を進めたうえで、それをもとに論文という形式をとらない制作物を作成し、プレゼンテーションを行う能力を養成する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに関する体系的な情報収集および経験的研究ができる。</li> <li>・収集された情報を踏まえたうえでみずからの研究から独自の意見を形成できる。</li> <li>・研究の成果を論文の形式をとらない制作物として表現しプレゼンテーションできる。</li> </ul>	
	卒業論文	<p>本科目は、4年間の学修の集大成である。各人の関心のある対象・テーマに関して、先行研究を渉猟することで領域の先端的知見の到達点を踏まえながら、自身の調査研究を計画・実施し、その結果にもとづく独自の意見を形成し、説得的かつ論理的な論文という形式の文書を作成する能力を養成する。</p> <p>本科目の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究に関する文献調査ができる。</li> <li>・テーマに関するフィールド・アンケート調査ができる。</li> <li>・独自の意見を形成できる。</li> <li>・論文という形式の論理的な文書を作成できる。</li> </ul>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
天理 教学 部門	伝道実習 1	天理教の信仰に関する講演会、教会本部や大学構内でのひのきしん活動などを通じて他者へ貢献することの意義を学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふべく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に主体的に貢献できる人間になることを目的とする。具体的には、大学行事である「おつとめまなび」への参加、毎月1回のひのきしん活動への参加、「信仰フォーラム講演会」への出席とそれぞれに関する感想文ないし報告書を提出する。	
	伝道実習 2	天理教の信仰に関する講演会、天理教教会本部における「お節会」のひのきしんなどを通じて人とつながり、人につくすよるこびを学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふべく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に貢献できる人間になることを目的とする。「おつとめまなび」に参加し、講話についての感想文を提出する。また、教会本部お節会のひのきしんや「信仰フォーラム講演会」に出席し、その感想文を提出する。	
	伝道実習 3	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の「祭儀式」における所作と重要な祭儀である「つとめ」の「おてふり」について、実習を通して学ぶ。それぞれ、教会本部より講師を招き、直接指導を受ける。それぞれの授業の最終日に、天理教の祭儀に関する基礎的な知識と所作、「つとめ」の手ぶりについて筆記・実技の試験を行ない、習熟を促す。	
	伝道実習 4	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の重要な祭儀である「つとめ」において使用する「鳴物」について、実習を通して学ぶ。教会本部より講師を招き、いくつかのグループに分かれて直接指導を受ける。最終の2回は、全体で九つの鳴物をあわせる総合練習を行い、鳴物の基礎的な知識と奏法だけでなく、それぞれの鳴物が合わせあって勤めるというつとめの心構えを学ぶ。	
資格 科目	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か?」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力(話す・聞く・書く・読む)の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞(名詞、動詞、い形容詞、な形容詞)の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態(ます形、辞書形、て形、た形、ない形など)のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類)をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	
人文 科学 部門	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か?」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力(話す・聞く・書く・読む)の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞(名詞、動詞、い形容詞、な形容詞)の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態(ます形、辞書形、て形、た形、ない形など)のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類)をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 人文科学部門	日本語文法論 2	「日本語文法論 1」の内容をもとに、主に日本語教育の初級段階で導入される重要な文法事項について考える。「ハとガ」「授受の表現（あげる・くれる・もらう）」「ヴォイス（受身・使役）」「動詞の自他」「テンス」「敬語」などを取りあげ、日本語学習者が難しいと感じる点、学習者の誤用が現れやすい点などを、諸言語との対照もまじえながら、わかりやすく説明するにはどうすればよいかについても考える。学生の積極的な意見交換が求められる。	
	日本語音声学	日本語の発音・アクセントの特徴とそれを教えるための留意点を整理したうえで、他言語を母語とする学習者が日本語の音声を学ぶ際に誤りやすい点について考える。具体的には、日本語の音声の調音点・調音法、日本語の高低アクセントの実態、日本語の母音の無声化の現象などの理解をもとに、ともすれば「お国ことば」が混じりやすい主に関西出身の学生の日本語の発音を、日本語教師として通用するようなよりスタンダードなものに変えることを目指す。	
	言語の対照研究	日本語教育において、学習者の困難点を予測し、誤りの原因を推測し、適切な教材・カリキュラムを作るには、学習者の母語と日本語との比較・対照が必要である。それらを研究対象とする対照言語学について学ぶ。この授業ではまず、日本語と英語の文法的な相違を概観したうえで、中国語圏日本語学習者が誤りやすい文法事項現象について解説する。そのうえで、履修者が学習する外国語の知識も生かしながら、諸言語と日本語の対照も行う。	
	日本語教授法 1	現在国内外の日本語教育現場では、どのような学生が、どのような機関で、どのように学んでいるのかを理解する。日本語教師の資質、教員の検定試験についても概説する。次に、指定教科書を使って、学習項目のたて方、練習方法、教具や教室活動などを分析し、実際の授業がイメージできるようにする。授業前半では、国際交流基金の調査をもとに、世界の日本語教育の実態についての発表を行う。後半は数種の日本語教材の内容を精査し、効果的な授業の進め方について考える。	
	日本語教授法 2	履修者が日本語の授業を担当するために必要な知識やスキルを身につける。まず、いろいろな外国語教授法について学び、それぞれの長所・短所について議論しながら、実際の授業に応用できないか考える。次に、それらの教授法を用いて、模擬授業を行ってみる。履修生に「日本語を日本語で教える」ことの難しさ・奥深さを感じてもらおうことが狙いである。この授業は、4年次で取り組む日本語教育実習に向けた準備段階と位置づけられる。	
	第二言語習得論	「外国語がどのように習得されるか」にかかわる普遍的なプロセスを多角的に学ぶ。例えば、「子どもは大人よりも外国語学習が得意か?」「インプットとアウトプットのどちらが大事か?」「大人も子供が母語を学ぶのと同じように学ぶべきか?」などのさまざまな疑問を切り口として、日本語教育に役立つような知見の獲得を目指す。そしてその知見を日本語教育の現場で生かすための実践的な取り組みを、授業で見られる具体的なケースをもとに討論する。	
	日本語指導法	4年次で取り組む「日本語教育実習」にそなえ、教壇に立つ経験を積むことを目指す。『みんなの日本語初級 I』をテキストに、担当の文型を教えるための30分程度の模擬授業を行う。あわせて、授業の教案の書き方についても学ぶ。履修者が担当するのは、「て形」「辞書形」「ない形」「た形」の導入およびその説明、運用のための練習に加え、「～がほしいです」「～たいです」「～がわかります」「～が上手です」などの文型である。	
	日本語教育評価法	実際の教育にあたる者は学習者の表現をどのように評価すればよいのかを考える。また、選択されている教材について、不足部分を検討し、副教材作成に至るまでの教材開発の流れについて知る。日本語教育における評価の実態、コースデザインと教材の関連性、教材開発の手順、ニーズ調査方法と留意点、主教材の分析と評価、分析結果に基づいたコース・デザイン、教材作成の留意点、学習目標とシラバス、などの分析を通して、副教材作りに取り組む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	人文科学部門	日本語教育実習	学外の日本語教育機関で一週間ほど、日本語教師の業務を実地に学ぶ。実習先は奈良県内、大阪市内の日本語教育機関が中心で、海外（台湾）の協定校で実習を行うこともある。実習前半は主に授業見学と実習先教員のアシスタントをしながらさまざまな教員の授業スタイルを学び、授業がない時間には教案作成にも取り組む。実習後半には教壇実習として、実際のクラスで30分～60分程度の授業を行う。教壇実習終了後には指導教員からのフィードバックを受ける。
	社会科学部門	図書館情報システム論	今日の図書館における各種の業務・サービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接に結びついている。この授業では図書館の業務・サービスを実施するのに必要な、基礎的な情報技術について、さまざまな実例を通じて理解を深める。特に、(1) コンピュータ技術・ネットワーク技術の基礎的知識を踏まえ、図書館のさまざまな活動を支える「図書館業務システム」の現状を理解すること、(2) 電子上の各種資料の管理・利用に関する注意点を理解すること、を主なねらいとする。
		情報サービス論	図書館サービスの重要な局面のひとつに、「利用者の情報要求（情報ニーズ）に対し、図書館内外の情報資源をもとに回答する」という情報サービスがある。ここには、「参考図書をもとにした応答」という従来型のレファレンス・サービスだけではなく、インターネットなどの電子的情報源をもとにした応答、図書館からの情報発信、図書館利用教育、といったさまざまな取り組みが含まれる。この授業ではレファレンス・サービスを中心としつつ、さまざまな情報サービスについて解説する。
		児童・YAサービス論	図書館における児童サービスは、図書館サービスのスタートラインであると共に子どもにとっての読書の入り口となっている。この授業ではサービスの意義と歴史、サービスの持つ特殊性、児童資料の種類と特色、サービスの在り方等に加えて、児童書に触れ、作品を取り上げての具体的な評価、子どもと本をつなぐ方法・技術（読み聞かせ・おはなし会の実演や体験）などを身につける。また児童サービスから一般サービスへの移行段階としてのYAサービスについても、この授業で取り上げる。
		情報サービス演習 1	この授業では図書館での情報サービスのうち、「利用者からの情報の要求に対し、何らかの根拠たりうる情報・情報源を提示しつつ応答する」という「レファレンスサービス」について、演習を行う。各回において具体的な情報源を解説しつつ、実際の課題を解いてもらう。図書館の「レファレンスサービス」に必要なさまざまな情報源について、調査対象となる事柄ごとに具体例を理解し、使い分けができるようになることを、ねらいとする。
		情報サービス演習 2	図書館での情報サービスを展開する上で、各種データベースやインターネット上のさまざまな情報源を検索し、また検索結果を評価する技能を身につけることは、利用者の情報要求を満たすために今後ますます必要となる。この授業では、主にインターネット上の無料の情報源について、演習を通じて検索・活用する方法を習得することをねらいとする。言い換えれば、この種の各々の情報源の信頼性を確認しつつ、検索の仕方や活用法を理解し、目的や対象に応じた使い分けができるようになることが、受講者の到達目標となる。
		図書館情報資源概論	図書館サービスを成り立たせる重要な要素のひとつは、「情報資源」の存在と、それを収集して構築した「コレクション」である。ここでいう「情報資源」は、伝統的な紙媒体の図書・雑誌といった「資料」とどまらず、インターネット上の電子メディアなども含めたものを指す。この授業においては、図書館情報資源の種類と特徴を論じ、また図書館における情報資源の取り扱い、資料選択とその基準、コレクションの構築・保存・評価などについて説明する。
		情報資源組織論	「情報の組織化」とは、図書館が収集した情報を利用に供するために、利用者の検索の便を考慮し、一定の方式（ルール）に従って、その情報源が有している各種の情報を整理・圧縮し、体系化することをいう。情報組織化の主な技術のうち、一つは情報を客観的に記述し、種々のことがらから検索するための技術である記述目録法、もう一つは情報の内容（主題）を分析・要約・表現するための技術である主題索引法である。本科目では、現行の具体的なルールの解説に加え、より原理的な考え方の理解に主眼を置いて講義する。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 社会科学部門	情報資源組織演習 1	図書館の情報資源についての主題索引法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・主題分析の方法が理解でき、対象資料の主題を明示できる。 ・分類法の構造と使用法が理解でき、説明できる。 ・特定の主題を分類法の記号に置き換えることができる。 ・分類表によって付与された分類記号がどのような主題を表しているかが分かる。 授業内では、日本十進分類法（NDC）の最新版に基づき、その適用規則を解説した上で、演習を行う。	
	情報資源組織演習 2	図書館の情報資源についての記述目録法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・記述対象資料に表示されている情報が書誌要素としてどれに該当するかが分析ができるようになる ・記述対象資料に表示されている情報を加工し、記述目録規則に従って記録することができるようになる。さらに、その情報について、データベースのコーディング規則に従って記録できるようになる。 授業内では、日本目録規則（NCR）およびJapan MARC formatそれぞれにつき、実務での運用に堪える版（バージョン）を取り上げ、適用方法を解説した上で、演習を行う。	
	図書館情報資源特論	図書館が管理・保存しアクセスに供する「情報資源」のうち、学術的な情報資源（学術情報）に焦点を当て、その生産・流通の実態、および図書館としての管理・保存・アクセス等をめぐる課題や取り組みについて解説する。特に、さまざまな領域の研究者がどのような研究活動を行い、その上でどのような成果を発信するか、またその成果の蓄積・共有のために図書館がどのような役割を担うか、さらには電子的環境でこれらがどのような新たな展開を見せているか、といった側面について、理解することを目的とする。	
	図書館情報学特論	日本古典籍資料とは何か、また、さまざまな国の古典籍資料のなかで、日本古典籍資料の各特徴について概観する。更に、図書館における古典籍資料業務の大まかな全体像について、見学や資料を参照しながら理解する。次いで、古典籍資料を実際に取り扱うための基本的な知識・スキルを学び、実際に手にとった取り扱いの基本を習得する。また、日本古典籍資料の組織化についての現状を知り、古典籍の総目録の特徴や利用法を通して、その現状と課題を考える。	
	博物館実習 1	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者とともに、歴史資料・考古資料・民俗資料・美術資料の取扱い方法や展示方法など、歴史系博物館の学芸員として必要な基本的知識と技術を修得する。また、各種の博物館施設を見学し、多様な博物館の実態と課題を学ぶ。これにより、博物館や学芸員の業務の実際を理解し、実践的能力を養い、次の段階の館園実習で十分な成果があげられるよう、実際的な知識・技能・態度見識を身につける。	共同
	博物館実習 2	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者の指導により、博物館の現場で行われている展示作業、資料整理、教育普及事業、資料調査などの学芸業務の一部を補助すると共に、具体的な実務を体験する。あわせて館内の展示施設やその他の施設・設備の状況を实地に学習する。実施にあたっては、原則として本学の附属博物館である天理大学附属天理参考館を実習館とし、同館の学芸員が指導にあたる。十分な指導が可能なよう適正な受講生数を配分したクラスを設け、それぞれ学芸員が担当し、通年中5日分の実習を集中講義で行う。	共同
	矯正概論	矯正の歴史と理念、矯正の機構と概要、関連法（刑事施設法、少年院法、少年鑑別所法など）の改正経緯と改正主旨、刑事施設の収容状況と受刑者の処遇、少年院及び少年鑑別所の沿革・組織・収容状況・処遇、外部協力者（教誨師・篤志面接委員）の活動について理解を深める。また、刑務官・法務教官・法務技官の職務などについて概説することを通して、概括的な矯正の歴史と現在の制度、及び、矯正に関連する職への理解を深める。	
	更生保護概論	更生保護は、犯罪や非行に陥った人たちの改善更生や再犯防止にとどまらず、犯罪の発生そのものを未然に防止する方策にまで拡大し、更には、心神喪失等の状況で罪を犯した人に対する医療観察制度や、被害者に対する施策なども導入され、警察、検察、裁判、矯正の諸制度とともに、現在刑事政策の重要な一翼を担っている。この授業では、更生保護の沿革を概観し、現行の更生保護制度の仕組み、手続き等、及び、実務経験からの処遇等について講義し、受講者とともに、犯罪や非行に陥った人たちの社会内処遇を考究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学部門	矯正保護教育（施設参観を含む）	刑事司法制度、刑事施設における各種改善指導、少年施設における矯正教育、更生保護制度の概要と課題、関係機関や民間協力者と連携した社会復帰支援、その他（刑務官・法務教官・法務技官・保護観察官）について概説する。この授業では、刑事施設や少年施設における各種教育活動の実情と課題について理解を深め、更に関係機関や民間企業等との連携の実情と課題、「世界一安全な国、日本」を表現するためには何が必要で、国民一人一人が何をなすべきかを正しく理解する。	
	矯正保護支援実践論	（概要）罪を犯す少年たちの心理的及び社会的背景から、その問題点を探ることにより、当事者の気持ちに寄り添った支援が出来るようになるとともに、再犯を防ぐため、将来保護司や教諭師などの公的な立場又は施設職員になり、社会生活への円滑な移行に役立たせるために準備性・計画性を持って、更生保護の支援が出来るようになることを目標に授業を展開する。保護司あるいは児童養護施設職員としての実務経験をもとに、犯罪者や非行少年の更正と社会復帰のための支援実践、また犯罪者や非行少年を抱える家族への支援のあり方と方法、さらには、矯正保護支援活動における問題点や課題などを、実践例をふまえながら理解する。授業は、オムニバス形式で行う。 （オムニバス方式/全15回） （89 高橋秀紀/6回） 保護司としての実務経験をふまえ、更生保護活動の具体的内容と意義、矯正保護施設の現況と課題、性犯罪対象者の再犯事例などを内容として講義する。 （92 山本道次/9回） 施護員の実務経験をふまえて、主な事例とその背景、児童虐待の現状と課題、家庭環境に問題を抱える事例、更生保護活動の実践例などを講義する。	オムニバス方式
	犯罪被害者支援論	捜査・刑事裁判などの刑事手続の流れや基本原則、法律の内容、これまで犯罪被害者が置かれてきた状況、犯罪被害者支援のための制度等についての知識や奈良を中心に犯罪被害者支援に関わる機関の取り組み等について、長年弁護士の立場から犯罪被害者救済の実務を担ってきた授業担当者からその実状を講義し、必要な知識を身につける。 弁護士として日頃裁判実務に関わり、現場で犯罪被害者を支援している経験から、支援の実際についても講義する。	
資格科目	教職論	我が国における教育の動向を踏まえながら、講義やグループでのワークショップを通して、今日の学校教育や教職の社会的意義や役割について理解する。事例や法令等の規程をもとに「教職の意義や教員の役割」について考察し、「教員の職務内容」や「服務や義務」について学ぶとともに、現代の学校教育の課題について知り、課題解決に向かって考え、行動できる素地を培う。「チーム学校」の一員として活躍できる資質や能力について考察する。	
教職に関する専門教育科目	教育原理	私たちの教育言説のもとになっている思想・概念・用語について、基本的な知識を身につける。また、資料・教材を具体的に提示し、それに即しながら「教育とは何か」という問いについて考察を深める。こうした作業を通して、現代の学校教育に関するさまざまな状況・問題を学び、その歴史的経緯について考えとともに、現代の教育に関して問題を発見する力、およびその問題を論理的に考える力、自分の考察・主張を他者に表現する力を身につける。	
	教育史	「教育」という営みは、歴史的・社会的な流れの中でどのように変遷・変容していったのか。時代ごとに教育の歴史的な流れを概観することを通して、教育史に関する基本的な知識を身につける。その上で、「資料」の解釈・評価・批判的検討を通して、受講生自身が「考える」（自らの主張・認識・価値観を論理的で具体的な文章として表現する）という練習を積むことを通して、「教育」を「歴史的に考える」ことの意味・意義について、自分なりの考えを深める。	
	教育課程論	教育課程論は、教員免許状を取得するための必修科目であり、教育課程の役割や意義、我が国の学校における教育課程の変遷（明治以前から昭和初期までの学校教育課程）ならびに学習指導要領の変遷について理解し、教育課程編成の基本原則について学ぶことを目標にする。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントしていく、カリキュラム・マネジメントの重要性や意義についても考察を深められるようにする。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する専門教育科目 資格科目	学校教育心理学	学校教育に必要な心理学の知見について、「発達」「学習」「やる気」「知能と創造性」「人格（個性）」「適応」「障がい」「コミュニケーション」などのテーマに分けて講義を行う。「発達」については諸理論の概説を行いながら、人の心理的発達についての理解を深め、「学習」においては人に備わっている学びや記憶の仕組みを理解する。また「やる気・意欲」の引き出し方、「知能・創造性」の仕組みと発揮のための援助の仕方について解説し、生徒の「人格（個性）」に対する教育的かかわりについて、「適応」や「障がい」「コミュニケーション」の視点を加味しながら、心をもって生きている存在としての生徒を総合的にとらえていくことができるようになることを目指す。	
	学校教育社会学	教師の長時間労働、「いじめ」や学校の安全など、現代の教育現場では多様な問題が生じている。こうした学校教育をめぐる様々な問題を複眼的視点（制度的・社会的・経営的視点）から考えることができるようになるために、学校や子どもたちの生活をめぐる問題を具体的に理解し、現状の対応策や今後の課題について知識・理解を深める。また、今後のより良い教育・学校とはどのようなべきか、自らの考えをまとめることを通じて、現代的課題に対応しうる力を身につける。	
	道徳の理論及び指導法	国内外における道徳教育の理論やそれをめぐる歴史的経緯等の理論的側面と、学校における道徳科の学習指導案の作成方法等の実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な力を身につけることを目指す。 道徳教育について、「道徳」とは何か、何が「道徳教育」なのかという根本的な問いにまで遡りながら学ぶ。 道徳教育の基礎・基本、道徳教育の歴史、道徳教育の現状と課題について順に理解を深めていき、最終的には道徳教育の授業の実践が可能となるような授業展開とする。	
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	教育方法学では、教育方法の基礎理論と実践を理解し、これからの時代に重要となる、主体的・対話的で深い学びの実現のための教育方法の在り方を理解できることを目標にする。そのために、教育の目的に応じた授業を行なう上で必要ないろいろな教育技術について知り、授業設計とその実践の方法について学んでいく。中でも、情報通信技術（ICT）を活用した教育の理論と方法については、具体的なツールやソフトを使用しながら、実際に授業で実践できるように、使い方や活用の仕方をパソコン教室で実際に学んでいく。	
	教育相談の理論及び方法	教育相談について、今日教育現場での需要が高まっているカウンセリングの理論と技術を紹介しながら、一人一人の生徒の悩みや困難に寄り添い、応えていくための実践的な知識についての講義を行う。不登校やいじめ、非行、思春期の精神的な失調に対する対応の仕方についても解説を行い、グループディスカッションなども取り入れながら、生徒とのかかわり方が身につく授業を工夫する。また、生徒のリアルに触れられるように、思春期の心模様を描いた映像資料も多く取り入れながら、実際に生徒とのかかわりに役に立つ学びを提供する。	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めいくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
	教育実習講義	教育実習に臨む前の3回生時に開講する授業である。授業では、まず、教育実習における心構えや必要な準備、学習指導案の書き方などについて、テキストをもとに具体的に学んでいく。次に、開講の各クラスにおいて、現場の中学・高校の現役教員を外部講師として招いて、実際の授業のノウハウについて、詳しく教授を受ける。そして最後に、ICTの活用なども取り入れた実際の教育実習における授業について、模擬授業を行い、教育実習に対する実践的な準備を行う。	
	介護等体験	中学校教員免許取得のための科目であり、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験に参加し、多様な人の生き方に触れることを通じて、教師としての人間理解の枠組みを広げ、様々な生きる課題や困難を抱えた人とともに成長していけるための素養を培うことを目指す。テキストを用いながら、「人とのかかわり」「尊厳とは？」「介護とは？」「施設とは？」などの内容について、計4回の事前指導を行い、活動後には課題レポートに取り組むことにより、体験を教職の実践に生かせるように工夫する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職実践演習（中・高）	教職実践演習では、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、教職をスタートするにあたって、必要な資質能力、知識や技能について身に付け、教員としての実践力を総合的に高めることを目指す。 授業においては、テキストを用いながら教職課程におけるこれまでの学びを総合的に振り返りつつ、小学校現場でのフィールドワーク、テーマやトピックに応じたグループワークやプレゼンテーションなど、演習形式で授業を展開する。	
	教育実習 1	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2～3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。（本学では高校教員免許取得のみを目指す学生は、教育実習 1 のみの登録で可としている）	
	教育実習 2	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2～3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。（本学では中学校教員免許の取得を目指す学生は、教育実習 1 と合わせて教育実習 2 も登録することとしている）	
	人権教育論 1	豊かな人権意識を持った教員の育成のために、まず、公教育の原理や社会的役割について学ぶ。次いで学校教員として理解しておく必要のある多様な人権課題について学び、人権尊重の意識を高める教育はどのように可能となるのかについて考察を進める。具体的には、さまざまな差別の問題や在日外国人の人権問題、男女平等の問題や性的少数者の問題、こどもの貧困の問題などについて学び、このような問題を解決していくためには、どのような人権教育の展開が可能で必要なかということについて学んでいく。	
	人権教育論 2	人権課題を教材として、どのような授業が可能となるか、グループに分かれて実践的な指導案の作成をおこない、相互に批判し議論しながら授業力を高めていくことを目指す。そのために最初に授業の作り方の基礎を学び、最後にまとめとして多様な人権課題に対応できる教育のあり方について認識を深める。本授業で扱うテーマとしては、「健常とは？障害とは？」 「性をめぐる課題」 「民族と文化の多様性をめぐる課題」などを設定して、具体的に授業展開ができる力を養っていく。	
	特別な支援の必要な生徒の理解	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標に授業を行う。	
	学校教育支援	教師としての実践力を養うために、教育実習のほかに、実際の学校現場に赴いて、ボランティアとして教育支援に携わる科目である。主に大学と提携を結んでいる市町村の幼・小・中学校に学校支援ボランティアとして出向き、教員の指導の下に、学習支援補助、部活動補助、行事活動補助、部活動補助などを行うことによって、実際の児童・生徒とのかかわり方を体験的に学ぶ授業である。本授業は、事前指導、中間報告会、最終報告会などを実施して、学生相互の学び合い、教員を目指す者同士の連帯感を感じてもらえる機会を提供することも目指す。	
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	特別活動に関しては、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という三つの視点を中心に、指導に必要な知識・素養を身につけ、また、総合的な学習の時間に関しては、実社会・実生活における諸課題を探究する学びを実現するために必要な、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。講義では、課題の見つけ方、自分の問題・関心のありか、問いの立て方を、ウェビングやワークショップを通して、探究の技法を習得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	教育史特論	教育について幅広い視野から考えるための具体的な題材として「教育」をめぐる「論争」の「歴史」について取り上げる。それぞれの時代状況のなかでどのような課題が議論・論争され、その結果として教育・学校がどのように変遷・展開されてきたのか。近現代日本の教育をめぐる「論争」にかかわる基本的な知識を深める。その上で、自分自身はその教育論争について何を感じるのか、それをどのように考えるのか、授業資料を自分なりに「解釈する」ことを通じて歴史的な思考・認識を深める。	
		臨床教育学特論	臨床教育学とは、教育現場が抱える様々な課題（いじめ・不登校・教師・子ども関係等）に対して、教育哲学、教育人間学、臨床心理学等の複数の領域にまたがる学際的な方法を構想・実践することによって応えようとする学問領域である。 臨床教育学という新しい学問領域の成立が求められた1980年代後半の時代背景をふり返るとともに、それ以降約30年を経た現代において何がテーマとなり、臨床教育学はそれにどのようにどのような方法で応えようとしているのか、最新の議論までを含めて概説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部社会福祉学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 教育 科目	天理 スピ リット 科目 群	天理教概説1	「宗教」についての基礎的な理解を踏まえたうえで、天理教の思想や実践について概説し、それらがいかなる教えや歴史的経緯に由来するものなのか、あるいはそれらが何を指そうとしているのかについて説明する。具体的には、主に『稿本天理教教祖伝』をテキストとして、教祖中山みきの生涯と教えについて学んでいく。天理教についての知識や体験がほとんどない学生の受講を前提として、教祖の生涯や教えに親しんでもらうことを目標とする。	
		天理教概説2	天理教についての知識や体験がほとんどない学生が受講するという前提で、天理教の成り立ちや基本的な教理などを中心に学び、それを自分の言葉で簡潔に説明できることを目指す。秋学期では、春期で学習した内容を踏まえ、天理教の歴史やそのさまざまな活動内容について、より詳しく学んでいく。特に『天理教教典』を主なテキストとしながら、天理教の教義（教祖、神、救済、人間etc.）の内容、及びその多様な信仰実践のあり方について学ぶ。	
		天理教学1	天理教学と天理教原典の連関についての基礎的な理解を踏まえたうえで、教祖の教えがいかなる歴史的経緯の中で「おふでさき」「みかぐらうた」「おさしづ」という原典として成立したのかについて学ぶ。さらにそれら原典と「こふき話」との関係性についても解説する。また、『天理教教典』や『稿本天理教教祖伝』の成立、及びそれらと原典との関係性や位置づけの違いについても学ぶことによって、天理教信仰における原典の重要性を認識する。	
		天理教学2	天理教学1で学んだ原典成立の歴史的経緯について改めて触れたうえで、それぞれの原典の内容について解説する。また、そうした原典の中で説かれる教祖の基本的な教え（八つのほこり、十柱の神名による守護の説き分け、ほこり）についての理解を深め、またそれらを先人の信仰者たちがいかに自らの生活において実践していたかについて解説する。それによって、教祖の教えを実践することの今日的な意義について、具体的に理解することを目指す。	
		建学の精神と天理大学のあゆみ	天理大学の「建学の精神」に込められた意味を理解し、その精神を身につけ、国際社会および地域社会に貢献できるようになることを目指し、天理大学の「建学の精神」に込められた意味を、本学の創設者、中山正善天理教二代真柱の理念・思想を通して理解する。また、天理大学の歴史的な歩みを辿ったうえで、天理図書館や天理参考館といった文化施設、及び「天理スポーツ」の理念や歴史についても、創設者の人物像や理念を通して理解する。	
		英語1	大学で学修するために必要な基盤となる英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎力を養成する。「聞く」「話す」では、特に、簡単な内容の会話を理解し、それに対応できる力、「読む」「書く」では、単文レベルの英文の構造を理解し、書くことができる力、簡単な英文の内容を理解できる力を重視して養成する。プレゼンテーションやペアワークなど、具体的、かつ、実践的なアクティビティも含めて豊かで確かな英語の基礎力を確立する。	
		英語2	英語1で培った基礎力を土台に、大学で学修するために必要な英語の4技能、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎固めをする。この4つの領域について「英語1」よりもやや難度の高い英文を読み、その内容を把握し、自分のことばでまとめる力を育成する。さらに、人の意見を聞き、複数の文を使って自分の意見を英語で伝える力を養成する。ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションなど、より多くのアクティビティを通じて英語をツールとして使用することに慣れ親しむ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 天理スピリット科目群	韓国・朝鮮語 1	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。順序としては、文字と発音を修得した後、基礎的な文法事項・構文・語彙の修得を進める。この科目でまず重要なことは朝鮮半島で使用されている文字「ハングル」を正確に読んで発音できるようにすることである。これがまず第一段階の学習となる。次に体言文を習得する段階に入るが、同時に各種音韻変化を学ぶことで、正確な発音を身に付けさせる。基本となる助詞、位置・存在表現等を修得、さらに用言文を上称・略待上称の形で使えるように指導することがその次の目標となる。使用頻度が高く、ごく基本的とされる接続語尾についても学び、表現の幅を広げるようにする。	
	韓国・朝鮮語 2	韓国・朝鮮語の基礎を総合的に学習する。基礎的な文法事項・構文・語彙の修得に努めつつ、初歩的な言語運用能力の育成を目指すことが目標となる。韓国・朝鮮語 1 で学習した存在表現、上称・略待上称形をさらに練習して、変則用言といわれる単語を個別に分類する作業を通して、変則用言をきちんと使いこなす訓練を行う。数字表現、許可表現、可能表現なども学ぶことにより表現の幅を広げるようにする。語学力を向上させるうえで、語彙の習得も欠かせない要素の一つである。日本語同様、漢字語彙が7割を超す韓国・朝鮮語でもその利点を生かし、語彙力を養い、韓国・朝鮮語の理解の土台を築くようにする。	
	中国語 1	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。具体的には、「ピンイン」と呼ばれるローマ字の発音表記を体系的に学び、中国語の日常会話レベルの文について、ピンインを見ながら標準的な発音で漢字で書かれた単語やセンテンスを音読したり、パソコンやスマホでローマ字入力・漢字変換する訓練を行う。	
	中国語 2	中国語の表記は漢字を用いるが、漢字の書き方や意味を学んだだけでは中国語を発音できるようにはならないし、会話を聞き取ることもできない。本科目は、世界中の中国語話者と、日常生活、衣食住、交通と旅行、交友と交際などの場面において適切なやり取りができるようになるために、標準的な中国語の基礎的運用能力を養成することを目的とする。「中国語 1」で学んだピンインによる音読や入力の基礎を固めながら、それぞれの会話場面において自分に関係する事柄を、すでに学んだ語彙や表現を用いて相手に伝える訓練を行う。	
	教養アカデミック英語 1	この科目では「英語 1」と「英語 2」で培った英語の基礎力を土台に、英文を「書く」ことに重点を置く。自分の伝えたいことが伝えられる英文を書くために、「書く」という点から基本的な英文法のおさらいをする。さらに、音読練習や口頭作文練習、和訳など様々な活動を通じて「書くための英文法」を定着させる。単文だけでなく、複文や重文など一文レベルの文がある程度正しく書けるようになった段階で、隣接する文同士のつながりについて学習し、パラグラフライティングができるようになるための素地を固める。	
	教養アカデミック英語 2	この科目では「教養アカデミック英語 1」で培った「書く力」を土台にまとまりのある内容を持った英語の文章（1パラグラフ）が書ける力を養成する。パラグラフの構造やパラグラフの種類について学び、自分が書きたい内容に合わせて適切なパラグラフのタイプを選択し、読み手に論理的に分かりやすい構成の英文が書けるようになることを目指す。さらに、トピックに合わせた簡単な英語のプレゼンテーションを行うことにより英語による発信力を高める。	
	実践アカデミック英語 1	この科目は「アカデミック英語 2」を履修するための科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された文字数（日本語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行い、多くの英文を読んでその内容を日本語で要約する練習を行う。英語で読み、日本語で要約することにより、英文読解力だけでなく、読み手に分かりやすい日本語で文章を書く力も養成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	実践アカデミック英語2	この科目は「アカデミック英語1」の応用科目として位置づけられる。この科目では英文を素早く読んで理解し、その内容を指定された単語数（英語）で要約できるようになることを目指す。この目標を達成するために、さまざまな速読トレーニングを行う。英語の文章構成についてもトピックを維持する方法や隣接する文同士のつながりのよくする方法について学ぶ。多くの英文を読んでその内容を英語で要約することにより、実用英語技能検定（英検）やTOEFLなどの資格試験にも十分に対応できる力を養成する。	
		アカデミック英語上級	この科目は大学を卒業し、社会人になったときに必要とされる力を育むことを目指した科目であり、「プロジェクト型言語学習(Project-based Language Learning)」の形式を採る。ポスター発表や口頭発表、テレビ番組制作など様々なアクティビティについて、チームで協力し、企画から発表までの一連の作業を行うことにより、企画力や協働性、情報収集力、情報を整理し、まとめる力、発信力などを養成する。	
		多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、韓国・朝鮮語圏の文化や社会について学び、あわせて韓国・朝鮮語の基礎を学習しながら、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。文化的な理解と言語の理解はあかかも車輪の両輪のように対象となる国の理解を大きく進展させる意味を有している。人々が朝鮮半島の地でどのように暮らし、どのような文化を育み、歴史・社会の中で何が起きてきたのか、これらを知るとともに、最低でも文字を読み、入門レベルではあるが語学の基礎にも接してみることで、この地に生きる人々の感性や考え方の根底に一步でも近づいてみることをしたい。	
		多文化理解と言語（中国語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。また現在、中国・台湾・香港・シンガポールなどのいわゆる中国語圏から日本に来て中長期滞在している人は日本の在留外国人総数の約3分の1を占めており、彼らが日本社会で私たちと共に幸せに暮らしていける社会を構築するには、まず私たちが彼らの言葉と文化を理解する必要がある。さらには彼らが独自の文化を有するがゆえに受け入れがたい日本特有の習慣についても知っておくことが望まれる。本科目では、広く中国語圏で通用する標準的な中国語の基礎を学習しながら、中国語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（英語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。英語は、イギリスの歴史的な歩みの影響によって、現在世界で最も広く用いられる言語の一つとなっている。しかし、世界の様々な地域で用いられている英語は全く同一のものではなく、当然ながら英語が用いられている地域の社会や文化も一様ではない。本科目では、英語に対する基礎的な理解を通して、英語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（タイ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。東南アジアのタイに目を向けてみると、日タイ両国は政治、経済、文化等幅広い面で緊密かつ重層的な関係を築いており、人的交流が極めて活発である。タイの人々は日本に強い関心を持っており、さまざまなメディアやイベントをとおして、日本の情報に日々接することができる。日タイが今まで以上に緊密なパートナーシップを構築するためには、私たちがタイの言葉や文化を知り、相互理解を促進することが必要である。本科目では、タイ語の基礎を学習しながら、タイの文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
		多文化理解と言語（インドネシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることは、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。インドネシア共和国は多民族国家であり、2億7千万人を超える国民は、異なる言語を母語とする民族集団からなる。インドネシア共和国の成立以後、公用語として定められたインドネシア語を母語とする人々は徐々に増加しているものの、多くの国民にとってインドネシア語は母語の次に覚える第二言語である。本科目では、インドネシア語の基礎を学習しながら、インドネシア語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 天理スピリット科目群	多文化理解と言語（ドイツ語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。日本では「日本人とドイツ人は似ている」と言われることも多いが、当然のことながら日本とドイツの国民性には相違点も多い。特に、日本人は場の空気や感情を重んじるのに対して、ドイツ人は合理性や論理性を重んじるという点に着目すると、両者の隔たりの大きさが感じ取れる。ドイツ人の論理性を重んじる傾向は、ドイツ語の特徴とも関連している。本科目では、ドイツ語の基礎を学習してドイツ語への理解を深めながら、ドイツ的思考法がドイツの社会や文化にどう影響しているかを考察する。日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（フランス語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、フランス語の基礎を学習しながら、フランス語圏の文化や社会について学ぶ。特に、歴史的な関係からアフリカからの移民を多く抱えるフランス社会の諸問題を取り上げ、宗教や言語、価値観など、異なる文化が接触することによって引き起こされるさまざまな事例を見ていくことによって、多文化共生社会のあり方を考察し、その実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ロシア語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ロシア語の基礎を学習しながら、旧ソ連諸国をはじめとする世界に広がるロシア語圏の文化や社会について学ぶ。ロシア語が用いられている国や地域での多様性に触れ、共通点や相違点、また問題点について考える。本科目では、ロシア語の基礎を学習してロシア語への理解を深めながら、日本とは異なるものの考え方を学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（スペイン語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、スペイン語の基礎を学習しながら、スペイン語圏の多様な文化や社会について学ぶ。スペイン語はスペインとラテンアメリカなどの20以上の国や地域で話され、米国でも話者数が飛躍的に増加している国際性豊かな言語である。また日本国内においても、スペイン語圏出身者は約8万人にのぼる。日本との長い交流の歴史や現在も続く緊密な社会経済関係について理解を深め、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	多文化理解と言語（ポルトガル語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では、ポルトガル語の基礎を学習しながら、ポルトガル語圏の文化や社会について学び、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。具体的には、ポルトガル語の読み方や基本的なあいさつなどを学びながら、ブラジルがどのような国であるかを知り、それを通して日本に在住するブラジル人に視野を広げる。本科目の主要な目標は2つある。1. ブラジルがどのような社会や文化を有する国なのかを知る。それを通して、異文化理解への視座を学ぶ。2. 在日ブラジル人の歴史や現状を知る。それを通して、日本における多文化共生について考察する。	
	多文化理解と言語（日本語）	自己と異なる言葉や文化を知ることが、自己の言葉や文化に対するより深い理解につながる。本科目では留学生を対象にして、日本語及び、アイヌ語、琉球諸語（琉球諸方言）など、比較対象となる諸言語・諸方言に対する基礎的な理解を通して、日本語が話されている諸地域の文化や社会について学ぶ。そして「日本」や「日本人」を相対化することによって、より大きな視野から日本列島を考え、多文化共生社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。	
	日本事情 1	留学生を対象にして日本の祭礼について概説する。最初に、儀礼・祭礼についての文化人類学・民俗学の概念・分類について紹介する。次に日本政府の祭礼に対する文化政策（「無形文化財」、「無形文化遺産」、「日本遺産（Japan Heritage）」など）について紹介する。そして、「日本三大祭り」ともいわれる「神田祭」（東京都）、「祇園祭」（京都市）、「天神祭」（大阪市）など、日本各地の著名な祭礼を具体的に取りあげて紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	日本事情 2	留学生を対象にして日本の産業について概説する。最初に、地理学・経済学・社会学などの知見に抛りながら、戦後の産業構造の変化について紹介する。次に伝統産業保護政策として日本政府が「伝統的工艺品」に指定している産品を、「高山茶釜」（奈良県）など、具体的にいくつか取りあげて紹介する。そして「まちづくり」、「農工商連携」、「外国人材の受け入れ」など、現在の日本の産業が抱える重要課題を具体的に取りあげて紹介する。	
		健康スポーツ科学 1	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		健康スポーツ科学 2	健康と体力の保持・増進を考えた有酸素運動をベースにしたスポーツ種目を取り上げ、スポーツを親しむために必要な知識や技能を身につけ、活気のある学生生活を過ごせる様に役立てる。また、生涯にわたり健康な生活を続けることに必要な体力づくりの必要性を理解するため、学期始めに体力テスト（スポーツ庁）を行って体力の現状を把握する。本授業では、健康づくりに必要な各スポーツ活動の実践を通じて生涯スポーツの意義を理解する。	
		国際社会におけるスポーツの役割	スポーツには、国籍や人種、言語や文化が違っても一緒に活動し、協力し、競い合うことで共感が生まれ、楽しさや友情を深める力を有する。現代社会では、スポーツを通じた国際交流がなくてはならない存在であり、「多様性の尊重」や「持続可能な社会の実現」にも欠かせない。本授業では、スポーツの国際展開について古代から現代までのオリンピックの歴史と諸問題を学び、国際親善や世界平和に果たすスポーツの意義や役割を理解する。	
		保健医療の仕組みと健康づくり	急激な少子高齢化や医療技術の進歩など、保健医療を取り巻く環境が大きく変わるなかで、厚生労働省は2035年に向けて、人々が自ら健康の維持・増進に主体的に関与し、デザインでき、ひとりひとりが主役となれる健やかな社会、健康先進国を目指している。この授業では、現在の保健医療の仕組みと、地域で暮らす人々がその仕組みをどのように活用するのかを学ぶ。さらに自分自身と周囲の人々がその仕組みを活用して主体的に健康づくりに取り組むための基礎力を養う。	
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる入門編	身近な環境問題に目を向け、それを自分事としてとらえることは、これからの社会を生きていくために重要なものである。環境や林業や里山が抱える課題、過疎化した地域の課題、衰退していく街の課題について、その課題に取り組む人々との交流を通じて、SDGsとは具体的に何を目標として行動すべきかを学ぶ。林業や農業についてのアプローチの手立てについては、現地に赴き実習を含めた講習を行う。さらに、その有効な活用方法ならびに技術面の指導を実習を通じて習得する。	共同
		ローカリーアクト 天理SDGs 森に生きる実践編	ローカリーアクト天理SDGs森に生きる入門編に引き続き、奈良県内外、主として天理市内での林業体験及び里山整備、耕作放棄地などでの実習を行う。過疎化する地域の課題を現地の方との話し合いを通じて理解し、何ができるか？を考える「場」を持つ。持続可能な開発目標(SDGs)や持続可能な開発のための教育(ESD)を目的とした実習を行う。その際、学生が自ら考えて行動する問題解決型学習(PBL)を採用し、さまざまな課題を自分事としてとらえられるようにする。	共同
		国際協力入門	「貧困」を解消することが「開発Development」という行為である。近年注目されている「SDGs(持続可能な開発目標)」の「D」は「開発Development」を指しており、同じく貧困削減のための取り組みを指している。この授業では「経済開発」「社会開発」「人間開発」「参加型開発」「持続可能な開発(SDGs)」などの開発理論を講義形式で理解し、開発プロジェクトの計画・立案について、グループ・ワークで体験的に学ぶ。開発援助とは「人を助ける」行為であるため、「人を助ける」哲学・価値観について学ぶことを基本学習とする。定期試験期間に期末テストを実施する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	国際協力実習	この実習では「国際参加プロジェクト」の現地ボランティア活動を行う。本実習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。以上の点に注意し、授業登録を希望する学生は、必ず国際交流センター室の担当者に問い合わせること。新型コロナウイルス感染症の影響により、現地活動が実施できない場合は、上記の通りではなく、授業方法や成績評価方法について変更を余儀なくされることがある。変更する際は、授業等を通じて受講者に周知する。	
		国際協力演習 1	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）から帰国後の事後研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。事後研修の主な活動内容は、現地での活動経験に基づくレポート、活動報告の作成と編集、動画・写真データを使用した活動報告用の映像資料の作成である。また、学内外で開催する帰国報告会、地域教育機関と連携した国際交流授業の開催など、地域連携・社会貢献を目的とした諸活動の実践を含む。	
		国際協力演習 2	本授業は「国際参加プロジェクト」の海外ボランティア活動（2月実施予定）に向けての事前研修を行う。本演習に参加するためには、書類選考、面接選考に参加しプロジェクトメンバーに選ばなければならない。活動準備の内容は、現地での活動内容に基づき決定される。現地小学校での教育支援活動であれば、現地学校での授業準備が事前研修となる。現地高等教育機関との交流活動では日本文化紹介などのプレゼンテーションの準備を行う。講義で授業を行う一方、現地ボランティア活動の具体的な準備活動が主な授業内容となる。	
		国際ボランティア論	人はなぜ、何のためにボランティアをするのか、ボランティアという行為はどのような意味をもつのかを理解できるようになる。また、国際協力の視点からボランティア活動を捉え、世界の貧困や格差を解消するための国際ボランティアの取り組みを理解し、実践することができるようになる。ボランティアという行為について学術的な視点から説明ができるようになり、世界の貧困や格差の問題に対して、自らの問題として捉え、積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を身に付けることができる。	
		天理大学特別講義 1	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度については、NPO法人環境市民ネットワーク天理が主体となる寄付講座「まほろばエコロジー講座」を15回にわたって開講する。天理大学は2012年に奈良県下の大学としては初の「エコキャンパス宣言」を行い、建学の精神に基づいたキャンパスの環境保全を指向するとともに、大学生や市民を対象とした学習講座を開催した。このたび、天理大学の授業として開講する「まほろばエコロジー講座」は、環境問題に関わる各分野の専門家によるレクチャーを15回受けることにより、環境問題の基礎知識を体系的に学ぶことができる。講座後の検定試験で、一定の成績を修めた受講生を対象に、当NPO法人が「まほろば環境市民」に認定される。	
		天理大学特別講義 2	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理大学特別講義 3	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	天理スピリット科目群	天理大学特別講義 4	天理大学特別講義は、行政や企業、NPO等からの寄付講座もしくは文部科学省のGP等の補助金等によって開設する講義である。天理大学の建学の精神や教育目標、現代社会の課題等に合致する内容の寄付講座を15回連続の授業として展開するものである。 2024年度以降、この講座の開催趣旨に該当する寄付講座等が、行政または企業もしくは各種団体等から提案されれば開講するものとする。	
		天理異文化伝道	天理教による海外布教伝道の歴史を振り返り、世界のさまざまな国や地域で展開されている布教の現状を映像などを通して見ていく。また「文化」とは何かを確認した上で、海外伝道を「異文化圏における伝道」という視点で捉え、異なる文化の中で繰り広げられている実際の布教伝道を通じて見られる「異文化接触」に関して考えていく。さらにそこから、貧富の差や言葉の問題、他宗教との関係、グローバル化などをキーワードとして問題提起を行い、これからの異文化伝道の方向性について意見を深めていく。	
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	生き方や働き方を主体的に考え、キャリアを設計することができるようになることを目標とし、自己を深く理解し、社会貢献につながる自己実現を目指すための主に次のことを学修する。 ・自分の価値観、強みと弱みを把握し、自己理解を深める。 ・社会に出て必要とされる力（基礎学力、専門学力、リーダーシップやコミュニケーション力）は何かを把握し、それを身につけるための有意義な大学生活の過ごし方を設計する。 キャリアをデザインする上で具体的に仕事の内容や重要な自己を理解したうえで、民間企業や官公庁などで働いている人を講師として迎え、実務上必要とされる能力や仕事のやりがい、キャリア形成についての話を聴く。各業種の内容と必要とされる能力を知り、社会に出るからのキャリアデザインについて考える。また、インターンシップの意義、就職試験で使われているSPI、履歴書の書き方、就職活動の進め方について知る。	
		キャリアデザイン 1	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		キャリアデザイン 2	いわゆる就活に必要な企業研究、小論文、グループワークなどを行い、その要領やスキルを身につける講義と、実際に海外で活躍している企業家、外交官、メディア関係者、スポーツ指導者などを招へいして、それぞれの実務家としての経験をもとにした講義を聞くゲストレクチャの2部からなっている 多様なビジネス・社会活動の舞台としての海外に目を向け、自分自身は近い将来何ができるのか、何をすべきか、具体的に考え、デザインする力を養うためである。	
		インターンシップ 1	インターンシップ1では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	
		インターンシップ 2	インターンシップ2では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、官公庁、企業などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップでは、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことになる。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度のインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績に応じて単位を認定する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	キャリア教育科目群	海外インターンシップ1	海外インターンシップ1では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として1週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
		海外インターンシップ2	海外インターンシップ2では、自己理解と職業理解を促進させるきっかけとして、海外の事業所などでインターンシップ（就労体験）に参加する。インターンシップの内容としては、体験先の示す実習や研修的なプログラムをもとに就業体験を行うことが想定される。インターンシップの種類や内容、期間は多様であるが、この科目では期間として2週間程度の海外の事業所などでのインターンシップに参加するものとする。インターンシップ終了後、インターンシップの実績や報告内容に応じて単位を認定する。	
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	正しい情報を自ら集め、組み立て、展開していく力、さらに自分の考えや情報を正しく相手に伝える力をつけるために、大学や社会で求められる「読む・書く・話す・聞く」能力の獲得をめざし、ノートテイキング（筆記）、スピーチ（発話）、リーディング（読解）、ライティング（作文）という4つの技能について学ぶ。また基礎的なパソコンの操作方法やワープロソフトを使った文書の作成、プレゼンテーション資料作成ソフトを使ったスライド作成等についても学ぶ。	
		基礎ゼミナール2	基礎ゼミナール1の「読む・書く・話す・聞く」の能力の向上、および実際のデータを収集し、分析することを通して、統計的分析の能力を身につけることを目標とする。自らの問題意識から、適切なテーマを設定し、主張したい論点を述べるために必要な実データを収集し、統計手法を用いて分析する。分析結果やグラフなどを整理して自分の考えを発表する。中間発表を行うことで議論を深め、最終的にこれらをまとめた小論文を作成し、発表する。	
		データサイエンス・AI入門	Society5.0時代に活躍するためには、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養が必要である。本科目では、次の3つのことを習得することを目標とした学修を行う。（1）社会におけるデータサイエンスやAIの活用事例を知ることによってこれらの技術についての理解を深める。（2）データを活用する上で留意すべき法制度や倫理などについて理解し、適切なデータの利活用のための知識を得る。（3）データ分析の基礎的な活用方法を身につけ、帰納的推論と演繹的推論の差異、長所短所について理解する。	
		データサイエンス・AI応用	データサイエンス・AI入門に続いて、本科目ではより実践的にデータサイエンス・AIを学修し、基礎力を向上させることを目標とする。社会において多様なデータの蓄積が行われており、そのデータを利活用できる能力が求められている。データ解析・機械学習などに事例を挙げてデータサイエンスやAIについての技術について学修する。データ解析では統計学の利用方法、機械学習を使った分類・クラスタリング・強化学習、さらにAIの発展に貢献しているディープラーニングについて、実例をもとに実際にデータを処理することを通して理解を深める。	
		データリテラシー	情報社会において求められる情報処理能力を身につけることを目標とする。自らの考えを正しく相手に伝えるためには実データを正しく分析した結果を効果的に示すことが重要である。データの収集方法・統計分析・分析結果の解釈方法などを学修し、データに基づいて判断する能力、いわゆるデータリテラシーを身に付ける。EXCELを使って統計分析方法を学修し、分析した結果の統計情報を正しく理解する方法とグラフなどを用いて、効果的にデータの特徴を可視化する方法について具体的に学修する。	
		コンピュータ入門	ビジネス社会において求められるコンピュータやネットワークなどの情報技術に関する基礎的知識、およびパソコンを使った情報活用能力を身につけることを目標とする。情報技術に関しては、コンピュータ・インターネットの仕組み、情報処理技術、情報倫理やセキュリティについての知識を学修する。またパソコンを使い、基本ソフト（Windows）およびアプリケーションソフト（Word、Excel、Powerpointなど）の基本的な操作方法について学修し、実データを使ってデータを整理した上でデータの特徴を効果的に示す能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	基礎リテラシー科目群	情報処理	「プログラミングとは何か」を実際にプログラムを作成することを通して理解する。自分が意図した通りにコンピュータが情報を処理することができるよう試行錯誤していくことを通して、プログラムを完成させることが楽しいと感じ、プログラミングに興味を持つことができることを目標とする。C言語の基本的なルールについて学習し、プログラミングの基礎を理解するとともに、コンピュータが自分の意図した通りに正しく実行するようにしていくプロセスを繰り返し行うことでプログラミング技能を身につける。	
		基礎からわかるレポート作成	レポートや論文の作成技法を修得し、日本語表現能力を高めることができ、現代社会のかかえる様々なテーマについて関心を深めるとともに、自分の意見を形成していく方法を体得することができることを目指し、テキストを用いて作文技法の基礎を習得する。また、各人が設定したテーマについて、資料検索・収集、構想ノート作成に基づいてレポートを執筆し、クラスで口頭発表を行う。資料検索やレポート執筆はパソコンを使用し、コンピュータ技能の向上を図る。	
		基礎からわかる近代史	日本現代史の基礎的な知識や流れを学ぶことができることに加え、日本近代社会と現代社会とのつながり・断絶を理解することができるようになることを目指し、幕末・明治維新からアジア・太平洋戦争前後の日本歴史の流れを基礎から学び直す。その際は政治・経済方面だけでなく、軍事・教育・宗教・娯楽など、近代日本社会を構成していた諸要素にもしっかり目配りする。現代社会とのつながりや断絶について考察し、自らの歴史に対する視点を確立する。	
		基礎からわかる現代社会	現代の日本と国際社会における政治・経済・社会の土台をなすシステムについて、また、今日の私たちが直面し、解決を求められている諸課題について、他の全学科目および専攻分野での学修をつうじて知見を深めるうえで、また教養を備えた責任ある市民として、積極的に社会に参加するうえで必要な基礎知識を習得する。講義では、具体的な問題を題材にするなどして、情報をみずから収集し、得られた知識と合わせて分析する力も養う。	
		基礎からわかる数学	数学に関する基礎的な能力の向上をめざす。そのため、小・中・高で学んだ算数、数学のなかで、式の計算、速さ、面積、体積、方程式、不等式、関数、場合の数、順列、組合せ、確率、データの分析などを取り上げ、生活の中にある事例など具体的な問題場面を取り上げながら、数学への興味・関心を高めながら、演習を通して自ら考え、問題を解決する能力を身につける。その際、SPI等の就職試験でも役立つ内容も視野に入れて授業を展開する。	
	基礎からわかる生物・化学	当該科目は、生物学・化学の基本的な知識や考え方を理解でき、習得できることを目的とする。内容は、生物・化学基礎の理解を改めて確認し、遺伝子と現代医学の潮流、細胞と癌、神経と認知症、エネルギー・代謝と糖尿病、免疫と感染症、血液と白血病など、病気と関連づけて分かりやすく生物学の本質の理解が深まるように講義・演習を行う。さらに、物質・溶液の化学、有機化学、生体を構成する物質などについて、簡単な内容に絞って講義・演習を行う。		
	一般教養教育科目群	生活の中の科学	自分自身の健康に関心を持ち、スポーツの実践や身体を動かすことの大切さの再認識とその実践意欲の高揚化をはかり、学んだ内容を自らの健康の維持、増進に生かしていく能力を養うことをめざし、人間の基本的な条件である健康について、主に運動生理学およびスポーツ医学、栄養学などの諸点から解説する。健康の概念を理解し、生涯にわたって自らの健康の保持増進をはかるためには何が必要であるのかを理解するために、本講義では健康管理に関連のある最新情報を紹介し、現代人にとって必要な健康維持に関する知識を理解する。	
		地球環境論	温暖化や希少生物の絶滅、環境汚染など、現在の地球環境は人類が克服困難な問題で溢れている。これらの問題は、さまざまな要因が複雑にからみあって形成されており、本質を理解するには幅広い視野で多面的に物事を捉える力が必要となる。この授業では、環境問題に対する取り組みについて学び、日本における過去の公害問題やその対策手法・技術から、地球環境と人類との関係について考えていく。環境問題に対する基礎的な素養を習得し、日頃から地球環境にやさしい行動を実践できるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	科学と現代	現代社会を支える科学・技術について、その歴史的発展過程を交えながら基本的な概念や考え方について講義する。講義の前半では、宇宙論と原子論の歴史的な変遷を取り上げる。講義の後半では、青色発光ダイオードやリチウムイオン電池といった身近にある科学・技術のトピックスを題材としてとりあげ、先端科学の知見とその歴史的背景を紹介する。現代社会における科学の意義や役割について自らの生活と関連付けながら考察していく。	
	数学と論理	「論理」は数学に限らず、あらゆる学問で、そして社会の健全な発展のために重要な概念、法則である。この能力を培うことができるのは、数学の知識によってではなく、各自が考えることによるのみ可能である。数学の言葉を記号化することによって、不偏的な数学語（数文）に翻訳することで、言語の異なる人々が、世界共通の「論理」で数学を理解できるようになる。代数的構造の主要な概念である「群」に関して、論理の展開を体験する。	
	統計学 1	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。統計学の初歩的で実践的な知識を身に付けることを目的に、記述統計学（資料の整理、代表値、分散と標準偏差）統計学の基礎（確率、確率分布、二項分布、正規分布）推測統計学（母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母平均の検定など）をExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して取り扱う。	
	統計学 2	高度情報化社会では科学、技術、ビジネス、社会のあらゆる分野で、収集したデータをどのように整理、分析して利用するか、何が必要で何が重要であるかを教えてくれる「統計学」の役割が飛躍的に増大している。この授業では、データを分析し、問題の原因を追及することができる能力を身に付けることを目指し、クロス集計や多変量解析などの基礎について具体的なデータをExcelなどのアプリケーションを用いて処理することを通して理解する。	
	経営学 1	経営学に関する基本知識を理解、習得すると同時に、企業と産業の現実の動向を知り、特に「サプライチェーン」についての問題関心を養うことを目指して、巨大企業の存立を支える株式会社制度の形成や展開、その現代的な課題について考察していく。現代企業の具体的なあり方は、それぞれの産業における技術と市場、国ごとの条件に規定されて、多様である。ここでは、フレキシビリティの構築をキーワードとして、産業・企業の現実の動向を探っていく。	
	経営学 2	現代企業の環境変化への対応のあり方を探っていく。企業は、生産・流通を含むトータルなシステムとして、市場動向への迅速な対応を図ることが求められている。この授業では、まず事業システムとの関連において、マーケティング分野の基礎を理解する。次に中小企業に注目する。中小企業は巨大企業を軸とする企業システムを根底から支えるのと同時に、ベンチャービジネスとして、あるいは中小企業間での情報、物流ネットワークの形成によって、相対的自立性を備えて存在していることを理解する。	
	地理学 1	グローバル時代とよばれる現代、幅広い世界が舞台となり、多様な地域が強くむすびついてゆくなかで、異文化やその多様性の理解が求められる。この授業では、地球規模でみる自然環境や人間活動の関係を「文化圏とその地理的背景」というテーマでとらえる。具体的にはさまざまな「文化圏」（地域）を対象として、それぞれの文化圏がどのような環境下で成立・発展してきたのかという「地域の法則性」について考察するとともに理解していく。	
	地理学 2	グローバル時代とよばれる現代、「孤立」した都市はない。都市は「みえない糸」で複雑にむすびついている。そのむすびつきは地球規模で全世界に広がっている。また、都市は多くの人々の生活の舞台でもある。この授業では、「都市の地理学」をテーマにおき、都市の実態を日本、奈良県、天理市という地域スケールのちがいをみてゆく。そして、宗教都市である大学所在地の天理という場所をテーマにして、地域研究や地誌的な立場から、大学所在地としての身近な地域の「地理学」を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	日本国憲法	我々の生活に欠かせない法、特に憲法について学び、わが国の基本的な仕組みを説明できること、さらに、そのしくみについて批判的に検討できることを目指し、基礎知識であるわが国の統治機構について学び、憲法について現在問題となっている憲法の総論にあたる部分、すなわち憲法の成り立ち、基本原理、幸福追求権、平等権、表現の自由などの重要なトピックを取り上げる。また、憲法に関する新しい問題が発生したり、重要な憲法に関連する裁判所の判断（判例）が出た場合には、適宜授業の中で取り扱う。	
	法学	我々の社会生活において、法がどのような役割を果たしているのか、またどのように作用しているのか理解し、法学について、基本的な知識を体系的に身に付けるとともに、具体的な裁判例を検討して応用力を養うことができることを目指して、民事法、刑事法について学ぶ。民事法については、実体法である民法を主に取り上げ、財産や家族に関する争いを裁定する法である民法の概要を学び、刑事法については、手続法である刑事訴訟法を主に取り上げ、捜査や裁判の手続き、及びその運用についての問題点などを学び理解する。	
	経済学 1	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになるとともに、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになることを目指す。この授業では歴史を学ぶ前提として地理学の面白さを伝え、そのあと、古代中国のさまざまな発明からイギリス産業革命までをとりあげ、世界経済の発展をたどり理解する。	
	経済学 2	世界経済の歴史を学び、世界経済がどの国や地域を主人公とし、どのような点で成長し衰退したか説明できるようになる。そして、世界各地の経済発展がキャッチアップ型とリープフロッグ型のせめぎ合いで進行してきたことを理解し、説明できるようになる。この授業ではおもに20世紀と現在の世界経済をたどる。イギリス産業革命の影響からアメリカが独立し電力革命を経て20世紀の経済大国になるまでを理解する。また、中国経済の成長がアメリカ経済とデジタル面でどのような競争関係にあるかもとりあげる。	
	政治学	政治に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、学問的観点から政治と向き合うことができるようになることを目的とし、なぜ民主主義がふさわしい政治体制だとされているのか、民主主義は実際にどのように運用されているのか、政策はどのように作られるのか、といった点に加えて、これまでの政治学そのものに疑問を投げかける視点や国際政治について学ぶなかで、自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指す。	
	社会学	社会学の研究対象となるさまざまな領域について、日本を中心とした現代社会の事例を参照しながら、その代表的な領域に触れることで、社会学の学説史や主要概念とともに、社会的な見方や考え方の基本を習得する。講義では、行政統計やメディアの情報などを積極的に扱うことをつうじて、市民としての見解や行動をかたちづくる上で必要な情報やデータにどのようにアクセスし、それを読み取り、さらには活用していくかについても学修する。	
	民法 1	一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語などについて学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、民法の作用について、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	
	民法 2	民法 1 に続いて、一般社会において民法がどのように作用しているのかについて理解し、自らの生活の具体的場面において民法に基づく思考ができるようになることを目標とする。その際、具体的事例を通して、民法の条文や趣旨、基礎的な用語等について学び、身の回りの生活の場面において民法がどのように作用しているのかについて、実際の事例をもとに、考察を深めるとともに理解を深める。実質的に民法入門のような位置づけの授業となる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	行政法 1	行政法の概要・基本原理を理解できること、行政法と行政の体系を理解できること、行政および行政法に関する知識を学びそれを身につけることができること、主体的に自立した市民として行政に参画できる能力を身につけることができることを目指し、行政法の基本原則を学んでいく。法学部生以外には、馴染みが薄い行政や行政法とは何かについて、身近な例を取り上げできるだけ理解できるように説明をしていく。そのうえで、法治主義、国や地方の行政とそれを支える公務員制度等を学ぶ。	
	行政法 2	国家補償法の概要に関する知識を得ること、国家賠償法と行政救済との関係について体系的な理解を深めること、行政により市民が被害や損害を受けたとき、どのような法的救済の仕組みがあるのかを理解できること、地方自治とは、どのようなものか深めることができることを目指し、行政法を具体化する行政と市民の権利利益を保護する行政救済法および救済制度を学ぶ。その際、事例（裁判例、判例）を主な素材にして具体的な行政救済法と救済制度を学ぶ。	
	哲学概論 1	古代から近代にかけての西洋哲学について、その概要を原典を読んで学ぶことを通じ、哲学者の考えに直に触れ、議論の論理展開を細かく追うとともに、その作業を通じて取り出された哲学的な問いを自らにひきつけて考察し考える。これらの一連のプロセスを通じて、哲学を学ぶとは、哲学者の名前や学派のキーワードや概要を暗記することではなく、先人の思考を引き受け、いまを生きる一人一人が自分の力で考えようとする営みであることを理解する。	
	哲学概論 2	哲学概論 1 で扱った古代から近代における哲学的問いの展開についての理解を元にしなが、西洋近代哲学について、著名な哲学者の原典（日本語訳）を取り扱う。内容の詳細な検討と理解にもとづき、自ら問いを設定し、それについて考えを記述するという一連のプロセスを何度か繰り返し、哲学という営みを実際に経験することを通して哲学的について理解するとともに、哲学的な見方や考え方を実際に活用できる形で身に付けていくようにする。	
	倫理学 1	倫理学という学問的な切り口から人間の現実をとらえる。とくに欧米の近現代の哲学者の倫理思想を紹介しながら、私たちの人間理解を豊かにしてくれるような、人間知としてより深められた倫理的人間学を探究する。そのために、倫理思想に関するいくつかのトピック（たとえば、重要な概念や思想家、思想潮流など）を説き起こしながら、倫理学の基礎となる人間観、および、哲学・倫理学の諸概念について考察することを通して理解する。	
	倫理学 2	倫理学 1 が倫理学基礎論をテーマとしたのに対して、倫理学 2 は応用倫理学を扱う。倫理学は正に、「人間が行動する筋道」を問う学問である。その守備範囲である、愛・幸福・自由・悪・正義などといったテーマは抽象的で近寄りがたいイメージを与えるが、実は誰にでも取り組める、親しみやすい学問である。応用倫理学の諸分野の中から、生命倫理、愛の倫理、政治倫理、宗教倫理、労働倫理、環境倫理などについて取り上げて検討する。	
	心理学 1	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、前半は「記憶」「知覚」「学習」などの心理学の基礎的な概念について、簡単な実験などを用いて体験的に理解できるよう授業を進め、後半は実際の人の心について、事例の紹介や心理テストの体験など通じて自分自身の心について触れる機会を設ける。	
	心理学 2	心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、心理学研究の方法や考え方を習得する。心理学の概念を理解することで、日々の生活の中での自分や他者のこころの動きや行動について、その意味や働きを認識し、説明することができるようになることを目指し、授業の概要 講義期間の前半と後半で、2つのテーマを取り上げる。前半は「心の発達」、後半は「無意識の世界」に関する内容となる。前半は、生まれてから現在の青年期に至るまでの心の発達の道筋をたどる。後半は、自分でもコントロールできない心の世界「無意識」について、その働きを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	ジェンダー・セクシャリティ	「性」とは何か、性の多様性とはどのようなことか。性的マイノリティとは何をいうのかを課題とし、セクシュアリティの内実を「生」と関連しながら、事例をもって紹介しつつ、現実起こっている「性」と「生」の問題に向き合う。現代の課題のひとつとして、「ジェンダーの視点」「ジェンダー平等」「セクシュアリティ」について、特に、文化や伝統、文化など、私たちの社会の精神的背景となっているものに、ジェンダーという視点を導入することの意義を検証していきたい。また、「男女共同参画社会基本法」や国際連合の世界女性会議を中心とした動向に注目する。	
	近現代の遺産と未来	21世紀の現代社会が抱える人権・差別問題とその解決について、マイノリティの視点から学ぶ。沖縄の歴史を学ぶことを通して、日本の近代化、とくに戦後の高度成長期に資本至上主義の価値形成のもとで深化した労働問題、女性問題、外国人差別、トランスジェンダーをはじめとする様々なマイノリティへの差別・排除という現代日本が抱える課題および冷戦期の政治的暴力が顕在化する社会を相対的に捉え直し、多様で異なる存在を相互に尊重することができる公平で成熟した本来の意味での近代社会を創造していくための視点を養う。	
	宗教と芸能	日本の古代から近世、近代のそれぞれの時代に展開していた、宗教を契機とした文化（芸能）に関して理解し、芸能が地域社会に支えられていることや、地域社会における芸能の特徴、役割、意味について説明することができることを目指す。主に扱う事例は、奈良で古い歴史を持つ春日若宮祭礼である。この祭礼には、雅楽・田楽・猿楽など多くの芸能が付随している。しかも歴史の中で変容しており、この変化を追うことで芸能から時代を投影することができる。このほか、南都の法会、地域の都市祭礼、おかげ参りについても言及する。	
	労働と社会	近年、労働形態の多様化により労働のありかたが変わることで、一国の経済状況のみならず、人々の生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与えている。この授業では、とりわけ19世紀後半から現代にかけての労働と労働に関する思想を中心に読みとくことで、現代社会の日々の日常のなかで労働のありようについて再考する。そのためには、労働そのものについて理解するだけでなく、それが社会の中でどのように機能しているか、そしてその背景を読みときながら、考察する。	
	障害学	障害には様々な側面（医学モデル、社会モデル、当事者視点等）があり様々な方向から考察していかなければならない。障害について思考することは各個人の生活や人権意識そのものに関わって行くものであり正解のない問いである。授業では障害観の歴史の変遷、医学モデル、社会モデル、障害者を取り巻く多くの事象を学び、学生自身も小中学校で経験してきた特別支援教育を振り返り、当事者視点、多様性について自分事として考えることを通して、共生社会を生きる基礎的な知識を身につけ行動力につながる学びとする。	
	世界の文学1	世界文学とは世界的な普遍性を持つ文学であることを、作品の精読を通して理解するとともに、自分なりの解釈ができることを目指す。その手段としてその国や地域における固有の文化、思想、哲学について学び、時代精神を理解する。それでもなお残る謎や不可解な部分を掘り下げて追究し、文学作品に通底する人生の不可知について理解するとともに、もって人生についての考察を行うため、具体的な英文学の作品をいくつか取り上げて講義を行う。	
	世界の文学2	世界文学を理解する手法の一つである比較文学研究を通して、ある国・地域固有の文化、時代精神、哲学がいかに越境し、相互に影響を与えていくかについて学び、世界文学の共通性、普遍性、文学そのものに内在する謎を掘り下げて追求する。テキストそのものを読み込む内在批評と同時に、テキストには書かれていない外在批評について学び、人類に普遍のテーマを知ることで、人生を生きる上での指針を得るため、英文学作品と日本文学作品を取り上げて講義を行う。	
	カルチュラルスタディーズ	カルチュラルスタディーズの方法論と研究調査は、1970-80年代のイギリスで盛んに行われ、1990年代半ばに日本社会に入ってきた。この授業では、カルチュラルスタディーズの核心である「文化と権力の間の関係」が欧米並びにアジアでどう展開しているのかを多様な文化を事例に解説していく。こうした学問の動向をふまえ、本授業では、受講生が各自で文化調査を実施し、多様な文化をとりあげるなかで、カルチュラルスタディーズの現状について学ぶとともに文化的格差の理解を試みる。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 一般教養教育科目群	宗教と現代社会	社会的存在としての人間にとって、宗教がいかなる意味や役割をもつのかという問いを基本に据え、その問いを、インターネット、災害支援、労働、生命倫理、戦争、スピリチュアリティといった、現代世界における多様な問題との関連という視点から具体的に考える。特に、伝統的な宗教の理解を踏まえながらも、その今日的な変容といった観点から、従来は宗教とは見做されていなかった領域において、「宗教的」な要素を見出せることを学ぶ。	
	人権と差別1	人類の多年にわたる歩みにおいて、宗教（宗教的なもの）は、人びとの精神形成や、人と人が取り結ぶ社会的関係の形成に大きな役割を果たしてきた。宗教は、人と人との関係をより望ましい方向に導いていくという肯定的な働きを果たすとともに、人びとの関係に歪みをもたらすという否定的な働きを示すこともしばしばあった。歴史のなかから宗教と差別の関係を読み解いていくことは、これからの社会を担う私たちにとても大きな意味を持つものだと考えている。この授業では、前近代日本社会の宗教と差別の問題について授業を進める。まず、人権や差別の定義、宗教の定義など基本的概念の確認を行ったうえで、古代から近世までの、部落差別問題を核として宗教と差別の関わりについて考察していく。	
	人権と差別2	これから社会人（教師も含む）になるにあたって、必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決をはかるか、自分で考えることができるようになることを目指し、社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る。事例などを交え、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、コミュニケーション力などが育成できるよう、より実践的な人権学習の方法を学ぶ。	
	日本手話A	聾者の言語である「手話」を学び、人と人との関わり方や「共生社会」構築のうえでどのように自らが寄与するのかを考える。「手話は言語である」の意味を説明できること、自己紹介を手話で表現できること等を目指す。2006年に国際連合で採択された「障害者の権利条約」を根拠として、言語としての「手話」について基礎から学び、日常会話に必要な手話単語の習得や、手話表現技術を学ぶ。随時、手話学及び障害学の講義、ビデオ学習を行う。	
	日本手話B	「日本手話A」の単位取得者を対象にする。聾文化を理解し、社会における人と人とのあり方を学び、「聾文化」について自らの言葉で説明できること、日常会話を手話で表現できることなどを旨とする。「聾文化」をテーマにして、聾者と聴者の世界の違いを踏まえ「共生社会」とは何なのか、受講学生とともに考える授業にしたい。日常会話は勿論のこと、ある程度の手話通訳が可能になるまでを目標として、実技演習を中心に進めていく。	
	アウトドアスポーツ	自然環境を活かして行われるアウトドアスポーツ（野外活動）について、いくつかの活動を取り上げ、生涯に渡って親しむために必要な知識・技能を身につける。アウトドアスポーツ（野外活動）の魅力、各種目に必要な知識・技術、自然の中で行われるがゆえの危険とその回避方法など、学外での実習を通して身につける。学外実習では、主に、カヌー、登山、ハイキング、キャンピングスノースポーツなどのアウトドアスポーツをおこなう。	
	レクリエーションスポーツ	レクリエーションスポーツは、誰でも、どこでも、気軽に楽しめるスポーツであり、既存のルールやコート、用具を簡素化したり、工夫したりすることで年齢に関係なく手軽に楽しめるスポーツである。本授業では、ウォーキング系、ボール系、自然系、ラケットバット系種目などの各種レクリエーションスポーツを行い、勝敗にこだわらないスポーツの楽しみ方を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいく基盤を構築する。	
	ニュースポーツ	ニュースポーツは、レクリエーションスポーツと同様に、新しく考案された各種スポーツで、軽スポーツや柔らかいスポーツとされるニュースポーツに触れ、楽しむことを目的とする。本授業では、ディスク系、ヒーリング系、スティック系、ロープ系の種目等を体験し、勝敗にこだわらないニュースポーツの楽しさ、創造性、柔軟性、独自性、多様性を理解し、生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しんでいくいわゆる生涯スポーツに繋げていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉学科専攻科目	社会福祉学演習 1	社会福祉に関するテーマを設定し、論文・書籍・新聞記事・ビデオ・その他のドキュメントなどを題材としながら、学生各自が所定の様式によりレポートにまとめ、クラスで発表、ディスカッションなど行う。適宜クラスを各4名程度の小グループにわけ共同研究も行う。本演習を通じて「読み」「書き」「討論」に加え、「問題発見」「分析」「思考」「発表」のスキルを学ぶ。この授業を通して、自ら主体的に学習を進めていく習慣を身につけること、自ら主体的に学習を進めていくためのスキルを身につけること、身近なことから福祉についての興味や関心をもつことを日常化すること、福祉問題の現状や背景を理解し、解決策について考える力を身につけることを目指す。	
	社会福祉学演習 2	学生各自が4年次に履修する卒業論文に向け、論理的思考力を高めるために、個人で研究論文を作成する上で必要な基礎的知識・技術を身につけることを目指す。まずは各自が関心を寄せる社会福祉問題に関わるテーマ・キーワードを明らかにする。その上で、テーマ・キーワードに関する各種情報をインターネット等で調べ、その現状を文章化して整理する。同時に関連する研究論文も検索して読み込み、その内容や考察を文章化して整理する。最終的には、各自が関心を寄せる社会福祉問題の解決に向けた課題を検討し、研究計画書として整理することによって、総合的に研究を進めるために必要な知識と実践力の基礎を体得する。	
	社会福祉学演習 3	学生を概ね10名以下のクラス（ゼミ）に分け、学生各自が設定した研究テーマ・研究計画に基づき、卒業論文の執筆作業を進める。社会福祉学演習 2 に引き続き、研究テーマの具体化を進めるとともに、文献研究や質的量的調査方法、プレゼンテーション、ディスカッションなどの方法を学び、これらを通じて身の研究論文を精緻化していく。また、卒業論文中間報告会や必要に応じて個別指導の時間を別途設けて指導を行う。これを通じて、自ら設定したテーマに基づき、卒業論文の書き方、調査研究の方法を知り、説明することができること、自ら設定したテーマに基づき調査研究を行いプレゼンテーションするとともに議論することができること、様々な社会福祉の課題を俯瞰し、それについて自分の意見を述べることをめざす。	
	社会福祉学演習 4	学生各自が設定した研究テーマ・研究計画に基づき、卒業論文の執筆作業を進める。社会福祉学演習 3 に引き続き、文献研究や質的量的調査方法、プレゼンテーション、ディスカッションなどの方法を学び、これらを通じて身の研究論文を精緻化していく。また、卒業論文中間報告会や必要に応じて個別指導の時間を別途設けて指導を行い、卒業論文の完成をめざす。これを通じて、卒業論文執筆のスキルを身につけ活用できること、自らの研究内容についてのレジュメ、資料作成の方法やスキルを身につけ、活用できること、自らの研究内容を発表する方法やスキル、議論する方法を身につけ、活用できることをめざす。	
	社会福祉概論 1	社会福祉の成立は、近代社会以降の社会問題の発生によるものである。個人の問題として捉えられてきた貧困や疾病、傷害、高齢といった点を社会問題として捉え、その対応として社会福祉が展開されてきた。現代においては社会問題は多様化し、複雑化してきていると同時に、社会福祉は一部の人を対象とするのではなく、現代社会に暮らす全ての人を対象とするものへとなってきた。社会福祉を考えることは、自らの生活を見つめることであることを理解し、積極的に社会に関わるきっかけとして講義をおこなう。	
	社会福祉概論 2	社会福祉の成立の背景には社会問題があり、その社会問題は歴史の経過の中で変化し、その都度、社会福祉のあり方も変化してきた。社会的弱者と呼ばれる立場にある人をとらえる視野を拓ける理論や哲学を理解すると共に、その応用の中で、10年後、20年後の社会を視野に入れて社会福祉を検討する必要がある。現在、生じている社会問題を見つめると同時に、今後の課題を検討する場として授業を展開する。これを通じて、社会福祉の成立を歴史的に理解し、現代社会における社会福祉に求められる役割と課題を整理して考察することができること、社会福祉の土台となる理論や哲学を学び、新たな時代の社会福祉のあり方を検討することができること、現代社会の社会課題について自らの意見を文章化することができることをめざす。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉学科専攻科目	人体の構造と機能及び疾病	ライフステージにおける心身の変化と健康課題（心身の加齢・老化、各ライフステージ別の健康課題、人の成長・発達・老化等）、健康及び疾病の捉え方（健康及び疾病の概念、ICF）、身体構造と心身機能（人体部位の名称、基幹系と臓器の役割）、疾病と障害の成り立ち及び回復過程（疾病の発生原因・外的要因・内的要因、病変の成立、障害の概要、リハビリテーションの概要と範囲）、疾病と障害及びその予防・治療・予後・リハビリテーション、公衆衛生等、保健・福祉・教育の領域で必要とされる医学に関わる知識を習得させ、理解を促す。	
	社会学と社会システム	現代社会学の概念と理論についての基礎的な理解と、具体的・現実的な現代社会の事象に関する知識・認識を理解・習得をめざす。とくにミクロレベルからマクロレベルに至る社会システムの構造と、近代化・産業化・情報化を基軸とする社会システムの変動を現代社会学の社会理論によって把握する。また、理論の紹介にとどまらず、現代社会をめぐる具体的な社会事象、社会問題を例にしながら考察する。これらの学びを通じて、社会学の基礎知識と理論・理念、そしてシステム体系についてしっかり学習することを通じて、現代社会で起きている様々な社会事象や社会問題について考察し、社会性、社会規範性のある『社会人』、社会学における福祉の眼を持った『対人援助者』、社会の様々な課題についてジャーナリストのような批評・分析眼を持った『ソシオロジスト』となることをめざす。	
	社会保障論 1	人口減少下の日本社会が抱えるリスクについて基本的理解を促すとともに、社会保障の体系、役割について基本的な知識の獲得を通じて、社会保障の全体像を把握することを目指す。そのうえで、所得保障、とくに公的年金制度（国民年金、厚生年金、共済年金など）の仕組みなどの基礎的な知識と課題について学び、その理解を深める。具体的には、社会保障制度の変遷、社会保障の目的と機能、社会保障の仕組み・構造、年金制度の実施体制と沿革、国民年金の意義と体系・種類と給付、財源、厚生年金・共済、医療保険制度の体系と仕組み、国民健康保険、健康保険、後期高齢者医療制度、社会保障制度改革の動向と展望などについて学ぶ。	
	社会保障論 2	「社会保障論 1」を踏まえて、本講では、具体的な制度の理解として介護保険制度と労働保険諸制度、また、諸外国の社会保障制度の仕組みについて理解する。さらに、最新の議論をふまえ、ソーシャルワーク場面で遭遇する事例について検討する。具体的には、少子高齢社会と社会保障制度、介護保険の創設と実施体制、介護保険のサービスと給付、労働保険制度の概要、労働者災害補償保険、雇用保険、諸外国の社会保障制度—欧米、アジア、社会保険と民間保険を取り上げるほか、また高齢者福祉、年金、介護保険、非正規労働者、児童福祉などテーマ別イシューに基づいて社会保障について考察する。	
	社会福祉調査法	ソーシャルワーカーとしての専門性の高い実践は、論拠に基づいたものであることが前提とされる。そのため、論理的手続きに沿った量的・質的調査に関する知識と、調査を実施する際の具体的な方法について学んでいく。具体的には、社会福祉調査の概念、社会福祉調査に関する歴史と代表的な人物・業績、社会福祉調査に関わる法律と倫理、社会調査の種類・尺度・サンプリング、データ収集方法・質問/回答方法・質問文作成時の注意事項、リサーチ・クエスチョン・仮説・変数、調査票作成の流れと回収後の作業、データの集計と分析、質的調査(法)の基礎、インタビュー(聞き取り)調査の方法、参与観察法、ドキュメント分析、質的調査のまとめ方などについて学ぶ。	
	ソーシャルワーク論 1	社会福祉専門職による援助活動や実践体系を表すソーシャルワークについて基本的な知識を身につけ、専門的な援助の方法や課題について理解することを目的として、ソーシャルワークの概念、社会福祉とソーシャルワークの関係とソーシャルワークの形成過程、ソーシャルワークの構成要素（クライアントとクライアントシステム、ニーズと課題、社会資源）、ソーシャルワークのグローバル定義と社会福祉士の専門性、ソーシャルワークの原理（社会正義と人権、集団的責任と多様性の尊重）、ソーシャルワークの理念（当事者主権・自立支援・エンパワメント）、形成過程（ソーシャルワークの確立、発展、展開）、ソーシャルワークの専門的価値と倫理綱領・倫理的ジレンマ、社会福祉における対人援助職の根拠法、等について理解を促す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉学科専攻科目	ソーシャルワーク論 2	専門職の概念と専門性の理解、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク（課題と対象の把握、介入、相互の連関）、専門職と職域についての理解、ジェネラリストソーシャルワーク（概念の理解、システム思考、ストレングスとレジリエンシー、科学的根拠とクリティカルシンキング、個人から社会への視点の拡がり、社会福祉制度改革によるソーシャルワーク実践の転換と新しいソーシャルワーク実践の動向、多職種・多機関との連携の目的と方法、ソーシャルネットワークキングの目的と方法、ジェネラリスト・ソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助の意味・目的・方法、等について理解を促す。	
	ソーシャルワーク論 3	社会福祉の専門援助者（ソーシャルワーカー）としてクライアントの抱える生活問題を解決する前段階で求められるのは、ソーシャルワーカーとクライアントとの間の良好な援助関係である。授業では、そうした援助関係の本質と専門職としての援助関係の形成の仕方、専門的援助関係を基礎に展開される相談面接の技術についての理論と実際、専門的援助が計画的に展開される過程に沿いながら、各段階においてソーシャルワーカーが果たすべき役割や技術、ソーシャルワークにおける記録および、ケアマネジメントやスーパービジョン、コンサルテーションに関する基礎知識について学ぶ。	
	ソーシャルワーク論 4	ソーシャルワーカーがクライアントの生活問題に介入し、複雑な問題に対応するためにまずは今クライアントに起こっている問題はどこから来て、何と何に関わって現実の問題が構成されているのかについて様々な角度から分析しなければならない。その際、クライアントの置かれた状況を理解するための枠組みが必要となる。それが「モデル」である。さらにクライアントの状況や問題に応じて、多様な援助方法を使い分けられなければならない。そのために必要なのが「アプローチ」である。そこで、「モデル」と「アプローチ」について理論的に学び、つぎに問題に応じてそれらをどう使い分けるかということについて学ぶ。加えて、グループワーク及びコミュニティワーク基礎的知識について学ぶ。	
	ソーシャルワーク論 5	ソーシャルワークの関連援助技術や間接援助技術の方法論と実践方法について学び、ソーシャルワーカーの資質として必要な技術や知識を習得することによって地域で活動できるソーシャルワーカー、グルーピングやコミュニティワーク的な手法を身につけること、ソーシャルワーカーとしての応用技術であるソーシャルネットワークキングやスーパービジョン、コンサルテーション、地域包括ケア、コミュニティケア技術や知識も学び、応用的な内容もできるようにすることをめざす。	
	ソーシャルワーク論 6	児童福祉領域、障がい者領域、高齢者領域、貧困・生活保護領域などの事例分析、虐待防止方法論やリスクマネジメントの技術等も取り上げ、福祉問題が生成する構造、児童・高齢・障害領域等の事例に対する適切な支援方法の考察、個人情報保護、社会資源を活用した他領域の専門職と連携する方法、等について理解しつつ、ソーシャルワークの基本原則や理論、方法について統合して援助を展開できる能力を養うとともに、地域で活動できるソーシャルワーカーとなることができること、また、児童、高齢者、知的、身体、精神、発達の各種障がい者、貧困、ホームレスなどの属性別の対応方法、社会福祉法論や技術論について学び、ソーシャルワークとして包括的に考察する能力を身につけることをめざす。	
	地域福祉と包括的支援体制 1	社会福祉に関わる上で必要な地域福祉の基本的な考え方や内容、課題について学ぶ。とくに、多様化する地域生活課題、地域共生社会実現に向けた包括的支援体制、地域福祉のガバナンスと多機関協働、地域福祉の基本的な考え方、地域福祉の推進主体、等について理解を促す。具体的には、地域社会の変化、多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ、地域福祉と社会的孤立、地域包括ケアシステム、生活困窮者自立支援の考え方、包括的支援体制、地域共生社会とその地域共生社会の実現に向けた各種施策、地域福祉ガバナンス、多職種協働を促進する仕組み、多職種連携などを取り上げ理解を促す。	
	地域福祉と包括的支援体制 2	地域福祉の概念と理論、地域福祉の歴史、地域福祉の主体と福祉教育、また社会福祉に関わる上で必要な地域福祉の方法、とくに地域を基盤としたソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）、住民の主体形成に向けたアプローチ、福祉計画（地域福祉計画、地域福祉活動計画等）の意義と種類及び策定方法、現状、国・都道府県・市町村における福祉行財政システム、災害時における総合的かつ包括的な支援体制、地域福祉の動向等について学び、その理解を促す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉学科専攻科目	福祉経営論	福祉サービスの適切かつ効果的な提供には、それを担う組織が必要であり、それをいかなる体制でつくりどう運営するかが大きな課題である。福祉サービスに係る組織や団体の役割などの概要、法人制度、組織や経営に関する基礎理論、リーダーシップ、財務分析、コンプライアンスやガバナンスなど、福祉サービスの経営に重要不可欠な項目の実際と現場での実践方法について学ぶ。具体的には、社会福祉法人制度、特定非営利活動法人、医療法人制度、その他の組織や団体、経営に関する基礎理論、組織、管理運営の基礎理論、集団・リーダーシップに関する基礎理論、サービスマネジメント、質の評価、リスクマネジメント、サービス提供の在り方、人事・労務管理、人事評価・人材育成、会計管理と財務管理、情報管理と戦略的広報、適切なサービス提供体制の確保等を取り上げ理解を促す。	
	障害者福祉論	障害者福祉の歴史、わが国の障害者の実態、「障害」の定義と国際比較、障害者施策の体系（障害者基本法、身体・知的・精神・発達障害者関連法、障がい者制度改革、福祉のまちづくり（障害当事者運動とバリアフリー法、実態と課題）、障害者福祉の国際的動向（ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ICFと障害の社会モデル・障害者の権利条約）、障害者自立支援制度（法律・サービス内容、就労支援などにおける専門職の役割と実際）、地域生活支援事業、総合リハビリテーション（医療・教育・雇用等）などを取り上げ、障害者の「地域移行」、「自立生活」を目標にするわが国の障害者施策について、各種障害者関連法を根拠に社会の仕組み、ありようを考えるとともに、法律、制度をもとに現在の各種の支援サービスについて深く学びながら、支援のあり方について討論しながら授業をすすめる。	
	児童福祉論	すべての子どもには、生まれ育った環境によって左右されることなく、適切な養育を受け、健やかな発達を保障される権利がある。しかし、近年、児童虐待やDV、貧困などを背景にして社会的養護を必要とする子どもも多くいるのが現状である。その現状を理解すると共に、ソーシャルワークに求められる役割について、子ども家庭福祉分野に焦点を当てて、学習する。具体的には、現代社会における子ども・家庭、現代社会と子ども家庭福祉、子どもの育ち、子育てのニーズ、子どもの貧困の防止、母子保健、障害・難病のある子どもと家族への支援、児童健全育成、保育、地域子育ての支援、ひとり親家庭の福祉、社会的養護、非行児童・情緒障害児への支援、児童虐待対策、子どもと家庭にかかわる女性福祉などを取り上げ理解を促す。	
	高齢者福祉論	高齢者の定義と特性、少子高齢社会の到来、高齢者の生活実態、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者福祉の歴史、高齢者福祉の理念、介護保険制度の概要、地域支援事業の内容と地域包括支援センター、介護保険サービスの体系、高齢者保健福祉の法体系（老人福祉法、高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法、バリアフリー法、高齢者住まい法、高齢者雇用安定法、育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援）、高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割、高齢者と家族等に対する支援の実際などを取り上げ、高齢者とその支援方法としての介護過程・介護予防・終末期ケアや、高齢者の福祉・介護にかかる法制度について理解を促す。	
	公的扶助論	日本では公的扶助とは主として生活保護制度をさしている。講義では、貧困についての基本的理解を深めること、生活保護制度の仕組みとともに制度が抱えている課題について解説する。とくに、現代社会の中の貧困問題の実態を通じてその背景や貧困・低所得についての基本的な理解を深めるとともに、イギリスにおける救貧法や社会改良政策、日本の公的扶助制度の歴史、日本における生活保護の基本原則・4原則・基準・扶助の種類と方法、生活保護の実施と費用、被保護者の権利と義務、等の学びを通じて、生活保護制度の仕組みとその意義・課題、生活保護対象者や生活保護政策の動向について理解を深める。	
	医療福祉論	社会福祉のアプローチとして医療ソーシャルワークを取り上げ、保健医療と社会福祉のつなぎ手として患者・家族にどのようなサービスを提供できるかを考え学ぶ。社会福祉とは目的が異なる「医学・医療」について基本的な知識を学んだうえで、ソーシャルワークのクライアントである患者と家族について、事例等に基づき理解を深める。さらに、ソーシャルワークの実践者である医療ソーシャルワーカーについて、業務指針や専門性を中心に学ぶ。関連する社会保障や多職種連携によるチームアプローチなどの知識を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉学科専攻科目	権利擁護を支える法制度	憲法における基本的人権と権利擁護に関する法律、制度、権利侵害の実態（外国人、女性、高齢者、障害者、児童）と法体系、社会福祉基礎構造改革と権利擁護、虐待・暴力防止法的における相談支援、成年後見制度（介護保険法と権利擁護、後見・保佐・補助）、日常生活自立支援事業における権利擁護、成年後見制度利用支援事業（障害者事例、市町村事例）、成年後見活動の実際（高齢者、知的、精神障害者）、権利擁護にかかわる組織、団体、権利擁護にかかわる専門職の役割などを取り上げ、社会福祉における人権をそれ支えて法制度について理解を深めるとともに、権利擁護にかかわる専門職のあり方について考察する。	
	刑事司法と福祉	犯罪行為者に対する司法や処遇、福祉との関係について学ぶ。とくに、犯罪とその対策、刑事司法および少年司法の流れと手続き、施設内処遇（成人・少年）及び社会的処遇（更生保護制度の理念と概要、ソーシャルワーカーの役割、更生保護制度におけるネットワーク構築）、多様なニーズを有する犯罪行為者（精神障害者、高齢者、知的障害者等）、地域生活定着支援センター、犯罪被害者支援、等について学び理解を深める。これを通じて、罪を犯した人の更正と社会復帰・社会参加を、刑事司法制度（更生保護制度）と社会福祉（ソーシャルワーク）の連動と連携を通して考え、ソーシャルワークとして「犯罪（非行）防止・再犯防止・犯罪被害者支援」を捉え、そこに必要な視点や専門性を身に付けられるようになること、刑事司法制度、更生保護制度の知識やシステムを理解し活用できるようにすることをめざす。	
	ソーシャルワーク演習 1	社会福祉の価値・倫理ならびに自己覚知に関する知識とともに、基本的なコミュニケーション（面接）技術、ソーシャルワークの展開過程（ケース発見とインテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施とモニタリング）で求められる知識・技術を中心に、演習を通じて理解し身につける。また期間中に社会福祉現場で従事するゲストスピーカーよりレクチャーを受け、社会福祉現場についての理解を深める。これを通じて、ソーシャルワークに関する基礎的な知識・技術の意義を理解し説明できることができ、他の科目との関連性も視野に入れつつ、具体的な事例・実態に基づいて相談援助職に求められる能力について議論できることをめざす。	
	ソーシャルワーク演習 2	ソーシャルワークが対象とする具体的な相談援助事例（貧困問題、児童虐待、認知症高齢者などのピネット等）を題材に、各事例へのアプローチ（インテーク方法、アセスメント、プランニング、コーディネート等）について学ぶ。合わせて、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導（ロールプレイ等）により専門的援助技術への理解を深める。これを通じて、ソーシャルワークの対象となる人々および問題の実態・課題について説明できること、具体的事例に基づき専門的知識・技術を用いた支援方法について議論できること、ソーシャルワークの対象となる人々が抱える問題の解決に向け根拠に基づいた思考・判断ができるようになることをめざす。	
	ソーシャルワーク演習 3	相談援助に関する具体的な事例・実態（低所得者・ホームレス、社会的排除、虐待・家庭内暴力等）についてグループディスカッションを通して考察するとともに、ソーシャルワークの各種実践モデルやアプローチ（治療モデル・環境モデル・生活モデル、心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ等）に関する相談援助事例を用いて課題と援助方法への理解を深める。これを通じて、社会福祉士に求められる能力を養うとともに、相談援助に関する具体的な事例・実態とともに相談援助実践で用いられる各種の実践モデルやアプローチの内容を説明することができること、相談援助実践を理解し問題解決を図っていく上で必要となる能力について議論できるようにすることをめざす。	
	ソーシャルワーク演習 4	社会問題を基盤とした相談援助事例について、視聴覚教材等を活用しながら課題と専門的援助技術に対する理解を深める。教材の視聴と情報整理、個人作業、グループディスカッション、報告、まとめ、振り返りを通して、総合的かつ包括的な援助の方針を考え、社会福祉士に求められる相談援助に関する知識と技術の習得と、これらを専門的援助技術としての概念化・理論化・体系化を目指す。これを通じて、社会福祉士に求められる相談援助に関する知識と技術を実践的に習得し、これらを専門的援助技術として概念化・理論化・体系化していくことができること、変動する現代社会における社会福祉問題に対応するためにソーシャルワーカーに求められる技能について議論できることをめざす。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉学科専攻科目	ソーシャルワーク演習 5	社会福祉士（ソーシャルワーカー）に求められるソーシャルワークに係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。とくに、主として地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用しながら、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークについての指導を行う。多くは「ソーシャルワーク実習1・2」を行った後であるので、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。	
	ソーシャルワーク実習指導 1	「ソーシャルワーク実習1・2」と連動させ、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、「ソーシャルワーク実習の手引き」および「実習記録ノート」等を活用しながら、個別指導及び集団指導、見学実習や施設・機関の職員等のゲストスピーカーによる講義を通じて事前学習を中心に行う。具体的には、社会福祉士等の社会福祉専門職の倫理・義務等に関する理解、ゲスト講義を通じて実習分野と社会福祉施設・機関等に関する基本的理解（児童福祉領域、障害者福祉領域、高齢者福祉領域、地域福祉領域、医療福祉領域）、配属先の分野・領域、施設・機関等選定のための個別指導・集団指導などを行う。	
	ソーシャルワーク実習指導 2	「ソーシャルワーク実習1・2」と連動させ、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、「ソーシャルワーク実習の手引き」および「実習記録ノート」等を活用しながら個別指導及び集団指導を通じて、相談援助の知識・技術の習得、実習計画書の作成など社会福祉施設・機関での配属実習に向けての事前学習の講義・演習を行う。必要に応じて実習指導者に事前指導を受ける。授業中に参考書籍や文献を提示し、各自理解を深める。プレゼンテーションを実施し理解度を確認する。	
	ソーシャルワーク実習指導 3	「ソーシャルワーク実習1・2」と連動させ、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、「ソーシャルワーク実習指導の手引」および「実習記録ノート」等を活用しながら、個別指導及び集団指導を通じての事後学習を中心に行う。具体的には、実習報告集（レポート）作成、実習自己評価書の作成、実習の振り返り、実習記録からの振り返り、実習記録、施設・機関の実習指導者による評価の提示と補足の助言・指導、実習報告会とその準備、実習終了後の課題整理及び課題明確化、事例研究などを行う。	
	ソーシャルワーク実習 1	次年度に「ソーシャルワーク実習2」を履修することを前提に、その準備のための現場体験学習の意味も含めながら、社会福祉施設や事業所における60時間以上の配属実習を、原則として2年次秋学期に行う。学生が各施設等の実習指導者により、授業計画に掲げる事項について指導を受けるものとする。担当教員は、授業計画に掲げる事項について学生及び実習指導者との連絡調整を綿密に行い、学生の実習状況の把握と個別指導を行う。実習やその事前学習を通じて、配属実習先の状況、機能、職員の構成、職務、利用者とのコミュニケーションを通じたラポール形成の方法、ソーシャルワーカーに求められる援助技術の内容などについての理解を深める。	
	ソーシャルワーク実習 2	近畿圏に所在している高齢者、障害者、児童の各福祉施設・事業所、医療機関、市町村社会福祉協議会等において、原則として3年次の夏季休業期間に180時間以上の配属実習を行う。この実習を通して、利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成、多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際、社会福祉士としての職業倫理と相談員業務、記録の意義と方法に関する理解、施設・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際、当該実習先が地域社会の中の施設・機関・団体等であることへの理解、実習先の具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解などについて深める。実習計画の見直しも適宜行う。	
	地域連携実習	2、3年次に「ソーシャルワーク実習1・2」を経験した学生のアドバンスプログラム、また両資格国家試験受験資格を取得しない学生に対する活動体験プログラムとし、具体的には、本学が包括連携協定を締結している天理市などの自治体が実施する施策・事業、本学周辺の社会福祉法人など福祉団体が実施する事業、あるいは各教員が関わっている地域貢献活動等をベースにプログラムを準備し、これに学生を参加させ、その活動とプロセスを経験させることを通じて、活動のスキルや知見の獲得を目指す。これと併せて、各プログラムに関連する福祉系資格（保育士、福祉住環境コーディネーター等）取得のインセンティブを学生に付与していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉学科専攻科目	天理教社会福祉論	宗教による社会貢献に対する理解を深めながら、天理教による社会福祉の教理的根拠（陽気ぐらし、ひのきしん、一手一つ…）や歴史、組織や主体（教団、本部、教会、教区、支部等）、実践内容（施設や活動などの直接的ケア、学び、交流・ネットワーク、宗教資源の提供等）、課題等について学び、それを通して、天理教社会福祉に内在する「他者への献身」また「誠真実」という精神について考察するこれらを通じて、近年注目されている宗教による社会貢献など宗教と社会福祉を取り巻く状況を踏まえ、宗教特に天理教における社会福祉の考え方や歴史、活動内容などについて知り、また、天理教と社会福祉について学ぶことを通して、本学の「建学の精神」に基づく「他者への献身」といった態度を身につけることをめざす。	
	精神医学と精神医療 1	現代社会における精神保健医療福祉上の諸課題を正しく理解し、多角的に分析するために必要な社会福祉学、特に精神疾患やその治療に関する基礎知識・技術・価値・倫理を修得し、主体的に考え生活上の諸課題解決のための実践力を修得することを目標とする。具体的には、脳および神経の解剖生理、精神医学の概念・精神障害の成因と分類、精神疾患の診断・精神症状と状態像、身体検査と心理検査、代表的な精神疾患（症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質による精神および行動の障害の概要、またとくに、認知症性疾患、アルコール依存や薬物依存、統合失調症の概要等について理解を深める。	
	精神医学と精神医療 2	「精神医学と精神医療 1」に引き続き、現代社会における精神保健医療福祉上の諸課題を正しく理解し、多角的に分析するために必要な社会福祉学、特に精神疾患やその治療に関する基礎知識・技術・価値・倫理を修得し、主体的に考え生活上の諸課題解決のための実践力を修得することを目標とする。とくに、統合失調症の疫学、概要、治療法、気分（感情）障害の疫学、概要、治療法、不安障害、PTSD、強迫性障害の概要、解離性障害、心気障害の概要、摂食障害、睡眠障害の概要、精神疾患の薬物療法、病院精神医療における精神保健福祉士の役割などを取り上げ、理解を深める。	
	現代の精神保健の課題と支援 1	近年のストレス社会を背景に精神疾患患者が増加している。精神保健の課題は、乳児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期などライフステージ全般にわたって存在し、それぞれに対する対策が必要となっている。本授業では、精神保健の定義・概要について学習するとともに、ライフサイクルにおける精神保健の課題についてその概要及び対策について学習する。また、精神保健の個別課題として、精神障害対策、認知症対策、アルコール関連問題対策について学習する。	
	現代の精神保健の課題と支援 2	近年、精神保健の問題は医学や保健領域だけではなく、教育、労働など各領域においても重要な課題となっている。本授業では、各ライフサイクルで生じる精神保健上の課題を学習した春学期に引き続き、現代の重要な精神保健の課題となっている引きこもり問題、心の健康づくり等について学習する。また、家庭、教育、労働等各領域別の精神保健の課題とその対策について学習する。また主要各国の精神保健の取り組み、WHOの活動を学習する。主要各国の精神保健の取り組み、世界保健機関（WHO）の活動を学び、これからの精神保健の課題と支援を理解する。	
	精神保健福祉の原理 1	精神保健福祉士は、ソーシャルワーカーとして主に精神障害やメンタルヘル스에課題を抱える人々の権利擁護や生活支援を担い、誰もが自分の意思でその人らしく主体的に暮らすことができるよう、本人及び本人を取り巻く環境や社会に働きかけを行う。そのために必要な学問的知識やスキル、ソーシャルワークの価値を習得する。とくに精神保健福祉の原理や理念、歴史、精神障害の定義、精神障害者の特性、精神保健福祉士の役割について学ぶ。	
	精神保健福祉の原理 2	精神保健福祉士は、ソーシャルワーカーとして主に精神障害やメンタルヘル스에課題を抱える人々の権利擁護や生活支援を担い、誰もが自分の意思でその人らしく主体的に暮らすことができるよう、本人及び本人を取り巻く環境や社会に働きかけを行う。そのために必要な学問的知識やスキル、ソーシャルワークの価値を習得する。とくにここでは、精神障害者の家族が置かれている状況、精神障害者の社会生活の実態などを踏まえ、精神保健福祉士による実践の価値・原理、視野や視点、援助における関係性、精神保健福祉士法、精神保健福祉士の職業倫理・業務特性と業務指針、職場・職域、業務内容とその特性等について学ぶ理解を深める。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉学科専攻科目	現代家族論	家族の定義、家族の役割と任務、家族病理、家族のストレス、家族福祉・ファミリーソーシャルワーク、家族療法、また家族に関わる事例研究等を通じて家族にかかわる理論を理解するとともに、社会学としての家族の機能や形態についての理解し各自が考えていく。また社会福祉における家族について、そして非行や犯罪といった司法福祉はもとより児童虐待や介護問題、障害者の結婚などの家族問題についても理解して、家族問題に対応できるようになる。	
	ソーシャルワーク理論と方法（専門）1	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの理論、精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開過程（アウトリーチ、インテーク、アセスメント、援助関係の形成技法、面接技法、人や環境へのアプローチ、ケアマネジメント）、精神保健福祉分野における家族支援の実際（精神障害者と家族、家族への理解、家族支援の方法）、精神保健福祉分野におけるコミュニティワーク等への理解を通じて、精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの理論と方法について理解を深める。	
	ソーシャルワーク理論と方法（専門）2	精神保健福祉分野におけるソーシャルアクション（基本的視点、個別支援から地域における体制整備、政策提言、精神障害者の地域移行・地域定着への展開等）、精神保健福祉分野における多職種連携・多機関連携（多職種連携の意義、連携、協働、チームアプローチ等）、精神保健福祉分野におけるソーシャルアドミニストレーション（組織と精神保健福祉士との関係性、組織介入・組織改善の実践モデル等）、関連分野における精神保健福祉士の実践（スクールソーシャルワーカー等）についての理解を通して、精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの理論と方法について学ぶ。	
	精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーションの理念・定義・原則（医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義等）、精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係、精神障害リハビリテーションの構成と展開（リハビリテーションの対象、プロセス、チームアプローチ、精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割等）、精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの各プログラム等）、精神障害リハビリテーションの動向と実際等についての学びを通じて、精神障害リハビリテーションの理論と方法について理解を深める。	
	精神保健福祉制度論	精神障害者に関する制度・施策、精神障害者の医療にかかわる制度（精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割、医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割、医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割等）、精神障害者の生活支援（居住支援制度、就労支援制度、相談支援制度等と、精神保健福祉士の役割）、精神障害者の経済的支援（生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、低所得者支援制度と、精神保健福祉士の役割）、精神障害者と生活困窮などへの学びを通じて、精神障害にかかわる福祉、医療などの支援制度について理解する。	
	精神保健福祉援助演習1	精神保健福祉援助演習において、援助実践を理解し考察を深めるために必要な知識・技術・視点について演習形式で学ぶ。授業では主に、具体的な相談援助場面の事例（コミュニケーション、医療機関における事例、地域事業所における事例、実習場面における事例等）を用いて、知識や技術を確認するとともに、ソーシャルワークの視点で場면을考察し、考察したことを言語化するトレーニングを行う。これを通じて、基本的な対人援助技術の習得と精神保健福祉士養成の指定科目群についての総合的理解を深めるとともに、精神保健福祉の現場で、精神保健福祉士がどのような実践を行っているのかなどを通して学ぶ。	
	精神保健福祉援助演習2	現場での事例（医療機関、地域事業所等）などを学び、グループワークやロールプレイなどの演習形態により、学生自身が積極的に授業に参加する授業を実施する。現場での精神保健福祉士がどのような実践をおこない、役割を担っているのか等をイメージしやすいようにビデオやDVDなどの教材を活用し、学生が自分自身で学び、考え、主体的に行動する態度を養成するとともに、精神保健福祉援助演習に先立ち、精神保健福祉をめぐる課題のなかから関心のあるテーマを深め、自らの問題意識として言語化する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉学科専攻科目	精神保健福祉援助演習 3	精神保健福祉援助実習で体験した出来事や場面を振り返り、ソーシャルワークの視点で検討する演習を中心に行う。精神保健福祉援助実習における経験を踏まえ、精神保健福祉をめぐる課題について、ディスカッション等とおして考察を深めるとともに、実習体験をソーシャルワークの理論と結び付けることにより、精神保健福祉士の専門性や役割について理解する。その際とくに、検討対象となる援助場面の当事者や関係者といった他者の理解のみならず、その場に立ち会った自分自身を振り返る自己理解を深めることを重視する。	
	精神保健福祉援助実習 A	近畿地区に所在する精神科医療機関及び障害者福祉サービス事業を行う施設における配属実習により、受講学生が各施設及び機関の実習指導者による指導を受ける。また、巡回指導および帰校日指導をおして、実習中の個別指導を行う。適切な実習課題を立て、現場での実習をおしてそれらの課題を遂行しつつ専門職として有しておかなければならない職業倫理・専門的知識・専門的技術を概念化し、理論化できるようにする。また、実習の全プロセスを通じて、精神保健福祉士として求められる資質や自己に求められる課題についても理解していく。	
	精神保健福祉援助実習 B	近畿地区に所在する精神科医療機関及び障害者福祉サービス事業を行う施設における配属実習により、受講学生が各施設及び機関の実習指導者による指導を受ける。また、巡回指導および帰校日指導をおして、実習中の個別指導を行う。適切な実習課題を立て、現場での実習をおしてそれらの課題を遂行しつつ専門職として有しておかなければならない職業倫理・専門的知識・専門的技術を概念化し、理論化できるようにする。また、実習の全プロセスを通じて、精神保健福祉士として求められる資質や自己に求められる課題についても理解していく。	
	精神保健福祉援助実習指導 1	精神科病院等の病院・精神科診療所・地域の障害福祉サービス事業を行う施設等における配属実習に向けて事前の準備学習を行い、実習のイメージがつかめるようになる。事前学習を通じて、精神保健福祉援助実習の意義を理解し、これまで学んできた専門知識・技術および関連知識について、より具体的かつ実際に理解できるようになること、また精神保健福祉士として求められる資質、技術、倫理等、総合的に対応できる能力を修得することをめざす。	
	精神保健福祉援助実習指導 2	「精神保健福祉援助実習 A・B」と連動させ、実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、事前学習を中心に授業をすすめる。具体的には、実習課題の選び方や課題達成の方法、記録の書き方等を学習しながら各自が自らの実習目標を定め、適切な実習計画を作成する。その過程を通じて、必要となる専門知識・専門技術を段階的に習得していく。また、実習に向けてのグループ学習や個別指導を通して、精神保健福祉士として身につけておくべき職業倫理を理解する。	
	精神保健福祉援助実習指導 3	「精神保健福祉援助実習 A・B」と連動させ、実習が意義あるものとなるよう、個々の実習配属先の状況及び実習経験に基づいた事後学習を進める。具体的には、精神保健福祉援助実習終了後のふりかえりを行うことで、配属実習における体験や援助経験を概念化し、理論化することができるようになること、実習をおして気づいた自らの課題について考察すること、上記の事柄について言語化することを通して、将来の援助者としての自覚を促していくことを目指す。	
	卒業論文	卒業論文は4年間の学習成果を集大成する研究活動である。多くの研究課題を有する社会福祉分野から各自の関心に沿ったテーマを選択し、先行研究をふまえながら問題及び仮説、またそれに合った研究方法（文献研究、インタビュー等の質的調査、アンケート等の量的調査）が設定された研究計画を立案するとともに、問題の解決策が具体的に提示された学術的論文の作成を目指す。この作成過程を通じて、社会福祉学の研究手法、及び独自の意見を論理的に構成した研究論文の作成方法の習得をめざす。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
天理 教学 部門	伝道実習 1	天理教の信仰に関する講演会、教会本部や大学構内でのひのきしん活動などを通じて他者へ貢献することの意義を学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふべく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に主体的に貢献できる人間になることを目的とする。具体的には、大学行事である「おつとめまなび」への参加、毎月1回のひのきしん活動への参加、「信仰フォーラム講演会」への出席とそれぞれに関する感想文ないし報告書を提出する。	
	伝道実習 2	天理教の信仰に関する講演会、天理教教会本部における「お節会」のひのきしんなどを通じて人とつながり、人につくすよるこびを学び、国内外で天理教の布教伝道に従事するよふべく、ならびに各地にある天理教の教会や地域社会の活動に貢献できる人間になることを目的とする。「おつとめまなび」に参加し、講話についての感想文を提出する。また、教会本部お節会のひのきしんや「信仰フォーラム講演会」に出席し、その感想文を提出する。	
	伝道実習 3	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道、ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の「祭儀式」における所作と重要な祭儀である「つとめ」の「おてふり」について、実習を通して学ぶ。それぞれ、教会本部より講師を招き、直接指導を受ける。それぞれの授業の最終日に、天理教の祭儀に関する基礎的な知識と所作、「つとめ」の手ぶりについて筆記・実技の試験を行ない、習熟を促す。	
	伝道実習 4	天理教の教会での活動に不可欠な実技を学び、天理教の布教伝道ならびに教会の信仰活動に役立つ人間になることを目的とする。この授業では、天理教の重要な祭儀である「つとめ」において使用する「鳴物」について、実習を通して学ぶ。教会本部より講師を招き、いくつかのグループに分かれて直接指導を受ける。最終の2回は、全体で九つの鳴物をあわせる総合練習を行い、鳴物の基礎的な知識と奏法だけでなく、それぞれの鳴物が合わせあって勤めるというつとめの心構えを学ぶ。	
資格 科目	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か？」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力（話す・聞く・書く・読む）の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞（名詞、動詞、い形容詞、な形容詞）の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態（ます形、辞書形、て形、ない形など）のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類）をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	
人文 科学 部門	日本語学入門	「外国語としての日本語」を教えるための日本語学の基礎知識を身につける。まずは「言語学とは何か？」という問いをもとに、言語を研究する基本姿勢を学ぶ。そのうえで、音声・語彙・文法などにおいて、日本語と諸言語の共通点と相違点をもとに、学習者が誤りやすいポイントと誤りが生まれるプロセスについても考える。日本語教員養成課程履修の入口であるこの授業では、日本語母語話者である学生に「自分はいかに日本語を知らないか」を感じてもらう。	
	日本語教育入門	日本語学入門の内容をもとに、さまざまな学習者に対応するための教授法や授業で伸ばす能力（話す・聞く・書く・読む）の違いなどから、学習者に日本語をどう教えるかについて考える。まずは日本語教育が発展してきた背景をもとに、日本語教育の多様化に対応するためのニーズ分析や細分化されたシラバスについて提示しながら、「日本語をどう教えるか」について考える。そのうえで、主に発音指導や会話指導のあり方を、実際の授業の様子を収めた動画などから学ぶ。	
	日本語語彙論	日本語教育の場において実際に直面するであろう語彙の問題に対処できるようになるため、本科目で指定するテキストをもとに、日本語の語彙にかかわるさまざまな現象について、多言語との対照もまじえながら多角的に考える。また、類義表現をもとにした共通点と相違点の分析など、実践的な練習も取り入れる。最終的な目標は、日本語教師として独り立ちした際に適切な語彙指導が行えるような語彙の体系を各履修者の頭の中に構築することである。	
	日本語文法論 1	「文法とは何か」という問いに始まり、日本人学生が高校までに学んだ学校文法の体系との比較もまじえながら、日本語教育における主要な品詞（名詞、動詞、い形容詞、な形容詞）の整理や助詞の基本的な用法の確認、動詞の活用の実態（ます形、辞書形、て形、ない形など）のような日本語教育における活用形の名称や1・2・3グループといった動詞の分類）をもとに、外国語としての日本語を教えるための文法体系の基礎を構築することを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 人文科学部門	日本語文法論 2	「日本語文法論 1」の内容をもとに、主に日本語教育の初級段階で導入される重要な文法事項について考える。「ハとガ」「授受の表現（あげる・くれる・もらう）」「ヴォイス（受身・使役）」「動詞の自他」「テンス」「敬語」などを取りあげ、日本語学習者が難しいと感じる点、学習者の誤用が現れやすい点などを、諸言語との対照もまじえながら、わかりやすく説明するにはどうすればよいかについても考える。学生の積極的な意見交換が求められる。	
	日本語音声学	日本語の発音・アクセントの特徴とそれを教えるための留意点を整理したうえで、他言語を母語とする学習者が日本語の音声を学ぶ際に誤りやすい点について考える。具体的には、日本語の音声の調音点・調音法、日本語の高低アクセントの実態、日本語の母音の無声化の現象などの理解をもとに、ともすれば「お国ことば」が混じりやすい主に関西出身の学生の日本語の発音を、日本語教師として通用するようなよりスタンダードなものに変えることを目指す。	
	言語の対照研究	日本語教育において、学習者の困難点を予測し、誤りの原因を推測し、適切な教材・カリキュラムを作るには、学習者の母語と日本語との比較・対照が必要である。それらを研究対象とする対照言語学について学ぶ。この授業ではまず、日本語と英語の文法的な相違を概観したうえで、中国語圏日本語学習者が誤りやすい文法事項現象について解説する。そのうえで、履修者が学習する外国語の知識も生かしながら、諸言語と日本語の対照も行う。	
	日本語教授法 1	現在国内外の日本語教育現場では、どのような学生が、どのような機関で、どのように学んでいるのかを理解する。日本語教師の資質、教員の検定試験についても概説する。次に、指定教科書を使って、学習項目のたて方、練習方法、教具や教室活動などを分析し、実際の授業がイメージできるようにする。授業前半では、国際交流基金の調査をもとに、世界の日本語教育の実態についての発表を行う。後半は数種の日本語教材の内容を精査し、効果的な授業の進め方について考える。	
	日本語教授法 2	履修者が日本語の授業を担当するために必要な知識やスキルを身につける。まず、いろいろな外国語教授法について学び、それぞれの長所・短所について議論しながら、実際の授業に応用できないか考える。次に、それらの教授法を用いて、模擬授業を行ってみる。履修生に「日本語を日本語で教える」ことの難しさ・奥深さを感じてもらおうことが狙いである。この授業は、4年次で取り組む日本語教育実習に向けた準備段階と位置づけられる。	
	第二言語習得論	「外国語がどのように習得されるか」にかかわる普遍的なプロセスを多角的に学ぶ。例えば、「子どもは大人よりも外国語学習が得意か?」「インプットとアウトプットのどちらが大事か?」「大人も子供が母語を学ぶのと同じように学ぶべきか?」などのさまざまな疑問を切り口として、日本語教育に役立つような知見の獲得を目指す。そしてその知見を日本語教育の現場で生かすための実践的な取り組みを、授業で見られる具体的なケースをもとに討論する。	
	日本語指導法	4年次で取り組む「日本語教育実習」にそなえ、教壇に立つ経験を積むことを目指す。『みんなの日本語初級 I』をテキストに、担当の文型を教えるための30分程度の模擬授業を行う。あわせて、授業の教案の書き方についても学ぶ。履修者が担当するのは、「て形」「辞書形」「ない形」「た形」の導入およびその説明、運用のための練習に加え、「～がほしいです」「～たいです」「～がわかります」「～が上手です」などの文型である。	
	日本語教育評価法	実際の教育にあたる者は学習者の表現をどのように評価すればよいのかを考える。また、選択されている教材について、不足部分を検討し、副教材作成に至るまでの教材開発の流れについて知る。日本語教育における評価の実態、コースデザインと教材の関連性、教材開発の手順、ニーズ調査方法と留意点、主教材の分析と評価、分析結果に基づいたコース・デザイン、教材作成の留意点、学習目標とシラバス、などの分析を通して、副教材作りに取り組む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文科学部門  資格科目  社会科学部門	日本語教育実習	学外の日本語教育機関で一週間ほど、日本語教師の業務を実地に学ぶ。実習先は奈良県内、大阪市内の日本語教育機関が中心で、海外（台湾）の協定校で実習を行うこともある。実習前半は主に授業見学と実習先教員のアシスタントをしながらさまざまな教員の授業スタイルを学び、授業がない時間には教案作成にも取り組む。実習後半には教壇実習として、実際のクラスで30分～60分程度の授業を行う。教壇実習終了後には指導教員からのフィードバックを受ける。	
	図書館情報システム論	今日の図書館における各種の業務・サービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接に結びついている。この授業では図書館の業務・サービスを実施するのに必要な、基礎的な情報技術について、さまざまな実例を通じて理解を深める。特に、(1) コンピュータ技術・ネットワーク技術の基礎的知識を踏まえ、図書館のさまざまな活動を支える「図書館業務システム」の現状を理解すること、(2) 電子上の各種資料の管理・利用に関する注意点を理解すること、を主なねらいとする。	
	情報サービス論	図書館サービスの重要な局面のひとつに、「利用者の情報要求（情報ニーズ）に対し、図書館内外の情報資源をもとに回答する」という情報サービスがある。ここには、「参考図書をもとにした応答」という従来型のレファレンス・サービスだけではなく、インターネットなどの電子的情報源をもとにした応答、図書館からの情報発信、図書館利用教育、といったさまざまな取り組みが含まれる。この授業ではレファレンス・サービスを中心としつつ、さまざまな情報サービスについて解説する。	
	児童・YAサービス論	図書館における児童サービスは、図書館サービスのスタートラインであると共に子どもにとっての読書の入り口となっている。この授業ではサービスの意義と歴史、サービスの持つ特殊性、児童資料の種類と特色、サービスの在り方等に加えて、児童書に触れ、作品を取り上げての具体的な評価、子どもと本をつなぐ方法・技術（読み聞かせ・おはなし会の実演や体験）などを身につける。また児童サービスから一般サービスへの移行段階としてのYAサービスについても、この授業で取り上げる。	
	情報サービス演習 1	この授業では図書館での情報サービスのうち、「利用者からの情報の要求に対し、何らかの根拠たりうる情報・情報源を提示しつつ応答する」という「レファレンスサービス」について、演習を行う。各回において具体的な情報源を解説しつつ、実際の課題を解いてもらう。図書館の「レファレンスサービス」に必要なさまざまな情報源について、調査対象となる事柄ごとに具体例を理解し、使い分けができるようになることを、ねらいとする。	
	情報サービス演習 2	図書館での情報サービスを展開する上で、各種データベースやインターネット上のさまざまな情報源を検索し、また検索結果を評価する技能を身につけることは、利用者の情報要求を満たすために今後ますます必要となる。この授業では、主にインターネット上の無料の情報源について、演習を通じて検索・活用する方法を習得することをねらいとする。言い換えれば、この種の各々の情報源の信頼性を確認しつつ、検索の仕方や活用法を理解し、目的や対象に応じた使い分けができるようになることが、受講者の到達目標となる。	
	図書館情報資源概論	図書館サービスを成り立たせる重要な要素のひとつは、「情報資源」の存在と、それを収集して構築した「コレクション」である。ここでいう「情報資源」は、伝統的な紙媒体の図書・雑誌といった「資料」とどまらず、インターネット上の電子メディアなども含めたものを指す。この授業においては、図書館情報資源の種類と特徴を論じ、また図書館における情報資源の取り扱い、資料選択とその基準、コレクションの構築・保存・評価などについて説明する。	
	情報資源組織論	「情報の組織化」とは、図書館が収集した情報を利用に供するために、利用者の検索の便を考慮し、一定の方式（ルール）に従って、その情報源が有している各種の情報を整理・圧縮し、体系化することをいう。情報組織化の主な技術のうち、一つは情報を客観的に記述し、種々のことがらから検索するための技術である記述目録法、もう一つは情報の内容（主題）を分析・要約・表現するための技術である主題索引法である。本科目では、現行の具体的なルールの解説に加え、より原理的な考え方の理解に主眼を置いて講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 社会科学部門	情報資源組織演習 1	図書館の情報資源についての主題索引法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・主題分析の方法が理解でき、対象資料の主題を明示できる。 ・分類法の構造と使用法が理解でき、説明できる。 ・特定の主題を分類法の記号に置き換えることができる。 ・分類表によって付与された分類記号がどのような主題を表しているかが分かる。 授業内では、日本十進分類法（NDC）の最新版に基づき、その適用規則を解説した上で、演習を行う。	
	情報資源組織演習 2	図書館の情報資源についての記述目録法に関する演習科目として、次のことを到達目標とする。 ・記述対象資料に表示されている情報が書誌要素としてどれに該当するかが分析ができるようになる ・記述対象資料に表示されている情報を加工し、記述目録規則に従って記録することができるようになる。さらに、その情報について、データベースのコーディング規則に従って記録できるようになる。 授業内では、日本目録規則（NCR）およびJapan MARC formatそれぞれにつき、実務での運用に堪える版（バージョン）を取り上げ、適用方法を解説した上で、演習を行う。	
	図書館情報資源特論	図書館が管理・保存しアクセスに供する「情報資源」のうち、学術的な情報資源（学術情報）に焦点を当て、その生産・流通の実態、および図書館としての管理・保存・アクセス等をめぐる課題や取り組みについて解説する。特に、さまざまな領域の研究者がどのような研究活動を行い、その上でどのような成果を発信するか、またその成果の蓄積・共有のために図書館がどのような役割を担うか、さらには電子的環境でこれらがどのような新たな展開を見せているか、といった側面について、理解することを目的とする。	
	図書館情報学特論	日本古典籍資料とは何か、また、さまざまな国の古典籍資料のなかで、日本古典籍資料の各特徴について概観する。更に、図書館における古典籍資料業務の大まかな全体像について、見学や資料を参照しながら理解する。次いで、古典籍資料を実際に取り扱うための基本的な知識・スキルを学び、実際に手にとった取り扱いの基本を習得する。また、日本古典籍資料の組織化についての現状を知り、古典籍の総合目録の特徴や利用法を通して、その現状と課題を考える。	
	博物館実習 1	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者とともに、歴史資料・考古資料・民俗資料・美術資料の取扱い方法や展示方法など、歴史系博物館の学芸員として必要な基本的知識と技術を修得する。また、各種の博物館施設を見学し、多様な博物館の実態と課題を学ぶ。これにより、博物館や学芸員の業務の実際を理解し、実践的能力を養い、次の段階の館園実習で十分な成果があげられるよう、実際的な知識・技能・態度見識を身につける。	共同
	博物館実習 2	長年の博物館学芸員として実務に従事してきた授業担当者の指導により、博物館の現場で行われている展示作業、資料整理、教育普及事業、資料調査などの学芸業務の一部を補助すると共に、具体的な実務を体験する。あわせて館内の展示施設やその他の施設・設備の状況を实地に学習する。実施にあたっては、原則として本学の附属博物館である天理大学附属天理参考館を実習館とし、同館の学芸員が指導にあたる。十分な指導が可能なよう適正な受講生数を配分したクラスを設け、それぞれ学芸員が担当し、通年中5日分の実習を集中講義で行う。	共同
	矯正概論	矯正の歴史と理念、矯正の機構と概要、関連法（刑事施設法、少年院法、少年鑑別所法など）の改正経緯と改正主旨、刑事施設の収容状況と受刑者の処遇、少年院及び少年鑑別所の沿革・組織・収容状況・処遇、外部協力者（教誨師・篤志面接委員）の活動について理解を深める。また、刑務官・法務教官・法務技官の職務などについて概説することを通して、概括的な矯正の歴史と現在の制度、及び、矯正に関連する職への理解を深める。	
	更生保護概論	更生保護は、犯罪や非行に陥った人たちの改善更生や再犯防止にとどまらず、犯罪の発生そのものを未然に防止する方策にまで拡大し、更には、心神喪失等の状況で罪を犯した人に対する医療観察制度や、被害者に対する施策なども導入され、警察、検察、裁判、矯正の諸制度とともに、現在刑事政策の重要な一翼を担っている。この授業では、更生保護の沿革を概観し、現行の更生保護制度の仕組み、手続き等、及び、実務経験からの処遇等について講義し、受講者とともに、犯罪や非行に陥った人たちの社会内処遇を考究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学部門	矯正保護教育（施設参観を含む）	刑事司法制度、刑事施設における各種改善指導、少年施設における矯正教育、更生保護制度の概要と課題、関係機関や民間協力者と連携した社会復帰支援、その他（刑務官・法務教官・法務技官・保護観察官）について概説する。この授業では、刑事施設や少年施設における各種教育活動の実情と課題について理解を深め、更に関係機関や民間企業等との連携の実情と課題、「世界一安全な国、日本」を表現するためには何が必要で、国民一人一人が何をなすべきかを正しく理解する。	
	矯正保護支援実践論	（概要）罪を犯す少年たちの心理的及び社会的背景から、その問題点を探ることにより、当事者の気持ちに寄り添った支援が出来るようになるとともに、再犯を防ぐため、将来保護司や教諭師などの公的な立場又は施設職員になり、社会生活への円滑な移行に役立たせるために準備性・計画性を持って、更生保護の支援が出来るようになることを目標に授業を展開する。保護司あるいは児童養護施設職員としての実務経験をもとに、犯罪者や非行少年の更正と社会復帰のための支援実践、また犯罪者や非行少年を抱える家族への支援のあり方と方法、さらには、矯正保護支援活動における問題点や課題などを、実践例をふまえながら理解する。授業は、オムニバス形式で行う。 （オムニバス方式/全15回） （101 高橋秀紀/6回） 保護司としての実務経験をふまえ、更生保護活動の具体的内容と意義、矯正保護施設の現況と課題、性犯罪対象者の再犯事例などを内容として講義する。 （104 山本道次/9回） 施護員の実務経験をふまえて、主な事例とその背景、児童虐待の現状と課題、家庭環境に問題を抱える事例、更生保護活動の実践例などを講義する。	オムニバス方式
	犯罪被害者支援論	捜査・刑事裁判などの刑事手続の流れや基本原則、法律の内容、これまで犯罪被害者が置かれてきた状況、犯罪被害者支援のための制度等についての知識や奈良を中心に犯罪被害者支援に関わる機関の取り組み等について、長年弁護士の立場から犯罪被害者救済の実務を担ってきた授業担当者からその実状を講義し、必要な知識を身につける。 弁護士として日頃裁判実務に関わり、現場で犯罪被害者を支援している経験から、支援の実際についても講義する。	
資格科目	教職論	我が国における教育の動向を踏まえながら、講義やグループでのワークショップを通して、今日の学校教育や教職の社会的意義や役割について理解する。事例や法令等の規程をもとに「教職の意義や教員の役割」について考察し、「教員の職務内容」や「服務や義務」について学ぶとともに、現代の学校教育の課題について知り、課題解決に向かって考え、行動できる素地を培う。「チーム学校」の一員として活躍できる資質や能力について考察する。	
教職に関する専門教育科目	教育原理	私たちの教育言説のものになっている思想・概念・用語について、基本的な知識を身につける。また、資料・教材を具体的に提示し、それに即しながら「教育とは何か」という問いについて考察を深める。こうした作業を通して、現代の学校教育に関するさまざまな状況・問題を学び、その歴史的経緯について考えとともに、現代の教育に関して問題を発見する力、およびその問題を論理的に考える力、自分の考察・主張を他者に表現する力を身につける。	
	教育史	「教育」という営みは、歴史的・社会的な流れの中でどのように変遷・変容していったのか。時代ごとに教育の歴史的な流れを概観することを通して、教育史に関する基本的な知識を身につける。その上で、「資料」の解釈・評価・批判的検討を通して、受講生自身が「考える」（自らの主張・認識・価値観を論理的で具体的な文章として表現する）という練習を積むことを通して、「教育」を「歴史的に考える」ことの意味・意義について、自分なりの考えを深める。	
	教育課程論	教育課程論は、教員免許状を取得するための必修科目であり、教育課程の役割や意義、我が国の学校における教育課程の変遷(明治以前から昭和初期までの学校教育課程)ならびに学習指導要領の変遷について理解し、教育課程編成の基本原則について学ぶことを目標にする。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントしていく、カリキュラム・マネジメントの重要性や意義についても考察を深められるようにする。	

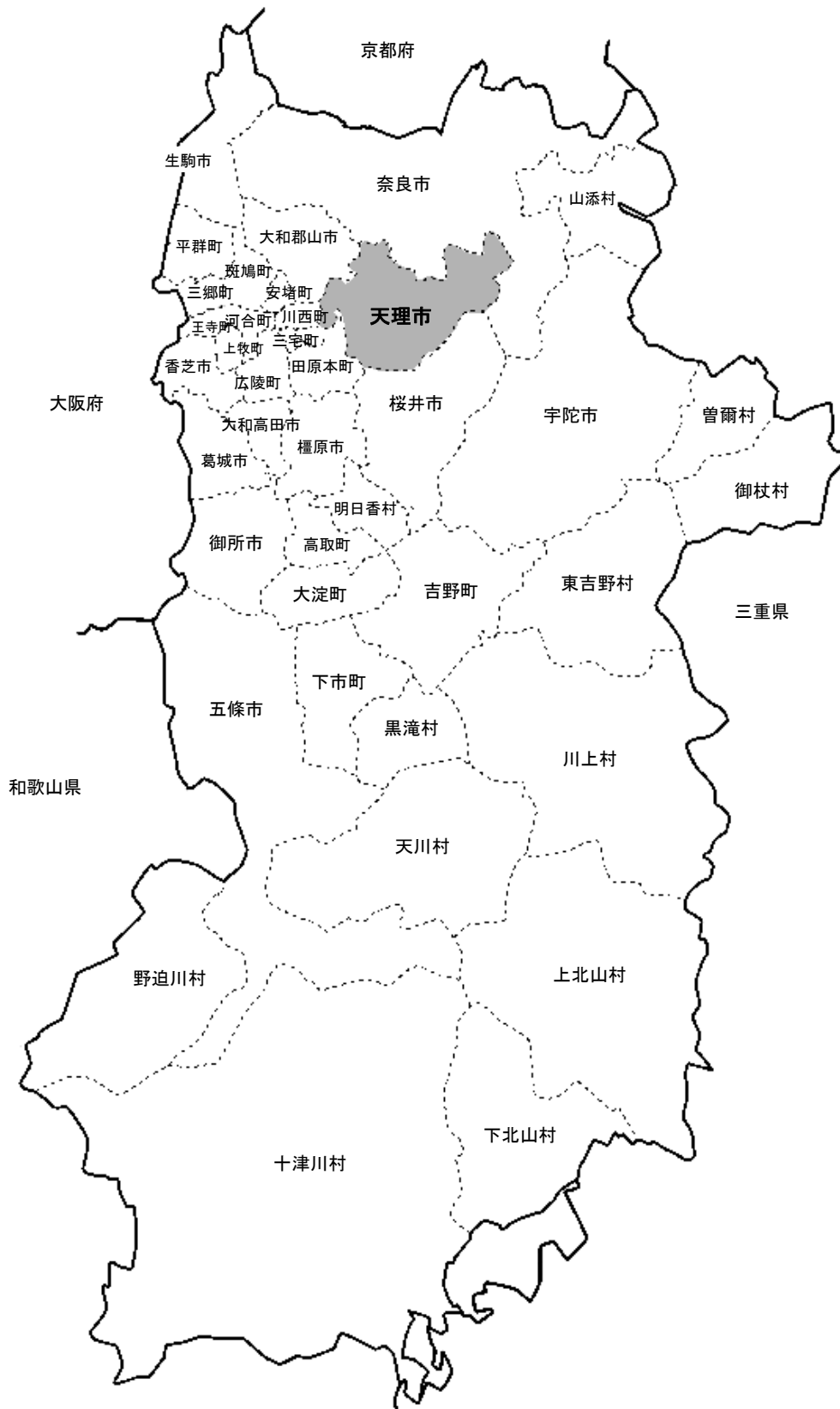
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する専門教育科目 資格科目	学校教育心理学	学校教育に必要な心理学の知見について、「発達」「学習」「やる気」「知能と創造性」「人格（個性）」「適応」「障がい」「コミュニケーション」などのテーマに分けて講義を行う。「発達」については諸理論の概説を行いながら、人の心理的発達についての理解を深め、「学習」においては人に備わっている学びや記憶の仕組みを理解する。また「やる気・意欲」の引き出し方、「知能・創造性」の仕組みと発揮のための援助の仕方について解説し、生徒の「人格（個性）」に対する教育的かかわりについて、「適応」や「障がい」「コミュニケーション」の視点を加味しながら、心をもって生きている存在としての生徒を総合的にとらえていくことができるようになることを目指す。	
	学校教育社会学	教師の長時間労働、「いじめ」や学校の安全など、現代の教育現場では多様な問題が生じている。こうした学校教育をめぐる様々な問題を複眼的視点（制度的・社会的・経営的視点）から考えることができるようになるために、学校や子どもたちの生活をめぐる問題を具体的に理解し、現状の対応策や今後の課題について知識・理解を深める。また、今後のより良い教育・学校とはどのようなべきか、自らの考えをまとめることを通じて、現代的課題に対応しうる力を身につける。	
	道徳の理論及び指導法	国内外における道徳教育の理論やそれをめぐる歴史的経緯等の理論的側面と、学校における道徳科の学習指導案の作成方法等の実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な力を身につけることを目指す。 道徳教育について、「道徳」とは何か、何が「道徳教育」なのかという根本的な問いにまで遡りながら学ぶ。 道徳教育の基礎・基本、道徳教育の歴史、道徳教育の現状と課題について順に理解を深めていき、最終的には道徳教育の授業の実践が可能となるような授業展開とする。	
	教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	教育方法学では、教育方法の基礎理論と実践を理解し、これからの時代に重要となる、主体的・対話的で深い学びの実現のための教育方法の在り方を理解できることを目標にする。そのために、教育の目的に応じた授業を行なう上で必要ないろいろな教育技術について知り、授業設計とその実践の方法について学んでいく。中でも、情報通信技術（ICT）を活用した教育の理論と方法については、具体的なツールやソフトを使用しながら、実際に授業で実践できるように、使い方や活用の仕方をパソコン教室で実地に学んでいく。	
	教育相談の理論及び方法	教育相談について、今日教育現場での需要が高まっているカウンセリングの理論と技術を紹介しながら、一人一人の生徒の悩みや困難に寄り添い、応えていくための実践的な知識についての講義を行う。不登校やいじめ、非行、思春期の精神的な失調に対する対応の仕方についても解説を行い、グループディスカッションなども取り入れながら、生徒とのかかわり方が身につく授業を工夫する。また、生徒のリアルに触れられるように、思春期の心模様を描いた映像資料も多く取り入れながら、実際に生徒とのかかわりに役に立つ学びを提供する。	
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めいくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
	教育実習講義	教育実習に臨む前の3回生時に開講する授業である。授業では、まず、教育実習における心構えや必要な準備、学習指導案の書き方などについて、テキストをもとに具体的に学んでいく。次に、開講の各クラスにおいて、現場の中学・高校の現役教員を外部講師として招いて、実際の授業のノウハウについて、詳しく教授を受ける。そして最後に、ICTの活用なども取り入れた実際の教育実習における授業について、模擬授業を行い、教育実習に対する実践的な準備を行う。	
	介護等体験	中学校教員免許取得のための科目であり、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験に参加し、多様な人の生き方に触れることを通じて、教師としての人間理解の枠組みを広げ、様々な生きる課題や困難を抱えた人とともに成長していけるための素養を培うことを目指す。テキストを用いながら、「人とのかかわり」「尊厳とは？」「介護とは？」「施設とは？」などの内容について、計4回の事前指導を行い、活動後には課題レポートに取り組みることによって、体験を教職の実践に生かせるように工夫する。	



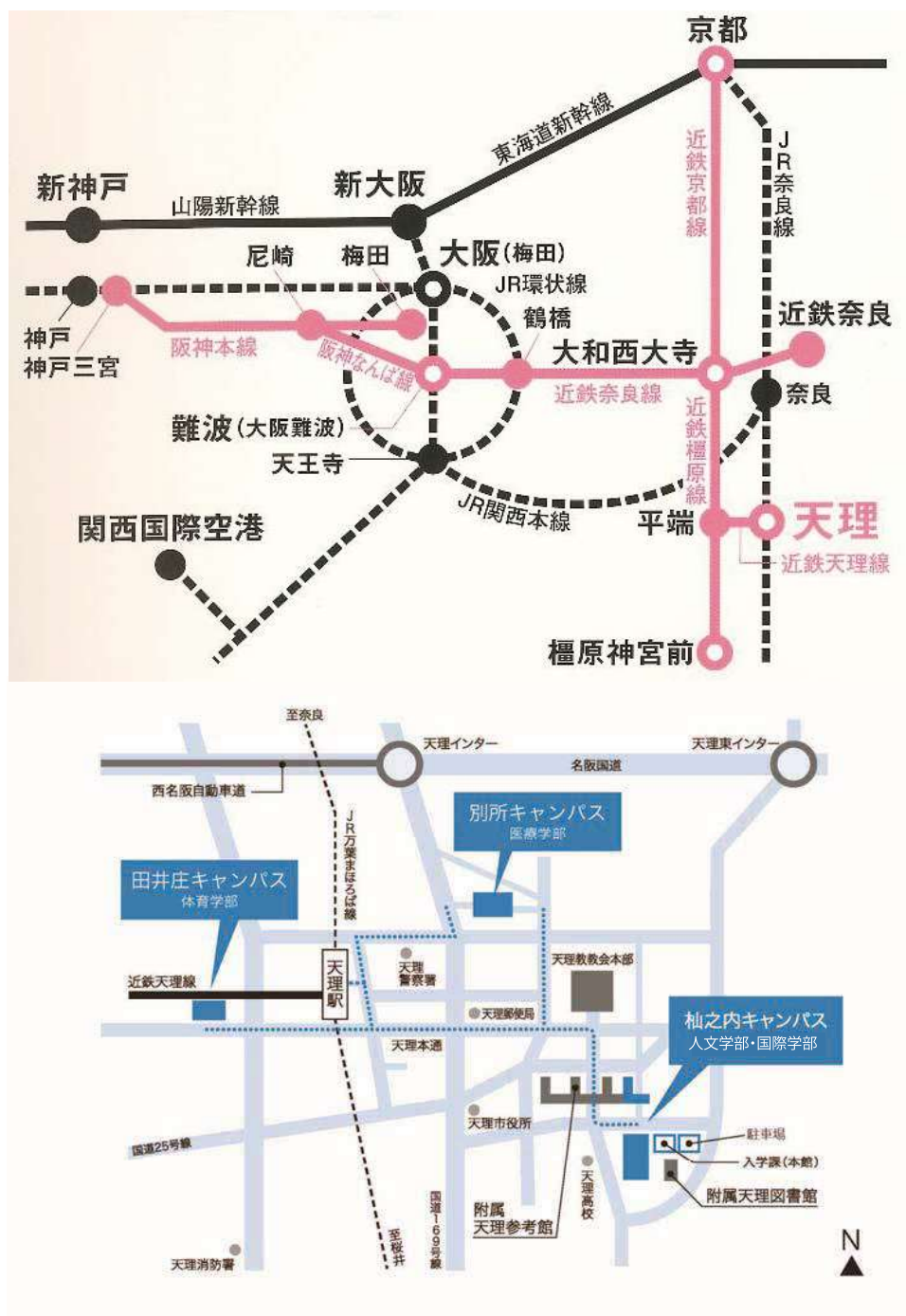
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目 教職に関する専門教育科目	教職実践演習（中・高）	教職実践演習では、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、教職をスタートするにあたって、必要な資質能力、知識や技能について身に付け、教員としての実践力を総合的に高めることを目指す。 授業においては、テキストを用いながら教職課程におけるこれまでの学びを総合的に振り返りつつ、小学校現場でのフィールドワーク、テーマやトピックに応じたグループワークやプレゼンテーションなど、演習形式で授業を展開する。	
	教育実習 1	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2~3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。(本学では高校教員免許取得のみを目指す学生は、教育実習 1 のみの登録で可としている)	
	教育実習 2	大学での教職課程の学習の総仕上げとして、学校現場での実習を通じて、教員に求められる実践的な知識や技能の基礎を修得することをめざす。 本授業は、各自が実際に学外の学校に定められた期間(2~3週間) 出向いて、教育実習活動を行うことがメインの授業となる。 教員になるために本当に必要なことを身をもって知ること、というのが本授業の目的である。(本学では中学校教員免許の取得を目指す学生は、教育実習 1 と合わせて教育実習 2 も登録することとしている)	
	人権教育論 1	豊かな人権意識を持った教員の育成のために、まず、公教育の原理や社会的役割について学ぶ。次いで学校教員として理解しておく必要のある多様な人権課題について学び、人権尊重の意識を高める教育はどのように可能となるのかについて考察を進める。具体的には、さまざまな差別の問題や在日外国人の人権問題、男女平等の問題や性的少数者の問題、こどもの貧困の問題などについて学び、このような問題を解決していくためには、どのような人権教育の展開が可能で必要なかということについて学んでいく。	
	人権教育論 2	人権課題を教材として、どのような授業が可能となるか、グループに分かれて実践的な指導案の作成をおこない、相互に批判し議論しながら授業力を高めていくことを目指す。そのために最初に授業の作り方の基礎を学び、最後にまとめとして多様な人権課題に対応できる教育のあり方について認識を深める。本授業で扱うテーマとしては、「健常とは？障害とは？」「性をめぐる課題」「民族と文化の多様性をめぐる課題」などを設定して、具体的に授業展開ができる力を養っていく。	
	特別な支援の必要な生徒の理解	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標に授業を行う。	
	学校教育支援	教師としての実践力を養うために、教育実習のほかに、実際の学校現場に赴いて、ボランティアとして教育支援に携わる科目である。主に大学と提携を結んでいる市町村の幼・小・中学校に学校支援ボランティアとして出向き、教員の指導の下に、学習支援補助、部活動補助、行事活動補助、部活動補助などを行うことによって、実際の児童・生徒とのかかわり方を体験的に学ぶ授業である。本授業は、事前指導、中間報告会、最終報告会などを実施して、学生相互の学び合い、教員を目指す者同士の連帯感を感じてもらえる機会を提供することも目指す。	
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	特別活動に関しては、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という三つの視点を中心に、指導に必要な知識・素養を身につけ、また、総合的な学習の時間に関しては、実社会・実生活における諸課題を探究する学びを実現するために必要な、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。講義では、課題の見つけ方、自分の問題・関心のありか、問いの立て方を、ウェビングやワークショップを通して、探究の技法を習得することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格科目	教職に関する専門教育科目	教育史特論	教育について幅広い視野から考えるための具体的な題材として「教育」をめぐる「論争」の「歴史」について取り上げる。それぞれの時代状況のなかでどのような課題が議論・論争され、その結果として教育・学校がどのように変遷・展開されてきたのか。近現代日本の教育をめぐる「論争」にかかわる基本的な知識を深める。その上で、自分自身はその教育論争について何を感じるのか、それをどのように考えるのか、授業資料を自分なりに「解釈する」ことを通じて歴史的な思考・認識を深める。	
		臨床教育学特論	臨床教育学とは、教育現場が抱える様々な課題（いじめ・不登校・教師・子ども関係等）に対して、教育哲学、教育人間学、臨床心理学等の複数の領域にまたがる学際的な方法を構想・実践することによって応えようとする学問領域である。 臨床教育学という新しい学問領域の成立が求められた1980年代後半の時代背景をふり返るとともに、それ以降約30年を経た現代において何がテーマとなり、臨床教育学はそれにどのようにどのような方法で応えようとしているのか、最新の議論までを含めて概説する。	

(1)都道府県内における位置関係の図面



(2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



大学へのアクセス<天理駅から>

柚之内キャンパスへは

- ・通学バス(天理大学行)で約8分
- ・徒歩の場合 東へ約2km(約20分)

田井庄キャンパスへは

- ・徒歩 西へ約700m(約5分)

別所キャンパスへは

- ・徒歩 東へ約1.2km(約15分)
- ・バス利用で約10分

<大阪から>(所要時間約1時間)

近鉄奈良線「難波」駅より奈良行き(快速急行・急行)に乗車約35分、「大和西大寺」駅で下車。天理行き(急行)に乗車約20分、「天理」駅で下車。「大和西大寺」駅より橿原神宮前行きに乗車の場合は、「平端」駅下車、天理行きに乗り換え。

<京都から>(所要時間約1時間)

近鉄京都駅「京都」駅より天理行き(急行)に乗車約60分、「天理」駅で下車。「京都」駅より橿原神宮前行き(急行)に乗車の場合は、「平端」駅下車、天理行きに乗り換え。

<神戸から>(所要時間約1時間半)

阪神なんば線「三宮」駅より奈良行き(快速急行)に乗車約70分、近鉄奈良線「大和西大寺」駅で下車。「大和西大寺」駅より橿原神宮前行き(急行)に乗車の場合は、「平端」駅下車、天理行きに乗り換え。

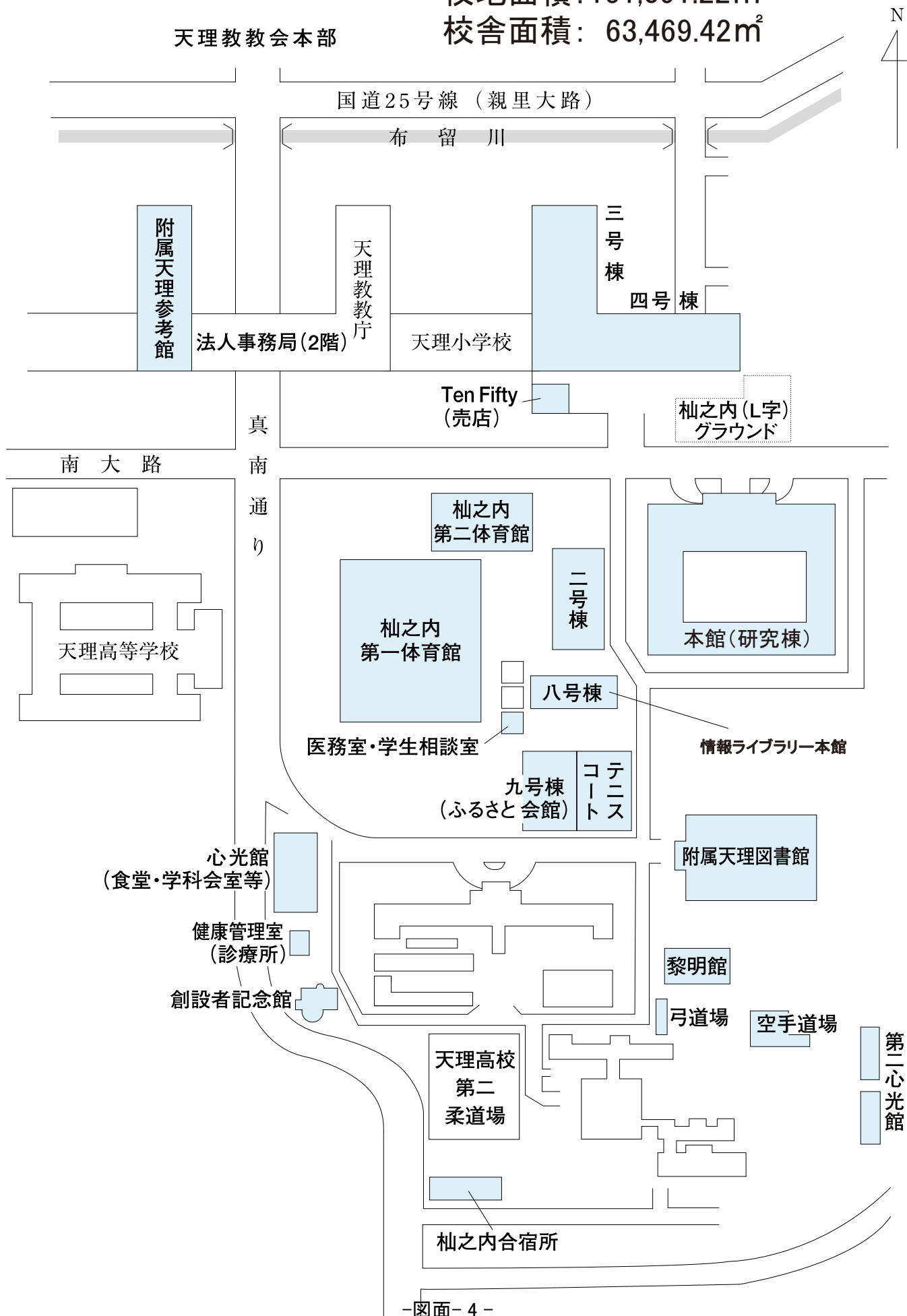
(3) 校舎、運動場等の配置図



(3) 校舎、運動場等の配置図  
 柚之内キャンパス

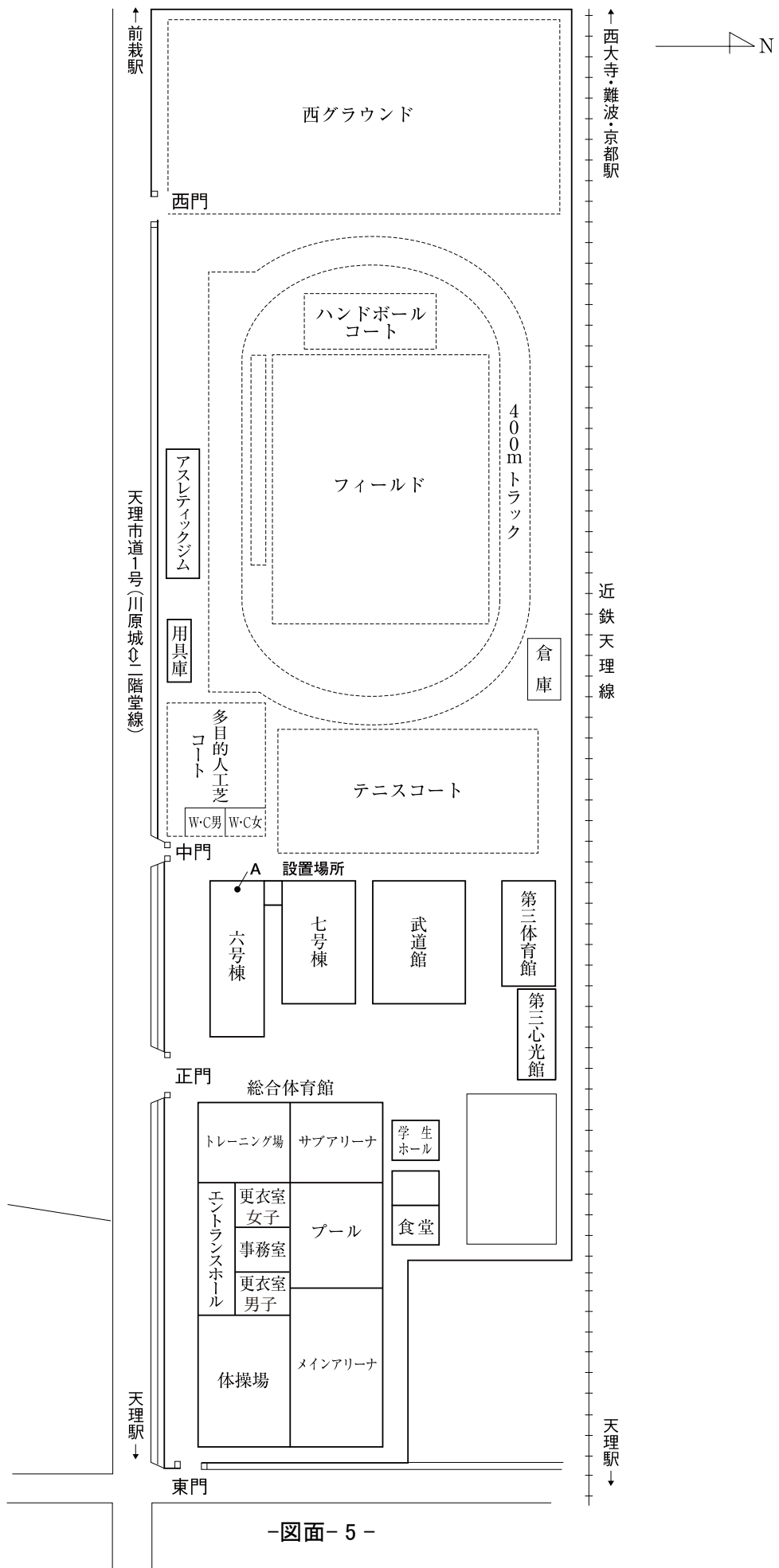
校地面積: 151,091.22m<sup>2</sup>

校舎面積: 63,469.42m<sup>2</sup>

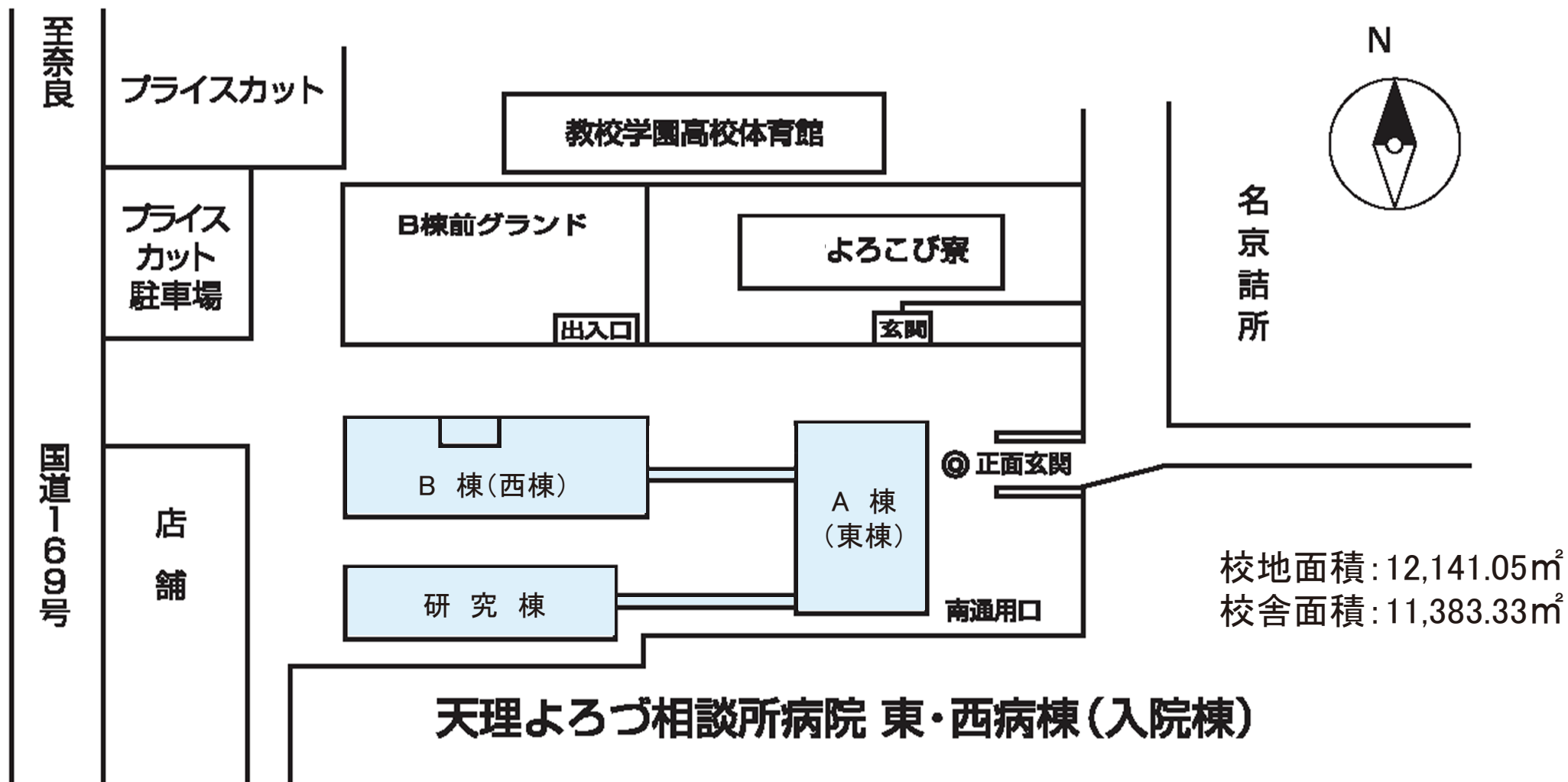


(3) 校舎、運動場等の配置図  
田井庄キャンパス

校地面積: 54,273.99m<sup>2</sup>  
校舎面積: 5,973.74m<sup>2</sup>



(3) 校舎、運動場等の配置図  
別所キャンパス



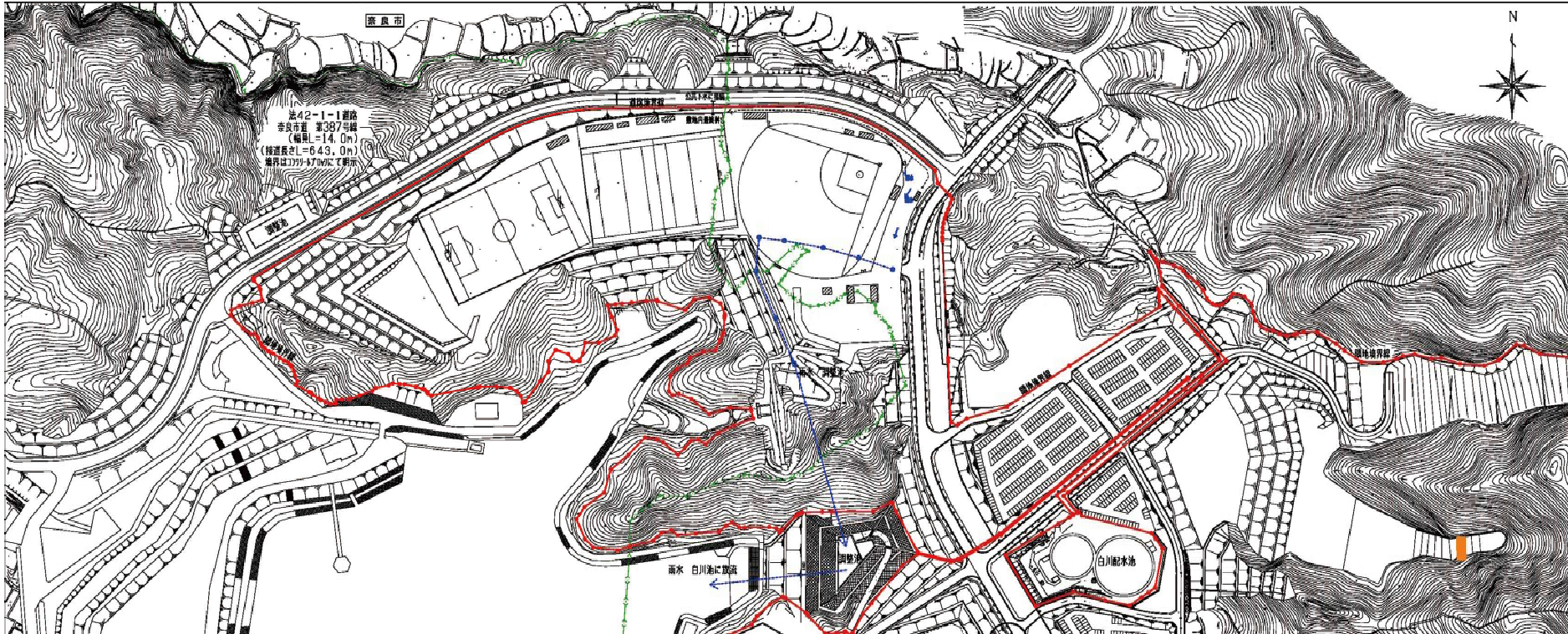


(3) 校舎、運動場等の配置図  
平等坊グラウンド

天理大学  
平等坊グラウンド

校地面積: 12,538.00m<sup>2</sup>  
(点線で囲まれた部分)

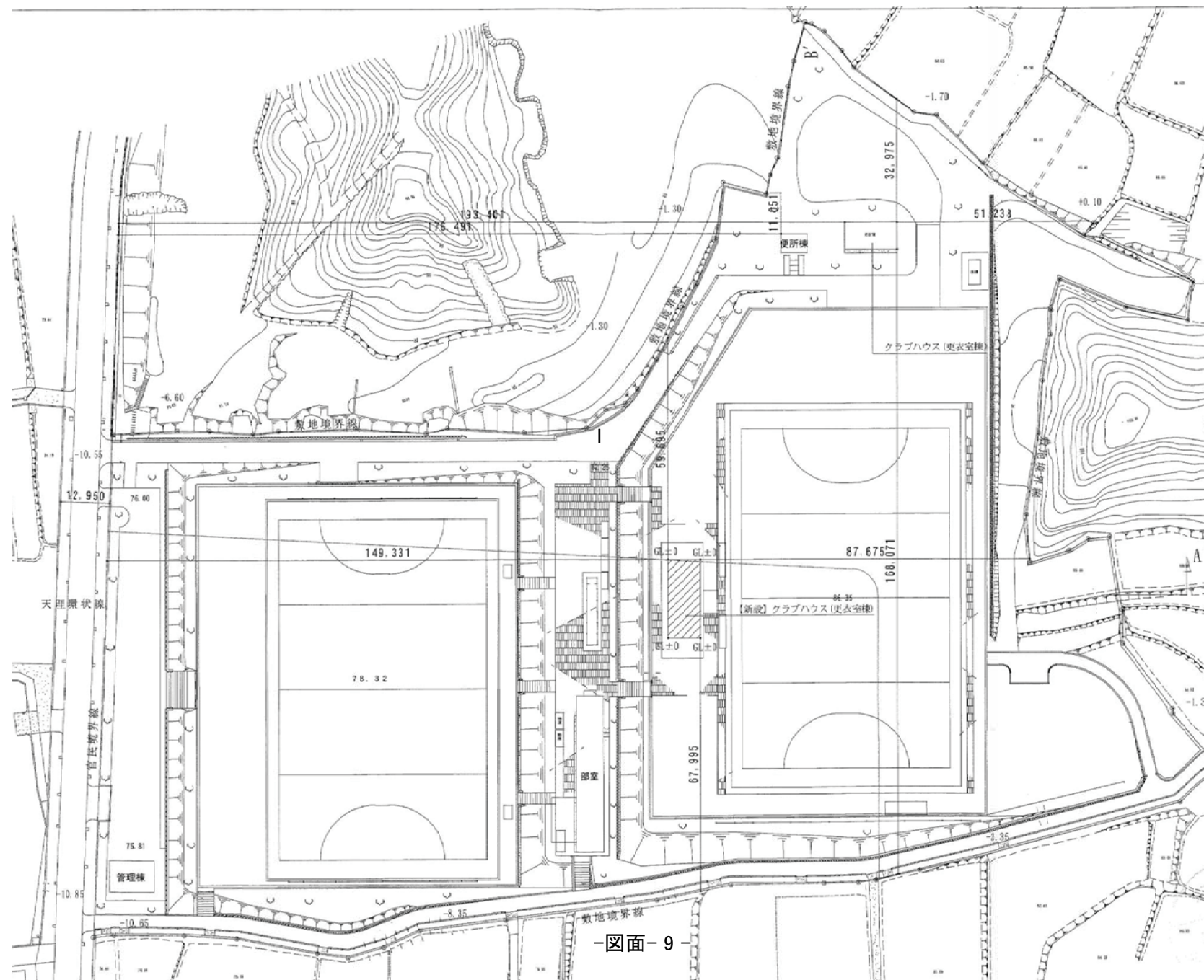
(3) 校舎、運動場等の配置図  
白川グラウンド



校地面積: 60,638.00㎡

(3) 校舎、運動場等の配置図  
親里ホッケー場

校地面積: 24,300.00m<sup>2</sup>



-図面- 9 -

# 天理大学学則（案）

令和6年4月改正

## 第 1 章 総 則

第 1 条 本大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、天理教教義に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、もって人類の福祉と文化の発展に貢献する人材、殊に世界布教に従事すべき者を育成することを目的とする。

第 1 条の 2 本大学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検評価を行う。

2 前項の点検評価項目及び実施体制に関する規程は、別に定める。

第 1 条の 3 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るため、組織的な研修及び研究を行う。

第 2 条 本大学に、人文学部・国際学部・体育学部及び医療学部を置く。

2 人文学部に、次の学科を置く。

- (1) 宗 教 学 科
- (2) 国文学国語学科
- (3) 歴史文化学科
- (4) 心理学科
- (5) 社会教育学科
- (6) 社会福祉学科

3 国際学部に、次の学科を置く。

- (1) 韓国・朝鮮語学科
- (2) 中国語学科
- (3) 英米語学科
- (4) 外国語学科
- (5) 国際文化学科
- (6) 日本学科

4 体育学部に、次の学科を置く。

体育学科

5 医療学部に、次の学科を置く。

- (1) 看護学科
- (2) 臨床検査学科

第 2 条の 2 各学部、学科の教育研究上の目的は、別表第 1 のとおりとする。

第 2 条の 3 本大学に、大学院を置く。

2 大学院に関する規程は、別に定める。

第 3 条 本大学の収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
人文学部	宗 教 学 科	20名	80名
	国文学国語学科	40名	160名
	歴史文化学科	50名	200名
	心理学科	40名	160名
	社会教育学科	40名	160名
	社会福祉学科	50名	200名
国際学部	韓国・朝鮮語学科	40名	160名
	中国語学科	40名	160名
	英米語学科	60名	240名

	外国語学科	60名	240名
	国際文化学科	50名	200名
	日本学科	40名	160名
体育学部	体育学科	240名	960名
医療学部	看護学科	70名	280名
	臨床検査学科	30名	120名

第4条 本大学各学部の修業年限は、4年とする。

第5条 本大学に全学教育推進機構を置く。

第5条の2 本大学に国際交流センターを置く。

2 本大学に情報ライブラリーを置く。

## 第2章 職員組織

第6条 本大学に学長を置く。

2 学長は、校務を掌り所属職員を統督する。

3 学長は、学内の諸会議体の審議結果を参酌した上で、法律が定める事項及び理事会から委任された教育・研究に関する事項を決定し実行する責任を負う。

第7条 本大学に副学長を置くことができる。

2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務を掌る。

第8条 本大学に学部長を置く。

2 学部長は、当該学部の教授会を代表し、学部の運営にあたる。

第9条 本大学の学科及び課程にそれぞれ主任を置き、主任は学科及び課程の事務を処理する。

第10条 本大学に教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。

2 本大学に必要な応じ、特任教授、特任准教授、特任講師を置く。

3 教員及び事務職員に関する規程は、別に定める。

第11条 事務組織は、事務職員によることを原則とするが、その事務の性質上、教員がこれを兼務することがある。

第12条 本大学各学部及び附属おやさと研究所に教授会を置く。

2 教授会は、専任の教授、准教授、講師及び助教（特任教授、特任准教授、特任講師を除く）をもって組織する。

3 各学部教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学部学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学部学生の学位授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

4 各教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

5 各学部教授会及び附属おやさと研究所教授会に関する規程は、別に定める。

第13条 本大学に、全学協議会を置く。

2 全学協議会は、次の構成員をもって組織する。

(1) 学長

- (2) 副学長
  - (3) 各学部長
  - (4) 各大学院研究科長
  - (5) 附属天理図書館長、附属おやさと研究所長及び附属天理参考館長
  - (6) 各学部より選出された 教授 各1名
  - (7) 事務局長
  - (8) 事務部門の長のうち学長の指名する者2名
- 3 全学協議会は、全学的な教育研究及び運営に関わる次の事項について審議する。
- (1) 学生の入学及び卒業の方針に関する事項
  - (2) 学位授与の方針に関する事項
  - (3) 大学の研究組織、施設の設置・廃止及び制度、機構の整備・改変に関する事項
  - (4) 学則その他重要な規程の制定及び改廃に関する事項
  - (5) 名誉教授に関する事項
  - (6) 大学の教育研究上の目的を達成するための予算、人事等の基本計画に関する事項
  - (7) 教育課程編成の基本方針に関する事項
  - (8) 教育内容及び授業方法の改善に関する事項
  - (9) 学生の生活、厚生、進路等の指導・支援及び賞罰に関する事項
  - (10) 大学の自己点検・評価に関する事項
  - (11) その他大学の教育研究及び運営に関する重要事項
- 4 全学協議会に関する規程は、別に定める。

### 第 3 章 学年・学期及び休業日

第14条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第15条 学年を次の2学期に分ける。

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年3月31日まで

第16条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
  - (2) 天理教祭日 4月18日 10月26日 1月26日
  - (3) 創立記念日 4月23日
- 2 夏期休業、冬期休業、春期休業については、学長が全学協議会の議を経て定めることができる。
- 3 学長は、必要があると認めたときは、前2項に掲げる休業日を変更することができるほか、臨時に休業日を置くことができる。
- 4 学長は、必要があると認めたときは、休業日であっても授業を実施することができる。

### 第 4 章 教育課程

第17条 本大学の授業科目の区分は、総合教育科目及び専門教育科目とする。

第18条 本大学の授業科目及び単位は別表第2に定めるとおりとし、天理大学履修規則によって履修しなければならない。

第18条の2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第 19 条 授業科目の単位数は、1 単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて 4 5 時間とし、次の基準により計算する。

- (1) 講義及び演習については、1 5 時間から 3 0 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 実験・実習及び実技については、3 0 時間から 4 5 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 1 の授業科目について、講義、演習、実験・実習及び実技のうち 2 以上の方法の併用により行う場合は、その組み合わせに応じ、前 2 号に規定する基準を考慮した時間の授業をもって 1 単位とする。

2 前項の 1 単位の計算基礎となる授業時間については、教授会及び全学協議会の議を経て、学長がこれを決定する。

第 20 条 授業科目を履修し試験に合格した者には、所定の単位を与える。

第 21 条 授業科目の試験の成績は、A + ・ A ・ B ・ C ・ F の 5 種の評語をもって表わし、A + ・ A ・ B ・ C を合格とする。

第 22 条 本大学が教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、6 0 単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、本大学の協定又は認定する外国の大学又は短期大学に留学する場合及び外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第 22 条の 2 本大学が教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第 1 項及び第 2 項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 6 0 単位を超えないものとする。

第 23 条 本大学が教育上有益と認めるときは、本大学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学が教育上有益と認めるときは、本大学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第 2 条第 1 項及び第 2 項並びに前条第 1 項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 6 0 単位を超えないものとする。

第 24 条 本大学を卒業し、教育職員免許法及び同施行規則に定める科目、単位を修得した者は、下表に示す教育職員免許状を取得することができる。

学 部 名	学 科 名	免 許 状 の 種 類	
		種 類	免 許 教 科
人 文 学 部	宗 教 学 科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	宗 教
	国文学国語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国 語



	歴史文化学科	中学校教諭一種免許状	社 会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
国 際 学 部	韓国・朝鮮語学科	高等学校教諭一種免許状	韓国・朝鮮語
	中国語学科	高等学校教諭一種免許状	中 国 語
	英米語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語
	外国語学科	高等学校教諭一種免許状	スペイン語
	国際文化学科	中学校教諭一種免許状	社 会
高等学校教諭一種免許状		公 民	
体 育 学 部	体育学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育

第 25 条 本大学を卒業し、図書館法及び同施行規則に定める図書館に関する科目、単位を修得した者は、図書館司書となる資格を取得することができる。

第 26 条 教育職員免許状を取得した者で、学校図書館司書教諭講習規程に定める科目、単位を修得した者は、学校図書館司書教諭となる資格を取得することができる。

第 27 条 本大学を卒業し、博物館法及び同施行規則に定める博物館に関する科目、単位を修得した者は、博物館学芸員となる資格を取得することができる。

第 28 条 社会教育法及び社会教育主事講習等規程に定める社会教育に関する科目、単位を修得した者は、社会教育主事となる資格及び社会教育士の称号を取得することができる。

第 29 条 人文学部社会福祉学科を卒業し、社会福祉士及び介護福祉士法及び同施行規則に定める科目、単位を修得した者は、社会福祉士の国家試験受験資格を取得することができる。

第 30 条 人文学部社会福祉学科を卒業し、精神保健福祉士法及び同施行規則に定める科目、単位を取得した者は、精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することができる。

第 31 条 医療学部看護学科を卒業し、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める科目、単位を取得した者は、看護師国家試験受験資格を取得することができる。

第 32 条 医療学部臨床検査学科を卒業し、臨床検査技師等に関する法律に規定する学校として指定を受けた科目、単位を取得した者は、臨床検査技師の国家試験受験資格を取得することができる。

## 第 5 章 入学・留学・休学及び退学

第 33 条 入学期は、学年の始めとする。

第 34 条 第 1 年次に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

- (1) 高等学校を卒業した者（中等教育学校の後期課程を含む）
- (2) 通常の課程による 1 2 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む）

- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行なう大学入学資格検定に合格した者
- (7) その他本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

第35条 入学志願者に対しては、別に定めるところによって、選考を行なう。

第36条 入学志願者は、指定の期日までに所定の書類を提出し、別に定める検定料を納入しなければならない。

第37条 入学試験に合格した者で、指定の期日までに所定の誓約書（本人及び保証人の署名捺印を要す）等を提出し、入学金・授業料・教育設備充実費・その他を納入した者は、入学を許可する。

2 前項の保証人は、父母（父母なき者はこれに代わる親族等）とする。

第38条 別に定めるところによって選考のうえ、編入学を認めることがある。

第39条 本大学在学中は、他学科に転ずることはできない。

第40条 学生が、本大学の協定又は認定する外国の大学へ留学するときは、別に定めるところにより願出しなければならない。

第40条の2 外国の大学に籍を置く外国人学生の受入れ及びその取扱いについては、別に定める。

第41条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により2ヵ月以上欠席するときは、本人及び保証人連署のうえ、学部長に願出でてその許可を得て休学することができる。ただし、疾病の場合は医師の診断書を添付しなければならない。

2 前項の事由のある場合において、特に必要があると認められた者には、休学を命ずることができる。

3 休学期間は当該年度以内とし、特別の事由がある場合は、別に定めるところによってその期間延長を認めることができる。ただし、通算4年を超えることができない。

第42条 学生は、8年を超えて在学することはできない。

2 前条の休学期間は、原則として在学年数に通算しない。

第43条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により退学するときは、本人及び保証人連署のうえ、学長に願出でて、その許可を得なければならない。

## 第 6 章 卒業及び学位

第44条 4年以上在学し、次の各号に定める単位について、天理大学履修規則に定めるところにより修得した者には、教授会の議を経て学長が卒業を認定し、卒業証書を授与し、あわせて学士の学位を授与する。

- (1) 人文学部 124単位以上
- (2) 国際学部 124単位以上
- (3) 体育学部 124単位以上
- (4) 医療学部 124単位以上

第45条 卒業期は、学年の終りとする。

第46条 本大学が授与する学士の学位に付記する専攻分野の名称は、次の各号に定める

とおりとする。

(1) 人文学部	宗教学科 国文学国語学科 歴史文化学科 心理学科 社会教育学科 社会福祉学科	宗教学 国文学 歴史文化学 心理学 社会教育学 社会福祉学
(2) 国際学部	韓国・朝鮮語学科 中国語学科 英米語学科 外国語学科  国際文化学科 日本学科	韓国・朝鮮語 中国語 英語 タイ語 インドネシア語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 スペイン語 ブラジルポルトガル語 国際文化学 日本学
(3) 体育学部	体育学科	体育学
(4) 医療学部	看護学科 臨床検査学科	看護学 臨床検査学

## 第 7 章 科目等履修生・特別聴講学生及び委託学生

第 47 条 本大学の学生以外の者で一又は複数の授業科目の履修を希望する者（「科目等履修生」という）がある時は、当該授業科目所属の学科（課程を含む）において適当と認められた者につきこれを許可する。ただし、第 3 4 条の各号の一に該当する者に限る。

第 48 条 科目等履修生の願い出は学期始めとし、科目等履修生の就学期間は原則として、当該年度末までとする。

2 年度を超えて引き続き科目等履修生として授業科目の履修を希望する者は、改めて願い出なければならない。

第 49 条 科目等履修生であって所定の科目試験に合格し単位認定を受けた場合は、請求により単位修得証明書を交付する。

第 50 条 科目等履修生のうち、次の各号に該当する者は、希望の授業科目を指定し、所定の手続きを経て許可を受けなければならない。

- (1) 教育職員免許法第 5 条に規定する基礎資格を有し、教育職員免許法及び同施行規則により教育職員免許状を得ようとする者
- (2) 学士の学位を有し、図書館法第 5 条第 1 項第 1 号の規定による司書となる資格を得ようとする者
- (3) 教育職員免許状を有し、学校図書館司書教諭講習規程第 3 条及び附則第 3 項の規定による学校図書館司書教諭となる資格を得ようとする者
- (4) 学士の学位を有し、博物館法第 5 条第 1 項第 1 号の規定による学芸員となる資格を得ようとする者

(5) 社会教育法第9条の4第1項第3号の規定による社会教育主事となる資格を得ようとする者

第50条の2 他の大学又は短期大学との協議に基づき、当該大学に在学中の学生で本大学の授業科目の履修を希望する者がある時は、別に定めるところにより、特別聴講学生としてこれを認めることができる。

第51条 官庁又は公共団体から、1年以上を在学期間として受講科目を定めて入学を願い出た場合は、選考のうえ委託学生として入学を許可することがある。

第52条 委託学生であって、所定の科目を修めその試験に合格した者には、修了証書を授与する。

第53条 科目等履修生、特別聴講学生及び委託学生には、別に定めるものを除くほか本学則を準用する。

## 第 8 章 入学金・授業料・教育設備充実費・その他

第54条 入学金・授業料・教育設備充実費は別表第3に定めるとおりとし、その納入及びその他については別に定める。

第55条 前条に定める入学金・授業料・教育設備充実費・その他は、所定の期日までに納入しなければならない。ただし、「大学等における修学の支援に関する法律」による授業料等減免対象者と認定された者については、別に定める。

第56条 既に納入した第54条に定める入学金・授業料・教育設備充実費・その他は返還しない。ただし、前条に定める授業料等減免対象者と認定された入学者については、減免対象となる入学金・授業料を返還する。

第57条 休学を許可された者及び命ぜられた者についての授業料・教育設備充実費・その他は別に定める。

第58条 学年の途中において退学する者は、退学の日属する学期分の授業料・教育設備充実費・その他を納入しなければならない。

第59条 正当な理由なく第54条に定める授業料・教育設備充実費・その他を所定の期日までに納入しない者は除籍する。

## 第 9 章 賞 罰

第60条 学生で優秀な研究をした者、又は他の学生の範となるべき行為をした者に対して、学長は、教授会及び全学協議会の意見を徴し、これを褒賞することができる。

第61条 学生にその本分に反する行為のあったときは、教授会及び全学協議会の議を経て、学長が懲戒する。

2 懲戒は、譴責、停学、退学とする。

第62条 次の各号の一に該当する者には、教授会及び全学協議会の議を経て、学長が退学を命ずることがある。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

## 第 10 章 別 科

第63条 本大学に別科（日本語課程、外国語課程）を置く。

2 別科に関する規程は、別に定める。

## 第 11 章 附属施設

第 64 条 本大学に天理図書館、おやさと研究所及び天理参考館を付設する。

2 附属施設に関する規程は、別に定める。

第 65 条 学寮を設け一部学生を入寮させる。

## 第 12 章 公開講座

第 66 条 地域社会への研究成果の還元と文化の向上に資するため、本大学に公開講座を開設することができる。

附 則

本学則は、昭和24年4月1日から施行する。

附 則

朝鮮文学朝鮮語学科は、昭和25年4月から開設する。

附 則

司書養成課程は、昭和26年4月から実施する。

附 則

学部学科の変更に伴う学則の改正は、昭和27年から実施する。

附 則

選科生に関する規程は、昭和27年4月から実施する。

附 則

体育学部体育学科は、昭和30年4月から開設する。

附 則

本学則は、昭和32年4月から施行する。

附 則

本学則は、昭和33年4月から施行する。

附 則

本学則は、昭和35年4月から施行する。

附 則

本学則は、昭和37年4月から施行する。ただし、第31条ただし書については、昭和38年4月から施行する。

附 則

本学則は、昭和40年4月から施行する。

附 則

本学則は、昭和43年10月から施行する。

附 則

本学則は、昭和44年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、なお従前の例による。

附 則

本学則は、昭和46年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

本学則は、昭和48年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

本学則は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和50年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、昭和51年4月から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、昭和52年4月から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、昭和56年4月から施行する。

#### 附 則

本学則は、昭和58年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、昭和62年4月1日から施行する。

#### 附 則

本学則は、昭和63年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、平成2年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、平成3年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生については、平成2年度に第1年次に入学した学生を除き従前の例による。

#### 附 則

本学則は、平成3年12月5日から施行する。

#### 附 則

- 1 本学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 本改正学則施行以前に入学した学生については、別に定めるもののほか従前の例による。
- 3 第3条の規定にかかわらず、平成4年度から平成11年度までの入学定員は、つぎのとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
体 育 学 部	体 育 学 科	220名

#### 附 則

本学則は、平成5年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した

学生の授業科目の履修及び単位の修得については、平成4年度に第1年次に入学した学生を除き従前の例による。

附 則

本学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成6年5月18日から施行する。

附 則

本学則は、平成7年4月1日から施行する。ただし、第18条別表第1については、平成3年度以前に入学した学生は従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、平成7年11月17日から施行する。
- 2 第35条の規定にかかわらず、平成3年度以前に入学した文学部宗教学科及び外国語学部各学科の学生については、別に定めるところにより、他学部・学科・専攻に転ずることができる。

附 則

本学則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成9年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

本学則は、平成9年6月5日から施行する。

附 則

本学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成11年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、平成12年度から平成15年度までの入学定員及び平成12年度から平成18年度までの収容定員は、つぎのとおりとする。

学 部	学 科	年 度	入学定員	収容定員
体育学部	体育学科	12年度	210名	870名
		13年度	200名	850名
		14年度	190名	820名
		15年度	180名	780名
		16年度	170名	740名
		17年度	170名	710名
		18年度	170名	690名



3 本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修および単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

本学則は、平成13年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

本学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成15年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

本学則は、平成15年5月14日から施行する。

附 則

本学則は、平成16年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

本学則は、平成17年4月1日から施行する。ただし、平成14年度以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、従前の例による。

附 則

本学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成21年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

本学則は、平成22年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

本学則は、平成23年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

附 則

本学則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、平成25年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成21年度以前入学生にあつては、従前の例による。

#### 附 則

本学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、平成28年4月1日から施行する。

#### 附 則

本学則は、平成29年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、平成30年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

本学則は、平成31年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。

#### 附 則

文学部歴史文化学科の収容定員の変更に係る改正学則は、平成31年4月1日から施行する。

#### 附 則

言語教育研究センターの廃止並びに教育設備充実費の改定に係る改正学則は、平成31年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の教育設備充実費については、従前の例による。

#### 附 則

本学則は、令和2年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した学生の教育設備充実費については、従前の例による。

#### 附 則

- 1 本学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。
- 3 本改正学則施行以前に入学した学生の教育設備充実費については、従前の例による。

#### 附 則

- 1 本学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。
- 3 本改正学則施行以前に入学した学生の入学金及び授業料については、従前の例による。

#### 附 則

本学則は、令和5年4月1日から施行する。ただし、本改正学則施行以前に入学した医療学部学生の学納金（授業料及び教育設備充実費（令和5年4月1日付で天理医療大学から転籍した学生においては教育充実費を読み替えるものとする。））については、従前の例による。

#### 附 則

- 1 本学則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 本改正学則施行以前に入学した学生の授業科目の履修及び単位の修得については、別に定めるもののほか従前の例による。
- 3 本改正学則施行以前に入学した学生の入学金及び授業料については、従前の例による。

別表第1（第2条の2関係）

学 部 学 科	目 的
人文学部	宗教や思想などの精神文化への知識と理解を基礎に人文学の知的体系の成果を教授することにより、他者に献身できる教養と態度を身につけ、現代社会の絶え間ない複雑な環境変化や社会的課題に対して、主体的に判断でき能動的に行動できるとともに、国内外で「陽気ぐらし」世界の建設を掲げる建学の精神の具現化に資する人材を養成することを目的とする。
人文学部 宗教学科	宗教学及び天理教学の枠組みに基づく歴史的、理論的かつ実践的な学習をふまえ、現代世界をとりまく多様な宗教状況を広く学ぶことを通して、ものごとに多面的に対応できる資質と能力を修得させ、同時に、建学の精神にもとづき、国の内外で社会に貢献する実践的意欲をそなえた人材を養成することを目的とする。
人文学部 国文学国語学科	国文学ならびに国語学の知識を基礎から高度な専門領域まで段階的・組織的に修得し、文学作品や言語資料の考察を通して日本の文化を幅広く理解するとともに、国際社会のなかでみずからの知見を主体的に発信できる人材を養成することを目的とする。
人文学部 歴史文化学科	歴史学・考古学・民俗学に立脚しながら、地域に根ざした歴史認識を養い、国際的視野に立った社会や文化の理解をめざす。また、歴史文化に関わる資料の調査・記録能力を修得し、自主的に学び正しく伝える力を身につける。これらの知識や能力を活用し、歴史文化に学びつつ現代社会に貢献する教養ある社会人を育成し、教育や文化財に関わる仕事を通して地域社会に寄与する人材を養成することを目的とする。
人文学部 心理学科	現代社会に起きているさまざまな心の現象を幅ひろい視点から理解するために必要な心理学の基礎知識と実践のための能力を修得させることを通じて、諸問題の解決に向けた社会活動に実践的に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。
人文学部 社会教育学科	社会教育の基礎となる知識と技術を修得し、地域社会の持続的な発展に資する多様な学習支援の在り方を実践的に体験・探求していくことで、誰もが主体的に参画できる生涯学習社会の形成に寄与する人材を養成することを目的とする。
人文学部 社会福祉学科	社会福祉のプロフェッショナルとして必要な、理念への理解、現場に関する専門的知識、福祉活動をめぐる諸技能等を修得させ、福祉への視点と理解をもつ市民をひろく育成するとともに、社会福祉施設や機関、団体、病院等で活躍できる人材を養成することを目的とする。

学 部 学 科	目 的
国際学部	現代世界が直面する諸課題を、地球的な視野から理解し判断する能力を養い、建学の精神から発する他者への献身の態度をもとに国際社会へ積極的に参加する資質を身につけさせる。そのために、国際人に必須の高度な語学力の修得に重点を置く「韓国・朝鮮語学科」「中国語学科」「英米語学科」「外国語学科」と、現代社会の仕組みと国内外の文化の多様性について学際的に学び、その多様性がおりなす共生社会に自ら参加して行動できる力を養う「国際文化学科」、確かな日本語運用能力を基礎として、世界のなかの日本の社会・文化について学び、その学びを社会や地域で活用する力を養う「日本学科」の5学科を設ける。利他の精神を身につけた真の国際人として世界に雄飛し「陽気ぐらし」世界の建設に寄与する人材を養成することを目的とする。
国際学部 韓国・朝鮮語学科	本学創設当初からの長い歴史の中で培われてきた韓国・朝鮮語教育プログラムにもとづき、体系的かつ実践的な韓国・朝鮮語教育を行う。また、韓国・朝鮮語の修得にとどまらず、同時に韓国・朝鮮地域の歴史や文化・社会に関する知識を身につけ、韓国・朝鮮に対する深い理解を得るようにする。さらに、韓国・朝鮮に対する知識を土台に、自国の文化や自分自身を相対化して考える力を涵養し、他者を尊重しつつ、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 中国語学科	国際的な視野を有し、国際社会に対応できる人材の育成をはかるための実践的な中国語教育を行う。学習レベルに応じて体系化したカリキュラムにもとづき、高度な中国語運用能力を養成する。さらに実り豊かな留学・海外語学実習を通じて、異文化理解の能力を身につけさせ、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 英米語学科	今や事実上の国際共通語となっている英語を集中的に学習し、留学や語学実習において語学力を確実なものにさせる。クラスは習熟度別編成を行い、それぞれの目標レベルに向かって学習・習得させる。加えて英米語圏の文化・社会などを多面的に英語によって学ばせ、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 外国語学科	タイ語、インドネシア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、ブラジルポルトガル語をコース言語とする7言語コースを設け、本学が蓄積してきた外国語の教育・研究資源を活用し、語学力を徹底して鍛えることに主眼を置く。さらに、関連地域の文化や社会についての理解を深めさせ、高度な内容のコミュニケーションを可能にする知識と異文化理解能力を修得し、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
国際学部 国際文化学科	国の内外における多文化共生社会を実現するために、現代社会の仕組みを学際的に理解し、自ら行動し指導・協働することができる人材、公共に資する市民としての「公民」を育成することを目的とする。そのため、ひと・もの・価値（観）が国境を越えて行き来することで生み出される国の内外の文化の多様性について学び、その多様性が織りなす共生社会に自らが参加して行動することのできる人材を養成することを目的とする。

<p>国際学部 日本学科</p>	<p>入学時の語学力に応じた日本語のクラスを通じて身につけた確かな日本語運用能力を基礎として、世界のなかの日本について社会・文化を幅広く学ぶ。また、「日本という国のはじまり」である奈良の地域的特性について深く学び、グローバルな視点から日本や奈良の地理と歴史の理解を深める。既存の知識を単に修得するだけではなく、経営的な視点も加え、社会や地域が伝統文化や新しい文化をどのように導入し、活用していくことができるのかという、今日求められる実学的知識を修得し、国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。</p>
----------------------	--

<p>学 部 学 科</p>	<p>目 的</p>
<p>体育学部 体育学科</p>	<p>「陽気ぐらし」世界の建設に寄与せんとする建学の精神を具現化するために、「他者への献身」の精神を涵養し、身体についての科学的な認識を深めるとともに、国際的な視野に立ってスポーツの意義や可能性を探究することのできる以下のような人材を育成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①スポーツにおける高度な競技能力・指導能力を有する人材</li> <li>②子ども達への深い理解をもった教育能力の高い教員となる人材</li> <li>③スポーツの新たな可能性を追求し、スポーツ文化の創造に寄与できる人材</li> <li>④人々の健康の維持・増進に貢献できる人材</li> <li>⑤日本の伝統文化である武道を正しく継承し、世界に発信できる人材</li> </ul>

学 部 学 科	目 的
医療学部	<p>人に尽くすことを自らのよこびとするという天理教の理念を基調として、社会人としての豊かな知識を持ち、医療に関わる専門性の高い技術・技能を修得し、真摯に科学する精神を育み、人に対する深い愛情と自分を律する謙虚な心を胸に秘めた人材を養成することを目的とする。</p>
看護学部 看護学科	<p>看護の対象である個人・家族・地域の人々のそれぞれの成長発達段階と健康段階に応じた看護を実践できる能力、技術、態度を身に着けた医療人の育成をするために、</p> <p>①ヒューマニティとアートの統合としての「人に尽くす」看護の探究  ②サイエンスとアートを統合し、あらゆる健康レベル、看護ニーズに応じた看護実践力の育成  ③異なる学科、学年との協働的学習による関連多職種と協働する能力の育成</p> <p>以上の3つをあげ、幅広い教養、深い専門的素養、科学的な看護学の知識、看護実践能力、ケアの心を兼ね備えた看護師を養成することを目的とする。</p>
看護学部 臨床検査学科	<p>臨床検査学科として探究し教育する学問分野は、形態検査（血液検査、病理検査など）、生物化学分析検査（生化学検査、遺伝子検査、尿・体液検査など）、病因・生体防御検査（免疫検査、微生物検査、輸血・移植検査など）等の検体検査、そして患者さんから直接的に生体情報を収集する超音波検査、心電図検査、脳波検査、MR検査等の生体機能検査がある。また、臨床検査を実践するために必要な情報処理、精度保証、検査情報システム、医用工学等のいわゆる検査総合管理学、そして検査データの判読方法（病態解析）、臨床研究の方法、感染対策・栄養管理等への臨床検査の応用についても学ぶ。卒業後に、医療施設、検査センター、試薬・機器の製造開発メーカー、研究所等でも活躍ができるような基本的知識と技能を身につけた人材を養成することを目的とする。</p>

別表第2（第18条関係）

（1）総合教育科目

天理スピリット科目群

科 目 名	単 位	
	必修	選択
天理教概説 1	2	
天理教概説 2	2	
天理教学 1		2
天理教学 2		2
建学の精神と天理大学のあゆみ	2	
英語 1	1	
英語 2	1	
韓国・朝鮮語 1		1
韓国・朝鮮語 2		1
中国語 1		1
中国語 2		1
教養アカデミック英語 1		1
教養アカデミック英語 2		1
実践アカデミック英語 1		1
実践アカデミック英語 2		1
アカデミック英語上級		1
多文化理解と言語（韓国・朝鮮語）		2
多文化理解と言語（中国語）		2
多文化理解と言語（英語）		2
多文化理解と言語（タイ語）		2
多文化理解と言語（インドネシア語）		2
多文化理解と言語（ドイツ語）		2
多文化理解と言語（フランス語）		2
多文化理解と言語（ロシア語）		2
多文化理解と言語（スペイン語）		2
多文化理解と言語（ポルトガル語）		2
多文化理解と言語（日本語）		2
日本事情 1		2
日本事情 2		2
健康スポーツ科学 1		2
健康スポーツ科学 2		2
国際社会におけるスポーツの役割		2
保健医療の仕組みと健康づくり		2
ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる入門編		1
ローキャリアアクト天理SDGs 森に生きる実践編		1
国際協力入門		2
国際協力実習		2
国際協力演習 1		2
国際協力演習 2		2
国際ボランティア論		2
天理大学特別講義 1		2
天理大学特別講義 2		2
天理大学特別講義 3		2
天理大学特別講義 4		2
天理異文化伝道		2



キャリア教育科目群

科 目 名	単 位	
	必修	選択
キャリアプランニング		2
キャリアデザイン1		2
キャリアデザイン2		2
インターンシップ1		1
インターンシップ2		2
海外インターンシップ1		1
海外インターンシップ2		2

基礎リテラシー科目群

科 目 名	単 位	
	必修	選択
基礎ゼミナール1	2	
基礎ゼミナール2		2
データサイエンス・AI入門		2
データサイエンス・AI応用		2
データリテラシー		2
コンピューター入門		2
情報処理		2
基礎からわかるレポート作成		2
基礎からわかる近代史		2
基礎からわかる現代社会		2
基礎からわかる数学		2
基礎からわかる生物・化学		2

一般教養教育科目群

科 目 名	単 位	
	必修	選択
生活の中の科学		2
地球環境論		2
科学と現代		2
数学と論理		2
統計学1		2
統計学2		2
経営学1		2
経営学2		2
地理学1		2
地理学2		2
日本国憲法		2
法学		2
経済学1		2
経済学2		2
政治学		2
社会学		2

科 目 名	単 位	
	必修	選択
民法 1		2
民法 2		2
行政法 1		2
行政法 2		2
哲学概論 1		2
哲学概論 2		2
倫理学 1		2
倫理学 2		2
心理学 1		2
心理学 2		2
ジェンダー・セクシャリティ		2
近現代の遺産と未来		2
宗教と芸能		2
労働と社会		2
障害学		2
世界の文学 1		2
世界の文学 2		2
カルチュラルスタディーズ		2
宗教と現代社会		2
人権と差別 1		2
人権と差別 2		2
日本手話 A		2
日本手話 B		2
アウトドアスポーツ		1
レクリエーションalスポーツ		1
ニュースポーツ		1

## (2) 専門教育科目

共通科目

国際学部

科 目 名	単 位	
	必修	選択
日本文化概論		2
国際文化論		2
日本と国際社会		2
グローバル文化論		2
アジア地域文化論		2
オセアニア地域文化論		2
ヨーロッパ地域文化論		2
スラヴ・ユーラシア地域文化論		2
アフリカ地域文化論		2
アメリカス地域文化論		2
世界の歴史と社会		2
アジアの歴史と社会		2
オセアニアの歴史と社会		2
ヨーロッパの歴史と社会		2
スラヴ・ユーラシアの歴史と社会		2
アフリカの歴史と社会		2
アメリカスの歴史と社会		2
世界の英語		2
異文化コミュニケーション1		2
異文化コミュニケーション2		2
英語音声学1		2
英語音声学2		2
英語学概論		2
社会言語学1		2
社会言語学2		2
言語学概論1		2
言語学概論2		2
College English Grammar A		1
College English Grammar B		1
Business Communication		1
TOEFL Academic English		1
Japanese Culture and Society		2
Japanese History		2
Japanese Religions		2
観光地理学		2
観光デザイン論		2
観光業界論		2
世界遺産論		2
ホスピタリティー観光研究1		2
ホスピタリティー観光研究2		2
国内旅行実務		2
海外旅行実務		2
国際スポーツ協力論		1
国際スポーツ交流実習		1

医療学部

科 目 名	単 位	
	必修	選択
臨床心理学	2	
コミュニケーション演習	1	
現代家族論		2
教育学概論 1		2
医療英語 A		1
医療英語 B		1
体のしくみ I	2	
体のしくみ II	2	
分子医学の基礎	2	
生化学		2
微生物学		1
疾病の成り立ちと治療 I	2	
疾病の成り立ちと治療 II	2	
疾病の成り立ちと治療 III	2	
疾病の成り立ちと治療 IV	2	
疾病の成り立ちと治療 V	2	
病理学		1
薬理学・臨床薬理学	2	
栄養学・臨床栄養学	2	
保健医療概論	2	
公衆衛生学	2	
保健医療福祉行政論	2	
現代社会と福祉 1	2	
医療安全管理学	2	
情報科学演習	1	

専攻科目  
人文学部  
宗教学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
天理教学概論 1	2	
天理教学概論 2	2	
天理教教祖伝概説 1	2	
天理教教祖伝概説 2	2	
宗教史概説 1	2	
宗教史概説 2	2	
宗教研究基礎演習	2	
宗教学概論 1	2	
宗教学概論 2	2	
現代宗教を読み解くゼミ 1	2	
現代宗教を読み解くゼミ 2	2	
伝道実習 1		1
伝道実習 2		1
伝道実習 3		1
伝道実習 4		1
天理教原典学 1 概説		2
天理教原典学 2 概説		2
天理教原典学 3 概説		2
天理教学特殊講義 1		2
天理教学特殊講義 2		2
天理教学特殊講義 3		2
天理教史特殊講義 1		2
天理教史特殊講義 2		2
宗教学特殊講義 1		2
宗教学特殊講義 2		2
宗教学特殊講義 3		2
宗教学特殊講義 4		2
宗教史特殊講義 1		2
宗教史特殊講義 2		2
宗教史特殊講義 3		2
宗教史特殊講義 4		2
宗教史特殊講義 5		2
宗教史特殊講義 6		2
宗教科指導法 1		2
宗教科指導法 2		2
宗教科指導法 3		2
宗教科指導法 4		2
宗教研究演習 1	2	
宗教研究演習 2	2	
宗教課題演習 1	2	
宗教課題演習 2	2	
卒業論文	6	

国文学国語学科

科 目 名	单 位	
	必修	選択
国文学基礎演習	2	
国文学概論 1	2	
国文学概論 2	2	
上代文学講読 1		2
上代文学講読 2		2
中古文学講読 1		2
中古文学講読 2		2
中世文学講読 1		2
中世文学講読 2		2
近世文学講読 1		2
近世文学講読 2		2
近代文学講読 1		2
近代文学講読 2		2
上代文学特論 1		2
上代文学特論 2		2
中古文学特論 1		2
中古文学特論 2		2
中世文学特論 1		2
中世文学特論 2		2
近世文学特論 1		2
近世文学特論 2		2
近代文学特論 1		2
近代文学特論 2		2
古典文学史 1		2
古典文学史 2		2
近代文学史 1		2
近代文学史 2		2
国文学演習 (上代) 1		2
国文学演習 (上代) 2		2
国文学演習 (中古) 1		2
国文学演習 (中古) 2		2
国文学演習 (近世) 1		2
国文学演習 (近世) 2		2
国文学演習 (近代) 1		2
国文学演習 (近代) 2		2
国語学基礎演習	2	
国語学概論 1	2	
国語学概論 2	2	
国語学特論 (言語構造) 1		2
国語学特論 (言語構造) 2		2
国語学特論 (言語運用) 1		2
国語学特論 (言語運用) 2		2
国語学特論 (言語実態) 1		2
国語学特論 (言語実態) 2		2
国語史 1		2
国語史 2		2
国語学演習 (言語構造) 1		2
国語学演習 (言語構造) 2		2
国語学演習 (言語運用) 1		2
国語学演習 (言語運用) 2		2
国語学演習 (言語実態) 1		2
国語学演習 (言語実態) 2		2

科 目 名	単 位	
	必修	選択
漢文学基礎演習	2	
漢文学特論 1		2
漢文学特論 2		2
実用国語表現		2
音声言語		2
天理図書館資料論 (上代・中古)		2
天理図書館資料論 (中世・近世)		2
大和の地域文化論 (文学)		2
大和の地域文化論 (言語)		2
文章表現 1		2
文章表現 2		2
書道 (書写を中心とする)		1
国語科指導法 1		2
国語科指導法 2		2
国語科指導法 3		2
国語科指導法 4		2
卒業論文演習	4	
卒業論文	6	

歴史文化学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
歴史学概論	2	
考古学概論	2	
民俗学概論	2	
歴史文化基礎演習	2	
日本史要説		2
東洋史要説		2
西洋史要説		2
日本考古学要説		2
日本民俗学要説		2
くずし字入門		2
人文地理学概論		2
自然地理学概論		2
地誌		2
美術史		2
文化財行政学	2	
文化財科学・保存科学		2
大和の文化遺産を学ぶ1		2
大和の文化遺産を学ぶ2		2
大和の文化遺産を学ぶ3		2
博物館学概論		2
博物館経営総論		2
博物館教育論		2
博物館情報・メディア論		2
博物館展示論		2
博物館資料論		2
博物館資料保存論		2
社会科指導法1		2
社会科指導法2		2
社会・地理歴史科指導法1		2
社会・地理歴史科指導法2		2
英語文献講読1		2
英語文献講読2		2
卒業論文	6	



歴史学コース

科 目 名	単 位	
	必修	選択
歴史学研究入門 1		2
歴史学研究入門 2		2
文化交流史の研究 1		2
文化交流史の研究 2		2
日本古代史の研究		2
日本中世史の研究		2
日本近世史の研究		2
日本近代史の研究		2
東アジア史の研究		2
古文書学		2
日本古代史料の講読 1		2
日本古代史料の講読 2		2
日本中世史料の講読 1		2
日本中世史料の講読 2		2
日本近世史料の講読 1		2
日本近世史料の講読 2		2
日本近代史料の講読 1		2
日本近代史料の講読 2		2
歴史学史料実習 1		1
歴史学史料実習 2		1
歴史学史料実習 3		1
歴史学史料実習 4		1
日本古代中世史演習 1		2
日本古代中世史演習 2		2
日本古代中世史演習 3		2
日本古代中世史演習 4		2
日本近世史演習 1		2
日本近世史演習 2		2
日本近世史演習 3		2
日本近世史演習 4		2
日本近代史演習 1		2
日本近代史演習 2		2
日本近代史演習 3		2
日本近代史演習 4		2

考古学コース

科 目 名	単 位	
	必修	選択
考古学研究入門 1		2
考古学研究入門 2		2
旧石器・縄文時代の考古学		2
弥生時代の考古学		2
古墳時代の考古学		2
飛鳥・奈良時代の考古学		2
中近世の考古学		2
東アジア考古学		2
西アジア考古学		2
遺跡探査学		2
遺跡の保存と活用		2
考古資料の情報化		2
考古学実習 1		1
考古学実習 2		1
考古学実習 3		1
考古学実習 4		1
先史考古学演習 1		2
先史考古学演習 2		2
先史考古学演習 3		2
先史考古学演習 4		2
原史考古学演習 1		2
原史考古学演習 2		2
原史考古学演習 3		2
原史考古学演習 4		2
歴史考古学演習 1		2
歴史考古学演習 2		2
歴史考古学演習 3		2
歴史考古学演習 4		2

民俗学コース

科 目 名	単 位	
	必修	選択
民俗学研究入門 1		2
民俗学研究入門 2		2
民俗学と現代社会		2
生活文化史		2
フィールドワークからみる民俗文化		2
民話と伝承		2
宗教民俗学		2
民俗資料論		2
民俗学実習 1		1
民俗学実習 2		1
民俗学実習 3		1
民俗学実習 4		1
歴史民俗学演習 1		2
歴史民俗学演習 2		2
歴史民俗学演習 3		2
歴史民俗学演習 4		2
現代民俗学演習 1		2
現代民俗学演習 2		2
現代民俗学演習 3		2
現代民俗学演習 4		2

心理学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
心理学概論	2	
臨床心理学概論	2	
公認心理師の職責		2
心理学研究法		4
心理学統計法		2
多変量解析法		2
心理学実験法		4
知覚・認知心理学		2
学習・言語心理学		2
感情・人格心理学		2
神経・生理心理学		2
社会・集団・家族心理学		2
発達心理学		2
障害者・障害児心理学		2
心理的アセスメント1		4
心理的アセスメント2		4
心理学的支援法		2
健康・医療心理学		2
福祉心理学		2
教育・学校心理学		2
司法・犯罪心理学		2
産業・組織心理学		2
人体の構造と機能及び疾病		2
精神疾患とその治療1		2
精神疾患とその治療2		2
関係行政論		2
精神分析学		2
ユング心理学		2
投影法演習		4
対人スキル演習		4
臨床心理学課題演習		2
対人社会課題演習		2
心理演習		2
心理実習		2
心理学入門演習	2	
心理学研究演習1	2	
心理学研究演習2	2	
卒業課題研究	4	

社会教育学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
生涯学習概論 1	2	
生涯学習概論 2	2	
教育学概論 1		2
社会教育基礎演習 1	2	
社会教育基礎演習 2	2	
生涯学習支援演習 1	2	
生涯学習支援演習 2	2	
生涯学習支援論 1	2	
生涯学習支援論 2	2	
社会教育経営論 1		2
社会教育経営論 2		2
社会教育経営論 3		2
社会教育経営論 4		2
文化スポーツ支援論 1		2
文化スポーツ支援論 2		2
社会教育特講 1		2
社会教育特講 2		2
社会教育特講 3		2
社会教育特講 4		2
生涯学習特論 1		2
生涯学習特論 2		2
生涯学習特論 3		2
生涯学習特論 4		2
生涯学習特論 5		2
生涯学習特論 6		2
生涯学習特論 7		2
生涯学習特論 8		2
図書館情報学概論		2
図書館サービス概論		2
図書館マネジメント論		2
図書館情報学基礎特論		2
図書館とメディアの歴史		2
文化政策学概論		2
地域産業論		2
地域金融論		2
広報・PR論		2
臨地文化施設実習	1	
野外教育実習		1
プロジェクト実習 1		1
プロジェクト実習 2		1
プロジェクト実習 3		1
プロジェクト実習 4		1
プロジェクト実習 5		1
プロジェクト実習 6		1
地域協働実習		1
社会教育実習 1		2
社会教育実習 2		2
社会教育演習 1 (コーディネーター支援)		2
社会教育演習 2 (コーディネーター支援)		2

科 目 名	単 位	
	必修	選択
社会教育演習 1 (文化行政)		2
社会教育演習 2 (地域文化共創)		2
社会教育演習 1 (文化スポーツ支援)		2
社会教育演習 2 (文化スポーツ支援)		2
社会教育課題研究 1	2	
社会教育課題研究 2	2	
卒業課題研究		4
卒業論文		6

社会福祉学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
社会福祉学演習 1	2	
社会福祉学演習 2	2	
社会福祉学演習 3	2	
社会福祉学演習 4	2	
社会福祉概論 1	2	
社会福祉概論 2	2	
人体の構造と機能及び疾病		2
社会学と社会システム		2
社会保障論 1		2
社会保障論 2		2
社会福祉調査法		2
ソーシャルワーク論 1	2	
ソーシャルワーク論 2		2
ソーシャルワーク論 3		2
ソーシャルワーク論 4		2
ソーシャルワーク論 5		2
ソーシャルワーク論 6		2
地域福祉と包括的支援体制 1		2
地域福祉と包括的支援体制 2		2
福祉経営論		2
障害者福祉論		2
児童福祉論		2
高齢者福祉論		2
公的扶助論		2
医療福祉論		2
権利擁護を支える法制度		2
刑事司法と福祉		2
ソーシャルワーク演習 1		2
ソーシャルワーク演習 2		2
ソーシャルワーク演習 3		2
ソーシャルワーク演習 4		2
ソーシャルワーク演習 5		2
ソーシャルワーク実習指導 1		2
ソーシャルワーク実習指導 2		2
ソーシャルワーク実習指導 3		2
ソーシャルワーク実習 1		2
ソーシャルワーク実習 2		4
地域連携実習		2
天理教社会福祉論	2	
精神医学と精神医療 1		2
精神医学と精神医療 2		2
現代の精神保健の課題と支援 1		2
現代の精神保健の課題と支援 2		2
精神保健福祉の原理 1		2
精神保健福祉の原理 2		2
現代家族論		2
ソーシャルワーク理論と方法（専門） 1		2
ソーシャルワーク理論と方法（専門） 2		2
精神障害リハビリテーション論		2
精神保健福祉制度論		2

科 目 名	单 位	
	必修	選択
精神保健福祉援助演習 1		2
精神保健福祉援助演習 2		2
精神保健福祉援助演習 3		2
精神保健福祉援助実習 A		5
精神保健福祉援助実習 B		3
精神保健福祉援助実習指導 1		2
精神保健福祉援助実習指導 2		2
精神保健福祉援助実習指導 3		2
卒業論文	6	



国際学部

韓国・朝鮮語学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
韓国・朝鮮語 A (文法)	3	
韓国・朝鮮語 A (会話)	2	
韓国・朝鮮語 A (発音)	1	
韓国・朝鮮語 B (文法)	3	
韓国・朝鮮語 B (会話)	2	
韓国・朝鮮語 B (講読)	1	
韓国・朝鮮語 C (文法)	1	
韓国・朝鮮語 C (会話)	1	
韓国・朝鮮語 C (講読)	1	
韓国・朝鮮語 C (作文)	1	
韓国・朝鮮語 D (文法)	1	
韓国・朝鮮語 D (会話)	1	
韓国・朝鮮語 D (講読)	1	
韓国・朝鮮語 D (作文)	1	
韓国・朝鮮語 E (会話)	1	
韓国・朝鮮語 E (講読)	1	
韓国・朝鮮語 E (作文)	1	
韓国・朝鮮語 E (表現)	1	
韓国・朝鮮語 F (会話)	1	
韓国・朝鮮語 F (講読)	1	
韓国・朝鮮語 F (作文)	1	
韓国・朝鮮語 F (表現)	1	
韓国・朝鮮語 G (総合)	1	
韓国・朝鮮語 H (総合)	1	
実践韓国・朝鮮語 A		1
実践韓国・朝鮮語 B		1
映像で学ぶ韓国・朝鮮語		1
韓国・朝鮮語古典講読		1
通訳翻訳韓国・朝鮮語 A		1
通訳翻訳韓国・朝鮮語 B		1
応用韓国・朝鮮語 A		1
応用韓国・朝鮮語 B		1
伝道韓国・朝鮮語 1		1
伝道韓国・朝鮮語 2		1
韓国・朝鮮語学概論 1		2
韓国・朝鮮語学概論 2		2
韓国・朝鮮文学概論 1		2
韓国・朝鮮文学概論 2		2
韓国・朝鮮史 1		2
韓国・朝鮮史 2		2
韓国・朝鮮社会文化論 1		2
韓国・朝鮮社会文化論 2		2
韓国・朝鮮文化交流史 1		2
韓国・朝鮮文化交流史 2		2
韓国・朝鮮事情 1		2
韓国・朝鮮事情 2		2
韓国・朝鮮語科指導法 1		2
韓国・朝鮮語科指導法 2		2

科 目 名	单 位	
	必修	選択
韓国・朝鮮入門	2	
韓国・朝鮮語演習 1	2	
韓国・朝鮮語演習 2	2	
韓国・朝鮮語演習 3	2	
韓国・朝鮮語演習 4	2	
韓国・朝鮮語海外語学実習	4	
卒業課題研究		2
卒業論文		4

中国語学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
中国語 A (文法)	2	
中国語 A (発音)	2	
中国語 A (リスニング)	2	
中国語 B (文法)	2	
中国語 B (発音)	2	
中国語 B (リスニング)	2	
中国語 C (文法)	2	
中国語 C (会話 1)	1	
中国語 C (会話 2)	1	
中国語 D (読解)	2	
中国語 D (会話 1)	1	
中国語 D (会話 2)	1	
中国語 E (通訳 1)	1	
中国語 E (通訳 2)	1	
中国語 E (読解)	2	
中国語 F (通訳 1)	1	
中国語 F (通訳 2)	1	
中国語 F (読解)	2	
中国語 G (総合)	1	
中国語 H (総合)	1	
伝道中国語 1		1
伝道中国語 2		1
広東語 A		1
広東語 B		1
台湾語 A		1
台湾語 B		1
ボランティア中国語 A		1
ボランティア中国語 B		1
スピーチ中国語 A		1
スピーチ中国語 B		1
ビジネス中国語		1
中国語学概論 1		2
中国語学概論 2		2
中国文学概論 1		2
中国文学概論 2		2
中国史 1		2
中国史 2		2
中国文化史 1		2
中国文化史 2		2
台湾社会文化論 1		2
台湾社会文化論 2		2
近代中国と国際政治 1		2
近代中国と国際政治 2		2
中国語科指導法 1		2
中国語科指導法 2		2
中国語圏研究入門	2	
中国語演習 1	2	
中国語演習 2	2	
中国語演習 3	2	

科 目 名	单 位	
	必修	選択
中国語演習 4	2	
中国語海外語学実習	4	
卒業課題研究		2
卒業論文		4

英米語学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
英語 A (Reading)	1	
英語 A (Writing)	1	
英語 A (Grammar)	1	
英語 A (Oral Communication 1)	1	
英語 A (Oral Communication 2)	1	
英語 A (Integrated English)	1	
英語 B (Reading)	1	
英語 B (Writing)	1	
英語 B (Grammar)	1	
英語 B (Oral Communication 1)	1	
英語 B (Oral Communication 2)	1	
英語 B (Integrated English)	1	
英語 C (Reading)	1	
英語 C (Writing)	1	
英語 C (Oral Communication 1)	1	
英語 C (Oral Communication 2)	1	
英語 C (Presentation)	1	
英語 C (Integrated English)	1	
英語 D (Reading)	1	
英語 D (Writing)	1	
英語 D (Oral Communication 1)	1	
英語 D (Oral Communication 2)	1	
英語 D (Presentation)	1	
英語 D (Integrated English)	1	
英語 E (Writing)	1	
英語 E (Presentation)	1	
英語 E (Integrated English)	1	
英語 F (Writing)	1	
英語 F (Presentation)	1	
英語 F (Integrated English)	1	
観光英語		1
ビジネス英語		1
英米文学概論		2
伝道英語 1		1
伝道英語 2		1
英米語概論 1		2
英米語概論 2		2
英米語概論 3		2
英米語概論 4		2
英米語概論 5		2
Content Based English 1		2
Content Based English 2		2
Content Based English 3		2
Content Based English 4		2
Content Based English 5		2
英語科指導法 1		2
英語科指導法 2		2
英語科指導法 3		2
英語科指導法 4		2

科 目 名	単 位	
	必修	選択
ガイド英語		1
時事英語		1
通訳		1
翻訳		1
英米語演習 1	2	
英米語演習 2	2	
英米語演習 3	2	
英米語演習 4	2	
英米語海外語学実習	4	
卒業課題研究		2
卒業論文		4

外国語学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
外国語演習 1	2	
外国語演習 2	2	
外国語演習 3	2	
外国語演習 4	2	
海外語学実習		4
卒業課題研究		2
卒業論文		4

タイ語コース

科 目 名	単 位	
	必修	選択
タイ語A (表記)		2
タイ語A (会話)		2
タイ語A (リスニング)		1
タイ語A (文法・表現)		1
タイ語B (表記)		2
タイ語B (会話)		2
タイ語B (リスニング)		1
タイ語B (文法・表現)		1
タイ語C (講読1)		1
タイ語C (講読2)		1
タイ語C (会話)		1
タイ語C (作文)		1
タイ語D (講読1)		1
タイ語D (講読2)		1
タイ語D (会話)		1
タイ語D (作文)		1
タイ語E (講読1)		1
タイ語E (講読2)		1
タイ語E (会話)		1
タイ語E (作文)		1
タイ語F (講読1)		1
タイ語F (講読2)		1
タイ語F (会話)		1
タイ語F (作文)		1
タイ語G (翻訳)		1
タイ語H (通訳)		1
伝道タイ語1		1
伝道タイ語2		1
タイ語で学ぶ日本文化		1
観光タイ語		1
映像で学ぶタイ語		1
時事タイ語		1
タイ研究入門		2
タイ史		2
タイ社会文化論		2
タイ言語文化論		2
タイと日本		2



インドネシア語コース

科 目 名	単 位	
	必修	選択
インドネシア語 A (文法)		2
インドネシア語 A (コミュニケーション)		2
インドネシア語 A (語彙・表現)		2
インドネシア語 B (文法)		2
インドネシア語 B (コミュニケーション)		2
インドネシア語 B (語彙・表現)		2
インドネシア語 C (文法・読解)		2
インドネシア語 C (コミュニケーション)		2
インドネシア語 D (文法・読解)		2
インドネシア語 D (コミュニケーション)		2
インドネシア語 E (総合)		2
インドネシア語 E (コミュニケーション)		2
インドネシア語 F (総合)		2
インドネシア語 F (コミュニケーション)		2
インドネシア語 G (総合)		1
インドネシア語 H (コミュニケーション)		1
伝道インドネシア語 1		1
伝道インドネシア語 2		1
インドネシア語で学ぶ日本文化		1
通訳インドネシア語		1
観光インドネシア語		1
時事インドネシア語		1
インドネシア研究入門		2
インドネシア史		2
インドネシア社会文化論		2
インドネシア言語文化論		2
インドネシアと日本		2

ドイツ語コース

科 目 名	単 位	
	必修	選択
ドイツ語 A (文法・読解)		2
ドイツ語 A (コミュニケーション)		2
ドイツ語 A (語彙・発音)		1
ドイツ語 A (リスニング)		1
ドイツ語 B (文法・読解)		2
ドイツ語 B (コミュニケーション)		2
ドイツ語 B (語彙・発音)		1
ドイツ語 B (リスニング)		1
ドイツ語 C (文法・読解)		2
ドイツ語 C (コミュニケーション)		1
ドイツ語 C (作文)		1
ドイツ語 D (文法・読解)		2
ドイツ語 D (コミュニケーション)		1
ドイツ語 D (作文)		1
ドイツ語 E (文法・読解)		1
ドイツ語 E (総合)		1
ドイツ語 E (コミュニケーション)		1
ドイツ語 E (作文)		1
ドイツ語 F (文法・読解)		1
ドイツ語 F (総合)		1
ドイツ語 F (コミュニケーション)		1
ドイツ語 F (作文)		1
ドイツ語 G (総合)		1
ドイツ語 H (総合)		1
伝道ドイツ語 1		1
伝道ドイツ語 2		1
ドイツ語で学ぶ日本文化		1
観光ドイツ語		1
映像で学ぶドイツ語		1
時事ドイツ語		1
ドイツ語圏研究入門		2
ドイツ語圏史		2
ドイツ社会文化論		2
ドイツ言語文化論		2
ドイツと日本		2

フランス語コース

科 目 名	単 位	
	必修	選択
フランス語 A (文法・読解)		2
フランス語 A (コミュニケーション)		2
フランス語 A (語彙・発音)		1
フランス語 A (リスニング)		1
フランス語 B (文法・読解)		2
フランス語 B (コミュニケーション)		2
フランス語 B (語彙・発音)		1
フランス語 B (リスニング)		1
フランス語 C (文法・読解)		2
フランス語 C (コミュニケーション)		1
フランス語 C (作文)		1
フランス語 D (文法・読解)		2
フランス語 D (コミュニケーション)		1
フランス語 D (作文)		1
フランス語 E (総合)		1
フランス語 E (読解)		1
フランス語 E (コミュニケーション)		1
フランス語 E (作文)		1
フランス語 F (総合)		1
フランス語 F (読解)		1
フランス語 F (コミュニケーション)		1
フランス語 F (作文)		1
フランス語 G (総合)		1
フランス語 H (総合)		1
伝道フランス語 1		1
伝道フランス語 2		1
フランス語で学ぶ日本文化		1
観光フランス語		1
通訳フランス語		1
翻訳フランス語		1
フランス語圏研究入門		2
フランス語圏史		2
フランス社会文化論		2
フランス言語文化論		2
フランスと日本		2

ロシア語コース

科 目 名	単 位	
	必修	選択
ロシア語 A (文法)		2
ロシア語 A (会話)		2
ロシア語 A (リスニング)		1
ロシア語 A (語彙・発音)		1
ロシア語 B (文法)		2
ロシア語 B (会話)		2
ロシア語 B (リスニング)		1
ロシア語 B (語彙・発音)		1
ロシア語 C (文法)		1
ロシア語 C (講読)		1
ロシア語 C (会話 1)		1
ロシア語 C (会話 2)		1
ロシア語 D (文法)		1
ロシア語 D (講読)		1
ロシア語 D (会話 1)		1
ロシア語 D (会話 2)		1
ロシア語 E (講読)		1
ロシア語 E (翻訳)		1
ロシア語 E (会話)		1
ロシア語 E (作文)		1
ロシア語 F (講読)		1
ロシア語 F (翻訳)		1
ロシア語 F (会話)		1
ロシア語 F (作文)		1
ロシア語 G (総合)		1
ロシア語 H (総合)		1
伝道ロシア語 1		1
伝道ロシア語 2		1
ロシア語で学ぶ日本文化		1
観光ロシア語		1
映像で学ぶロシア語		1
時事ロシア語		1
ロシア研究入門		2
ロシア史		2
ロシア社会文化論		2
ロシア言語文化論		2
ロシアと日本		2

スペイン語コース

科 目 名	単 位	
	必修	選択
スペイン語 A (文法)		2
スペイン語 A (コミュニケーション・表現)		3
スペイン語 A (読解・聴解)		1
スペイン語 B (文法)		2
スペイン語 B (コミュニケーション・表現)		3
スペイン語 B (読解・聴解)		1
スペイン語 C (文法)		1
スペイン語 C (コミュニケーション・表現)		2
スペイン語 C (読解・聴解)		1
スペイン語 D (文法)		1
スペイン語 D (コミュニケーション・表現)		2
スペイン語 D (読解・聴解)		1
スペイン語 E (文法・理解)		2
スペイン語 E (コミュニケーション・表現)		2
スペイン語 F (文法・理解)		2
スペイン語 F (コミュニケーション・表現)		2
スペイン語 G (総合)		1
スペイン語 H (総合)		1
伝道スペイン語 1		1
伝道スペイン語 2		1
スペイン語で学ぶ日本文化		1
観光スペイン語		1
時事スペイン語		1
映像で学ぶスペイン語		1
翻訳スペイン語		1
通訳スペイン語		1
スペイン語圏研究入門		2
スペイン語圏史 1		2
スペイン語圏史 2		2
スペイン語学 1		2
スペイン語学 2		2
スペイン語圏と日本		2
スペイン語圏文学 1		2
スペイン語圏社会文化論 1		2
スペイン語圏文学 2		2
スペイン語圏社会文化論 2		2
スペイン語科指導法 1		2
スペイン語科指導法 2		2

ブラジルポルトガル語コース

科 目 名	単 位	
	必修	選択
ブラジルポルトガル語 A (文法・読解)		2
ブラジルポルトガル語 A (コミュニケーション)		2
ブラジルポルトガル語 A (語彙・発音)		1
ブラジルポルトガル語 A (リスニング)		1
ブラジルポルトガル語 B (文法・読解)		2
ブラジルポルトガル語 B (コミュニケーション)		2
ブラジルポルトガル語 B (語彙・発音)		1
ブラジルポルトガル語 B (リスニング)		1
ブラジルポルトガル語 C (文法・読解)		2
ブラジルポルトガル語 C (コミュニケーション)		1
ブラジルポルトガル語 C (作文)		1
ブラジルポルトガル語 D (文法・読解)		2
ブラジルポルトガル語 D (コミュニケーション)		1
ブラジルポルトガル語 D (作文)		1
ブラジルポルトガル語 E (総合1)		1
ブラジルポルトガル語 E (総合2)		1
ブラジルポルトガル語 E (コミュニケーション)		1
ブラジルポルトガル語 E (作文)		1
ブラジルポルトガル語 F (総合1)		1
ブラジルポルトガル語 F (総合2)		1
ブラジルポルトガル語 F (コミュニケーション)		1
ブラジルポルトガル語 F (作文)		1
ブラジルポルトガル語 G (総合)		1
ブラジルポルトガル語 H (総合)		1
伝道ブラジルポルトガル語 1		1
伝道ブラジルポルトガル語 2		1
ブラジルポルトガル語で学ぶ日本文化		1
観光ブラジルポルトガル語		1
ブラジルポルトガル語コミュニティ通訳		1
ブラジルポルトガル語コミュニティ翻訳		1
ブラジル研究入門		2
ブラジル史		2
ブラジル社会文化論		2
ブラジル言語文化論		2
ブラジルと日本		2

国際文化学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
やさしい日本語	2	
異文化理解入門ゼミナール 1		2
異文化理解入門ゼミナール 2		2
多文化共生入門ゼミナール 1		2
多文化共生入門ゼミナール 2		2
国際事情入門ゼミナール 1		2
国際事情入門ゼミナール 2		2
歴史文化入門ゼミナール 1		2
歴史文化入門ゼミナール 2		2
異文化理解ゼミナール 1		2
異文化理解ゼミナール 2		2
多文化共生ゼミナール 1		2
多文化共生ゼミナール 2		2
国際事情ゼミナール 1		2
国際事情ゼミナール 2		2
歴史文化ゼミナール 1		2
歴史文化ゼミナール 2		2
社会調査法入門		2
社会調査法 1		2
社会調査法 2		2
社会調査法実践 A		2
社会調査法実践 B		2
質的調査研究		2
宗教学		2
社会学概論		2
多文化共生学		2
国際法		2
国際政治学		2
国際関係論		2
国際経済史		2
経済学概論		2
環境政治論		2
地域統合論		2
比較宗教学		2
文化人類学概論		2
ボランティアネットワーク論		2
異文化理解論		2
多文化共生論		2
国際事情論		2
歴史文化論		2
国際文化演習 1	2	
国際文化演習 2	2	
国際文化演習 3	2	
国際文化演習 4	2	
社会・公民科指導法 1		2
社会・公民科指導法 2		2
多文化体験活動 1		1
多文化体験活動 2		1
卒業論文	4	

日本学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
日本研究入門	2	
ナラロジー研究入門	2	
文化人類学入門	2	
日本文化入門	2	
言語学入門	2	
フィールドワークの方法	2	
世界史のなかの日本	2	
日本表現文化概論		2
交通地理学概論		2
日本多文化共生概論		2
日本精神文化概論		2
ナラロジー概論		2
日本生活文化概論		2
社会言語学概論		2
日本表現文化特論		2
経営人類学特論		2
日本情報文化特論		2
日本環境文化特論		2
観光地理学特論		2
ナラロジー特論		2
日本生活文化特論		2
入門日本語 A (会話)		1
入門日本語 A (講読)		1
入門日本語 A (文法 A)		1
入門日本語 A (文法 B)		1
入門日本語 A (作文)		1
入門日本語 A (表記)		1
入門日本語 A (総合)		1
入門日本語 B (会話)		1
入門日本語 B (講読)		1
入門日本語 B (文法 A)		1
入門日本語 B (文法 B)		1
入門日本語 B (作文)		1
入門日本語 B (表記)		1
入門日本語 B (総合)		1
基礎日本語 A (会話)	1	
基礎日本語 A (講読)	1	
基礎日本語 A (文法 A)	1	
基礎日本語 A (文法 B)	1	
基礎日本語 A (作文)	1	
基礎日本語 A (表記)	1	
基礎日本語 A (総合)	1	
基礎日本語 B (会話)	1	
基礎日本語 B (講読)	1	
基礎日本語 B (文法 A)	1	
基礎日本語 B (文法 B)	1	
基礎日本語 B (作文)	1	
基礎日本語 B (表記)	1	
基礎日本語 B (総合)	1	



科 目 名	単 位	
	必修	選択
ビジネス日本語 1		2
ビジネス日本語 2		2
日本語実践研究 1		2
日本語実践研究 2		2
日本研究演習 1	2	
日本研究演習 2	2	
日本研究演習 3	2	
日本研究演習 4	2	
日本文化体験実習 1		2
日本文化体験実習 2		2
卒業課題研究		2
卒業論文		4

体育学部  
体育学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
天理スポーツ学	2	
スポーツ学概論	2	
健康学概論	2	
武道学概論	2	
体育・スポーツ原論(体育原理、学校体育史を含む)	2	
スポーツデータサイエンス	2	
スポーツ運動学(運動方法学を含む)		2
解剖学		2
体力学(体力診断の理論と体力測定法を含む)		2
生理学(運動生理学を含む)		2
スポーツ心理学		2
スポーツ経営学		2
保健体育科指導法 1		2
保健体育科指導法 2		2
アダプテッド・スポーツ論		2
スポーツプログラミング(運動処方論及びメディカルチェックの基礎を含む)		2
学校保健(学校安全を含む)		2
救急看護法		2
健康・スポーツ統計学		2
パフォーマンス分析		2
体育学演習 1	2	
体育学演習 2	2	
健康運動処方論(実習を含む)		2
体育学特別演習		2
卒業研究	4	
スポーツトレーニング論		2
スポーツバイオメカニクス		2
スポーツコーチ論		2
スポーツカウンセリング		2
スポーツ栄養学		2
スポーツコンディショニング論		2
スポーツマッサージ(テーピングを含む)		2
スポーツ教育学		2
野外教育論		2
保健科教育法		2
学校体育特論		2
保健体育科指導法 3		2
保健体育科指導法 4		2
スポーツ方法(アダプテッド・スポーツ)		1
スポーツ文化論		2
生涯スポーツ論(スポーツ政策を含む)		2
身体コミュニケーション		2
スポーツマネジメント		2
スポーツ社会学		2
スポーツ人類学		2
スポーツメディア論		2
心身健康論		2
スポーツ医学		2

科 目 名	単 位	
	必修	選択
健康栄養学		2
健康運動論		2
健康管理学（小児保健を含む）		2
衛生学（公衆衛生学を含む）		2
発育発達・老化論		2
精神保健		2
柔道論		2
剣道論		2
柔道史		2
剣道史		2
武道思想史		2
武道国際事情		2
柔道特別実習 1（柔の形 1）		1
柔道特別実習 2（柔の形 2）		1
柔道特別実習 3（投の形 1）		1
柔道特別実習 4（投の形 2）		1
柔道特別実習 5（古式の形 1）		1
柔道特別実習 6（古式の形 2）		1
柔道特別実習 7（極の形 1）		1
柔道特別実習 8（極の形 2）		1
剣道特別実習 1（剣道の基本動作）		1
剣道特別実習 2（技と技術の構造）		1
剣道特別実習 3（古流剣術の形 1）		1
剣道特別実習 4（古流剣術の形 2）		1
剣道特別実習 5（日本剣道形）		1
剣道特別実習 6（剣道五行之形）		1
剣道特別実習 7（審判法）		1
剣道特別実習 8（指導法）		1
スポーツ方法（体づくり運動・集団行動）		1
スポーツ方法（器械運動）		1
スポーツ方法（陸上競技）		1
スポーツ方法（水泳）		1
スポーツ方法（柔道）		1
スポーツ方法（剣道）		1
スポーツ方法（ダンス）		1
スポーツ方法（バスケットボール）		1
スポーツ方法（ハンドボール）		1
スポーツ方法（サッカー）		1
スポーツ方法（ラグビー）		1
スポーツ方法（バレーボール）		1
スポーツ方法（テニス）		1
スポーツ方法（バドミントン）		1
スポーツ方法（卓球）		1
スポーツ方法（ソフトボール）		1
スポーツ方法（ホッケー）		1
スポーツ外国語会話		1
健康・体力づくり運動（トレーニング）		1
健康・体力づくり運動（エアロビック・エクササイズ）		1
健康・体力づくり運動（レクリエーションスポーツ）		1
競技力向上・支援活動		1

科 目 名	単 位	
	必修	選択
スポーツボランティア（実習を含む）		1
スポーツ特別活動 1		1
スポーツ特別活動 2		1
スポーツ特別活動 3		1
スポーツ特別活動 4		1

医療学部  
看護学科

科 目 名	単 位	
	必修	選択
看護学概論	2	
看護早期実習	1	
看護過程論	1	
看護方法論Ⅰ	2	
看護援助論	2	
看護方法論Ⅱ	2	
ヘルスアセスメント	2	
看護基礎実習	2	
地域の暮らしと看護	1	
地域・在宅看護学	2	
地域看護方法論	1	
在宅看護方法論	1	
在宅看護学実習	2	
地域共生マネジメント方法論	1	
地域共生マネジメント実習	1	
成人看護学	2	
成人看護援助論	2	
慢性期看護方法論	1	
慢性期（在宅移行）看護学実習	3	
急性期看護方法論	1	
急性期看護学実習	2	
高齢者看護学	2	
高齢者看護方法論	2	
高齢者看護学実習Ⅰ	1	
高齢者看護学実習Ⅱ	2	
小児看護学	2	
小児看護方法論	2	
小児看護学実習	2	
母性看護学	2	
母性看護方法論	2	
母性看護学実習	2	
精神看護学	2	
精神看護方法論	2	
精神看護学実習	2	
地域健康教育方法論	1	
地域健康教育実習	1	
家族看護論		1
ストレスマネジメント論		1
看護学研究方法論	1	
看護学研究	2	
看護管理論	2	
看護統合実習	2	
臨床判断能力の探求	1	
国際看護論	1	
災害看護論	1	
緩和ケア論		1
がん看護論		1
ウィメンズヘルスケア論		1
クリティカルケア論		1

科 目 名	単 位	
	必修	選択
グリーフケア論		1
高齢者健康増進看護論		1

臨床検査学科

科 目 名	单 位	
	必修	選択
医用工学	2	
医用工学実習	1	
血液検査学Ⅰ	2	
血液検査学Ⅱ	1	
血液検査学実習	1	
病理検査学Ⅰ	2	
病理検査学Ⅱ	1	
病理検査学実習Ⅰ	1	
病理検査学実習Ⅱ	1	
臨床一般検査学	2	
臨床一般検査学実習	1	
医動物検査学	1	
生化学検査学	2	
生化学検査学実習	1	
免疫検査学	2	
免疫検査学実習	1	
遺伝子関連・染色体検査学	1	
遺伝子関連・染色体検査学実習	1	
輸血・移植検査学	2	
輸血・移植検査学実習	2	
微生物検査学Ⅰ	2	
微生物検査学Ⅱ	2	
微生物検査学実習	2	
基礎生理検査学	2	
循環機能検査学	2	
神経感覚機能検査学	2	
超音波検査学	2	
生理検査学実習	2	
臨床検査総合管理学Ⅰ	2	
臨床検査総合管理学Ⅱ	1	
臨床検査総合管理学Ⅲ	1	
臨床検査総合管理学Ⅳ	1	
臨床病態検査学	1	
臨地実習前総合演習	1	
病理検査学臨地実習	1	
血液検査学・輸血移植検査学臨地実習	2	
生化学・免疫検査学臨地実習	1	
微生物検査学臨地実習	1	
生理検査学臨地実習	4	
検査総合管理学臨地実習	2	
専門的臨床検査実習	1	
臨床検査基礎演習	1	
臨床検査学研究Ⅰ	1	
臨床検査学研究Ⅱ	6	
臨床検査学研究A	1	
臨床検査学研究B		1
臨床検査学総合演習A		1
臨床検査学総合演習B		1
臨床検査学総合演習C		1
臨床検査学総合演習D		1

## 資格科目

## 天理教学部門

科 目 名	単 位	
	必修	選択
伝道実習 1		1
伝道実習 2		1
伝道実習 3		1
伝道実習 4		1

## 人文科学部門

科 目 名	単 位	
	必修	選択
日本語学入門		2
日本語教育入門		2
日本語語彙論		2
日本語文法論 1		2
日本語文法論 2		2
日本語音声学		2
言語の対照研究		2
日本語教授法 1		2
日本語教授法 2		2
第二言語習得論		2
日本語指導法		2
日本語教育評価法		2
日本語教育実習		2

## 社会科学部門

科 目 名	単 位	
	必修	選択
図書館情報システム論		2
情報サービス論		2
児童・YAサービス論		2
情報サービス演習 1		2
情報サービス演習 2		2
図書館情報資源概論		2
情報資源組織論		2
情報資源組織演習 1		2
情報資源組織演習 2		2
図書館情報資源特論		2
図書館情報学特論		2
博物館実習 1		2
博物館実習 2		1
矯正概論		2
更生保護概論		2
矯正保護教育（施設参観を含む）		2
矯正保護支援実践論		2
犯罪被害者支援論		2



教職に関する専門教育科目

科 目 名	単 位	
	必修	選択
教職論		2
教育原理		2
教育史		2
教育課程論		2
学校教育心理学		2
学校教育社会学		2
道徳の理論及び指導法		2
教育方法学（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）		2
教育相談の理論及び方法		2
生徒指導・進路指導の理論及び方法		2
教育実習講義		1
介護等体験		1
教職実践演習（中・高）		2
教育実習1		2
教育実習2		2
人権教育論1		2
人権教育論2		2
特別な支援の必要な生徒の理解		2
学校教育支援		1
特別活動・総合的な学習の時間の指導法		2
教育史特論		2
臨床教育学特論		2

別表第3（第54条関係）

科目		学部	人文学部	国際学部	体育学部	医療学部
入 学 金			100,000	100,000	100,000	100,000
授 業 料	春学期		380,000	380,000	400,000	545,000
	秋学期		380,000	380,000	400,000	545,000
	年 額		760,000	760,000	800,000	1,090,000
教 育 設 備 充 実 費	春学期分		110,000	110,000	125,000	237,500
	秋学期分		110,000	110,000	125,000	237,500
	年 額		220,000	220,000	250,000	475,000

人文学部、国際学部及び体育学部の教育設備充実費については、2年目以降は5万円増とする。

医療学部の令和5年度以降入学生の教育設備充実費については、2年目以降は10万円増とする。

医療学部令和4年度以前入学生の教育設備充実費は250,000円とする。

## 過年度在学生

費目	区分 学部	令和6年度入学生
		年 額
授 業 料	人文学部 国際学部 体育学部	360,000円 + (20,000円 × 年間登録単位数)
	医療学部	-----
教 育 設 備 充 実 費	人文学部 国際学部	270,000円
	体育学部	300,000円
	医療学部	-----

## 天理大学人文学部教授会規程

第1条 本大学に、天理大学学則（以下「学則」という。）第12条の規定により、人文学部教授会（以下「教授会」という。）を置く。

第2条 教授会は、学則第12条第2項に規定する人文学部専任の教授、准教授、講師及び助教（特任教授、特任准教授、特任講師を除く。）をもって組織する。

第3条 教授会は、学長がつぎに掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学部学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学部学生の学位授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

ア 教員の教育研究業績の審査に関する事項

イ 学部の教育研究に関する組織や制度の整備・改変に関する事項

ウ 学部学生の生活、厚生、進路等の指導・支援及び賞罰に関する事項

エ 全学協議会委員及び各種委員会委員等の選出に関する事項

オ 学部又は学科の教育研究計画及び教育課程の編成に関する事項

カ 学部の自己点検・評価に関する事項

キ 教育内容及び授業方法の改善に関する事項

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(1) 学則、規程、内規等の制定及び改廃に関する事項

(2) 学部の教育・研究にかかる予算に関する事項

(3) 学部教員の賞罰に関する事項

(4) その他、学部の教育研究に関する事項

第4条 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。

2 学部長事故あるときは、あらかじめ指定する順序により教授がこれに代わる。

第5条 教授会は、定例及び臨時の2種とする。

2 定例教授会は、毎月1回開催する。

3 臨時教授会は、学部長が必要と認めるとき、又は構成員総数の3分の1以上の要求があったときに開催する。

第6条 学長及び副学長が必要と認めるときは、教授会に出席して発言することができ

る。また教授会の招集を学部長に要請することができる。

第7条 教授会は、構成員総数の3分の2以上の出席がなければ開催することができない。

第8条 教授会の議決は、出席者の過半数の同意によらなければならない。

2 可否同数の場合は、議長の決するところによる。

第9条 教授会の出席者の身上に関する事項を議する場合には、議長は当該者の退席を求めることができる。

第10条 議長は、必要と認めるとき構成員以外の者を会議に出席させ、報告又は意見を求めることができる。

第11条 教授会は、必要と認めるとき専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会は、教授会から付託された事項について審議し、結果を報告するものとする。

第12条 教授会に、幹事及び書記を置く。

2 幹事及び書記は、学部長が指名する。

第13条 議事録は、書記が作成し、学部長が保管する。

第14条 この規程の改廃は、教授会及び全学協議会の議を経るものとする。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

「天理大学人間学部教授会規程」は、令和6年3月31日をもって廃止する。

附 則

「天理大学文学部教授会規程」は、令和6年3月31日をもって廃止する。

覚 書

1 第3条第1項第1号の卒業に関する事項については、学長、副学長、各学部長及び学則第9条第1項に定める主任並びに学務部長でもって、卒業資格判定会議を組織し、認定するものとする。

2 第3条第1項第3号アの教員の教育研究業績の審査に関する事項については、別に定める「天理大学教員資格審査規程」に基づき審議する。

3 令和6年4月1日以降は、人間学部及び文学部に関する審議事項については、人文学部教授会で審議することとする。

設置の趣旨等を記載した書類  
(人文学部)

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	2
2. 学部・学科の特色	13
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	17
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	18
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	23
6. 実習の具体的計画	27
7. 取得可能な資格	38
8. 入学者選抜の概要	40
9. 教員組織の編制の考え方及び特色	44
10. 研究の実施についての考え方、体制、取り組み	47
11. 施設、設備等の整備計画	48
12. 管理運営及び事務組織	49
13. 自己点検・評価	50
14. 情報の公表	52
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	55
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	56

## 設置の趣旨等を記載した書類

### 1. 設置の趣旨及び必要性

#### (1) 「人文学部」設置理念の背景と建学の精神

##### 1) 人文学部設置の理念の背景

天理大学の前身である天理外国語学校は、天理教の海外布教伝道者養成を目的として設置されたが、戦後学制の改革により、昭和 24 (1949) 年に天理大学として認可され、4 月 1 日に開学した。開学当初は文学部 4 学科からなり、その中に宗教学科と国文学国語学科も設置され今日に至り、天理外国語学校が創設された大正 14 (1925) 年から数えて、来る令和 7 (2025) 年には創立 100 周年を迎える。

現行の学部学科の基盤になる改革を行ったのは平成 4 (1992) 年である。平成 4 (1992) 年の改革における人間学部設置の趣旨において、「建学の精神にある『世界たすけ』すなわち世界の満たされざる人々を救済しようという思想をかかげている。この思想を実現する教育・研究の場として、人間学部を設置する。」とし、さらに「『豊かに生きる』『充実して生きる』ということは人間共通の希望である。」「人間学は正しい人間理解のために、あらゆる個別科学を動員しようとする。そして人間として『より良く生きる』ことをめざして、それらを総合する道をたどる。」としている。しかしながら、当時は文学部に設置していた宗教学科を移し、新たに臨床心理専攻、生涯教育専攻、社会福祉専攻からなる人間関係学科の 2 学科で新たに設置した。併せて文学部に歴史文化学科を設置した。

今回の人文学部の設置においては、人類がこれまで培い伝承・保存されてきた文化的遺産・資産である文物や慣習を対象分野にした現文学部の国文学国語学科及び歴史文化学科と一体化することにより、現代に生きる人間を過去の文化的遺産・資産の今日的意味を探るという側面を加え、「豊かに生きる」「充実して生きる」ことの希望をより多面的に探求することで社会に貢献できる人材の育成を目指している。人類が築き上げてきた表現や歴史、文物と、現代社会を生きる人びとがささえあう関係性の教育研究を通じて、幅広い人文学分野の基礎的な教育研究により、新たな知見を見いだす。それとともに、幅広い視野から適確に物事をとらえ、人びとが文化的に豊かに生きていくための社会を支えることができる知識とスキルを修得する学びを提供することから、提供する学問分野を冠した学部として、「人文学部」を設置する。このような理念にもとづく人文学部構想は、本学の周辺地域では新たな試みとなる。

##### 2) 「人文学部」を設置する社会的背景と必要性

平成 30 (2018) 年 12 月に公表された「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて (審議のまとめ) (科学技術・学術審議会 学術分科会 人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ) 【資料 1】」には、「検討の背景」として、現代社会は「人々が共有する価値・文化・社会が大きな変化を遂げる転換期にある。」とし、「転換期における人文学・社会科学の現代的役割」として、「そのような時代を迎えた今、「意味」や「価値」を探求する人文学・社会科学の学術知が力を発揮する領域は本来大きいはずであり、実際にも国内外を問わず各方面から人文学・社会科学の重要性を強調する声が上がって

る。」と述べている。そのうえで、細分化された研究課題に取り組むだけでなく、従来から「知の統合」「分野を超えた総合性」が求められているとおり、「人文学・社会科学の諸学が分野を超えて本質的・根源的な問いを再設定し、現代の現実社会が直面する諸課題に関する研究を行う中でそれらの問いに対する探求を深化させていくというプロジェクト的な試み」が考えられるとしている。

天理大学は、令和 7（2025）年に前身学校である天理外国語学校が設立されて創立 100 周年を迎える。創立 100 周年を迎えるにあたり、社会に対し本学が目指すところを明確にし、自らの進展する方向性を示した「天理大学ビジョン 2025」【資料 2】を制定した。本学の建学の精神は「『陽気ぐらし』世界建設に寄与する人材の養成を使命」としている。この建学の精神を受けて、その使命を解説しているなかにおいて本学の使命として、「あふれかえる情報とたえまない環境変化のなかで、思想や宗教などの精神文化への知識と理解をもとに、他者に貢献する心を持ち、自らの信念のもと、自分が何をなすべきかを主体的に判断し、能動的に行動できる人間の育成」としている。さらに、「このような社会のなかで、精神文化をはじめとする異文化への理解と寛容さは、重要な資質としてますます重要視されている。さらに、人を思い、人に寄り添うことのできる利他的な志を持つ人間も、近年に大きな災害を経験した今こそ、社会で重要な役割を担っている。」。利他的な感性を養うことを柱としている本学の修学環境において、急速に変化する社会環境のなか、社会で活躍できる知的基礎体力として人文学の諸学問を総合知・実践知として一体的に修学できる環境は、本学の使命とも合致すると共に、社会人として地域社会に輩出することは、社会の要請に応える理念であると確信している。

また、「人文学及び社会科学の振興について（報告）－『対話』と『実証』を通じた文明基盤形成への道－」（平成 21 年 1 月 20 日科学技術・学術審議会・学術分科会）【資料 3】において、社会における人文学的素養の必要性に関し、「社会における具体的な課題を解決するためには、高度な専門性の前提として諸価値についての判断力、即ち人文学的な素養が必要となる。このため、高度な専門人の育成に当たっては、人文学的な素養の涵養という視点が求められる。一般に社会は、問題設定や目的が一義的に与えられるものではなく、問題設定や目的自体をめぐって試行錯誤が繰り返されているような世界である。したがって、ここで涵養される『高度な専門性』は、客観的な知識を獲得し、それをテクニカルに適用すればよいというものではなく、人文学的な素養を背景としていなければならないことに留意しておく必要がある。」としており、総合知としての人文学を修めることは、社会の諸課題を解決するための基盤となるとの社会的認識がある。

今般の人文学部は、現行の人間学部人間関係学科の 3 専攻を学科として独立させ、人間学部宗教学科と文学部 2 学科（国文学国語学科、歴史文化学科）を人文学部 6 学科として構成する。学科として、専門性を担保しつつ、1 学部として人文学の学問知を連携して教授・研究することを目指している。各学科においては、実践知としての人文学を修得するために、積極的に実習、ことに学外における実習を積極的に取り入れることにより、実社会における人文学の有用性・必要性を修得し、修得した知識・スキルを活用して変化の激しい実社会に貢献できる人材を育成する体制が必要であると考え、「人文学部」を設置する。

### 3) 「人文学部宗教学科」設置の趣旨と必要性

宗教学科は、戦後天理大学が新設された昭和 24（1949）年に文学部の学科として設置認可されている。その後、平成 4（1992）年に新たに設置された人間学部の学科として設置されたが、新設する人文学部の学科として設置する。

宗教学科においては、諸宗教伝統の歴史や思想の比較、及び哲学的考察など、宗教学・宗教文化理解を教育・研究を核として、あわせて、本学の建学の理念の基盤である天理教学分野の教育・研究を行う。

制度化された宗教に対する関心が薄れているとの指摘がなされて久しいが、他方、例えばパワースポットへの「巡礼」など、精神世界あるいはスピリチュアルな事象への関心は、国内外を問わずむしろ高まっているともいわれている。【資料 4】

一方で、宗教的な背景が絡んだ国家間や部族間の対立も続いている。グローバル化が進み、多様な価値観をもった人々が行きかう多文化共生社会が自明の前提となった現代において、多様な文化や思想を正確に理解し認識することは極めて重要である。しかし、そのことへの配慮が十分に払われているとはいいがたい今日の社会において、そうした多様な宗教的・思想的伝統をめぐる公正な視点での理解を身につけた社会人を養成することは、社会の要請でもある。宗教学科は、宗教が持つ意味や価値、多文化を理解することの重要性を正確かつ公正に認識する人材を養成する。

#### 4) 「人文学部国文学国語学科」設置の趣旨と必要性

国文学国語学科は、昭和 24（1949）年の本学開学時に文学部に設置されており、開学当初からの伝統を有している。これまで、奈良県天理市という歴史的、文化的に恵まれた環境のもと、附属天理図書館、附属天理参考館の豊富かつ貴重な文献、資料を活用し、わが国の言語文化に関する専門的知識を修得し、国文学、国語学という伝統的な学問体系を継承しながら複眼的な思考や発想、感性を醸成できる教養の獲得を教育目標としてきた。

今般、国文学国語学科は開学以来培ってきた伝統と従来の教育目標とを維持しながら、あらたに開設する人文学部の学科として設置する。グローバル化の時代と言われて久しいが、我々の基盤である日本語や日本文化を深く理解し修得することが、世界の思想などの異文化を理解受容するための起点であると考えており、「国文学ならびに国語学の知識を基礎から高度な専門領域まで段階的・組織的に修得し、文学作品や言語資料の考察を通して日本の文化を幅広く理解するとともに、みずからの知見を主体的に発信できる人材を養成することを目的とする。」という教育研究上の目的をかかげ、日本の伝統、文化についての広く深い知識と理解とをよりどころに、国際的な視野を持つ人材を育成する。

#### 5) 「人文学部歴史文化学科」設置の趣旨と必要性

歴史文化学科は、平成 4（1992）年に文学部に設置認可された。設置の趣旨は、本学の位置する大和国の近世史を中心とし、附属天理図書館や附属天理参考館の資史料を活用して教育・研究を深めていくことにあった。あわせて本学が所在する奈良県天理市は歴史的な資源に恵まれており、学内にも日本最大の前方後方墳である西山古墳があるほか、周辺には数多くの古墳・火葬墓があるという環境も、設置に際して重要な要素の一つであった。

設置から 30 年を経た今日、歴史文化を取り巻く状況は大きく変わってきた。とりわけ、平成 30（2018）年に文化財保護法が改正され（平成 31 年 4 月施行）、過疎化や少子高齢化



等の社会の変化を背景にして、地域における文化財の保存・活用が促進された。令和4(2022)年3月には、本学に隣接する場所に奈良県が、県の誇る歴史や文化などに接する施設として「なら歴史芸術文化村」をオープンさせている。さらに本年4月に施行された改正博物館法でも、博物館の事業として博物館資料のデジタル・アーカイブ化、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り地域の活力向上に取り組むことが努力義務とされた。このように、歴史資源を基にした観光振興、地域社会の再生など、社会における文化財(歴史文化)の位置づけは確実に大きくなっている。

恵まれた環境を生かし、さらには文化財の位置づけや社会の変化に対応すべく、令和元(2019)年から、歴史文化学科は歴史学研究コース、考古学・民俗学研究コースの2研究コースで運営していた。今回、人文学部の1学科となるにあたっては、歴史学・考古学・民俗学それぞれの学問の理解を相互に深めつつ専門性を高めるため、「歴史学コース」「考古学コース」「民俗学コース」の3コースに展開させることにした。

なお、これまで歴史学研究コースでは日本史・東洋史・西洋史を専攻することができたが、今回、東洋史・西洋史という外国史の分野は国際学部国際文化学科のなかに設置することにより、発展的に解消させた。これにより、歴史文化学科としては、日本をフィールドとする歴史(日本史)・考古・民俗の研究に足場を置くことで、歴史学・考古学・民俗学の諸学の統合的な学びを志向しやすくなったと考えている。

歴史文化資源の存在の考究やそれぞれの地域を理解するための文化資源、それらを活用するための方法を実践的に学び、活かすことのできる人材の育成は、現代日本社会における喫緊の課題の一つであり、歴史文化学科はその要請に応える重要な役割を果たすことは間違いない。

#### 6) 「人文学部心理学科」設置の趣旨と必要性

平成4(1992)年に、人間学部人間関係学科臨床心理専攻として設置認可されたが、今般さらに広く人間の心理現象を探求する学科として、人文学部に心理学科を設置する。本学元教員であった河合隼雄氏が海外留学後導入した、箱庭療法を日本ではじめて導入・実践してきた実績をもとに、当初より心理専門家である「臨床心理士」養成を志向し、平成16(2004)年には、大学院臨床人間学研究科臨床心理学専攻(修士課程)を設置し、資格「臨床心理士」を輩出すべく、大学院教育と体系的な心理専門職を養成してきた。また、平成30(2018)年度より、新たな心理職の国家資格である「公認心理師」に対応したカリキュラムを大学院研究科と連携して設置し、既に資格取得者が社会で活躍している。

今般の申請においては、従来の臨床心理士・公認心理師養成のカリキュラムに加えて、社会でも活用できる対人社会スキルを学ぶことのできるカリキュラムを新たに開設する。現行の社会的状況、社会的要請に応えうる知識とスキルを養う。また、さまざまな演習を通して、問題を発見し、考察、ディスカッションなどで解決への糸口を見つけるための主体的な行動ができる能力を養う。これらの知識やスキルなどを活かして現代の対人関係や社会における課題を解決していくことができる人材を養成する。

#### 7) 「人文学部社会教育学科」設置の趣旨と必要性

平成4(1992)年に、人間学部人間関係学科生涯教育専攻として設置認可されたが、今

般、「社会教育士」を中心に社会教育に関する科目を学び、生涯学習を支援する学びの幅を拡げるために人文学部に社会教育学科を設置する。地域社会において、図書館や博物館、公民館などの社会教育施設、あるいは地域の有形無形の文化資源を活かしながら、地域の人やコミュニティをつなぎ、地域社会の活性化や人々の生を豊かにしていくことはこれからの社会に求められている。そうした社会教育の専門的能力によって、地域の課題解決を支援し、また地域のさまざまな文化資源を地域と共創することで、地域活性化を図ることが可能になる。他方、社会教育の専門的能力で必要なファシリテーション能力・プレゼンテーション能力・コーディネート能力等を修得することで、「地域、社会、世界で多様な課題に取り組む地方公共団体各部局や、NPO、企業、学校などの他、地域活動やボランティア活動においても、活躍することが期待されている。」【資料5】

今後、社会の多くの場で必要とされ、活躍することができる社会教育の知識とスキルの専門的能力を修得した人材を養成する。

#### 8) 「人文学部社会福祉学科」設置の趣旨と必要性

平成4(1992)年に、人間学部人間関係学科社会福祉専攻として設置認可されたが、一般、人文学部社会福祉学科として設置する。従来の社会福祉専攻から奈良県内をはじめ近隣府県を中心に「社会福祉士」並びに「精神保健福祉士」資格を有した多くの人材を輩出し、奈良県内を中心にソーシャルワーカーとして活動している。また社会福祉士並びに精神保健福祉士の国家試験では近年高い合格率を維持しながら実績を積み重ねており、近畿圏内の社会福祉関係者からの評価と期待は高い。とくに奈良県内では両福祉士養成課程を有する4年制大学は本学だけである。

近年、少子高齢化・人口減少社会の進行とともに、生活困窮、社会的孤立、ヤングケアラ、8050問題などいわゆる制度の狭間といわれるさまざまな生活課題が多く発生している。厚生労働省では、「地域共生社会」の実現を提唱しているが、この実現に向けて、生活困難や生きづらさを抱えている人たちに寄り添い、地域住民等とも協働しながら地域課題の解決を図り、サービス・活動の創出や社会変革を進めることができるソーシャルワーカーが、今こそ求められている。

社会福祉の歴史的社会的性格は、その成立過程にあって宗教活動とのかかわりが強く、天理教関係でも教会等を母体とした社会福祉施設があり、また近年ではこども食堂や里親などの福祉活動を実践する教会も増加し、宗教が地域社会において福祉的役割を果たすことが期待されている。今後ますます高まる社会福祉ニーズと社会的要請に応えるため、宗教性(生かされて生きる喜び)、国際性(異文化との共生)、貢献性(他者への献身)といった利他的な価値観を有し、なおかつ専門性を備えたソーシャルワーカーまた福祉的視点を有した市民を養成する。

#### (2) 学部の3ポリシーと教育目標

本学部の設置にあたり、学部の教育研究の目的は、「人文学部は、宗教や思想などの精神文化への知識と理解を基礎に人文学の知的体系の成果を教授することにより、現代社会の絶え間ない複雑な環境変化や社会的課題に対して、主体的に判断でき能動的に行動することができるとともに、「陽気ぐらし」世界の建設を掲げる建学の精神を具現化に資する国内

外で他者への献身ができる教養と態度を身につけた人間を育成することを目的とする。」である。本学では今般の人文学部の設置等を構想するにあたり、その目的を示す標語として、「Knowledge to Act 他者に貢献する教養を」としている。主体的に判断し能動的に行動できるだけでなく、利他的な感性を持って他者に貢献することのできる人材に必要な教養を、専門教育における学修内容と緊密に連携して修得できる教学体制を構築することを今般の目的としている。新たに設置する人文学部において、その目的を具体的に示した卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は以下の通りである。

#### 1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

宗教、国文学、国語学、歴史学、考古学、民俗学、心理、社会教育、社会福祉の側面から捉えるための基礎的な理論や専門的な知識や技術とその意義を学び、主体的に考え、社会に貢献する人間性を備えた人材を育成することを目指します。

より具体的な卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）はその専門性を鑑み、設置する6学科で提示している。

##### a. 宗教学科

次のような知識や能力を備えた学生に学士（宗教学）の学位を授与します。

- ①宗教研究に必要な日本語および外国語の能力と情報収集力を身につけている（技術）
- ②天理教および世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけて広い見識をもつことができる（知識）
- ③世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心をもち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる（思考）
- ④これまでに学んだ知識や研究の方法論を駆使して、宗教研究に積極的に取り組むことができる（意欲）
- ⑤他者の信仰を理解するとともに多様性を尊重し、価値観を異にする他者と共に生きることができる（態度）
- ⑥地域社会や国内外各地において「他者への献身」の精神をもって活動することができる（行動）

##### b. 国文学国語学科

次のような知識や能力を備えた学生に学士（国文学）の学位を授与します。

- ①論理的に思考する力を身につけている（思考）
- ②日本の文学や言語に関する知識を身につけている（知識）
- ③コミュニケーション能力を身につけている（態度）
- ④新たなものを生み出す創造力を身につけている（創造）
- ⑤新たな知見の発信力を身につけている（行動）

##### c. 歴史文化学科

次のような知識や能力を備えた学生に学士（歴史文化学）の学位を授与します。

- ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている（知識）
- ②論理的思考力を身につけている（思考）
- ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている（知識・技術）
- ④調査・収集・分析・理解する力を身につけている（技術・行動）
- ⑤構想・表現・伝達する力を身につけている（創造・行動）
- ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている（意欲・行動）

#### d. 心理学科

次のような知識や能力を備えた学生に学士（心理学）の学位を授与します。

- ①悩める人と向き合い、心の交流をとおして支援する他者理解のあり方を理解できる（意欲）
- ②人間の可能性をとおして心の問題をとらえることができる（態度・意欲・思考）
- ③心のはたらきを多角的な視点から学ぶと共に、より高い視野のもと総合的に理解できる（思考・知識・技術）
- ④自らの心の創造性にふれながら発見と洞察を深めることができる（創造・思考）
- ⑤心理学の探究に主体的に取り組むことができる（態度）

#### e. 社会教育学科

次のような知識や能力を備えた学生に学士（社会教育学）の学位を授与します。

- ①自ら生涯にわたって学び続ける意欲と態度を涵養する（意欲・態度）
- ②人間や社会に関わる現代的課題について理解をすすめ、社会の中の多様な学びに目を向けることができる（意欲・態度・思考）
- ③生涯学習社会の形成に資する社会教育の知識を身につけている（知識）
- ④社会教育の専門性をもった職業能力を身につけ、社会教育主事、社会教育士、その他の学習支援者として活躍できるようになる（知識・技術・行動）
- ⑤「教育・学習・文化・社会」の観点から、よりよい社会を実現する具体的な方策を探究できる（創造・行動）

#### f. 社会福祉学科

次のような知識や能力を備えた学生に学士（社会福祉学）の学位を授与します。

- ①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につけている（知識）
- ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につけている（技術）
- ③個々の生活問題の背景にある地域や社会の諸課題とその解決について考えることができる（思考）
- ④社会福祉の価値や倫理を身につけている（態度）
- ⑤実践力を有する社会福祉専門職または福祉の視点をもつ市民として行動することができる（行動）

前記の能力を修得するための、人文学部及び各学科の教育課程編成・実施の方針（カリ

キュラム・ポリシー）は以下の通りである。

## 2) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与方針に掲げた学習成果をもたらすために、次のような教育課程を編成します。

学士教育課程に必要な基礎的な知識やスキルを修得するために初年次教育科目を配置し、専門教育科目を修得する上で求められる基本的な知識やスキルを修得するための一般教育科目や天理スピリット科目等の総合教育科目と、人文学部の各学問領域に関する基礎的な知識から発展的内容を体系的に教授する専門教育科目を配置します。

### a. 宗教学科

宗教学の基礎的な理論及び世界の主要な宗教伝統の歴史的展開や思想に関する科目とともに、天理教の原典や教義、歴史に関する科目を配置しています。また、こうした基礎的・歴史的な知の修得を踏まえ、現代世界における天理教及び諸宗教伝統の今日的な意義や役割について学ぶ科目も配置しています。こうした多面的かつ実践的なカリキュラム編成は、宗教及び天理教に関する知識や思考力はもとより、個々の学生の信仰の涵養と豊かな人格形成を図るものです。

1年次では基礎演習と基礎科目、2年次では発展演習と発展科目、3年次では研究演習および発展科目を履修することで、段階的な理解を深める編成となっています。さらに、学修の総まとめとしての卒業論文作成に向けた演習を、3年次と4年次に配置したカリキュラムを編成しています。

### b. 国文学国語学科

国文学および国語学の専門分野における知識を深め、日本の文学や言語の基礎を学び、各時代・分野の内容を深化させた科目を体系的に配置しています。

1年次では基礎演習および概論、2年次では発展科目、3年次と4年次では各自が選択した時代・分野に応じた科目を履修する編成となっています。さらに学修の総まとめとしての卒業論文作成に向けた演習を3年次と4年次に配置したカリキュラムを編成しています。

### c. 歴史文化学科

歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につける科目を体系的に配置しています。

1年次では基礎演習および概論・要説により幅広く歴史文化を学び、2年次で歴史学・考古学・民俗学の各コースに分かれて理解を深めます。

2年次には講義科目によりそれぞれの専門知識を系統立てて学び、講読科目や実習科目によって専門技術を習得し、資料を収集・分析、研究成果を引き出す力を身につけます。

演習科目の2年次の研究入門、3・4年次の各演習により、自ら課題を立て調査を計画する構想力、調査結果を分析・考察する論理的思考力、考察の結果として得た知見を伝える表現力、討議し考えを深めるコミュニケーション力を高め、最終的に卒業論文の執筆につながるカリキュラムを編成しています。

#### d. 心理学科

心理学の幅広い領域に関する学識を修得するための講義科目と実践スキルを養うための演習・実習科目を体系的に配置しています。

1年次では入門演習、2年次では基礎科目および発展科目、3年次では発展科目および実習科目を履修する編成となっています。さらに学修の総まとめとしての卒業課題研究作成に向けた演習を3年次と4年次に配置したカリキュラムを編成しています。

公認心理師（国家資格）受験資格取得に必要な科目を配置するとともに、臨床心理士（公財 日本臨床心理士資格認定協会）の資格取得に接続する知識とスキルを修得しうるカリキュラムを提供しています。また、心理学的知見を身につけ、コミュニケーション能力を豊かに伸ばし、社会に役立つための学びを中心とするカリキュラムも提供しています。

#### e. 社会教育学科

生涯学習社会における社会教育の意義を理解し生涯学習支援と地域社会の文化資源の活用にあ資する専門的知識・技術に関する科目を、3つのプログラムで体系的に配置しています。

1年次では基礎演習、2年次から3年次にかけて基礎科目から発展科目へと履修する編成となっています。さらにプログラムごとの専門性を涵養する演習を3年次に、また、学修の総まとめとしての卒業課題研究あるいは卒業論文作成に向けた演習を4年次に配置したカリキュラムを編成しています。

また、地域社会や諸学校・行政と積極的に連携して社会教育の実務や地域連携に携わる実習科目を設け、4年間を通じて多様な学びの場に触れながら同時に社会教育による生涯学習支援の専門的職業能力を身につけることができるカリキュラムを提供しています。

#### f. 社会福祉学科

社会福祉および関連諸領域の理論や方法、制度などを学ぶ講義科目をはじめ、具体的な実践方法を学ぶ演習・実習科目を体系的に配置しています。

1年次では基礎科目、2年次、3年次、4年次では発展科目および実習科目を履修する編成となっています。さらに学修の総まとめとしての卒業論文作成に向けた演習を3年次と4年次に配置したカリキュラムを編成しています。

また、社会福祉士（国家資格）と精神保健福祉士（国家資格）の受験資格を得るためのカリキュラムを提供しています。

人文学部及び各学科の入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、以下の通りである。

#### 3) 入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人文学部は次のような人を広く求めています。

- ①教育目標を理解し、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを活用する力を有している人

- ②人文学部で学ぶ領域への深い関心と一定の知識を備え、知的体系を意欲と主体性を持って学ぶことができる人
- ③多様な他者との相互理解に努め、積極的に社会とかかわる意欲をもつ人
- ④現代社会におけるさまざまな課題に対して、関心を持っている人
- ⑤自己実現への強い意志がある人

a. 宗教学科

宗教学科の教育目標を達成するために、次のような人を求めています。

- ①宗教研究に必要な情報収集力を身につけたい人（技術）
- ②天理教および世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけたい人（知識）
- ③世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心がある人（思考）
- ④宗教研究に積極的に取り組む意欲をもつ人（意欲）
- ⑤他者の信仰を理解するとともに、多様性を尊重し、価値観を異にする他者と共に生きることができる人（態度）
- ⑥地域社会や国内外各地において「他者への献身」の精神をもって活動できる人（行動）
- ⑦社会活動・課外活動などの分野で積極的に取り組んだ経験を有し、宗教に関心がある人（意欲）

試験は、総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、編入学選抜の各入試方式によるものとします。

b. 国文学国語学科

国文学国語学科の教育目標を達成するために、次のような人を求めています。

- ①論理的に思考する力を身につけたい人（思考）
- ②日本の文学や言語に関する知識を身につけたい人（知識）
- ③コミュニケーション能力を身につけたい人（態度）
- ④新たなものを生み出す創造力を身につけたい人（創造）
- ⑤新たな知見の発信力を身につけたい人（行動）
- ⑥社会活動・課外活動などの分野で積極的に取り組んだ経験を有し、国文学および国語学に関心がある人（意欲）

試験は、総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、編入学選抜の各入試方式によるものとします。

c. 歴史文化学科

歴史文化学科の教育目標を達成するために、次のような人を求めています。

- ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけたい人（知識）
- ②論理的思考力を身につけたい人（思考）
- ③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけたい人（知識・技術）
- ④調査・収集・分析・理解する力を身につけたい人（技術・行動）
- ⑤構想・表現・伝達する力を身につけたい人（創造・行動）
- ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけたい人（意欲・行動）

⑦社会活動・課外活動などの分野で積極的に取り組んだ経験を有し、歴史に関心がある人（意欲）

試験は、総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、編入学選抜の各入試方式によるものとします。

#### d. 心理学科

心理学科の教育目標を達成するために、次のような人を求めています。

①悩める人と向き合い、心の交流をとおして支援する他者理解のあり方を学びたい人（意欲）

②人間の可能性をとおして心の問題をとらえることに関心のある人（態度・意欲・思考）

③心のはたらきを多角的な視点から学ぶと共に、より高い視野のもと総合的に理解することのできる人（思考・知識・技術）

④自らの心の創造性にふれながら発見と洞察を深めることに関心のある人（創造・思考）

⑤心理学の探究に主体的に取り組むことのできる人（態度）

⑥心理学の専門職による社会貢献に関心がある人（行動）

⑦心理学的知見を身につけた社会人として社会に貢献することに関心のある人（行動）

試験は、総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、編入学選抜の各入試方式によるものとします。

◇具体的には次のような人を求めています。

1. 公認心理師を目指す人

2. 臨床心理士を目指す人

3. 心理学的知見を身につけ、社会に生かしたい人

#### e. 社会教育学科

社会教育学科の教育目標を達成するために、次のような人を求めています。

①「社会教育」「生涯教育」の意義や社会の中の多様な学び、あるいは地域の文化活動に関心がある人（意欲）

②他者の学びを支援することをめざして自ら学ぶ意欲に富んだ人（意欲）

③社会教育士資格などの専門性をもった職業能力を身につけたい人（知識・技術）

④人間や社会にかかわる現代的課題について関心がある人（思考・知識・技術）

⑤「社会教育」を通じてよりよい社会を実現する方策を具体的に探究する力を身につけたい人（創造・行動）

⑥社会活動・課外活動などの分野で積極的に取り組んだ経験を有し、社会教育に関心がある人（意欲）

試験は、総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、編入学選抜の各入試方式によるものとします。

#### f. 社会福祉学科

社会福祉学科の教育目標を達成するために、次のような人を求めています。

①現代社会における生活上の諸課題に関心がある人（知識）



- ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につけたい人（技術）
- ③個々の生活問題の背景にある地域や社会の諸課題とその解決に関心がある人（思考）
- ④社会福祉の価値や倫理に関心がある人（態度）
- ⑤スポーツ、文化活動など積極的に取り組んだ経験を有し、社会福祉専門職または福祉の視点をもつ市民として行動したい人（行動）
- ⑥社会活動・課外活動などの分野で積極的に取り組んだ経験を有し、社会福祉に関心がある人（意欲）

試験は、総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、編入学選抜の各入試方式によるものとします。

上記の、各学科の養成する人材像及び3つのポリシーの整合性を図で表したものは別紙の通り。【資料6】

### （3）組織として研究対象とする中心的な研究分野

本学部を中心とする研究分野は、人文学の諸学問分野である。「人文学及び社会科学の振興について（報告）－「対話」と「実証」を通じた文明基盤形成への道－」（平成21年1月20日 科学技術・学術審議会・学術分科会）【資料7】によると、人文学は「人間の精神や文化を主な研究対象とする学問」と規定している。更にその研究対象は「基本的に人間によって作られたものであることを確認しておきたい。このため、研究対象に関する「知識」は、歴史的、文化的な制約を受けながら、特定の歴史的、文化的な枠組みの中で生みだされることに留意しなければならない。」と述べている。同報告では人文学の学術的役割として、「人間の研究」を示し、「人文学には、個別諸学の諸知識の背後にある「人間」を高次の視点から俯瞰的に研究する人間研究を担う役割・機能がある。」としたうえで、文学研究を例に「文学研究とは、研究者個人の精緻な読解力、イメージーション（想像力）そして人間そのものへの洞察力を通じて重層的かつ派生的な複合体として存在するテキストから、新たな読みの可能性を引き出すことであり、当該テキストの内に、隠された文脈と世界のモデルとを発見し、それを限りなく更新していく知的な営みであって、これを一言で言えば、人間の多様性の解明と云うものである。」と述べ、現代社会における人間研究であるとしている。そして、「人文学における人間研究は、「人間」の一側面の研究を行う個別諸学における人間研究とは異なり、俯瞰的な視点に立ってはじめて成立するものである。」として、人文学の諸学問を統合し、総合知として理解・涵養することで人間研究としての成果が得られるとしている。

本学部においては、宗教学、国文学、国語学、歴史学、考古学、民俗学、心理学、社会教育学、社会福祉学の諸分野とその周辺領域を包含し、人文学を現代社会に必要な実践知として捉え、現代社会の諸課題を解決するための基盤として現実の各フィールドを支えていく。

## 2. 学部・学科の特色

### (1) 人文学部の特色

本学部の設置は、従前2つの学部において教授してきた人文学諸分野を一つの学部に統合し、6学科が連携し、本学が掲げる育成する人間像、「揺るぎない信条を基盤に、多様な価値観に対する理解や世界の現状についての知識をもち、積極的に他者に貢献し、共生する社会の実現に向けて、考え行動できる人」の実現に学部としての取り組みを強化することにある。このことから、本学部では中央教育審議会が平成17(2005)年に答申した「我が国の高等教育の将来像(答申)」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」によるところの「総合的教養教育」と「社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)」に重点をおきその特色としている。【資料8】

さらに、同じく中央教育審議会が平成30(2018)年に答申した「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」において提示されている「予測不可能な時代を生きる人材」が獲得すべき能力として、「いつの時代にも、基礎的で普遍的な知識・理解、汎用的技能等が中核」であるとし、「こうした能力は、いわゆる一般教育・共通教育と専門教育の双方を通じて、また、学生の自主的活動等も含む教育活動全体を通して育成されていく」としている。【資料9】

本学では、当該答申を受け、全学的な教学マネジメントを確立するために教学担当副学長を機構長として「全学教育推進機構」を設置するとともに、教学プログラムの責任者をメンバーとした「全学教育推進会議」を令和5(2023)年に設置して、大学として「学習者本位の教育への転換」を実践している。具体的には以下のような点が上げられる。

#### 1) 少人数教育の効果的な実施

本学では、従前より少人数教育を実施しているが、今般設置する人文学部6学科の入学定員240名に対して、39名の学科専任教員を配置する(学科に所属しない教員を除く)。学生が実現したい自分を教員がサポートしながら、いかにして実現し、地域社会において貢献することのできる社会人として送り出すことができるかを共に考え、ゼミ担当の教員と各学年にクラス担任を配置し少人数教育の効果的な実施を行う。

#### 2) 学生の実現したい自分を考えるためのプログラム

本学部の設置において、いわゆる「出口管理」の強化を図る意図で、学生が実現したい自分を考えるために、将来活躍できる社会分野を想定して、各学科が履修のモデルやプログラムを設定している。設定において段階的に履修する科目に関し、総合教育科目のなかの本学が目指す人間像の基本となる「天理スピリット科目群」「キャリア教育科目群」「基礎リテラシー科目群」に加え、一般教養科目群のなかから専門教育科目を履修する上で周辺領域、ないしは基盤領域に関する科目を積極的に履修する指導を行い、「総合的教養教育」の実現を図る。

#### 3) 実践的な専門的スキルの修得と社会人基礎力の涵養を目指す連携科目

本学部では、社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)に重点をおき、社会における各フィールドで、地域社会や関連機関と積極的に連携を図り、学外における臨地実習を取り入れて地域社会とともに学生の育成を図る。

## (2) 宗教学科の特色

宗教学科は、宗教についての分析・比較、あるいは哲学的考察を通して、宗教ないしは宗教文化に関する知識を修得するとともに異文化や異なる思想を理解・受容すること、さらには現代社会において宗教のもつ役割、宗教の課題について教育・研究する。あわせて、本学との関わりが密接な天理教の教義・神学についての知識と天理教の実際について、天理教の聖地とも言うべき天理の地で学ぶことが宗教学科の最大の特色である。近年、いわゆる新宗教にかかわるさまざまな社会現象とも言うべき事象が起こる一方、制度化された宗教に対する関心が世界的に俯瞰しても希薄化していると言われている。むしろ宗教対立などに起因して宗教に危険性を感じる人も少なからず存在する。しかしながら、若年層を中心にスピリチュアルなもの・こと・場所への関心はある。宗教学科では、入学定員 20 人にするものの、担当教員は 6 名という極めて少人数教育によって、天理教学に加え、キリスト教、イスラム教、仏教を専門とする教員がさまざまな側面から宗教を解説する。さらに社会と宗教に関わる知見を広げ高めることに重点を置き、諸宗教並びに宗教文化にかかわる歴史的な理解はもとより、宗教における神観念、心理、儀礼、芸能等について、幅広く修得できるよう構想している。

## (3) 国文学国語学科の特色

国文学国語学科は、昭和 24 (1949) 年の本学開学時に文学部に設置されており、開学当初からの伝統を有している。これまで、奈良県天理市という歴史的、文化的に恵まれた環境のもと、附属天理図書館、附属天理参考館の豊富かつ貴重な文献、資料を活用し、わが国の言語文化に関する専門的知識を修得し、国文学、国語学という伝統的な学問体系を継承しながら複眼的な思考や発想、感性を醸成できる教養の獲得を教育の目標として、過去多くの中学校・高等学校の国語科教員を輩出してきた。本学科の大きな特色は、国文学と国語学の 2 つの分野をあわせて修得し、学問として基本的な物事の本質を追究することをより深化しうる教育であると考えている。そして、研究の対象を調査し、情報を集め、分析し、自分の力で結論を導いていくことを、入学定員 40 名に対して 6 名の専任教員で丁寧な学生指導をしていくことにある。さらに、附属天理図書館に所蔵している、質量ともに日本有数の和漢古典籍を効果的に活用し、「本物」がもつ魅力を経験しつつ、本学でしか経験できない贅沢な授業を提供し、学生の実力涵養に資することができる。

## (4) 歴史文化学科の特色

歴史文化学科は、文学部に設置されていた歴史文化学科を母体として、歴史学・考古学・民俗学の 3 つの学問分野をコースとして開設する。社会のニーズに合わせ、新たに文化財に関する科目を強化しているのが大きな特徴である。

歴史文化学科では、2 年次に歴史学、考古学、民俗学の各コースに分かれそれぞれの専門の学びに入っていくが、学科共通科目として、「文化財行政学」を 2 年次の必修とし、「文化財科学・保存科学」を選択科目として開講する。さらに従来の学科共通科目の博物館学関係科目に、「博物館学概論」「博物館経営総論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」を加え、博物館学芸員への資格取得への道を広げた。文化財に関する

知識の底上げを図るため、旧文学部共通科目の「大和の文化遺産を学ぶ」を学科として引き継ぎ、2年次から3科目開講する。これらによって、どのコースにあっても文化財に関する基本的かつ専門的な知識、実践的なスキルを身につけることができるようにする。

さらに、各コースでは以下のような取り組みを行う。まず、歴史学コースでは、これまで選択科目だった「歴史学史料実習」（旧「日本近世史料実習」）を必修化し、附属天理図書館所蔵史料を用いながら古文書の取り扱いや整理のノウハウを身につけるようにする。考古学コース、民俗学コースでは、これまで開講していた必修の「考古学実習1～3」「民俗学実習1～3」に新たに選択科目として「考古学実習4」「民俗学実習4」を加え、希望者には実践的な経験を積み上げることができるようにした。さらに考古学コースでは、「遺跡の保存と活用」「考古資料の情報化」を、民俗学コースでは「民俗資料論」を講義科目として設け、それぞれの専門的な学びのなかで、文化財の保存と活用についての理解を深めるように工夫した。

今回、歴史学コースから西洋史・東洋史の専攻を廃止した。しかし、本学の設置の理念である「国際性」を担保し、世界史的な視野をもって歴史文化を学べるように、「東洋史要説」「西洋要説」「東アジア史の研究」「文化交流史の研究1・2」「東アジア考古学」「西アジア考古学」を引き続き開講し、「英語文献講読1・2」を新設することとした。

#### （5）心理学科の特色

心理学科は、大学院臨床人間学研究科臨床心理学専攻と連携して、公認心理師や臨床心理士の養成を核としながらも、広く対人社会心理を学ぶことができる。人の心を考えることは極めて難しいが、本学の元教員である河合隼雄氏が留学後、日本で初めて本学に導入された箱庭療法の伝統を引き継ぎ、充実した箱庭実習室があり、心の表現として言葉のみではないさまざまな表現手法を学ぶ。心の病の問題が大きく取り上げられることが多くなった現代社会において、心のことを実践的に学ぶ意義は大きい。本学科では、悩める人と向き合い、心の交流を通して支援する他者理解を深めるとともに、人間の可能性を通して心の問題を正面から相対できる学生を養成することを目的としている。そのため心理学科では、3年次から資格履修モデルと対人社会履修モデルのクラスに分かれ、それぞれの専門科目を学ぶことになる。

また、課外ではあるが、心理実践の場を用意している。地元奈良県や天理市の教育現場において、不登校や発達支援などの活動や家庭裁判所でのボランティア活動を通じて地域支援の体験や、天理教が設置している施設において、臨床心理的活動やボランティア活動の実践を経験するなど、さまざまな場面における心理的活動に心理学的知見や臨床心理学的視点を活用することの重要性を学び、実践的に心理臨床の知識やスキルを修得する。

#### （6）社会教育学科の特色

社会教育学科では、前身となる生涯教育専攻での実績をもとに、文部科学省があらたに設けている「社会教育士」の資格取得を核に、図書館司書や博物館学芸員の資格とともに社会教育施設を効果的に活用しながら、公的及び民間の生涯教育機関において活躍できる人材の養成を行う。大学の教育組織として「生涯教育」の名称を冠したものは極めて限られていたが、設置する「社会教育」を冠する大学はない。「社会教育士」資格を取得するこ

とのできる大学は他にもあるが、本学科では専門学科として初年次から卒業研究まで4年間において、講義や演習、大学内での実習や課外での活動を丁寧に積み重ね、実践しながら社会教育の世界で活躍できる知識とスキルを涵養することができる。加えて、生涯教育専攻として培ってきた地域社会や企業との連携事業の実績をもとに、社会教育学科としても地域社会や地域企業との連携事業及び地域社会が主催する事業へは積極的に継続して参画していき、実践的な教育方法をさらに充実していく。さらに、伝統ある本学の図書館司書と博物館学芸員の両資格課程と密接に連携し、社会教育全般に加え、図書館や博物館などが持つそれぞれのフィールドの強みを活かし、地域社会の学習を支援し、地域社会との共創を目指した活動が実践できる人材の養成を図る。

### (7) 社会福祉学科の特色

社会福祉学科では、これからの社会における社会福祉のプロフェッショナルへのニーズの高まりに鑑み、入学定員を30名から50名に増加させるとともに、専任教員を12名体制として開設し、教員1名に対する学生数約5名を今後も維持する。少人数制を活かし、理論学習だけではなく、工夫を凝らした実践教育を実施し、特に実習や演習科目においては対人援助職に必要な知識や基本姿勢、援助方法を実践的に修得するため、個別指導やグループ学習を取り入れて、教育効果を高める。教育の効果として前身の社会福祉専攻では、「社会福祉士」並びに「精神保健福祉士」国家試験の高い合格率を示している。資格の取得を目指す学生に対し手厚くサポートし、専任教員による試験対策のための支援の結果、近年高い合格率を誇っており、今後も高い合格率を維持し多くの資格取得者を社会に輩出していく。現在までに奈良県をはじめとして、多くの卒業生が地域のソーシャルワーカーとして、高齢者や児童、障害者、生活困難者等に対する支援を行っている。こうした卒業生や地元自治体（奈良県、天理市ほか）、県内の福祉関係機関・団体・施設、加えて天理教内の福祉関係部署及び施設等と連携し、学生がボランティアサークルや有志グループ等を通して行う、フィールドでの自主的な実践に対しても専任教員によるきめ細やかな支援をしていく。

## 3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

### (1) 学部・学科の名称

学部の名称は、既設の人間学部と文学部を改編し、両学部の理念や教育研究を継承する学部であり、構成する6学科の教育課程の内容に合う学問系統のうえから「人文学部」とする。

人文学部および各学科の名称は次の通り。

学部・学科の名称	英訳名称
人文学部	Faculty of Humanities
宗教学科	Department of Religious Studies s
国文学国語学科	Department of Japanese Language and Literature

歴史文化学科	Department of History and Culture
心理学科	Department of Psychology
社会教育学科	Department of Social Education
社会福祉学科	Department of Social Welfare

(2) 学位の名称

学位の名称および英訳名称については、次の通り。

学科名称	学位の名称	学位の英訳名称
宗教学科	学士（宗教学）	B.A. in Religious Studies
国文学国語学科	学士（国文学）	B.A. in Japanese Literature
歴史文化学科	学士（歴史文化学）	B.A. in History and Culture
心理学科	学士（心理学）	B.A. in Psychology
社会教育学科	学士（社会教育学）	B.A. in Social Education
社会福祉学科	学士（社会福祉学）	B.A. in Social Welfare

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の教育目標は、「本学は、人間のふるさとである「ぢば」の恵まれた宗教的環境のもとで、祈りと献身の生活を基盤とする教員、職員、学生のふれあいを通して、豊かな教養を体得させ、専門的学識を授けることを目標とする。」としている。この教育目標を具現化するための学部教育における教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）として、以下のように示している。

天理大学の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

「建学の精神」及び「教育目標」に沿い、学士課程では総合教育科目と専門教育科目を配置しています。総合教育科目は、本学の学生にふさわしい知識を身につけるための天理教科目及び建学の精神科目、専門科目を学ぶ大学生としての土台作りをする基礎教育科目、そして社会人になるために必要な基礎的知識、技能、教養を身につけることを目的とした教養科目（キャリア科目と一般科目）を配置しています。

専門教育科目は、総合教育科目で得た学びへの能力（知識・教養等）をもとに、各学部・学科・専攻分野の専門教育科目（講義、講読、特別研究、実験、実習、演習、卒業論文等）を配置しています。加えて、各資格課程（伝道、矯正・保護支援、日本語教員養成、教職、図書館司書、博物館学芸員）を設置しています。各学科・専攻の教育課程との組合せにより教員免許をはじめ各種の資格が取得できます。

本学の教育課程の編成方針を受けて、本学部の方針を以下の通り設定している。

人文学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与方針に掲げた学習成果をもたらすために、次のような教育課程を編成します。

学士教育課程に必要な基礎的な知識やスキルを修得するために初年次教育科目を配置し、専門教育科目を修得する上で求められる基本的な知識やスキルを修得するための一般教育科目や天理スピリット科目等の総合教育科目と、人文学部の各学問領域に関する基礎的な知識から発展的内容を体系的に教授する専門教育科目を配置します。

## （２）教育課程の編成の特色

人文学部設置における基本方針として、各学科において配置する専門教育科目と総合教育科目を有機的に連携させることで、教育効果を高めることを企図している。総合教育科目の編成は、本学として育成する人間像の具現化を図るものとなっている。

教育課程は、教養科目としての「総合教育科目」と、専門科目としての「専門教育科目」の、大きく2つの科目群から編成されている。「総合教育科目」は、本学の育成する人間像の基盤となる科目群として「天理スピリット科目群」、職業教育科目として「キャリア科目群」、大学生としての基本的な学修態度や基礎的な学問分野のリテラシーを修得する科目、データサイエンス能力を習得するための科目などからなる「基礎リテラシー科目群」及び専門教育科目修得においてその基盤となる周辺領域の科目等を含む「一般教養教育科目群」からなる。

「専門教育科目」は、各学科における専門教育に必要な「専攻科目」を配置する。「専攻科目」は、4年間の体系的な科目履修を通して必要な知識とスキルを修得できるように配慮し、年次を追って、基礎的科目から各学問分野の基幹科目、基幹科目から発展科目を履修するように、体系的な教育課程を編成している。1年次では、各学問分野の基礎的知識やスキルを修得ための「基礎演習」科目や、それぞれの学問分野の基幹的な「概論」科目を配置する。2年次は基幹科目修得を前提に、発展的な知識やスキルを修得するための科目を配置する。3年次及び4年次は、各学問分野が対象とするフィールドや時代、地域などを、学生が自らの関心に応じて選択し、それらをより専門的な科目によって深く修得できるように編成している。あわせて、各専門分野において基盤となる隣接領域の知識を「総合教育科目」から修得し、「専攻科目」と一体として履修できるように配置する。それによって、学生が各学問分野の専門的知識を活かして思考・行動するとともに、社会における課題の解決を図り、本学の育成する人間像である「共生する社会の実現に向けて、考え行動できる人間」の実現を企図している。

### 1) 教育課程の編成

#### a. 総合教育科目

総合教育科目は、「天理スピリット科目群」「キャリア教育科目群」「基礎リテラシー科目群」「一般教養教育科目群」から編成されている。

この科目群は、学生が専門教育の基盤となる知識やスキル、高等教育機関におけるアカデミックスキル、社会人基礎力としてのコミュニケーション能力や教養の修得、及びキャ

リア意識の養成を図ることを目的として編成されている。

## b. 専門教育科目

各学科の専門分野に関する知識、能力、及びそれらに隣接する知識や能力を養成することを目的として授業科目が配置されている。

1年次は、各分野の概要を理解するための概論科目群と基本的なスキルを学ぶための基礎演習、また、学年が進むにつれ、学生の関心に応じた専門理論と専門演習が配置されている。4年次には、学生がそれまでに学んだ知識とスキルを活かして各自の研究テーマを探究し、課題の発見及び解明方法を修得するための科目が置かれている。さらに、研究成果を論理的に発表できる表現能力を涵養するための「卒業論文」あるいは「卒業課題研究」が課されている。

ほかに資格科目として、伝道課程、矯正・保護支援課程、日本語教員、図書館司書、博物館学芸員、教職に関する科目を配置する。

## 2) 各科目区分の編成

### a. 総合教育科目

「総合教育科目」は、本学が育成する人間像の基盤となる知識やスキルを修得する科目群であるとともに、専門教育の周辺領域の知識やスキル、及び中央教育審議会答申などで示されている文理融合を図った科目を含んでいる。具体的には、「天理スピリット科目群」「キャリア教育科目群」「基礎リテラシー科目群」「一般教養教育科目群」の4つの科目群から編成されている。

#### ①天理スピリット科目群

本学では「宗教性」「国際性」「貢献性」の3つの柱を教育の中心としているが、「天理スピリット科目群」は、本学の育成する人間像の基盤となる科目群として配置する。まず、本学の精神的基盤でもある天理教の歴史と教えを学ぶ「天理教概説1・2」(各2単位)を必修科目(宗教学科を除く)とする。そのほかにも自校史教育として、「建学の精神と天理大学の歩み」(2単位)を必修科目とする。また、天理外国語学校として創設された本学の伝統を活かし、基礎英語科目として「英語1・2」(各1単位)に加えて、国際学部で語学教育を行う10言語を対象に、個別の言語文化圏を当該の言語を通して学ぶ「多文化理解と言語」(2単位)を配置する。社会教育学科では、「国際社会におけるスポーツの役割」(2単位)、「保健医療の仕組みと健康づくり」(2単位)を必修科目とする。さらに、天理教の教えに関連して、身体的な鍛錬の科目である「健康スポーツ科学1・2」(各2単位)を置き、寄付講座の科目として、地域社会・企業との連携や本学の独自性を活かす「天理大学特別講義1～4」(各2単位)を配置する。

#### ②キャリア教育科目群

学生自身の未来像を1年次から考え、社会で貢献する重要性について認識を深めるために「キャリアプランニング」を配置する。2年次では、「キャリアデザイン」科目を通して、各業界で活躍している方々をゲストスピーカーとして招き、社会人基礎力について考える



ための科目を配置する。また、1年次から各自が関心を持つ業界を経験するため、「インターンシップ」を配置する。さらに「海外インターンシップ」では、本学の海外の拠点（サテライト・キャンパス）の協力を得て、実習を行う。

### ③基礎リテラシー科目群

「基礎リテラシー科目群」は、初年次教育として全学必修の「基礎ゼミナール1・2」（各2単位）を配置し、データサイエンスに関する技術を段階的に修得するために「データサイエンス・AI入門」「データサイエンス・AI応用」「データリテラシー」の3科目（各2単位）を配置する。また、社会人基礎力の学び直しができるように、近代史や数学、生物・化学などのリメディアル科目を配置する。

### ④一般教養教育科目群

「一般教養教育科目群」は、リベラルアーツ及びサイエンス科目を中心に配置する。また、寄付講座科目として「天理大学特別講義」を4科目配置し、地域社会・企業との連携や本学の独自性を活かせる科目を配置する。「一般教養教育科目群」は、学生が自らの関心にもとづいて選択する科目群であるが、「専門教育科目」との連携を意識し、専門教育において基盤となる学びを修得するための科目群である。

## b. 専門教育科目

「専門教育科目」は、1年次から4年次まで体系的に科目を履修することによって、各学問分野に関する専門的な知識とスキルを修得できるように配慮し、年次を迫って、基礎的科目から各学問分野の基幹科目、さらに基幹科目を踏まえた発展科目を配置する。

### ①宗教学科の専門教育科目

1年次、2年次に履修する基礎的な科目として、「宗教研究基礎演習」（2単位）、「宗教史概説1・2」（各2単位）、「天理教学概論1・2」（各2単位）、「宗教学概論1・2」（各2単位）などを必修科目として配置し、宗教学及び天理教学の基礎を学ぶとともに、2～3年次において、宗教学に関するテーマ別に「宗教学特殊講義1～4」（各2単位）、「宗教史特殊講義1～4」（各2単位）、「天理教学特殊講義1～3」（各2単位）、「天理教史特殊講義1～3」（各2単位）などを選択科目として配置する。3年次から学生の研究テーマについて研究を始める「宗教演習1・2」（各2単位）、4年次は研究テーマについて研究を進める「宗教課題演習1・2」（各2単位）を履修して、卒業論文を提出する。卒業に必要な専門教育科目の単位数は70単位以上としている。

### ②国文学国語学科の専門教育科目

1年次に履修する基礎的な科目として、「国文学基礎演習」（2単位）、「国文学概論1・2」（各2単位）、「国語学基礎演習」（2単位）、「国語学概論1・2」（各2単位）、「漢文学基礎演習」（2単位）を必修科目として、国文学及び国語学、漢文学の基礎を学ぶことができるように配置する。国文学分野では1・2年次において、国文学の上代、中古・中世、近世、近代の各時代における資料講読のための演習科目（「文学講読」10科目各2単位）、特

定の資料を深く読解するための講義科目（「文学特論」10科目各2単位）、古典と近代の文学作品を通史で学ぶ講義科目（「文学史」4科目各2単位）、「文学特論」に対応する演習科目（「国文学演習」10科目各2単位）を、それぞれ選択必修ならびに選択科目としてあらたに配置する。さらに、天理図書館の資料を使用して文学の営為について多角的に学ぶ「天理図書館資料論」（2科目各2単位）を選択科目としてあらたに配置する。国語学では2年次に言語の構造、運用、実態をテーマにあつかう講義科目（「国語学特論」6科目各2単位）、3年次に「国語学特論」に対応する演習科目（「国語学演習」6科目各2単位）を、それぞれ選択必修ならびに選択科目として配置する。また、実用的な言語表現スキルの修得をめざす「実用国語表現」（2単位）、「音声言語」（2単位）、「文章表現1・2」（各2単位）を選択科目としてあらたに配置する。4年次には学生が主体的に設定した研究テーマについて研究を進めるための「卒業論文演習」（4単位）を必修科目として配置し、卒業要件である卒業論文を執筆する。卒業に必要な専門教育科目の単位数は72単位以上としている。

### ③歴史文化学科の専門教育科目

1年次に履修する基礎的な科目として、「歴史文化基礎演習」（2単位）、「歴史学概論」（2単位）、「考古学概論」（2単位）、「民俗学概論」（2単位）を必修科目として配置する。基礎的な分野として「日本史要説」（2単位）、「東洋史要説」（2単位）、「西洋史要説」（2単位）、「日本考古学要説」（2単位）、「日本民俗学要説」（2単位）、「くずし字入門」（2単位）を選択科目として配置する。2年次からは、歴史学、考古学、民俗学の各コースに分かれて学修するため、「歴史学研究入門1・2」（各2単位）、「考古学研究入門1・2」（各2単位）、「民俗学研究入門1・2」（各2単位）をコース必修科目として配置する。2～3年において、必修として「文化財行政学」（2単位）置き、各コースにおいて基盤となる知識を修得する科目を選択科目として配置する。あわせて、各コースの研究スキルを修得するための実習科目「歴史学史料実習1～4」（各1単位）、「考古学実習1～3」（各1単位）、「民俗学実習1～3」（各1単位）をコース必修科目として配置する。3年次及び4年次では学生の研究テーマに関する演習科目（各2単位）を8単位以上修得し、卒業論文を執筆する。卒業に必要な専門教育科目の単位数は70単位以上としている。

### ④心理学科の専門教育科目

1年次に履修する基礎的な科目として、「心理学入門演習」（2単位）、「心理学概論」（2単位）、「臨床心理学概論」（2単位）を必修科目として配置する。心理学科の専門教育科目は、公認心理師（国家資格）の資格取得に必要な科目並びに臨床心理士（公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会資格）の資格取得に接続する科目、及び日本心理学会が認定する認定心理士の資格取得に必要な科目を中心に段階的に配置する。公認心理師並びに臨床心理士の資格取得を希望する学生以外にも、対人社会における心理理解に資する科目として、「対人社会課題演習」（2単位）、「対人スキル演習」（2単位）を配置する。3年次からは、研究テーマに取り組むための「臨床心理学課題演習」（2単位）もしくは「対人社会課題演習」（2単位）を修得し、4年次は「心理学研究演習1・2」（各2単位）を履修して、卒業課題研究に取り組む。卒業に必要な専門教育科目の単位数は56単位以上としている。

#### ⑤社会教育学科の専門教育科目

1年次に履修する基礎的な科目として、「社会教育基礎演習1・2」(各2単位)、「生涯学習概論1・2」(各2単位)、「臨地文化施設実習」(1単位)を必修科目として配置する。社会教育士の資格取得を志向しつつ、地域社会において社会教育を支援するための学問分野として、講義科目に加えて、地域社会の中(臨地)における実習を重視し、1年次から地域社会において実際に行われている各プロジェクトに参画するための「プロジェクト実習1～6」(各1単位)、2年次からは「地域協働実習」(1単位)を選択科目として配置する。2～3年次は、地域社会の生涯学習にかかる「生涯学習支援論1・2」(各2単位)、「生涯学習支援演習1・2」(各2単位)を必修科目として配置し、「社会教育経営論1～4」(各2単位)を選択科目として配置する。また、2年次からは研究テーマの分野別に「社会教育特講1～4」(各2単位)、「生涯学習特論1～8」(各2単位)を選択科目として配置するとともに、地域の生涯学習機関の図書館等に配置されている図書館司書にかかわる科目も選択科目として設置する。3年次からは、研究テーマに取り組むための「社会教育演習1・2」(3群6科目各2単位より1群2科目を選択する選択必修)、4年次は「社会教育課題研究1・2」(各2単位)を必修として履修し、卒業論文の執筆もしくは卒業課題研究に取り組む。卒業に必要な専門教育科目の単位数は60単位以上としている。

#### ⑥社会福祉学科の専門教育科目

1年次に履修する基礎的な科目として、「社会福祉概論1・2」(各2単位)、「ソーシャルワーク論1」(2単位)、「天理教社会福祉論」(2単位)を必修科目として配置する。社会福祉士(国家資格)並びに精神保健福祉士(国家資格)の受験資格取得を志向しており、厚生労働省が定める両福祉士養成カリキュラムの指定科目を中心に配置する。「ソーシャルワーク論2～6」(各2単位)、「地域福祉と包括的支援体制1・2」(各2単位)、「ソーシャルワーク演習1～5」(各2単位)、「ソーシャルワーク実習指導1～3」(各2単位)「ソーシャルワーク実習1・2」(各2単位)及び「ソーシャルワーク実習2」(4単位)等を選択科目として配置するが、多くの選択科目は社会福祉士等の受験資格のための必須修得科目となっており、資格取得のために試験受験を志向する学生には実質的な必修科目となっている。また、心身の健康や社会制度、システム等への理解を深めるための学問分野として、「人体の構造と機能及び疾病」(2単位)、「社会学と社会システム」(2単位)、「社会保障論1・2」(各2単位)、「現代家族論」(2単位)などの関連領域の講義科目を選択科目として配置する。社会福祉学の研究法を修得するため「社会福祉学演習1～4」(各2単位)を必修科目として学年進行に従って履修し、特に3・4年次からの「社会福祉学演習2～4」(各2単位)では、卒業論文を執筆する上で必要な知識・技術を身に付けるとともに、学生が各自の研究テーマに基づいて研究を進め、卒業論文を完成させる。卒業に必要な専門教育科目の単位数は70単位以上としている。

### 5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

#### (1) 授業の方法及び学生数の設定

知識の修得を目的とする授業の方法については、講義形式を中心とした授業形態をとるが、さらに理解を深め、多角的な視点で知識を修得するために、ディスカッションやアクティブラーニング形式の授業形態も取り入れる。また、それぞれの学問分野への態度や技術・技能の修得を目的とする授業科目については、アクティブラーニングを中心とした演習形式の授業や、学内における授業に限らず、臨地における実習形式の授業も積極的に取り入れて実施する。

授業方法に適した学生数の設定については、教育内容や授業形態に応じて適切な学生数で開講している。人文学部6学科の学年定員は、宗教学科20名、国文学国語学科、心理学及び社会教育学科は各40名、歴史文化学科及び社会福祉学科は各50名である。総合教育科目群の「英語」及び「多文化理解と言語」は、全クラスを20名程度に抑えることで、アクティブラーニングがより効果的に実施できるようにしている。概説的な内容を主とする講義科目の履修学生数については最大100名に設定し、それ以上の履修生になる場合には、学修効果の観点から必ずクラス分けを実施している。50名以上のクラスは、ディスプレイを複数設置した教室を利用することで、授業の質を担保している。また、演習科目や実習科目については、効果的かつ確実に学習成果を達成するために、10名程度を適正人数としている。

## (2) 配当年次

教育課程の配当年次については、以下の通り配置する。

総合教育科目は、主に1年次から2年次に履修する。そこで、偏りのない履修登録によって基礎的な内容を修めたうえで、さらに段階的に専門教育科目へと繋がる科目配置をしている。

各専門教育分野においては、知識の理解・修得を目的とする授業科目と、対象の内容に応じて技術・技能の修得や、より具体的な内容理解のための演習科目あるいは実習科目を配置する。さらに、受講学生に対し、卒業に必要な単位数を過重に強いることなく、専門分野の知識・技術・技能を体系的に理解・修得できるように科目を配置する。

以上のような授業科目の配当については、各授業科目のシラバスにナンバリングコードを示し、学生に周知している。

## (3) 履修科目の登録の上限

授業時間内における学修と学生の教室外の学修を合わせて充実した授業展開を可能し、授業科目を実質的に学修できるようにするために、あわせて単位制度の実質化をはかる目的で、履修登録できる単位の上限を、全学を通じて、学期ごとに24単位、1年間に48単位と定めている。

ただし、直前の学期のGPAが3.5以上、もしくは直前の学期までの累積のGPAが3.2以上であり、加えて、クラス担任が学生本人と面談のうえ、登録授業について充分学修できることが確認できれば、各学期に6単位まで追加の登録が可能になる制度を運用している。

## (4) 卒業要件

本学部の卒業要件としては、本学部に4年以上在学し、卒業要件単位の124単位以上を修得することと定めている。授業科目の履修においては、各学科の特徴に応じて総合教育と専門教育を有機的に連携させたカリキュラムから、次のような所定の単位数を修得する。

#### 1) 宗教学科

本大学に4年以上在学し、所定の授業科目について、総合教育科目計20単位以上(天理スピリット科目群8単位以上、キャリア科目群2単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群4単位以上)、宗教学科専攻科目計70単位以上(必修科目16科目36単位、選択必修科目22科目42単位のうち17科目34単位以上)、総合教育科目、宗教学科専攻科目、他学部・学科の開放科目をあわせて合計124単位以上修得すること。

#### 2) 国文学国語学科

本大学に4年以上在学し、所定の授業科目について、総合教育科目計24単位以上(天理スピリット科目群12単位以上、キャリア科目群2単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群4単位以上)、国文学国語学科専攻科目計72単位以上(必修科目9科目24単位、選択必修科目46科目92単位のうち17科目34単位、選択必修科目もしくは選択科目7科目14単位以上)、総合教育科目、国文学国語学科専攻科目、他学部・学科の開放科目をあわせて合計124単位以上修得すること。

#### 3) 歴史文化学科

本大学に4年以上在学し、所定の授業科目について、総合教育科目計22単位以上(天理スピリット科目群12単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群4単位以上)、歴史文化学科専攻科目計70単位以上(必修科目6科目16単位、選択科目は歴史学コース18科目32単位以上、考古学コース14科目25単位以上、民俗学コース13科目23単位以上、各コース選択必修科目を含んで54単位以上)、総合教育科目、歴史文化学科専攻科目、他学部・学科の開放科目をあわせて合計124単位以上修得すること。

#### 4) 心理学科

本大学に4年以上在学し、所定の授業科目について、総合教育科目計24単位以上(天理スピリット科目群12単位以上、キャリア科目群2単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群4単位以上)、心理学科専攻科目計56単位以上(必修科目6科目14単位、選択必修科目2科目4単位のうち1科目2単位以上、選択科目20科目40単位以上)、総合教育科目、心理学科専攻科目、他学部・学科の開放科目をあわせて合計124単位以上修得すること。

#### 5) 社会教育学科

本大学に4年以上在学し、所定の授業科目について、総合教育科目計32単位以上(天理スピリット科目群16単位以上、キャリア科目群4単位以上、基礎リテラシー科目群6単位以上、一般教養教育科目群6単位以上)、社会教育学科専攻科目計60単位以上(必修科目11科目21単位、選択必修科目8科目22単位のうち4科目10単位以上、選択科目15

科目 29 単位以上)、総合教育科目、社会教育学科専攻科目、他学部・学科の開放科目をあわせて合計 124 単位以上修得すること。

#### 6) 社会福祉学科

本大学に 4 年以上在学し、所定の授業科目について、総合教育科目計 24 単位以上(天理スピリット科目群 12 単位以上、キャリア科目群 2 単位以上、基礎リテラシー科目群 6 単位以上、一般教養教育科目群 4 単位以上)、社会福祉学科専攻科目計 70 単位以上(必修科目 9 科目 22 単位、選択科目 24 科目 48 単位以上)、総合教育科目、社会福祉学科専攻科目、他学部・学科の開放科目をあわせて合計 124 単位以上修得すること。

#### (5) 履修モデル

各学科の履修モデルは別紙の通り。【資料 10】

#### (6) 履修科目の年間登録上限や、他大学における授業科目の履修等

##### 1) 履修科目の登録の上限

本学部では、登録科目の予習、復習時間を確保し、学習成果を確実なものにするために、各学期の上限登録単位数を 24 単位に、また年度内合計の上限登録単位数を 48 単位に定めている。なお、直前学期の G P A または直前学期までの通算 G P A により、上限に追加枠を設けている。

一部の専門教育科目、総合教育科目の登録については、履修前提条件を設定し、履修をするまでに修得すべき科目を学生に示している。

##### 2) 他大学における授業履修について

2 年次生以上で単位互換協定の単位の修得を目的とする者を対象として、奈良県内大学間単位互換協定に基づく単位互換制度を設けている。県内 7 大学における履修を 1 年間 12 単位まで認めているが、この履修単位数は、本学での各学期に履修登録できる単位数に含まれる。

海外の大学での履修に関しては、本学と留学生交換協定を締結、もしくは本学が留学先として認めた機関での留学については、30 単位まで留学先での修得単位認定を認めている。また、本学入学前に他大学や短期大学において履修した科目の修得単位を、60 単位を超えない範囲(ただし、編入学の場合は制限なし)で本学での履修単位として認めている。

##### 3) 留学生への対応

海外からの入学者については、入学前に国際交流センター室職員がサポートをしつつ、出入国在留管理庁に必要書類を提出し、査証取得に向けた手続きを行っている。すでに査証を取得している学生については、有効期限が切れることのないように国際交流センター室職員がサポートを行っている。入学後の履修指導については、各学科学年のクラス担任が学期はじめにオリエンテーションを行い、日本語のレベルに合わせた履修科目や履修クラスの指導を行っている。生活指導については、天理警察署の協力を得て、海外との交通ルールなどの違いを説明し、留学生が事故、事件に巻き込まれないように指導を行っている。

る。

## 6. 実習の具体的計画

### (1) 宗教学科

#### 1) 教育実習

宗教学科では、中学校教諭一種免許状（宗教）及び高等学校教諭一種免許状（宗教）を取得できるカリキュラムを設置し、資格取得のための必修科目として「教育実習」を開講する。

本学科ではディプロマ・ポリシーにもとづき、世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心を持ち、天理教及び世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけて広い見識を修得し、それらの知識を活かして価値観を異にする他者と共に生きることができる社会を構築する意欲のある学生が、実際の教育現場での体験を通して、中学校ないしは高等学校での教育活動を高度に展開できる実践的な知識や能力を身につける機会として、教育実習を位置づける。

また、「教職課程コアカリキュラム」にもとづき、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会であることを踏まえ、一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目指す。

#### 2) 実習先の確保の状況

実習先については、系列校である天理高等学校並びに天理中学校で行うこととする。現在、教科「宗教」で実習が実施できる学校は系列校のみである。

#### 3) 実習水準の確保の方策

本学では、教職課程が発行している『教職実習ハンドブック』にもとづき、オリエンテーションや「教育実習講義」（教職課程履修者は必修）を通じて教育実習に対する心構えや留意点、実習を効果的にするための事前学習などについて理解する方策を採っている。

宗教学科においては「宗教科指導法 1～4」の授業を通じて、宗教科教諭に求められる知識と技能を、講義と実践によって修得する。また実習の水準を確保するため、実習生としての心得や予備知識等についても学ぶ。

実習終了後、実習生のレポート、学習指導案などの提出物、実習先での担当教諭の所見及び巡回指導員の指導記録にもとづき、多面的な成績評価を行うことで、講義で学んだことを実習で実践できたかを点検する。

#### 4) 実習先との連携体制

本学では、学生を通じて教育実習先から内諾を得た後、教務課より正式に実習生受入に関する文書を送付し、実習依頼を行っている。その後、教育実習巡回指導教員を中心とす

る宗教学科教員を通じて実習先と連絡を取り、実習における指導の方針等について協議する。教科「宗教」の実習先は、同学校法人の系列学校であり、系列学校の教科「宗教」の担当教諭は本学卒業生であることから、教育実習にかかる教職員と連携して、実習先と緊密に連絡及び協議をする。なお、実習中に問題が発生した際には、教務課が窓口となって、教職課程主任及び本学科の教員が実習校と協議して解決を図る。

#### 5) 実習前の準備状況

感染予防対策、保険加入などの安全確保については、本学が定める方針に従い、適切に対応する。また、守秘義務や SNS の利用に関しては、教職課程が実施するオリエンテーション及び「教育実習講義」を通じて指導を徹底する。

#### 6) 事前・事後における指導計画

教育実習にかかる事前・事後指導については、教職課程のオリエンテーション及び「教育実習講義」、「教職実践演習」を通じて、全学的な指導を行う。

宗教学科においては、「宗教科指導法 1~4」の授業を通じて、教員に求められる知識と技術、実習生の心得、事前準備などについて指導する。

#### 7) 巡回指導計画

宗教学科の専任教員が巡回指導を行う。巡回指導の担当者は、教員間で指導にかかる負担が公平になるように、学科主任が中心となって、これを決定する。

実習先は本学の至近の距離にあるため、巡回指導行くための負担は少ない。

なお、巡回指導は、感染予防対策などの安全確保について、大学が定める方針並びに実習先の方針を遵守する。

#### 8) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設は系列の学校になるが、それぞれの実習先で一定の実務経験と実践的指導力を有する教諭が指導者として配置される。教頭や教科主任など、他の教諭も指導に携わることで指導の質を保證している。

#### 9) 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習の成績評価は、教職課程の科目である「教育実習」の担当教員が行う。その際、上記「3)実習水準の確保の方策」に記載したように、実習生のレポート、学習指導案などの提出物、実習先の担当教諭の所見及び巡回指導者の指導記録にもとづき、学生が教諭に求められる知識と技能を修得しているかを評価する。

### (2) 国文学国語学科

#### 1) 教育実習

国文学国語学科では、中学校教諭一種免許状（国語）及び高等学校教諭一種免許状（国語）を取得できるカリキュラムを設置し、資格取得のための必修科目として「教育実習」を開講する。



本学科ではディプロマ・ポリシーにもとづき、日本の文学や言語に関する知識を有し、論理的に思考する力を基盤に、コミュニケーション能力を活用して他者を理解し、他者と共に生きることができる社会の構築する意欲のある学生が、実際の教育現場での体験を通して、中学校ないしは高等学校での教育活動を高度に展開できる実践的な知識や能力を身につける機会として、教育実習を位置づける。

また、「教職課程コアカリキュラム」にもとづき、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会であることを踏まえ、一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目指す。

## 2) 実習先の確保の状況

実習先については、原則として受講生の出身校である高等学校ないしは中学校で行うこととする。なお、学生自身が実習先を確保することが困難な場合は、系列校や従前から実習の受け入れ実績のある学校で実習が行えるように、教務課の職員が中心となってサポートを行う。

## 3) 実習水準の確保の方策

本学では、教職課程が発行している『教職実習ハンドブック』にもとづき、オリエンテーションや「教育実習講義」(教職課程履修者は必修)を通じて教育実習に対する心構えや留意点、実習を効果的にするための事前学習などについて理解する方策を採っている。

国文学国語学科においては「国語科指導法 1~4」の授業を通じて、国語科教諭に求められる知識と技能を、講義と実践によって修得する。また実習の水準を確保するため、実習生としての心得や予備知識等についても学ぶ。

実習終了後、実習生のレポート、学習指導案などの提出物、実習先での担当教諭の所見及び巡回指導員の指導記録にもとづき、多面的な成績評価を行うことで、講義で学んだことを実習で実践できたかを点検する。

## 4) 実習先との連携体制

本学では、学生を通じて教育実習先から内諾を得た後、教務課より正式に実習生受入に関する文書を送付し、実習依頼を行っている。その後、教育実習巡回指導教員を中心とする国文学国語学科教員を通じて実習先と連絡を取り、実習における指導の方針等について協議する。これら教育実習にかかる教職員と連携して、実習先と緊密に連絡及び協議をする。なお、実習中に問題が発生した際には、教務課が窓口となって、教職課程主任及び本学科教員が実習校と協議して解決を図る。

## 5) 実習前の準備状況

感染予防対策、保険加入などの安全確保については、本学が定める方針に従い、適切に対応する。また、守秘義務や SNS の利用に関しては、教職課程が実施するオリエンテーション及び「教育実習講義」を通じて指導を徹底する。

## 6) 事前・事後における指導計画

教育実習にかかる事前・事後指導については、教職課程のオリエンテーション及び「教育実習講義」、「教職実践演習」を通じて、全学的な指導を行う。

国文学国語学科においては、「国語科指導法 1～4」の授業を通じて、教員に求められる知識と技術、実習生の心得、事前準備などについて指導する。

## 7) 巡回指導計画

国文学国語学科の専任教員が巡回指導を行う。巡回指導の担当者は、教員間で指導にかかる負担が公平になるように、学科主任が中心となって、これを決定する。

実習先が遠隔地にある場合、大学からの助成を得て公共交通機関で移動し、必要に応じて最寄りの施設に宿泊する。実習先と協議のうえ、オンラインでの指導方法などで実施する場合もある。

なお、巡回指導は、感染予防対策などの安全確保について、大学が定める方針並びに実習先の方針を遵守する。

## 8) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設は、原則として受講生の出身校であり、指導者の配置計画はそれぞれの実習先に一任している。

## 9) 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習の成績評価は、教職課程の科目である「教育実習」の担当教員が行う。その際、上記「c. 実習水準の各本方策」に記載したように、実習生のレポート、学習指導案などの提出物、実習先の担当教諭の所見及び巡回指導者の指導記録にもとづき、学生が教諭に求められる知識と技能を修得しているかを評価する。

### (3) 歴史文化学科

#### 1) 教育実習

歴史文化学科では、中学校教諭一種免許状（社会）及び高等学校教諭一種免許状（地理歴史）を取得できるカリキュラムを設置し、資格取得のための必修科目として「教育実習」を開講する。

本学科ではディプロマ・ポリシーにもとづき、歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を有し、論理的に思考する力を基盤に、構想・表現・伝達する能力を活用して社会に貢献する意欲のある学生が、実際の教育現場での体験を通して、中学校ないしは高等学校での教育活動を高度に展開できる実践的な知識や能力を身につける機会として、教育実習を位置づける。

また、「教職課程コアカリキュラム」にもとづき、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会であることを踏まえ、一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、

教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目指す。

## 2) 実習先の確保の状況

実習先については、原則として受講生の出身校である高等学校ないしは中学校で行うこととする。なお、学生自身が実習先を確保することが困難な場合は、系列校や従前から実習の受け入れ実績のある学校で実習が行えるように、教務課の職員が中心となってサポートを行う。

## 3) 実習水準の確保の方策

本学では、教職課程が発行している『教職実習ハンドブック』にもとづき、オリエンテーションや「教育実習講義」（教職課程履修者は必修）を通じて教育実習に対する心構えや留意点、実習を効果的にするための事前学習などについて理解する方策を採っている。

歴史文化学科においては「社会科指導法 1・2」「社会・地理歴史科指導法 1・2」の授業を通じて、社会科教諭もしくは地理歴史科教諭に求められる知識と技能を、講義と実践によって修得する。また実習の水準を確保するため、実習生としての心得や予備知識等についても学ぶ。

実習終了後、実習生のレポート、学習指導案などの提出物、実習先での担当教諭の所見及び巡回指導員の指導記録にもとづき、多面的な成績評価を行うことで、講義で学んだことを実習で実践できたかを点検する。

## 4) 実習先との連携体制

本学では、学生を通じて教育実習先から内諾を得た後、教務課より正式に実習生受入に関する文書を送付し、実習依頼を行っている。その後、教育実習巡回指導教員を中心とする歴史文化学科教員を通じて実習先と連絡を取り、実習における指導の方針等について協議する。これら教育実習にかかる教職員と連携して、実習先と緊密に連絡及び協議をする。なお、実習中に問題が発生した際には、本学科教員及び教務課担当職員が実習校と協議して解決を図る。

## 5) 実習前の準備状況

感染予防対策。保険加入などの安全確保については、本学が定める方針に従い、適切に対応する。また、守秘義務や SNS の利用に関しては、教職課程が実施するオリエンテーション及び「教育実習講義」を通じて指導を徹底する。

## 6) 事前・事後における指導計画

教育実習にかかる事前・事後指導については、教職課程のオリエンテーション及び「教育実習講義」、「教職実践演習」を通じて、全学的な指導を行う。

歴史文化学科においては、「社会科指導法 1・2」「社会・地理歴史科指導法 1・2」の授業を通じて、教員に求められる知識と技術、実習生の心得、事前準備などについて指導する。

## 7) 巡回指導計画

歴史文化学科の専任教員が巡回指導を行う。巡回指導の担当者は、教員間で指導にかかる負担が公平になるように、学科主任が中心となって、これを決定する。

実習先が遠隔地にある場合、大学からの助成を得て公共交通機関で移動し、必要に応じて最寄りの施設に宿泊する。実習先と協議のうえ、オンラインでの指導など方法で実施する場合もある。

なお、巡回指導は、感染予防対策などの安全確保について、大学が定める方針並びに実習先の方針を遵守する。

#### 8) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設は、原則として受講生の出身校になるが、それぞれの実習先で一定の実務経験と実践的指導力を有する教諭が指導者として配置される。教頭や教科主任など、他の教諭も指導に携わることで指導の質を保証している。

#### 9) 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習の成績評価は、教職課程の科目である「教育実習」の担当教員が行う。その際、上記「c. 実習水準の各本方策」に記載したように、実習生のレポート、学習指導案などの提出物、実習先の担当教諭の所見及び巡回指導者の指導記録にもとづき、学生が教諭に求められる知識と技能を修得しているかを評価する。

### (4) 心理学科

#### 1) 公認心理師にかかる「心理実習」の目的

心理専門職の国家資格である「公認心理師」の受験資格取得のために大学において取得する科目のうち、「心理実習」を科目として設置し、公認心理師に求められる知識や技術の修得を行う。「保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野（以下、主要5分野）の施設での実習の実施」を厚生労働省は定めている。「ただし、当分の間は、医療機関（病院又は診療所）での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習を適宜行う」「実習時間は80時間以上」と厚生労働省の規則によって定められている。よって本学では、当面、医療、福祉、教育機関で実習する予定となっている。

この科目においては、公認心理師の役割についての理解、法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。また、心理に関する支援を要する者などの安全を最優先として、あわせて守秘義務や情報共有の重要性を理解し、情報の適切な取扱いができ、保健医療、福祉、教育その他の分野における具体的な業務内容について説明できるようになることを目的とする。実習においては、病院、幼稚園、児童養護施設、本学附属カウンセリングルームで実習を行い、多職種連携・地域による支援の重要性を理解し、支援を行う関係者の役割分担についても実践的に理解し、あわせて、支援者としての態度を身につけることも目的とする。

#### 2) 実習先の確保

実習先として、社会福祉法人天理 天理養徳院（児童養護施設）、公益財団法人 天理よろづ相談所病院、学校法人 天理幼稚園に毎年依頼状等を出して実習依頼をし、承諾を得た上

で実習を行っている。今後もこれらの施設の協力のもと実習を行う予定である。

### 3) 実習水準の確保

心理実習においては、心理学科が発行している「心理実習の手引き」に基づき、学科専任教員が実習担当教員としてオリエンテーションを行った上で、保健医療分野、教育分野、福祉分野等の施設において、実習を実施するが、事前指導、現場実習、中間指導、事後指導を通して、臨床の現場理解とチームでの心理支援に理解が深まる方法を取っている。具体的には、①心理支援を要する人へのチームでのアプローチの重要性、②多職種連携や地域との連携の実際、③公認心理師として職業倫理や法的義務への理解、を確保できる方法で実習を実施する。事前の指導だけでなく、実習途中の巡回指導や中間指導、実習終了後の事後指導等を学科専任教員が実施することにより、理解を深めるとともに受講生が自身の振り返りや総括を行う。

### 4) 実習先との連携体制

心理実習では、あらかじめ実習先を選定し、実習前に実習担当教員と現場実習指導者との間で実習を実施するための日程調整や実習内容の、指導方針などについて、丁寧な打合せを行う。実習中は、実習担当教員が実習先の現場実習指導者と連絡を取りながら、実習生の状況を把握し、必要に応じて実習先において指導も行う。実習後は、実習中の課題や今後の実習について打合せを行う。

### 5) 実習前の準備状況

実習にあたって定められた定期健康診断を受診するとともに、感染症への対策として実習先の規定にもとづくことのほか、心理学科が実習に行く前に実施すべき体調管理等の記録や日頃の体調管理の徹底をはかる。また、実習前、実習中、実習期間後も含めて、体調不良が生じた場合を想定して行動履歴などの記録を義務づける。なお、学生は学生教育研究災害傷害保険に加入し、実習先での怪我等に対して備える。また、外部施設へ出向いての実習であるということで、その施設ごとの特徴を理解し、その施設の利用者を尊重する姿勢を持つことなども準備として必要である。これらのことを年度初めの心理実習オリエンテーションで学生に伝え、学生にも自覚を促す機会としている。

### 6) 事前・事後における指導計画

事前指導において、各実習施設における心理面での支援を要する人へのチームアプローチや多職種での連携や地域との連携の重要性、公認心理師としての職業倫理並びに法的な義務への理解を深める学修を進め、他者の意見を聴き、自分と異なる価値観を理解・尊重した上で自らの考えを述べられるように指導する。

中間指導においては、実際の実習現場における課題について検討し、事前指導における指導内容の振り返りも含め、また、現場実習指導者との面談などを含めて、その後の実習の指導を行う。

事後指導においては、実習ノートや報告書、現場実習指導者からの報告書を踏まえて実習全体の振り返りを行う。各実習先で学修した内容を、①心理支援を要する人へのチーム

でのアプローチの重要性、②多職種連携や地域との連携の実際、③公認心理師として職業倫理や法的義務への理解、の観点から、実習受講者間においても共有し学びを深め、受講者の学びとしてしっかりと修得できるように指導する。

#### 7) 巡回指導計画

実習には学科主任を中心に、心理学科の専任教員が各施設における実習担当教員として指導に当たる。実習担当教員は、実習生との連絡調整、各実習先との連絡調整、事前・中間・事後の指導、各種書類の作成など事務的な処理も行う。巡回指導は、各施設を担当する実習担当教員が責任者として現場実習指導者と連絡を取った上で、先方の業務に支障がない時間を設定し、実習期間中に各グループにつき最低1回の巡回指導を行い、学生の実習状況を把握する。実習施設の多くは、本学近辺に所在しており、各実習施設には学生が各自で移動する。

#### 8) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設における現場実習指導者について、保健医療分野、教育分野、福祉分野において心理学に関する専門的知識及び技術を持ち、公認心理師法第2条に掲げられている行為の業務について、経験のあるものが実習指導に当たる。なお、基本的には実習先の現場実習指導者が実習指導にあたるが、実習期間中の巡回指導や中間指導としては実習担当教員が指導にあたる。

#### 9) 成績評価体制及び単位認定方法

実習における成績評価は、実習への出欠と取り組み態度、事前事後学修における積極性、学生自身の振り返り評価、実習担当教員の評価などをもとに総合的に行う。

### (5) 社会福祉学科

1) 社会福祉士並びに精神保健福祉士にかかる「ソーシャルワーク実習1・2」等の目的  
福祉専門職の国家資格である「社会福祉士」並びに「精神保健福祉士」の国家試験受験資格取得のために大学において取得する科目のうち、「ソーシャルワーク実習1・2」、「精神保健福祉援助実習A・B」を科目として設置し、「社会福祉士」並びに「精神保健福祉士」に求められる知識や技術の修得をめざす。

これらの科目においては、将来「社会福祉士」並びに「精神保健福祉士」として社会で活躍するために以下のことをねらいとする。

- ①ソーシャルワークの対象となる当事者・利用者とその家族・世帯の生活・地域の実態や、ソーシャルワーカーが活動する地域の実態を学ぶ。
- ②ソーシャルワーカーとしての価値や倫理が実践現場でどのように具現化されているか、またソーシャルワーカーがそれらをどのように行動化しているか、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士としての態度や姿勢を学ぶ。
- ③ケースの発見からアセスメント、支援計画策定から実施に至るソーシャルワークの過程について具体的かつ経験的に学ぶ。
- ④ソーシャルワークの役割としての総合的・包括的な支援や多職種・多機関や地域住民

等との連携・協働の実際を具体的かつ経験的に学ぶ。

⑤ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）としての自分を知る（自己覚知）の機会となる。

社会福祉専門職となるための学びは、ソーシャルワークの実践及び実践現場との関係を抜きにしては成り立たず、実習は社会福祉・ソーシャルワークの理論と実践とを統合的に学ぶ機会となることとなり、自らが現場に身を置くことで実践的経験的に習得することを目的とする。

## 2) 実習先の確保

実習先として、次の施設から承諾を得ている。

（ソーシャルワーク実習1・2）

- ・児童養護施設：社会福祉法人天理 天理養徳院、社会福祉法人紀北和楽会 六地学園、社会福祉法人博愛社 ほか
- ・医療機関：公益財団法人天理よろづ相談所病院、社会医療法人田北会 田北病院、社会医療法人平成記念会 平成記念病院 ほか
- ・高齢者施設：社会福祉法人うねび会ぽれぽれケアセンター白檀、社会福祉法人やすらぎ会やすらぎ園、社会福祉法人京都老人福祉協会 小栗栖の家ほっこり ほか
- ・地域包括支援センター：奈良市富雄西地域包括支援センター、天理市北部地域包括支援センター
- ・障害者支援施設・事業所：社会福祉法人ひまわりの家、社会福祉法人いこま福祉会かざぐるま、ヒューマンヘリテージすこやか home にっこり、社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽ相談支援センター特定非営利活動法人アクティブセンターうだ、社会福祉法人だるま会 相談支援センターちゃお ほか
- ・社会福祉協議会：生駒市社会福祉協議会、田原本町社会福祉協議会、上牧町社会福祉協議会、大和郡山市社会福祉協議会ほか

（精神保健福祉援助実習A・B）

- ・施設・事業所：社会福祉法人萌 地域活動支援センターなつつ、地域活動支援センターふらっと、ひだまり、彩食キッチンBon、マインドホーム高田、社会福祉法人寧楽ゆいの会 生活介護事業所さわやぎ、地域活動支援センターこもれび ほか
- ・精神科医療機関：医療法人鴻池会秋津鴻池病院、医療法人中川会飛鳥病院、社会医療法人平和会吉田病院 ほか

## 3) 実習水準の確保

「ソーシャルワーク実習1」では、近畿地区に所在する高齢者、障害者等の各福祉施設・事業所において60時間以上、「ソーシャルワーク実習2」では高齢者、障害者、児童の各福祉施設・事業所、医療機関、市町村社会福祉協議会等において、180時間以上の配属実習を行う。

「ソーシャルワーク実習1・2」の事前指導として、「ソーシャルワーク実習指導1」において、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるように、「ソーシャルワーク実習の手引き」及び「実習記録ノート」等を活用し、個別指導及び

集団指導、見学実習や施設・機関の職員等のゲストスピーカーによる講義を通じて、ソーシャルワーク実習の意義、これまで学んできた専門知識・技術および関連知識について確認をする。より実践的な技術を体得し、活用できるようにする目的で、社会福祉専門職として求められる資質、技術、倫理等、総合的に対応できる能力について確認するとともに、実習配属先の分野・領域、施設・機関等選定のための個別指導、集団指導を実施する。「ソーシャルワーク実習指導 2」においては、実習における相談援助の知識・技術の習得、実習計画書の作成など社会福祉施設・機関での配属実習に向けて具体的な事前指導を行い、必要に応じて配属施設の実習指導者からも事前指導を受ける。「ソーシャルワーク実習指導 3」では事後指導として、実習報告書（レポート）作成、実習自己評価書の作成、実習記録からの振り返り、実習記録、施設・機関の実習指導書による評価の提示と補足の助言・指導、実習報告会とその準備などを通して総括を行う。

「精神保健福祉援助実習 A・B」では、近畿地区に所在する精神科医療機関及び障害者福祉サービス事業を行う施設において 210 時間以上の配属実習を行う。「精神保健福祉援助実習 A・B」の事前指導として、「精神保健福祉援助実習指導 1」において個別指導及び集団指導、見学実習や施設・機関の職員等のゲストスピーカーによる講義等の事前学習を通じて、精神保健福祉援助実習の意義を理解し、これまで学んできた専門知識・技術および関連知識について、より具体的かつ実際に理解できるようになること、また精神保健福祉士として求められる資質、技術、倫理等、総合的に対応できる能力を修得することをめざす。「精神保健福祉援助実習指導 2」では実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、実習課題の選び方や課題達成の方法、記録の書き方等を学習しながら実習目標の設定と実習計画の作成、グループ学習や個別指導等により事前学習をすすめる。

「精神保健福祉援助実習指導 3」では個々の実習配属先の状況及び実習経験に基づき、実習報告書（レポート）作成、実習自己評価書の作成、実習記録からの振り返り、実習記録、施設・機関の実習指導書による評価の提示と補足の助言・指導、実習報告会とその準備などを通して事後学習を進める。

#### 4) 実習先との連携体制

「ソーシャルワーク実習 1・2」、「精神保健福祉援助実習 A・B」の各科目いずれにおいても、あらかじめ実習先を選定し、実習前に実習担当教員と実習先の実習指導者との間で、単なる実習の調整、スケジュール確認などの「打ち合わせ」に終わることなく、実習計画、実習者の実習課題の設定、実習中の指導、実習の総括の全過程において、教員と実習指導者らとの実質的な協働、連携が図れるように進める。実習中は、実習指導教員が実習先と連絡を取りながら、実習の状況を把握し、原則として週一回実習先において巡回指導を行う。実習後は、実習中の課題や今後の実習について打合せ及び意見や情報の交換を行う。

#### 5) 実習前の準備状況

実習にあたって定められた定期健康診断及び検便を受診するとともに、感染症への対策として実習先の規定にもとづくことのほか、社会福祉学科が実習に行く前に実施すべき体調管理等の記録や日頃の体調管理の徹底をはかる。また、実習前、実習中、実習期間後も含めて、体調不良が生じた場合を想定して行動履歴などの記録を義務づける。なお、学生



は学生教育研究災害傷害保険に加入し、実習先での怪我等に対して備えるとともに、日本看護学校協議会共済会が運営する総合補償制度「Will」にも加入し感染事故にも備える。守秘義務遵守については学生に誓約書を提出させるとともに、SNSの使用も含めて、実習指導の各科目等を通じて指導を徹底する。

#### 6) 事前・事後における指導計画

「ソーシャルワーク実習1・2」の事前指導として、「ソーシャルワーク実習指導1」において、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるように、「ソーシャルワーク実習の手引き」及び「実習記録ノート」等を活用する。個別指導及び集団指導、見学実習や施設・機関の職員等のゲストスピーカーによる講義を通じて、ソーシャルワーク実習の意義、これまで学んできた専門知識・技術および関連知識について確認をする。より実践的な技術を体得し、活用できるようにする目的で、社会福祉専門職として求められる資質、技術、倫理等、総合的に対応できる能力について、確認するとともに、実習配属先の分野・領域、施設・機関等選定のための個別指導、集団指導を実施する。「ソーシャルワーク実習指導2」においては、実習における相談援助の知識・技術の習得、実習計画書の作成など社会福祉施設・機関での配属実習に向けて具体的な事前指導を行い、必要に応じて配属施設の実習指導者からも事前指導を受ける。「ソーシャルワーク実習指導3」では事後指導として、実習報告書（レポート）作成、実習自己評価書の作成、実習記録からの振り返り、実習記録、施設・機関の実習指導書による評価の提示と補足の助言・指導、実習報告会とその準備などを通して総括を行う。

「精神保健福祉援助実習A・B」の事前指導として、「精神保健福祉援助実習指導1」において個別指導及び集団指導、見学実習や施設・機関の職員等のゲストスピーカーによる講義等の事前学習を通じて、精神保健福祉援助実習の意義を理解し、これまで学んできた専門知識・技術および関連知識について、より具体的かつ実際に理解できるようになること、また精神保健福祉士として求められる資質、技術、倫理等、総合的に対応できる能力を修得することをめざす。「精神保健福祉援助実習指導2」では実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、実習課題の選び方や課題達成の方法、記録の書き方等を学習しながら実習目標の設定と実習計画の作成、グループ学習や個別指導等により事前学習をすすめる。

「精神保健福祉援助実習指導2」では個々の実習配属先の状況及び実習経験に基づき、実習報告書（レポート）作成、実習自己評価書の作成、実習記録からの振り返り、実習記録、施設・機関の実習指導書による評価の提示と補足の助言・指導、実習報告会とその準備などを通して事後学習を進める。

#### 7) 巡回指導計画

いずれの実習においても、学科主任を中心にそれぞれの実習科目を担当する学科専任教員が実習指導担当教員となり指導に当たる。実習指導担当教員は、実習生との連絡調整、各実習施設との連絡調整、事前・実習中・事後の指導、各種書類の作成など事務的な処理も行う。巡回指導には、指導担当教員があたり指導を実施する。原則として週一回巡回指導を行うが、実習施設の状況等をふまえて適宜帰校指導も行う。実習施設の多くは、本学

がある近畿地区に所在しており、各実習施設には学生が各自で移動する。

#### 8) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設は、高齢者、障害者、児童の各福祉施設・事業所、医療機関、市町村社会福祉協議会等だが、それぞれ地域において社会福祉専門機関・施設として専門的人材を揃え運営しており、「ソーシャルワーク実習1・2」においては当該施設の社会福祉士国家資格及び社会福祉士実習指導者資格を有する職員が、また「精神保健福祉援助実習A・B」においては、当該施設の精神保健福祉士国家資格及び精神保健福祉士実習指導者資格を有する職員が、実習施設の理解と協力のもと実習指導にあたる。実習指導者は、教育的視点及び人材育成の観点で取り組む意欲ある指導者に依頼しており、実習指導者への説明等を実施して、実習指導者だけでなく施設運営者や関係者との連携と情報共有を図る。

なお、基本的には実習先の指導担当者が実習指導にあたるが、実習期間中には実習担当教員が巡回指導もしくは帰校指導により指導にあたる。

#### 9) 成績評価体制及び単位認定方法

実習における成績評価は、実習への出欠と取り組み態度、事前事後学修における積極性のほか、実習指導者による評価、実習担当教員による評価などをもとに総合的に行う。

### 7. 取得可能な資格

人文学部の各学科において取得可能な資格は以下の通りである。

#### (1) 宗教学科

卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格科目を履修することで、以下の資格を取得することが可能になる。

- ① 中学校教諭一種免許状（宗教）
- ② 高等学校教諭一種免許状（宗教）
- ③ 図書館司書〔国家資格〕
- ④ 博物館学芸員〔国家資格〕

なお、これらの資格取得は、卒業要件ではない。

#### (2) 国文学国語学科

卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格科目を履修することで、以下の資格を取得することが可能になる。

- ① 中学校教諭一種免許状（国語）
- ② 高等学校教諭一種免許状（国語）
- ③ 図書館司書〔国家資格〕
- ④ 博物館学芸員〔国家資格〕

なお、これらの資格取得は、卒業要件ではない。

### (3) 歴史文化学科

卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格科目を履修することで、以下の資格を取得することが可能になる。

- ①中学校教諭一種免許状（社会）
- ②高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
- ③図書館司書〔国家資格〕
- ④博物館学芸員〔国家資格〕

なお、これらの資格取得は、卒業要件ではない。

### (4) 心理学科

卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格科目を履修することで、以下の資格を取得することが可能になる。

- ①図書館司書〔国家資格〕
- ②博物館学芸員〔国家資格〕

上記2つの資格取得は、卒業要件ではない。

加えて、

- ③認定心理士〔公益財団法人日本心理学会認定資格〕

認定心理士は、(財)日本心理学会が定めた心理学の基礎資格で、卒業後申請し、認定されると認定証が交付される。

- ④公認心理師〔国家資格〕受験資格

卒業要件に含まれる科目を履修することで、公認心理師の受験資格の取得を可能にする。ただし、公認心理師の受験資格を取得するためには、人文学部心理学科における資格履修モデルにおいて、所定科目を履修し、卒業後に大学院に進学して所定科目を履修したうえで修了する必要がある。あるいは、法の規定する認定施設で2年間の実務に就けば国家試験の受験資格が与えられる。公認心理師資格を取得するために必要な要件については、志願者募集時、入学後及び各学年の年度初めの履修科目登録の際のオリエンテーション時に学生に周知している。

なお、臨床心理士の受験資格については、学部段階での充足要件ではなく、(公財)日本臨床心理士資格認定協会の指定する大学院（1種・2種）を修了し、所定の条件を充足すること、あるいは臨床心理士養成のための専門職大学院を修了すること、となっている。

本学大学院臨床人間学研究科は、第1種指定大学院となっている。

### (5) 社会教育学科

卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格科目を履修することで、以下の資格を取得することが可能になる。

- ①図書館司書〔国家資格〕
- ②博物館学芸員〔国家資格〕

加えて、

- ③社会教育主事〔国家資格〕任用資格

卒業要件に含まれる科目を履修することで、取得することができる。社会教育主事任用

資格の取得者には、社会教育士の称号が与えられる。なお、社会教育主事となるためには、社会教育主事任用資格を得たのち、社会教育主事補または文部科学省の告示にある職に所定の期間就くことが必要となる。

なお、これらの資格取得は、卒業要件ではない。

#### (6) 社会福祉学科

卒業要件に含まれる科目を履修することで、以下の国家試験の受験資格の取得が可能になる。

①社会福祉士国家試験受験資格

②精神保健福祉士国家試験受験資格

また、卒業要件単位に含まれる科目のほか、資格科目を履修することで、以下の資格を取得することが可能になる。

③図書館司書〔国家資格〕

④博物館学芸員〔国家資格〕

なお、これらの資格取得は、卒業要件ではない。

## 8. 入学者選抜の概要

### (1) アドミッション・ポリシーと入学者選抜

人文学部において、下記に示すアドミッション・ポリシーを定めている。

人文学部は次のような人を広く求めています。

- ①教育目標を理解し、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを活用する力を有している人
- ②人文学部で学ぶ領域への深い関心と一定の知識を備え、知的体系を意欲と主体性を持って学ぶことができる人
- ③多様な他者との相互理解に努め、積極的に社会とかかわる意欲をもつ人
- ④現代社会におけるさまざまな課題に対して、関心を持っている人
- ⑤自己実現への強い意志がある人

入学者選抜の実施においては、アドミッション・ポリシーに沿い、以下の選抜を計画している。

総合型選抜においては、「⑤自己実現への強い意志がある人」をもとめるとともに、「④現代社会におけるさまざまな課題に対して、関心を持っている人」ならびに「③多様な他者との相互理解に努め、積極的に社会とかかわる意欲をもつ人」を面接やプレゼンテーションにより、適正さや学修意欲、地域社会への貢献する意欲を確認し、選抜を行う。

学校推薦型においては、高校時代の調査書を応募基準とし、人物・成績とも優れているということで推薦されている志願者の「知識・技能」を中心に、基礎学力問題や課題小論文によって、「①教育目標を理解し、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを

活用する力を有している人」ならびに「②人文学部で学ぶ領域への深い関心と一定の知識を備え、知的体系を意欲と主体性を持って学ぶことができる人」を主に選抜を行う。

一般選抜においては、「①教育目標を理解し、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを活用する力を有している人」を基本に、選抜を行う。

## (2) 入学者の選抜方法及び募集人員の概要

入学者選抜については、「天理大学入学者選抜規程」に従って実施しており、また、入試委員会、天理スポーツ推進委員会に加え、2020年度末に学長を本部長とする入学志願者戦略本部会議を設け、志願者募集にあわせて、入試委員会とも緊密に連携しながら、入学者選抜についても検討をしている。入学者選抜の公正かつ円滑な実施をはかり、入学者選抜に関わる者の責務を明確にするために、「天理大学入学選抜実施ガイドライン」を定めている。

各学部・学科のアドミッション・ポリシーにもとづき、学校教育法第30条第2項が定める学校教育において重視すべき三要素「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」を本学が独自に実施する基礎学力試験や科目試験を始め、大学入学共通テスト、小論文、面接、出願時の書類（出身学校調査書、学校長推薦書、志願理由書など）の評価などを活用して、公正かつ妥当な方法で合否判定を行う。

本学の建学の精神や教育理念、教育研究の目的に合致し、多様な資質を持った学生を受け入れられるよう、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜など、以下の入学者選抜を通して入学者を選抜する。

総合型選抜では、高校時代の学力検査のみでは判定できない自らの強みを自身で推薦・志願し、各学部・学科の教育研究の目標に沿う人物かを選抜する「自己アピール選抜」、天理教の布教師をめざす者を対象とする「伝道者選抜」、本学の卒業生や在学生の親族を対象とする「同窓会選抜」、スポーツ活動を通して広く社会に貢献する人材を求める「天理アスリート選抜」及び「トップスポーツ選抜」がある。

学校推薦型選抜では、各学部・学科が特定の高等学校を指定して生徒の推薦を依頼する「指定校推薦」、本学と同法人系列校の「天理高等学校選抜」、及び基礎学力試験（国語・英語・数学・理科）または文章読解型の小論文、書類審査等に加えて、受験生の能力・適性・意欲・目的意識を多面的に評価する「公募推薦選抜」がある。

一般選抜では、高等学校学習指導要領に準拠し、各学部・学科の教育研究の目的に沿った教科・科目（「国語」「外国語」「地理歴史」「数学」「理科」など）の学力検査を通して入学者を選抜する「一般選抜」、本学独自の試験を実施せず、大学入学共通テストの得点を本学の判定に換算し、教科・科目は各学部・学科の特性を考慮して合否を判定する「大学入学共通テスト利用選抜」がある。「一般選抜」「大学入学共通テスト利用選抜」にあっては、成績上位者に奨学金を付与することとし、入学する学生の質の確保にも留意している。

上記以外の入学者選抜として、外国人留学生を対象とする「日本学科留学生選抜<国内・国外>」、日本学科以外の学科において募集する「外国人留学生選抜」、海外で現地教育を受け、日本に帰国した生徒を対象とする「帰国生徒選抜」、満23歳以上で3年以上の社会人の経験を有する者を対象とする「社会人選抜」、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）駐日事務所及び国連 UNHCR 協会との協働によって実施される難民高等教育事業

「UNHCR 難民高等教育プログラム (Refugee Higher Education Program – RHEP)」のパートナー大学として学生の受け入れを実施する。

本学が実施する入学者選抜の概要と、各選抜での人文学部の募集定員は以下の通りである（募集定員は括弧内）。

#### 総合型選抜（48名）

##### ○「自己アピール選抜」（33名）

総合型選抜では、高校時代の学力検査のみでは判定できない部分を自ら推薦し、各学部学科の教育研究の目的に沿う人物かを選抜

##### ○「伝道者選抜」（5名）

天理教の布教師をめざす者を対象とする選抜

##### ○「同窓会選抜」（若干名）

本学の卒業生や在学生の親族を対象とする選抜

##### ○「天理アスリート選抜」（10名）

スポーツ活動を通して広く社会に貢献する人材を求める選抜

#### 学校推薦型選抜（110名）

##### ○「指定校推薦」（18名）

各学部学科が指定した高等学校の生徒のみが高等学校長の推薦を受けて志願できる選抜

##### ○「天理高等学校選抜」（36名）

本学と同法人が設置する天理高等学校の生徒を対象に学校長の推薦を受けて志願できる選抜

##### ○「公募推薦選抜」（56名）

各学部学科が規定する基準を満たす生徒が、学校長の推薦を受けて志願し、基礎学力試験（国語・英語・数学・理科）または文章読解型の小論文、書類審査等に加え、受験生の能力・適性・意欲・目的意識を多面的に評価する選抜

#### 一般選抜（82名）

##### ○「一般選抜」（66名）

高等学校学習指導要領に準拠し、各学部学科の教研究の目的に沿った教科・科目（「国語」「外国語」「地理歴史」「数学」「理科」など）の学力検査を通して選抜

##### ○「大学入学共通テスト利用選抜」（16名）

本学独自の試験を実施せず、大学入試センターが実施する「大学入学共通テスト」の得点を本学の判定に換算し、教科・科目は学部・学科の特性を考慮して合否を判定する選抜

なお、「一般選抜」「大学入学共通テスト利用選抜」にあっては、成績上位者に奨学金を付与することとし、入学する学生の質の確保にも留意する。

その他

○「外国人留学生選抜」

出願時に国内在留もしくは海外に居住する外国人留学生を対象とし、日本学科（設置申請中）以外の学科において、専門教育の修得にあたり適切な能力を有するかを判断する選抜。選抜試験において日本語能力を測定すると共に、面接において学修意欲と日本語能力を確認する。

○「帰国生徒選抜」

海外で現地教育を受け、日本に帰国した生徒を対象とする選抜。海外で中等教育までを修めた履修証明の提出を求める。

○「社会人選抜」

満 23 歳以上で 3 年以上の社会人の経験を有する者を対象とする選抜。志願者が、大学等の高等教育機関で修得した単位を本学履修単位として読み替える希望があれば、入学確定後、履修証明書等の提出を受け、入学する学部において審議し、読み替え可能な科目については認定科目として履修したものとして承認する。但し、最大 60 単位までとする。

○「UNHCR 難民高等教育プログラム」

UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) 駐日事務所及び国連 UNHCR 協会との協働によって実施される難民高等教育事業「UNHCR 難民高等教育プログラム (Refugee Higher Education Program – RHEP)」による選抜

(3) 入学者選抜の実施体制

入学者選抜においては学長を議長とする「入試実施本部」を設置し、実施体制の確認、配布資料の確認など、入学者選抜にかかるすべてを統括し、常に入試実施マニュアルを整備し、チェック体制を強化することにより、入試に係るミスの防止に努めている。また、入学者選抜制度の立案から実施までを所管する学内組織としては入試委員会がある。

入学者選抜の実施にあたっては、入試委員を中心とする「入試実施委員会」を設置し、各選抜実施に万全を期す。なお、大学入学センターと協同で実施する「大学入学共通テスト」については、別途「大学入学共通テスト実施委員会」を組織して実施にあたる。各入学者選抜の実施に関する事務部局として、入学部長を入試事務局長とする入試事務局を編成し、全学の事務職員が選抜事務を担当する。

入学者の合否判定にあたっては、データ処理および採点についてのチェックシステムを導入して万全を期するとともに、各選抜方式に応じて合否判定のための資料を作成する。合否判定は「合否判定大綱」にのっとり慎重に行う。「合否判定大綱」の作成においては、まず入試委員会で判定大綱素案を策定し、学長を議長とする合否判定会議で判定大綱を承認したあと、各学部教授会において判定大綱を確認する。

合否判定においては、上の合否判定大綱に基づいて各学部教授会で合否判定原案を決定し、同原案を全学の合否判定会議で確認のうえ、入学者の合否を最終決定することとしており、公平な合否判定業務を実施する体制を確立している。

## 9. 教員組織の編制の考え方及び特色

### (1) 教員組織編成の考え方

人文学部の教員組織は、人文学部の教育研究の目的である、「宗教や思想などの精神文化への知識と理解を基礎に人文学の知的体系の成果を教授することにより、現代社会の絶え間ない複雑な環境変化や社会的課題に対して、主体的に判断でき能動的に行動することができる」とともに、「陽気ぐらし」世界の建設を掲げる建学の精神を具現化に資する国内外で他者への献身できる教養と態度を身につけた人間を育成する」という考えにもとづき編成する。そして、学部教育研究の目的を基盤に、各学科の設置の趣旨、特色、教育課程等を踏まえ、学生の「なりたい自分を実現する」ために寄り添い、きめ細やかな教育研究を行うとともに、人びとが文化的に豊かに生きていくための社会を支えることができる知識とスキルを修得する学びを提供し、修得した知識・スキルを活用して変化の激しい実社会に貢献できる教員組織で設置する。専任教員のうち、人文学部の各学科に所属する教員は41名で、教授27名、准教授8名、講師6名からなる。各学科において教育上主要と認める授業科目は、専任教員のうち、教授・准教授・講師が担当し、非常勤講師についても高等教育機関における十分な経験と実績を持つ教員を配置する。なお、ほかに人文学部に所属し、全学教育を担うために学科に属なさい教員は、9名（教授5名、准教授2名、講師2名）の教員を配置する。

### (2) 教員組織編成の特色

#### 1) 宗教学科

宗教学科において研究対象とする中心的な学問分野は、「世界の宗教」「宗教学・宗教研究」「天理教学」としており、専任教員6名（教授3名、准教授1名、講師2名）は天理教学を基盤として、キリスト教、仏教、イスラムなどの世界の宗教にかんする歴史、思想研究を専門とする教員組織で編成する。宗教学科の教育上主要な科目である「宗教研究基礎演習」、「宗教学概論」、「宗教史概論」、「現代宗教を読み解くゼミ」、「宗教課題演習」などの授業科目は、専任の教授、准教授が主に担当する。学科専任教員6名は、本学ほかを卒業した後、国内と海外の大学院において研究し、博士もしくは修士の学位を取得しており、専門分野における教育上、研究上の優れた知識、能力及び実績を有している。

#### 2) 国文学国語学科

国文学国語学科において研究対象とする中心的な学問分野は、「国文学」及び「国語学」であり、専任教員5名（教授3名、准教授1名、講師1名）は国文学を専門とする4名と国語学を専門とする1名からなる教員組織で編成する。国文学を専門とする4名は、時代別に、古代、中古・中世、近世、近代の各時代を専門分野としており、すべての時代を網羅している。国文学国語学科の教育上主要な科目である「国文学基礎演習」、「国語学基礎演習」、「国文学概論」、「国語学概論」、「古典／近代文学史」、「上代／中古／近世／近代文学講読」、「国語学特論」、「国文学演習（上代／中古／近世／近代）」、「国語学演習」、「卒業論文演習」などの授業科目は、専任の教授、准教授、講師が担当する。なお、国語学担当教員は中等教育における教諭経歴もあり、教科「国語」の指導法教育においても実績があ



る。学科専任教員 5 名は専門分野における教育上、研究上の優れた知識、能力及び実績を有している。

### 3) 歴史文化学科

歴史文化学科において、「歴史学コース」、「考古学コース」、「民俗学コース」を設けていることから、研究対象とする中心的な学問分野は、「歴史学（日本史）」、「考古学」及び「民俗学」であり、専任教員 7 名（教授 5 名、准教授 1 名、講師 1 名）は、歴史学を専門とする 3 名、考古学を専門とする 3 名、民俗学を専門とする 1 名からなる教員組織で編成する。歴史学（日本史）では、中世、近世、近代の各時代を専門とする教員を配置し、考古学においては、日本、中国、中東などを主なフィールドとする教員を配置、民俗学においては日本の民俗・伝承と民俗芸能を研究対象としている教員を配置する。歴史文化学科の教育上主要な科目である「歴史文化基礎演習」、「歴史学／考古学／民俗学概論」、「歴史学／考古学／民俗学研究入門」、「日本中世／近世／近代史料の講読」、「日本古代中世史／近世史／近代史演習」、「先史／原史／歴史考古学演習」、「歴史／現代民俗学演習」などの授業科目は、主に専任教員が担当する。学科専任教員 7 名は専門分野における教育上、研究上の優れた知識、能力及び実績を有している。

### 4) 心理学科

心理学科において研究対象とする中心的な学問分野は、「臨床心理学」、「心理療法」、「心理学」であり、専任教員 6 名（教授 6 名）は臨床心理学を基盤とし、心理療法、教育心理学、深層心理学、力動的療法などを専門とし、6 名全員が公認心理師（国家資格）並びに臨床心理士（公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会資格）を有している。また、地域社会におけるさまざまな要請に対応して実践活動にも従事している。心理学科の教育上主要な科目である「心理学入門演習」、「臨床心理学概論」、「臨床心理学課題演習」、「対人社会課題演習」、「心理演習」、「対人スキル演習」「心理学研究演習」などの授業科目は、専任の教授、准教授が担当する。学科専任教員 6 名は専門分野における教育上、研究上の優れた知識、能力及び実績を有している。

### 5) 社会教育学科

社会教育学科において研究対象とする中心的な学問分野は、「社会教育学」・「生涯学習論」、「生涯教育論」であり、専任教員 5 名（教授 3 名、准教授 1 名、講師 1 名）は、社会教育学・生涯学習論を専門とする 2 名、教育社会学・生涯教育論を専門とする 1 名、図書館情報学を専門とする 1 名、地域共創（まちづくり）を専門とする 1 名からなる。地域社会においてフィールドワークでの学修や、より実践的な取り組みを重視する教育が実施できる教員を配置する。社会教育学科の教育上主要な科目である「社会教育基礎演習」、「生涯学習概論」、「生涯学習支援論」、「社会教育経営論」、「文化政策学概論」、「図書館情報学概論」などの授業科目は、専任の教授、准教授が主に担当する。学科専任教員 5 名は専門分野における教育上、研究上の優れた知識、能力及び実績を有している。

### 6) 社会福祉学科

社会福祉学科において研究対象とする中心的な学問分野は、「社会福祉学」、「ソーシャルワーク」であり、専任教員 12 名（教授 7 名〔内 特任教授\* 2 名〕、准教授 4 名〔内 特任准教授\* 1 名〕、講師 1 名）は、社会福祉学を基盤として、ソーシャルワークを専門とする 2 名、地域福祉を専門とする 2 名、リハビリテーションを専門とする 2 名、障害者（児）福祉を専門とする 2 名、社会保障論を専門とする 1 名、精神保健福祉を専門とする 1 名、地域経営論を専門とする 1 名、コミュニティ論を専門とする 1 名からなる。社会福祉にかかる各フィールドの現場との連携も重視して、現場での経験をもとに実践的教育が実施できる体制を構築している。社会福祉学科の教育上主要な科目である「社会福祉概論」、「社会福祉学演習」、「ソーシャルワーク論」、「ソーシャルワーク演習／実習」、「精神保健福祉援助演習／実習」、「地域連携実習」などの授業科目は、専任の教授、准教授、講師が担当する。学科専任教員 12 名は専門分野における教育上、研究上の優れた知識、能力及び実績を有している。

〔\*特任教授、特任准教授…天理大学契約教員に関する規程第 3 条に以下のように定めている。「任期は 1 年以内とし、理事長が特に必要と認めた場合は更新することができる。ただし、契約期間は通算 5 年を超えることはできない。」  
なお、同規程では、年齢に関する基準を設けていない。〕

### （3）専任教員の年齢構成

人文学部の完成年次 3 月 31 日時点での年齢構成は専任教員の年齢構成・学位保有状況（別記様式第 3 号（その 3 の 1））の通りである。人文学部の各学科の教育研究の継続と教育研究内容の質の向上、並びに経験豊富な教員による学生指導を継続と教育研究の今後の活性化をすることに支障のない構成になるように配慮している。

### （4）完成年度以降の教員組織構想について

専任教員の高齢化は今後の教員組織において、ふさわしい状況とは言い難いが、新学部学科の完成年度（令和 9 年度末）までの教員採用計画については既に確定をしている。完成年度以後の教員組織構想について、停年延長教員の退職に伴う教員採用については、退職当該年もしくは前年度に各学科の当該分野を専攻し、学科の教育上主要な授業科目が担当できる者を対象に広く候補者を募ることとし、本学の教員専攻規程等で定める審査基準並びに年齢構成にも配慮しつつ審査したうえで、新任教員を採用し、一定期間の引き継ぎ等を実施し、教育研究の引き継ぎができるように配慮する。そのため、本学部学科の教育研究等の目的の達成には支障はない。

### （5）附帯事項に対する対応

「学校法人天理大学就業規則」において大学教員の停年は 60 歳となっているが、停年後も引き続き雇用を希望すれば、満 65 歳に達する日の年度末まで継続雇用すると定めている。

また、別途定めた天理大学再雇用規程においても満 65 歳の年度末まで専任教員として勤務することができるように定めている。同規程では、65 歳を超えて教学上特に必要と認める停年後教員を特別嘱託教授として再雇用すること、特別嘱託教授の期間の限度は満 68 歳

の年度末と定めている。

専任教員の高齢化は今後の教員組織においてふさわしい状況とは言い難いが、新学部学科の完成年度（令和9年度末）までの教員採用計画については既に確定をしている。完成年度以降については、引き続き、定年規程の趣旨を踏まえつつ、教育研究の継続性と年齢構成を考慮して、退職者の後任人事を補充していく。

## 10. 研究の実施についての考え方、体制、取り組み

本学の研究支援体制については、「天理大学ビジョン 2025」の「確かな教育力の基盤は、優れた研究（力）にあるとの考えから、外部研究資金の獲得を含む、研究支援体制を強化する。さらに、研究プロセスを明示するとともに、研究成果を積極的に公表し、研究の発信力を高める。」を基本的な考え方としている。その体制及び取り組みについては以下の通りである。

### （1）研究支援体制

学務部教育研究支援課では、科学研究費をはじめとする外部研究資金の獲得を含む教員の研究活動へのサポートを行っている。科学研究費については、応募時期に合わせ数度の説明会を開催し、採択率は令和3（2021）年度を除き、ここ数年は全国平均を上回っている。また、採択後の諸手続きや補助金の使用方法等については、関連するガイドブックを作成し、補助金の獲得にとどまらず補助金使用についてもさまざまな形で支援しており、令和4（2022）年度からは、研究者の利便性を高めるとともに不正防止にも繋がるように、コーポレートカードを導入した。さらに、令和5（2023）年度からは、バイアウト制度の導入も行い、研究者がより一層、研究活動に専念できる体制を整備している。

また、コロナ禍により急速に伸展したオンライン研究会等への対応として、学務部情報システム課の職員がネットワーク環境の整備などの技術的サポートを行っている。

### （2）情報ライブラリー

情報ライブラリーには、司書資格を有する専任職員を配置するとともに業者委託を行い、図書館専門スタッフがレファレンス業務を担うことで、学生、教員の研究活動に大いに貢献している。

また、OPACは、国立情報学研究所が提供する CiNii Books・CiNii Research や IRDB へのリンク、また国立国会図書館の NDL サーチへのリンクを備えており、学外資料へのアクセスや ILL(相互貸借)の促進を通じた教育研究に関する幅広い資料提供に寄与している。また、情報ライブラリー本館は国立国会図書館デジタルコレクションの有料送信サービス対象館となっており、卒業論文や卒業研究のための資料調査など、教育研究のための資料アクセスの機会を広げる効果に繋がっている。さらに、令和3（2021）年度からは韓国国立中央図書館とも契約をし、同館所蔵のデジタル資料の閲覧も可能になったことで、教員や学生の教育研究活動において利便性が向上した。また、学術情報リポジトリ（機関リポ

ジトリ)に搭載する学術情報の拡充とシステムの整備を図ることにより、社会の発展に資するよう教員の研究成果物の発信を積極的に進めている。

### (3) 研究制度

各教員には、個人研究費に加え、研究旅費が配分されている。また、その他にも研究活動への支援として、天理大学学術・研究・教育活動助成制度や天理大学学術出版助成制度など、資金面で支援を行う制度のほか、天理大学特別研究員制度やバイアウト制度など、教員が研究活動に専念できる環境整備も行っている。

### (4) 研究倫理体制

「天理大学における公的研究費の管理・監査に関するガイドライン」や「天理大学研究者等の行動規範」、「天理大学における公的研究費の不正使用防止計画」などを制定するとともに、毎年、コンプライアンス研修を含む研究倫理教育研修会を開催し、全専任教員、大学院生及び担当事務職員に参加を義務づけており、研究者の高い倫理観を醸成し、公正な研究活動を推進する機会としている。また、万が一、研究不正等が疑われる事案が発生した際には、「天理大学における研究活動に係る不正行為の防止に関する規程」に基づき、迅速かつ公正な対応が行える環境を整えている。

### (5) 研究活動の公表

本学ホームページにおいて、専任教員の研究活動実績等を公開し、また、採択された科学研究費の状況を公表している。さらに、年度末に発行している『天理大学学報』において、全専任教員が1年間の研究活動を報告し、『天理大学学報』を学術情報リポジトリ(機関リポジトリ)に搭載することで、広くその内容を公表している。

## 11. 施設、設備等の整備計画

### (1) 校地、運動場の整備計画

人文学部は、4年間、柚之内キャンパスで教育を行う。柚之内キャンパスは校地面積151,091.22㎡を有しており、運動場や学科会の活動スペースとしての心光館などを確保している。既に整備をされているので改めて整備をする予定はない。

### (2) 校舎等施設の整備計画

図面の通り、二～四号棟に教室、PC教室、PC自習室を共用施設として確保している。また、五号棟には、教員の個人研究室、学科学生の専有の共同研究室、共用施設として演習を行うことのできる教室を確保している。ほとんどの教室はマルチメディア対応となっている。学生の4年間の教育、教員の研究活動も支障をきたさないため、改めての整備計画はたてていない。

### (3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

附属天理図書館は約 150 万冊を所蔵し、和漢洋の貴重書（国宝 6 点、重要文化財 87 点、重要美術品 66 点）、大和を中心とした古文書類も所蔵しており、また、国内外の逐次刊行書としては約 1 万 6000 タイトルを所蔵している。附属天理図書館では、閉架式の資料提供だが、新取資料を中心に参考資料など約 3 万 5000 冊は開架式で提供している。

情報ライブラリーは約 61 万冊を所蔵し、本学の学問分野の教育研究に資する蔵書構成を基本としつつも、教養図書館として幅広い分野の基本資料を所蔵している。あわせて、基本資料を中心とした各種データベースを提供している。蔵書は情報ライブラリー本館、分室及び各学科の共同研究室に設置された共同研究室・書庫に排架され管理されているが、原則開架式を採用し、利用者が活用しやすい環境となっている。また、遠隔利用も容易な e-Book、e-Journal などの導入を進め、学術情報の充実に努めている。

国立情報学研究所が提供する学術コンテンツや他図書館とのネットワークの整備について、附属天理図書館及び情報ライブラリーとも、蔵書目録の作成・提供には国立情報学研究所の「目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）」に参加し、あわせて「相互貸借サービス（NACSIS-ILL）」にも参画している。

図書等の資料及び図書館既に整備され、教育・研究上に問題がないため、新たな整備計画はたてていない。

## 12. 管理運営及び事務組織

### （1）管理運営体制

本学では、学部ごとに独立した教授会が教授、准教授、講師、助教によって組織され、「天理大学学則」第12条および各学部「教授会規程」に基づいて、毎月 1 回開催され、適切に運営されている。

#### 教授会規程

第 3 条 教授会は、学長がつぎに掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学部学生の入学及び卒業に関する事項
- (2) 学部学生の学位授与に関する事項
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
  - ア 教員の教育研究業績の審査に関する事項
  - イ 学部の教育研究に関する組織や制度の整備・改変に関する事項
  - ウ 学部学生の生活、厚生、進路等の指導・支援及び賞罰に関する事項
  - エ 全学協議会委員及び各種委員会等の選出に関する事項
  - オ 学部又は学科の教育研究計画及び教育課程の編成に関する事項
  - カ 学部の自己点検・評価に関する事項
  - キ 教育内容および授業方法の改善に関する事項

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応

じ、意見を述べることができる。

- (1) 学則、規程、内規等の制定及び改廃に関する事項
- (2) 学部の教育・研究にかかる予算に関する事項
- (3) 学部教員の賞罰に関する事項
- (4) その他、学部の教育研究に関する事項

この規程の下、学部内の教育、研究、教員人事などの学部に関する審議事項と、学長の選任、教育、研究、学則などの全学に関する審議事項を整理し、学部内の審議事項についての最終判断が可能となり、学部内の意思形成を円滑に図ることができる。

学部長と教授会の関係については、学則第8条で学部長は教授会の代表と位置づけられている。教授会規程では学部長が議長となる。教授会に専門委員会を置くことができる。

また、学部長と学部教授会より選出された教授1名が全学協議会に出席し、学部教授会と全学協議会との連携による教学組織における全学的な意思形成の迅速化を図るようにしている。

## (2) 事務組織体制

事務組織については、法人事務局に3部、5課・室、大学事務局に7部・室、13課・室を設置している。各部署には、適切な人員を配置して円滑な運営を図っている。

事務組織は、業務内容の多様化に対応し、迅速かつ着実に執行できる大学運営組織となるように改編を行っており、近年の改編は以下のとおりとなっている。

平成28(2016)年に学生部内の「留学生支援課」を事務局直下の「国際交流センター室」に改編した。平成29(2017)年にIR体制を強化するため、学長室に「IR推進課」を新設した。さらに平成30(2018)年には学長室に「企画課」を新設し、入試広報部内の「広報課」を学長室内の「広報・社会連携課」に改編した。学生の入口と出口を強化するために「入試部」を「入学部」、学生部内の「キャリア支援課」を課から部へ改め「キャリア支援部」として設置した。教務部と教育支援部を合併して「学務部」へと改編した。また、令和5(2023)年には、医療学部の開設に伴い、「別所事務室」を設置した。

業務内容の多様化、専門化に対応するため、外部研修も含めた人材育成に努めている。また、カウンセリングルーム、学生相談室には臨床心理士(公認心理師)、情報ライブラリーには図書館司書の有資格者を配置しており、CALL教室の運営には専門の職員が常駐している。

学生の厚生補導を行うための部署としては、学生部、国際交流センター室、及びキャリア支援部がその任務に当たっている。学生部は課外活動を含む学生の諸活動のサポート、奨学金や保険のサポート、また障がいのある学生へのサポートなどを行っている。国際交流センター室は、外国人留学生の受け入れ及び学生生活支援、及び学生の海外留学や語学実習、インターンシップ、ボランティアなどのサポートに当たっている。キャリア支援部は、進路支援及び就職の斡旋、進路ガイダンスなどを行っている。

## 13. 自己点検・評価

天理大学学則第1条の2において「本大学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検評価を行う」と定めている。また、天理大学自己点検評価運営規程を定め、同規程では、「自己点検評価委員会を設置する」とし、自己点検評価委員会を設置している。同委員会は天理大学自己点検評価委員会規程に基づき、自己点検評価の基本方針の策定、自己点検評価の実施、大学認証評価機関による大学評価に関する事等について審議している。

平成10(1998)年より自己点検評価委員会を立ち上げ、自己点検評価活動を実施しているが、平成29(2017)年には、点検評価活動の進捗を統括的に管理し、内部質保証システムをより円滑に機能させるため、新たに企画評価会議を設置した。同会議は天理大学企画評価会議規程に基づき、学長が議長を務め、各学部長、各研究科長、事務局長、各事務部長、自己点検評価委員会委員長で構成している。内部質保証の改善案をはじめ、自己点検評価報告書案、自己点検・評価に関する情報公開など、内部質保証に関する事項について協議を行っている。

また、天理大学自己点検評価運営規程において「外部評価委員会を設置する」と定め、天理大学外部評価委員会を平成30(2018)年に設置した。同委員会は天理大学外部評価委員会規程に基づき、本学の設置目的に理解のある学外有識者で構成し、本学自己点検評価の結果について、検証および評価を求め、教育研究等の向上に資する提言を求めている。

これらの自己点検活動を円滑に稼働させるため、天理大学内部質保証に関する方針を制定している。同方針では、内部質保証の体制として、「学部、学科、専攻、研究科および事務部署等の各組織は、毎年度自己点検評価を行います。各組織の評価結果は、自己点検評価委員会で審議し取りまとめて、学外の有識者による評価を受け、全学的な企画評価会議に報告します。企画評価会議は自己点検評価結果に基づいて、教育の質の向上に向けた改善案を作成します。改善案は全学協議会で審議し実行されます。実行された事業については、担当部署で自己点検評価を行うことで、PDCAサイクルを回し内部質保証の体制を確立します。」と定め、方針に準じて活動を展開している。

なお、先述した同方針の内部質保証の体制に示した学部、学科、専攻、研究科および事務部署等の各組織は、毎年度の自己点検評価の実施については、つぎの通りとなる。各組織は大学基準協会が定める大学基準に基づき設定された「点検・評価項目」について「自己点検・評価のためのチェックシート」を用いて、点検評価を実施し、各組織の評価結果は、自己点検評価委員会で審議し取りまとめて、企画評価会議に報告をする。企画評価会議は自己点検評価結果に基づいて、教育の質の向上に向けた改善案を作成し、改善案は全学的な教育研究、運営にかかわる事項の審議機関である全学協議会で審議する。

認証評価については、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を令和4(2022)年度に受審し、令和5(2023)年3月に大学基準に適合していると認定された。認定期間は、令和5(2023)年4月1日から令和12(2030)年3月31日までとなった。

自己点検・評価結果の公表については、本学のホームページにおいて、第3期認証評価の「自己点検報告書2022(令和4)年度」「大学評価(認証評価)結果」、第2期認証評価の「改善報告書」「改善報告書検討結果」等を公開している。

<https://www.tenri-u.ac.jp/info/hyouka.html>

## 14. 情報の公表

本学における教育研究活動等の状況に関する情報の公表は、「教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表する」と定める学校教育法第113条の趣旨に従い、天理大学公式ホームページを中心に周知している。このホームページは学長室広報・社会連携課が管理・運用を行い、広報・社会連携委員会での審議のもと、情報発信等の一括管理を行っている。

入試関係についても、所管部署である入学部入学課と緊密な連携をとりながら、大学としての一元管理のもと、正確かつ迅速な情報発信を行っている。ホームページ及び従来の新聞広告や交通広告等に加えて SNS 等、時代に即した広報活動を強化し、さらには本学の建学の精神の柱の一つである社会貢献に関する活動を広報展開する等、情報提供体制の強化を図っている。

下記の項目については、以下のとおり公式ホームページに掲載している。

### (1) 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー

(建学の精神) (教育目標)

<http://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html>

ホーム>大学概要>天理大学について>

(教育研究上の目的及び3ポリシー)

[https://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html#set1\\_1\\_8](https://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html#set1_1_8)

ホーム>大学概要>天理大学について>大学の教育研究上の目的>

### (2) 教育研究上の基本組織に関すること

(組織図)

<http://www.tenri-u.ac.jp/info/dv457k000000049j.html>

ホーム>大学概要>天理大学について>組織図

### (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

(教職員数)

<http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html>

<http://www.tenri-u.ac.jp/teachers/index.html>

ホーム>教員・研究員一覧>

(各教員・研究者が有する学位及び業績)

<http://www.tenri-u.ac.jp/teachers/index.html>

ホーム>教員・研究員一覧>教員組織、各教員・研究者が有する学位及び業績



(4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する  
こと

(アドミッション・ポリシー)

[https://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html#set1\\_1\\_10](https://www.tenri-u.ac.jp/info/index.html#set1_1_10)

ホーム>大学概要>天理大学について>天理大学のアドミッション・ポリシー

(学部在籍学生数)

<http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html>

ホーム>教育情報の公表>4. 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること>入学定員、収容定員、在学者数

(学位授与数)

<http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html>

ホーム>教育情報の公表>4. 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること>学位授与数

(進路・就職等の状況)

<https://www.tenri-u.ac.jp/career/dv457k0000000fnf.html>

ホーム>大学概要>進路・資格・就職情報>進路・資格・就職の支援について>進路・就職状況

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<https://www.tenri-u.ac.jp/prog/index.html>

ホーム>教育・研究>天理大学の学び

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html>

ホーム>教育情報の公表>6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html>

ホーム>教育情報の公表>7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

(学費・入学金)

<https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html>

ホーム>教育情報の公表>8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

<https://tenri-u.jp/ent/proc/fee/>

ホーム>天理大学 STORIES 入学情報サイト>納付金

(学部学費一覧)

<https://www.tenri-u.ac.jp/clife/dv457k00000007w1.html>

ホーム>教育情報の公表>8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する  
こと>学費について

(学生納付金に関する情報)

<https://tenri-u.jp/ent/proc/fee/>

ホーム>天理大学 STORIES 入学情報サイト>納付金

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること  
(キャリアサポート)

<https://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html>

ホーム>教育情報の公表>9. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に  
係る支援に関すること

(10) その他(教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則  
等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・  
評価報告書、認証評価の結果等)

(自己点検・評価活動)

<https://www.tenri-u.ac.jp/info/hyouka.html>

ホーム>大学概要>大学評価>天理大学の自己点検・評価活動

(自己点検・評価結果)

<https://www.tenri-u.ac.jp/info/dv457k00000004bh-att/q3tncs0000265n99.pdf>

ホーム>大学概要>大学評価>2022 年度大学評価>天理大学自己点検・評価報告書  
2021(令和3)年度

(認証評価)

<https://www.tenri-u.ac.jp/info/dv457k00000004bh-att/q3tncs0000265n98.pdf>

ホーム>大学概要>大学評価>2022 年度大学評価>天理大学に対する大学評価(認証  
評価)結果

※上記はまとめて「教育情報の公表」としてもホームページに掲載

<http://www.tenri-u.ac.jp/disclosure/index.html>

## 15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

### (1) 実施体制

学務部教育研究支援課で FD 委員会を所管し、委員会での決定事項を受けて、さまざまな形で FD 活動を組織的かつ多面的に実施することによって、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に繋げている。

### (2) 実施内容

#### 1) オープンクラス

平成 29 (2017) 年度から、全専任教員を対象としてオープンクラスを実施しており、期間を定めて全専任教員に対し、授業公開及び授業参観を義務づけている。平成 30 (2018) 年度からは、教育研究支援課で Web システムを利用した事前準備及び期間中の管理等を行っており、参加状況を把握することで、全専任教員が必ず参加する体制を整えている。また、Web システム上で、公開教員と参加教員が相互に意見交換をし、教員同士がさまざまな気づきを得られるようにしている。なお、コロナ禍では、オンライン授業もオープンクラスの対象とし、大学全体で情報を共有しながら、学生の学びの機会を保証すべく、オンライン授業の質の向上を目指した。結果としてオープンクラスは、オンライン、オフラインを問わず、授業改善及び教育の質保証に繋がる機会となった。

#### 2) 授業評価アンケート

「学生による授業評価」アンケートを行い、その結果を学長室に伝えている。その結果をもとに、学部長会においてベストティーチャーを選出し、組織的に教員の授業改善へのモチベーションの向上に繋げている。また、「学生による授業評価」アンケートの結果は、大学のホームページにおいて公表することで、外部からの評価も授業改善に繋げられるようにしている。

#### 3) ティーチング・ポートフォリオ

令和 3 (2021) 年度より、教員が自らの授業や指導において取り組んだ教育努力を可視化し、教育改善に役立てるために、ティーチング・ポートフォリオを導入している。ティーチング・ポートフォリオについては、教育研究支援課が、グループウェアを利用した学内での共有に関するサポートを行っている。

#### 4) FD 活動報告書

学内の FD 活動に関する報告書を毎年公表することで、大学としての FD 活動を体系的に整理し、今後の教育内容等の改善を図っている。

#### 5) 教員活動報告

年度末に発行する『天理大学学報』にて、全専任教員が 1 年間の研究活動、教育活動及び社会活動を報告することになっている。各教員の活動を可視化することで、教員同士が

相互に情報交換をするとともに、刺激し合える環境を整えている。

## 16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内の取組みについて

建学の精神を具現化する教育の柱の一つとして「貢献性」を掲げる本学では、社会における貢献の基盤としてキャリア教育を重視し、総合教育科目の中にキャリア教育科目群7科目を置いている。ほとんどの学科でこれらの科目群を必修科目としており、入学年から自分自身のこれまでの活動を振り返るとともに、卒業後の進路に対する意識付けを行っている。

1年次配当の「キャリアプランニング」では、社会人として必要な労働の形態や法律に関する基礎知識を学ぶ。そして、自己を分析し、社会に貢献するために自らに必要な能力が何かを考え、各自の職業意識の醸成へとつなげる。「キャリアデザイン1・2」では、教員・公務員・企業・NGO、NPOなどの各業種から多彩なゲストスピーカーを招き、就職活動への進め方を学ぶことで、「インターンシップ」へとつないでいく。さらに、海外留学を志す学生のために、「海外インターンシップ」を体験するプログラムも用意し、国際的視野に立った人材の育成にも力を入れている。

また、総合教育科目天理スピリット科目群では、林業を体験実習として学ぶ「ローキャリアクト天理SDGs 森に生きる」や、海外でのボランティアをとおして学ぶ国際参加プロジェクト（「国際協力入門」「国際ボランティア論」「国際協力実習」等）などを用意し、さまざまな視点から現代の世界や社会に貢献できる人材養成をめざしている。

### (2) 教育課程外の取組みについて

学生が、本学の育成する人間像「揺るぎない信条を基盤に（宗教性）、多様な価値観に対する理解や世界の現状についての知識をもち（国際性）、積極的に他者に貢献し（貢献性）、共生する社会の実現に向けて、考え行動できる人間」に成長できるよう、教育課程外の取組みとして「キャリアアップ講座」を実施している。これは、現代社会に対応できる能力と資格、及び豊かな人間性を育むために展開するものである。

### (3) 適切な体制の整備について

適切な体制の整備については、「天理大学就職支援・資格取得講座に関する規則」を制定している。【資料11】

設置の趣旨等を記載した書類  
(人文学部)

資料目次

資料1. 人文学・社会科学が先導する 未来社会の共創に向けて・・・	2
資料2. 天理ビジョン 2025・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
資料3. 人文学及び社会科学の振興について（報告）・・・・・・・・	4
資料4. 救済からのスピリチュアリティへ 島藺進・・・・・・・・	5
資料5. 社会教育士ってなに？・・・・・・・・・・・・・・・・	6
資料6. 3つのポリシーの整合性・・・・・・・・・・・・・・・・	7
資料7. 人文学及び社会科学の振興について（報告）・・・・・・・・	13
資料8. 我が国の高等教育の将来像（答申）・・・・・・・・	14
資料9. 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）・	15
資料10. 人文学部履修モデル・・・・・・・・・・・・・・・・	16
資料11. 天理大学就職支援資格取得講座に関する規則・・・・・・・・	45

1. 書類の題目

人文学・社会科学が先導する 未来社会の共創に向けて

2. 出典

文部科学省

科学技術・学術審議会学術分科会

人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ

3. 引用範囲

人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議まとめ）

（1 ページから 2 ページ）

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/044/houkoku/1412891.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/044/houkoku/1412891.htm)

[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2019/02/26/1412891\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2019/02/26/1412891_02.pdf)

創立100周年に向けて

天理大学  
ビジョン  
2025

自分を超えて、未来を拓く

天理大学は、1925（大正14）年に天理外国語学校として設立され、2025年に創立100周年を迎える。建学の精神を継承し、さらに教育や研究、学生支援等の充実に努め、社会の要請に応えうる大学となるための指針として、「天理大学ビジョン2025」を宣言した。

## 建学の精神

教祖（おやさま）の教えに基づいて、  
「陽気ぐらし」世界建設に寄与する人材の養成を使命とする。

## 育成する人間像

揺るぎない信条を基盤に、多様な価値観に対する理解や世界の現状についての知識をもち、積極的に他者に貢献し、共生する社会の実現に向けて、考え行動できる人間

## 理念・使命

1925年に創設された天理大学は、2025年、創立100周年を迎える。

この1世紀にわたる時間の中で、本学は社会状況の変化に対応しながら、建学の精神を揺るがすことなく、ここ天理の地で社会において有意な人物の育成に取り組んできた。

本学が存在する意義・使命は、建学の精神にある  
『「陽気ぐらし」世界建設に寄与する人材の養成』である。

これを現代社会において言い換えるなら、あふれかえる情報とたえまない環境変化のなかで、思想や宗教などの精神文化への知識と理解をもとに、他者に貢献する心を持ち、自らの信念のもと、自分が何をなすべきかを主体的に判断し、能動的に行動のできる人間を育成することにある。

このような社会のなかでは、精神文化をはじめとする異文化への理解と寛容さは、重要な資質としてますます重要視されている。さらに、人を思い、人に寄り添うことのできる利他的な志を持つ人間も、近年の大きな災害を経験した今こそ、社会で重要な役割を担っている。

そのような思いを備える人間が今日の社会を支え、積極的に活躍することが求められている。それは本学の「宗教性」「国際性」「貢献性」という三つの柱と見事に合致する。

創立100周年を迎える2025年に向けて、建学の理念を基盤に、新たな時代の要請に正確に応えうる大学を実現し、未来を拓くことのできる人物を育成する。

## 1. 教育について

## 基本方針

「育成する人間像」を基盤に、自分が何をなすべきかを主体的に判断し、能動的に行動のできる人間を育成する。そのために、教育の内部質保証システムを整備し機能させることによって、教養教育ならびに専門的教育の質および教育方法を継続的に点検・改善し、教育力を向上・強化する。

## 行動目標

- ◆学位授与方針に沿って教育課程の目標を明確化し、具現化することによって教育力を強化する
- ◆「宗教性」はもとより、「国際性」「貢献性」を涵養する教育をさらに促進する
- ◆高大連携・接続の強化をはかることで、教育効果を向上させる
- ◆内部質保証システムのPDCAサイクルを機能させ、教育内容および教育力向上に資する環境を整備する

## 2. 学生支援について

## 基本方針

学生が個人の特性を活かしつつ、学生生活において学習やクラブ活動などに積極的に取り組むことができ、将来、社会において主体的主導的に活躍できる礎となる時間と場所を提供する。そのため、大学として学生の学習・生活支援を目的とした組織や制度を充実する。

## 行動目標

- ◆学生の修学目標が達成できるように、学習支援体制をさらに整備・強化する
- ◆学生の就業力向上に資する教育および就業の支援体制を強化する
- ◆修学の基盤となる学生生活について、奨学金制度等の整備も含めて支援体制を強化する

## 3. 研究支援について

## 基本方針

確かな教育力の基盤は、優れた研究（力）にあるとの考えから、外部研究資金の獲得を含む、研究支援体制を強化する。さらに、研究プロセスを明示化するとともに、研究成果を積極的に公表し、研究の発信力を高める。

## 行動目標

- ◆海外協定校との学術交流も含めて、研究活動の国際連携を強化する
- ◆研修休暇制度の整備による、研究力強化をめざす
- ◆研究プロセスの明示公開を進めるとともに、研究成果の発信力を強化する

## 4. 社会連携について

## 基本方針

学問の自由を堅持しつつ、社会的公器である大学として、学術研究および教育の成果を積極的に社会に還元していく。さらに、教育・研究の向上や高度化に資するよう、教育界、地域社会、地方自治体、産業界の諸機関との連携を推進し、社会から支持される大学を実現する。

## 行動目標

- ◆現職教員や学校・教育委員会等との連携をさらに強化し、教員養成機関としての資質を強化する
- ◆地域団体・地方自治体との連携強化による、地域社会の活性化を支援する
- ◆産業界との連携強化も含めて、産官学連携による社会貢献活動を積極的に進める

## 5. 管理運営体制について

## 基本方針

学長を中心とした執行部を補佐し、教学マネジメントに必要な情報の収集・分析・課題を検討するためのIR体制を強化する。さらに現行の教学意思決定システムのもと、より迅速かつ着実に執行できる大学運営組織を構築するとともに、併せてSD（職能開発）活動を計画的に実施する。

## 行動目標

- ◆学長・執行部補佐体制を整備・強化する
- ◆教職協働体制の構築を含む、事務局局体制を再構築する
- ◆SDを積極的に推進し、教職員の資質の向上と組織の現場力を強化する
- ◆安心安全な教育研究環境を提供するために、施設設備の計画的整備・改善を進める
- ◆教育研究環境を安定して支えるため、財務基盤を強化する

1. 書類の題目

人文学及び社会科学の振興について（報告）

－「対話」と「実証」を通じた文明基盤形成への道－

2. 出典

文部科学省

科学技術・学術審議会 学術分科会

3. 引用範囲

第三章人文学及び社会科学の役割・機能

第二節社会的な役割・機能

(4) 高度な「専門人」の育成

2. 人文学的な素養

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1246351.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1246351.htm)

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1246382.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1246382.htm)



1. 書類の題目

救済からのスピリチュアリティへ

－現代宗教の変容を東アジアから展望する－

著者 島 蘭 進

2. 出典

『宗教研究』84巻2輯（2010年）

3. 引用範囲

127 ページから 135 ページ

1. 社会教育士

社会教育士ってなに？

2. 出典

文部科学省

総合教育政策局地域学習推進課

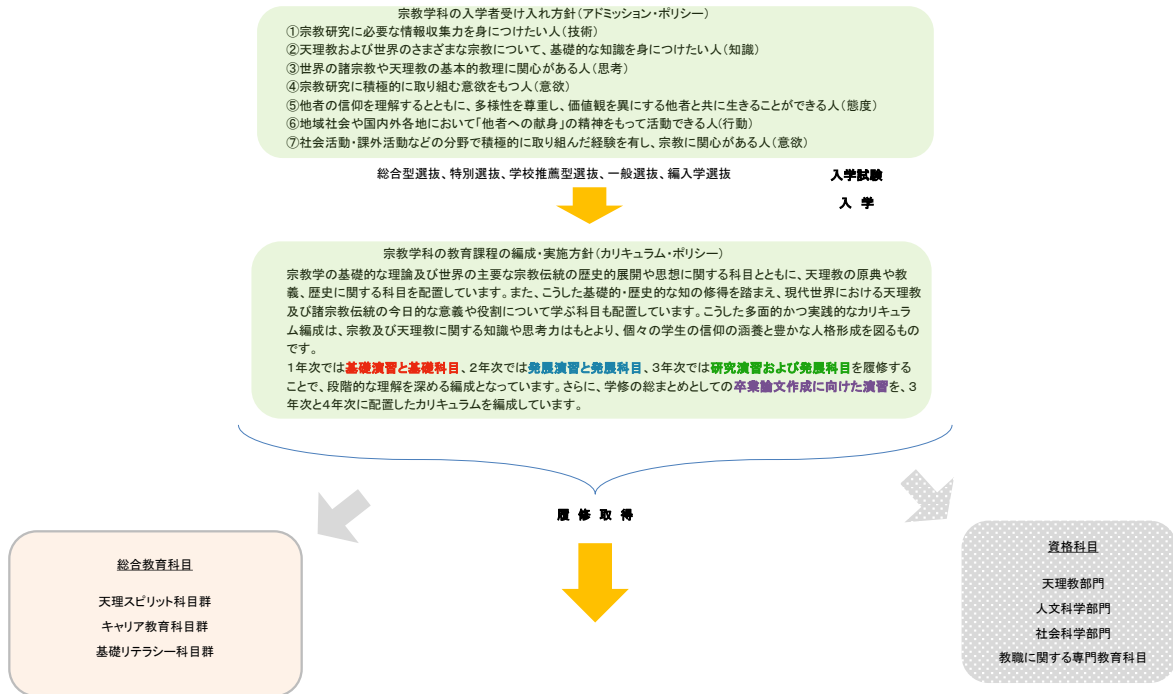
3. 引用範囲

社会教育士ってなに？

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_1/08052911/mext\\_00667.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/mext_00667.html)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_1/08052911/what.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/what.html)

人文学部宗教学科 アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー



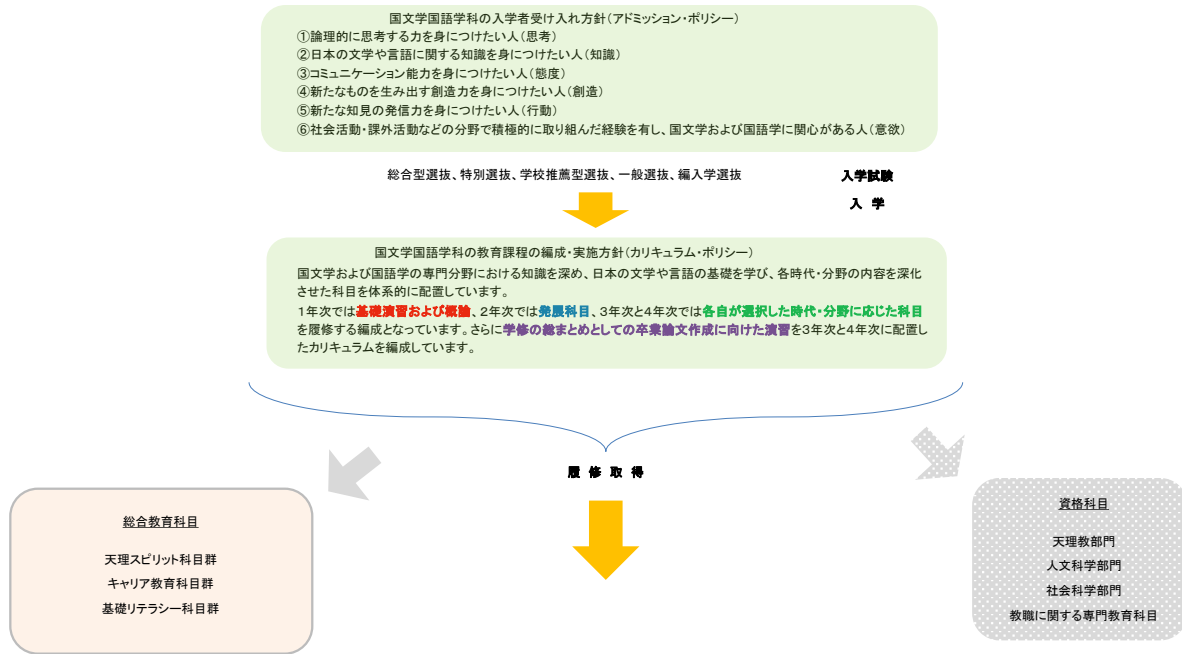
宗教学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

ディプロマポリシー		学 年				
		1年次 (入門)	2年次 (基礎)	3年次 (展開)	4年次 (研究)	
DP1	① 宗教研究に必要な日本語および外国語の能力と情報収集力を身につけている (技術)	宗教研究基礎演習	現代宗教を読み解くゼミ1 現代宗教を読み解くゼミ2	天理教学特殊講義1〔こふきを読む〕 宗教学特殊講義1〔原書で読む宗教事情〕 宗教学特殊講義2〔メディアと宗教〕		卒業論文
DP2	② 天理教および世界のさまざまな宗教について、基礎的な知識を身につけて広い見識をもつことができる (知識)	天理教学概論1 天理教学概論2 天理教祖伝概説1 天理教祖伝概説2 宗教史概説1 宗教史概説2	天理教原典学1概説〔おふでさき〕 天理教原典学2概説〔みかぐらうた〕 天理教原典学3概説〔おさしづ〕			
DP3	③ 世界の諸宗教や天理教の基本的教理に関心を持ち、情報収集と分析を通して課題を設定することができる (思考)		宗教史特殊講義1〔インドの宗教〕 宗教史特殊講義2〔日本における仏教の展開〕 宗教史特殊講義3〔キリスト教の発生と展開〕 宗教史特殊講義4〔西洋キリスト教と近代世界の黎明〕 宗教史特殊講義5〔イスラームの歴史と思想〕 宗教史特殊講義6〔現代世界とイスラーム〕	天理教史特殊講義1〔近代日本の歴史と天理教〕 天理教史特殊講義2〔天理教における布教伝道のあゆみ〕 宗教科指導法1 宗教科指導法2 宗教科指導法3 宗教科指導法4		
DP4	④ これまでに学んだ知識や研究の方法論を駆使して、宗教研究に積極的に取り組むことができる (意欲)			宗教研究演習1 宗教研究演習2 天理教学特殊講義2〔現代社会における「人だすけ」〕	宗教課題演習1 宗教課題演習2 卒業論文	
DP5	⑤ 他者の信仰を理解するとともに多様性を尊重し、価値観を異にする他者と共に生きることができる (態度)		宗教学概論1 宗教学概論2	天理教学特殊講義3〔天理教における教会の歴史と意義〕 宗教学特殊講義3〔現代世界の宗教事情〕 宗教学特殊講義4〔宗教と思想〕		
DP6	⑥ 地域社会や国内外各地において「他者への献身」の精神をもって活動することができる (行動)	伝道実習1 伝道実習2	伝道実習3 伝道実習4			

↓

学士(宗教学)取得

人文学部国文学国語学科 アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

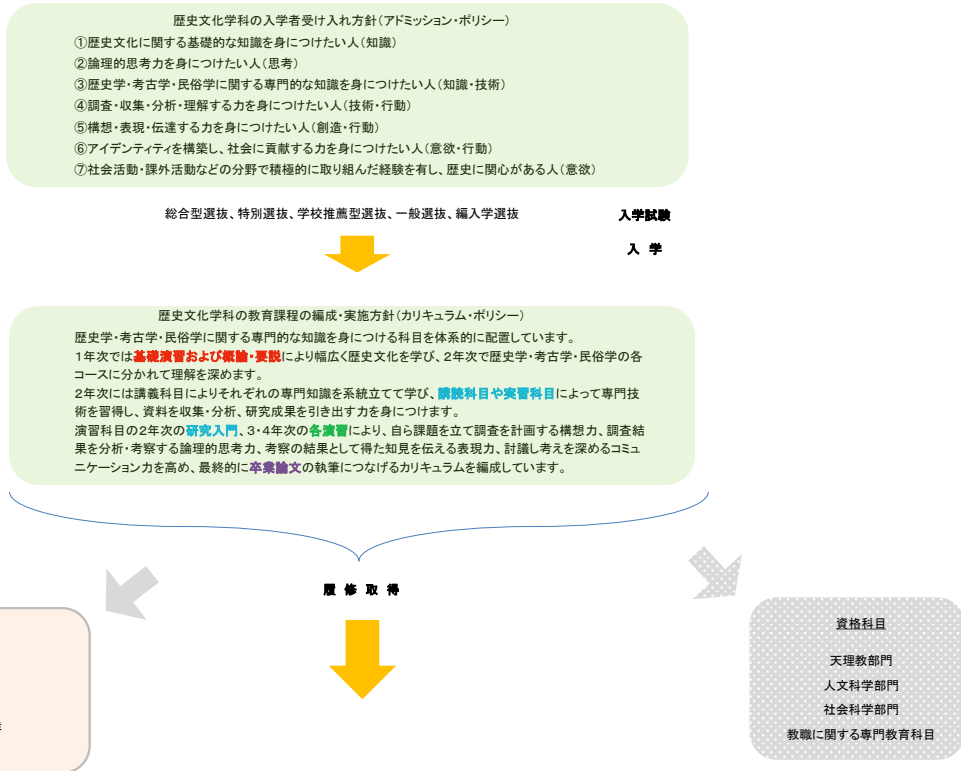


国文学国語学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー		1年次		2年次		3年次		4年次		卒業論文演習 卒業論文
DP1	① 論理的に思考する力を身につけている (思考)	国文学概論1 国語学概論1	国文学概論2 国語学概論2	上代文学特論1 中古文学特論1 中世文学特論1 近世文学特論1 近代文学特論1 古典文学史1 近代文学史1	上代文学特論2 中古文学特論2 中世文学特論2 近世文学特論2 近代文学特論2 古典文学史2 近代文学史2					
DP2	② 日本の文学や言語に関する知識を身につけている (知識)	国文学基礎演習 上代文学講読1 中古文学講読1 中世文学講読1 近世文学講読1 近代文学講読1 国語学基礎演習	上代文学講読2 中古文学講読2 中世文学講読2 近世文学講読2 近代文学講読2 漢文学基礎演習	国語学特論(言語構造)1 国語学特論(言語運用)1 国語学特論(言語実態)1 漢文学特論1	国語学特論(言語構造)2 国語学特論(言語運用)2 国語学特論(言語実態)2 漢文学特論2			卒業論文演習 卒業論文		
DP3	③ コミュニケーション能力を身につけている (態度)			天理図書館資料論(上代・中古) 天理図書館資料論(中世・近世)		国語科指導法1 国語科指導法3	国語科指導法2 国語科指導法4			
DP4	④ 新たなものを生み出す創造力を身につけている (創造)			実用国語表現 音声言語		国文学演習(上代)1 国文学演習(中古)1 国文学演習(近世)1 国文学演習(近代)1 国語学演習(言語構造)1 国語学演習(言語運用)1	国文学演習(上代)2 国文学演習(中古)2 国文学演習(近世)2 国文学演習(近代)2 国語学演習(言語構造)2 国語学演習(言語運用)2			
DP5	⑤ 新たな知見の発信力を身につけている (行動)							卒業論文演習 卒業論文		



学士(国文学)  
取得

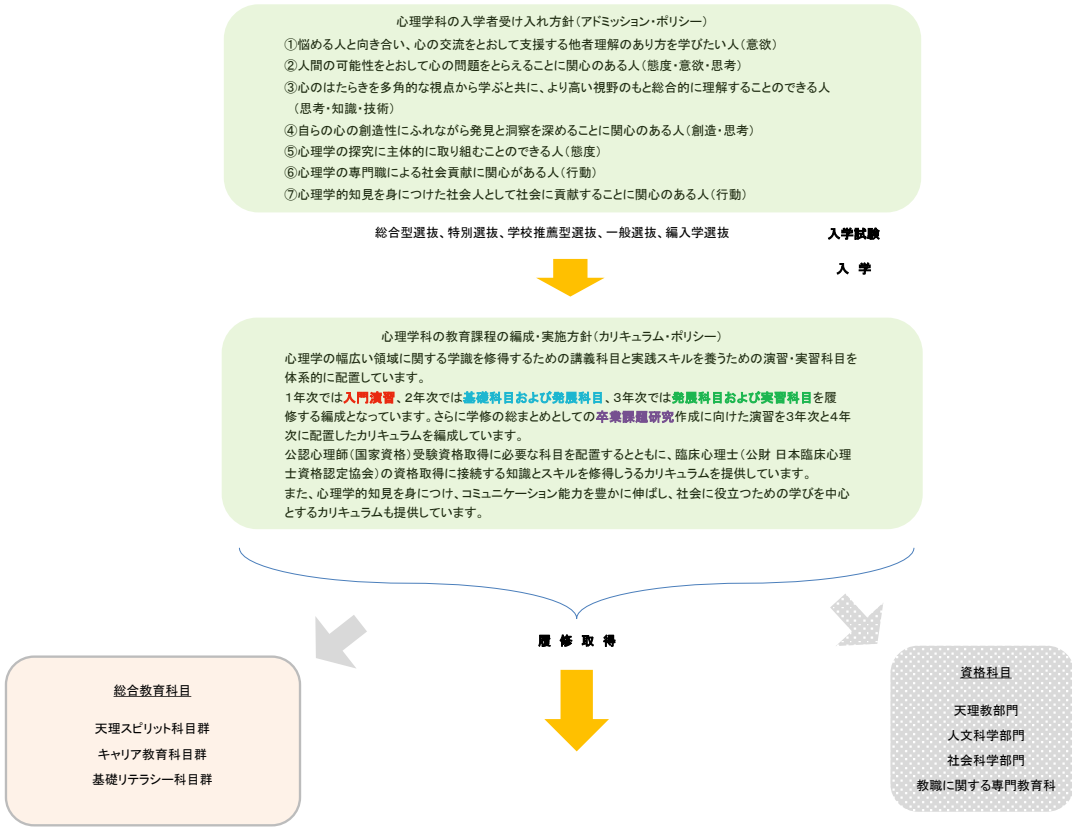


歴史文化学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー		学 年			
		1年次	2年次	3年次	4年次
DP1	①歴史文化に関する基礎的な知識を身につけている(知識)	歴史学概論 民俗学概論 東洋史要説 日本考古学要説 くずし字入門 自然地理学概論 美術史 考古学概論 日本史要説 西洋史要説 日本民俗学要説 人文地理学概論 地誌	大和の文化遺産を学ぶ1 大和の文化遺産を学ぶ2 大和の文化遺産を学ぶ3		
DP2	②論理的思考力を身につけている(思考)		文化財行政学 文化文書史の研究1 文化文書史の研究2 日本中世史の研究 日本近世史の研究 日本近代史の研究 東アジア史の研究 旧石器・縄文時代の考古学 弥生時代の考古学 飛鳥・奈良時代の考古学 東アジアの考古学 民俗学と現代社会 フィールドワークからみる民俗文化 民話と伝承 文化文書史の研究1 日本古代史の研究 日本中世史の研究 日本近世史の研究 日本近代史の研究 東アジア史の研究 古墳時代の考古学 中近世の考古学 西アジアの考古学 生活文化史 宗教民俗学	遺跡の保存と活用 英語文献講読1 英語文献講読2	
DP3	③歴史学・考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につけている(知識・技術)		文化財科学・保存科学 日本古代史料の講読1 日本中世史料の講読1 日本近世史料の講読1 日本近代史料の講読1 遺跡探査学 古文書学 日本古代史料の講読2 日本中世史料の講読2 日本近世史料の講読2 日本近代史料の講読2 歴史学実習2 民俗学実習1	歴史学実習3 歴史学実習4 考古資料の情報化 博物館資料論 博物館資料保存論	
DP4	④調査・収集・分析・理解する力を身につけている(技術・行動)	歴史文化基礎演習	歴史学研究入門1 考古学研究入門1 考古学実習1 考古学実習3 民俗学研究入門1 民俗学実習1 民俗学実習3	考古学実習4 民俗学実習4	日本古代中世史演習1・2・3・4 日本近世史演習1・2・3・4 日本近代史演習1・2・3・4 先史考古学演習1・2・3・4 原史考古学演習1・2・3・4 歴史考古学演習1・2・3・4 歴史民俗学演習1・2・3・4 現代民俗学演習1・2・3・4
DP5	⑤構想・表現・伝達する力を身につけている(創造・行動)		博物館学概論 博物館教育論 博物館学概論 博物館経営総論 博物館情報・メディア論	社会科指導法1 社会・地理歴史科指導法1 社会科指導法2 社会・地理歴史科指導法2	
DP6	⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につけている(意欲・行動)			博物館展示論	卒業論文

↓

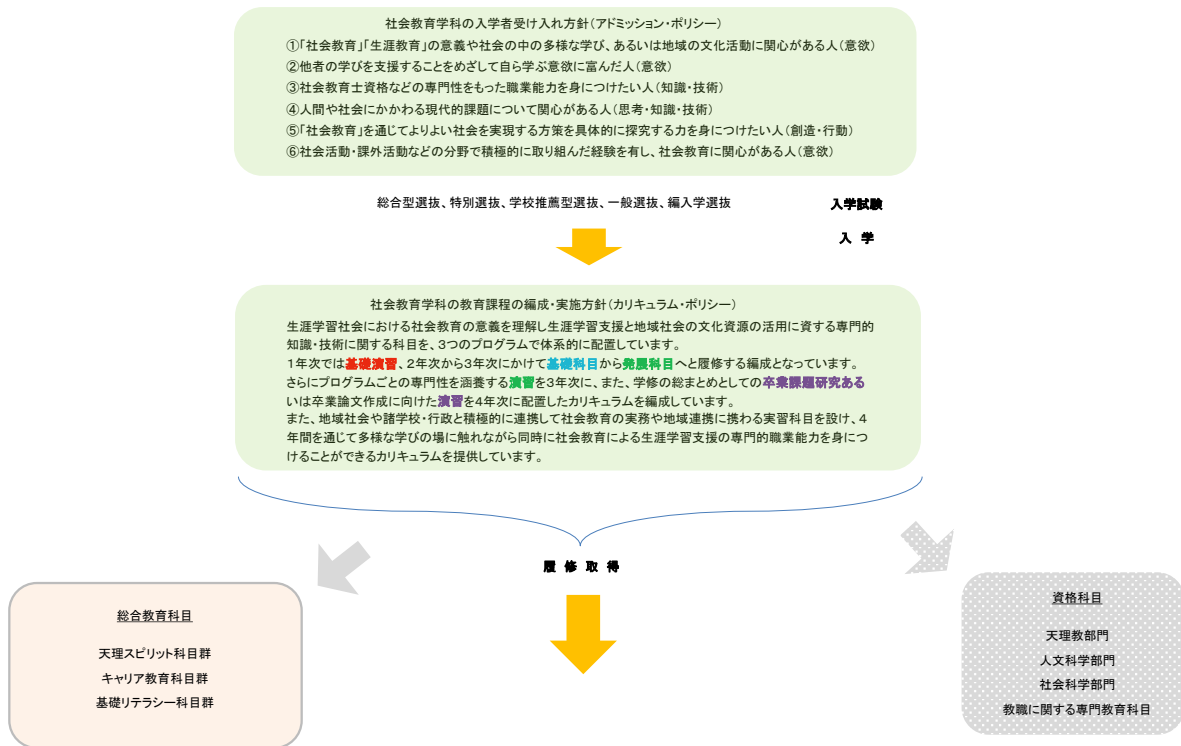
学士(歴史文化学)  
取得



心理学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー		学 年	1年次 (基礎科目)	2・3年次 (基礎科目・発展科目)	3年次 (発展科目・実習科目)	4年次 (現場実習・課題研究)	
DP1 ①悩める人と向き合い、心の交流をとおして支援する他者理解のあり方を理解できる (意欲)			臨床心理学概論 公認心理師の職責	感情・人格心理学 社会・集団・家族心理学 障害者・障害児心理学 心理的アセスメント1 心理的アセスメント2 健康・医療心理学 司法・犯罪心理学 産業・組織心理学 人体の構造と機能及び疾病 精神疾患とその治療1 精神疾患とその治療2	心理学的支援法 福祉心理学 教育・学校心理学 関係行政論	心理実習	
			心理学概論 臨床心理学概論	障害者・障害児心理学	対人スキル演習 対人社会課題演習	心理学研究演習1	
			心理学概論 臨床心理学概論 公認心理師の職責	心理学研究法 心理学統計法 心理学実験法 知覚・認知心理学 学習・言語心理学 感情・人格心理学 神経・生理心理学 社会・集団・家族心理学 発達心理学 障害者・障害児心理学 心理的アセスメント1 心理的アセスメント2 健康・医療心理学 司法・犯罪心理学 産業・組織心理学 人体の構造と機能及び疾病 精神疾患とその治療1 精神疾患とその治療2	心理学的支援法 福祉心理学 教育・学校心理学 関係行政論 対人スキル演習 対人社会課題演習	多変量解析法 心理実習 心理学研究演習2	
			④自らの心の創造性にふれながら発見と洞察を深めること ができる (創造・思考)		感情・人格心理学 社会・集団・家族心理学 障害者・障害児心理学	対人スキル演習 対人社会課題演習	卒業課題研究
			⑤心理学の探究に主体的に取り組むこと ができる (態度)		心理学研究法 心理学統計法 心理学実験法 社会・集団・家族心理学	心理学的支援法 対人スキル演習 対人社会課題演習	多変量解析法 心理実習



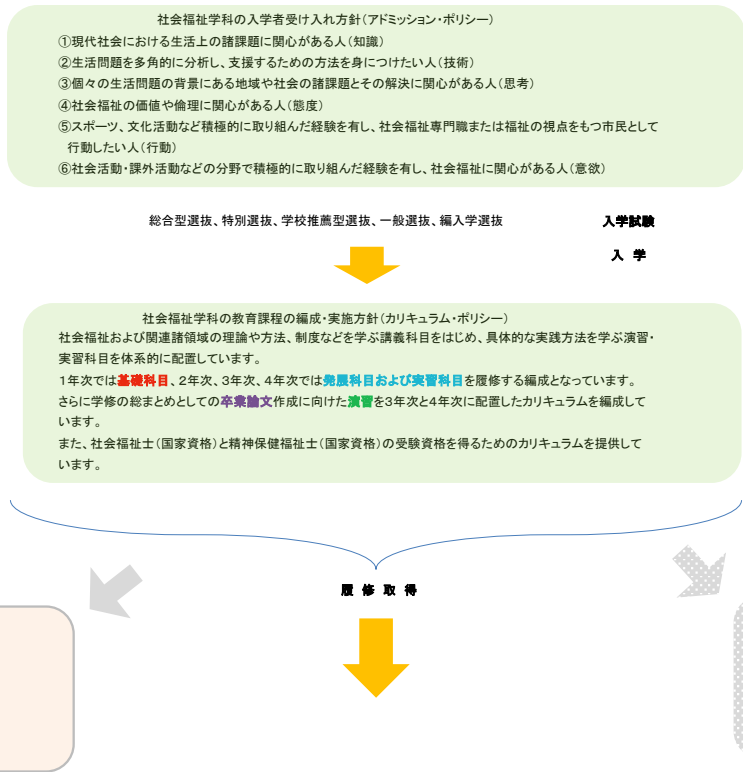


社会教育学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

学 年		1年次 (入門)	2年次 (基礎)	3年次 (発展)	4年次 (研究)	
ディプロマポリシー	DP1	①自ら生涯にわたって学び続ける意欲と態度を涵養する (意欲・態度)	社会教育基礎演習1 社会教育基礎演習2 臨床文化施設実習			
	DP2	②人間や社会に関わる現代的課題について理解を深め、社会の中の多様な学びに目を向けることができる (思考・態度・思考)	生涯学習概論1 生涯学習概論2 教育学概論1 図書館情報学概論	生涯学習支援演習1 生涯学習支援演習2 生涯学習支援論1 生涯学習支援論2 文化政策学概論		
	DP3	③生涯学習社会の形成に資する社会教育の知識を身につけている (知識)		社会教育特講1[現代社会と社会教育] 社会教育特講2[シティズンシップと公共性] 生涯学習特論1[文化芸術実践論] 生涯学習特論2[ビジネスアプリケーションと生涯学習] 生涯学習特論3[NPOとまちづくり] 生涯学習特論4[地域社会と学校経営]	社会教育特講3[文化政策と社会教育/文化資源とまちづくり] 社会教育特講4[地域生涯スポーツと社会教育] 生涯学習特論5[地域文化教育政策と法制度] 生涯学習特論6[プロジェクトマネジメント論] 生涯学習特論7[知的財産管理論] 生涯学習特論8[ICTと社会教育]	
	DP4	④社会教育の専門性をもった職業能力を身につけ、社会教育主事、社会教育士、その他の学習支援者として活躍できるようになる (知識・技術・行動)	図書館サービス概論	図書館情報学基礎特論 図書館とメディアの歴史	社会教育経営論1 社会教育経営論2 社会教育経営論3 社会教育経営論4 文化スポーツ支援論1 文化スポーツ支援論2 社会教育実習1 社会教育実習2 社会教育演習1(コーディネーター支援) 社会教育演習2(コーディネーター支援) 社会教育演習1(文化行政) 社会教育演習2(地域文化共創) 社会教育演習1(文化スポーツ支援) 社会教育演習2(文化スポーツ支援)	
	DP5	⑤「教育・学習・文化・社会」の観点から、よりよい社会を実現する具体的な方策を探究できる (創造・行動)	野外教育実習 プロジェクト実習1 プロジェクト実習2	プロジェクト実習3 プロジェクト実習4 地域協働実習	地域産業論 地域金融論 広報・PR論 プロジェクト実習5 プロジェクト実習6	社会教育課題研究1 社会教育課題研究2 卒業課題研究 卒業論文

↓

学士(社会教育学)  
取 得



社会福祉学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

ディプロマポリシー		1年次 (入門)	2年次 (基礎)	3年次 (発展)	4年次 (研究)	卒業 社会 福祉 学 演 習 4 文
DP1	①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につけている(知識)	社会福祉概論1 社会福祉概論2 社会学と社会システム 障害者福祉論 児童福祉論 高齢者福祉論 現代家族論	社会福祉学演習1 社会保険論1 社会福祉演習2 社会保険論2 医療福祉論 刑事司法と福祉 精神医学と精神医療1 精神医学と精神医療2 精神保健福祉の原理1 精神保健福祉の原理2	社会福祉学演習2	社会福祉学演習3	
DP2	②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につけている(技術)		ソーシャルワーク論4 人体の構造と機能及び疾病 ソーシャルワーク演習1 ソーシャルワーク演習2 ソーシャルワーク実習指導1 地域連携実習 現代の精神保健課題と支援1 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉援助演習1 精神保健福祉援助実習指導1	ソーシャルワーク演習4 ソーシャルワーク実習指導2 ソーシャルワーク実習指導3 ソーシャルワーク理論と方法(専門)1 精神保健福祉援助演習2 精神保健福祉援助実習指導2 精神保健福祉援助実習指導3	福祉経営論	
DP3	③個々の生活問題の背景にある地域や社会の諸課題とその解決について考えることができる(思考)		地域福祉と包括的支援体制1 地域福祉と包括的支援体制2 ソーシャルワーク実習1 医療福祉論 現代の精神保健課題と支援2 精神保健福祉制度論	社会福祉調査法 ソーシャルワーク演習3 ソーシャルワーク実習2 ソーシャルワーク理論と方法(専門)2 社会福祉学演習2	ソーシャルワーク演習5 社会福祉学演習3	
DP4	④社会福祉の価値や倫理を身につけている(態度)	ソーシャルワーク論1 ソーシャルワーク論2 天理教社会福祉論	ソーシャルワーク論3 権利擁護を支える法制度 精神障害リハビリテーション論	ソーシャルワーク演習4 精神保健福祉援助演習3		
DP5	⑤実践力を有する社会福祉専門職または福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)		地域福祉と包括的支援体制1 地域福祉と包括的支援体制2 ソーシャルワーク実習1 地域連携実習	ソーシャルワーク論5 ソーシャルワーク論6 ソーシャルワーク実習2 精神保健福祉援助実習A	福祉経営論 ソーシャルワーク演習5 精神保健福祉援助実習B	

**学士(社会福祉学)  
取得**



1. 書類の題目

人文学及び社会科学の振興について（報告）  
－「対話」と「実証」を通じた文明基盤形成への道－

2. 出典

文部科学省  
科学技術・学術審議会 学術分科会

3. 引用範囲

第二章人文学及び社会科学の学問的特性  
第一節対象  
第三章人文学及び社会科学の役割・機能  
(1) 理論的統合  
3. 「人間」の研究

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1246351.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1246351.htm)

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1246381.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1246381.htm)

1. 書類の題目

我が国の高等教育の将来像（答申）

2. 出典

文部科学省

中央教育審議会

3. 引用範囲

第 2 章 新時代における高等教育の全体像

3 高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化

(2) 大学の機能別分化

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm)

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1335594.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1335594.htm)

1. 書類の題目

2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）

2. 出典

文部科学省

中央教育審議会

3. 引用範囲

I. 2040 年の展望と高等教育が目指すべき姿－学修者本位の教育への転換－

1. 2040 年に必要とされる人材と高等教育が目指すべき姿

（3 ページから 4 ページ）

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm)

[https://www.mext.go.jp/content/20200312-mxt\\_koutou01-100006282\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200312-mxt_koutou01-100006282_1.pdf)

人文学部履修モデル

人文学部宗教学科

伝道課程修了 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
総合教育	天理スピリット科目群	<b>英語 1</b>	1	<b>英語 2</b>	1	<b>論学の精神と天理大学のあゆみ</b>	2		
	キャリア教育科目群	多文化理解と言語 (各言語)	2						
		健康スポーツ科学	2	健康スポーツ科学 2	2				
	基礎リテラシー科目群	キャリアプランニング	2						
一般教養科目群		<b>基礎ゼミナール 1</b>	2	<b>基礎ゼミナール 2</b>	2				
		<b>データサイエンス・AI入門</b>	2	コンピュータ入門	2				
		日本国憲法	2						
		法学	2	政治学	2				
		倫理学 1	2	倫理学 2	2				
宗教学科専攻科目		<b>天理教学概論 1</b>	2	<b>天理教学概論 2</b>	2	<b>宗教学概論 1</b>	2	<b>宗教学概論 2</b>	2
		<b>天理教祖伝概観 1</b>	2	<b>天理教祖伝概観 2</b>	2	<b>現代宗教を眺み解くゼミ 1</b>	2	<b>現代宗教を眺み解くゼミ 2</b>	2
		<b>宗教史概観 1</b>	2	<b>宗教史概観 2</b>	2	天理教原典学 1 概説	2	天理教原典学 2 概説	2
		<b>宗教研究基礎演習</b>	2			天理教原典学 3 概説	2	天理教原典学 3 概説	2
		<b>伝道実習 1</b>	1	<b>伝道実習 2</b>	1	宗教史特殊講義 1	2	宗教史特殊講義 2	2
						宗教史特殊講義 3	2	宗教史特殊講義 4	2
						<b>伝道実習 3</b>	1	<b>伝道実習 4</b>	1
他学部・他学科開放科目							天理教社会福祉論	2	
資格科目(含卒業要件)									
単位数(累計)			44 (44)			41 (85)		27 (112)	12 (124)
資格科目									

赤:ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青:明朝体は推奨科目

人文学部宗教学科  
宗教文化士取得 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次								
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数					
総合教育	天理スピリット科目群															
	キャリア教育科目群	英語1 多文化理解と言語(各言語) 健康スポーツ科学1 キャリアプランニング	1 2 2 2	英語2 健康スポーツ科学2	1 2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2									
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 2	基礎ゼミナール2 コンピュータ入門	2 2	キャリアデザイン1 基礎から分かる現代社会 情報処理	2 2 2	キャリアデザイン2 基礎から分かる近代史	2 2							
	一般教養科目群	日本国憲法 法学 倫理学1	2 2 2	政治学 倫理学2	2 2	哲学概論1 哲学概論2	2 2	宗教と芸術	2							
宗教学科専攻科目		天理教学概論1 天理教祖伝概観1 宗教史概観1 宗教研究基礎演習 伝道実習1	2 2 2 2 1	天理教学概論2 天理教祖伝概観2 宗教史概観2 伝道実習2	2 2 2 1	宗教学概論1 現代宗教を眺み解くゼミ1 天理教原典学1概説 天理教原典学3概説 宗教史特殊講義1 宗教史特殊講義3 伝道実習3	2 2 2 2 2 2 1	宗教学概論2 現代宗教を眺み解くゼミ2 天理教原典学2概説 宗教学特殊講義1 宗教学特殊講義3 宗教史特殊講義2 宗教史特殊講義4 伝道実習4	2 2 2 2 2 2 1	宗教研究演習1 天理教史特殊講義1 宗教学特殊講義2 宗教学特殊講義4 宗教史特殊講義5 宗教史特殊講義6	2 2 2 2 2 2	宗教研究演習2 宗教研究演習1 卒業論文 天理教史特殊講義2	2 6 2 2	宗教研究演習2	2	
	他学部・他学科開放科目			大和の文化遺産を学ぶ1	2			文化人類学概論	2	社会調査法入門	2	宗教民俗学 海外インターンシップ1	2 1	民俗学概論	2	
	資格科目(含卒業要件)															
	単位数(累計)			44 (44)			42 (86)				24 (110)				17 (127)	
	資格科目															

赤 ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目

人文学部宗教学科  
教職(宗教) 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次						
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数					
総合教育	天理スピリット科目群			神学の精神と天理大学のあゆみ	2									
	キャリア教育科目群	英語1	1	英語2	1									
		多文化理解と言語(各言語)	2	健康スポーツ科学1	2	健康スポーツ科学2	2							
	基礎リテラシー科目群	キャリアプランニング	2	基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2							
データサイエンス・AI入門		2	コンピュータ入門	2	情報処理	2								
一般教養科目群	日本国憲法	2				民法1	2	民法2	2					
	法学	2				行政法1	2	行政法2	2					
	倫理学1	2												
		2												
宗教学科専攻科目	天理教学概論1	2	天理教学概論2	2	宗教学概論1	2	宗教学概論2	2	宗教学研究習1	2	宗教学研究習2	2		
	天理教祖伝概観1	2	天理教祖伝概観2	2	現代宗教を眺み解くゼミ1	2	現代宗教を眺み解くゼミ2	2	天理教学特殊講義1	2	天理教学特殊講義2	2	卒業論文	6
	宗教史概観1	2	宗教史概観2	2	天理教原典学1概説	2	天理教原典学2概説	2	天理教史特殊講義1	2	天理教史特殊講義2	2	天理教史特殊講義3	2
	宗教学研究基礎演習	2			天理教原典学3概説	2			天理教史特殊講義1	2	天理教史特殊講義2	2	天理教史特殊講義3	2
	伝道実習1	1	伝道実習2	1	宗教史特殊講義1	2	宗教史特殊講義2	2	宗教科指導法1	2	宗教科指導法2	2	宗教科指導法3	2
					宗教史特殊講義3	2	宗教史特殊講義4	2	宗教科指導法3	2	宗教科指導法4	2		
					伝道実習3	1	伝道実習4	1						
他学部・他学科開放科目														
資格科目(含卒業要件)	教職論	2		教育原理	2	学校教育社会学	2	教育概論	2	道徳の理論及び指導法	2			
				学校教育心理学	2									
単位数(累計)			46 (46)			34 (80)				32 (112)		12 (124)		
資格科目	特別な支援の必要な生徒の理解	2		教育史	2	教育相談の理論及び方法	2	教育実習講義	1	介護等体験	1	教職実践演習(中・高)	2	
				生徒指導・進路指導の理論及び方法	2	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	教育方法学(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	2	教育実習1	2	教育実習2	2	
				学校教育支援	2	教育史特論	2							
				臨床教育学特論	2	人権教育論1	2							

赤 ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目

人文学部国文学国語学科

卒業要件 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次							
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数				
総合教育	天理スピリット科目群	天理教義観1	2	天理教義観2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2								
		英語1	1	英語2	1										
		多文化理解と言語(各言語)	2												
		健康スポーツ科学1	2	健康スポーツ科学2	2										
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	2			キャリアデザイン1	2	キャリアデザイン2	2						
		基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2	データサイエンス・AI応用	2	データテラシー	2						
	基礎リテラシー科目群	データサイエンス・AI入門	2	コンピュータ入門	2	情報処理	2								
		日本国憲法	2			法学	2	政治学	2	民法1	2				
						倫理学1	2	心理学2	2	行政法1	2				
						哲学概論1	2	世界の文学2	2	ジェンダーセクシュアリティ	2				
国文学国語学科専攻科目	国文学基礎演習	2			上代文学特論1	2	近世文学特論2	2	国文学演習(上代)1	2	国文学演習(近世)2	2	卒業論文演習	4	
	国文学概論1	2	国文学概論2	2	中古文学特論1	2	近代文学特論2	2	国文学演習(中古)1	2	国文学演習(近代)2	2	卒業論文	6	
	上代文学講読1	2	近世文学講読2	2	古典文学史1	2	近代文学史2	2	国語学演習(言語構造)1	2	国語学演習(言語実態)2	2			
	中古文学講読1	2	近代文学講読2	2	国語学特論(言語構造)1	2	国語学特論(言語実態)2	2	国語学演習(言語運用)2	2	大和の地域文化論(言語)	2			
	国語学基礎演習	2	国文学基礎演習	2	大和の地域文化論(文学)	2	国語学特論(言語運用)2	2	天理図書館資料論(上代・中古)	2	天理図書館資料論(中世・近世)	2			
	国語学概論1	2	国語学概論2	2	漢文学特論1	2	漢文学特論2	2	文章表現1	2	文章表現2	2			
					表用国語表現	2	音声言語	2							
	他学部・他学科開放科目														
	資格科目(含卒業要件)														
	単位数(累計)		44(44)			44(88)			26(114)				10(124)		
資格科目															

赤 ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目

人文学部国文学国語学科  
教職(国語)履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次							
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数						
総合教育	天理スピリット科目群	天理敬虔観 1	2	天理敬虔観 2	2	論学の本質と天理大学のあゆみ	2								
	キャリア教育科目群	英語 1	1	英語 2	1										
		多文化理解と言語(各言語)	2	健康スポーツ科学1	2	健康スポーツ科学2	2								
	基礎リテラシー科目群	(キャリアプランニング)		基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2	キャリアデザイン1	2	キャリアデザイン2	2				
一般教養科目群	データサイエンス・AI入門	2	コンピュータ入門	2	情報処理	2	データサイエンス・AI応用	2	データリテラシー	2					
		日本国憲法	2			(心理学1)		(心理学2)		民法1	2	民法2	2		
						(倫理学1)		(倫理学2)		統計学1	2	統計学2	2		
						(人権と差別1)		(人権と差別2)							
国文学国語学科専攻科目		国文学基礎演習	2	国文学概論 1	2	上代文学特論 1	2	近世文学特論 2	2	国文学演習(上代) 1	2	国文学演習(近世) 2	2	本業論文演習	4
		国文学概論 2	2	国文学講義 1	2	中代文学特論 1	2	近代文学特論 2	2	国文学演習(中古) 1	2	国文学演習(近代) 2	2	本業論文	6
		上代文学講義 2	2	中代文学講義 1	2	古典文学史 1	2	近代文学史 2	2	国語学演習(言語構造) 1	2	国語学演習(言語実態) 2	2		
		中古文学講義 2	2	国語学特論(言語構造) 1	2	国語学特論(言語実態) 2	2	国語学特論(言語運用) 2	2	国語学演習(言語運用) 2	2	大和の地域文化論(言語)	2		
		国語学基礎演習	2	漢文学基礎演習	2	大和の地域文化論(文学)	2	国語学特論(言語運用) 2	2	(文章表現1)		(文章表現2)			
		国語学概論 1	2	国語学概論 2	2	(漢文学特論1)	2	(音声言語)		国語科指導法 1	2	国語科指導法 2	2		
					(実用国語表現)				国語科指導法 3	2	国語科指導法 4	2			
他学部・他学科開放科目															
資格科目(含卒業要件)				教育原理	2	学校教育社会学	2								
				人権教育論 1	2	人権教育論 2	2								
単位数(累計)			44 (44)			40 (84)				32 (116)				10 (126)	
資格科目		教職論	2			(教育史)		学校教育心理学	2	教育課程論	2	道徳の理論及び指導法	2	教職実践演習(中・高)	2
		特別な支援の必要な生徒の理解	2			教育相談の理論及び方法	2	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2	教育方法学(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	2	教育実習 1	2	教育実習 2	2
				(学校教育支援)		(教育史特論)		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	教育実習講義	1	介護等体験	1		
								(臨床教育学特論)							

赤 ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目



人文学部国文学国語学科  
図書館司書 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次							
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数				
総合教育	天理スピリット科目群	天理敬観視 1	2	天理敬観視 2	2	論学の本質と天理大学のあゆみ	2								
	キャリア教育科目群	英語 1	1	英語 2	1										
		多文化理解と言語 (各言語) 健康スポーツ科学 (キャリアアブランチング)	2	健康スポーツ科学 2	2	キャリアデザイン 1	2	キャリアデザイン 2	2						
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール 1	2	基礎ゼミナール 2	2	データサイエンス・AI応用	2	データリテラシー	2						
一般教養科目群	データサイエンス・AI入門	2	コンピュータ入門	2	情報処理	2									
	一般教養科目群	(民法 1)		(行政法 2)		社会学 (世界の文学 1) (近現代の遺産と未来)	2	政治学 (世界の文学 2)	2	民法 1 行政法 1 日本語A	2	民法 2 行政法 2 障害学	2		
国文学国語学科専攻科目	国文学基礎演習	2	国文学概論 1	2	上代文学特論 1	2	近世文学特論 2	2	国文学演習 (上代) 1	2	国文学演習 (近世) 2	2	本業論文演習	4	
	国文学概論 1	2	国文学概論 2	2	中古文学特論 1	2	近代文学特論 2	2	国文学演習 (中古) 1	2	国文学演習 (近代) 2	2	本業論文	6	
	上代文学講義 1	2	近世文学講義 2	2	古典文学史 1	2	近代文学史 2	2	国語学演習 (言語構造) 1	2	国語学演習 (言語英徳) 2	2			
	中古文学講義 1	2	近代文学講義 2	2	国語学特論 (言語構造) 1	2	国語学特論 (言語英徳) 2	2	国語学演習 (言語運用) 2	2	大和の地域文化論 (言語)	2			
	国語学基礎演習	2	漢文学基礎演習	2	大和の地域文化論 (文学)	2	国語学特論 (言語運用) 2	2	天理図書館資料論 (上代・中古)	2	天理図書館資料論 (中世・近世)	2			
	国語学概論 1	2	国語学概論 2	2	(漢文学特論 1) (実用国語表現)	2	(音声言語)		(文章表現 1)		(文章表現 2)				
他学部・他学科開放科目															
資格科目(含卒業要件)	生涯学習概論	2	図書館サービス概論	2											
			図書館情報学概論	2											
単位数(累計)			48 (48)				36 (84)					32 (116)		10 (126)	
資格科目				図書館マネジメント論	2	図書館情報システム論	2	情報サービス論	2	情報資源組織論	2	図書館情報学特論A	2		
				児童・YAサービス論	2	図書館情報資源概論	2	情報サービス演習 1	2	情報サービス演習 2	2				
				図書館情報学基礎特論	2	図書館とメディアの歴史	2	情報資源組織演習 1	2	情報資源組織演習 2	2				
							図書館情報資源特論	2	図書館情報資源特論	2					

赤 ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目

人文学部国文学国語学科  
日本語教員 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次							
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数						
総合教育	天理スピリット科目群	天理敬虔観 1	2	天理敬虔観 2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2								
	キャリア教育科目群	英語 1	1	英語 2	1										
		多文化理解と言語 (各言語)	2	多文化理解と言語 (各言語)	2										
	基礎リテラシー科目群	健康スポーツ科学1	2	健康スポーツ科学2	2	キャリアデザイン1	2	キャリアデザイン2	2						
一般教養科目群	(キャリアプランニング)				データサイエンス・AI応用	2	データリテラシー	2							
		基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2	情報処理	2								
		データサイエンス・AI入門	2	(コンピュータ入門)	2										
		日本国憲法	2			国際ボランティア論1	2	宗教と現代社会	2	民法1	2	民法2	2		
						日本と国際社会	2	近現代の遺産と未来	2	行政法1	2	行政法2	2		
						(世界の文学1)	2	(世界の文学2)	2	人種と差別1	2	人種と差別2	2		
国文学国語学科専攻科目		国文学基礎演習	2			上代文学特論1	2	近世文学特論2	2	国文学演習(上代)1	2	国文学演習(近世)2	2	本業論文演習	4
		国文学概論1	2	国文学概論2	2	中古文学特論1	2	近代文学特論2	2	国文学演習(中古)1	2	国文学演習(近代)2	2	本業論文	6
		上代文学講義1	2	近世文学講義2	2	古典文学史1	2	近代文学史2	2	国語学演習(言語構造)1	2	国語学演習(言語実態)2	2		
		中古文学講義1	2	近代文学講義2	2	国語学特論(言語構造)1	2	国語学特論(言語実態)2	2	国語学演習(言語運用)2	2	大和の地域文化論(言語)	2		
		国語学基礎演習	2	漢文学基礎演習	2	大和の地域文化論(文学)	2	国語学特論(言語運用)2	2	天理図書館資料論(上代・中古)	2	天理図書館資料論(中世・近世)	2		
		国語学概論1	2	国語学概論2	2	(漢文学特論1)	2	(活用国語表現)	2	(文章表現1)	2	(文章表現2)	2		
他学部・他学科開放科目															
資格科目(含卒業要件)															
単位数(累計)			44 (44)				40 (84)				32 (116)				10 (126)
資格科目		日本語学入門	2	日本語教育入門	2	日本語実論	2	日本語音声学	2	言語の対照研究	2	第二言語習得論	2	日本語教育評価法	2
						日本語文法論1	2	日本語文法論2	2	日本語教授法1	2	日本語教授法2	2	日本語教育実習	2
								日本語指導法	2						

赤 ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目

人文学部国文学国語学科

公務員 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次							
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数				
総合教育	天理スピリット科目群	天理教概観 1	2	天理教概観 2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2								
	キャリア教育科目群	英語 1	1	英語 2	1										
		多文化理解と言語 (各言語)	2	健康スポーツ科学1	2	健康スポーツ科学2	2								
	基礎リテラシー科目群	キャリアプランニング	2			キャリアデザイン1	2	キャリアデザイン2	2						
一般教養科目群	基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2	インターンシップ1	2	インターンシップ2	2							
	データサイエンス・AI入門	2	コンピュータ入門	2	データサイエンス・AI応用	2	データリテラシー	2							
		日本国憲法	2			情報処理	2								
						法学	2	政治学	2	(民法1)		(民法2)			
						(倫理学1)		(倫理学2)		(行政法1)		(行政法2)			
						(統計学1)		(統計学2)		(日本手話1)		(日本手話2)			
						(近現代の遺産と未来)		(地球環境論)		(保健医療の仕組みと健康づくり)		(ジェンダーセクシュアリティ)			
国文学国語学科専攻科目		国文学基礎演習	2			上代文学特論1	2	近世文学特論2	2	国文学演習(上代)1	2	国文学演習(近世)2	2	卒業論文演習	4
		国文学概論1	2	国文学概論2	2	中古文学特論1	2	近代文学特論2	2	国文学演習(中古)1	2	国文学演習(近代)2	2	卒業論文	6
		上代文学講義1	2	近世文学講義2	2	古典文学史1	2	近代文学史2	2	国語学演習(言語構造)1	2	国語学演習(言語実態)2	2		
		中古文学講義1	2	近代文学講義2	2	国語学特論(言語構造)1	2	国語学特論(言語実態)2	2	国語学演習(言語運用)2	2	大和の地域文化論(言語)	2		
		国語学基礎演習	2	漢文学基礎演習	2	大和の地域文化論(文学)	2	国語学特論(言語運用)2	2	天理図書館資料論(上代・中古)	2	天理図書館資料論(中世・近世)	2		
		国語学概論1	2	国語学概論2	2	(漢文学特論1)		(漢文学特論1)		(文章表現1)		(文章表現2)			
					(実用国語表現)		(実用国語表現)		(実用国語表現)		(実用国語表現)				
他学部・他学科開放科目						社会教育特講1 [現代社会と社会教育]	2	社会教育特講2 [シティズンシップと公共性]	2	社会教育演習1 (文化行政)	2	社会教育演習2 (地域文化共創)	2		
						社会教育特講3 [文化政策と社会教育/文化振興とまちづくり]	2	社会教育特講4 [地域生活スポーツと社会教育]	2						
資格科目(含卒業要件)															
単位数(累計)			46 (46)				48 (94)				24 (118)			10 (128)	
資格科目															

赤ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青明朝体は推奨科目

人文学部国文学国語学科  
一般企業 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次					
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
総合教育	天理スピリット科目群	天理概観1 英語1 多文化理解と言語(各言語) 健康スポーツ科学1	2 1 2 2	天理概観2 英語2	2 1	論学の精神と天理大学のあゆみ	2						
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	2			キャリアデザイン1 インターンシップ1	2 2	キャリアデザイン2 インターンシップ2	2 2				
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 2	基礎ゼミナール2 コンピュータ入門	2 2	データサイエンス・AI応用 情報処理	2 2						
	一般教養科目群	日本国憲法	2			経営学1 経済学1 労働と社会	2 2 2	経営学2 経済学2 日本と国際社会	2 2 2	(民法1) (行政法1) (ジェンダーセクシュアリティ)	(民法2) (行政法2) (人権と差別2)		
国文学国語学科専攻科目	国文学基礎演習 国文学概論1 上代文学講義1 中古文学講義1 国語学基礎演習 国語学概論1	2 2 2 2 2 2	国文学概論2 近世文学講義2 古典文学史1 近世文学講義2 国語学特論(言語構造)1 大和の地域文化論(文学) 国語学概論2	2 2 2 2 2 2 2	上代文学特論1 中古文学特論1 古典文学史1 近代文学史2 国語学特論(言語実態)2 国語学特論(言語運用)2 (漢文学特論1) (実用国語表現)	近世文学特論2 近代文学特論2 近代文学史2 国語学特論(言語実態)2 国語学特論(言語運用)2 天理図書館資料論(上代・中古) (音声言語)	国文学演習(上代)1 国文学演習(中古)1 国語学演習(言語構造)1 国語学演習(言語運用)2 大和の地域文化論(言語) 天理図書館資料論(中世・近世)	2 2 2 2 2 2 2	国文学演習(近世)2 国文学演習(近代)2 国語学演習(言語実態)2 国語学演習(言語運用)2 天理図書館資料論(中世・近世)	2 2 2 2 2	卒業論文演習 卒業論文	4 6	
他学部・他学科開放科目													
資格科目(含卒業要件)													
単位数(累計)			46 (46)			48 (94)				20 (114)			10 (124)
資格科目													

赤ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青明朝体は推奨科目

人文学部国文学国語学科  
大学院進学 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次								
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数					
総合教育	天理スピリット科目群	天理敬虔観 1	2	天理敬虔観 2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2									
	キャリア教育科目群	英語 1	1	英語 2	1											
		多文化理解と言語 (各言語) 健康スポーツ科学 (キャリアアブランニング)	2	健康スポーツ科学 2	2	キャリアデザイン 1	2	キャリアデザイン 2	2							
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール 1	2	基礎ゼミナール 2	2	データサイエンス・AI応用	2	データリテラシー	2							
一般教養科目群	データサイエンス・AI入門	2	コンピュータ入門	2	情報処理	2										
		日本国憲法	2			(心理学 1) (倫理学 1) (世界の文学 1) (カリキュラリスティクス)		(心理学 2) (倫理学 2) (世界の文学 2)		民法 1 統計学 1	2	民法 2 統計学 2	2			
国文学国語学科専攻科目		国文学基礎演習	2	国文学概論 1	2	上代文学特論 1	2	近世文学特論 2	2	国文学演習 (上代) 1	2	国文学演習 (近世) 2	2	本業論文演習	4	
		国文学概論 2	2	国文学概論 2	2	中古文学特論 1	2	近代文学特論 2	2	国文学演習 (中古) 1	2	国文学演習 (近代) 2	2	本業論文	6	
		上代文学講義 1	2	近世文学講義 2	2	古典文学史 1	2	近代文学史 2	2	国語学演習 (言語構造) 1	2	国語学演習 (言語実態) 2	2			
		中古文学講義 1	2	近代文学講義 2	2	国語学特論 (言語構造) 1	2	国語学特論 (言語実態) 2	2	国語学演習 (言語運用) 2	2	大和の地域文化論 (言語)	2			
		国語学基礎演習	2	漢文学基礎演習	2	国語学特論 (言語運用) 2	2	国語学特論 (言語運用) 2	2	(文章表現 1)		(文章表現 2)				
	国語学概論 1	2	国語学概論 2	2	大和の地域文化論 (文学)	2	国語学特論 (言語運用) 2	2	国語科指導法 1	2	国語科指導法 2	2	国語科指導法 3	2	国語科指導法 4	2
					(漢文学特論 1) (実用国語表現)		(音声言語)		国語科指導法 3	2	国語科指導法 4	2				
他学部・他学科開放科目																
資格科目(含卒業要件)				教育原理	2	学校教育社会学	2									
				人権教育論 1	2	人権教育論 2	2									
単位数(累計)			44 (44)			40 (84)				32 (116)				10 (126)		
資格科目		教職論	2			(教育史)		学校教育心理学	2	教育課程論	2	道徳の理論及び指導法	2	教職実践演習 (中・高)	2	
		特別な支援の必要な生徒の理解	2			教育相談の理論及び方法 (学校教育支援) (教育史特論)	2	生徒指導・進路指導の理論及び方法 特別困難・総合的な学習の時間の指導法 (臨床教育学特論)	2	教育方法学 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む) 教育実習講義	2	1	介護等体験	1	教育実習 1	2
														教育実習 2	2	

赤 ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目

人文学部歴史文化学科

卒業要件 履修モデル 歴史文化に関する幅広い教養を身につける。国際性をも身につけるため、外国史に関する科目を推奨する。社会人として身につけたい知識を総合教育科目から選択する(キャリア科目を含む)。

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
総合教育	天理スピリット科目群	天理教概観1 英語1	2 1	天理教概観2 英語2	2 1	論学の精神と天理大学のあゆみ	2		
	キャリア教育科目群 基礎リテラシー科目群	多文化理解と言語(各言語) 健康スポーツ科学1 キャリアプランニング 基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 2 2 2 2	健康スポーツ科学2	2	キャリアデザイン1 データサイエンス・AI応用	2 2	キャリアデザイン2 データリテラシー	2 2
	一般教養科目群	日本国憲法	2			法学 倫理学1 哲学概論1 近現代の遺産と未来	2 2 2 2	政治学 ジェンダーとセクシャリティ 宗教と現代社会 基礎からわかる近代史	2 2 2 2
歴史文化学科専攻科目		歴史学概論 民俗学概論 日本史要説 西洋史要説 日本民俗学要説 人文地理学概論 地誌	2 2 2 2 2 2 2	考古学概論 歴史文化基礎演習 東洋史要説 日本考古学要説	2 2 2 2	文化財行政学 大和の文化遺産を学ぶ1 大和の文化遺産を学ぶ3 博物館経営概論 博物館情報・メディア論	2 2 2 2 2	文化財科学・保存科学 大和の文化遺産を学ぶ2 大和の文化遺産を学ぶ3 博物館学概論 博物館教育論 博物館資料論	2 2 2 2 2
								博物館学史料論 博物館資料保存論 社会科指導法1 社会・地理歴史科指導法1 英語文献講読1	2 2 2 2 2
歴史学コース科目				歴史学研究入門1 文化交流史の研究 日本古代史の研究 日本近世史の研究 東アジア史の研究 日本古代史料の講読1・2 日本近世史料の講読1・2 歴史学史料実習1	2 2 2 2 2 2-2 2-2 1	歴史学研究入門2 文化交流史の研究2 日本中世史の研究 日本近代史の研究 古文書学 日本中世史料の講読1・2 日本近代史料の講読1・2 歴史学史料実習2	2 2 2 2 2 2-2 2-2 1	歴史学史料実習3 日本古代中世史演習1 日本近世史演習1 日本近代史演習1	2 2 2 2
								歴史学史料実習4 日本古代中世史演習2 日本近世史演習2 日本近代史演習2	2 2 2 2
考古学コース科目				考古学研究入門1 旧石器・縄文時代の考古学 古墳時代の考古学 中近世の考古学 西アジア考古学 考古学実習1 考古学実習3	2 2 2 2 1 1 1	考古学研究入門2 弥生時代の考古学 飛鳥・奈良時代の考古学 東アジア考古学 遺跡探査学 考古学実習2	2 2 2 2 2 1	遺跡の保存と活用 先史考古学演習1 原史考古学演習1 歴史考古学演習1 考古資料の情報化	2 2 2 2 2
								考古学実習4 先史考古学演習2 原史考古学演習2 歴史考古学演習2	2 2 2 2
民俗学コース科目				民俗学研究入門1 民俗学と現代社会 フィールドワークからみる民俗文化 宗教民俗学 民俗学実習1 民俗学実習3	2 2 2 2 1 1	民俗学研究入門2 生活文化史 民話と伝承 民俗資料論 民俗学実習2	2 2 2 2 1	民俗学実習4 歴史民俗学演習1 現代民俗学演習1	2 2 2
								歴史民俗学演習3 現代民俗学演習2 現代民俗学演習2	2 2 2
他学部・他学科開放科目									
資格科目(含卒業要件)									
単位数(累計)			44(44)			40(84)		24(108)	16(124)

赤太字は必修科目  
斜体は選択必修科目  
青は推奨科目

人文学部歴史文化学科

公務員 履修モデル 文化財に関する知識を深める。行政職に必要な知識を身につける(キャリア科目含む)。

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
総合教育	天理スピリット科目群	天理敬禮観 1	2	天理敬禮観 2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2		
	キャリア教育科目群 基礎リテラシー科目群	英語 1	1	英語 2	1				
		多文化理解と言語 (各言語) 健康スポーツ科学 (キャリアプランニング)	2	健康スポーツ科学 2	2	キャリアデザイン 1	2	キャリアデザイン 2	2
	一般教養科目群	基礎ゼミナール 1 データサイエンス・AI入門	2	基礎ゼミナール 2 コンピュータ入門	2	データサイエンス・AI応用 (情報処理)	2	(データリテラシー)	
		日本国憲法	2	(法学)		(政治学) (労働と社会) (障害学)		(民法 1) (行政法 1) (地球環境論)	
歴史文化学科専攻科目		歴史学概論	2	考古学概論	2	文化財科学	2	博物館資料論	2
		民俗学概論	2	歴史文化基礎演習	2	文化財科学・保存科学	2	博物館学概論	2
		日本史要説 (西洋史要説)	2	大和の文化遺産を学ぶ 1 大和の文化遺産を学ぶ 3	2	大和の文化遺産を学ぶ 2	2	博物館学概論	2
		日本民俗学要説 人文地理学概論 地誌	2	日本考古学要説 くずし字入門 自然地理学概論 美術史	2	博物館経営総論 博物館情報・メディア論	2	博物館学概論 (社会・地理歴史科指導法 1) (英語文献講読 1)	2
歴史学コース科目				歴史学研究入門 1	2	歴史学研究入門 2	2	歴史学史料実習 3	1
				文化交流史の研究 1 日本古代史の研究 日本近世史の研究 (東アジア史の研究)	2	文化交流史の研究 2 日本中世史の研究 日本近代史の研究 (東アジア史の研究)	2	日本古代中世史演習 1 日本近世史演習 1 (日本近代史演習 1)	2
				(日本古代史料の講読 1・2) (日本近世史料の講読 1・2)	2	(日本中世史料の講読 1・2) (日本近代史料の講読 1・2)	2	日本古代中世史演習 2 日本近世史演習 2 (日本近代史演習 2)	2
				歴史学史料実習 1	1	歴史学史料実習 2	1	歴史学史料実習 4	1
考古学コース科目				考古学研究入門 1	2	考古学研究入門 2	2	考古学実習 4	1
				旧石器・縄文時代の考古学 古墳時代の考古学 中近世の考古学 (西アジア考古学)	2	弥生時代の考古学 飛鳥・奈良時代の考古学 (東アジア考古学)	2	考古学実習 2 (歴史考古学演習 2)	2
				考古学実習 1 考古学実習 3	1	遺跡探査学 考古学実習 2	1	先史考古学演習 2 原史考古学演習 2 (歴史考古学演習 2)	2
				民俗学実習 1 民俗学実習 3	1	(遺跡の保存と活用) 先史考古学演習 1 原史考古学演習 1 (考古資料の情報化)	2	先史考古学演習 3 原史考古学演習 3 (歴史考古学演習 3)	2
民俗学コース科目				民俗学研究入門 1	2	民俗学研究入門 2	2	民俗学実習 4	1
				民俗学と現代社会 フィールドワークからみる民俗文化 宗教民俗学	2	生活文化史 民謡と伝承 2 民俗資料論	2	歴史民俗学演習 1 現代民俗学演習 1 2 歴史民俗学演習 2 現代民俗学演習 2	2
				民俗学実習 1 民俗学実習 3	1	民俗学実習 2	1	歴史民俗学演習 2 現代民俗学演習 2	2
								歴史民俗学演習 3 現代民俗学演習 3	2
他学部・他学科開放科目		生涯学習概論 1	2	(文化政策学概論)		(世界遺産論)		地域産業論	2
資格科目(含卒業要件)								日本と国際社会	2
単位数(累計)			48 (48)			46 (94)		20 (114)	
資格科目									14 (128)

赤文字は必修科目  
斜体は選択必修科目  
青は推奨科目

人文学部歴史文化学科

一般職 履修モデル 社会人にふさわしい幅広い教養を身につける。地域産業等に関する科目を取得する(キャリア科目を含む)。

		1年次		2年次		3年次		4年次			
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
総合教育	天理スピリット科目群	天理敬儀観1	2	天理敬儀観2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2				
	キャリア教育科目群	英語1	1	英語2	1						
		多文化理解と言語(各言語) 健康スポーツ科学 (キャリアプランニング)	2	健康スポーツ科学2	2	キャリアデザイン1	2	キャリアデザイン2	2		
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2	データサイエンス・AI応用	2	(データリテラシー)			
一般教養科目群	データサイエンス・AI入門	2	コンピュータ入門	2	(情報処理)						
		日本国憲法	2			(法学) (経営学) (統計学1) (近現代の遺産と未来)		(民法1) (行政法1) (障害学) (地球環境論) (人権と差別1)			
歴史文化学科専攻科目		歴史学概論	2	考古学概論	2	文化財科学	2	博物館学資料論	2		
		民俗学概論	2	歴史文化基礎演習	2	文化財科学・保存科学	2	博物館学展示論	2		
		日本史要説	2	(東洋史要説)	2	大和の文化遺産を学ぶ1	2	博物館資料保存論	2		
		(西洋史要説)	2	日本考古学要説	2	大和の文化遺産を学ぶ2	2	博物館学概論	2		
		日本民俗学要説	2	くずし字入門	2	博物館経営総論	2	博物館学概論	2		
		人文地理学概論	2	自然地理学概論	2	博物館情報・メディア論	2	博物館教育論	2		
	地誌	2	美術史	2	博物館情報・メディア論	2	博物館学概論	2			
									本実論文	6	
歴史学コース科目				歴史学研究入門1	2	歴史学研究入門2	2	歴史学史料実習3	1	歴史学史料実習4	1
				文化交流史の研究1	2	文化交流史の研究2	2	日本古代中世史演習1	2	日本古代中世史演習2	2
				日本古代史の研究	2	日本中世史の研究	2	日本近代史演習1	2	日本近代史演習2	2
				日本近世史の研究	2	日本近代史の研究	2	(日本近代史演習1)	2	(日本近代史演習2)	2
				(東アジア史の研究)	2	古文書学	2				
				(日本古代史料の講義1・2)	2	(日本中世史料の講義1・2)	2				
			(日本近世史料の講義1・2)	2	(日本近代史料の講義1・2)	2					
			歴史学史料実習1	1	歴史学史料実習2	1					
考古学コース科目				考古学研究入門1	2	考古学研究入門2	2	(遺跡の保存と活用)		考古学実習4	1
				旧石器・縄文時代の考古学	2	弥生時代の考古学	2	先史考古学演習1	2	先史考古学演習2	2
				古墳時代の考古学	2	飛鳥・奈良時代の考古学	2	原史考古学演習1	2	原史考古学演習2	2
				中近世の考古学	2	(東アジア考古学)	2	(歴史考古学演習1)	2	(歴史考古学演習2)	2
				(西アジア考古学)	2	遺跡探査学	2	(考古資料の情報化)	2		
				考古学実習1	1	考古学実習2	1				
			考古学実習3	1							
民俗学コース科目				民俗学研究入門1	2	民俗学研究入門2	2	民俗学実習4	1	歴史民俗学演習3	2
				民俗学と現代社会	2	生活文化史	2	歴史民俗学演習1	2	歴史民俗学演習2	2
				フィールドワークからみる民俗文化	2	民謡と伝承	2	現代民俗学演習1	2	現代民俗学演習2	2
				宗教民俗学	2	民俗資料論	2				
				民俗学実習1	1	民俗学実習2	1				
				民俗学実習3	1						
他学部・他学科開放科目		生涯学習概論1	2			(文化政策学概論) (観光デザイン論)		地域産業論 (地域金融論)	2	広報・PR論	2
資格科目(含卒業要件)											
単位数(累計)			48(48)			48(96)		20(116)		14(130)	
資格科目											

赤文字は必修科目  
斜体は選択必修科目  
青は推奨科目



人文学部歴史文化学科

中学社会科教員 履修モデル

	1年次				2年次				3年次				4年次			
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
総合教育	天理スピリット科目群	天理敬儀観1 英語1	2 1	天理敬儀観2 英語2	2 1	地学の精神と天理大学のあゆみ	2									
	キャリア教育科目群	多文化理解と言語(各言語)	2	健康スポーツ科学1	2											
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 2	基礎ゼミナール2 コンピュータ入門	2 2	データサイエンス・AI応用 情報処理	2 2	データリテラシー	2							
	一般教養科目群	日本国憲法	2			(法学) (倫理学1) (哲学概論1)		(政治学) (倫理学2) (哲学概論2)		(民法1) 行政法1		(民法2) (行政法2)				
歴史文化学科専攻科目	歴史学概論 民俗学概論 日本史要観 西洋史要観 人文地理学概論 地誌	2 2 2 2 2 2	考古学概論 歴史文化基礎演習 東洋史要観 日本考古学要観 くずし字入門 自然地理学概論 (英術史)	2 2 2 2 2 2	文化財行政学 大和の文化遺産を学ぶ1 (大和の文化遺産を学ぶ3) 博物館概論 博物館情報・メディア論	2 2 2 2 2	文化財科学・保存科学 (大和の文化遺産を学ぶ2) 博物館学概論 博物館教育論 博物館情報・メディア論	2 2 2 2	博物館学資料論 博物館資料保存論 社会科指導法1 社会・地理歴史科指導法1 (英語文献講読1)	2 2 2 2	博物館学展示論 社会科指導法2 社会・地理歴史科指導法2 (英語文献講読2)	2 2 2	卒業論文	6		
歴史学コース科目					歴史学研究入門1 文化交流史の研究1 (日本古代史の研究) (日本近世史の研究) (東アジア史の研究) (日本古代史料の講読1・2) (日本近世史料の講読1・2) 歴史学史料実習1	2 2 2 2 2 2 1	歴史学研究入門2 文化交流史の研究2 (日本中世史の研究) (日本近代史の研究) (古文書学) (日本中世史料の講読1・2) (日本近代史料の講読1・2) 歴史学史料実習2	2 2 2 2 2 2 1	歴史学史料実習3 日本古代中世史演習1 日本近世史演習1 (日本近代史演習1)	1 2 2 2	歴史学史料実習4 日本古代中世史演習2 日本近世史演習2 (日本近代史演習2)	1 2 2	日本古代中世史演習3 日本近世史演習3 (日本近代史演習3)	2 2	日本古代中世史演習4 日本近世史演習4 (日本近代史演習4)	2 2
考古学コース科目					考古学研究入門1 旧石器・縄文時代の考古学 (古墳時代の考古学) (中近世の考古学) (西アジア考古学) 考古学実習1 考古学実習8	2 2 2 2 1 1	考古学研究入門2 遺跡の保存と活用 弥生時代の考古学 (飛鳥・奈良時代の考古学) (東アジア考古学) (遺跡探査学) 考古学実習2	2 2 2 2 1	先史考古学演習1 原史考古学演習1 (歴史考古学演習1) (古資料の情報化)	2 2 2	(考古学実習4) 先史考古学演習2 原史考古学演習2 (歴史考古学演習2)	2 2	先史考古学演習3 原史考古学演習3 (歴史考古学演習3)	2 2	先史考古学演習4 原史考古学演習4 (歴史考古学演習4)	2 2
民俗学コース科目					民俗学研究入門1 民俗学と現代社会 (フィールドワークからみる民俗文化) (宗教民俗学) 民俗学実習1 民俗学実習8	2 2 2 1 1	民俗学研究入門2 (生活文化史) (民話と伝承) (民俗資料論) 民俗学実習2	2 2 2 1	民俗学実習4 歴史民俗学演習1 現代民俗学演習1	1 2 2	歴史民俗学演習2 現代民俗学演習2	2 2	歴史民俗学演習3 現代民俗学演習3	2 2	歴史民俗学演習4 現代民俗学演習4	2 2
他学部・他学科開放科目					(社会学概論) (文化人類学概論)		(経済学概論) (宗教学)		国際政治学 (国際経済史) (国際文化論)	2	(国際法) (国際関係論) (世界の歴史と社会)					
資格科目(含卒業要件)					教育原理 人権教育論1 (教育史特論)	2 2	学校教育社会学 人権教育論2	2 2								
単位数(累計)	44 (44)				40 (84)				16 (110)				14 (124)			
資格科目	敬禮論 特別な支援の必要な生徒の理解	2 2		(教育史) 教育相談の理論及び方法 (学校教育支援)	2 2	学校教育心理学 生徒指導・進路指導の理論及び方法 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (臨床教育学特論)	2 2 2	教育課程論 教育方法学(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む) 教育実習準備	2 2 2	道徳の理論及び指導法 教育実習準備	2 1	道徳の理論及び指導法 教育実習1	2 2 1	教育実習2	2	2

赤文字は必修科目  
斜体は選択必修科目  
青は推奨科目

人文学部歴史文化学科

地理歴史科教員 履修モデル

	1年次				2年次				3年次				4年次			
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
総合教育	天理スピリット科目群	天理敬儀観 1 英語 1	2 1	天理敬儀観 2 英語 2	2 1	地学の精神と天理大学のあゆみ	2									
	キャリア教育科目群	多文化理解と言語 (各言語)	2	健康スポーツ科学1	2											
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 2	基礎ゼミナール2 コンピュータ入門	2 2	データサイエンス・AI応用 情報処理	2 2	データリテラシー	2							
	一般教養科目群	日本国憲法	2			(法学) (倫理学1) (哲学概論1)		(政治学) (倫理学2) (哲学概論2)								
歴史文化学科専攻科目	歴史学概論 民俗学概論 日本史要観 西洋史要観 人文地理学概論 地誌	2 2 2 2 2 2	考古学概論 歴史文化基礎演習 東洋史要観 日本考古学要観 自然地理学概論 地誌	2 2 2 2 2 2	文化財行政学 大和の文化遺産を学ぶ1 (大和の文化遺産を学ぶ3) 博物館概論 博物館経営総論 博物館情報・メディア論	2 2 2 2 2 2	文化財科学・保存科学 (大和の文化遺産を学ぶ2) 博物館学概論 博物館教育論 博物館情報・メディア論	2 2 2 2 2 2	博物館学資料論 博物館資料保存論 社会科指導法1 社会・地理歴史科指導法1 (英語文献講読1)	2 2 2 2 2	博物館学展示論 社会科指導法2 社会・地理歴史科指導法2 (英語文献講読2)	2 2 2	卒業論文	6		
歴史学コース科目					歴史学研究入門1 文化交流史の研究1 (日本古代史の研究) (日本近世史の研究) (東アジア史の研究) (日本古代史料の講読1・2) (日本近世史料の講読1・2) 歴史学史料実習1	2 2 2 2 2 2 2 1	歴史学研究入門2 文化交流史の研究2 (日本中世史の研究) (日本近代史の研究) (古文書学) (日本中世史料の講読1・2) (日本近代史料の講読1・2) 歴史学史料実習2	2 2 2 2 2 2 2 1	歴史学史料実習3 日本古代中世史演習1 日本近世史演習1 (日本近代史演習1)	1 2 2 2	歴史学史料実習4 日本古代中世史演習2 日本近世史演習2 (日本近代史演習2)	1 2 2	日本古代中世史演習3 日本近世史演習3 (日本近代史演習3)	2 2 2	日本古代中世史演習4 日本近世史演習4 (日本近代史演習4)	2 2
考古学コース科目					考古学研究入門1 旧石器・縄文時代の考古学 (古墳時代の考古学) (中近世の考古学) (西アジア考古学) 考古学実習1 考古学実習8	2 2 2 2 2 1 1	考古学研究入門2 遺跡の保存と活用 弥生時代の考古学 (飛鳥・奈良時代の考古学) (東アジア考古学) (遺跡探査学) 考古学実習2	2 2 2 2 2 2 1	遺跡の保存と活用 先史考古学演習1 原史考古学演習1 (歴史考古学演習1) (古資料の情報化)	2 2 2 2	(考古学実習4) 先史考古学演習2 原史考古学演習2 (歴史考古学演習2)	2 2 2	先史考古学演習3 原史考古学演習3 (歴史考古学演習3)	2 2	先史考古学演習4 原史考古学演習4 (歴史考古学演習4)	2 2
民俗学コース科目					民俗学研究入門1 民俗学と現代社会 (フィールドワークからみる民俗文化) (宗教民俗学) 民俗学実習1 民俗学実習8	2 2 2 2 1 1	民俗学研究入門2 (生活文化史) (民話と伝承) (民俗資料論) 民俗学実習2	2 2 2 2	民俗学実習4 歴史民俗学演習1 現代民俗学演習1	1 2 2	歴史民俗学演習2 現代民俗学演習2	2 2	歴史民俗学演習3 現代民俗学演習3	2 2	歴史民俗学演習4 現代民俗学演習4	2 2
他学部・他学科開放科目					(社会学概論) (文化人類学概論)		(経済学概論) (宗教学)		国際政治学 (国際経済史) (国際文化論)	2	(国際法) (国際関係論) (世界の歴史と社会)					
資格科目(含卒業要件)					教育原理 人権教育論1 (教育史特論)	2 2 2	学校教育社会学 人権教育論2	2 2								
単位数(累計)	44 (44)				40 (84)				16 (110)				14 (124)			
資格科目	教職論 特別な支援の必要な生徒の理解	2 2		(教育史) 教育相談の理論及び方法 (学校教育支援)	2 2	学校教育心理学 生徒指導・進路指導の理論及び方法 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (臨床教育学特論)	2 2 2	教育課程論 教育方法学 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む) 教育実習総論	2 2 2	道徳の理論及び指導法 教育実習1 介護等体験	2 2 1	教職実習演習(中・高) 教育実習1	2 2	教育実習2	2	

赤太字は必修科目  
斜体は選択必修科目  
青は推薦科目

人文学部歴史文化学科

文化財専門職(学芸員)履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次							
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数						
総合教育	天理スピリット科目群	天理敬儀観1 英語1	2 1	天理敬儀観2 英語2	2 1	進学の精神と天理大学のあゆみ	2								
	キャリア教育科目群	多文化理解と言語(各言語) 健康スポーツ科学I (キャリアプランニング)	2 2	健康スポーツ科学2	2	キャリアデザイン1	2	キャリアデザイン2	2						
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 2	基礎ゼミナール2 (コンピュータ入門)	2	データサイエンス・AI応用 (情報処理)	2	(データリテラシー)							
	一般教養科目群	日本国憲法	2	(法学) (倫理学1) (哲学概論1) (近現代の遺産と未来)		(政治学)		(民法1) (行政法1) (人権と差別1) (宗教と芸術)	(民法2) (行政法2) (ジェンダーセクシャリティ)						
歴史文化学科専攻科目		歴史学概論	2	考古学概論	2	文化財行政学	2	博物館資料論	2	博物館展示論	2	卒業論文	6		
		民俗学概論	2	歴史文化基礎演習	2	大和の文化遺産を学ぶ1	2	大和の文化遺産を学ぶ2	2	博物館資料保存論	2				
		日本史要説 (東洋史要説) (西洋史要説)	2	大和の文化遺産を学ぶ3	2	博物館学概論	2	博物館学概論	2	(社会科指導法1)	2	(社会科指導法2)			
		日本民俗学要説 人文地理学概論 地誌	2 2 2	日本考古学要説	2	博物館経営論	2	博物館教育論	2	(社会・地理歴史科指導法1)	2	(社会・地理歴史科指導法2)			
歴史学コース科目				歴史学研究入門1	2	歴史学研究入門2	2	歴史学史料実習3	2	歴史学史料実習4	1	日本古代中世史演習3	2	日本古代中世史演習4	2
				文化交流史の研究1	2	文化交流史の研究2	2	日本古代中世史演習1	2	日本古代中世史演習2	2	日本近世史演習3	2	日本近世史演習4	2
				日本古代史の研究	2	日本中世史の研究	2	日本近世史演習1	2	日本近世史演習2	2	(日本近代史演習3)		(日本近代史演習4)	
				日本近世史の研究 (東アジア史の研究)	2	日本近代史の研究 (東アジア史の研究)	2	(日本近代史演習1)	2	(日本近代史演習2)					
考古学コース科目				歴史学史料実習1	1	歴史学史料実習2	1	遺跡の保存と活用)		考古学実習4	1				
				考古学研究入門1	2	考古学研究入門2	2	先史考古学演習1	2	先史考古学演習2	2	先史考古学演習3	2	先史考古学演習4	2
				旧石器・縄文時代の考古学	2	弥生時代の考古学	2	原史考古学演習1	2	原史考古学演習2	2	原史考古学演習3	2	原史考古学演習4	2
				古墳時代の考古学	2	飛鳥・奈良時代の考古学	2	(歴史考古学演習1)		(歴史考古学演習2)		(歴史考古学演習3)		(歴史考古学演習4)	
民俗学コース科目				中近世の考古学 (西アジア考古学)	2	(東アジア考古学)	2	遺跡探査学 (考古資料の情報化)	2						
				考古学実習1	1	考古学実習2	1								
				考古学実習3	1										
				民俗学研究入門1	2	民俗学研究入門2	2	民俗学実習4	1	歴史民俗学演習3	2	歴史民俗学演習4	2		
民俗学コース科目				民俗学と現代社会	2	生活文化史	2	歴史民俗学演習1	2	歴史民俗学演習2	2	現代民俗学演習3	2	現代民俗学演習4	2
				フィールドワークからみる民俗文化	2	民謡と伝承	2	現代民俗学演習1	2	現代民俗学演習2	2				
				宗教民俗学	2	民俗資料論	2								
				民俗学実習1	1	民俗学実習2	1								
他学部・他学科開放科目				生活学習概論1	2	(文化政策学概論) (文化人類学)		(世界遺産論)		地域産業論	2	日本と国際社会	2		
資格科目(含卒業要件)															
単位数(累計)			46 (46)			46 (92)				20 (112)			14 (126)		
資格科目								博物館実習1	2			博物館実習2	1		

赤文字は必修科目  
斜体は選択必修科目  
青は推奨科目

人文学部歴史文化学科

大学院進学 履修モデル(学芸員資格の場合:黄色の網掛け)

・専攻する各コース科目をなるべく多く履修すること。  
 ・大学院進学後のことを考え、博物館学芸員ないし教職課程を履修すること。

	1年次				2年次				3年次				4年次			
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
総合教育	天理スピリット科目群 天理教概観 1 実務 1 多文化理解と言語(各言語) 健康スポーツ科学1 キャリアアプランニング 基礎リテラシー科目群 基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門 一般教養科目群 日本国憲法	2 1 2 2 2 2 2 2	天理教概観 2 実務 2 健康スポーツ科学 2 基礎ゼミナール 2 (コンピュータ入門)	2 1 2 2	進学の精神と天理大学のあゆみ (データリテラシー) (情報処理) (法学) (倫理学1) (哲学概論1) (近現代の遺産と未来)	2 2 2 2	(政治学) (倫理学2) (哲学概論2) 基礎からわかる近代史	2 2 2	(民法1) (行政法1) 人権と差別1	2 2	(民法2) (行政法2) 人権と差別2	2	宗教と芸術	2		
歴史文化学科専攻科目	歴史学概論 民俗学概論 日本史要説 (西洋史要説) 日本民俗学要説 人文地理学概論 地誌	2 2 2 2 2 2	考古学概論 歴史文化基礎演習 (東洋史要説) 日本考古学要説 くずし字入門 自然地理学概論 美術史	2 2 2 2 2 2	文化財科学 大和の文化遺産を学ぶ1 大和の文化遺産を学ぶ3 博物館学概論 博物館教育論 博物館情報・メディア論	2 2 2 2 2	文化財科学・保存科学 大和の文化遺産を学ぶ2 博物館学概論 博物館教育論 英語文献講読1	2 2 2 2	博物館実務論 博物館資料保存論 (社会科指導法1) (社会・地理歴史科指導法1) 英語文献講読1	2 2 2	博物館展示論 (社会科指導法2) (社会・地理歴史科指導法2) 英語文献講読2	2	卒業論文	6		
歴史学コース科目					歴史学研究入門1 文化交流史の研究1 日本古代史の研究 日本近世史の研究 (東アジア史の研究) 古文書学 (日本古代史料の講読1・2) (日本近世史料の講読1・2)	2 2 2 2 2 2	歴史学研究入門2 文化交流史の研究2 日本中世史の研究 日本近代史の研究 (東アジア史の研究) 古文書学 (日本中世史料の講読1・2) (日本近代史料の講読1・2)	2 2 2 2 2	歴史学史料実習3 日本古代中世史演習1 日本近世史演習1 (日本近代史演習1)	1 2 2	歴史学史料実習4 日本古代中世史演習2 日本近世史演習2 (日本近代史演習2)	2 2 2	日本古代中世史演習3 日本近世史演習3 (日本近代史演習3)	2	日本古代中世史演習4 日本近世史演習4 (日本近代史演習4)	2
考古学コース科目					考古学研究入門1 旧石器・縄文時代の考古学 古墳時代の考古学 中近世の考古学 (西アジア考古学) 考古学実習1 考古学実習2 考古学実習3	2 2 2 2 2 1 1	考古学研究入門2 (遺跡の保存と活用) 弥生時代の考古学 飛鳥・奈良時代の考古学 (東アジア考古学) 遺跡探査学 (考古資料の情報化) 考古学実習2	2 2 2 2 2 1	考古学実習4 先史考古学演習2 原史考古学演習2 (歴史考古学演習2) 考古資料の情報化	1 2 2	考古学実習4 先史考古学演習2 原史考古学演習2 (歴史考古学演習2)	1 2 2	日本古代中世史演習3 日本近世史演習3 (日本近代史演習3)	2	先史考古学演習4 原史考古学演習4 (歴史考古学演習4)	2
民俗学コース科目					民俗学研究入門1 民俗学と現代社会 フィールドワークからみる民俗文化 宗教民俗学 民俗学実習1 民俗学実習2 民俗学実習3	2 2 2 2 1 1	民俗学研究入門2 生活文化史 民話と伝承 民俗資料論 民俗学実習2	2 2 2 2	民俗学実習4 歴史民俗学演習1 現代民俗学演習1	1 2 2	民俗学実習4 歴史民俗学演習2 現代民俗学演習2	1 2 2	歴史民俗学演習3 現代民俗学演習3	2	歴史民俗学演習4 現代民俗学演習4	2
他学部・他学科開放科目	生涯学習概論1	2			文化政策学概論 (世界遺産論)	2										
資格科目(含卒業要件)																
単位数(累計)	48 (48)				44 (92)				24 (116)				16 (132)			

資格科目									博物館実習1	2			博物館実習2	1		
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	---	--	--	--------	---	--	--

赤文字は必修科目  
 斜体は選択必修科目  
 青は推奨科目

人文学部歴史文化学科

文化資源マネジメント 履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次								
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数							
総合教育	天理スピリット科目群	天理概観1 英語1 多文化理解と言語(各言語) 健康スポーツ科学1	2 1 2	天理概観2 英語2	2 1	進学の精神と天理大学のあゆみ									
	キャリア教育科目群	キャリアデザイン1	2	キャリアデザイン2	2										
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 2	基礎ゼミナール2 (コンピュータ入門)	2										
	一般教養科目群	(日本国憲法)		(法学) (倫理学1) (哲学概論1) (近現代の遺産と未来)	(政治学)   (基礎からわかる近代史)					(民法1) (行政法1) (人権と差別1) (宗教と芸術)	(民法2) (行政法2) (ジェンダー・セクシャリティ)				
歴史文化学科専攻科目	歴史学概論 民俗学概論 日本史要説 (西洋史要説) 日本民俗学要説 人文地理学概論 地誌	2	考古学概論	2	文化財行政学	2	博物館学概論	2	博物館学概論	2	卒業論文	6			
		2	歴史文化基礎演習	2	(大和の文化遺産を学ぶ1) (大和の文化遺産を学ぶ3)	2	博物館学概論	2	博物館学概論	2					
		2	日本考古学要説	2	博物館学概論	2	博物館学概論	2	博物館学概論	2					
		2	くずし字入門	2	博物館情報・メディア論	2	博物館学概論	2	博物館学概論	2					
		2	自然地理学概論	2			博物館学概論	2	博物館学概論	2					
		2	美術史	2			博物館学概論	2	博物館学概論	2					
		2		2			博物館学概論	2	博物館学概論	2					
歴史学コース科目				歴史学研究入門1	2	歴史学研究入門2	2	歴史学史料実習3	1	歴史学史料実習4	1	日本古代中世史演習3	2	日本古代中世史演習4	2
				文化交差史の研究1	2	文化交差史の研究2	2	日本古代中世史演習1	2	日本古代中世史演習2	2	日本近世史演習3	2	日本近世史演習4	2
				日本古代史の研究	2	日本中世史の研究	2	日本近世史演習1	2	日本近世史演習2	2	(日本近代史演習3)	2	(日本近代史演習4)	2
				日本近世史の研究	2	日本近代史の研究	2	(日本近代史演習1)	2						
考古学コース科目				考古学研究入門1	2	考古学研究入門2	2	遺跡の保存と活用	2	考古学実習4	2				
				旧石器・縄文時代の考古学	2	弥生時代の考古学	2	先史考古学演習1	2	先史考古学演習2	2	先史考古学演習3	2	先史考古学演習4	2
				古墳時代の考古学	2	飛鳥・奈良時代の考古学	2	原史考古学演習1	2	原史考古学演習2	2	原史考古学演習3	2	原史考古学演習4	2
				中近世の考古学	2	(東アジア考古学)	2	歴史考古学演習1	2	歴史考古学演習2	2	歴史考古学演習3	2	歴史考古学演習4	2
民俗学コース科目				民俗学研究入門1	2	民俗学研究入門2	2	民俗学実習4	1			歴史民俗学演習3	2	歴史民俗学演習4	2
				民俗学と現代社会	2	生活文化史	2	歴史民俗学演習1	2	歴史民俗学演習2	2	現代民俗学演習3	2	現代民俗学演習4	2
				フィールドワークからみる民俗文化	2	民話と伝承	2	現代民俗学演習1	2	現代民俗学演習2	2				
				宗教民俗学	2	民俗学概論	2								
他学部・他学科開放科目	生涯学習概論1	2	図書館情報学概論	2	社会教育経営論3	2	社会教育経営論4	2							
					文化政策学概論	2	社会教育特講1	2							
資格科目(含卒業要件)															
単位数(累計)			48 (48)			48 (96)			16 (112)			14 (126)			
資格科目								博物館実習1	2			博物館実習2	1		

赤文字は必修科目  
斜体は選択必修科目  
青は推奨科目

人文学部心理学科  
天理教関係 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次							
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数				
総合教育	天理スピリット科目群	天理教概観1 英語1	2 1	天理教概観2 英語2	2 1	論学の精神と天理大学のあゆみ	2								
	キャリア教育科目群	多文化理解と言語(各言語)	2	健康スポーツ科学1	2	健康スポーツ科学2	2	(人権と差別1)				(宗教と芸術)			
	基礎リテラシー科目群	キャリアプランニング	2	基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2	(人権と差別2)							
	一般教養科目群	データサイエンス・AI入門	2	コンピュータ入門	2	情報処理	2								
心理学科専攻科目		日本国憲法	2	(統計学1)		(統計学2)									
		(哲学概論1)		(哲学概論2)											
		障害学	2	ジェンダーとセクシュアリティ	2										
		心理学概論	2	心理学研究法	4	心理学統計法	2				心理学研究演習1	2	心理学研究演習2	2	
		臨床心理学概論	2	心理学実験法	4	知覚・認知心理学	2	心理学の支援法	2	対人社会課題演習	2	卒業課題研究	4		
		心理学入門演習	2	感情・人格心理学	2	学習・言語心理学	2	教育・学校心理学	2	福祉心理学	2	多重解析法	2		
	公認心理師の職責	2	社会・集団・家族心理学	2	発達心理学	2	精神疾患とその治療1	2	精神疾患とその治療2	2					
		障害者・障害児心理学	2	関係行政論	2	精神的アセスメント1	4	精神的アセスメント2	4	精神分析学	2				
		健康・医療心理学	2	司法・犯罪心理学	2	(産業・組織心理学)		ユング心理学	2	対人スキル演習	4				
他学部・他学科開放科目															
資格科目(含卒業要件)		天理教学A1	2	天理教教祖伝概観1	2	天理教学B1	2	天理教史特殊講義	2						
		天理教学A2	2	天理教教祖伝概観2	2	天理教学B2	2	天理教史特殊講義	2						
単位数(累計)		44(44)		44(88)		26(114)		10(124)							
資格科目		伝道実習1	1			伝道実習2	1			伝道実習3	1				
										伝道実習4	1				

赤:ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青:明朝体は推奨科目

人文学部心理学科

公認心理師・臨床心理士・大学院進学 履修モデル

		1年次		2年次				3年次				4年次			
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
総合教育	天理スピリット科目群	天理教概観 1	2	天理教概観 2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2								
		英語 1	1	英語 2	1										
		多文化理解と言語 (各言語)	2												
		健康スポーツ科学1	2	健康スポーツ科学2	2										
	キャリア教育科目群	キャリアプランニング	2												
		基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2										
	基礎リテラシー科目群	データサイエンス・AI入門	2	(コンピュータ入門)	2	情報処理	2								
		日本国憲法	2												
		統計学1	2	統計学2	2										
		哲学概論1	2	哲学概論2	2										
一般教養科目群	ジェンダーとセクシュアリティ	2	労働と社会	2											
心理学科専攻科目	心理学概論	2		心理学研究法	4	心理学統計法	2	臨床心理学課題演習	2	心理学研究演習 1	2	心理学研究演習 2	2		
	臨床心理学概論	2		心理学実験法	4	心理演習	2	心理学的支援法	2	福祉心理学	2	本業課題研究	4		
	心理学入門演習	2		知覚・認知心理学	2	学習・言語心理学	2	感情・人格心理学	2	発達心理学	2	多変量解析法	2		
	公認心理師の職責	2		社会・集団・家族心理学	2	神経・生理心理学	2	教育・学校心理学	2	精神疾患とその治療 1	2	心理実習	2		
				障害者・障害児心理学	2	関係行政論	2	精神的アセスメント 2	2	精神疾患とその治療 2	2	精神分析学	2		
				心理的アセスメント 1	4	心理的アセスメント 2	4	ユング心理学	2						
				健康・医療心理学	2	司法・犯罪心理学	2	投影法演習	4						
				産業・組織心理学	2	人体の構造と機能及び疾病	2								
他学部・他学科開放科目	現代家族論	2													
資格科目(含卒業要件)															
単位数(累計)		44 (44)		44 (88)		24 (112)		12 (124)							
資格科目 矯正保護支援課程	矯正概論	2	矯正保護概論	2	矯正保護支援実論論	2	犯罪被害者支援論	2	矯正保護教育(施設参照を含む)	2					

赤 赤字は公認心理師必修科目  
赤 斜体は公認心理師推奨科目

赤 **ゴシック**は必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目

人文学部心理学科

一般企業・対人社会プログラム 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次					
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
総合教育	天理スピリット科目群	天理敬儀観 1	2	天理敬儀観 2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2						
	キャリア教育科目群	英語 1	1	英語 2	1	キャリアデザイン 1	2	キャリアデザイン 2	2	ジェンダーとセクシュアリティ	2		
		多文化理解と言語 (各言語)	2		キャリアデザイン 3	2	インターンシップ 2	2					
		健康スポーツ科学1	2	健康スポーツ科学 2	2								
	基礎リテラシー科目群	キャリアプランニング	2										
		基礎ゼミナール 1	2	基礎ゼミナール 2	2								
	一般教養科目群	データサイエンス・AI入門	2	コンピュータ入門	2								
		日本国憲法	2										
		生活の中の科学	2	地球環境論	2								
		経営学 1	2	経営学 2	2								
		民法 1	2	民法 2	2								
心理学科専攻科目	心理学概論	2		心理学研究法	4	心理学統計法	2	対人社会課題演習	2	心理学研究演習 1	2	心理学研究演習 2	2
	臨床心理学概論	2		心理学実験法	4					卒業課題研究	4		
	心理学入門演習	2		知覚・認知心理学	2	学習・言語心理学	2	心理学的支援法	2	福祉心理学	2	多変量解析法	2
	公認心理師の職責	2		感情・人格心理学	2	神経・生理心理学	2	精神疾患とその治療 1	2	精神疾患とその治療 2	2	心理実習	2
				社会・集団・家族心理学	2	発達心理学	2	関係行政論	2	精神分析学	2		
				障害者・障害児心理学	2	教育・学校心理学	2	ユング心理学	2				
						健康・医療心理学	2			対人スキル演習	4		
						産業・組織心理学	2						
						司法・犯罪心理学	2						
						人体の構造と機能及び疾病	2						
他学部・他学科開放科目													
資格科目(含卒業要件)													
単位数(累計)		44 (44)		44 (88)		24 (112)		12 (124)					
資格科目													

赤:ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青:明朝体は推奨科目



人文学部心理学科  
対人援助・公務員 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次						
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数			
総合教育	天理スピリット科目群	天理教概観 1	2	天理教概観 2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2							
		英語 1	1	英語 2	1			人権と差別 1	2	ジェンダーとセクシュアリティ	2			
	キャリア教育科目群	多文化理解と言語 (各言語)	2						人権と差別 2	2				
		健康スポーツ科学I	2	健康スポーツ科学 2	2									
		キャリアプランニング	2											
	基礎リテラシー科目群	基礎ゼミナール 1	2	基礎ゼミナール 2	2									
		データサイエンス・AI入門	2	コンピュータ入門	2									
	一般教養科目群	日本国憲法	2											
		生活の中の科学	2	地球環境論	2									
		障害学 (民法 1)	2	(労働と社会) (民法 2)	2									
心理学科専攻科目	心理学概論	2		心理学研究法	4	心理学統計法	2			心理学研究演習 1	2	心理学研究演習 2	2	
	臨床心理学概論	2		心理学実験法	4			対人社会課題演習	2	本業課題研究	4			
	心理学入門演習	2		知覚・認知心理学	2	学習・言語心理学	2	心理学的支援法	2	多変量解析法	2			
	公認心理師の職責	2		感情・人格心理学	2	神経・生理心理学	2	精神疾患とその治療 1	2	精神疾患とその治療 2	2			
				社会・集団・家族心理学	2	発達心理学	2	関係行政論	2	精神分析学	2			
他学部・他学科開放科目	現代家族論	2		図書館マネジメント論	2	図書館情報学基礎特論	2							
	図書館情報学概論	2	図書館サービス論	2	図書館とメディアの歴史	2								
資格科目(含卒業要件)														
単位数(累計)		44 (44)		44 (88)		24 (112)		12 (124)						
資格科目 図書館司書課程 矯正保護支援	矯正概論	2	矯正保護概論	2	矯正保護支援実践論	2	犯罪被害者支援論	2	矯正保護教育 (施設參觀を含む)	2	図書館情報学特論	2		
					図書館情報システム論	2	児童・YAサービス論	2	情報サービス論	2				
				図書館情報資源概論	2			情報サービス演習 1	2	情報サービス演習 2	2			
								情報資源組織論	2	図書館資源特論	2			
								情報資源組織演習 1	2	情報資源組織演習 2	2			

赤:ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青:明朝体は推奨科目

人文学部社会教育学科

卒業要件（社会教育士を取得）履修モデル

		1年次		2年次				3年次				4年次					
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
総合教育	天理スピリット科目群 キャリア教育科目群 基礎リテラシー科目群 一般教養科目群	天理教概観1	2	天理教概観2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2										
		英語1	1	英語2	1												
		多文化理解と言語(各言語)	2														
		健康スポーツ科学1	2	健康スポーツ科学2	2												
		国際社会におけるスポーツの役割	2	保健医療の仕組みと健康づくり	2												
		キャリアプランニング	2			キャリアデザイン1	2	キャリアデザイン2	2								
		基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2			基礎からわかる現代社会	2								
		データサイエンス・AI入門	2	基礎からわかるレポート作成	2			データリテラシー	2								
						生活の中の科学	2	日本国憲法	2	科学と現代	2	ジェンダー・セクシャリティ	2	障害学	2		
						地球環境論	2	統計学1	2	統計学2	2	人権と差別1	2	人権と差別2	2		
				宗教と現代社会	2												
社会教育学科専攻科目		生涯学習概論1	2	生涯学習概論2	2	生涯学習支援演習1	2	生涯学習支援演習2	2	社会教育演習1	2	社会教育演習2	2	社会教育課題研究1	2		
		社会教育基礎演習1	2	社会教育基礎演習2	2	社会教育支援論1	2	社会教育支援論2	2	社会教育経営論1	2	社会教育経営論2	2	卒業論文	6		
		教育学概論1	2	産地文化施設実習	1	社会教育特講1[現代社会と社会教育]	2	社会教育特講2[シティズンシップと公共性]	2	社会教育特講3[文化政策と社会教育/文化政策とまちづくり]	2	社会教育特講4[地域生涯スポーツと社会教育]	2				
					生涯学習特論1[文化芸術実践論]	2	生涯学習特論2[ビジネスフロンティアと生涯学習]	2	生涯学習特論3[地域文化政策と法制度]	2	生涯学習特論4[知的財産管理論]	2	生涯学習特論5[ICTと社会教育]	2			
					生涯学習特論3[NPOとまちづくり]	2	生涯学習特論4[地域社会と学校経営]	2	社会教育実習1	2							
					文化政策学概論	2											
					図書館情報学概論	2											
単位数(累計)		43(43)				42(85)				30(115)				10(125)			
他学部・他学科開放科目																	
資格科目(含卒業要件)																	
資格科目																	

赤:ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青:明朝体は推奨科目

人文学部社会教育学科

コミュニティ学習支援プログラム（公民館職員 志望）履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次			
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
総合教育	天理スピリット科目群 天理大学特別講義1 英語1 多文化理解と言語(各言語) 健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポーツの役割 キャリアプランニング 基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 1 2 2 2 2 2 2	天理大学特別講義2 英語2 健康スポーツ科学2 保健医療の仕組みと働きづくり 基礎ゼミナール2 基礎からわかるレポート作成 基礎からわかる現代社会	2 1 2 2 2 2	論学の精神と天理大学のあゆみ キャリアデザイン1 キャリアデザイン2 データテラシー 日本国憲法 統計学1	2 2 2 2 2 2	天理大学特別講義1 天理大学特別講義2 天理大学特別講義3 天理大学特別講義4 生活の中の科学 科学と現代 地球環境論 宗教と現代社会	2 2 2 2 2 2 2 2		
社会教育学科専攻科目	生涯学習概論1 社会教育基礎演習1 教育学概論1	2 2 2	生涯学習概論2 社会教育基礎演習2 地域文化施設実習	2 2 1	生涯学習支援演習1 生涯学習支援論1 社会教育特講1[現代社会と社会教育] 生涯学習特論1[文化芸術実践論] 生涯学習特論3[NPOとまちづくり] プロジェクト実習1	2 2 2 2 2 2 1	社会教育演習1 社会教育経営論1 社会教育特講3[文化政策と社会教育/文化政策とまちづくり] 生涯学習特論5[地域文化政策と法制度] 生涯学習特論6[プロジェクトマネジメント論] 生涯学習特論7[知的財産管理論] 社会教育実習1	2 2 2 2 2 2 2	社会教育課題研究1 卒業論文 文化政策学概論 図書館情報学概論 プロジェクト実習5 プロジェクト実習6	2 6 2 2 1 1
他学部・他学科開放科目					社会調査法入門(国際文化学科) 破壊調査法1(国際文化学科)	2 2	社会調査法2(国際文化学科) 社会調査法実践A(国際文化学科)	2 2	ボランティアネットワーク論(国際文化学科) 現代家族論(社会福祉学科)	2 2
資格科目(含卒業要件)										
単位数(累計)			43(43)		42(85)		30(115)		10(125)	
資格科目										

※ ゴシックは必修科目  
※ ボシックはプログラム必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目

人文学部社会教育学科

地域文化資源活用・文化行政 プログラム(公務員行政職志望・社会教育士と図書館司書の資格取得) 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次									
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数						
総合教育	天理スピリット科目群 キャリア教育科目群 基礎リテラシー科目群 一般教養科目群	天理教概説1	2	天理教概説2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2										
		英語1	1	英語2	1												
		多文化理解と言語(各言語)	2														
		健康スポーツ科学1	2	健康スポーツ科学2	2												
		国際社会におけるスポーツの役割	2	保健医療の仕組みと健康づくり	2												
		キャリアプランニング	2			キャリアデザイン1	2	キャリアデザイン2	2								
		基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2	データリテラシー	2	情報地理	2								
		データサイエンス・AI入門	2	基礎からわかるレポート作成	2			基礎からわかる現代社会	2								
				基礎からわかる数学	2												
				日本国憲法	2					法学1	2	法学2	2	行政法1	2	行政法2	2
								統計学1	2	統計学2	2	民法1	2	民法2	2		
社会教育学科専攻科目		生涯学習概論1	2	生涯学習概論2	2	生涯学習支援演習1	2	生涯学習支援演習2	2	社会教育演習1	2	社会教育演習2	2	社会教育課題研究1	2	社会教育課題研究2	2
		社会教育基礎演習1	2	社会教育基礎演習2	2	生涯学習支援論1	2	生涯学習支援論2	2	社会教育経営論3	2	社会教育経営論3	2	卒業論文	6		
		教育学概論1	2	地域文化施設実習	1	社会教育特講1	2	社会教育特講2	2	地域産業論	2	地域金融論	2				
		図書館情報学概論	2	図書館サービス概論	2	社会教育特講3	2	社会教育特講4	2	広報・PR論	2						
						生涯学習特論5	2	生涯学習特論7	2	社会教育実習1	2	社会教育実習2	2				
						図書館のメディアの歴史	2	図書館情報学基礎特論	2								
						図書館マネジメント論	2	文化政策学概論	2								
他学部・他学科開放科目			博物館学概論	2	博物館教育論	2											
資格科目(含卒業要件)																	
単位数(累計)			47(47)		44(91)※資格4単位含む		38(129)※資格12単位含む		20(149)※資格2単位含む								
資格科目					児童・YAサービス論	2	図書館情報システム論	2	情報サービス論	2	情報資源管理論	2	図書館情報学特論A	2			
								情報サービス演習1	2	情報サービス演習2	2						
								情報資源組織演習1	2	情報資源組織演習2	2						

赤:ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青:明朝体は推奨科目

人文学部社会教育学科

文化・スポーツ支援プログラム（スポーツ関連企業志望）履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次								
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数					
総合教育	天理スピリット科目群	天理教概観1 英語1 多文化理解と言語(各言語) 健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポーツの役割 キャリアプランニング 基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 1 2 2 2 2 2	天理教概観2 英語2 キャリアアクト天理SDGs 森に生きる入門編 健康スポーツ科学2 保健医療の仕組みと健康づくり 基礎ゼミナール2 アウトドアスポーツ	2 1 1 2 2 2 1	進学の精神と天理大学のあゆみ キャリアデザイン1 キャリアデザイン2 データテラシー レクリエーションスポーツ 統計学1 統計学2 日本国憲法	2 2 2 1 2 2 2	キャリアデザイン2 情報処理 経営学1 労働と社会 経営学2 経営学 ニューススポーツ	2 2 2 2 2 2 1							
	キャリア教育科目群 基礎テラシー科目群 一般教養科目群															
社会教育学科専攻科目	生涯学習概論1 社会教育基礎演習1 教育学概論1	2 2 2	生涯学習概論2 社会教育基礎演習2 地域文化施設実習 野外教育実習	2 1 1 1	生涯学習支援演習1 生涯学習支援論1 社会教育特講1[現代社会と社会教育] 生涯学習特論1[文化芸術実践論] 生涯学習特論3[NPOとまちづくり] 文化政策学概論 図書館情報学概論	2 2 2 2 2 2 2	生涯学習支援演習2 生涯学習支援論2 社会教育特講4[地域生涯スポーツと社会教育] 生涯学習特論2[ビジネスフロンティアと生涯学習] 生涯学習特論4[地域社会と学校経営] 生涯学習特論8[ICTと社会教育] 地域協働実習	2 2 2 2 2 2 1	社会教育演習1(文化スポーツ支援) 文化スポーツ支援論1 地域産業論 広報・PR論	2 2 2 2	社会教育演習2(文化スポーツ支援) 文化スポーツ支援論2 生涯学習特論6[プロジェクトマネジメント論]	2 2 2	社会教育課題研究1 卒業論文	2 6	社会教育課題研究2	2
	他学部・他学科開放科目			健康・他学部(保健)メディアロジック・エッセイ(文)【体育学科】	1		フィールドワークからみる歴史文化[歴史文化学科] アダブテッド・スポーツ論【体育学科】	2 2	フィールドワークからみる歴史文化[歴史文化学科] スポーツ方法(アダブテッド・スポーツ)【体育学科】	2 2	フィールドワークからみる歴史文化[歴史文化学科] スポーツ方法(アダブテッド・スポーツ)【体育学科】	2 2	健康・スポーツ統計学	2		
資格科目(含卒業要件)																
単位数(累計)		38(38)		44(82)		32(114)		12(126)								
資格科目																

赤:ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青:明朝体は推奨科目

人文学部社会福祉学科  
卒業要件 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次						
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数			
総合教育	天理スピリット科目群	天理教概観1	2	天理教概観2	2	論学の精神と天理大学のあゆみ	2							
	キャリア教育科目群	英語1	1	英語2	1									
		多文化理解と言語(各言語)	2											
		健康スポーツ科学1	2											
	基礎リテラシー科目群	キャリアプランニング	2											
一般教養科目群	基礎ゼミナール1	2	基礎ゼミナール2	2										
		データサイエンス・AI入門	2	コンピュータ入門	2									
		統計学1	2	統計学2	2									
社会福祉学科専攻科目		社会福祉概論1	2	社会福祉概論2	2	社会福祉学演習1	2	社会福祉学演習2	2	社会福祉学演習3	2	社会福祉学演習4	2	
		ソーシャルワーク論1	2	ソーシャルワーク論2	2	人体の構造と機能及び疾病	2	ソーシャルワーク論5	2	ソーシャルワーク論6	2	卒業論文	6	
		天理教社会福祉論	2		社会保険論1	2	社会保険論2	2	ソーシャルワーク演習3	2	ソーシャルワーク演習4	2		
		社会学と社会システム	2	障害者福祉論	2	ソーシャルワーク論3	2	ソーシャルワーク論4	2	ソーシャルワーク実習指導2	2	ソーシャルワーク実習指導3	2	
		児童福祉論	2	高齢者福祉論	2	公的扶助論	2	地域福祉と包括的支援体制1	2	地域福祉と包括的支援体制2	2	ソーシャルワーク実習2	4	
		現代家族論	2		権利擁護を支える法制度	2	医療福祉論	2	精神保健福祉援助演習2	2	精神保健福祉援助演習3	2		
					ソーシャルワーク演習1	2	刑事司法と福祉	2	精神保健福祉援助実習指導2	2	精神保健福祉援助実習指導3	2		
					ソーシャルワーク実習指導1	2	ソーシャルワーク演習2	2						
					地域連携実習	2	ソーシャルワーク実習1	2						
					精神医学と精神医療1	2	精神医学と精神医療2	2						
					精神保健福祉援助演習1	2	精神保健福祉援助実習指導1	2						
	他学部・他学科開放科目													
	資格科目(含卒業要件)													
単位数(累計)		44(44)		44(88)		26(114)		10(124)						
資格科目														

赤:ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青:明朝体は推奨科目

人文学部社会福祉学科

ソーシャルワーカープログラム 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次								
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数					
総合教育	天理スピリット科目群	天理教概観1 英語1	2 1	天理教概観2 英語2	2 1	哲学の精神と天理大学のあゆみ	2									
	キャリア教育科目群	多文化理解と言語(各言語)	2													
	基礎リテラシー科目群	健康スポーツ科学1 保健医療の仕組みと健康づくり キャリアプランニング	2 2 2													
	一般教養科目群	基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 2	基礎ゼミナール2 コンピュータ入門	2 2											
社会福祉学科専攻科目		社会福祉概論1 ソーシャルワーク論1 天理教社会福祉論 社会学と社会システム 児童福祉論 現代家族論	2 2 2 2 2 2	社会福祉概論2 ソーシャルワーク論2 障害者福祉論 高齢者福祉論	2 2 2 2	社会福祉学演習1 人体の構造と機能及び疾病 社会保障論1 ソーシャルワーク論3 地域福祉と包括的支援体制1 (公的扶助論) (権利擁護を支える法制度) ソーシャルワーク演習1 ソーシャルワーク実習指導1 地域連携実習 精神医学と精神医療1 精神保健福祉援助演習1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	社会福祉学演習2 ソーシャルワーク論5 ソーシャルワーク演習3 ソーシャルワーク実習指導2 ソーシャルワーク実習2 精神保健福祉援助実習2 精神保健福祉援助実習A	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	社会福祉学演習3 卒業論文 ソーシャルワーク演習5 福祉経営論 精神保健福祉援助実習B	2 6 2 2 3	社会福祉学演習4	2			
	他学部・他学科開放科目	(心理学概論)		(臨床心理学概論)		(障害者・障害児心理学)		(福祉心理学)								
	資格科目(含卒業要件)															
	単位数(累計)		42(42)		36(78)		31(109)		17(126)							
	資格科目	矯正概論 伝達実習1	2 1	矯正保護概論 伝達実習2	2 1	矯正保護支援実論論 図書館情報システム論 図書館情報資源概論 伝達実習3	2 1 2 1	犯罪被害者支援論 児童・YAサービス論 情報サービス論 伝達実習4	2 2 2 1	矯正保護教育(施設參觀を含む) 情報サービス論 情報サービス演習1 情報資源組織論 情報資源組織演習1	2 2 2 2 2	図書館情報学特論 情報サービス論 図書館資源特論 情報資源組織演習2	2 2 2 2			

赤 ゴシックは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目

人文学部社会福祉学科

地域福祉・行政プログラム 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次								
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数					
総合教育	天理スピリット科目群	天理教概観1 英語1	2 1	天理教概観2 英語2	2 1	論学の精神と天理大学のあゆみ	2									
	キャリア教育科目群 基礎リテラシー科目群	多文化理解と言語(各言語) 健康スポーツ科学1 保健医療の仕組みと健康づくり キャリアプランニング	2 2 2 2													
	一般教養科目群	基礎ゼミナール1 データサイエンス・AI入門	2 2	基礎ゼミナール2 コンピュータ入門	2 2											
		(統計学1) (心理学概論) (行政法1) (経営学1) (日本国憲法)		(統計学2) (政治学) (行政法2) (経営学2) (法学)												
社会福祉学科専攻科目		社会福祉概論1 ソーシャルワーク論1 天理教社会福祉論 社会学と社会システム 児童福祉論 現代家族論	2 2 2 2 2	社会福祉概論2 ソーシャルワーク論2	2 2	社会福祉学演習1 人体の構造と機能及び疾病 社会保障論1 ソーシャルワーク論3 地域福祉と包括的支援体制1 (公的扶助論) (権利擁護を支える法制度) ソーシャルワーク演習1 ソーシャルワーク実習指導1 地域連携実習 精神医学と精神医療1 精神保健福祉援助演習1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	社会福祉学演習2 ソーシャルワーク論5 ソーシャルワーク演習3 ソーシャルワーク実習指導2 ソーシャルワーク実習2 精神保健福祉援助演習2 精神保健福祉援助実習指導2 ソーシャルワーク演習2 ソーシャルワーク実習1 精神医学と精神医療2 精神保健福祉援助実習指導1	2 2 2 2 4 2 2 2 2 2	社会福祉学演習3 ソーシャルワーク論6 ソーシャルワーク演習4 ソーシャルワーク実習指導3 精神保健福祉援助実習B 精神保健福祉援助実習3 精神保健福祉援助実習指導3	2 2 2 2 3 2 2	社会福祉学演習4	2	卒業論文	6	
	他学部・他学科開放科目	(生涯学習概論1)				(多文化共生学)				(ボランティアネットワーク論)						
資格科目(含卒業要件)																
単位数(累計)			42(42)				36(78)				31(109)				17(126)	
資格科目	矯正概論 伝道実習1	2 1	矯正概論 伝道実習2	2 1	矯正概論 図書情報システム論 図書情報資源概論 伝道実習3	2 2 2 1	矯正概論 児童・YAサービス論 伝道実習4	2 2 1	矯正概論教育(施設參觀を含む) 情報サービス論 情報サービス演習1 情報資源総論 情報資源総論演習1	2 2 2 2 2	図書情報学特論 情報サービス演習2 図書館資源特論 情報資源総論演習2	2 2 2 2				

※ コシツクは必修科目  
斜体は選択必修科目  
青 明朝体は推奨科目



## 天理大学就職支援・資格取得講座に関する規則

(趣旨)

第1条 本大学キャリア支援課が開講する就職支援・資格取得講座（以下「講座」という）に関する事項は、本規則の定めるところによる。

(受講対象)

第2条 本講座の受講生は、本大学学生・大学院生及び卒業生に限るものとする。

(受講申込手続き)

第3条 本講座の受講を希望する者は、所定期間内に別表に定める講座受講料を納入の上、受講申込書に必要事項を記入してキャリア支援課へ提出するものとする。

2. 一旦納入された講座受講料は返還しない。ただし講座申込者数が開講予定者数に達しない場合、および第4条第2項についてはこの限りでない。

(受講申込講座の変更及び取消し)

第4条 受講申込手続きの完了した講座については、変更及び取消しを認めない。

2. 前項の規定にかかわらず、疾病など、その事情をキャリア支援課がやむを得ないものと判断した場合は、講座の変更及び取消しを認めることがある。

(講座の開講期間)

第5条 本講座の開講期間は、講座募集要項に記載するものとする。

(受講生証)

第6条 本講座受講生には、「受講生証」を交付する。

2. 受講生は、受講の際には常に受講生証を携帯し、担当講師または教職員が提示を求めたときは、提示しなければならない。

3. 受講生証の提示がない場合には、当該講座を受講することができない。

(不正受講の禁止)

第7条 受講生は、受講申込手続きの完了した講座以外の講座を、受講することはできない。

2. 受講生が申込以外の講座を受講したことが判明した場合は、当該受講生が申込手続きを完了している講座についても、受講を取り消すことがある。

(規則の改廃)

第8条 本規則の改廃は、進路・キャリア教育支援委員会の議を経るものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成15年5月28日から施行する。
- 2 「天理大学パーソナルコンピューター講習規程」は、平成15年5月27日をもって廃止する。
- 3 改正規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 4 改正規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 5 改正規則は、平成26年4月1日から施行する。

学生の確保の見通し等を記載した書類  
(人文学部)

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
ア. 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	2
イ. 地域・社会的動向等の現状把握・分析	3
ウ. 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	3
エ. 学生確保の見通し	5
オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	12
(2) 人材需要の動向等社会の要請	16
①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (要約)	16
②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである ことの客観的な根拠	16

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### ア. 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

今回申請する人文学部には6学科を設置するが、設置する6学科の基盤は、現行の人間学部の宗教学科及び人間関係学科に設置している3専攻、ならびに文学部の2学科であり、従来の教育研究の実績をもとに、人文学を統合し学科間の相互連関を促進するために、人文学部として設置する。人文学部に設置する6学科についての現在までの経緯概要は以下の通りである。

本学は戦後の新しい学制のもと、昭和24(1949)年に文学部を設置して開学したが、その際、宗教学科は文学部に定員30名の学科として設置され、平成4(1992)年には、現行の人間学部の1学科として入学定員100名で設置された。現在は人間学部宗教学科、入学定員40名としている。

国文学国語学科は昭和24(1949)年の開学時に、文学部に定員30名の学科として設置された。昭和30(1955)年の体育学部設置時に入学定員を40名に変更し、現在、文学部国文学国語学科としている。

歴史文化学科は平成4(1992)年、文学部歴史文化学科(入学定員40名)として設置された。平成15(2003)年の国際文化学部の学科改組時に入学定員を50名として、現在に至っている。

心理学科は平成4(1992)年に、人間学部人間関係学科臨床心理専攻(入学定員20名)として設置された。平成15(2003)年の国際文化学部の学科改組時に、入学定員を30名として現在に至っている。なお、「臨床心理士」(公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会資格)及び「公認心理師」(国家資格)の資格取得のための受験資格を得ることを主旨として、平成16(2004)年には大学院臨床人間学研究科臨床心理学専攻(入学定員8名)を設置し、現在に至っている。

社会教育学科は平成4(1992)年に、人間学部人間関係学科生涯教育専攻(入学定員20名)として設置され、現在に至っている。

社会福祉学科は人間学部人間関係学科社会福祉専攻(入学定員20名)として設置された。平成15(2003)年の国際文化学部の学科改組時に、入学定員を30名として現在に至っている。

本学は昭和24(1949)年の開学から今日まで、主に人文学系の大学として有為な人材を輩出してきたが、昭和27(1952)年の外国語学部(8学科)の増設によって広範な言語を対象とした外国語教育の拡充を図り、昭和30(1955)年には体育学部(1学科)の増設を行った。平成4(1992)年、人間学部(2学科3専攻)の増設、文学部に歴史文化学科増設及び外国語学部の国際文化学部への転換・拡充を図り、一貫して多様な人文学分野の教育研究の実績を積み重ねてきた。その間、我が国の科学技術分野の進展はめざましく、また社会的な要請の高まりもあり、平成15(2003)年の国際文化学部の学科編成の再構築にあわせて、全学的にカリキュラムの見直しを行った。その際、初年次教育の導入とコンピ

ュータ・リテラシーを要する授業科目の必須化を実施し、学生の社会人基礎力向上を図った。しかしながら、急速な技術革新の結果として社会に惹起したさまざまな課題に対し、人文諸学の個々の分野ではなく、むしろそれらを統合した総合な人文知によって対処することが求められ、期待されるに至っている。さらに、専門教育については、一般教養等からなる共通教育とともに修得することによって、地域社会に貢献する社会人として必要な基礎力を担保することが求められている。このように、人文学諸分野の統合、及び専門教育と共通教育との有機的な連携を図ることが、時代の要請であると捉えている。

#### イ. 地域・社会的動向等の現状把握・分析

今回申請する「人文学部」について、同様の教育研究分野を含む大学は奈良県内に3大学5学部あるものの、本学が目指すようなかたちで人文学的な知と実践を網羅した学部は存在しない。また、近畿2府4県内には「人文学部」を冠する大学は4大学あるものの、やはり本学が対象とする教育研究分野を包含する大学はなく、本学の周辺地域には類似の大学は存在しないと言える。本学が目指す人文学の統合は、科学技術・学術審議会 学術分科会の「人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ」がまとめた「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議のまとめ）」（平成30年12月14日）に沿ったものである。本学には、当初文学部に設置した宗教学と国文学分野の教育研究の実績に加え、その後設置した人間学部人間関係学科の3専攻、及び文学部歴史文化学科における歴史学・考古学・民俗学の教育研究の実績がある。新たに設置する「人文学部」は、科学技術の進展によって顕在化した現代社会の諸課題に対し、そうした人文学及び社会科学の知見を積極的に提示しようとするものである。

さらに、近年多発する自然災害などの経験を通して、人を思い、人に寄り添うことができる利他的な感性を持つ人間が、今日の社会ではとりわけ重要な役割を担いつつある。また本学には、学部留学生及び短期留学生が常時100名以上在籍し、日常的に異文化・異宗教を基盤とする学生と交流する条件が整っている。このように本学は、宗教文化都市・天理という環境のなかで、多文化共生社会の現実的な知見と理解を深め、他者への献身を涵養する教育を提供することができる。

#### ウ. 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

##### 1) 趣旨と目的

平成30(2018)年12月に公表された「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議のまとめ）」（科学技術・学術審議会 学術分科会 人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ）には、「検討の背景」として、現代社会は「人々が共有する価値・文化・社会が大きな変化を遂げる転換期にある。」とし、「転換期における人文学・社会科学の現代的役割」として、「そのような時代を迎えた今、「意味」や「価値」を探究する人文学・社会科学の学術知が力を発揮する領域は本来大きいはずであり、実際にも国内外を問わず各方面から人文学・社会科学の重要性を強調する声が上がっている。」と述べている。そのうえで、細分化された研究課題に足り組むだけでなく、従来から「知の統合」「分野を超えた総合性」が求められているおり、「人文学・社会科学の諸学が分野を超えて本質的・根源的な問いを再設定し、現代の現実社会が直面する諸課題に関する研究

を行う中でそれらの問いに対する探求を深化させていくというプロジェクト的な試み」が考えられるとしている。【資料1】

天理大学は、令和7（2025）年に、前身校である天理外国語学校が設立されてから創立100周年を迎える。この節目の年を迎えるにあたり、社会に対し本学が目指すところを明確にし、自らの方向性を明示した「天理大学ビジョン2025」を制定した。本学の建学の精神は、「陽気ぐらし」世界建設に寄与する人材の養成を使命」としている。この建学の精神を受け、さらにそこではその使命について、「あふれかえる情報とたえまない環境変化のなかで、思想や宗教などの精神文化への知識と理解をもとに、他者に貢献する心を持ち、自らの信念のもと、自分が何をなすべきかを主体的に判断し、能動的に行動できる人間の育成」としている。さらに、「このような社会のなかで、精神文化をはじめとする異文化への理解と寛容さは、重要な資質としてますます重要視されている。さらに、人を思い、人に寄り添うことのできる利他的な志を持つ人間も、近年に大きな災害を経験した今こそ、社会で重要な役割を担っている。」。【資料2】

急速に変化する社会環境の只中で活躍できる知的基礎体力として、人文学の諸学問を総合的・実践的に修学できる環境は、まさに利他的な感性を養うことを柱とする本学の使命とも合致する。また、科学技術の進展がもたらす価値観や倫理観の流動化という状況において、本学が輩出する人材が、地域社会のなかで人々をつなぐ役割を果たすことができると期待している。さらに本学には、異なる文化・異なる宗教のなかで成長した仲間たちと日常的に交流する環境が整っている。また、天理という宗教文化都市が持つ特別な環境には、思想や宗教などの精神文化についての理解が自ずと深められるという利点がある。こうした基盤のうえに、体系的に人文知を修得できる仕組みを構築することで、地域社会を積極的支え、地域社会と共創することができる人材の育成が可能になる。

また、「人文学及び社会科学の振興について（報告）－「対話」と「実証」を通じた文明基盤形成への道－」（平成21年1月20日科学技術・学術審議会・学術分科会）において、社会における人文学的素養の必要性に関し、「社会における具体的な課題を解決するためには、高度な専門性の前提として諸価値についての判断力、即ち人文学的な素養が必要となる。このため、高度な専門人の育成に当たっては、人文学的な素養の涵養という視点が求められる。一般に社会は、問題設定や目的が一義的に与えられるものではなく、問題設定や目的自体をめぐって試行錯誤が繰り返されているような世界である。したがって、ここで涵養される「高度な専門性」は、客観的な知識を獲得し、それをテクニカルに適用すればよいというのではなく、人文学的な素養を背景としていなければならないことに留意しておく必要がある。」としており、総合知としての人文学を修めることは、社会の諸課題を解決するための基盤となるという社会的な共通認識があると言える。【資料3】

## 2) 教育内容

今回設置申請する「人文学部」は、現行の人間学部2学科3専攻と文学部2学科を、それぞれの学科としての学問的な独自性は保持しながらも、学部組織として統合し、新たに人文学部6学科として設置する。個別の学科としての専門性は担保しつつ、1学部として人文学的な知を総合的に教授・研究することによって、多様な視点から地域社会を支え共創する知識とスキルを有した人材の育成を目指す。加えて、各学科においては、実践知と

しての人文を修得するために、積極的に実習、特に学外における実習を積極的に取り入れながら、実社会における人文の有用性を認識させる。このように、価値観が多様化する今日の実社会に貢献できる人材を育成する場として、今回、本学に新たに「人文学部」を設置する。

人文学部における各学科の設置の主旨については、その具体的なカリキュラムのなかに示されている。つまり、人文学部の各学科の専門教育は、一般教養等からなる共通教育とともに修得させるかたちになっている。これは、人文学諸分野の統合と専門教育と共通教育との連携を図りながら、学生に対してはカリキュラムにおける履修モデル・プログラムを明確に提示し、効果的な学修を推進するものである。これはまさに時代の要請であると考えている。

### 3) 定員

今回申請する人文学部 6 学科の入学定員は 240 名（宗教学科 20 名、国文学国語学科 40 名、歴史文化学科 50 名、心理学科 40 名、社会教育学科 40 名、社会福祉学科 50 名）である。入学定員の設定については、70 年以上にわたる宗教学科及び国文学国語学科の伝統と実績、ならびに歴史文化学科、心理学科、社会教育学科及び社会福祉学科の約 30 年の実績をもとに、各学科が設定した履修モデル・プログラムの実効性を維持するために、心理学科、社会教育学科、社会福祉学科では、現行の入学定員を増やし、宗教学科においてはその設置目的を特化することから、現行の定員を減らす。

### 4) 入学金、授業料

学生納付金は、既存の人間学部、文学部、国際学部と同額とし、つぎの通りとする。入学金 100,000 円、授業料 760,000 円、教育設備充実費 220,000 円（2 年目以降 270,000 円）となり、初年度学生納付金額合計は 1,080,000 円となる。また、4 年間の学生納付金額合計は 4,170,000 円（実習費、委託徴収諸会費を除く）となる。

なお、学生納付金について、日本私立大学団体連合会による「入学初年度年間納付金平均額」の文科系（令和 4 年度）の金額及び「在学期間納付金平均額」の文科系（令和 4 年度）の金額と比較をした。初年度年間納付金平均額は 1,262,803 円、在学期間納付金平均額は 4,450,092 円となっており、本学の学生納付金は、概ね平均より低額となっている。これは近隣大学の類似学部、学科の学生納付金と比較をしても、もっとも低額に抑えられている。【資料 4】

これにはまず前提として、大阪府や京都府など、人口や物価において一般的に奈良県よりも高いという現実がある。また、奈良県下で類似の学部を有する競合校と比較しても、入学初年度年間納付金額の総額は 4～10 万円ほど低額に抑えられている。これは特に、学生の経済的負担の軽減、及び学生募集における競争力の確保を総合的に勘案した結果である。さらに、本学は天理教を母体とする大学であるため、比較的 low 額の学生納付金でも、持続的かつ安定的な大学運営が、ある程度は見込めるという利点を有している。

## エ. 学生確保の見通し

### A. 学生確保の見通しの調査結果

今回設置申請する人文学部の6学科について、宗教学科及び国文学国語学科は学制制度制定に伴う新制大学として本学が設置された昭和24(1949)年に設置され、今日まで70年余の間、多くの有為な人材を輩出してきた。また、歴史文化学科はその前身として、平成4(1992)年に歴史文化学科が既存の文学部に設置された。心理学科、社会教育学科及び社会福祉学科は、平成4(1992)年に新たに設置された人間学部人間関係学科に、臨床心理専攻、生涯教育専攻及び社会福祉専攻として設置された。今回、その30年余の実績をもとに、教育研究の幅を拡げ、臨床心理専攻を「心理学科」として、生涯教育専攻については社会教育の具体的なフィールドを明示して「社会教育学科」とし、さらに「社会福祉学科」については、現在も社会的な需要や要請が大きい社会福祉分野の人材育成の拡充を目的に、学科として独立させる。一方、宗教学科については、従来主要な志願者として想定してきた天理教教会後継者の関心の多様化という実情に鑑み、定員を40名から20名にする。

ここからは、文部科学省の令和4(2022)年度学校基本調査の結果をもとに、本学の設置圏域内(近畿圏内)の高等学校及び中学校の在籍生徒数から潜在的な入学志願者対象生徒数を導出し、学生の確保の見通しを立ててみたい。

令和4(2022)年度調査によると、人文学部設置初年度に志願者層となる高等学校2年生の在籍生徒数は157,471人(そもそもこの年度のみ、前後に比較して出生数が落ち込んでいる)、設置後2年度に志願者層となる高等学校1年生の在籍生徒数は165,005人と推移している。また、設置後3年度に志願者層となる通学可能圏域の中学校3年生の在籍生徒数は170,724人、設置完成年度に志願者層となる中学校2年生の在籍生徒数は168,925人と推移している。令和4(2022)年度の通学可能圏域の中学卒業者の高等学校進学率は98.9%となっており、今後、大学進学をめざす志願者数が大幅に減少することは考えにくい。

さらに、設置圏域内(近畿圏内)の過去3カ年について、近畿圏の国私立(除、公立大)の分野動向を各大学が公表しているデータをもとに、河合塾が集約した資料から人文科学分野の統計を検証すると、令和2(2020)年度の入学定員7,747名に対し、志願者数は104,386名、合格者は25,860名である。令和3(2021)年度は、入学定員7,720名に対し、志願者数は88,477名、合格者は28,970名、令和3(2022)年度の入学定員7,863名に対し、志願者数は89,895名、合格者は30,872名となっている。入学定員は、近畿圏内では国立及び私立大の合計が微増(116名)しているものの、志願者数は約12%(14,491人)減少している。だがこれは、令和4(2022)年度は前年度に比べ、1.4%(1,418名)の増加である。しかしながら、人文学系分野の定員7,863名に対し、約9万人もの志願者を集め、実質倍率でも3倍弱あることが分かる。

人文学部6学科の基礎となる現4学科の入学者の出身地域を、平成28(2016)年から平成3(2021)年の統計で検証すると、奈良県内の出身者が全体の52.5%を占め、奈良県を除く近畿圏内では21.0%、近畿圏外は26.5%となっている。文部科学省の学校基本調査をもとに、リクルート進学総研が公表している「大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向(近畿)」によると、奈良県の地元残留率(進学者の内、地元の大学等に進学した者の割合)について、奈良県は14.5%しかなく、近畿圏内の他府県の大学等に進学している。従って、進学する生徒を確保するためには、地元奈良県からの進学者が多い人文学部

学科については、今後奈良県内の進学者を確実に獲得することによって、学生確保の見通しをつけられると考える。【資料5】

加えて、本学には天理教を信仰する家庭、ないしは入学者自身が天理教を信仰する学生が約30%弱在学している。それらの志願者は設置圏域内に限らず、全国的に散らばっている。今後も天理教信仰者家庭に対し、天理教関連の広報媒体を活用しつつ、これまで以上に効果的な広報戦略を展開することによって、信者関係の志願者を獲得していきたい。

以上のことから、中長期的に、学生確保の見通しはあるものと考えている。

## B. 新設学部等の分野の動向

日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学入学志願動向」の「主な学部別志願者・入学者動向（大学）」において、今回設置する人文学部と同系統の「人文科学系」のうち、外国語学部・国際文化学部・グローバルコミュニケーション学部（群）を除いた入学定員、志願者数、入学者及び入学定員充足率について、令和元年度以降のデータは〈表1〉の通りとなっている。

〈表1〉人文学系の学部の志願者動向（全国）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入学定員（人）	56,413	55,648	55,600	56,208
志願者数（人）	528,718	495,897	429,241	422,091
入学者数（人）	58,362	57,314	55,449	55,965
入学定員充足率（%）	103.45%	102.99%	99.73%	99.57%

出典：日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学入学志願動向」「主な学部別志願者・入学者動向（大学）」

入学定員は、令和元（2019）年度から令和4（2022）年度までに205名減少している。志願者は106,627名の減少、入学者は2,397名の減少である。入学定員充足率は3.88%減少しているものの、全分野での入学定員充足率が100.84%であることを考慮すると、ほぼ100%を維持しており、概ね充足していると言える。また、全国規模では志願者は約100,000名（約20%）減少しているが、入学定員56,208名に対して422,091名の志願者がある。志願者が減少傾向にある要因として、令和2（2020）年度以降、入学定員が減少に転じたことや、新型コロナウイルス感染症拡大に加え、学問分野として理工系や情報系などに志願者の関心が高まったという事情が指摘できるだろう。しかしながら、全国規模で見ると、人文科学系（除、外国語・国際系）は毎年400,000人以上の志願者を集めており、入学定員に対する志願者数は約7～8倍程度あることが分かる。

設置圏域内である近畿圏の国私立（除、公立大）の分野動向について、各大学が公表しているデータをもとに河合塾が集約した資料から、令和2（2022）年度から令和4（2023）年度の人文科学分野の統計を〈表2〉に示す。



〈表2〉人文科学分野の志願者動向（近畿圏内）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入学定員	7,747	7,720	7,863
志願者数	104,386	88,477	89,895
合格者数	25,860	28,970	30,872
実質倍率	4.04	3.05	2.78

出典：河合塾資料

前述の「私立大学・短期大学入学志願動向」とは異なり、これは入学者数ではなく合格者数で示しているため、入学定員を超過している。

入学定員は、近畿圏内では国立大学及び私立大学とも微増（116名）しているが、志願者数は約12%（14,491名）減少しているものの、令和4（2022）年度は前年度に比べ1.6%（1,418名）増加に転じている。しかしながら、人文学系分野の定員7,863名に対し、約9万人もの志願者を集め、実質倍率でも3倍弱あることが分かる。

以上のことから、少子化、及び理工系分野への関心の高まりのなか、今回申請する人文学部、もしくは人文系学部の志願数は減少傾向にあるものの、全国規模で概観すると、入学者定員に対して志願者数は約7～8倍あり、近畿圏（設置圏域内）においてはさらに、入学者定員に対する志願者数は11倍以上となっている。志願者数にすると、全国規模では約42万人以上、設置圏域内（近畿圏）においても約9万人になる。本学の設置圏域内（奈良県、大阪府、京都市、和歌山県、三重県、滋賀県）における近接学問分野への志願者数の動向から検証すると、新設する人文学部への志願者を確保し、定員を充足できるものと考えている。

### C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

#### 1) 本学の設置圏域内の高等学校及び中学校の在籍者数

本学では、文部科学省令和4年度学校基本調査をもとに、本学の設置圏域内（奈良県、大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、和歌山県）における高等学校及び中学校の在籍者数から、今後の学生確保の見通しを考えている。

令和4（2022）年度の文部科学省学校基本調査によると、人文学部設置時初年度に受験対象となる令和4（2022）年度高等学校2年在籍者数は157,471名であり、令和4（2022）1年生は165,005人となっている。また、設置後3年目の受験対象者である中学3年生は170,724名、設置後4年目の受験対象者である中学2年生は168,925名となっている。令和4（2022）年度の調査によると、本学の設置圏域内の令和3（2021）年度卒業の中学生のうち、高等学校への進学者の割合は約98.8%となっており、設置初年度の受験対象者数より2年目、3年目と順次増加している。こうした点から、本学の設置圏域内の大学受験対象者が大きく減少することは現状では想定できず、中長期的に学生確保の見通しがあるものと考えている。

#### 2) 本学の設置圏域内の大学進学率

令和4(2022)年度学校基本調査によると、本学の設置圏域内の高等学校卒業生(163,203名)に占める大学等への進学者(107,385名)の割合は65.8%となっている。設置圏域内の大学等への進学率は、全国の平均59.5%よりも高い。府県別の状況は〈表3〉の通りである。

〈表3〉設置圏域内の大学進学率(令和4年度)

	高校卒業生数	大学等進学者数	大学等進学率
奈良県	10,939	6,935	63.40%
大阪府	68,085	45,305	66.54%
京都府	21,821	15,568	71.34%
兵庫県	42,454	28,004	65.96%
滋賀県	12,108	7,196	59.43%
和歌山県	7,816	4,377	56.00%
計	163,223	107,385	65.79%

出典：文部科学省学校基本調査

また、令和元(2019)年の同調査では、〈表4〉の通りであった。

〈表4〉設置圏域内の大学進学率(令和元年度)

	高校卒業生数	大学等進学者数	大学等進学率
奈良県	11,455	6,805	59.41%
大阪府	73,826	44,029	59.64%
京都府	23,240	15,308	65.87%
兵庫県	45,882	27,943	60.90%
滋賀県	12,688	6,946	54.74%
和歌山県	8,715	4,232	48.56%
計	175,806	105,263	59.87%

出典：文部科学省学校基本調査

令和4(2022)年度の状況について、令和3(2021)年度と比較すると、卒業生は12,603名(約7.2%)減少しているものの、大学等への進学者は2,122名(約2%)の増加となっている。今後大学等への進学率が大きく減じることはなく、むしろ微増するものと考えられる。また、設置圏域内の大学等への進学率では、令和4(2022)年の全国平均(59.5%)は、令和元(2019)年の全国平均(54.7%)を上回っている。さらに、前述の通り、設置2年度及び3年度の高等学校生及び中学校生は若干増加しており、この点を考慮しても、大学受験対象者が大きく減ずることはなく、微増傾向にあると言える。中長期的にも、学生確保の見通しはあるものと考えられる。

本学の令和4(2022)年度の入学選抜において、本学志願者のうち約30%は奈良県内

の高等学校の出身者で、次いで大阪府内の高等学校出身者が約 17%、奈良県及び大阪府も含めた設置圏域内設置の高等学校からの志願者は約 66%である。他方、約 34%は設置圏域外からの志願者である。

奈良県をはじめとする本学への設置圏域内（大阪府、京都市、和歌山県、三重県、滋賀県）における高等学校・中学校在籍の生徒数、及び高等学校を卒業した生徒の大学への志願状況、さらに、本学特有の条件である、天理教信仰家庭の生徒の全国各地からの志願状況や需要動向を総合的に勘案すると、入学定員 240 名は今後安定的に確保できるものと考えられる。

#### D. 競合校の状況

今回本学が設置する人文学部は、6つ学問領域を教育研究の対象としているが、同程度に広い分野を1学部として設置している大学は、設置圏域内には見当たらない。そのため、競合校として学部単位での検討は難しいが、近隣の文系学部で、本学の6つの分野のうち複数の学科を設置している大学で、学科の単位で志願者が併願していると考えられる大学を対象に、以下〈表5〉に提示する。

〈表5〉近隣大学の文系学部の状況

〈表5-1〉奈良大学 文学部（定員 385 名）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
入学定員数	385	385	385	385	—
志願者数	2,586	3,373	2,661	1,910	2,386
合格者数	1,113	998	991	955	1,020
入学者数	537	490	401	355	431
定員充足率	139.5%	127.3%	104.2%	92.2%	112.2%

〈表5-2〉帝塚山大学 文学部及び心理学部（定員 210 名）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
入学定員数	210	210	210	210	—
志願者数	3,043	3,177	2,452	1,789	2,428
合格者数	643	635	426	557	542
入学者数	273	247	235	197	235
定員充足率	130.0%	117.6%	111.9%	93.8%	111.9%

〈表 5 - 3〉大谷大学 文学部（定員 318 名）

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	平均
入学定員数	395	408	318	318	—
志願者数	3,561	3,445	1,920	1,881	2,454
合格者数	1,054	1,166	1,193	1,451	1,233
入学者数	430	433	315	313	353
定員充足率	108.9%	106.1%	99.1%	98.4%	102.1%

〈表 5 - 4〉大阪大谷大学 文学部（定員 100 名）

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	平均
入学定員数	100	100	100	100	—
志願者数	803	961	632	406	614
合格者数	202	199	148	180	177
入学者数	117	114	112	108	112
定員充足率	117.0%	114.0%	112.0%	108.0%	112.3%

〈表 5 - 5〉京都橘大学 文学部（定員 240 名）

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	平均
入学定員数	240	240	240	240	—
志願者数	5,414	4,761	3,448	3,706	4,189
合格者数	1,153	1,241	1,316	1,762	1,410
入学者数	239	240	242	238	240
定員充足率	99.6%	100.0%	100.8%	99.2%	99.9%

出典：天理大学入学課

設置圏域内（近畿圏）の志願者数や合格者数は既に上記で概観しているため、上記 5 大学を対象に検証すると、5 大学の当該分野の入学者定員 1,253 名であり、5 大学の年度平均志願者数は 12070.7 名、合格者は 4381.3 名となっており、入学者が 1370.7 名いることから、5 大学の平均充足率は 109.4%となっている。近年、各大学における競争率、定員充足率はともに若干減少傾向にはあるが、実質的な競争率は平均で 2.75 倍あり、需要はあるとともに、定員充足率は平均で 109.4%となっている。

これらの傾向は、先に指名した当該分野の近畿圏内の動向とほぼ同一であり、そのことから、学生確保の見通しが立つものと考えている。

#### E. 既設学部等の学生確保の状況

人文学部の基礎となる既存の人間学部（2 学科 3 専攻）及び文学部（2 学科）の最近 5 年間の志願者数、合格者数、入学者数、定員充足率は〈表 6〉の通りである。

〈表6〉天理大学（現）人間学部及び文学部の志願状況

	平成30年	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
志願者数	413	387	482	365	353
合格者数	345	307	369	298	313
入学者数	212	186	200	156	172
定員充足率	101.0%	88.6%	95.2%	74.3%	81.9%

最近5年間の志願者数は平均で400名、合格者数は約326名で、実質的な志願者数に対する合格者数の平均倍率は1.23倍となっている。しかしながら、近年では定員充足率が全体としては1倍を下回っている。既存の4学科において、近5年で入学者定員充足率が芳しくない宗教学科について、現行の定員40名を人文学部宗教学科では現行の40名を20名に減らしている。

設置後には、さらなる志願者拡大のみならず、合格者手続き率の向上を志向した方策を実施する。

#### オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

人文学部の学生確保に向けた活動については、他大学の類似の学部学科との比較において、その魅力や長所をいかに志願者やその関係者に正確かつ丁寧に伝えるかがポイントとなると考えている。そのために、対面での説明とともに、さまざまなコミュニケーション・ツールの特性を活かしながら、伝達内容と伝達時期を学内の担当部署と協働してすすめ、学生確保に全力で取り組む。

その具体的な取り組みは、以下の通りである。

##### 1) 広報における取り組み状況

###### ①オープンキャンパスの実施

令和3（2021）年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大により、それまで実施していたようなかたちでのオープンキャンパス開催は困難になり、オンラインでの説明や、感染対策に充分配慮した完全予約制での対面説明会などを実施した。2021年度より、対面での説明会を少人数ごとの事前予約制で行い、2022年度は事前予約制を継続しつつ、当日参加も含めた対面でのオープンキャンパスを実施した。

令和4（2022）年度は、3月25日（土）、6月25日（土）、7月17日（日）、8月27日（土）・28日（日）に実施し、総計で1,710名の参加を得た。コロナ禍以前のオープンキャンパスでは、参加者が本学への出願につながるケースが多かった。そこで本学の学びや施設設備、入試状況などを説明するとともに、在学生や教員による相談コーナー、大学の学びを直接体験できるミニ講義を設け、学科の魅力が来学者により伝わる工夫をして、本学の強みや魅力を伝える貴重な機会となっていたが、コロナ禍によってその機会が損なわれていた。今年度は令和5（2023）年3月24日（金）にオープンキャンパスを実施し、今後6月17日（土）、7月8日（土）、8月5日（土）、8月26日（土）、9月9日（土）の年6回の開催を予定している。なお、開催時期については、例年より早めの実施を計画

しており、現在申請している内容も含め、参加者にいち早く提供したいと考えている。

オープンキャンパスの内容としては、本学の在学生や教職員との個別相談、学部・学科の紹介、専任教員による模擬授業、キャンパスツアー、本学で学ぶ留学生との交流等を通じて、本学の雰囲気を感じてもらおう。その雰囲気の中で、入試制度や教育内容、留学制度、奨学金制度、大学寮やアパート生活に関する情報等について、丁寧な説明を行う。特に、在学生が主体（T-can＝天理大学オープンキャンパス学生実行委員会）となって企画・運営するプログラムは、参加する高校生たちから親しみと共感を得ている。大学公式の SNS 以外にも T-can が運営するサイトも設け、オープンキャンパスの動員にも力を入れている。また 11 月には、本学を志望する生徒を対象に、入試に関する情報提供の場として個別相談を実施する。前述のとおり、本学のオープンキャンパスへの参加者増加は定員確保に大きく影響することから、上記の入試広報に関する基本的な方針を、オープンキャンパス参加・LINE 登録へと繋げていきたい。

## ②電子媒体による情報発信の実施

天理大学公式ホームページや天理大学入試情報サイト「STORIES」の内容充実に加え、受験生向けの進学情報誌、進学情報サイト、高校生向けのメールマガジン、各種 SNS を活用しながら、継続的かつ定期的な情報発信を実施する。志願者に対する継続的な情報発信の実績としては天理大学公式 LINE（受験生向け）があるが、アクセス数の増加、開封率の向上を目指し、過年度の分析レポートを基に、効果の高かったコンテンツの配信を強化、配信の方法・時期についてもさらなる改善を図る。天理大学公式 LINE（受験生向け）のアクティブユーザー数と出願者数が近似値であることから、LINE 登録者数の増加は定員確保に大きく影響していると考えられる。また、以前より展開してきた Web 広告（リスティング広告）についても、新学部学科の新設等の本学の動きを主としながらも、オープンキャンパス参加・LINE 登録に誘導できるような配信を行う。配信時期については、例年より早めの展開を予定している。また、天理大学に入学実績のある高校（地域）を中心に GPS を駆使したエリア配信を行い、スマホ時代に対応したネット広告を実施していく。

## ③高等学校訪問の実施

本学の指定校や入学実績のある高校を中心に、奈良県及び近隣府県の高校を本学教職員が訪問し、大学の近況や入試に関する情報を提供するとともに、本学に在学する当該校の卒業生の近況を報告するなどして、高校との連携を深めている（高校訪問実施数：2021 年度 154 校、2022 年度 142 校）。

過去の入学実績に基づき、近隣府県に指定校を設定するとともに、県外への進学率の高い、受験生が志望する学科のニーズを考慮し、北陸・山陰・四国地方などにも指定校を拡充していく。また、可能な限り多くの高校を訪問し、本学の強みや魅力を直接伝える機会を設ける。

## ④高校教員向け進学相談会の実施

例年、近畿地区の高校や予備校の教員向けの本学主催の進学相談会を、大阪・奈良の 2 会場で開催している。相談会では本学の近況や特色、教育内容、各種制度、入学者選抜に

関する情報を提供し、個別相談を実施するなど、参加した教員にとって有益となる情報を提供している。

こうした進学相談会は、令和2（2020）年度は新型コロナウイルスの感染拡大により中止したが、ここ2年間は感染防止策を講じて開催した。特に今年度は改組も迎えるため、高校教員への理解・認知度を高めるべく、詳細な情報を丁寧に提供していきたい。

#### ⑤印刷物による情報発信の実施

Web等の情報発信にはその内容量に限界があり、また対面での情報発信についても、反省点等の確認が難しいという事情があるため、印刷媒体による広報も継続して実施する。以前から制作してきた大学案内や各学部の案内パンフレット、主に社会に向けて発信をしている大学広報誌に加え、新たに学部・学科の教育内容や学びのポイント、取得できる資格等をまとめたリーフレットを制作する。いずれも新学部学科設置の特集として編集するが、各学部学科の求める人物像と入試制度、入学後の学びのポイントから進路・就職、いわゆる出口までが一貫した構想のもとにあることを明確にし、高校生、保護者、高等学校等へ提供する。各種印刷物は、電子化されたものを同時に制作し、天理大学ホームページからも提供していく。

#### ⑥進路説明会・進学相談会

入試関連業者を通して、あるいは例年志願者実績の多い高校からの依頼に基づき、学問系統別の説明会や模擬授業、本学紹介の企画、職業に関する説明会等に本学教職員が参加している。奈良県及び近隣府県の高校・会場が中心だが、近畿圏への志願者の流入が多く見込まれる地区への参加も強化していく。

#### ⑦教育活動の広報機会の拡充

新学部学科の設置構想中の告知を、令和5（2023）年4月より、天理大学公式ホームページ・天理大学入試情報サイト「STORIES」にて実施する。実施にあたり、サイトのトップページデザインの変更を行い、新学部学科設置に関する情報の周知を高めるとともに、QRコードを利用して様々な紙媒体との連携を図る。特にSNSの活用として、天理大学公式インスタグラムの対象者を、これまでの在学生から高校生へと拡大し、オープンキャンパス等の告知も行う。また、新学部学科構想に関する教育研究活動を、地域貢献として積極的に地域社会に還元・公開する。この情報公開については、地元報道機関に対するプレスリリースを過去3年間で計52本配信してきた実績があり、新学部学科設置構想に特化した地域密着型の情報発信を行う予定である。

#### ⑧高大連携の強化・拡充

同一法人設置校である天理高等学校とは、高大連携でその内容を充実させるため、年2回以上、定例協議会を実施している。当協議会において志願者や入学者の情報を共有し、連携強化の機会としている。また、天理高校生のみを対象とした「ミニオープンキャンパス」を毎年5月に実施し、各学部・学科の模擬授業や学科紹介などを通じて、いち早く情報を伝える機会としている。さらに、天理高校生の保護者を対象とした懇談会においては

大学紹介を行い、高校生には個別相談会も実施している。

その他の高校として、高大連携協定を結ぶ私立奈良育英高等学校、奈良県立高取国際高等学校、私立明德義塾高等学校（高知県）があり、各高校と年数回、高大連携に関する協議会を実施し、情報公開を行っている。特に、奈良育英高等学校からの依頼により、過去2年は2年生100名以上の生徒を終日受け入れ、模擬授業、施設、課外活動などを見学・体験する大学見学会を開催している。また、1年生にも半日の予定で、模擬授業、施設などを見学・体験する大学見学会を実施している。

協定を結ぶ3校には、外交官養成セミナーの一環として、本学のネイティブ教員による語学レッスンを、オンライン・対面形式で年数回実施している。高校から直接依頼される相談会等にも積極的に参加している。

上記以外の県内の高校を中心に、毎年特別講義や留学生との交流会などを実施しており、高大連携協定の強化を図っている。今後も相互の一層の発展へと繋がる交流を目的に、入学実績のある高校や近隣高校との連携協定を拡充していく予定である。

#### ⑨天理教関係者への情報発信の実施

日本国内の天理教教会や施設、天理教が設置する天理教語学院（日本語学校を兼ねる）の在學生、さらには英語圏地域とつながりのある天理教教会関係者及びその子弟への勧誘活動に、積極的に取り組んでいる。日本各地に点在する1万2千余の天理教教会に対しては、新学部学科設置構想に関する本学広報誌の特集記事掲載号を送付するとともに、天理教公式ホームページにおいて、新学部学科設置構想に関する情報を掲載した本学入試情報サイト「STORIES」へのリンクを設置する。また、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、天理教教会本部への参拝者の回復が見込まれるため、新学部学科設置構想を告知した大型タペストリーを地元天理本通りに掲げる。そのタイミングに合わせ、天理教の機関誌において、本学の新学部学科設置構想に関する記事を掲載する。

#### ⑩その他の取り組み

これまで実施していなかった取り組みとして、電車や駅などに本学の広告を打ち、また予備校・入試関係業者などと連携して、受験対象者にダイレクトメールを送付する。さらに、高校教員として任用されている卒業生とのネットワークは本学の強みの一つでもあるが、今後はそれをさらに強化し、母校である本学の紹介と本学の情報を、進路指導のなかで活かしていけるように提供していく。

以上のようなさまざまな施策を重層的に実施して、入学者確保へとつなげていく。

#### 2) 入学者選抜制度上の取り組み

今回の新学部学科の設置構想に合わせて、入学者選抜制度の改革に取り組んでいる。

学長を議長とする「入学志願者獲得戦略本部会議」を設置し、入学後の成績や離籍率などについて、選抜制度別、あるいは学科、学年毎に提示し、翌年度の制度設計に反映できるように検討している。

新たな入試制度は、各学部学科が掲げる教育研究の目的に見合う志願者を確実に確保すべく、高校時代の活動を多角的に評価する選抜制度や、学科の学びへの意欲を評価する選



抜制度を準備している。加えて、天理外国語学校創設以来 100 年にわたる語学教育の伝統と実績を具現化すべく、国際学部においては英語外部試験を利用した選抜制度も実施する。

志願者・入学者確保のために、選抜試験の機会を増やし、多様なニーズを持つ学生に応じた新たな入試体制を整えることで、幅広い志願者の確保を目指している。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

人文学部の人材の養成に関する目的は、以下の通りである。

人文学部は、現代社会が直面する多様かつ複雑な課題に対し、宗教や文学、歴史などの人文学的知、ならびに社会的・実践的な学知の成果にもとづきつつ、本学の建学の精神である他者への献身を積極的に具現化しうる人材の養成を目的とする。

### ②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

社会的、地域的な人材需要の動向として、他者との豊かな関係を積極的に構築しつつ、自らに対してはより謙虚な姿勢を身につけた人材が求められていると言える。そのことは、次のようなアンケートの回答にも示されている。

「向上心が強く、努力を惜しまない勤務姿勢が共通している。」

「当社が求める人材につきましては、積極性・誠実さ・コミュニケーション力がある「自立型人材」であり、貴大学出身者については、まさに適した人材であります。」「大変心優しく、相手の立場に立って仕事を進めてくれる姿勢が見てとれます。」【資料 6】

こうした回答からは、本学卒業生が就職先において、誠実かつ勤勉で、コミュニケーションにも長けた人材であると認められていることがうかがえる。これは本学が、伝統的な人文知にもとづく深い人間への洞察のみならず、現代人が抱える具体的な諸課題に対応しうる豊かな人間性の涵養を目指してきた教育成果の一端と見ることができる。以上のことから、本学部が育成する人材に対する社会的需要は大いにあると言えよう。

学生の確保の見通し等を記載した書類  
(人文学部)

資料目次

資料1. 人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて・・・	2
資料2. 天理大学ビジョン 2025・・・・・・・・・・・・・・・・	3
資料3. 人文学及び社会科学の振興について（報告）・・・・・・・・	4
資料4. 納付金平均額、納付金比較表・・・・・・・・・・・・・・・・	5
資料5. 18歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向・・・・・・・・・・・・・・・・	7
資料6. 企業・団体等対象アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・	8

1. 書類の題目

人文学・社会科学が先導する 未来社会の共創に向けて

2. 出典

文部科学省

科学技術・学術審議会学術分科会

人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ

3. 引用範囲

人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議まとめ）

（1 ページから 2 ページ）

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/044/houkoku/1412891.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/044/houkoku/1412891.htm)

[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2019/02/26/1412891\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2019/02/26/1412891_02.pdf)

創立100周年に向けて

天理大学  
ビジョン  
2025

自分を超えて、未来を拓く

天理大学は、1925（大正14）年に天理外国語学校として設立され、2025年に創立100周年を迎える。建学の精神を継承し、さらに教育や研究、学生支援等の充実に努め、社会の要請に応えうる大学となるための指針として、「天理大学ビジョン2025」を宣言した。

## 建学の精神

教祖（おやさま）の教えに基づいて、  
「陽気ぐらし」世界建設に寄与する人材の養成を使命とする。

## 育成する人間像

揺るぎない信条を基盤に、多様な価値観に対する理解や世界の現状についての知識をもち、積極的に他者に貢献し、共生する社会の実現に向けて、考え行動できる人間

## 理念・使命

1925年に創設された天理大学は、2025年、創立100周年を迎える。

この1世紀にわたる時間の中で、本学は社会状況の変化に対応しながら、建学の精神を揺るがすことなく、ここ天理の地で社会において有意な人物の育成に取り組んできた。

本学が存在する意義・使命は、建学の精神にある  
『「陽気ぐらし」世界建設に寄与する人材の養成』である。

これを現代社会において言い換えるなら、あふれかえる情報とたえまない環境変化のなかで、思想や宗教などの精神文化への知識と理解をもとに、他者に貢献する心を持ち、自らの信念のもと、自分が何をなすべきかを主体的に判断し、能動的に行動のできる人間を育成することにある。

このような社会のなかでは、精神文化をはじめとする異文化への理解と寛容さは、重要な資質としてますます重要視されている。さらに、人を思い、人に寄り添うことのできる利他的な志を持つ人間も、近年の大きな災害を経験した今こそ、社会で重要な役割を担っている。

そのような思いを備える人間が今日の社会を支え、積極的に活躍することが求められている。それは本学の「宗教性」「国際性」「貢献性」という三つの柱と見事に合致する。

創立100周年を迎える2025年に向けて、建学の理念を基盤に、新たな時代の要請に正確に応えうる大学を実現し、未来を拓くことのできる人物を育成する。

## 1. 教育について

## 基本方針

「育成する人間像」を基盤に、自分が何をなすべきかを主体的に判断し、能動的に行動のできる人間を育成する。そのために、教育の内部質保証システムを整備し機能させることによって、教養教育ならびに専門的教育の質および教育方法を継続的に点検・改善し、教育力を向上・強化する。

## 行動目標

- ◆学位授与方針に沿って教育課程の目標を明確化し、具現化することによって教育力を強化する
- ◆「宗教性」はもとより、「国際性」「貢献性」を涵養する教育をさらに促進する
- ◆高大連携・接続の強化をはかることで、教育効果を向上させる
- ◆内部質保証システムのPDCAサイクルを機能させ、教育内容および教育力向上に資する環境を整備する

## 2. 学生支援について

## 基本方針

学生が個人の特性を活かしつつ、学生生活において学習やクラブ活動などに積極的に取り組むことができ、将来、社会において主体的主導的に活躍できる礎となる時間と場所を提供する。そのため、大学として学生の学習・生活支援を目的とした組織や制度を充実する。

## 行動目標

- ◆学生の修学目標が達成できるように、学習支援体制をさらに整備・強化する
- ◆学生の就業力向上に資する教育および就業の支援体制を強化する
- ◆修学の基盤となる学生生活について、奨学金制度等の整備も含めて支援体制を強化する

## 3. 研究支援について

## 基本方針

確かな教育力の基盤は、優れた研究（力）にあるとの考えから、外部研究資金の獲得を含む、研究支援体制を強化する。さらに、研究プロセスを明示化するとともに、研究成果を積極的に公表し、研究の発信力を高める。

## 行動目標

- ◆海外協定校との学術交流も含めて、研究活動の国際連携を強化する
- ◆研修休暇制度の整備による、研究力強化をめざす
- ◆研究プロセスの明示公開を進めるとともに、研究成果の発信力を強化する

## 4. 社会連携について

## 基本方針

学問の自由を堅持しつつ、社会的公器である大学として、学術研究および教育の成果を積極的に社会に還元していく。さらに、教育・研究の向上や高度化に資するよう、教育界、地域社会、地方自治体、産業界の諸機関との連携を推進し、社会から支持される大学を実現する。

## 行動目標

- ◆現職教員や学校・教育委員会等との連携をさらに強化し、教員養成機関としての資質を強化する
- ◆地域団体・地方自治体との連携強化による、地域社会の活性化を支援する
- ◆産業界との連携強化も含めて、産官学連携による社会貢献活動を積極的に進める

## 5. 管理運営体制について

## 基本方針

学長を中心とした執行部を補佐し、教学マネジメントに必要な情報の収集・分析・課題を検討するためのIR体制を強化する。さらに現行の教学意思決定システムのもと、より迅速かつ着実に執行できる大学運営組織を構築するとともに、併せてSD（職能開発）活動を計画的に実施する。

## 行動目標

- ◆学長・執行部補佐体制を整備・強化する
- ◆教職協働体制の構築を含む、事務局局体制を再構築する
- ◆SDを積極的に推進し、教職員の資質の向上と組織の現場力を強化する
- ◆安心安全な教育研究環境を提供するために、施設設備の計画的整備・改善を進める
- ◆教育研究環境を安定して支えるため、財務基盤を強化する

1. 書類の題目

人文学及び社会科学の振興について（報告）

－「対話」と「実証」を通じた文明基盤形成への道－

2. 出典

文部科学省

科学技術・学術審議会 学術分科会

3. 引用範囲

第三章人文学及び社会科学の役割・機能

第二節社会的な役割・機能

(4) 高度な「専門人」の育成

2. 人文学的な素養

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1246351.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1246351.htm)

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1246382.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1246382.htm)

## 納付金平均額、納付金比較表

## 1. 学部 入学初年度年間納付金平均額（入学定員1人当り）＜対象校527大学＞

## A. 入学初年度年間納付金平均額

## イ. 昼間部

(単位：円)

区分	合計		入学金		授業料		施設・設備費		その他	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
文 科 系	1,262,803	1,260,152	222,458	223,781	818,349	811,349	129,463	133,026	92,533	91,996
理 工 科 系	1,663,418	1,663,588	244,476	247,580	1,092,706	1,071,214	173,697	183,465	152,539	161,329
医 歯 科 系	5,854,833	6,094,395	953,112	961,412	2,824,927	2,838,672	711,658	809,843	1,365,135	1,484,467
薬 科 系	2,169,802	2,177,840	332,963	335,945	1,440,938	1,436,182	293,371	302,013	102,530	103,700
そ の 他 系	1,448,022	1,449,323	235,345	237,807	912,826	905,473	165,750	172,143	134,101	133,900
全 平 均	1,459,431	1,465,506	239,902	242,450	933,810	926,492	157,532	164,744	128,186	131,820

## 2. 学部 在学期間納付金平均額（入学定員1人当り）＜対象校490大学＞

## A. 在学期間納付金平均額

## イ. 昼間部

(単位：円)

区分	合計		入学金		授業料		施設・設備費		その他	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
文 科 系	4,450,092	4,436,241	222,509	223,020	3,259,855	3,251,437	556,627	559,907	411,101	401,877
理 工 科 系	6,129,313	6,119,915	244,714	245,451	4,442,307	4,407,459	714,179	728,471	728,113	738,535
医 歯 科 系	28,907,186	29,232,077	989,605	992,274	17,877,509	17,721,048	4,005,619	4,390,593	6,034,452	6,128,162
薬 科 系	11,710,155	11,744,371	335,100	338,174	8,665,196	8,643,391	1,840,988	1,886,671	868,871	876,136
そ の 他 系	5,150,589	5,145,416	236,937	238,556	3,636,637	3,630,687	689,586	706,078	587,429	570,094
全 平 均	5,419,770	5,435,618	241,582	243,016	3,893,329	3,891,722	692,018	709,013	592,842	591,867

(出典：日本私立大学団体連合会「学生納付金等調査」＜令和4年＞)  
※本学で必要箇所を抜粋して作成

1. 学部(昼間部)初年度納付金額および在学期間納付金総額

(単位:円)

大学名	学部名	学科名	専攻・コース名	入学初年度年間納付金額						在学期間(4・6ヵ年間)納付金総額							
				総額	内訳					総額	内訳						
					入学金	授業料	施設設備費	実験・実習・体育費	教育充実費特別納付金		維持費他	入学金	授業料	施設設備費	実験・実習・体育費	教育充実費特別納付金	維持費他
天理大学	文学部	国文学国語学科	*	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	文学部	歴史文化学科	全専攻共通	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	人間学部	宗教学科	*	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	人間学部	人間関係学科	臨床心理専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
天理大学	人間学部	人間関係学科	社会福祉専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,263,000	100,000	3,040,000	0	93,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	韓国・朝鮮語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,439,000	100,000	3,040,000	0	269,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,535,000	100,000	3,040,000	0	365,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	英米語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,445,000	100,000	3,040,000	0	275,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	外国語学科	中国語専攻	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,392,000	100,000	3,040,000	0	222,000	0	1,030,000
天理大学	国際学部	地域文化学科	全コース共通	1,080,000	100,000	760,000	0	0	0	220,000	4,185,000	100,000	3,040,000	0	15,000	0	1,030,000
大谷大学	文学部	文学科	日本文学コース、現代文芸コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	文学部	歴史学科	日本史コース、世界史コース、歴史ミュージアムコース、京都探究コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	文学部	仏教学科	仏教思想コース、現代仏教コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	社会学部	現代社会学科	現代社会学コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
大谷大学	国際学部	国際文化学科	英語コミュニケーションコース、欧米文化コース、アジア文化コース	1,190,000	250,000	840,000	100,000	0	0	0	4,610,000	250,000	3,360,000	1,000,000	0	0	0
京都外国語大学	外国語学部	中国語学科	*	1,450,000	230,000	795,000	10,000	0	415,000	0	5,080,000	230,000	3,180,000	10,000	0	1,660,000	0
京都外国語大学	外国語学部	英米語学科	*	1,450,000	230,000	795,000	10,000	0	415,000	0	5,080,000	230,000	3,180,000	10,000	0	1,660,000	0
京都外国語大学	外国語学部	日本語学科	*	1,450,000	230,000	795,000	10,000	0	415,000	0	5,080,000	230,000	3,180,000	10,000	0	1,660,000	0
京都産業大学	外国語学部	英語学科	英語専攻、イングリッシュ・キャリア専攻	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	外国語学部	アジア言語学科	中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻、日本語・コミュニケーション専攻	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	外国語学部	ヨーロッパ言語学科	ドイツ語専攻、フランス語専攻、スペイン語専攻、イタリア語専攻、ロシア語専攻、メディア・コミュニケーション専攻	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	文化学部	国際文化学科	*	1,166,000	200,000	804,000	0	0	162,000	0	4,658,000	200,000	3,225,000	0	0	1,233,000	0
京都産業大学	国際関係学部	国際関係学科	*	1,236,000	200,000	874,000	0	0	162,000	0	4,938,000	200,000	3,505,000	0	0	1,233,000	0
京都文教大学	臨床心理学部	臨床心理学科	*	1,410,000	150,000	960,000	0	0	300,000	0	5,447,720	150,000	3,840,000	0	77,720	1,380,000	0
同志社大学	心理学部	心理学科	*	1,366,000	200,000	973,000	0	25,000	168,000	0	5,126,000	200,000	4,000,000	0	200,000	726,000	0
同志社大学	神学部	神学科	*	1,219,000	200,000	870,000	0	0	149,000	0	4,414,000	200,000	3,570,000	0	0	644,000	0
同志社大学	社会学部	社会福祉学科	*	1,219,000	200,000	870,000	0	0	149,000	0	4,414,000	200,000	3,570,000	0	0	644,000	0
花園大学	文学部	日本文学科	*	1,246,000	200,000	826,000	0	0	220,000	0	4,384,000	200,000	3,304,000	0	0	880,000	0
花園大学	文学部	日本史学科	*	1,246,000	200,000	826,000	0	0	220,000	0	4,384,000	200,000	3,304,000	0	0	880,000	0
花園大学	文学部	仏教学科	*	1,246,000	200,000	826,000	0	0	220,000	0	4,384,000	200,000	3,304,000	0	0	880,000	0
花園大学	社会福祉学部	臨床心理学科	*	1,249,000	200,000	829,000	0	0	220,000	0	4,396,000	200,000	3,316,000	0	0	880,000	0
花園大学	社会福祉学部	社会福祉学科	*	1,249,000	200,000	829,000	0	0	220,000	0	4,396,000	200,000	3,316,000	0	0	880,000	0
立命館大学	国際関係学部	国際関係学科	*	1,467,600	200,000	1,267,600	0	0	0	0	5,255,200	200,000	5,055,200	0	0	0	0
龍谷大学	文学部	臨床心理学科	臨床心理学専攻	1,021,000	260,000	761,000	0	0	0	0	4,084,000	260,000	3,044,000	780,000	0	0	0
龍谷大学	国際学部	国際文化学科	*	1,076,000	260,000	806,000	0	10,000	0	0	4,304,000	260,000	3,224,000	780,000	40,000	0	0
龍谷大学	国際学部	国際学科	全コース共通	1,196,000	200,000	996,000	0	0	0	0	4,304,000	200,000	4,104,000	0	0	0	0
関西大学	文学部	総合人文学科	心理学専修	1,190,000	260,000	930,000	0	0	0	0	4,390,000	260,000	4,130,000	0	0	0	0
関西大学	外国語学部	外国語学科	*	1,516,000	260,000	1,256,000	0	0	0	0	5,677,000	260,000	5,417,000	0	0	0	0
関西外国語大学	外国語学部	英米語学科	*	1,400,000	250,000	800,000	0	0	350,000	0	4,850,000	250,000	3,200,000	0	0	1,400,000	0
関西外国語大学	英語キャリア学部	英語キャリア学科	*	1,400,000	250,000	800,000	0	0	350,000	0	4,850,000	250,000	3,200,000	0	0	1,400,000	0
関西外国語大学	英語国際学部	英語国際学科	*	1,400,000	250,000	800,000	0	0	350,000	0	4,850,000	250,000	3,200,000	0	0	1,400,000	0
関西福祉科学大学	心理科学部	心理科学科	*	1,300,000	200,000	900,000	0	0	200,000	0	4,600,000	200,000	3,600,000	0	0	800,000	0
関西福祉科学大学	社会福祉学部	社会福祉学科	*	1,300,000	200,000	900,000	0	0	200,000	0	4,600,000	200,000	3,600,000	0	0	800,000	0
近畿大学	文芸学部	文学科	日本文学、英語英米文学専攻	1,355,000	250,000	1,085,000	0	0	0	20,000	4,790,000	250,000	4,460,000	0	0	0	80,000
近畿大学	文芸学部	文化・歴史学科	*	1,355,000	250,000	1,085,000	0	0	0	20,000	4,790,000	250,000	4,460,000	0	0	0	80,000
近畿大学	国際学部	国際学科	グローバル専攻、東アジア専攻	1,550,000	250,000	1,280,000	0	0	0	20,000	5,490,000	250,000	5,160,000	0	0	0	80,000
摂南大学	国際学部	国際学科	*	1,280,000	250,000	980,000	0	0	50,000	0	4,670,000	250,000	3,920,000	0	0	500,000	0
桃山学院大学	社会学部	社会学科	*	1,259,000	230,000	729,000	300,000	0	0	0	4,346,000	230,000	2,916,000	1,200,000	0	0	0
桃山学院大学	社会学部	社会福祉学科	*	1,259,000	230,000	729,000	300,000	0	0	0	4,346,000	230,000	2,916,000	1,200,000	0	0	0
桃山学院大学	国際教養学部	英語・国際文化学科	*	1,259,000	230,000	729,000	300,000	0	0	0	4,346,000	230,000	2,916,000	1,200,000	0	0	0
関西福祉科学大学	社会福祉学部	社会福祉学科	全コース共通	1,210,000	200,000	780,000	0	0	230,000	0	4,040,000	0	3,120,000	0	0	920,000	0
関西学院大学	神学部	神学科	全コース共通	1,110,000	200,000	728,000	0	0	182,000	0	4,440,000	200,000	3,422,000	0	0	818,000	0
帝塚山大学	心理学部	心理学科	*	1,232,000	180,000	860,000	0	20,000	172,000	0	4,388,000	180,000	3,440,000	0	80,000	688,000	0
帝塚山大学	文学部	日本文化学科	*	1,182,000	180,000	860,000	0	0	142,000	0	4,188,000	180,000	3,440,000	0	0	568,000	0
奈良大学	文学部	文学科	*	1,120,000	100,000	820,000	200,000	0	0	0	4,180,000	100,000	3,280,000	800,000	0	0	0
奈良大学	文学部	史学科	*	1,120,000	100,000	820,000	200,000	0	0	0	4,180,000	100,000	3,280,000	800,000	0	0	0

(出典: 日本私立大学団体連合会「学生納付金等調査」<令和4年>)  
※本学で必要箇所を抜粋して作成

1. 書類の題目

18歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向

2. 出典

リクルート進学総研 マーケットレポート 2022

Vol.106 2023年2月号

3. 引用範囲

地元残留率（全体：大学・短期大学入学者数：都道府県別：2022年）

（22ページ）

[https://souken.shingakunet.com/research/pdf/202302\\_souken\\_report.pdf](https://souken.shingakunet.com/research/pdf/202302_souken_report.pdf)



2019年8月23日

人事・採用ご担当者 様

天理大学長 永尾 教昭

**天理大学卒業生在職者対象 WEBアンケート回答のお願い**

拝啓 酷暑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、天理大学は2025年に創立100周年を迎えるにあたり、時代のニーズに対応した人材を輩出できる大学を目指し、これまで以上に教育改善・充実体制整備を実施しているところです。

そのため、産業界が必要としている人物像を明らかにし、また教育機関として天理大学に期待されることなどを見つめ直す機会と捉えています。

以上の経緯から天理大学を卒業し、現在社会で活躍している方々が在職されている（以前に在職されていた）企業等様にWEBアンケートを実施させていただき、本学卒業生が今後もより一層活躍できるように、皆様方の貴重なご意見を是非頂戴したくお願いいたします。

つきましては、下記要領にてご回答に協力いただきたく存じます。

ご多用中恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

## 記

1. 回 答 下記QRコードをお手持ちの機器で読み込んでいただくか、  
回答ページのURLにアクセスし、回答してください。  
※アクセスはパソコン・携帯・スマートフォンいずれも可能です。

会議資料のダミーです。



(<https://www.tenri-u.ac.jp/> ) 【HPリンク 広報社会連携課と要相談】

2. 期 限 2019年9月27日（金）

## ■■ お問い合わせ先 ■■

この調査に関して、ご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。

天理大学 キャリア支援課 担当：牧山【マキヤマ】（平日 朝10時00分～夕方5時00分）

電話：0743-63-4568 FAX：0743-63-8392 Email：b-shinro@sta.tenri-u.ac.jp

このアンケートに回答していただいた内容は、本学の教育改善・充実体制整備に活用し、それ以外の目的に使用することは禁じています。

2020年9月18日

## 2020年度企業・団体等対象アンケートについて

天理大学は2025年に創立100周年を迎えるにあたり、時代のニーズに対応した人材を輩出できる大学を目指し、これまで以上に教育改善・充実体制整備を実施しているところです。そのため、産業界が必要としている人物像を明らかにし、また教育機関として天理大学に期待されることなどを見つめ直す機会と捉えています。

以上の経緯から天理大学を卒業し、現在社会で活躍している方々が在職されている（以前に在職されていた）企業等様にアンケートを実施させていただき、本学卒業生が今後もより一層活躍できるように、皆様方の貴重なご意見を是非頂戴したくお願いいたします。

つきましては、下記要領にてご回答に協力いただきたく存じます。

ご多用中恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

① これまでに天理大学生を採用したことがありますか？

はい                      ①-2.へ進んで下さい。

いいえ                    ②へ進んでください。

① -2. 「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか？

満足している

不満である

その理由は何ですか？

② 天理大学生を採用したいと思えますか？また、その理由は何ですか？

③ 社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか？

④ 天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。

⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。

回答方法：聞き取り。

2021年9月22日

## 2021年度企業・団体等対象アンケートについて

天理大学は2025年に創立100周年を迎えるにあたり、時代のニーズに対応した人材を輩出できる大学を目指し、これまで以上に教育改善・充実体制整備を実施しているところです。そのため、産業界が必要としている人物像を明らかにし、また教育機関として天理大学に期待されることなどを見つめ直す機会と捉えています。

以上の経緯から天理大学を卒業（修了）し、現在社会で活躍している方々が在職されている（以前に在職されていた）企業等様にアンケートを実施させていただき、本学卒業生が今後もより一層活躍できるように、皆様方の貴重なご意見を是非頂戴したくお願いいたします。つきましては、下記要領にてご回答に協力いただきたく存じます。

ご多用中恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

① これまでに天理大学生を採用したことがありますか？

- はい                      ①-2.へ進んで下さい。  
いいえ                    ②へ進んでください。

① -2. 「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか？

- 満足している  
不満である

その理由は何ですか？

② 天理大学生を採用したいと思いませんか？また、その理由は何ですか？

③ 社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか？

④ 天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。

⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。

回答方法：聞き取り。

2022年9月2日

## 2022年度企業・団体等対象アンケートについて

天理大学は2025年に創立100周年を迎えるにあたり、時代のニーズに対応した人材を輩出できる大学を目指し、これまで以上に教育改善・充実体制整備を実施しているところです。そのため、産業界が必要としている人物像を明らかにし、また教育機関として天理大学に期待されることなどを見つめ直す機会と捉えています。

以上の経緯から天理大学を卒業（修了）し、現在社会で活躍している方々が在職されている（以前に在職されていた）企業等様にアンケートを実施させていただき、本学卒業生が今後もより一層活躍できるように、皆様方の貴重なご意見を是非頂戴したくお願いいたします。つきましては、下記要領にてご回答に協力いただきたく存じます。

ご多用中恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

① これまでに天理大学生を採用したことがありますか？

- はい                      ①-2.へ進んで下さい。  
いいえ                    ②へ進んでください。

① -2. 「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか？

- 満足している  
不満である

その理由は何ですか？

② 天理大学生を採用したいと思いませんか？また、その理由は何ですか？

③ 社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか？

④ 天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何ですか。

⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。

回答方法：聞き取り。

企業・団体等対象キャリアアンケート調査

2019年度

採用した天理大学生に満足していますか。
活躍いただいています。
業務に真面目に積極的に取り組んでいただいています。自ら進んで部下の育成にも携わってられます。
活躍してくれております
大変満足
概ね満足しています。大変柔らかな方なので気をもむ場面もありますが、仕事に取り組む姿勢、態度が真面目で信頼できます。
礼儀正しく、責任感、コミュニケーション能力もあり、大変満足しております。
周囲からの評価も高いです。
2人採用しましたが、満足していますが、1人はご両親からの引継ぎのため天理教に戻らないといけないということで退職になりました。
採用して入社いただいた方には満足しています。
ただ、内定を出した方の辞退の仕方が、直前やメール1本など、他大学生と違って礼儀が悪いと感じます。
満足
しっかり頑張ってくれてるため、満足しております。
満足しています。
もうすぐマネージャーに昇格予定です。
はい、大変満足しています。
満足していました。
満足しています
はい、専攻語学を生かしてもらっているので
とても頑張ってくれております。
まずまず満足している（所属部門の評価を得られています）
新卒の方を当社で初めて採用した方です。現在も頑張ってくれて活躍して頂いております。
恐らく採用していますが、把握しきれれておりません。申し訳ございません。
満足
満足している
満足。
目標を持って仕事に取り組んでいる。
非常に満足しております。
普通
大変満足しております。
退職しました
2年目で年収1,000万円を目指したいと退職。満足はできていない。
満足している
大変満足しております。20代の中心として活躍をしていただいています。
非常によく思っております。
満足しています。
ロシア語を話せるのでこれからの活躍を期待している。
本年より初めての部下も持ち、活躍されています。
満足しています。
大変活躍して頂いております。
今後とも宜しくお願い致します。
海外販売を強化している弊社にとって、海外留学経験を含め、広い視野を持った貴校出身社員は貴重な戦力であり、満足しております。
積極的に挑戦する姿勢もみられ、満足しています。
人物によるので一概には答えられない
採用部門で活躍し、語学力を活かし活躍中
大満足です。当社にマッチす方がおられれば、毎年採用させていただきたいです。
満足している
満足している
満足しております。
大変心優しく、相手の立場に立って仕事を進めてくれる姿勢が見てとれます。
戦力になっており、感謝しております。
満足しています。弊社はサービス業ですが、お客様の為に毎日笑顔を決やらず一生懸命頑張ってくれています。
満足しています。
はい。大変満足しており、同期を引っ張る存在です。
満足しています。

ある程度、満足している。
大変満足しています。
大変満足しています。
相対的に真面目で真摯に勤務してくれています。大人しい人が多いのでもう少し積極的な面を期待します。
満足しています
非常に活動的かつ前向きな思考で同期のなかでも抜きん出た存在。非常に満足しております。
ある程度満足している
チームの中で、堅実に協働してくれています。
非常に満足している。
仕事においても要領よく優秀であり、
対人スキルも社会人として必要なものが
学生時代から備わっているようであった。
おおむね満足。当然、完璧な人間はいないので、課題は多いが。
満足している。
はい、チャレンジ精神のある方で職場で活躍していただいております。
満足している
所長として自店はもちろん、会社全体の新人育成にも尽力いただいております。
大変満足している。
これからです。
ほぼ満足しており、将来、第一線で活躍することを期待している。
勤勉な態度で、コミュニケーション力もあり、基礎がしっかりされているように感じます。
現在、貴校の出身者の方々はそれぞれで役職に就き日々の業務にも
中心的立場として活躍して頂いております。
満足している
所長として自店はもちろん、会社全体の新人育成にも尽力いただいております。
大変満足している。
これからです。
ほぼ満足しており、将来、第一線で活躍することを期待している。
勤勉な態度で、コミュニケーション力もあり、基礎がしっかりされているように感じます。
現在、貴校の出身者の方々はそれぞれで役職に就き日々の業務にも
中心的立場として活躍して頂いております。

社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何ですか。
コミュニケーションスキル
自己啓発スキル
挨拶やマナーなど、コミュニケーションの基本
粘り強く1つのことに取り組んだ経験、取り組む姿勢。
語学力、世界経済知識に関心を持ち、身に付けてほしい。
コミュニケーション力
人間力
自主性や積極性。間違っているかもしれないが、自らで考えて情報を発信してみる姿勢。
コミュニケーション能力
働くモチベーション、将来の夢、ハングリー精神のようなものを持っていただきたいと思います。
コミュニケーション力
コミュニケーション能力
アルバイト等を通じたコミュニケーション能力・社交性。
幅広い知識、教養。
困難な経験
挨拶などの礼儀作法
社会性、コミュニケーション能力
コミュニケーション能力、問題解決能力
一般的なマナー（挨拶、上司への話し方、相手の顔を見て話す）
時間管理、タイムスケジュール
報連相
イベント、プロジェクトの進め方
社会人生活における一般常識と礼儀は入社後に身に付けていただくことですが、ある程度の水準までは学生時代に身に付けておいていただけるとう助かります。

一般常識及び自分の将来像（仕事に対する目的意識）
対人のコミュニケーション力と自分自身の意思を理解できる力
マナー、プレゼン能力
コミュニケーション能力
考える力
広い視野
ビジネスマナー
最大限の基礎知識
・一般常識
・課題発見力および解決力
・最低限のコミュニケーション能力（分からないことは分からないと言える、質問できる、自分の考えを発信できる）
コミュニケーション能力
コミュニケーション能力
挨拶
自己管理能力
コミュニケーション能力
報告・連絡・相談
ビジネスコミュニケーション力
何のために「働く」か
失敗してもやり続ける持続力、
挨拶、マナー、他人への感謝
メモを取る習慣
キャリアデザイン
コミュニケーション能力
別になし、学生時代を満喫してもらい健康でいてもらいたい。
基本的なマナーや、コミュニケーション能力等
朝、あいさつする。呼ばれたら「はい」と返事をする。靴を脱いだら揃え、席を立ったらイスを入れる。
問題解決能力
過度に失敗を恐れない心構え
礼儀
元気で明るく素直でいる事。
挨拶や受け答えが出来る事。
自分のやりたいことに対する熱意
素直さ、自分の意見を相手に伝える力
傾聴力
自立心
幅広い年齢層とコミュニケーションをとる力。
考える力
礼儀
挨拶
変化への柔軟性と、自立した考えで行動できる主体性
一般常識、基本動作、一般的な礼儀作法、コミュニケーション能力
学力
自主性および主体性、コミュニケーション能力など
一般常識、クラブ活動等による先輩や仲間との付き合い方やマナー、アルバイトでの社会経験
コミュニケーション能力やストレス耐性などはもちろんですが、失敗を恐れずチャレンジする熱意や失敗してもあきらめずにやりぬく耐性などは新卒の方に期待したいことです。
コミュニケーション能力
コミュニケーション力
コミュニケーション力（空気を読む力）
吸収力、柔軟性
弊社して入社時に身につけておくべきことは特にありません。入社いただいてから必要な内容を身につけていただきます。
自分事として考える、行動できる様な振る舞い。
コミュニケーション能力
パソコンスキル、運転免許、他人の為に頑張る力
協調性
忍耐力
素直と誠実

自主性、協調性、行動力、
コミュニケーション
最低限のマナー（話し方や身だしなみ、あいさつ等）とコミュニケーション力
コミュニケーション能力。レジリエンス。キャリアプラン。賃金カーブの理解等
コミュニケーション能力
愛嬌
前向きな姿勢
物事を前向きにとらえ行動する積極性と、
将来に対しての計画性（10年、20年後の自分のイメージを持っている）
伝える力。アウトプットができる状態にあると社会人になってからも活躍できる社員になると考えます。
コミュニケーション能力とポジティブな思考が重要と考えます。
弊社として特に設定しておりません
・アルバイトやボランティアなどの社会経験
・主体的に行動する経験
・成功体験と挫折体験
自身の意見をハッキリ述べること。周りを巻き込みながらも協調して物事を進めることができる。
挨拶、思いやり、コミュニケーション力を基本とした人間力の基礎
語学力
論理的思考力、柔軟性、状況判断能力
協調性、忍耐力
年齢層にあったコミュニケーション力
社会人として一番重要なのは人とのコミュニケーションをとることなので、学生時代には様々なことにチャレンジして様々な人と交流してコミュニケーション能力を身に付けて下さい。
学ぼうとする姿勢
協調性・コミュニケーション能力
多くの挑戦をし、自分の得意を磨くこと
自主性、協調性、コミュニケーション力
・コミュニケーション力・セルフマネジメント・ストレス耐性 など
コミュニケーション能力
・初対面の人とも気持ちよく交流できるコミュニケーション能力
・物事に自ら踏み込める力
・求められていることに迅速に対応できるフットワークの軽さ
コミュニケーション能力
なにかに打ち込んだ経験
自立して生きていくための基礎として、コミュニケーション力は重要だと考えております。
責任を持って取り組む姿勢、前向きさ。
あいさつなど人として好感が持てるふるまいなど。
同年代以外とのコミュニケーション力や対人能力
社会人マナー
基礎学力
最低限のPC操作
コミュニケーション能力。向上心。
先輩・上司の指示に対して、素直に実行することも大事だと思いますが、自分で考えて実行する力。
社会人としてのマナー（学内説明会でズボンポケットに手を入れ企業訪問を行っている学生が他校より多い）
コミュニケーション力
コミュニケーション能力と責任感
きちんとした挨拶、礼儀を身につけておくこと。
コミュニケーション能力・ある程度の礼儀作法
(1) 社会人になるにあたっての基礎マナー・考え方等、(2) 敬語法、(3) 社会人としてのキャリアプラン
自発的行動力
人間関係性
物怖じしない行動力
コミュニケーション能力
コミュニケーション能力
向上心
自分の意見を伝える力、受け身ではなく積極的に取り組む力。
自ら実現したいことへの追及
そのプロセスが大事だと考えています。



どんな能力を身に付けてほしいではなく、身に付けたい能力が自分発信であることが将来に結び付くのではないかと感じます。
様々な方と仕事をするので、コミュニケーション力をつけておくのは大事だと思います。あと、仕事にストレスはつきものなので、それをうまく発散できる趣味等見つけてほしいです。
コミュニケーションスキル
ストレス耐性
想像力
業界や会社によって学生に求めているものは異なりますが、
弊社ではコミュニケーション力、創造力、企画力、実行力、適応力などを求めています。
・挨拶など基本的なマナー
・なりたい自分を考え描く力
基本的な挨拶やマナーは最低限学生時代に身につけておくべきだと感じています。
協調性、行動力、反省力
常に考える事を習慣づける
挨拶、人とのコミュニケーション、
相手の感情をくみ取ることができる経験
※できれば失敗や成長をしてもらいたいです。(アルバイト、サークルなど)
様々な考えや価値観に触れること。色々な人とのコミュニケーション能力。
基礎学力、協調性
コミュニケーション能力・社会通念(ルールを守るための知識)を知っていてほしいです。
礼儀正しさ(挨拶等)、コミュニケーション力、社交性
コミュニケーション能力
実行力 課題設定・解決能力 創造力 対話力
想像力かと思っております。
与えられた仕事をこなすのではなく、自身で考えて行動する力を身につけてほしいと考えます。
何事にも前向きに取り組む意欲、姿勢
忍耐力と目標設定する力。
マナー・コミュニケーション能力
・最低限のモラル
・コミュニケーション能力
・協調性
積極性、自主的に動く力、常識
人としての基本である礼儀と相手を思いやる心。
分からないことに対する調べ方、勉強の仕方
幅広い年齢層との人間関係構築力
(運動、研究等)何かをやり遂げる力
常識力
多様性
挨拶や人との接し方等のコミュニケーション力。
・人への関心を高める
・自分で考え行動しようとする力
最低限のマナー
コミュニケーション能力
精神力、規則正しい生活リズムの構築、周囲とのコミュニケーション、数字力など。
目の前のことに真摯に向き合うこと
社会人基礎力
誠実・謙虚・ハングリー精神
コミュニケーション能力、協調性、粘り強さなど
最低限のマナー、コミュニケーション能力
マナーとモラル
コミュニケーション能力
柔軟な思考、適応力
コミュニケーション能力や、自ら考えて行動していく力
人の話を聞く姿勢。
人と関わる楽しさを知ること。
努力をする事。
自分に自信を持つこと。
コミュニケーション能力、考える癖をつける
コミュニケーション力

上下関係
基本的なビジネスマナー
さまざまな年齢の方とのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力
積極性
素直さ
最低限のマナー
社会適応能力
報連相やチームワークで取り組み、個々の意見を出し合うながら共感や疑問を持ち、深めていくことで課題達成をする力
挨拶や返事、礼儀など当たり前事を普通に出来ること。
挨拶、笑顔、親切といった基本的な生活態度。
コミュニケーション力、チャレンジ精神
①素直な姿勢
②協調性
③主体性
最低限の礼儀、一般常識、会社で働くことへの意識
色々な人と話すコミュニケーション能力
礼節やマナー、コミュニケーション能力
失敗を恐れず、挑戦する力
仕事の出来栄などの「評価」は自分がするのではなく他人が下すものであることをしっかり認識していること
知らない人への挨拶などの基本的なコミュニケーション能力
前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで行動する力（チームワーク）
マナー、時間や約束を守るなど。
多面的な物の見方と多様性を受け入れる柔軟性だと思います。
偏らず、色んな経験にチャレンジしてほしいです。
社会性、忍耐力
弊社では、協調性や、周りをサポートできる力を求めています。
部活やアルバイト以外にも、ボランティア活動など自主的にできている学生は良い経験になって、社会に出たときに役立っています。
コミュニケーション力
・コミュニケーション能力
・元氣よく挨拶
・笑顔
コミュニケーション力、主体性
自ら動くということ（受け身にならない）
挨拶等の礼儀礼節を含めた話す、聞くのコミュニケーション力を学生間だけではなく世代を超えた地域社会のなかで育ててもらえれば、社会人として歩む準備ができるのではと考えます。
コミュニケーション能力
コミュニケーション能力
傾聴力
変革力
社会に出ても恥ずかしくない、マナー・身だしなみ・言葉遣いを身に付けておくべきだと思います。
面接時で、出来ている学生と出来ていない学生ではハッキリ違いを感じます。
コミュニケーションをとる
社会人としての一般常識、忍耐強さ
自ら出来ることを探して取り組む力だと思います。
人間力の向上。柔軟性、コミュニケーション能力、対人力、接客能力、自立心など
ビジネスマナー
チームで行動できる力
市役所の業務の体質上、市民と対話できて、組織の中でも上司や仲間とコミュニケーションが取れる人物を求めています。学生生活では先生や友人と対話して、しっかりその能力を磨いて欲しいです。学生時代にしかできない多くの経験を体験してほしいです。
・多様な人間関係でもまれる経験、失敗経験
・悩んだときに自分で打開する力
・自分自身のモチベーションを高める力

天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することはなんですか。

良い子強い子元氣な子。

力強く逞しい学生を育ててください！
遠方の企業ではありますが、定期的にご応募等いただいております。
これからもよいご縁をいただければと考えておりますので
今後とも何卒よろしく願いいたします。
ますますのご発展をご祈念いたしております。
企業と早期から接点を持ち、社会に興味を
持つ学生さんが増えればよいなと感じています。
外国語学部の学生は全員、1年の留学。
これまで通りで大丈夫です
期待しております
自主性・積極性を持つ学生が育ち、社会に貢献出来る人材を排出していただけたらと考えております。そして、当社へも一度就職先として検討頂けましたら幸いです。
他大学とは違った、独自の学生を育てて欲しい。
体育会系で、コミュニケーション能力も高く、天理大学の学生は即戦力として通用しています
人生100年時代ともいわれ、会社の寿命より人の寿命の方が長い時代になると言われています。おそらくこれまでより一層変化の激しい時代になると思いますが、その中で夢を持ち、リーダーシップをとれる人材を輩出していただければと思います。奈良の人々はどうも内向きと言われることが多いですが、それを跳ねのけて奈良を盛り上げ、世界で活躍できる人材を期待しています。
専門分野をしっかり勉強し、多くの教養や知識をつけること、資格取得などの勉強をし、将来の進路に向けて自身のスキルを向上させること
精神面が強い若者を育てていただきたい。
弊社も昨年100周年を迎えました。これまでのやり方を見つめ直し、より学生の幅広い可能性を導き出せる御大学を期待しております。
社会人としての資質を持つ学生を育成すること。
特に御座いません。
天理大学卒を誇りに思えるような学生生活を送れたらいいと思います。
弊社に在籍しております「---」様のような素晴らしい人材の育成を今後も期待しております。
また、そのような方がおられましたら、是非ご紹介いただけますようお願い申し上げます。
コミュニケーション能力、問題解決能力
自分が将来何をしたいのか、夢を持ち、しっかりとそれに向かっての準備ができることと部活、サークル、ボランティアなどを通じて人との関わり方、コミュニケーション力、精神力など学ぶ機会であってほしいと思います。
世の中の変化に対応することがとても難しくなっていると思います。次世代に必要な技術を学ぶことはとても大切ですが、天理大学ならではの歴史や変わらない考え方を今後も踏襲していただきたいです。
地域に密着し、県内企業との連携により更なる奈良県ブランドの向上に加え、奈良県の中核となる教育機関として今まで以上の知名度UPひいては受験希望者数をUPさせ、奈良の魅力発信を行って欲しい。
天理大学で学ばせて頂いた経験が私の糧になり社会人生活を支えてくれています。
今後優秀な人材を世に送り出してくれることを願っています。
人材育成力
スポーツやクラブに力を入れられているので、積極的に活発な学生、また、協調性やチャレンジ精神のある学生の育成に期待しております。
「将来どのようになりたいか」というキャリアビジョンを描いている、もしくは描くことのできる人材の育成を期待いたします。
地元企業としては県内での就職を望みます。
多様性が求められる昨今、若い方には視野を広く持つことを期待します。
前向きに何事も積極的に取り組む学生・コミュニケーションを取ることが好きで、元気があって誰とでも話せる学生がもっと増えること。
就職活動に向けて積極的な学生。
自ら考える力を学生時代に身につけていただきたいと
切に願っております。
引き続き信念を持って考え行動できる文武両道の人材育成を期待します。
弊社採用活動において引き続きお力いただけますと幸いです。
より良い学生の人間育成に取り組んでいただきたいと思います。
天理大学の偏差値を上げてください。他大学と比較すると学内設備や環境面で劣っているよう見受けられるので経費は掛かりますが検討願います。
学生の間は勉強と遊びを両立して四年間充実した学生生活を実りあるものにしてもらいたいです。その生活の中でマナーや適応力などを身につけて行ってもらいたいです。
学力も大事だが、それ以上に、上記のことがふつうにできるよう教育をお願いしたい。
心身共に誠実に物事に取り組んでいけるように、関わってくださったらなと思います。また、社会とはどのようにお金が動いているのか、というのを学生時代に教えてあげると良いと思います。
今後ともよろしくお願い致します。
キャンパスが外国人だらけになってしまわないようにして欲しいと思います。
創立100周年おめでとうございます。

今後少子化が進む中リーダーシップを求められる機会も増えてくると思います。今後の日本や奈良県の発展・地域貢献が出来る様な方々が排出されればと思います。
引き続きグローバルで活躍できる人材を育ててほしい
利己主義が強くなりつつある社会の中で、天理スピリットとしての「他者への献身」が今後の社会でより重要になってくると思います。仕事を通してそれを実践できる人材を輩出し続けて頂けるとありがたいです。
引き続き、どうぞ宜しくお願い致します。
ご入社いただいた方は、地道に努力を積み重ねることができる人財です。諦めずに取り組む人財育成を期待致します。
自分の意見をはっきり言えて、考える力のある人材を育てる学びの場であってほしいと思います。
成果主義社会に対応できる専門性の高い人材の教育
これからの日本を支えるような、殻にとられない広い視野と向上心、野心を持った学生を育て上げる教育を希望します。
学術研究の向上
天理ビジョン2025を拝読させていただきました。教育のさらなる充実や、社会の要請に応えるべく細やかな行動目標等を指針に掲げられていますので、これからの天理大学により一層の期待をしております。
上記の学生時代に身に付けるべきことを身に付けた人材の育成
フレキシブルに活躍される人間力を学生のみなさまに教育していただくことを願っております。
学生自身が見つめなおす機会として自己分析をしっかりとらせてほしい。
働くことに対して前向きな学生の育成
文武両道で、活力、一般常識を備えた人材育成
多様性の時代に貴大学の発展をますます期待しております。
仕事をする上で一番必要になる事が幅広い年齢層とのコミュニケーションと考えてます。学校の中では同じぐらいの年齢層の方が多いので、人生100年時代に適用できる人材を教育いただければと考えております。
長い歴史を大切にされた上での人間教育。
天理大学は素晴らしい大学だと思います。良い環境で良い人財を育成していただきたいと思います。
良い人材の輩出
グローバルな視点で物事を考えられる人材育成
広い視野
明るく素直で誠実な学生
社会に貢献する人材を数多く輩出していただきたいです。
チャレンジする学生の輩出
我々の業界はアルバイトの延長、というようにとられがちです。しかしながら、大勢の部下を抱え、自分の意志を持つことや、時にはクリエイティブな仕事内容も要求されます。ぜひ御校の学生様にはまず業界研究の為に会社説明会に来ていただき、まずは知って頂ければ幸いです。
社会に貢献する人材、またAIに代替のきかない人材の輩出を期待したい。
体育会学生を積極的に採用したいです。特にラグビー部。
机の上で学んだことだけではなく、共同生活で同じ釜の飯を食べ、仲間と喜怒哀楽しながら学生生活を送ってきた人間の方が創造力、人間力、踏み出す力、協調性など遥かに一般学生より上回っていると考えています。
公務員への指導だけではなく、日本にはいくつもある中小企業に人材を送り出し、日本を元気にしたいです。
世の中に出る事や働く事に対するマイナスイメージを払拭する事にご協力して頂きたい。
歴史があり、活躍されているOBも多く、世間から見ると認知度・関心度が高い大学だと感じています。
日頃、学生と接点を持つことが難しいです。
出会える機会があればありがたいです。
100周年という歴史の継承をしていただきたいです。
これからの社会では、全科目標準的なレベルを目指すより、特定の分野で専門性が高い能力が重視されていくと考えます。
『一芸に秀でる』それが収入に直結する。また終身雇用から能力雇用や多様性（ダイバーシティ）に徐々に変化して行くと考えます。
建学の精神に則り、素敵な学生を今まで通り排出されることを期待しております。
国際的な視点を持ちつつ、日本国内で活躍する人材の育成
学業と学内外でのクラブ・サークル・社会活動を通じてしっかり自己研鑽し、色々な立場の方を認めることが出来る人物の育成を期待します。
お世話になっております。スポーツ振興、並びに地域の子供達にスポーツの楽しさをつたえていく機会づくりを期待します。
国際社会での活躍が期待できる人材を育てて欲しい。
様々な仕事、働き方がある時代ですので、これからの若い世代は1つの会社・1つの仕事にこだわることなく自分らしい働き方を追求していくことになると思います。
自分が将来どのように在りたいのか、キャリアビジョンを学生の間からしっかりと思い描く機会を作って頂けたらと思います。
協調性、忍耐力のある学生を育ててください
県下を代表する御校のリーダーシップ力
様々な教育を通じて社会に貢献できる学生を育てて頂きたいです。
奈良県の知名度の高い歴史ある大学ですので、
これからも誇りを持って社会で活躍する人を育てる大学であることを期待します。

陽気ぐらしの実現を期待します。
人に優しく社会に貢献する心
奈良の地に根付いた活動を引き続き宜しくお願い致します。
人と人との関係性を大切に人間として仕事を通じて自己の力で成長する意欲を持つ人材。社会から頼られ愛される人材。
上記のような人材の育成を期待いたします。
2025年にて100周年記念おめでとうございます。
コミュニケーション能力が高く、相手の気持ちを思いやる事が出来る人物が育成されることを望んでおります。今後とも宜しくお願い致します。
今後も社会に羽ばたく学生の学びの場を提供し続けて頂く思います。
部活、サークルなどなんでも学生の活動を支援する体制
グローバルなネットワークをお持ちだと思うので、学生の内向き思考が強まっていると言われる中で、学生が視野を広げる機会を与えて頂ける事を期待しております。
国際感覚を身につけた学生が多数在籍しているという印象をもっております。これからも、グローバルに活躍できる人材育成を期待したいです。
スポーツ・文化など様々な分野で多様な人物を輩出される御校におかれましては、今後も、個々人の特徴や得意な能力に加えて、社会で活躍できるコミュニケーション能力、積極性、創造力などを兼ね備えた人物を育成していただきたいと思っております。
どんな状況でも楽しんで積極的に取り組める姿勢を持つ学生を送り出してほしいです。
採用実績は多くはありませんが、働いている貴校の卒業生は皆さん現場で活躍する人材です。今後とも宜しくお願い致します。
働き方改革が進む中で、いかに効率よく勤務時間を有効に使えるように自分で考え実行する力。
グローバルに活躍ができるように目指して下さい。
コミュニケーション力と行動力のある学生に期待します。
4年間を通して、大学生でしか出来ない事を多く体験させて、「学生生活は、もう満足！」といった状態で卒業をさせて欲しい
法人と地域の方々、またほかの企業・法人とを繋ぐ架け橋になってくれる人財の育成を期待しています。
より良い学生様の輩出。
2018年、2019年と幸運にも二年続けて貴学学生様をお迎えする事が出来ました。当社を選んでくれた貴学出身の2名は勿論のこと、ご紹介いただいたキャリア支援課様には大変感謝しております。当社に入社してくれた二人の活躍は目を見張るものがあり、今ではなくとはならない存在になりつつあります。社内での評価も高く、採用に至っては、貴学のお名前が他大学様を抑え真っ先にあがります。ひとえにこの結果は入社後の彼らの頑張りでもありますが、若い二人の胸の内には母校への感謝の気持ちがあるのではないかと考えております。今後ともよろしくお願い致します。
貴学に対し今あえて望む事はございませんが、採用という面でお願ひできるなら、10割とはいませんが、7～8割程度の学生がキャリア支援課様に顔を出すような仕組み作りをしていただければ幸いです。どこの大学様も同じお悩みをお持ちですがなかなか難しいとの事です。天理大学様には是非実現していただければと思っております。
創立100周年となると数多い大学という存在をリードする立場になられると思いますので、是非大学として大きな打ち出しや魅力ある歴史や取り組みをアピールし、学生にインパクトを与えられることを期待しております。
優秀な人材を育ててもらうこと
実践的な学生の育成
教祖が互いにたすけあう生き方を示されたように、学生にその精神、考え方を伝え続けていただきたいです。
創立100年、おめでとうございます。学内で開催されるイベントなどにもご招待いただけますと幸いです。
今後ともよろしくお願い致します。
おみちの大学としてだけでなく、幅広い知識と教養、バイタリティーを持って、何事にも取り組んでいただきたいと思ひます
人間力を養い、高められるようなオリジナリティを活かした教育
主体性や情報分析、把握力など、社会に出てから苦勞しないためにも学生のうちから必要なスキルを習得して頂ければと思ひます。
御校に限りませんが年々若者の、共有の精神が薄れてきているように感じます。個々の時代とはいえ、相互扶助を大切にする教育を行なって頂く事を期待します。
特にありません。今後ともよろしくお願い申し上げます。
社会人になった時に天理大学を卒業して良かった。と、卒業生が思える大学であって欲しい。
挑戦心
学生への支援として、感性豊かな人を育ててもらいたいです。
上記のような失敗や成長、そして自分の好きなことが学べる環境を作って頂いてもらいたいです。
上記の学生の輩出を期待しています。
これからも優秀な人材を育成して下さい。
優秀な学生を数多く輩出していただきありがとうございます。
天理教の教えに培われた「陽気ぐらしで人のために役に立つ」精神をもって、仕事を通じて、社会貢献に努めて欲しいと思ひます。
天理大学様の体育会出身学生は毎年大変優秀であると感じております。そういった文武両道の学生様に今後も当社で活躍いただけると幸甚です。
これからの社会に通用する学生の資質を高める教育の実践に期待しています。
優秀な学生が多いのが貴学の特徴だと思いますし、バイリンガルな学生や体育会の学生を弊社としてはこれからも採用させていただければと思ひます。

長い歴史が築かれているのは先輩のお陰であり、今後もそのネットワークを生かして活躍頂く事を祈念しております。
天理大学は、とても地域に密着している大学だと思います。若く優秀な人材をこれからも輩出して欲しいことはもちろんですが、地域の子ども、一般社会人が気軽に学べる場になってくれることを期待いたします。
就職活動について
自分は社会人になってどのように働きたいか、どんな社会人になりたいかを考え、大手企業にばかりに目を向けるのではなく、中小企業含め多くの企業研究をして欲しいと思います。
その為には就活サイトに目を通すだけでなく、その会社のホームページ、合同企業説明会や単独企業説明会などで情報を集める必要があります。
現在は売り手市場の為、積極的に活動せずとも大丈夫と思っているかもしれませんが、入社後に後悔しないよう、早期からしっかりと企業研究されることを望みます。
学生らしく、多くのことを学び社会に向けて希望を持ち、社会に出る準備を少しでも高めていただくことで、より良い社会人になれると思います。
歴史とともにグローバル化に適応した大学ではあると思いますが、これから益々発展の可能性が満載の地元奈良をプロモーションできる人材を育成ください。
社会に通用する国際人材の育成
ビジネススキルを持った体育会系学生の育成
将来的に社会に出て活躍できる人材の輩出と教育を期待しております。
思考力を備えた学生を卒業させて頂きたいと思います。
これまでの様にスポーツに力を入れ、文武両道の人材育成を目指してほしい。
今あるべき環境に感謝し、勉学や部活動など何事にも一生懸命に取り組む学生をより育成していただきたいです。
主体性をもって行動をしてほしい。
スポーツと勉学を両立されている貴校ですので、今後も社会人として忍耐力のある素晴らしい人材育成を継続していただければ幸いです。また、内定者にも貴校出身者がおります。この方も面接時から当社役員の評価が高いです。今後とも、よろしくお願い致します。
近畿地区の大学として、東海近畿へ展開する企業へと羽ばたいていただける学生さんを育成していきたい。専門知識は先行している学科でしっかり勉学の上、コミュニケーション力、一般数値・読解力・文章力など、基礎学力的な力をハイブリットで身につけられる仕組みを求めます。
貴大学卒の学生は入社後も活躍してくれており、大変頼もしく感じております。現状望むことはございません。今後も素敵な学生様とご縁がありましたら幸いです。今後のご発展心より祈念致します。
キャリアセンターの開設
奈良県下の企業に固執しない就職支援
特にありません。在籍者の情報につきましては公表しておりませんので、お答えすることができません。
学生時代様々なことにチャレンジをし、その経験を社会でも活かしていただきたいと思います。
社会人として恥ずかしくない人材を育ててほしい
元気で明るい前向きな学生さんをたくさん育てて頂きたいです。
自分のことだけでなく他人を理解する力、そしてそれを受け入れる力
積極性のある学生を育ててほしい。
これまでと同様に貴校から卒業生を弊社へ採用し、人財として組織の重要な役割を担っていただけることを期待しています。
これからも変わらず、良き学生様の教育を
期待しております。
大学在学中から視野を広げて考える力を養うような授業内容。
自身で考え行動できる力を備えた学生の育成
社会に貢献する人材をこれからも多く輩出されること。
上記の力を持った学生を多く輩出するしていただくことを期待し、貴校のますますのご発展を心からお祈り申し上げます。
学び続ける姿勢。
自身が卒業をして後のことを考えてみる。その上で自身の将来を考え行動と挑戦をする自立心を養って欲しい。
さまざまな分野で活躍し、リーダーシップを発揮できる人材の育成を今後も期待し、弊社とのご縁があることを楽しみにしております。
私はホッケー部に所属しており、天理大学でホッケーの技術だけでなく、人間的にも大きく成長させて頂きました。
私を育ててくれた「天理」というブランドに大変感謝しております。
モノの流れがどんどん早くなっていく現代において、それらに対応する力であったり、順応する力が必要であると考えます。何事にも諦めない人間性の育成を望んでおります。
上記に加えて、マナーやルールなどの指導を尚一層期待する。
より一層、実社会で活躍される人財を輩出されることを期待いたします。
当社の社員として働いている方々は各部署におきまして、部下から信頼得て冷静な判断力と誠実な一面を持った社員が多数おります。そのような方が、貴校から社会に羽ばたいていただけることを願っております。
グローバル化も進んでおりますので、よりグローバルな学生を輩出して頂きたい。より会社で働くことを意識した授業などを実施して頂きたい。
引き続き、相手に対して思いやりがありつつ、自分を律して仕事のできる人材を輩出して下さること。
併せて就職塾のような大学にならず、学びの場としてあり続けてほしいと思います。

県外へ就職する学生が増え、奈良県の経済全体が先細りしています。貴学におかれては、奈良県を代表する大学として、奈良県での就職支援に力を入れて欲しいと思います。
優秀な学生も多いと感じておりますので、今後とも変わらずよろしくお願い申し上げます。
ワールドワイドな視点が育まれることを期待しています。せっかくですから留学生や他地域、異年齢との学生との交流をしっかり行い、世の中は多様性に満ちていることの理解と、自分と異なる属性の方とも難なくコミュニケーションが取れる人材が育つ風土が天理にはあると思います。
前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで行動する力（チームワーク）を身につける場を学生に提供する機会が増えると学生が社会に出た時に良いと思います。
社会人基礎力の習得を期待したいと思います。
とても真面目でまっすぐな学生様が多い印象です。引き続き自分らしさを大切に出来る学生様とご縁を頂ければと思います。宜しくお願い致します。
体育・スポーツの分野が多岐にわたってきており、ニーズもある。
学校現場のみならず、地域・社会で体育・スポーツのスペシャリストとして活動する人材をこれからも輩出してほしい。
学生は、全国転勤がある総合職より安定を求める時代になってきましたが、チャレンジ精神のある学生を求めます。
自ら発信し、行動できる学生は社会人適応力が高いと思います。
これからも健全な精神力と強靱な身体を兼ね備えた生徒を輩出して頂きたい
体育会系の学生さんに当社へ就職していただけることを期待しております。
ぜひ今後も変わらず、主体性を持たれた優秀な方々をご輩出頂きたく存じます。
天理大学の特性の一つでもあると思いますが、これからもグローバルに活躍できる人材を社会に送り出していただけることを期待いたします。
これからの社会を担う次世代の皆さん、沢山のことに興味・関心をもって学び、学生時代にしかできない経験を通じて、是非、社会で活かせる人間力と行動力を養って頂きたいと思います。
働き方改革も必要とされている現在ですが、やはり仕事を中心ですので、前向きに本気で取る組む姿勢を持っていける方、またプライベートでも充実した生活を送ることができる方。そのような人材が育つような環境を作っていただければ幸いです。
貴校の卒業生から当社へ勤続して勤務して頂いている卒業生が多くいることが感じられます。しっかり勉強され、社会に送り出されていることが感じられ、今後も素敵な社会人へと導く学校であり続けて頂きたいと感じます。今後とも宜しくお願い致します。
体育学部があり、スポーツに力を入れておられるので、スポーツを通してコミュニケーション能力やチームワーク、目標に向かって取り組む姿勢など身につけた学生を期待しております。
特に天理大学特定で望むことはありません。
複数の企業が参加する合同説明会の回数を増やせば、さらに学生の視野が広がると思います。
幼児への体育指導ができる人材の育成。
専門知識を活かした社会貢献
地域の大学として、これからも素晴らしい学生を送り出していきたいと思います。また、人とかかわりが希薄になりつつある中で、すべての職種に言えることですが、コミュニケーションや人と人とかかわりを大切にできる人物、またその能力を望んでいます。
スポーツを通して養われる忍耐力、人間関係また国際的な環境での多様な価値観を受け入れることのできる柔軟さを期待しています。

# 2020年度 企業・団体等対象アンケート

問No.	設問内容	① メーカー：情報通信機械器具	② 輸送：陸上	③ 公務	④ サービス：その他（人材開発・情報サービス）	⑤ サービス：協同組合
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	はい。	はい。	はい。	はい。	はい。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。	満足している。理由：OBの大半は管理職についています。また、数名海外駐在中。	満足している。理由：コミュニケーションが高い社員が多く、当社が求める乗務員（車掌・運転士）として活躍している社員も多いため。	満足している。理由：協調性及び適応能力が高く組織の中でも中心的な役割を担う人物が多いため。	満足している。理由：社会人としての基本的素地があり、入社時点だけでなく、2年後3年後と時間が経つにつれて、能力が伸びている。	満足している。理由：向上心が強く、努力を惜しまない勤務姿勢が共通している。
②	天理大学生を採用したいと思いませんか？また、その理由は何ですか。	はい。理由：当社、在籍者から行動力がある方が多いように感じます。	はい。理由：採用させていただきたいと思います。上記の通り、コミュニケーション能力に長けている方が多く、向上心を持って仕事に打ち込める方が多い印象であるからです。	はい。理由：採用したい。礼儀正しく、協調性及びコミュニケーション能力に富んでいる学生が多いため。	はい。理由：社会人として優秀であるため。	未回答
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何かですか。	協調性とストレス耐耐力	幅広い年代、性格の方と意思疎通を図ることができるコミュニケーション能力。	協調性、コミュニケーション能力、語学力、グローバルな視点で物事を考えられる力。	学校で学ぶ綺麗なごだけでは、社会では通用しないということと、スポーツ活動などを通して経験しておいて欲しい。	対人関係を負担なく構築できる力。自分を大切にすること。相手を慮る心。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何かですか。	グローバルに活躍する学生に期待します。昨年、他校学生も含め、転勤や海外駐在を希望しない学生が多い。	コミュニケーション能力、ルールを守ることができることができる誠実さに加えて、自ら考えて、周囲に働きかけることのできるバイタリティをもった方を期待いたします。	将来、社会に貢献できる人物の育成。	関西圏の体育系学部のある大学の中心的存在となり、スポーツの価値を高める取り組みを一緒にしたい。	今後も数少ない県内の4年制大学として、奈良県出身の若者が安心して学べる、天理大学であり続けてください。
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	2020年は、多くの企業が採用縮小や企業自体の存続が厳しい環境です。昨年以前の社会、経済状況が直ぐには元に戻らないと思います。学生、企業とも優位な環境は少し先になると思います。説明会及び選考はWebでの実施が増える一方、対面選考も本年度より増えると思われる。学校の授業と同じように、最後は人と人とのコミュニケーションになってくると思います。	採用担当者や学生の皆様が直接お話しできる機会が減少することにより、積極的に情報収集して企業研究等を行っている学生とそうでない学生の差が今まで以上に顕著になるかと思えます。WEB面談では、雰囲気等での判断が難しく、発言内容の質をより重視するようになるのではと思います。	イベント等の減少により、組織について学生に周知できる機会が減少しているものの、公務員が安定しているとの考えにより総合的には志願者は増加するものと思料。	採用人数そのものが減少するため、優秀層の取り合いになり二極化が益々加速する。	ライブシーンが減少することにより、大学・学生・企業間の臨場感は希薄化すると思います。時代の要請ではありますが、対人サービス業であることから、可能な限りリアルな場を設けながら、採用活動を行います。

問No.	設問内容	⑥ サービス：観光・レジャー・施設・生活関連サービス	⑦ 商社：機械器具（医療機器等）	⑧ 商社：機械器具（ペーパリング等）	⑨ サービス：警備保障	⑩ メーカー：印刷・印刷関連サービス
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	はい。	いいえ。	はい。	はい。	はい。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。	満足している。理由：体操、スイミング等を中心にスキル系コーチとして活躍してもらっている為。		満足している。理由：現場（配属部門）からの評判が、非常に高い事が理由です。	満足している。理由：長く活躍してくれている方も多いです。	満足している人の方が多いですが、不満の方もいます。理由：内定後、入社までに採用条件を満たさずに来た方がいた。
②	天理大学生を採用したいと思いませんか？また、その理由は何ですか。	はい。理由：スキル系の業務（体操、スイミングコーチ中心）に、即戦力として活躍して頂ける見込みがある為。	はい。理由：バイタリティ&チームプレイの精神が備わっている体育系学生が多く、当社の社風とマッチするから。	はい。まじめて、素直、純粋な学生が多いところに魅力を感じます。	はい。理由：スポーツに強く、制限された環境の中で真剣に取り組んでいる印象。OBも長く働いて活躍してくれています。	はい。理由：地元の大学であること、また先輩も多く採用はしたい。
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何かですか。	コミュニケーション能力を養って頂くこと。	一言では言い表せませんが、「社会人基礎力」や「教養」でしょうか。社会人基礎力では特に、「実行力/主体性」「信頼力」「規律性」「ストレスコントロール力」が備わっていると、尚良いかと思われれます。	アンテナの高さ（情報収集力）、キャリアプランニング力（自身の将来を切り拓いていく力）、ワークル（働くうえでの基本ルール（法律等））。	コミュニケーション力、忍耐力、継続力等	貴重な4年間なので、色々な人と交流を持ち、勉強以外のことも多経験してもらいたい。高校時代に経験できないこと、大学生だからこそ出来る事を経験して欲しい。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何かですか。	特になし。	どのような会社に入社しても活躍できる、人材育成。	貴学は、奈良県においてナンバー1の大学様だと思っております。奈良県の情報発信源として、引き続き関西・西日本・日本・世界を牽引する学生を世間へ送り出させていただく事を期待しております。	今後も、良い学生を育成されることを期待しています。	歴史ある大学なので、いろんな分野での活躍が期待でき、「天理大学」の名前を全国に広めて頂きたい。卒業生の活躍が期待できるような教育。（天理大学の学生を採用して良かったと思ってもらえる）
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	オンラインでの選考は主流になるかと存じます。	採用凍結や縮小など、売り手市場から買い手市場への市場転換。また、採用活動の早期化と複雑化。	よりデジタル化が進むと考えておりますが、その反面、情報を十分に掴めない学生も多く出てくるかと予測しております。今後、今以上に大学キャリア・就職部門の存在が重要となると考えております。	傾いている。また、採用を絞っている業界希望学生が視野を広げたりすることが考えられ、安定しているセキュリティ業界へ目を向ける学生も増えるのではないかと、と期待しています。	大手企業、中小企業ともに選考に対し不安材料が多く、これから迎える決算を全国に広めて頂くに支障が出るかと予想される。経済回復がただけ進むか不透明な部分があり、企業側もそれぞれ相応の対応になると思われる。



# 2021年度 企業・団体等対象アンケート

問No.	設問内容	① メーカー：ゴム製品	② 金融：信用金庫・信用協同組合	③ サービス：病院・病院・医療・保険サービス	④ 建設業：建築・建設	⑤ メーカー：印刷・印刷関連サービス
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	はい。	はい。	はい。	はい。	はい。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。	満足している。理由：大学で専攻した知識を仕事に活かしていただいている。	満足している。理由：スポーツ経験者が多く、礼儀正しく、元気のある学生が多いように思う。	満足している。理由：何事にも一所懸命取り組み姿勢を持っている方が多い。	不満である。理由：個人レベルでは、仕事についての理解に、バラツキが大きい。	満足している。理由：研修および業務を、真面目に丁寧にごこなしてもらっている。
②	天理大学生を採用したいと思いませんか？また、その理由は何ですか。	はい。理由： ①国際学部を有しているので、国際社会へグローバルに対応できる学生が多いこと。 ②現在、弊社において社長、専務、取締役他数名の天理大学卒が勤務しており、継続的に天理大学生を採用しているのだから。	はい。理由：是非採用したい。スポーツ経験者が多く、礼儀正しく、元気のある学生が多いように思うから。	はい。理由：採用したい、何事にも一所懸命取り組み姿勢を持っている方が多いこと、宗教のことを少しでも理解している人が多いため。	はい。理由：体力があり、真面目に物事に向かう気持ちが多い。	はい。理由：当社が奈良県内にあるということもあり、県内外出身を問わず、奈良県で働くことに意欲のある方と、出会いやすいと思うから。
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何かですか。	面接時に学生から必ず質問される問いですが、「在籍している専門をしっかり勉強してもらいながら、学生生活を謳歌し、たくさんの友人を形成してもらいたい。」と返答しております。	コミュニケーション能力。	コミュニケーション能力 社会人としてのマナー 笑顔と親切	自省心、向上心	人の話を聞き、学ぶという姿勢が大切だと思う。仕事を覚える際に、言われたことを鵜呑みにするだけでなく、何故そうするのかと考えることが成長につながると思う。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の観点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何かですか。	現在は国際学部となっていますが、昔のように外国語学部を更に広げてもらい、世界に通じる国際人を養成していただきたいと思えます。元々は、天理外国語学校が発祥だったので、国際学部を極めていただきたい。ちなみに、弊社も2023年に創立100周年を迎えるので、只今100周年イベントを企画中です。	これからも、社会常識のある学生の育成を期待しています。	医療大学と合併後、更なる幅広い分野で活躍できる人材の育成。	良い処を継続してほしい。建学の精神を忘れずに。	数多くのOBGを輩出している貴学の学生を、可能であれば定期的に採用し、貴学を通じた人のつながりを、大きくしていきたいと考えている。
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	コロナ対応における採用活動は、2年目を迎えます。リモートにおける企業説明会は慣れきておりますが、対面ではないので学生のしきたりなどから志望度合いをはかるのが、リモートではわからない点が多いので、良い人材でも選考から省いてしまうことがあり、選考には苦慮しております。	リモートの活用に着定すると思えますが、採用決定には対面が必須と考えています。	オンライン採用試験が、一般的になるのではないかと。しかし、オンラインでは見えなかった点が、採用後に見えてくることもある。	今の状態が普通になるので、採用そのものの影響は少ない。ただし、企業の状況は急変するかも知れない。	少なからず業績に影響が出ているため、今後数年間は新卒採用の動きが鈍くなると思う。

問No.	設問内容	⑥ サービス：学習塾・教育支援	⑦ 公務：	⑧ サービス：病院・病院・医療・保険サービス	⑨ メーカー：食品・食料
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	はい。	はい。	はい。	はい。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。	満足している。理由：当社に相応しい人物で、幼児体育の指導者として適任だと感じるため。	満足している。理由：昇任し幹部になっている職員が多数いる。誠実で思いやりがある方、コミュニケーション能力の高い方、クラブ活動等を通じ忍耐力を備えている方など、優秀な人材が多い。	満足している。理由：人間味があり、人の役に立つという宗教的教養などもあり、社会人としての根本的なところが備わっていると考えられるため。	不満である。理由：当社には現在卒業生が3名おり、1名は在籍20年を超えるベテラン社員として活躍しています。今年目の社員が1名おりますが、難しい顧客を担当した為、モチベーションが下がっています。今年の新卒で1名採用しましたが、度重なる業務中の急変な態度に、手を焼いています。
②	天理大学生を採用したいと思いませんか？また、その理由は何ですか。	はい。理由：充実した環境で学生の皆さんが学び、研鑽されているため、社会人としても即戦力として活躍いただいているため。	はい。理由：公務を通じ安全・安心な社会の実現等の社会貢献に意欲のある方、誠実で思いやりのある方を求めているため、天理大学にはそのような学生が多いと認識しているため。	はい。理由：当グループには、多種多様な国籍の方や職種の方が働いていて異文化のことも学んでおられて、先々留学生や技能実習生の力にもなってもらえると考えられる。また、スポーツも非常に力を入れておられ、そこから学ぶ挨拶、忍耐力、自分との闘い、努力を継続する力、常々上を目指し事ができる、仲間との助け合い、思いやり士気が高いことなど、そういった能力が備わっていること。	地元の学生であり、私も天理市出身なので、いい出会いを大切にしたいと思っています。適材適所で、採用したいと考えています。
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何かですか。	コミュニケーション能力を含め、対人力を強化すること。様々な状況や事態にも臨むことなく対応できる力を、インターンシップや現場実習で習得すること。	①相手の立場になって、物事を考える人②人の痛みや苦しみを敏感に感じ取ることができる人③誠実で思いやりのある心を持ち合わせた人、を求め採用しているため、学生生活を通じてそれらを身に付けてほしい。	挨拶、笑顔、相手の思いを聞けることなど。	どんな仕事をするにもコミュニケーションは大事なもので、数多くの方と触れ合い、コミュニケーション能力を高めていただきたいと思います。また、社会に出ると何かしらストレスは溜まるので、発散する何かを見つけていただきたいです。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の観点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何かですか。	歴史ある貴学では数多くの偉人も活躍されているので、更に各分野で力を発揮できる人材が育つ環境作りを継続していただき、特に子ども・幼児体育の指導者育成にも、力を入れていただきたいと思います。	机上の勉強に留まらず、実習やボランティア活動等様々な経験を積み、社会の一員として社会貢献する意識の高い人材の育成。地域に根ざし、各公官庁、企業と共働り、地域社会の発展へ寄与すること。	奈良県内での就職促進。また天理市内での企業等との盛り上げ役として推進してほしい。	地元の大学として数多くの優秀な先輩を輩出されていますので、先輩に負けない気持ちで頑張りたいと思います。
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	昨年から、各企業での採用は減少していると聞きますが、来年、再来年と更に採用ができれば企業も増えるように感じます。会社説明会や採用試験においては、対人・オンラインとの併用で実施される考えます。	コロナ禍においては、採用試験の日程、形式、試験科目等に変更があったが、今後感染症の終息に伴い、元通りの試験内容に戻るものと考えられる。	コロナ禍の影響は、学生の可能性を狭める。様々な企業を知っていただく機会が、制限される。実習やインターンシップなどの機会が減少する。	当社も外食産業様がお客様なので、緊急事態宣言下に間接的に影響を受けました。ただ、お持ち帰りも増えた関係で、今後は持ち帰り商品に力を入れていきたいと思っています。コロナ禍でも大手回転寿司店は好調なので、当社も忙しくしています。将来の会社を担う若手は今後も必要ですので、積極的な採用活動を今後も続けていく所存です。

# 2022年度 企業・団体等対象アンケート

問No.	設問内容	① サービス：警備保障	② メーカー：一般機械・産業機械	③ サービス：物品レンタル・リース	④ 商社：機械器具・OA製品	⑤ サービス：福祉・福祉施設
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	はい。	はい。	はい。	はい。	はい。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。	満足している。理由：当社が求める人材につきましては、積極性・誠実さ・コミュニケーション力がある「自立型人材」であり、貴大出身者については、まさに適した人材であります。	満足している。理由：前向きに真摯に業務に取り組む姿勢が、周りにも良い影響を与えているため。	満足している。理由：1名は第二新卒で採用しましたが、柔道をされていて礼儀・礼節を重んじ、しっかりとした方なので。もう1名は新卒で採用しましたが、真面目でどのグループとも接点を持てる、周りを感じることができる方なので。	満足している。理由：積極性、主体性があり、礼儀正しく活発で誠実な方々のため。	満足している。理由：人間学部2名、文学部1名の卒業生が在職しており、学生の時からアルバイトとしても関わってくれておりました。採用後も明るく活発に業務に従事しており、現在は、役職に就いています。
②	天理大学生を採用したいと思いませんか？また、その理由は何ですか。	はい。理由：上記の理由ならびに、現在では管理職等、その他の役職にでもリーダーシップを発揮しながら活躍されており、先輩後輩が切磋琢磨しながら成長できる環境を作るためには是非採用したいと考えております。	はい。理由：チームにいてほしい人材が活躍しているため。	はい、是非採用したいと思っています。理由は：①スポーツで鍛えられた、強い精神力をお持ちなので。②縦の関係を重んじる方が多いので。③同じ奈良県内にあるので。	はい。理由：過去採用した方のような人を求める為。（御校の学生様と弊社との相性が良いと感じております）	はい。採用したいです。理由：人間学部で社会福祉を専攻している学生だけでなく、他の学部で学生であっても「人の為に動く」ことができる学生が多いと感じております。部活動等を通じて、組織の中での連携やコミュニケーション能力を培っていただきたいと思います。
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何かですか。	弊社が求める「自立型人材」の通り、目標に向かい取り組む積極性、真面目さや、常に相手を思いやる誠実さ、周囲の人との信頼関係を築けるコミュニケーション力を、身につけて頂ければと考えます。	目の前の壁を成長と捉え、諦めずに取り組める方は、入社後も活躍されています。	当社としては、特にありません。当社は個性を大切にしておりますので、自分のキャラクターを理解していただければ結構です。	礼儀作法、積極性、主体性、やる気、向上心、明るさ、PCスキル（エクセル、ワード）、ある程度の社会人マナー。	福祉の職場では、「誰かの力になる」「人の為に動く」ことができるのが大切です。また、一人でできることは限界があるので、人の意見を聞くことができる、自分の考えを伝えるなどチームとして活動していくためのコミュニケーション能力が必要だと考えております。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何かですか。	多くの卒業生が社会でご活躍されておられる通り、リーダーシップを取られる人材の育成に期待します。	引き続き、主体的に物事に取り組むことができる人材の輩出。	同じ奈良県内で、更に創立100周年を超える立場として、共に奈良県を支えていける関係を築けたら、と思っています。	ますます社会で活躍される人材の育成を、なさっていただきたいです。	福祉の職場では、「誰かの力になる」「人の為に動く」ことを養っていただけることを期待しております。
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	Webでの採用方法の利点としては、遠方の学生や多くの学生へのPRが可能であり、経費の負担軽減にはつながります。しかしながら、今後ミスマッチによる早期退職が増えるものと考えられ、その対策が必要となります。あくまでも、弊社が考えます「学生との対面式」が基本であり、互いに理解しあえる場を持ちたいと考えております。	採用イベントのオンライン化により、対面で会う機会は減少していると思います。一方で、気軽に採用イベントに参加していただける点は、オンラインのメリットと捉えています。今のやり方であった採用活動をして、良いご縁につながるよう尽力して参ります。	対面での採用活動が、難しくなるのをおもいます。また、効率的に就活をされる方が、増えるのをおもいます。ただ学生の一部は、Webより対面を重視されている方がおられるので、そういった方を大切にしていきたいです。	Webが主となってきており、企業側と学生の意思の疎通がしにくく、また、画面上と実際に対面した際の印象のギャップが発生するため採用活動の効率が悪くなると思います。	就職説明会や一次面接はWeb形式で実施されることが増えて来ると思います。感染が減少している時は、出来るだけ来所していただいたり、対面での面接が望ましいと考えておりますが、感染拡大時や遠方の方ともWebで面接しやすいというメリットもあります。状況に応じた活動が増えるのではと思います。

問No.	設問内容	⑥ 輸送：陸上運送	⑦ 金融：生命保険	⑧ 商社：機械器具・OA製品	⑨ 輸送：自庫・運搬用サービス	⑩ 建設業：電気設備工事
①	これまでに天理大学生を採用したことがありますか。	いいえ。	はい。	はい。	いいえ。	いいえ。
①-2	「はい」と回答された方に質問します。採用した天理大学生に満足していますか。		満足している。	満足している。理由：人物面が、しっかりとされておられます。芯を持っておられる感じを受けると共に、マナーも兼ね備えておられると思います。仕事に対する向き合い方も、しっかりとされています。		
②	天理大学生を採用したいと思いませんか？また、その理由は何ですか。	はい。採用したいです。理由：貴学が特に、スポーツに力を入れており、体育会系学生を弊社では高く評価しているため。	はい。理由：貴学の卒業生が様々なキャリアアルトに進み、活躍されているため。	はい。採用できれば嬉しい。理由：入社後のロードマップが、他の学生様よりハッキリと想像できるから。	はい。理由：外国語教育に力を入れている点から、グローバルに活躍できる人材を採用したいため。	はい。採用したい。理由：体育系の学生を希望しているため。
③	社会人として勤務するために、学生時代に身に付けておくべき力は何かですか。	素直さ、わからない事をすぐに聞くコミュニケーション力。物事に取り組むスピード。	弊社では、コミュニケーション能力、組織対応力、行動力、課題解決力、ホスピタリティの5つを求めたい人材としています。これらの力を学生時代に少しでも身につけている学生と働きたいと思っています。	学生時代にしか経験できない事を、数多く経験すること、そして新しい事に不安を感じながらも、その事に押し潰されず、いろいろな矛盾を感じながら、チャレンジしていく事ができるマインド。	様々な人とのコミュニケーションを取る、前向きな心構え・姿勢。	自分が経験した事を、話せるネタを多く持つ事。
④	天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。社会の視点から、これからの天理大学に望むこと、期待することは何かですか。	若者の育成。	今後も貴校と関係を築き、卒業生やセミナー等を通して、卒業生のような人材と出会いたいと思っています。	関西のみならず、日本を牽引していく大学を目指してほしいです。	多種多様な物事にチャレンジする、気概のある学生を期待しています。	奈良県の魅力発信。
⑤	新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今後の採用活動にどのような変化を及ぼすと思いますか。	一時はコロナの影響で、オンライン面接やリモートワークが始まりましたが、今は対面の流れが戻りつつあり、オンラインの良いところを取り入れた対面活動が主流になると思います。（デジタルコンテンツの拡充等）	オンライン授業など、オンラインでのやり取りが増え、志望する業界や業種も変化していくように考えます。	学生が待ちの姿勢になっています。当社も柔軟に対応しようと思案していますが、ただ今も昔も将来も変わらないのは、当社は大学キャリアセンター様との関係を第一に考えております。	リモートと対面を両立した採用活動のスタイルが、今後も定着していくと期待します。	今は（コロナ以前の）スタンダードになった（戻った）と感じる。

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ナガオ ヒナオ 永尾 比奈夫 <令和5年4月>		Master of Arts in Religious Studies (米国)		天理大学 学長 (令和5.4～令和7.3)

別記様式第3号（その2の1）

教 員 の 氏 名 等												
(人文学部宗教学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
1	専	教授 (学科 主任)	オカダ マサヒコ 岡田 正彦 <令和6年4月>		Ph. D (米国)		建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							天理学概論 1	1前	2	1		
							天理学概論 2	1後	2	1		
							宗教学概論 1	2前	2	1		
							天理学史特殊講義 1	3・4後	2	1		
							宗教学特殊講義 3	3・4前	2	1		
							宗教学特殊講義 2	2後	2	1		
							宗教科指導法 1	3前	2	1		
卒業論文	4休	6	1									
2	専	教授	シマダ カツミ 島田 勝巳 <令和6年4月>		修士 (宗教学) 修士 (神学) (米国)		宗教学概論 1	1前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成13年4月)	5日
							宗教学特殊講義 3	2前	2	1		
							宗教学特殊講義 4	2後	2	1		
3	専	教授	ヒガシババ イクオ 東馬場 郁生 <令和6年4月>		Doctor of Philosophy (History of Religions) (米国)		建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
							宗教学概論 2	2後	2	1		
							宗教学特殊講義 4	3・4後	2	1		
							宗教科指導法 2	3後	2	1		
							宗教課題演習 1	4前	2	1		
							宗教課題演習 2	4後	2	1		
4	専	准教授	サワイ ジロウ 澤井 治郎 <令和6年4月>		博士 (文学)		建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1	天理大学 人間学部准教授 (平成26年4月)	5日
							英語 1	1・2・3・4前	1	1		
							英語 2	1・2・3・4後	1	1		
							宗教研究基礎演習	1後	2	1		
							現代宗教を読み解くゼミ 1	2前	2	1		
							現代宗教を読み解くゼミ 2	2後	2	1		
							宗教学特殊講義 1	3・4前	2	1		
							宗教科指導法 3	3前	2	1		
							宗教課題演習 1	4前	2	1		
							宗教課題演習 2	4後	2	1		
5	専	講師	フカヤ コウジ 深谷 耕治 <令和6年4月>		修士 (社会学) 修士 (宗教学) (米国)		建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和2年4月)	5日
							宗教研究基礎演習	1後	2	1		
							現代宗教を読み解くゼミ 1	2前	2	1		
							現代宗教を読み解くゼミ 2	2後	2	1		
							伝道実習 1	1休	1	1		
							伝道実習 2	1休	1	1		
							伝道実習 3	2前	1	1		
							伝道実習 4	2後	1	1		
							天理学特殊講義 1	3・4前	2	1		
							天理学特殊講義 2	3・4後	2	1		
							宗教学特殊講義 2	3・4後	2	1		
							宗教研究演習 1	3前	2	1		
宗教研究演習 2	3後	2	1									
6	専	講師	サワイ マコト 澤井 真 <令和6年4月>		博士 (文学)		建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 講師 (平成31年4月)	5日
							基礎ゼミナール 1	1前	2	1		
							基礎ゼミナール 2	1後	2	1		
							宗教と現代社会	1・2・3・4前・後	4	2		
							宗教学特殊講義 5	2前	2	1		
							宗教学特殊講義 6	2後	2	1		
							宗教科指導法 4	3後	2	1		
							宗教研究演習 1	3前	2	1		
宗教研究演習 2	3後	2	1									
7	兼担	教授	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和6年4月>		文学修士 ※		博物館実習 1	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成11年4月)	5日
							博物館実習 1	3前	2	1		
7	兼任	講師	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和9年4月>				博物館実習 1	3前	2	1	天理大学 人文学部教授 (令和9年3月まで)	-
							博物館実習 1	3前	2	1		
8	兼担	教授	ハタカマ カズヒロ 幡鎌 一弘 <令和6年4月>		修士 (文学)		宗教と芸術	1・2・3・4後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成8年4月)	5日
9	兼担	教授	オダギ ハルタロウ 小田木 治太郎 <令和6年4月>		文学修士		博物館実習 1	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成21年4月)	5日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する選当たり平均日数
10	兼担	教授	カナヤマ モトハル 金山 元春 <令和6年4月>		博士 (心理学)		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成31年4月)	5日
11	兼担	教授 (学部長)	ヤマナカ ヒデオ 山中 秀夫 <令和6年4月>		博士 (学術)		情報資源組織論 情報資源組織演習1 情報資源組織演習2 図書館情報学特論	3・4前 3・4後 3・4後 4前	4 4 4 2	2 2 2 1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
12	兼担	教授	セキモト カツヨシ 関本 克良 <令和6年4月>		博士 (学術)		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編 ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編 国際協力入門 国際協力実習 国際協力演習1 国際協力演習2 国際ボランティア論 キャリアプランニング 基礎からわかるレポート作成	1・2・3・4休 2・3・4休 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4後 1・2・3前・後 1・2・3・4前	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	天理大学 人間学部教授 (平成22年4月)	5日
13	兼担	教授	ソヤマ ノリコ 曾山 典子 <令和6年4月>		博士 (理学)		データサイエンス・AI入門 コンピュータ入門 情報処理	1前・後 1・2・3・4前・後 2・3・4前・後	8 12 4	4 6 2	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
14	兼担	教授	ウエダ ノブヒコ 上田 喜彦 <令和6年4月>		学士 (教育学)		天理大学特別講義1 天理大学特別講義2 天理大学特別講義3 天理大学特別講義4 インターンシップ1 インターンシップ2 海外インターンシップ1 海外インターンシップ2 教職論 教育課程論 教育方法学(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含まず) 教職実践演習(中・高)	1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3休 1・2・3休 2・3・4休 2・3・4休 1前・後 3・4前・後 3前・後 4後	2 2 2 2 1 2 1 2 10 8 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 5 4 2	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
15	兼担	教授	タケムラ カゲキ 竹村 景生 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編 ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編 生徒指導・進路指導の理論及び方法 教育実習講義 介護等体験 教職実践演習(中・高) 学校教育支援 特別活動・総合的な学習の時間の指導法	1・2・3・4休 2・3・4休 2・3・4後 3後 3休 4後 2・3・4休 2・3・4前・後	1 1 1 4 2 1 14 1 8	1 1 2 7 1 4	天理大学 人間学部教授 (令和3年4月)	5日
16	兼担	教授	ナカ アツシ 仲 淳 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		学校教育心理学 教育相談の理論及び方法 教育実習講義 介護等体験 教職実践演習(中・高) 教育実習1 教育実習2 学校教育支援	2・3・4前・後 2・3・4前・後 3後 3休 4後 4休 4休 2・3・4休	8 8 1 1 2 2 2 1	4 4 1 1 1 1 1	天理大学 人間学部教授 (平成17年4月)	5日
17	兼担	教授	コガ タカシ 古賀 崇 <令和6年4月>		修士 (教育学) Master of Library Science (米国) ※		図書館情報システム論 情報サービス論 情報サービス演習1 情報サービス演習2 図書館情報資源概論 図書館情報資源特論	2・3・4後 3・4前 3・4後 3・4後 2・3・4前 3・4前	4 4 4 4 4 2	2 2 2 2 2 1	天理大学 人間学部教授 (平成24年4月)	5日
18	兼担	教授	ノゼウオン 魯ゼウオン <令和6年4月>		博士 (社会学)		カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成19年4月)	-
19	兼担	教授	ノゾ コウジ 野津 幸治 <令和6年4月>		M.A. (タイ)		多文化理解と言語(タイ語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成4年4月)	-
20	兼担	教授	オクシマ ミカ 奥島 美夏 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		多文化理解と言語(インドネシア語) キャリアデザイン2	1・2・3・4前・後 2・3・4後	4 2	2 1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	-
21	兼担	教授	モリ ヨウメイ 森 洋明 <令和6年4月>		言語学 (意味論) 修士 (フランス)		多文化理解と言語(フランス語) 天理異文化伝道	1・2・3・4前・後 2・3・4前	4 2	2 1	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	-

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する選当たり平均日数
22	兼任	教授	ノグチ シゲル 野口 茂 <令和6年4月>		Magister en Historia (ベネズエラ)		多文化理解と言語(スペイン語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	—
23	兼任	教授	キタモリ エリ 北森 絵里 <令和6年4月>		修士 (地域研究)		多文化理解と言語(ポルトガル語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成8年4月)	—
24	兼任	教授	オカダ タツキ 岡田 龍樹 <令和6年4月>		教育学修士 ※		日本事情1 日本事情2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理大学 人間学部教授 (平成3年4月)	—
25	兼任	教授	キクチ ノリユキ 菊池 律之 <令和6年4月>		修士 (言語学) ※		日本語学入門 日本語文法論1 日本語文法論2 日本語音声学 言語の対照研究 日本語指導法 日本語教育実習	1前 2前 2後 2後 3前 4前 4休	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	—
26	兼任	教授	マツナガ トシヤ 松永 稔也 <令和6年4月>		博士 (言語文化学)		多文化理解と言語(日本語)	1・2・3・4前	2	1	宮崎大学 多言語多文化教育 研究センター 准教授 (令和3年4月)	—
27	兼任	教授	オクダ マキコ 奥田 真紀子 <令和6年4月>		修士 (学術) ※		保健医療の仕組みと健康づくり	1・2・3・4後	2	1	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	—
28	兼任	教授	マスタニ ヒロシ 増谷 弘 <令和6年4月>		博士 (医学)		基礎からわかる生物・化学	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	—
29	兼任	教授	ホリウチ ミドリ 堀内 みどり <令和6年4月>		哲学博士 (インド)		ジェンダー・セクシャリティ	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成元年4月)	—
30	兼任	教授	カネコ アキラ 金子 昭 <令和6年4月>		博士 (哲学)		哲学概論1 哲学概論2 倫理学1 倫理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 6 4	1 1 3 2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成3年4月)	—
31	兼任	准教授	クロイワ ヤスヒロ 黒岩 康博 <令和6年4月>		博士 (文学)		基礎からわかる近代史	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 文学部准教授 (平成25年4月)	5日
32	兼任	准教授	ハコダ テツ 箱田 徹 <令和6年4月>		博士 (学術)		キャリアプランニング 基礎からわかる現代社会 社会学 哲学概論1 哲学概論2	1・2・3前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4 4 4 4	2 2 2 2 2	天理大学 人間学部准教授 (平成29年4月)	5日
33	兼任	准教授	オノ アキコ 小野 朗子 <令和6年4月>		博士 (理学)		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編 ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編 データサイエンス・AI入門 データサイエンス・AI応用 データリテラシー 数学と論理 統計学1 統計学2	1・2・3・4休 2・3・4休 1前・後 2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 8 4 4 4 2 2	1 1 4 2 1	天理大学 人間学部准教授 (令和5年4月)	5日
34①	兼任	講師	フクイ コウゾウ 福井 孝三 <令和6年4月>		修士 (言語教育 情報学)		日本語教育入門 日本語語彙論	1前 2後	2 2	1 1	天理大学 国際学部講師 (平成25年4月)	—
34②	兼任	准教授	キン シュ 金 珠 <令和8年4月>		博士 (日本語・ 日本文化)		日本語教育入門 日本語語彙論 日本語教授法1 日本語教授法2 第二言語習得論 日本語教育評価法	1前 2後 3前 3後 3前 4後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	大阪大学 日本語日本文化 教育研究センター 招聘研究員 (令和元年9月)	—
35	兼任	准教授	ナカムラ ヒサミ 中村 久美 <令和6年4月>		Ph. D in Anglo-Irish Literature and Drama (アイルランド)		英語1 英語2 多文化理解と言語(英語) 世界の文学1 世界の文学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 4 4 4	1 1 2 2	天理大学 国際学部准教授 (平成25年4月)	—
36	兼任	准教授	ヨシダ チカ 吉田 智佳 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語1 英語2 実践アカデミック英語1 実践アカデミック英語2 アカデミック英語上級	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	1 1 2 1 2	1 1 2 2 2	天理大学 国際学部准教授 (平成16年4月)	—

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する適当なり平均日数
37	兼任	准教授	カワカミ コウジ 川上 晃司 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学2 ニュースポーツ	1・2・3・4後 2・3・4前	2 1	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成31年4月)	—
38	兼任	准教授	ウメザキ サユリ 梅崎 さゆり <令和6年4月>		博士 (学術)		健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポーツの役割	1・2・3・4前 1・2・3・4前	2 2	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成24年4月)	—
39	兼任	准教授	アナイ タカマサ 穴井 隆将 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポーツの役割	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成26年4月)	—
40	兼任	准教授	ヨモギダ タカマサ 蓬田 高正 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2 アウトドアスポーツ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4休	4 2 1	2 1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成28年4月)	—
41	兼任	准教授	オバタ オサム 小畑 治 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学1 レクリエーション スポーツ	1・2・3・4前 2・3・4前	4 1	2 1	天理大学 体育学部准教授 (令和4年4月)	—
42	兼任	講師	スナガ サトシ 須永 哲思 <令和6年4月>		博士 (教育学)		教育原理 教育史 学校教育社会学 教育実習講義 介護等体験 教職実践演習(中・高) 学校教育支援 教育史特論	2・3・4前・後 2・3・4前 2・3・4前・後 3後 3休 4後 2・3・4休 2・3・4後	8 2 8 2 1 2 1 2	4 1 4 2 1 1 1	天理大学 人間学部講師 (令和4年4月)	5日
43	兼任	講師	オゼキ コウヘイ 小関 康平 <令和6年4月>		博士 (法学)		キャリアデザイン1 日本国憲法 法学 行政法1 行政法2	2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 8 10 2 2	1 4 5 1 1	天理大学 人間学部講師 (令和5年4月)	5日
44	兼任	講師	マツキ ユウヤ 松木 優也 <令和6年4月>		修士 (体育学) ※		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	6 6	3 3	天理大学 体育学部講師 (令和4年4月)	—
45	兼任	助教	カネコ リュウダイ 金子 竜大 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	10 6	5 3	天理大学 体育学部助教 (令和5年4月)	—
46	兼任	講師	サイ ハイセイ 蔡 珮菁 <令和6年4月>		博士 (文学)		多文化理解と言語(中国語)	1・2・3・4前・後	4	2	中国文化大学 日本語学科准教授 (平成23年8月)	—
47	兼任	講師	ザバレジナヤ オリガ Zaberezhnaia Olga <令和6年4月>		博士 (文化学) (ロシア)		多文化理解と言語(ロシア語)	1・2・3・4前・後	4	2	国立研究大学 高等経済学院 国際経済国際政治学 部東洋学部 上級講師 (令和2年4月)	—
48	兼任	講師	イノウエ モリオ 井上 護夫 <令和8年4月>		修士 (言語教育学)		天理教史特殊講義2	3・4後	2	1	天理教内統領室 (平成3年4月)	—
49	兼任	講師	イハシ ユキエ 伊橋 幸江 <令和7年4月>		文学士		天理教原典学2 概説 天理教原典学3 概説	2後 2前	2 2	1 1	天理教校 (平成2年4月)	—
50	兼任	講師	サワイ イチロウ 澤井 一郎 <令和7年4月>		修士 (文学) ※		天理教原典学1 概説	2前	2	1	天理教校 (平成25年4月)	—
51	兼任	講師	ナリタ ミチヒロ 成田 道広 <令和6年4月>		修士 (宗教学) (ネパール) ※		宗教史概説2 宗教史特殊講義1	1後 2前	2 2	1 1	天理教海外部 (平成21年1月)	—
52	兼任	講師	フカヤ モトキヨ 深谷 太清 <令和8年4月>		Dr. phil. (ドイツ)		天理教学特殊講義3	3・4前	2	1	天理教やまとよふ き分教会会長 (平成20年4月)	—
53	兼任	講師	ヤマザワ ショウゾウ 山澤 昭造 <令和6年4月>		学士 (文学)		天理教教祖伝概説1 天理教教祖伝概説2	1前 1後	2 2	1 1	天理教校 (平成18年3月)	—
54	兼任	講師	アラタ メグミ 荒田 恵 <令和9年4月>		修士 (文学)		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成31年4月)	—
55	兼任	講師	イヌイ セイジ 乾 誠二 <令和9年4月>		文学士		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成10年4月)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 選当たり平 均日数
56	兼任	講師	ナカオ ノリヒト 中尾 徳仁 <令和9年4月>		学士 (教育学)		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成11年4月)	—
57	兼任	講師	イマジ シュウヘイ 今治 周平 <令和6年4月>		法務博士		民法1 民法2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	やすらぎ法律 事務所 (令和元年5月)	—
58	兼任	講師	カド カツアキ 角 克明 <令和6年4月>		教育学修士 ※		地理学1 地理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—
59	兼任	講師	カトウ ヤスシ 加藤 康 <令和6年4月>		修士 (商学) ※		経営学1 経営学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	京都経済短期大学 経営情報学科 教授 (平成27年4月)	—
60	兼任	講師	カタオカ サチコ 片岡 佐知子 <令和6年4月>		博士 (理学)		科学と現代	1・2・3・4前・後	8	4	—	—
61	兼任	講師	サカテ セイジ 坂手 誠治 <令和6年4月>		博士 (学術)		生活の中の科学	1・2・3・4前・後	8	4	京都女子大学 家政学部教授 (令和2年4月)	—
62	兼任	講師	スズキ フミコ 鈴木 史子 <令和6年4月>		修士 (臨床心理学) ※		心理学1 心理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—
63	兼任	講師	タケムラ カズヤ 竹村 和也 <令和6年4月>		修士 (法学) ※		日本国憲法 法学	1・2・3・4後 1・2・3・4前	8 6	4 3	—	—
64	兼任	講師	トウイ ノブオ 東井 申雄 <令和6年4月>		修士 (人間科学)		心理学1 心理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	天理教教会本部 (平成28年8月)	—
65	兼任	講師	ナガサワ カズエ 長沢 一恵 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		基礎からわかるレポート 作成 近現代の遺産と未来	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	8 8	4 4	—	—
66	兼任	講師	ナカムラ タカハル 中村 珍晴 <令和6年4月>		博士 (スポーツ 科学)		障害学	1・2・3・4前	2	1	合同会社エクスビ ジョン代表 (令和3年3月)	—
67	兼任	講師	ニシ ナオミ 西 直美 <令和6年4月>		博士 (グローバル 社会研究)		基礎からわかるレポート 作成 政治学	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	2 4	1 2	同志社大学 法学部嘱託講師 (令和2年4月)	—
68	兼任	講師	フクシマ サワミ 福島 沢美 <令和6年4月>		学士 (教育学)		日本手話A 日本手話B	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	6 2	3 1	天理教教会本部 社会福祉課 (平成27年4月)	—
69	兼任	講師	フジイ ミノル 藤井 稔 <令和6年4月>		博士 (文学)		基礎からわかるレポート 作成	1・2・3・4後	2	1	—	—
70	兼任	講師	ミヤケ マサオ 三宅 正夫 <令和6年4月>		博士 (工学)		基礎からわかる数学	1・2・3・4前・後	4	2	—	—
71	兼任	講師	ヤギ ヒデジ 八木 英治 <令和6年4月>		修士 (教育学)		障害学	1・2・3・4後	2	1	奈良市子ども未来 部児童相談所設置 推進課 (令和3年4月)	—
72	兼任	講師	ヤスダ トモヒロ 安田 智博 <令和6年4月>		学士 (文学)		キャリアプランニング 労働と社会	1・2・3前 1・2・3・4前・後	2 6	1 3	—	—
73	兼任	講師	ヨシダ カズヒロ 吉田 和弘 <令和6年4月>		博士 (農学)		地球環境論	1・2・3・4前・後	8	4	国立大学法人 奈良国立機構 奈良女子大学 特任助教 (令和3年7月)	—
74	兼任	講師	ヨシモト エツコ 持元 江津子 <令和6年4月>		博士 (経済学)		コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	8	4	—	—
75	兼任	講師	ワタナベ ミツル 渡邊 碩 <令和6年4月>		修士 (経済学)		経済学1 経済学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—



調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する適当なり平均日数
76	兼任	講師	イケダ ハナコ 池田 華子 <令和7年4月>		博士(教育学)		臨床教育学特論	2・3・4休	2	1	大阪公立大学 国際基幹教育機構 准教授 (令和4年4月)	—
77	兼任	講師	オクモト タケヒロ 奥本 武裕 <令和6年4月>		修士(文学)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	—	—
78	兼任	講師	カナヤマ サキコ 金山 佐喜子 <令和6年4月>		修士(教育学) ※		特別な支援の必要な生徒の理解	1前・後	8	4	—	—
79	兼任	講師	キタグチ マナブ 北口 学 <令和6年4月>		学士(芸術)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 4 4	1 1 2 2	(株)アジール フィリア 代表取締役 (平成27年9月)	—
80	兼任	講師	コジマ ゲンイチロウ 小島 源一郎 <令和8年4月>		教育学士		教育方法学(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	3前・後	18	9	—	—
81	兼任	講師	トミタ ミノル 富田 稔 <令和6年4月>		修士(都市政策)		人権と差別1 人権と差別2 教職実践演習(中・高) 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 4 4	1 1 1 2 2	—	—
82	兼任	講師	マツエ タクオ 松枝 拓生 <令和8年4月>		博士(教育学)		道徳の理論及び指導法	3・4前・後	8	4	(株)山嘉企画 取締役 (平成24年4月)	—
83	兼任	講師	イヌカイ マコト 犬飼 誠 <令和6年4月>		文学士		矯正概論 矯正保護教育(施設参観を含む)	1・2・3・4前 3・4後	2 2	1 1	奈良少年院法務教官 専門官 (令和3年4月)	—
84	兼任	講師	タカハシ ヒデキ 高橋 秀紀 <令和7年4月>		文学士		矯正保護支援実践論	※ 2・3・4後	0.8	1	—	—
85	兼任	講師	ナカムラ ヒロコ 中村 寛子 <令和6年4月>		学術修士 ※		更生保護概論	1・2・3・4前	2	1	—	—
86	兼任	講師	ホウジョウ マサタカ 北條 正崇 <令和7年4月>		学士(法学)		犯罪被害者支援論	2・3・4後	2	1	やすらぎ 法律事務所 (平成12年10月)	—
87	兼任	講師	ヤマモト ミチツグ 山本 道次 <令和7年4月>		体育学士		矯正保護支援実践論	※ 2・3・4後	1.2	1	社会福祉法人白梅学園 副園長・児童養護 施設長 (平成12年7月)	—
88	兼任	講師	サトウ トシエ 佐藤 敏江 <令和7年4月>		文学士		児童・YAサービス論	2・3・4前	4	2	—	—
89	兼任	講師	スズキ ヨウジ 鈴木 陽二 <令和6年4月>		文学修士(韓国)		韓国・朝鮮語1 韓国・朝鮮語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	天理大学 国際学部准教授 (令和4年3月まで)	—
90	兼任	講師	ヨシカワ マスヒコ 吉川 万寿彦 <令和6年4月>		文学修士		多文化理解と言語(韓国・朝鮮語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理教会本部 内統領室 次長 (令和3年10月)	—
91	兼任	講師	イヌイ タクヤ 乾 拓也 <令和6年4月>		修士(文学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—
92	兼任	講師	スズシマ アズサ 鈴脇 梓 <令和6年4月>		博士(英文学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—
93	兼任	講師	ヒオキ ナオコ 日沖 直子 <令和6年4月>		博士(宗教美術) (米国)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—
94	兼任	講師	ヤマシタ ダイスケ 山下 大輔 <令和6年4月>		修士(文学) ※		多文化理解と言語(ドイツ語)	1・2・3・4前・後	4	2	大阪大学大学院 医学研究科 特任研究員 (令和3年5月)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 選当たり平 均日数
95	兼任	講師	イシダ マサコ 石田 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化学) ※		英語 1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	3	3		
96	兼任	講師	オギノ アヤ 荻野 綾 <令和6年4月>		修士 (外国語 教育学)		英語 1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	2	2		
97	兼任	講師	カムラ マサコ 家村 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化 学)		教養アカデミック英語 1	1・2・3・4前・後	2	2	—	—
							教養アカデミック英語 2	1・2・3・4前・後	2	2		
							実践アカデミック英語 2	1・2・3・4前	1	1		
98	兼任	講師	コバヤシ カズヨ 小林 和代 <令和6年4月>		文学修士		中国語 1	1・2・3・4前	1	1	—	—
							中国語 2	1・2・3・4後	1	1		
99	兼任	講師	ゴトウ サヤコ 後藤 朗子 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		英語 1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	3	3		
100	兼任	講師	ナイトウ タカオ 内藤 貴夫 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		英語 1	1・2・3・4前	4	4	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	4	4		
101	兼任	講師	ノダ トモコ 野田 智子 <令和6年4月>		博士 (文学)		英語 1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	3	3		
102	兼任	講師	ヒキダ タカヤス 疋田 隆康 <令和6年4月>		博士 (文学)		英語 1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	2	2		
103	兼任	講師	ヤマカワ マサシ 山川 仁 <令和6年4月>		博士 (人間・ 環境学)		英語 1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	2	2		
104	兼任	講師	ヤマグチ ノリカズ 山口 徳一 <令和6年4月>		修士 (英文学) ※		英語 1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	2	2		
105	兼任	講師	ヤマムラ セイジ 山村 誠治 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語 1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	2	2		
106	兼任	講師	サカイ タカヒデ 坂井 隆秀 <令和6年4月>		体育学士		健康スポーツ科学 1	1・2・3・4前	8	4	—	—
							健康スポーツ科学 2	1・2・3・4後	8	4		
107	兼任	講師	ヤマダ サダコ 山田 貞子 <令和6年4月>		教育学修士		健康スポーツ科学 1	1・2・3・4前	4	2	—	—
							健康スポーツ科学 2	1・2・3・4後	4	2		
							レクリエーション スポーツ	2・3・4前	1	1		
							ニュースポーツ	2・3・4前	1	1		

別記様式第3号（その2の1）

教 員 の 氏 名 等													
(人文学部国文学国語学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称		配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
1	専	教授	キタガワ フキコ 北川 (吉井) 扶生子 <令和6年4月>		博士 (文学)		近代文学講読1		1・2前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成26年4月)	5日
							近代文学講読2		1・2後	2	1		
							近代文学特論1		2前	2	1		
							近代文学特論2		2後	2	1		
							近代文学史1		2・3前	2	1		
							近代文学史2		2・3後	2	1		
							国文学演習(近代)1		3前	2	1		
							国文学演習(近代)2		3後	2	1		
							文章表現1		3前	2	1		
							文章表現2		3後	2	1		
卒業論文演習		4前後	4	1									
2	専	教授	ハラ トヨジ 原 豊二 <令和6年4月>		博士 (文学)		国文学概論1		1前	2	1	天理大学 文学部教授 (令和2年4月)	5日
							国文学概論2		1後	2	1		
							中古文学講読1		1・2前	2	1		
							中古文学講読2		1・2後	2	1		
							中古文学特論1		2後	2	1		
							古典文学史1		2・3前	2	1		
							国文学演習(中古)1		3前	2	1		
							国文学演習(中古)2		3後	2	1		
							天理図書館資料論(上代・中古)	【隔年】	2・3前	2	1		
							大和の地域文化論(文学)		2・3・4前	2	1		
国語科指導法4		3後	2	1									
卒業論文演習		4前後	4	1									
3	専	教授 (学科主任)	ニシノ ユキ 西野 (齋藤) 由紀 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		国文学基礎演習		1前	4	2	天理大学 文学部教授 (平成24年4月)	5日
							近世文学講読1		1・2前	2	1		
							近世文学講読2		1・2後	2	1		
							近世文学特論1		2前	2	1		
							近世文学特論2		2後	2	1		
							古典文学史2		2・3後	2	1		
							国文学演習(近世)1		3前	2	1		
							国文学演習(近世)2		3後	2	1		
							天理図書館資料論(中世・近世)	【隔年】	2・3後	2	1		
							大和の地域文化論(文学)		2・3・4前	2	1		
卒業論文演習		4前後	4	1									
卒業論文		4休	6	1									
4	専	准教授	トリタニ ヨシフミ 鳥谷 善史 <令和6年4月>		修士 (言語文化学) ※		国語学基礎演習		1前	4	2	天理大学 文学部准教授 (令和5年4月)	5日
							国語学概論1		1前	2	1		
							国語学概論2		1後	2	1		
							国語学特論(言語実態)1		2前	2	1		
							国語学特論(言語実態)2		2後	2	1		
							国語学演習(言語実態)1		3前	2	1		
							国語学演習(言語実態)2		3後	2	1		
							大和の地域文化論(言語)		2・3・4後	2	1		
							国語科指導法1		3前	2	1		
							国語科指導法2		3後	2	1		
卒業論文演習		4前後	4	1									
5	専	講師	オオタニ アユミ 大谷 歩 <令和6年4月>		博士 (文学)		上代文学講読1		1・2前	2	1	天理大学 文学部講師 (令和4年4月)	5日
							上代文学講読2		1・2後	2	1		
							上代文学特論1		2前	2	1		
							上代文学特論2		2後	2	1		
							国文学演習(上代)1		3前	2	1		
							国文学演習(上代)2		3後	2	1		
							漢文学基礎演習		1後	4	2		
							漢文学特論1		2前	2	1		
							漢文学特論2		2後	2	1		
							卒業論文演習		4前後	4	1		
6	兼担	教授	オカダ マサヒコ 岡田 正彦 <令和6年4月>		Ph. D (米国)		天理教概説1		1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							天理教概説2		1・2・3・4後	2	1		
							建学の精神と天理大学のあゆみ		2前	2	1		
7	兼担	教授	ヒガシババ イクオ 東馬場 郁生 <令和6年4月>		Doctor of Philosophy (History of Religions) (米国)		天理教概説1		1・2・3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
							天理教概説2		1・2・3・4後	4	2		
							建学の精神と天理大学のあゆみ		2前	2	1		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
8	兼任	教授	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和6年4月>		文学修士 ※		博物館実習 1	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成11年4月)	5日
	兼任	講師	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和9年4月>				博物館実習 1	3前	2	1	天理大学 人文学部教授 (令和9年3月まで)	-
9	兼任	教授	ハタカマ カズヒロ 幡鎌 一弘 <令和6年4月>		修士 (文学)		宗教と芸能	1・2・3・4後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成8年4月)	5日
10	兼任	教授	オダギ ハルタロウ 小田木 治太郎 <令和6年4月>		文学修士		博物館実習 1	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成21年4月)	5日
11	兼任	教授	カナヤマ モトハル 金山 元春 <令和6年4月>		博士 (心理学)		生徒指導・進路指導の理 論及び方法	2・3・4前	4	2	天理大学 人文学部教授 (平成31年4月)	5日
12	兼任	教授 (学部長)	ヤマナカ ヒデオ 山中 秀夫 <令和6年4月>		博士 (学術)		情報資源組織論	3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							情報資源組織演習 1	3・4後	4	2		
							情報資源組織演習 2	3・4後	4	2		
							図書館情報学特論	4前	2	1		
13	兼任	教授	セキモト カツヨシ 関本 克良 <令和6年4月>		博士 (学術)		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (平成22年4月)	5日
							ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1		
							国際協力入門	1・2・3・4前	2	1		
							国際協力実習	1・2・3・4休	2	1		
							国際協力演習 1	1・2・3・4前	2	1		
							国際協力演習 2	1・2・3・4後	2	1		
							国際ボランティア論	2・3・4後	2	1		
							キャリアプランニング	1・2・3前・後	8	4		
							基礎からわかるレポート 作成	1・2・3・4前	2	1		
14	兼任	教授	ソヤマ ノリコ 曾山 典子 <令和6年4月>		博士 (理学)		データサイエンス・AI入 門	1前・後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	12	6		
							情報処理	2・3・4前・後	4	2		
15	兼任	教授	ウエダ ノブヒコ 上田 喜彦 <令和6年4月>		学士 (教育学)		天理大学特別講義 1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
							天理大学特別講義 2	1・2・3・4前	2	1		
							天理大学特別講義 3	1・2・3・4前	2	1		
							天理大学特別講義 4	1・2・3・4前	2	1		
							インターンシップ 1	1・2・3休	1	1		
							インターンシップ 2	1・2・3休	2	1		
							海外インターンシップ 1	2・3・4休	1	1		
							海外インターンシップ 2	2・3・4休	2	1		
							教職論	1前・後	10	5		
							教育課程論	3・4前・後	8	4		
							教育方法学(情報通信技 術を活用した教育の理論 及び方法を含む)	3前・後	4	2		
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1		
16	兼任	教授	タケムラ カゲキ 竹村 景生 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (令和3年4月)	5日
							ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1		
							生徒指導・進路指導の理 論及び方法	2・3・4後	4	2		
							教育実習講義	3後	2	2		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習(中・高)	4後	14	7		
							学校教育支援	2・3・4休	1	1		
							特別活動・総合的な学習 の時間の指導法	2・3・4前・後	8	4		
17	兼任	教授	ナカ アツシ 仲 淳 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		学校教育心理学	2・3・4前・後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成17年4月)	5日
							教育相談の理論及び方法	2・3・4前・後	8	4		
							教育実習講義	3後	1	1		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1		
							教育実習 1	4休	2	1		
							教育実習 2	4休	2	1		
							学校教育支援	2・3・4休	1	1		
18	兼任	教授	コガ タカシ 古賀 崇 <令和6年4月>		修士 (教育学) Master of Library Science (米国) ※		図書館情報システム論	2・3・4後	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成24年4月)	5日
							情報サービス論	3・4前	4	2		
							情報サービス演習 1	3・4後	4	2		
							情報サービス演習 2	3・4後	4	2		
							図書館情報資源概論	2・3・4前	4	2		
19	兼任	教授	ノゼウオン 魯ゼウオン <令和6年4月>		博士 (社会学)		図書館情報資源特論	3・4前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成19年4月)	-
							カルチュラルスタディ ーズ	1・2・3・4前・後	4	2		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
20	兼任	教授	ノヅ コウジ 野津 幸治 <令和6年4月>		M.A. (タイ)		多文化理解と言語 (タイ語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成4年4月)	—
21	兼任	教授	オクシマ ミカ 奥島 美夏 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		多文化理解と言語 (インドネシア語) キャリアデザイン2	1・2・3・4前・後 2・3・4後	4 2	2 1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	—
22	兼任	教授	モリ ヨウメイ 森 洋明 <令和6年4月>		言語学 (意味論) 修士 (フランス)		多文化理解と言語 (フランス語) 天理異文化伝道	1・2・3・4前・後 2・3・4前	4 2	2 1	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	—
23	兼任	教授	ノグチ シゲル 野口 茂 <令和6年4月>		Magister en Historia (ベネズエラ)		多文化理解と言語 (スペイン語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	—
24	兼任	教授	キタモリ エリ 北森 絵里 <令和6年4月>		修士 (地域研究)		多文化理解と言語 (ポルトガル語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成8年4月)	—
25	兼任	教授	オカダ タツキ 岡田 龍樹 <令和6年4月>		教育学修士 ※		日本事情1 日本事情2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理大学 人間学部教授 (平成3年4月)	—
26	兼任	教授	キクチ ノリユキ 菊池 律之 <令和6年4月>		修士 (言語学) ※		日本語学入門 日本語文法論1 日本語文法論2 日本語音声学 言語の対照研究 日本語指導法 日本語教育実習	1前 2前 2後 2後 3前 4前 4休	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	—
27	兼任	教授	マツナガ トシヤ 松永 稔也 <令和6年4月>		博士 (言語文化学)		多文化理解と言語 (日本語)	1・2・3・4前	2	1	宮崎大学 多言語多文化教育 研究センター 准教授 (令和3年4月)	—
28	兼任	教授	オクダ マキコ 奥田 真紀子 <令和6年4月>		修士 (学術) ※		保健医療の仕組みと健康づくり	1・2・3・4後	2	1	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	—
29	兼任	教授	マスタニ ヒロシ 増谷 弘 <令和6年4月>		博士 (医学)		基礎からわかる生物・化学	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	—
30	兼任	教授	ホリウチ ミドリ 堀内 みどり <令和6年4月>		哲学博士 (インド)		ジェンダー・セクシャリティ	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成元年4月)	—
31	兼任	教授	カネコ アキラ 金子 昭 <令和6年4月>		博士 (哲学)		哲学概論1 哲学概論2 倫理学1 倫理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 6 4	1 1 3 2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成3年4月)	—
32	兼任	准教授	サワイ ジロウ 澤井 治郎 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1 天理教概説2 建学の精神と天理大学のあゆみ 英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 2 1 1	1 1 1 1 1	天理大学 人間学部准教授 (平成26年4月)	5日
33	兼任	准教授	クロイワ ヤスヒロ 黒岩 康博 <令和6年4月>		博士 (文学)		基礎からわかる近代史	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 文学部准教授 (平成25年4月)	5日
34	兼任	准教授	ハコダ テツ 箱田 徹 <令和6年4月>		博士 (学術)		キャリアプランニング 基礎からわかる現代社会 社会学 哲学概論1 哲学概論2	1・2・3前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4 4 4 4	2 2 2 2 2	天理大学 人間学部准教授 (平成29年4月)	5日
35	兼任	准教授	オノ アキコ 小野 朗子 <令和6年4月>		博士 (理学)		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編 ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編 データサイエンス・AI入門 データサイエンス・AI応用 データリテラシー 数学と論理 統計学1 統計学2	1・2・3・4休 2・3・4休 1前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 8 4 4 4 2 2	1 1 4 2 2 2 1 1	天理大学 人間学部准教授 (令和5年4月)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 選当たり平 均日数
36 ①	兼担	講師	フクイ コウゾウ 福井 孝三 <令和6年4月>		修士 (言語教育 情報学)		日本語教育入門 日本語語彙論	1前 2後	2 2	1 1	天理大学 国際学部講師 (平成25年4月)	—
36 ②	兼担	准教授	キン シュ 金 珠 <令和8年4月>		博士 (日本語・ 日本文化)		日本語教育入門 日本語語彙論 日本語教授法1 日本語教授法2 第二言語習得論 日本語教育評価法	1前 2後 3前 3後 3前 4後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	大阪大学 日本語日本文化 教育研究センター 招聘研究員 (令和元年9月)	—
37	兼担	准教授	ナカムラ ヒサミ 中村 久美 <令和6年4月>		Ph. D in Anglo- Irish Literature and Drama (アイルランド)		英語1 英語2 多文化理解と言語(英 語) 世界の文学1 世界の文学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 4 4 4	1 1 2 2 2	天理大学 国際学部准教授 (平成25年4月)	—
38	兼担	准教授	ヨシダ チカ 吉田 智佳 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語1 英語2 実践アカデミック英語1 実践アカデミック英語2 アカデミック英語上級	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	1 1 2 1 2	1 1 2 1 2	天理大学 国際学部准教授 (平成16年4月)	—
39	兼担	准教授	カワカミ コウジ 川上 晃司 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学2 ニュースポーツ	1・2・3・4後 2・3・4前	2 1	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成31年4月)	—
40	兼担	准教授	ウメザキ サユリ 梅崎 さゆり <令和6年4月>		博士 (学術)		健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポー ツの役割	1・2・3・4前 1・2・3・4前	2 2	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成24年4月)	—
41	兼担	准教授	アナイ タカマサ 穴井 隆将 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポー ツの役割	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成26年4月)	—
42	兼担	准教授	ヨモギダ タカマサ 蓬田 高正 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2 アウトドアスポーツ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4休	4 2 1	2 1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成28年4月)	—
43	兼担	准教授	オバタ オサム 小畑 治 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学1 レクリエーションルス ポーツ	1・2・3・4前 2・3・4前	4 1	2 1	天理大学 体育学部准教授 (令和4年4月)	—
44	兼担	講師	フカヤ コウジ 深谷 耕治 <令和6年4月>		修士 (社会学) 修士 (宗教学) (米国)		天理教概説1 天理教概説2 建学の精神と天理大学の あゆみ 伝道実習1 伝道実習2 伝道実習3 伝道実習4	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2前 1・2・3・4休 1・2・3・4休 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	天理大学 人間学部講師 (令和2年4月)	5日
45	兼担	講師	サワイ マコト 澤井 真 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1 天理教概説2 建学の精神と天理大学の あゆみ 宗教と現代社会	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2前 1・2・3・4前・後	2 2 2 4	1 1 1 2	天理大学附属 おやさと研究所 講師 (平成31年4月)	5日
46	兼担	講師	スナガ サトシ 須永 哲思 <令和6年4月>		博士 (教育学)		教育原理 教育史 学校教育社会学 教育実習講義 介護等体験 教職実践演習(中・高) 学校教育支援 教育史特論 キャリアデザイン1	2・3・4前・後 2・3・4前 2・3・4前・後 3後 3休 4後 2・3・4休 2・3・4後 2・3・4前	8 2 8 2 1 2 1 2 2	4 1 1 1 1 1 1 1	天理大学 人間学部講師 (令和4年4月)	5日
47	兼担	講師	オゼキ コウヘイ 小関 康平 <令和6年4月>		博士 (法学)		日本国憲法 法学 行政法1 行政法2	1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	8 10 2 2	4 5 1 1	天理大学 人間学部講師 (令和5年4月)	5日
48	兼担	講師	マツキ ユウヤ 松木 優也 <令和6年4月>		修士 (体育学) ※		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	6 6	3 3	天理大学 体育学部講師 (令和4年4月)	—
49	兼担	助教	カネコ リュウダイ 金子 竜大 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	10 6	5 3	天理大学 体育学部助教 (令和5年4月)	—
50	兼任	講師	サイ ハイセイ 蔡 珮菁 <令和6年4月>		博士 (文学)		多文化理解と言語(中国 語)	1・2・3・4前・後	4	2	中国文化大学 日本語学科准教授 (平成23年8月)	—

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する適当たり平均日数
51	兼任	講師	ザベレヅナヤ オリガ Zaberezhnaia Olga <令和6年4月>		博士 (文化学) (ロシア)		多文化理解と言語(ロシア語)	1・2・3・4前・後	4	2	国立研究大学 高等経済学院 国際経済国際政治学 部東洋学部 上級講師 (令和2年4月)	-
52	兼任	講師	イマエダ キョウコ 今枝 杏子 <令和6年4月>		博士 (文学)		中世文学講読1 中世文学講読2 中世文学特論1 中世文学特論2	1・2前 1・2後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	-	-
53	兼任	講師	キム ソクチョル 金 石哲 <令和6年4月>		修士 (文学)		基礎ゼミナール1 中古文学特論1	1前 2前	2 2	1 1	-	-
54	兼任	講師	サノ シュウイチ 佐野 秀一 <令和8年4月>		文学士		国語科指導法3	3前	2	1	-	-
55	兼任	講師	ニッタマチ ヨシナオ 新田町 義尚 <令和7年4月>		修士 (文学)		国語学特論(言語運用)1 国語学特論(言語運用)2 国語学演習(言語運用)1 国語学演習(言語運用)2	2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	神戸学院大学 法学部准教授 (令和2年4月)	-
56	兼任	講師	ハマダ シュウ 浜田 秀 <令和6年4月>		文学修士 ※		基礎ゼミナール1 基礎ゼミナール2 国語学特論(言語構造)1 国語学特論(言語構造)2 国語史1 国語史2 国語学演習(言語構造)1 国語学演習(言語構造)2 実用国語表現 音声言語	1前 1後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 2・3前 2・3後	2 4 2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	天理大学 文学部教授 (令和5年3月まで)	-
57	兼任	講師	ヤマモト ケイイチ 山本 肇一 <令和7年4月>		学士 (国文学)		書道(書写を中心とする)	2前	1	1	-	-
58	兼任	講師	イノウエ ナルト 井上 成人 <令和6年4月>		文学士		天理教概説1 天理教概説2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成18年4月)	-
59	兼任	講師	イハシ ユキエ 伊橋 幸江 <令和7年4月>		文学士		天理教学1 天理教学2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成2年4月)	-
60	兼任	講師	ウエハラ ミチノブ 上原 道延 <令和7年4月>		教育学士		天理教学1 天理教学2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	-	-
61	兼任	講師	ウメダ マサユキ 梅田 正之 <令和7年4月>		文学士		天理教学1 天理教学2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	-	-
62	兼任	講師	カトウ マサト 加藤 匡人 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1 天理教概説2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教海外部 (平成30年4月)	-
63	兼任	講師	サワイ イチロウ 澤井 一郎 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		天理教概説1 天理教概説2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成25年4月)	-
64	兼任	講師	マツヤマ ツネノリ 松山 常教 <令和6年4月>		学士 (宗教学)		天理教概説1 天理教概説2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成19年4月)	-
65	兼任	講師	ヤスイ モトナオ 安井 幹直 <令和6年4月>		M.A (文学修士) (米国)		天理教概説1 天理教概説2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	6 6	3 3	天理教一広分教会 会長 (令和元年5月)	-
66	兼任	講師	アラタ メグミ 荒田 恵 <令和9年4月>		修士 (文学)		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成31年4月)	-
67	兼任	講師	イヌイ セイジ 靱 誠二 <令和9年4月>		文学士		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成10年4月)	-

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
68	兼任	講師	ナカオ ノリヒト 中尾 徳仁 <令和9年4月>		学士 (教育学)		博物館実習 2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成11年4月)	-
69	兼任	講師	イマジ シュウヘイ 今治 周平 <令和6年4月>		法務博士		民法 1 民法 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	やすらぎ法律 事務所 (令和元年5月)	-
70	兼任	講師	カド カツアキ 角 克明 <令和6年4月>		教育学修士 ※		地理学 1 地理学 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	-	-
71	兼任	講師	カトウ ヤスシ 加藤 康 <令和6年4月>		修士 (商学) ※		経営学 1 経営学 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	京都経済短期大学 経営情報学科 教授 (平成27年4月)	-
72	兼任	講師	カタオカ サチコ 片岡 佐知子 <令和6年4月>		博士 (理学)		科学と現代	1・2・3・4前・後	8	4	-	-
73	兼任	講師	サカテ セイジ 坂手 誠治 <令和6年4月>		博士 (学術)		生活の中の科学	1・2・3・4前・後	8	4	京都女子大学 家政学部教授 (令和2年4月)	-
74	兼任	講師	スズキ フミコ 鈴木 史子 <令和6年4月>		修士 (臨床心理学) ※		心理学 1 心理学 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	-	-
75	兼任	講師	タケムラ カズヤ 竹村 和也 <令和6年4月>		修士 (法学) ※		日本国憲法 法学	1・2・3・4後 1・2・3・4前	8 6	4 3	-	-
76	兼任	講師	トウイ ノブオ 東井 申雄 <令和6年4月>		修士 (人間科学)		心理学 1 心理学 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	天理教教会本部 (平成28年8月)	-
77	兼任	講師	ナガサワ カズエ 長沢 一恵 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		基礎からわかるレポート 作成 近現代の遺産と未来	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	8 8	4 4	-	-
78	兼任	講師	ナカムラ タカハル 中村 珍晴 <令和6年4月>		博士 (スポーツ 科学)		障害学	1・2・3・4前	2	1	合同会社エクス ビジョン代表 (令和3年3月)	-
79	兼任	講師	ニシ ナオミ 西 直美 <令和6年4月>		博士 (グローバル社 会研究)		基礎からわかるレポート 作成 政治学	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	2 4	1 2	同志社大学 法学部嘱託講師 (令和2年4月)	-
80	兼任	講師	フクシマ サロミ 福島 沢美 <令和6年4月>		学士 (教育学)		日本手話 A 日本手話 B	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	6 2	3 1	天理教教会本部 社会福祉課 (平成27年4月)	-
81	兼任	講師	フジイ ミノル 藤井 稔 <令和6年4月>		博士 (文学)		基礎からわかるレポート 作成	1・2・3・4後	2	1	-	-
82	兼任	講師	ミヤケ マサオ 三宅 正夫 <令和6年4月>		博士 (工学)		基礎からわかる数学	1・2・3・4前・後	4	2	-	-
83	兼任	講師	ヤギ ヒデジ 八木 英治 <令和6年4月>		修士 (教育学)		障害学	1・2・3・4後	2	1	奈良市子ども未来 部児童相談所設置 推進課 (令和3年4月)	-
84	兼任	講師	ヤスタ トモヒロ 安田 智博 <令和6年4月>		学士 (文学)		キャリアプランニング 労働と社会	1・2・3前 1・2・3・4前・後	2 6	1 3	-	-
85	兼任	講師	ヨシダ カズヒロ 吉田 和弘 <令和6年4月>		博士 (農学)		地球環境論	1・2・3・4前・後	8	4	国立大学法人 奈良国立機構 奈良女子大学 特任助教 (令和3年7月)	-
86	兼任	講師	ヨシモト エツコ 持元 江津子 <令和6年4月>		博士 (経済学)		コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	8	4	-	-
87	兼任	講師	ワタナベ ミツル 渡邊 碩 <令和6年4月>		修士 (経済学)		経済学 1 経済学 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	-	-



調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 選当たり平 均日数
88	兼任	講師	イケダ ハナコ 池田 華子 <令和7年4月>		博士 (教育学)		臨床教育学特論	2・3・4休	2	1	大阪公立大学 国際基幹教育機構 准教授 (令和4年4月)	—
89	兼任	講師	オクモト タケヒロ 奥本 武裕 <令和6年4月>		修士 (文学)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	—	—
90	兼任	講師	カナヤマ サキコ 金山 佐喜子 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		特別な支援の必要な生徒 の理解	1前・後	8	4	—	—
91	兼任	講師	キタグチ マナブ 北口 学 <令和6年4月>		学士 (芸術)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 4 4	1 1 2 2	(株)アジュール フィリア 代表取締役 (平成27年9月)	—
92	兼任	講師	コジマ ゲンイチロウ 小島 源一郎 <令和8年4月>		教育学士		教育方法学(情報通信技 術を活用した教育の理論 及び方法を含む)	3前・後	18	9	—	—
93	兼任	講師	トミタ ミノル 富田 稔 <令和6年4月>		修士 (都市政策)		人権と差別1 人権と差別2 教職実践演習(中・高) 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 4 4	1 1 1 2 2	—	—
94	兼任	講師	マツエ タクオ 松枝 拓生 <令和8年4月>		博士 (教育学)		道徳の理論及び指導法	3・4前・後	8	4	(株)山嘉企画 取締役 (平成24年4月)	—
95	兼任	講師	イヌカイ マコト 大飼 誠 <令和6年4月>		文学士		矯正概論 矯正保護教育(施設参観 を含む)	1・2・3・4前 3・4後	2 2	1 1	奈良少年院法務教 官専門官 (令和3年4月)	—
96	兼任	講師	タカハシ ヒデキ 高橋 秀紀 <令和7年4月>		文学士		矯正保護支援実践論 ※	2・3・4後	0.8	1	—	—
97	兼任	講師	ナカムラ ヒロコ 中村 寛子 <令和6年4月>		学術修士 ※		更生保護概論	1・2・3・4前	2	1	—	—
98	兼任	講師	ホウジョウ マサタカ 北條 正崇 <令和7年4月>		学士 (法学)		犯罪被害者支援論	2・3・4後	2	1	やすらぎ 法律事務所 (平成12年10月)	—
99	兼任	講師	ヤマモト ミチツグ 山本 道次 <令和7年4月>		体育学士		矯正保護支援実践論 ※	2・3・4後	1.2	1	社会福祉法人白梅学 園副園長・児童養護 施設長 (平成12年7月)	—
100	兼任	講師	サトウ トシエ 佐藤 敏江 <令和7年4月>		文学士		児童・YAサービス論	2・3・4前	4	2	—	—
101	兼任	講師	スズキ ヨウジ 鈴木 陽二 <令和6年4月>		文学修士 (韓国)		韓国・朝鮮語1 韓国・朝鮮語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	天理大学 国際学部准教授 (令和4年3月ま で)	—
102	兼任	講師	ヨシカワ マスヒコ 吉川 万寿彦 <令和6年4月>		文学修士		多文化理解と言語(韓 国・朝鮮語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理教会本部 内統領室 次長 (令和3年10月)	—
103	兼任	講師	イヌイ タクヤ 靱 拓也 <令和6年4月>		修士 (文学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—
104	兼任	講師	スズシマ アズサ 鈴脇 梓 <令和6年4月>		博士 (英文学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—
105	兼任	講師	ヒオキ ナオコ 日沖 直子 <令和6年4月>		博士 (宗教美術) (米国)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—
106	兼任	講師	ヤマシタ ダイスケ 山下 大輔 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		多文化理解と言語(ドイ ツ語)	1・2・3・4前・後	4	2	大阪大学大学院 医学研究科 特任研究員 (令和3年5月)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
107	兼任	講師	イシダ マサコ 石田 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化学) ※		英語 1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	3	3		
108	兼任	講師	オギノ アヤ 荻野 綾 <令和6年4月>		修士 (外国語 教育学)		英語 1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	2	2		
109	兼任	講師	カムラ マサコ 家村 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化学)		教養アカデミック英語 1	1・2・3・4前・後	2	2	—	—
							教養アカデミック英語 2	1・2・3・4前・後	2	2		
							実践アカデミック英語 2	1・2・3・4前	1	1		
110	兼任	講師	コバヤシ カズヨ 小林 和代 <令和6年4月>		文学修士		中国語 1	1・2・3・4前	1	1	—	—
							中国語 2	1・2・3・4後	1	1		
111	兼任	講師	ゴトウ サヤコ 後藤 朗子 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		英語 1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	3	3		
112	兼任	講師	ナイトウ タカオ 内藤 貴夫 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		英語 1	1・2・3・4前	4	4	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	4	4		
113	兼任	講師	ノダ トモコ 野田 智子 <令和6年4月>		博士 (文学)		英語 1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	3	3		
114	兼任	講師	ヒキダ タカヤス 正田 隆康 <令和6年4月>		博士 (文学)		英語 1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	2	2		
115	兼任	講師	ヤマカワ マサシ 山川 仁 <令和6年4月>		博士 (人間・ 環境学)		英語 1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	2	2		
116	兼任	講師	ヤマグチ ノリカズ 山口 徳一 <令和6年4月>		修士 (英文学) ※		英語 1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	2	2		
117	兼任	講師	ヤマムラ セイジ 山村 誠治 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語 1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語 2	1・2・3・4後	2	2		
118	兼任	講師	サカイ タカヒデ 坂井 隆秀 <令和6年4月>		体育学士		健康スポーツ科学 1	1・2・3・4前	8	4	—	—
							健康スポーツ科学 2	1・2・3・4後	8	4		
119	兼任	講師	ヤマダ サダコ 山田 貞子 <令和6年4月>		教育学修士		健康スポーツ科学 1	1・2・3・4前	4	2	—	—
							健康スポーツ科学 2	1・2・3・4後	4	2		
							レクリエーション スポーツ	2・3・4前	1	1		
							ニュースポーツ	2・3・4前	1	1		

別記様式第3号（その2の1）

教 員 の 氏 名 等														
(人文学部歴史文化学科)														
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称		配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数	
1	専	教授	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和6年4月>		文学修士 ※		博物館学概論	2・3後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成11年4月)	5日		
	兼任	講師	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和9年4月>				博物館学概論	2・3後	2	1				
							博物館経営総論	2・3後	2	1				
							民俗学研究入門1	2前	2	1				
							宗教民俗学	2・3前	2	1				
							民俗資料論	2・3後	2	1				
							民俗学実習1	2・3前	1	1				
							民俗学実習2	2・3後	1	1				
							民俗学実習3	2・3休	1	1				
							民俗学実習4	3休	1	1				
							歴史民俗学演習1	【隔年】3・4前	2	1				
							歴史民俗学演習2	【隔年】3・4後	2	1				
							博物館実習1	3前	2	1				
							博物館学概論	2・3後	2	1	天理大学 人文学部教授 (令和9年3月まで)	-		
							博物館経営総論	2・3後	2	1				
							民俗学研究入門1	2前	2	1				
							宗教民俗学	2・3前	2	1				
							民俗資料論	2・3後	2	1				
							民俗学実習1	2・3前	1	1				
							民俗学実習2	2・3後	1	1				
							民俗学実習3	2・3休	1	1				
							民俗学実習4	3休	1	1				
							歴史民俗学演習3	【隔年】3・4前	2	1				
							歴史民俗学演習4	【隔年】3・4後	2	1				
							博物館実習1	3前	2	1				
2	専	教授	ハタカマ カズヒロ 幡鎌 一弘 <令和6年4月>		修士 (文学)		基礎ゼミナール1	1前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成8年4月)	5日		
									基礎ゼミナール2	1後			2	1
									宗教と芸能	1・2・3・4後			2	1
									くずし字入門	1後			2	1
									日本近世史の研究	2・3後			2	1
									日本近世史料の講読1	2・3前			2	1
									日本近世史料の講読2	2・3後			2	1
									歴史学史料実習3	3前			1	1
									歴史学史料実習4	3後			1	1
									日本近世史演習1	【隔年】3・4前			2	1
									日本近世史演習2	【隔年】3・4後			2	1
									日本近世史演習3	【隔年】3・4前			2	1
									日本近世史演習4	【隔年】3・4後			2	1
										基礎ゼミナール2			1後	2
3	専	教授	クワバラ ヒサオ 桑原 久男 <令和6年4月>		文学修士 ※		考古学概論	1前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成3年4月)	5日		
									日本考古学要説	1後			2	1
									文化財行政学	2・3前			2	1
									大和の文化遺産を学ぶ3	2・3後			2	1
									考古学研究入門1	2前			2	1
									弥生時代の考古学	2・3前			2	1
									遺跡の保存と活用	3・4後			2	1
									考古学実習2	2・3後			1	1
									考古学実習3	2・3休			1	1
									考古学実習4	3休			1	1
									先史考古学演習1	【隔年】3・4前			2	1
									先史考古学演習2	【隔年】3・4後			2	1
									先史考古学演習3	【隔年】3・4前			2	1
									先史考古学演習4	【隔年】3・4後			2	1
4	専	教授	オダギ ハルタロウ 小田木 治太郎 <令和6年4月>		文学修士		歴史文化基礎演習	1後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成21年4月)	5日		
									博物館展示論	3・4後			2	1
									博物館資料論	3・4前			2	1
									考古学研究入門2	2後			2	1
									古墳時代の考古学	2・3後			2	1
									東アジア考古学	2・3前			2	1
									考古学実習1	2・3前			1	1
									考古学実習3	2・3休			1	1
									原史考古学演習1	【隔年】3・4前			2	1
									原史考古学演習2	【隔年】3・4後			2	1
									原史考古学演習3	【隔年】3・4前			2	1
									原史考古学演習4	【隔年】3・4後			2	1
									博物館実習1	3前			2	1

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
5	専	教授 (学科 主任)	ハシモト ヒデマサ 橋本 英将 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		文化財科学・保存科学	2・3後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成26年4月)	5日
							博物館情報・メディア論	2・3後	2	1		
							博物館資料保存論	3・4前	2	1		
							英語文献講読1	3前	2	1		
							英語文献講読2	3後	2	1		
							卒業論文	4休	6	1		
							飛鳥・奈良時代の考古学	2・3前	2	1		
							西アジア考古学	2・3後	2	1		
							考古資料の情報化	3・4前	2	1		
							考古学実習1	2・3前	1	1		
							考古学実習2	2・3後	1	1		
							考古学実習3	2・3休	1	1		
							歴史考古学演習1	【隔年】3・4前	2	1		
							歴史考古学演習2	【隔年】3・4後	2	1		
歴史考古学演習3	【隔年】3・4前	2	1									
歴史考古学演習4	【隔年】3・4後	2	1									
6	専	教授	アマノ タグユキ 天野 忠幸 <令和6年4月>		博士 (文学)		歴史学概論	1前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成28年4月)	5日
							日本史要説	1後	2	1		
							大和の文化遺産を学ぶ1	2・3前	2	1		
							歴史学研究入門2	2後	2	1		
							日本中世史の研究	2・3前	2	1		
							古文書学	2・3後	2	1		
							日本中世史料の講読1	2・3前	2	1		
							日本中世史料の講読2	2・3後	2	1		
							歴史学史料実習1	2前	1	1		
							歴史学史料実習3	3前	1	1		
							歴史学史料実習4	3後	1	1		
							日本古代中世史演習1	【隔年】3・4前	2	1		
							日本古代中世史演習2	【隔年】3・4後	2	1		
							日本古代中世史演習3	【隔年】3・4前	2	1		
日本古代中世史演習4	【隔年】3・4後	2	1									
7	専	准教授	クロイワ ヤスヒロ 黒岩 康博 <令和6年4月>		博士 (文学)		基礎からわかる近代史	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 文学部准教授 (平成25年4月)	5日
							歴史文化基礎演習	1後	2	1		
							歴史学研究入門1	2前	2	1		
							日本近代史の研究	2・3前	2	1		
							日本近代史料の講読1	2・3前	2	1		
							日本近代史料の講読2	2・3後	2	1		
							歴史学史料実習2	2後	1	1		
							歴史学史料実習3	3前	1	1		
							歴史学史料実習4	3後	1	1		
							日本近代史演習1	【隔年】3・4前	2	1		
							日本近代史演習2	【隔年】3・4後	2	1		
							日本近代史演習3	【隔年】3・4前	2	1		
							日本近代史演習4	【隔年】3・4後	2	1		
							8	専	講師	マツオカ カオル 松岡 薫 <令和6年4月>		
民俗学概論	1前	2	1									
歴史文化基礎演習	1後	2	1									
日本民俗学要説	1後	2	1									
民俗学研究入門2	2後	2	1									
民俗学と現代社会	2・3前	2	1									
フィールドワークからみる民俗文化	2・3前	2	1									
民俗学実習1	2・3前	1	1									
民俗学実習2	2・3後	1	1									
民俗学実習3	2・3休	1	1									
現代民俗学演習1	【隔年】3・4前	2	1									
現代民俗学演習2	【隔年】3・4後	2	1									
現代民俗学演習3	【隔年】3・4前	2	1									
現代民俗学演習4	【隔年】3・4後	2	1									
9	兼担	教授	オカダ マサヒロ 岡田 正彦 <令和6年4月>		Ph.D (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		
10	兼担	教授	ヒガシババ イクオ 東馬場 郁生 <令和6年4月>		Doctor of Philosophy (History of Religions) (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
							天理教概説2	1・2・3・4後	4	2		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		
11	兼担	教授	カナヤマ モトハル 金山 元春 <令和6年4月>		博士 (心理学)		生徒指導・進路指導の理 論及び方法	2・3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成31年4月)	5日
12	兼担	教授 (学部 長)	ヤマナカ ヒデオ 山中 秀夫 <令和6年4月>		博士 (学術)		情報資源組織論	3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							情報資源組織演習1	3・4後	4	2		
							情報資源組織演習2	3・4後	4	2		
							図書館情報学特論	4前	2	1		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 適当なり平 均日数
13	兼担	教授	セキモト カツヨシ 関本 克良 <令和6年4月>		博士 (学術)		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (平成22年4月)	5日
							ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1		
							国際協力入門	1・2・3・4前	2	1		
							国際協力実習	1・2・3・4休	2	1		
							国際協力演習1	1・2・3・4前	2	1		
							国際協力演習2	1・2・3・4後	2	1		
							国際ボランティア論	2・3・4後	2	1		
							キャリアアプランニング 基礎からわかるレポート 作成	1・2・3前・後	8	4		
14	兼担	教授	ソヤマ ノリコ 曾山 典子 <令和6年4月>		博士 (理学)		データサイエンス・AI入 門	1前・後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	12	6		
							情報処理	2・3・4前・後	4	2		
15	兼担	教授	ウエダ ノブヒコ 上田 喜彦 <令和6年4月>		学士 (教育学)		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
							天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2	1		
							天理大学特別講義3	1・2・3・4前	2	1		
							天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2	1		
							インターンシップ1	1・2・3休	1	1		
							インターンシップ2	1・2・3休	2	1		
							海外インターンシップ1	2・3・4休	1	1		
							海外インターンシップ2	2・3・4休	2	1		
							教職論	1前・後	10	5		
							教育課程論	3・4前・後	8	4		
							教育方法学(情報通信技 術を活用した教育の理論 及び方法を含まず)	3前・後	4	2		
教職実践演習(中・高)	4後	2	1									
16	兼担	教授	タケムラ カゲキ 竹村 景生 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (令和3年4月)	5日
							ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1		
							生徒指導・進路指導の理 論及び方法	2・3・4後	4	2		
							教育実習講義	3後	2	2		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習(中・高)	4後	14	7		
							学校教育支援	2・3・4休	1	1		
							特別活動・総合的な学習 の時間の指導法	2・3・4前・後	8	4		
							学校教育心理学	2・3・4前・後	8	4		
							教育相談の理論及び方法	2・3・4前・後	8	4		
17	兼担	教授	ナカ アツシ 仲 淳 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		教育実習講義	3後	1	1	天理大学 人間学部教授 (平成17年4月)	5日
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1		
							教育実習1	4休	2	1		
							教育実習2	4休	2	1		
							学校教育支援	2・3・4休	1	1		
							図書館情報システム論	2・3・4後	4	2		
							情報サービス論	3・4前	4	2		
18	兼担	教授	コガ タカシ 古賀 崇 <令和6年4月>		修士 (教育学) Master of Library Science (米国) ※		情報サービス演習1	3・4後	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成24年4月)	5日
							情報サービス演習2	3・4後	4	2		
							図書館情報資源概論	2・3・4前	4	2		
							図書館情報資源特論	3・4前	2	1		
							カルチュラルスタディー ズ	1・2・3・4前・後	4	2		
							多文化理解と言語(タイ 語)	1・2・3・4前・後	4	2		
19	兼担	教授	ノゼウオン 魯ゼウオン <令和6年4月>		博士 (社会学)					天理大学 国際学部教授 (平成19年4月)	-	
20	兼担	教授	ノゾ コウジ 野津 幸治 <令和6年4月>		M.A. (タイ)					天理大学 国際学部教授 (平成4年4月)	-	
21	兼担	教授	オクシマ ミカ 奥島 美夏 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		多文化理解と言語(イン ドネシア語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	-
							キャリアデザイン2	2・3・4後	2	1		
22	兼担	教授	モリ ヨウメイ 森 洋明 <令和6年4月>		言語学 (意味論) 修士 (フランス)		多文化理解と言語(フラ ンス語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	-
							天理異文化伝道	2・3・4前	2	1		
23	兼担	教授	ノグチ シゲル 野口 茂 <令和6年4月>		Magister en Historia (ベネズエラ)		多文化理解と言語(スペ イン語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	-
24	兼担	教授	キタモリ エリ 北森 絵里 <令和6年4月>		修士 (地域研究)		多文化理解と言語(ポ ルトガル語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成8年4月)	-

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 選当たり平 均日数
25	兼担	教授	タニイ ヨウコ 谷井 陽子 <令和6年4月>		博士 (文学)		東洋史要説 文化交流史の研究1 東アジア史の研究	1後 2・3前 2・3後	2 2 2	1 1 1	天理大学 文学部教授 (平成11年4月)	—
26	兼担	教授	オカダ タツキ 岡田 龍樹 <令和6年4月>		教育学修士 ※		日本事情1 日本事情2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理大学 人間学部教授 (平成3年4月)	—
27	兼担	教授	キクチ ノリユキ 菊池 律之 <令和6年4月>		修士 (言語学) ※		日本語学入門 日本語文法論1 日本語文法論2 日本語音声学 言語の対照研究 日本語指導法 日本語教育実習	1前 2前 2後 2後 3前 4前 4休	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	—
28	兼担	教授	マツナガ トシヤ 松永 稔也 <令和6年4月>		博士 (言語文化学)		多文化理解と言語(日本語)	1・2・3・4前	2	1	官崎大学 多言語多文化教育 研究センター 准教授 (令和3年4月)	—
29	兼担	教授	オクダ マキコ 奥田 真紀子 <令和6年4月>		修士 (学術) ※		保健医療の仕組みと健康 づくり	1・2・3・4後	2	1	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	—
30	兼担	教授	マスタニ ヒロシ 増谷 弘 <令和6年4月>		博士 (医学)		基礎からわかる生物・化 学	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	—
31	兼担	教授	ホリウチ ミドリ 堀内 みどり <令和6年4月>		哲学博士 (インド)		ジェンダー・セクシャリ ティ	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成元年4月)	—
32	兼担	教授	カネコ アキラ 金子 昭 <令和6年4月>		博士 (哲学)		哲学概論1 哲学概論2 倫理学1 倫理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 6 4	1 1 3 2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成3年4月)	—
33	兼担	准教授	サワイ ジロウ 澤井 治郎 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1 天理教概説2 建学の精神と天理大学の あゆみ 英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 2 1 1	1 1 1 1 1	天理大学 人間学部准教授 (平成26年4月)	5日
34	兼担	准教授	ハコダ テツ 箱田 徹 <令和6年4月>		博士 (学術)		キャリアアプランニング 基礎からわかる現代社会 社会学 哲学概論1 哲学概論2	1・2・3前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4 4 4 4	2 2 2 2 2	天理大学 人間学部准教授 (平成29年4月)	5日
35	兼担	准教授	オノ アキコ 小野 朗子 <令和6年4月>		博士 (理学)		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編 ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編 データサイエンス・AI入 門 データサイエンス・AI応 用 データリテラシー 数学と論理 統計学1 統計学2	1・2・3・4休 2・3・4休 1前・後 2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 8 4 4 4 2 2	1 1 4 2 2 1 1	天理大学 人間学部准教授 (令和5年4月)	5日
36 ①	兼担	講師	フクイ コソウ 福井 孝三 <令和6年4月>		修士 (言語教育 情報学)		日本語教育入門 日本語語彙論	1前 2後	2 2	1 1	天理大学 国際学部講師 (平成25年4月)	—
36 ②	兼担	准教授	キン シュ 金 珠 <令和8年4月>		博士 (日本語・ 日本文化)		日本語教育入門 日本語語彙論 日本語教授法1 日本語教授法2 第二言語習得論 日本語教育評価法	1前 2後 3前 3後 3前 4後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	大阪大学 日本語日本文化 教育研究センター 招聘研究員 (令和元年9月)	—
37	兼担	准教授	ナカムラ ヒサミ 中村 久美 <令和6年4月>		Ph.D in Anglo- Irish Literature and Drama (アイルランド)		英語1 英語2 多文化理解と言語(英 語) 世界の文学1 世界の文学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 4 4 4	1 1 2 2 2	天理大学 国際学部准教授 (平成25年4月)	—
38	兼担	准教授	ヨシダ チカ 吉田 智佳 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語1 英語2 実践アカデミック英語1 実践アカデミック英語2 アカデミック英語上級	1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	1 1 2 1 2	1 1 2 1 2	天理大学 国際学部准教授 (平成16年4月)	—
39	兼担	准教授	カワカミ コウジ 川上 晃司 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学2 ニュースポーツ	1・2・3・4後 2・3・4前	2 1	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成31年4月)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 選当たり平 均日数
40	兼任	准教授	ウメザキ サユリ 梅崎 さゆり <令和6年4月>		博士 (学術)		健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポー ツの役割	1・2・3・4前 1・2・3・4前	2 2	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成24年4月)	—
41	兼任	准教授	アナイ タカマサ 穴井 隆将 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポー ツの役割	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成26年4月)	—
42	兼任	准教授	ヨモギダ タカマサ 蓬田 高正 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2 アウトドアスポーツ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4休	4 2 1	2 1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成28年4月)	—
43	兼任	准教授	オバタ オサム 小畑 治 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学1 レクリエーションナルス ポーツ	1・2・3・4前 2・3・4前	4 1	2 1	天理大学 体育学部准教授 (令和4年4月)	—
44	兼任	講師	フカヤ コウジ 深谷 耕治 <令和6年4月>		修士 (社会学) 修士 (宗教学) (米国)		天理教概説1 天理教概説2 建学の精神と天理大学の あゆみ 伝道実習1 伝道実習2 伝道実習3 伝道実習4	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2前 1・2・3・4休 1・2・3・4休 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	天理大学 人間学部講師 (令和2年4月)	5日
45	兼任	講師	サワイ マコト 澤井 真 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1 天理教概説2 建学の精神と天理大学の あゆみ 宗教と現代社会	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2前 1・2・3・4前・後	2 2 2 4	1 1 1 2	天理大学附属 おやさと研究所 講師 (平成31年4月)	5日
46	兼任	講師	スナガ サトシ 須永 哲思 <令和6年4月>		博士 (教育学)		教育原理 教育史 学校教育社会学 教育実習講義 介護等体験 教職実践演習(中・高) 学校教育支援 教育史特論 キャリアデザイン1	2・3・4前・後 2・3・4前 2・3・4前・後 3後 3休 4後 2・3・4休 2・3・4後 2・3・4前	8 2 8 2 1 2 1 2	4 1 4 2 1 1 1 1	天理大学 人間学部講師 (令和4年4月)	5日
47	兼任	講師	オゼキ コウヘイ 小関 康平 <令和6年4月>		博士 (法学)		キャリアデザイン1 日本国憲法 法学 行政法1 行政法2	2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 8 10 2 2	1 4 5 1 1	天理大学 人間学部講師 (令和5年4月)	5日
48	兼任	講師	マツキ ユウヤ 松木 優也 <令和6年4月>		修士 (体育学) ※		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	6 6	3 3	天理大学 体育学部講師 (令和4年4月)	—
49	兼任	助教	カネコ リュウダイ 金子 竜大 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	10 6	5 3	天理大学 体育学部 助教 (令和5年4月)	—
50	兼任	講師	サイ ハイセイ 蔡 珮菁 <令和6年4月>		博士 (文学)		多文化理解と言語(中国 語)	1・2・3・4前・後	4	2	中国文化大学 日本語学科准教授 (平成23年8月)	—
51	兼任	講師	ザベレジナヤ オリガ Zaberezhnaia Olga <令和6年4月>		博士 (文化学) (ロシア)		多文化理解と言語(ロシ ア語)	1・2・3・4前・後	4	2	国立研究大学 高等経済学院 国際経済国際政治学 部東洋学部 上級講師 (令和2年4月)	—
52	兼任	講師	アラタ メグミ 荒田 恵 <令和9年4月>		修士 (文学)		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成31年4月)	—
53	兼任	講師	イヌイ セイジ 乾 誠二 <令和9年4月>		文学士		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成10年4月)	—
54	兼任	講師	イワミヤ タカシ 岩宮 隆司 <令和7年4月>		博士 (文学)		大和の文化遺産を学ぶ2 日本古代史の研究 日本古代史料の講読1 日本古代史料の講読2	2・3後 2・3前 2・3前 2・3後	2 2 2 2	1 1 1 1	—	—
55	兼任	講師	ウエマツ トシハル 植松 利晴 <令和8年4月>		文学士		社会科指導法1 社会科指導法2 社会・地理歴史科指導法 1 社会・地理歴史科指導法 2	3前 3前 3後 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	—	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
56	兼任	講師	ウミハラ ヤスコ 海原 靖子 <令和6年4月>		学士 (日本美術史)		美術史	1・2前	2	1	(公財)白鶴美術 館主任学芸員 (平成24年1月)	—
57	兼任	講師	ウメタニ アキノリ 梅谷 昭範 <令和7年4月>		修士 (学術)		博物館教育論	2・3前	2	1	天理大学附属 天理参考館 嘱託 (平成16年4月)	—
58	兼任	講師	オオタニ マコト 大谷 誠 <令和6年4月>		博士 (文化史学)		西洋史要説	1後	2	1	同志社大学文学部 嘱託講師 (平成20年4月)	—
59	兼任	講師	オオヒラ ヨウイチ 大平 陽一 <令和7年4月>		文学修士		文化交流史の研究2	2・3後	2	1	天理大学 国際学部教授 (令和6年3月まで)	—
60	兼任	講師	キシダ トオル 岸田 徹 <令和7年4月>		博士 (理学)		遺跡探査学	2・3後	2	1	同志社大学文化遺 産科学調査研究セ ンター嘱託研究員 (平成19年11月)	—
61	兼任	講師	サトウ アセイ 佐藤 亜聖 <令和7年4月>		博士 (文学)		中近世の考古学	2・3前	2	1	滋賀県立大学 人間文化学部教授 (令和3年4月)	—
62	兼任	講師	チバ ユタカ 千葉 豊 <令和7年4月>		修士 (文学) ※		旧石器・縄文時代の考古 学	2・3後	2	1	京都大学大学院 文学研究科附属文化 遺産学・人文知連携 センター准教授 (平成31年4月)	—
63	兼任	講師	ナカオ ノリヒト 中尾 徳仁 <令和9年4月>		学士 (教育学)		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成11年4月)	—
64	兼任	講師	ネダ カツヒコ 根田 克彦 <令和6年4月>		博士 (理学)		人文地理学概論 地誌	1・2前 1・2前	2 2	1 1	奈良教育大学 教育学部教授 (平成15年4月)	—
65	兼任	講師	ハタカマ マリ 幡鎌 真理 <令和7年4月>		文学士		生活文化史	2・3前	2	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成2年4月)	—
66	兼任	講師	フジイ トモヤス 藤井 智康 <令和6年4月>		博士 (理学)		自然地理学概論	1・2前	2	1	国立大学法人奈良国 立大学機構 奈良教育大学副学長 (令和4年4月)	—
67	兼任	講師	ミウラ シュンスケ 三浦 俊介 <令和7年4月>		博士 (文学)		民話と伝承	2・3後	2	1	—	—
68	兼任	講師	イノウエ ナルト 井上 成人 <令和6年4月>		文学士		天理教概説1 天理教概説2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成18年4月)	—
69	兼任	講師	イハシ ユキエ 伊橋 幸江 <令和7年4月>		文学士		天理教学1 天理教学2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成2年4月)	—
70	兼任	講師	ウエハラ ミチノブ 上原 道延 <令和7年4月>		教育学士		天理教学1 天理教学2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	—	—
71	兼任	講師	ウメダ マサユキ 梅田 正之 <令和7年4月>		文学士		天理教学1 天理教学2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	—	—
72	兼任	講師	カトウ マサト 加藤 匡人 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1 天理教概説2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教海外部 (平成30年4月)	—
73	兼任	講師	サワイ イチロウ 澤井 一郎 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		天理教概説1 天理教概説2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成25年4月)	—
74	兼任	講師	マツヤマ ツネノリ 松山 常教 <令和6年4月>		学士 (宗教学)		天理教概説1 天理教概説2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成19年4月)	—
75	兼任	講師	ヤスイ モトナオ 安井 幹直 <令和6年4月>		M. A (文学修士) (米国)		天理教概説1 天理教概説2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	6 6	3 3	天理教一広分教会 会長 (令和元年5月)	—
76	兼任	講師	イマジ シュウヘイ 今治 周平 <令和6年4月>		法務博士		民法1 民法2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	やすらぎ法律 事務所 (令和元年5月)	—



調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する適当たり平均日数
77	兼任	講師	カド カツアキ 角 克明 <令和6年4月>		教育学修士 ※		地理学1 地理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—
78	兼任	講師	カトウ ヤスシ 加藤 康 <令和6年4月>		修士(商学) ※		経営学1 経営学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	京都経済短期大学 経営情報学科 教授 (平成27年4月)	—
79	兼任	講師	カタオカ サチコ 片岡 佐知子 <令和6年4月>		博士(理学)		科学と現代	1・2・3・4前・後	8	4	—	—
80	兼任	講師	サカテ セイジ 坂手 誠治 <令和6年4月>		博士(学術)		生活の中の科学	1・2・3・4前・後	8	4	京都女子大学 家政学部教授 (令和2年4月)	—
81	兼任	講師	スズキ フミコ 鈴木 史子 <令和6年4月>		修士(臨床心理学) ※		心理学1 心理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—
82	兼任	講師	タケムラ カズヤ 竹村 和也 <令和6年4月>		修士(法学) ※		日本国憲法 法学	1・2・3・4後 1・2・3・4前	8 6	4 3	—	—
83	兼任	講師	トウイ ノブオ 東井 申雄 <令和6年4月>		修士(人間科学)		心理学1 心理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	天理教教会本部 (平成28年8月)	—
84	兼任	講師	ナガサワ カズエ 長沢 一恵 <令和6年4月>		修士(文学) ※		基礎からわかるレポート 作成 近現代の遺産と未来	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	8 8	4 4	—	—
85	兼任	講師	ナカムラ タカハル 中村 珍晴 <令和6年4月>		博士(スポーツ科学)		障害学	1・2・3・4前	2	1	合同会社エクスピ ジョン代表 (令和3年3月)	—
86	兼任	講師	ニシ ナオミ 西 直美 <令和6年4月>		博士(グローバル社会研究)		基礎からわかるレポート 作成 政治学	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	2 4	1 2	同志社大学 法学部嘱託講師 (令和2年4月)	—
87	兼任	講師	フクシマ サワミ 福島 沢美 <令和6年4月>		学士(教育学)		日本手話A 日本手話B	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	6 2	3 1	天理教教会本部 社会福祉課 (平成27年4月)	—
88	兼任	講師	フジイ ミノル 藤井 稔 <令和6年4月>		博士(文学)		基礎からわかるレポート 作成	1・2・3・4後	2	1	—	—
89	兼任	講師	ミヤケ マサオ 三宅 正夫 <令和6年4月>		博士(工学)		基礎からわかる数学	1・2・3・4前・後	4	2	—	—
90	兼任	講師	ヤギ ヒデジ 八木 英治 <令和6年4月>		修士(教育学)		障害学	1・2・3・4後	2	1	奈良市子ども未来 部児童相談所設置 推進課 (令和3年4月)	—
91	兼任	講師	ヤスタ トモヒロ 安田 智博 <令和6年4月>		学士(文学)		キャリアプランニング 労働と社会	1・2・3前 1・2・3・4前・後	2 6	1 3	—	—
92	兼任	講師	ヨシダ カズヒロ 吉田 和弘 <令和6年4月>		博士(農学)		地球環境論	1・2・3・4前・後	8	4	国立大学法人 奈良国立機構 奈良女子大学 特任助教 (令和3年7月)	—
93	兼任	講師	ヨシモト エツコ 持元 江津子 <令和6年4月>		博士(経済学)		コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	8	4	—	—
94	兼任	講師	ワタナベ ミツル 渡邊 碩 <令和6年4月>		修士(経済学)		経済学1 経済学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—
95	兼任	講師	イケダ ハナコ 池田 華子 <令和7年4月>		博士(教育学)		臨床教育学特論	2・3・4休	2	1	大阪公立大学 国際基幹教育機構 准教授 (令和4年4月)	—
96	兼任	講師	オクモト タケヒロ 奥本 武裕 <令和6年4月>		修士(文学)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	—	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数	
97	兼任	講師	カナヤマ サキコ 金山 佐喜子 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		特別な支援の必要な生徒 の理解	1前・後	8	4	—	—	
98	兼任	講師	キタグチ マナブ 北口 学 <令和6年4月>		学士 (芸術)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 4 4	1 1 2 2	(株)アジール フィリア 代表取締役 (平成27年9月)	—	
99	兼任	講師	コジマ ゲンイチロウ 小島 源一郎 <令和8年4月>		教育学士		教育方法学(情報通信技 術を活用した教育の理論 及び方法を含む)	3前・後	18	9	—	—	
100	兼任	講師	トミタ ミノル 富田 稔 <令和6年4月>		修士 (都市政策)		人権と差別1 人権と差別2 教職実践演習(中・高) 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 4 4	1 1 1 2 2	—	—	
101	兼任	講師	マツエ タクオ 松枝 拓生 <令和8年4月>		博士 (教育学)		道徳の理論及び指導法	3・4前・後	8	4	(株)山嘉企画 取締役 (平成24年4月)	—	
102	兼任	講師	イヌカイ マコト 犬飼 誠 <令和6年4月>		文学士		矯正概論 矯正保護教育(施設参観 を含む)	1・2・3・4前 3・4後	2 2	1 1	奈良少年院法務教 官専門官 (令和3年4月)	—	
103	兼任	講師	タカハシ ヒデキ 高橋 秀紀 <令和7年4月>		文学士		矯正保護支援実践論	※	2・3・4後	0.8	1	—	—
104	兼任	講師	ナカムラ ヒロコ 中村 寛子 <令和6年4月>		学術修士 ※		更生保護概論	1・2・3・4前	2	1	—	—	
105	兼任	講師	ホウジョウ マサタカ 北條 正崇 <令和7年4月>		学士 (法学)		犯罪被害者支援論	2・3・4後	2	1	やすらぎ 法律事務所 (平成12年10月)	—	
106	兼任	講師	ヤマモト ミチツグ 山本 道次 <令和7年4月>		体育学士		矯正保護支援実践論	※	2・3・4後	1.2	1	社会福祉法人白梅学 園副園長・児童養護 施設長 (平成12年7月)	—
107	兼任	講師	サトウ トシエ 佐藤 敏江 <令和7年4月>		文学士		児童・YAサービス論	2・3・4前	4	2	—	—	
108	兼任	講師	スズキ ヨウジ 鈴木 陽二 <令和6年4月>		文学修士 (韓国)		韓国・朝鮮語1 韓国・朝鮮語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	天理大学 国際学部准教授 (令和4年3月ま で)	—	
109	兼任	講師	ヨシカワ マスヒコ 吉川 万寿彦 <令和6年4月>		文学修士		多文化理解と言語(韓 国・朝鮮語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理教会本部 内統領室 次長 (令和3年10月)	—	
110	兼任	講師	イスイ タクヤ 乾 拓也 <令和6年4月>		修士 (文学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—	
111	兼任	講師	スズシマ アズサ 鈴島 梓 <令和6年4月>		博士 (英文学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—	
112	兼任	講師	ヒオキ ナオコ 日沖 直子 <令和6年4月>		博士 (宗教美術) (米国)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—	
113	兼任	講師	ヤマシタ ダイスケ 山下 大輔 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		多文化理解と言語(ドイ ツ語)	1・2・3・4前・後	4	2	大阪大学大学院 医学研究科 特任研究員 (令和3年5月)	—	
114	兼任	講師	イシダ マサコ 石田 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化学) ※		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	3 3	3 3	—	—	
115	兼任	講師	オギノ アヤ 荻野 綾 <令和6年4月>		修士 (外国語 教育学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	2 2	—	—	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
116	兼任	講師	カムラ マサコ 家村 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化学)		教養アカデミック英語1	1・2・3・4前・後	2	2	—	—
							教養アカデミック英語2	1・2・3・4前・後	2	2		
							実践アカデミック英語2	1・2・3・4前	1	1		
117	兼任	講師	コバヤシ カズヨ 小林 和代 <令和6年4月>		文学修士		中国語1	1・2・3・4前	1	1	—	—
							中国語2	1・2・3・4後	1	1		
118	兼任	講師	ゴトウ サヤコ 後藤 朗子 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		英語1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語2	1・2・3・4後	3	3		
119	兼任	講師	ナイトウ タカオ 内藤 貴夫 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		英語1	1・2・3・4前	4	4	—	—
							英語2	1・2・3・4後	4	4		
120	兼任	講師	ノダ トモコ 野田 智子 <令和6年4月>		博士 (文学)		英語1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語2	1・2・3・4後	3	3		
121	兼任	講師	ヒキダ タカヤス 疋田 隆康 <令和6年4月>		博士 (文学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
122	兼任	講師	ヤマカワ マサシ 山川 仁 <令和6年4月>		博士 (人間・ 環境学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
123	兼任	講師	ヤマグチ ノリカズ 山口 徳一 <令和6年4月>		修士 (英文学) ※		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
124	兼任	講師	ヤマムラ セイジ 山村 誠治 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
125	兼任	講師	サカイ タカヒデ 坂井 隆秀 <令和6年4月>		体育学士		健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	8	4	—	—
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	8	4		
126	兼任	講師	ヤマダ サダコ 山田 貞子 <令和6年4月>		教育学修士		健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	4	2	—	—
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	4	2		
							レクリエーションナルス ポーツ	2・3・4前	1	1		
							ニュースポーツ	2・3・4前	1	1		

別記様式第3号（その2の1）

教 員 の 氏 名 等													
(人文学部心理学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 適当たり平 均日数	
1	専	教授	チハラ マサヨ 千原 雅代 <令和6年4月>		教育学博士		精神分析学	3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日	
							心理実習	4通	2	1			
							心理学入門演習	1後	2	1			
							心理学研究演習1	4前	2	1			
2	専	教授	タカモリ ジュンイチ 高森 淳一 <令和6年4月>		教育学修士 ※		心理学研究演習2	4後	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成11年4月)	5日	
							投影法演習	3・4後	4	1			
							臨床心理学課題演習	3前	2	1			
							心理実習	4通	2	1			
3	専	教授	ハシモト ナオコ 橋本 (勝) 尚子 <令和6年4月>		博士 (教育学)		心理学研究演習1	4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (令和2年4月)	5日	
							心理学研究演習2	4後	2	1			
							臨床心理学概論	1・2・3・4前	2	1			
							心理実習	4通	2	1			
4	専	教授	カナヤマ モトハル 金山 元春 <令和6年4月>		博士 (心理学)		障害者・障害児心理学	2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成31年4月)	5日	
							教育・学校心理学	3・4後	2	1			
							対人スキル演習	3・4後	4	1			
							心理実習	4通	2	1			
5	専	教授	マツイ ハナコ 松井 (出来) 華子 <令和6年4月>		博士 (教育学)		心理学入門演習	1後	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成25年4月)	5日	
							心理学研究演習1	4前	2	1			
							心理学研究演習2	4後	2	1			
							臨床心理学概論	1・2・3・4前	2	1			
6	専	教授 (学科 主任)	タカシマ ユウスケ 高嶋 雄介 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		心理学入門演習	1後	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成23年4月)	5日	
							心理学研究演習1	4前	2	1			
							心理学研究演習2	4後	2	1			
							ユング心理学	3・4後	2	1			
7	兼任	教授	オカダ マサヒコ 岡田 正彦 <令和6年4月>		Ph. D (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日	
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1			
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1			
8	兼任	教授	ヒガシババ イクオ 東馬場 郁生 <令和6年4月>		Doctor of Philosophy (History of Religions) (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日	
							天理教概説2	1・2・3・4後	4	2			
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1			
9	兼任	教授	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和6年4月>		文学修士 ※		博物館実習1	3前	2	1	天理大学文学部 教授 (平成11年4月)	5日	
9	兼任	講師	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和9年4月>				博物館実習1	3前	2	1	天理大学 人文学部教授 (令和9年3月まで)	-	
10	兼任	教授	ハタカマ カズヒロ 幡鎌 一弘 <令和6年4月>		修士 (文学)		宗教と芸能	1・2・3・4後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成8年4月)	5日	
11	兼任	教授	オダギ ハルタロウ 小田木 治太郎 <令和6年4月>		文学修士		博物館実習1	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成21年4月)	5日	
12	兼任	教授 (学部 長)	ヤマナカ ヒデオ 山中 秀夫 <令和6年4月>		博士 (学術)		情報資源組織論	3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日	
							情報資源組織演習1	3・4後	4	2			
							情報資源組織演習2	3・4後	4	2			
							図書館情報学特論	4前	2	1			
13	兼任	教授	セキモト カツヨシ 関本 克良 <令和6年4月>		博士 (学術)		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (平成22年4月)	5日	
							ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1			
							国際協力入門	1・2・3・4前	2	1			
							国際協力実習	1・2・3・4休	2	1			
							国際協力演習1	1・2・3・4前	2	1			
							国際協力演習2	1・2・3・4後	2	1			
							国際ボランティア論	2・3・4後	2	1			
							キャリアプランニング 基礎からわかるレポート 作成	1・2・3前・後	8	4			

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する運当たり平均日数									
14	兼担	教授	ソヤマ ノリコ 曾山 典子 <令和6年4月>		博士 (理学)		データサイエンス・AI入門	1前・後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日									
							コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	12	6											
							情報処理	2・3・4前・後	4	2											
15	兼担	教授	ウエダ ノブヒコ 上田 喜彦 <令和6年4月>		学士 (教育学)		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日									
							天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2	1											
							天理大学特別講義3	1・2・3・4前	2	1											
							天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2	1											
							インターンシップ1	1・2・3休	1	1											
							インターンシップ2	1・2・3休	2	1											
							海外インターンシップ1	2・3・4休	1	1											
							海外インターンシップ2	2・3・4休	2	1											
							教職論	1前・後	10	5											
							教育課程論	3・4前・後	8	4											
16	兼担	教授	タケムラ カゲキ 竹村 景生 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		ローカリーアクト天理SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (令和3年4月)	5日									
							ローカリーアクト天理SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1											
							生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4後	4	2											
							教育実習講義	3後	2	2											
							介護等体験	3休	1	1											
							教職実践演習(中・高)	4後	14	7											
							学校教育支援	2・3・4休	1	1											
							特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前・後	8	4											
							学校教育心理学	2・3・4前・後	8	4											
							教育相談の理論及び方法	2・3・4前・後	8	4											
17	兼担	教授	ナカ アツシ 仲 淳 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		学校教育心理学	2・3・4前・後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成17年4月)	5日									
							教育相談の理論及び方法	2・3・4前・後	8	4											
							教育実習講義	3後	1	1											
							介護等体験	3休	1	1											
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1											
							教育実習1	4休	2	1											
							教育実習2	4休	2	1											
18	兼担	教授	コガ タカシ 古賀 崇 <令和6年4月>		修士 (教育学) Master of Library Science (米国) ※		図書館情報システム論	2・3・4後	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成24年4月)	5日									
							情報サービス論	3・4前	4	2											
							情報サービス演習1	3・4後	4	2											
							情報サービス演習2	3・4後	4	2											
							図書館情報資源概論	2・3・4前	4	2											
							図書館情報資源特論	3・4前	2	1											
19	兼担	准教授	サワイ ジロウ 澤井 治郎 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部准教授 (平成26年4月)	5日									
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1											
							建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2	1											
							英語1	1・2・3・4前	1	1											
20	兼担	准教授	クロイワ ヤスヒロ 黒岩 康博 <令和6年4月>		博士 (文学)		基礎からわかる近代史	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学文学部 准教授 (平成25年4月)	5日									
21	兼担	准教授	ハコダ テツ 箱田 徹 <令和6年4月>		博士 (学術)		キャリアプランニング	1・2・3前・後	4	2	天理大学 人間学部准教授 (平成29年4月)	5日									
							基礎ゼミナール1	1前	2	1											
							基礎ゼミナール2	1後	2	1											
							基礎からわかる現代社会	1・2・3・4前・後	4	2											
							社会学	1・2・3・4前・後	4	2											
							哲学概論1	1・2・3・4前	4	2											
22	兼担	准教授	オノ アキコ 小野 朗子 <令和6年4月>		博士 (理学)		ローカリーアクト天理SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部准教授 (令和5年4月)	5日									
							ローカリーアクト天理SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1											
							データサイエンス・AI入門	1前・後	8	4											
							データサイエンス・AI応用	2・3・4前・後	4	2											
							データリテラシー	2・3・4前・後	4	2											
							数学と論理	1・2・3・4前・後	4	2											
							統計学1	1・2・3・4前	2	1											
							統計学2	1・2・3・4後	2	1											
							23	兼担	講師	フカヤ コウジ 深谷 耕治 <令和6年4月>				修士 (社会学) 修士 (宗教学) (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和2年4月)	5日
																天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2	1																		
伝道実習1	1・2・3・4休	1	1																		
伝道実習2	1・2・3・4休	1	1																		
伝道実習3	2・3・4前	1	1																		
伝道実習4	2・3・4後	1	1																		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 選当たり平 均日数
24	兼担	講師	サワイ マコト 澤井 真 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 講師 (平成31年4月)	5日
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		
							宗教と現代社会	1・2・3・4前・後	4	2		
25	兼担	講師	スナガ サトシ 須永 哲思 ＜令和6年4月＞		博士 (教育学)		教育原理	2・3・4前・後	8	4	天理大学 人間学部講師 (令和4年4月)	5日
							教育史	2・3・4前	2	1		
							学校教育社会学	2・3・4前・後	8	4		
							教育実習講義	3後	2	2		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1		
							学校教育支援	2・3・4休	1	1		
							教育史特論	2・3・4後	2	1		
							キャリアデザイン1	2・3・4前	2	1		
26	兼担	講師	オゼキ コウヘイ 小関 康平 ＜令和6年4月＞		博士 (法学)		日本国憲法	1・2・3・4後	8	4	天理大学 人間学部講師 (令和5年4月)	5日
							法学	1・2・3・4前	10	5		
							行政法1	1・2・3・4前	2	1		
							行政法2	1・2・3・4後	2	1		
27	兼担	教授	ノゼウオン 魯ゼウオン ＜令和6年4月＞		博士 (社会学)		カルチュラルスタディ ーズ	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成19年4月)	-
28	兼担	教授	ノヅ コウジ 野津 幸治 ＜令和6年4月＞		M.A. (タイ)		多文化理解と言語(タイ 語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成4年4月)	-
29	兼担	教授	オクシマ ミカ 奥島 美夏 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		多文化理解と言語(イン ドネシア語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	-
							キャリアデザイン2	2・3・4後	2	1		
30	兼担	教授	モリ ヨウメイ 森 洋明 ＜令和6年4月＞		言語学 (意味論) 修士 (フランス)		多文化理解と言語(フラン ス語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	-
							天理異文化伝道	2・3・4前	2	1		
31	兼担	教授	ノグチ シゲル 野口 茂 ＜令和6年4月＞		Magister en Historia (ベネズエラ)		多文化理解と言語(スペ イン語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	-
32	兼担	教授	キタモリ エリ 北森 絵里 ＜令和6年4月＞		修士 (地域研究)		多文化理解と言語(ポ ルトガル語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成8年4月)	-
33	兼担	教授	オカダ タツキ 岡田 龍樹 ＜令和6年4月＞		教育学修士 ※		日本事情1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成3年4月)	-
							日本事情2	1・2・3・4後	2	1		
34	兼担	教授	キクチ ノリユキ 菊池 律之 ＜令和6年4月＞		修士 (言語学) ※		日本語学入門	1前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	-
							日本語文法論1	2前	2	1		
							日本語文法論2	2後	2	1		
							日本語音声学	2後	2	1		
							言語の対照研究	3前	2	1		
							日本語指導法	4前	2	1		
							日本語教育実習	4休	2	1		
35	兼担	教授	マツナガ トシヤ 松永 稔也 ＜令和6年4月＞		博士 (言語文化学)		多文化理解と言語(日本 語)	1・2・3・4前	2	1	宮崎大学 多言語多文化教育 研究センター 准教授 (令和3年4月)	-
36	兼担	教授	オクダ マキコ 奥田 真紀子 ＜令和6年4月＞		修士 (学術) ※		保健医療の仕組みと健康 づくり	1・2・3・4後	2	1	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	-
37	兼担	教授	マスタニ ヒロシ 増谷 弘 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		基礎からわかる生物・化 学	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	-
38	兼担	教授	ホリウチ ミドリ 堀内 みどり ＜令和6年4月＞		哲学博士 (インド)		ジェンダー・セクシャリ ティ	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成元年4月)	-
39	兼担	教授	カネコ アキラ 金子 昭 ＜令和6年4月＞		博士 (哲学)		哲学概論1	1・2・3・4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成3年4月)	-
							哲学概論2	1・2・3・4後	2	1		
							倫理学1	1・2・3・4前	6	3		
							倫理学2	1・2・3・4後	4	2		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 選当たり平 均日数
40 ①	兼担	講師	フクイ コソノウ 福井 孝三 <令和6年4月>		修士 (言語教育 情報学)		日本語教育入門 日本語語彙論	1前 2後	2 2	1 1	天理大学 国際学部講師 (平成25年4月)	-
40 ②	兼担	准教授	キン シュ 金 珠 <令和8年4月>		博士 (日本語・ 日本文化)		日本語教育入門 日本語語彙論 日本語教授法1 日本語教授法2 第二言語習得論 日本語教育評価法	1前 2後 3前 3後 3前 4後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	大阪大学 日本語日本文化 教育研究センター 招聘研究員 (令和元年9月)	-
41	兼担	准教授	ナカムラ ヒサミ 中村 久美 <令和6年4月>		Ph. D in Anglo-Irish Literature and Drama (アイルランド)		英語1 英語2 多文化理解と言語(英 語) 世界の文学1 世界の文学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 4 4 4	1 1 2 2 2	天理大学 国際学部准教授 (平成25年4月)	-
42	兼担	准教授	ヨシダ チカ 吉田 智佳 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語1 英語2 実践アカデミック英語1 実践アカデミック英語2 アカデミック英語上級 基礎ゼミナール1	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1前	1 1 2 1 2 2	1 1 2 1 2 1	天理大学 国際学部准教授 (平成16年4月)	-
43	兼担	准教授	カワカミ コウジ 川上 晃司 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学2 ニュースポーツ	1・2・3・4後 2・3・4前	2 1	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成31年4月)	-
44	兼担	准教授	ウメザキ サユリ 梅崎 さゆり <令和6年4月>		博士 (学術)		健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポー ツの役割	1・2・3・4前 1・2・3・4前	2 2	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成24年4月)	-
45	兼担	准教授	アナイ タカマサ 穴井 隆将 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポー ツの役割	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成26年4月)	-
46	兼担	准教授	ヨモギダ タカマサ 蓬田 高正 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2 アウトドアスポーツ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4休	4 2 1	2 1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成28年4月)	-
47	兼担	准教授	オバタ オサム 小畑 治 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学1 レクリエーションアル スポーツ	1・2・3・4前 2・3・4前	4 1	2 1	天理大学 体育学部准教授 (令和4年4月)	-
48	兼担	講師	マツキ ユウヤ 松木 優也 <令和6年4月>		修士 (体育学) ※		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	6 6	3 3	天理大学 体育学部講師 (令和4年4月)	-
49	兼担	助教	カネコ リュウダイ 金子 竜大 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	10 6	5 3	天理大学 体育学部助教 (令和5年4月)	-
50	兼任	講師	サイ ハイセイ 蔡 珮菁 <令和6年4月>		博士 (文学)		多文化理解と言語(中国 語)	1・2・3・4前・後	4	2	中国文化大学 日本語学科准教授 (平成23年8月)	-
51	兼任	講師	ザベレジナヤ オリガ Zaberezhnaia Olga <令和6年4月>		博士 (文化学) (ロシア)		多文化理解と言語(ロシ ア語)	1・2・3・4前・後	4	2	国立研究大学 高等経済学院 国際経済国際政治学 部東洋学部 上級講師 (令和2年4月)	-
52	兼任	講師	イチハラ ユキコ 市原 有希子 <令和7年4月>		修士 (教育学) ※		感情・人格心理学 社会・集団・家族心理学	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	-	-
53	兼任	講師	カザイ ヒロシ 風井 浩志 <令和7年4月>		博士 (心理学)		神経・生理心理学	2・3・4休	2	1	関西学院大学 工学部研究員 (平成18年4月)	-
54	兼任	講師	ササカワ ヒロキ 笹川 宏樹 <令和8年4月>		学士 (教育学)		福祉心理学 関係行政論	3・4前 3・4休	2 1.1	1 1	同志社大学 心理臨床センター 特任指導員 (平成31年4月)	-
55	兼任	講師	タケタニ サオリ 竹谷 早織 <令和7年4月>		修士 (人間科学) ※		心理的アセスメント1 心理的アセスメント2	2前 2後	4 4	1 1	-	-
56	兼任	講師	ツジ トモヤ 辻 智哉 <令和6年4月>		修士 (臨床心理学)		公認心理師の職責 精神疾患とその治療1 精神疾患とその治療2	1・2休 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	-	-

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就任する運当たり平均日数
57	兼任	講師	トクラ トシヒロ 十倉 利廣 <令和7年4月>		教育学士		司法・犯罪心理学	2・3・4後	2	1	—	—
58	兼任	講師	ノダ トモミ 野田 智美 <令和7年4月>		博士 (人間・環境学)		産業・組織心理学	2・3・4前	2	1	京都大学 研究員 (平成31年4月)	—
59	兼任	講師	マツダ マリコ 松田 真理子 <令和7年4月>		博士 (臨床心理学)		健康・医療心理学	2・3・4休	2	1	京都文教大学 臨床心理学部教授 (平成26年4月)	—
60	兼任	講師	マツモト アツシ 松本 敦 <令和7年4月>		博士 (心理学)		知覚・認知心理学 学習・言語心理学	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	関西福祉科学大学 心理科学部准教授 (平成31年4月)	—
61	兼任	講師	モリサキ アヤコ 森崎 礼子 <令和6年4月>		修士 (文学)		心理学概論 心理学研究法 心理学統計法 多変量解析法 心理学実験法	1・2・3・4前 2後 2後 4前 2前	2 4 2 2 4	1 1 1 1 1	—	—
62	兼任	講師	ヤマモト マサアキ 山本 正顕 <令和7年4月>		修士 (教育学)		発達心理学	2・3・4前	2	1	—	—
63	兼任	講師	マツダ ミチコ 松田 美智子 <令和7年4月>		修士 (教育学)		人体の構造と機能及び疾病	2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (令和5年3月まで)	—
64	兼任	講師	イノウエ ナルト 井上 成人 <令和6年4月>		文学士		天理教概説 1 天理教概説 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成18年4月)	—
65	兼任	講師	イハシ ユキエ 伊橋 幸江 <令和7年4月>		文学士		天理教学 1 天理教学 2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成2年4月)	—
66	兼任	講師	ウエハラ ミチノブ 上原 道延 <令和7年4月>		教育学士		天理教学 1 天理教学 2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	—	—
67	兼任	講師	ウメダ マサユキ 梅田 正之 <令和7年4月>		文学士		天理教学 1 天理教学 2	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	—	—
68	兼任	講師	カトウ マサト 加藤 匡人 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説 1 天理教概説 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教海外部 (平成30年4月)	—
69	兼任	講師	サワイ イチロウ 澤井 一郎 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		天理教概説 1 天理教概説 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成25年4月)	—
70	兼任	講師	マツヤマ ツネノリ 松山 常教 <令和6年4月>		学士 (宗教学)		天理教概説 1 天理教概説 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理教校 (平成19年4月)	—
71	兼任	講師	ヤスイ モトナオ 安井 幹直 <令和6年4月>		M.A (文学修士) (米国)		天理教概説 1 天理教概説 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	6 6	3 3	天理教一広分教会 会長 (令和元年5月)	—
72	兼任	講師	アラタ メグミ 荒田 恵 <令和9年4月>		修士 (文学)		博物館実習 2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成31年4月)	—
73	兼任	講師	イヌイ セイジ 乾 誠二 <令和9年4月>		文学士		博物館実習 2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成10年4月)	—
74	兼任	講師	ナカオ ノリヒト 中尾 徳仁 <令和9年4月>		学士 (教育学)		博物館実習 2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成11年4月)	—
75	兼任	講師	イマジ シュウヘイ 今治 周平 <令和6年4月>		法務博士		民法 1 民法 2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	やすらぎ法律 事務所 (令和元年5月)	—



調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する選当たり平均日数
76	兼任	講師	カド カツアキ 角 克明 <令和6年4月>		教育学修士 ※		地理学1	1・2・3・4前	4	2	—	—
							地理学2	1・2・3・4後	4	2		
77	兼任	講師	カトウ ヤスシ 加藤 康 <令和6年4月>		修士(商学) ※		経営学1	1・2・3・4前	4	2	京都経済短期大学 経営情報学科 教授 (平成27年4月)	—
							経営学2	1・2・3・4後	4	2		
78	兼任	講師	カタオカ サチコ 片岡 佐知子 <令和6年4月>		博士(理学)		科学と現代	1・2・3・4前・後	8	4	—	—
79	兼任	講師	サカテ セイジ 坂手 誠治 <令和6年4月>		博士(学術)		生活の中の科学	1・2・3・4前・後	8	4	京都女子大学 家政学部教授 (令和2年4月)	—
80	兼任	講師	スズキ フミコ 鈴木 史子 <令和6年4月>		修士(臨床心理学) ※		心理学1	1・2・3・4前	4	2	—	—
							心理学2	1・2・3・4後	4	2		
81	兼任	講師	タケムラ カズヤ 竹村 和也 <令和6年4月>		修士(法学) ※		日本国憲法	1・2・3・4後	8	4	—	—
							法学	1・2・3・4前	6	3		
82	兼任	講師	トウイ ノブオ 東井 申雄 <令和6年4月>		修士(人間科学)		心理学1	1・2・3・4前	4	2	天理教教会本部 (平成28年8月)	—
							心理学2	1・2・3・4後	4	2		
83	兼任	講師	ナガサワ カズエ 長沢 一恵 <令和6年4月>		修士(文学) ※		基礎からわかるレポート作成	1・2・3・4前・後	8	4	—	—
							近現代の遺産と未来	1・2・3・4前・後	8	4		
84	兼任	講師	ナカムラ タカハル 中村 珍晴 <令和6年4月>		博士(スポーツ科学)		障害学	1・2・3・4前	2	1	合同会社エクスピ ジョン代表 (令和3年3月)	—
85	兼任	講師	ニシ ナオミ 西 直美 <令和6年4月>		博士(グローバル社会研究)		基礎からわかるレポート作成	1・2・3・4後	2	1	同志社大学 法学部嘱託講師 (令和2年4月)	—
							政治学	1・2・3・4前・後	4	2		
86	兼任	講師	フクシマ サワミ 福島 沢美 <令和6年4月>		学士(教育学)		日本手話A	1・2・3・4前・後	6	3	天理教教会本部 社会福祉課 (平成27年4月)	—
							日本手話B	1・2・3・4後	2	1		
87	兼任	講師	フジイ ミノル 藤井 稔 <令和6年4月>		博士(文学)		基礎ゼミナール2	1後	2	1	—	—
							基礎からわかるレポート作成	1・2・3・4後	2	1		
88	兼任	講師	ミヤケ マサオ 三宅 正夫 <令和6年4月>		博士(工学)		基礎からわかる数学	1・2・3・4前・後	4	2	—	—
89	兼任	講師	ヤギ ヒデジ 八木 英治 <令和6年4月>		修士(教育学)		障害学	1・2・3・4後	2	1	奈良市子ども未来 部児童相談所設置 推進課 (令和3年4月)	—
90	兼任	講師	ヤスダ トモヒロ 安田 智博 <令和6年4月>		学士(文学)		キャリアプランニング	1・2・3前	2	1	—	—
							労働と社会	1・2・3・4前・後	6	3		
91	兼任	講師	ヨシダ カズヒロ 吉田 和弘 <令和6年4月>		博士(農学)		地球環境論	1・2・3・4前・後	8	4	国立大学法人 奈良国立機構 奈良女子大学 特任助教 (令和3年7月)	—
92	兼任	講師	ヨシモト エツコ 持元 江津子 <令和6年4月>		博士(経済学)		コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	8	4	—	—
93	兼任	講師	ワタナベ ミツル 渡邊 碩 <令和6年4月>		修士(経済学)		経済学1	1・2・3・4前	4	2	—	—
							経済学2	1・2・3・4後	4	2		
94	兼任	講師	イケダ ハナコ 池田 華子 <令和7年4月>		博士(教育学)		臨床教育学特論	2・3・4休	2	1	大阪公立大学 国際基幹教育機構 准教授 (令和4年4月)	—
95	兼任	講師	オクモト タケヒロ 奥本 武裕 <令和6年4月>		修士(文学)		人権と差別1	1・2・3・4前	2	1	—	—
							人権と差別2	1・2・3・4後	2	1		
							人権教育論1	2・3・4前	2	1		
							人権教育論2	2・3・4後	2	1		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 選当たり平 均日数	
96	兼任	講師	カナヤマ サキコ 金山 佐喜子 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		特別な支援の必要な生徒 の理解	1前・後	8	4	—	—	
97	兼任	講師	キタグチ マナブ 北口 学 <令和6年4月>		学士 (芸術)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 4 4	1 1 2 2	(株)アジール フィリア 代表取締役 (平成27年9月)	—	
98	兼任	講師	コジマ ゲンイチロウ 小島 源一郎 <令和8年4月>		教育学士		教育方法学(情報通信技 術を活用した教育の理論 及び方法を含む)	3前・後	18	9	—	—	
99	兼任	講師	トミタ ミノル 富田 稔 <令和6年4月>		修士 (都市政策)		人権と差別1 人権と差別2 教職実践演習(中・高) 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 4 4	1 1 1 2 2	—	—	
100	兼任	講師	マツエ タクオ 松枝 拓生 <令和8年4月>		博士 (教育学)		道徳の理論及び指導法	3・4前・後	8	4	(株)山嘉企画 取締役 (平成24年4月)	—	
101	兼任	講師	イヌカイ マコト 大飼 誠 <令和6年4月>		文学士		矯正概論 矯正保護教育(施設参観 を含む)	1・2・3・4前 3・4後	2 2	1 1	奈良少年院法務教 官専門官 (令和3年4月)	—	
102	兼任	講師	タカハシ ヒデキ 高橋 秀紀 <令和7年4月>		文学士		矯正保護支援実践論	※	2・3・4後	0.8	1	—	—
103	兼任	講師	ナカムラ ヒロコ 中村 寛子 <令和6年4月>		学術修士 ※		更生保護概論	1・2・3・4前	2	1	—	—	
104	兼任	講師	ホウジョウ マサタカ 北條 正崇 <令和7年4月>		学士 (法学)		関係行政論 犯罪被害者支援論	※ 3・4休 2・3・4後	0.9 2	1 1	やすらぎ 法律事務所 (平成12年10月)	—	
105	兼任	講師	ヤマモト ミチツグ 山本 道次 <令和7年4月>		体育学士		矯正保護支援実践論	※	2・3・4後	1.2	1	社会福祉法人白梅学 園副園長・児童養護 施設長 (平成12年7月)	—
106	兼任	講師	サトウ トシエ 佐藤 敏江 <令和7年4月>		文学士		児童・YAサービ論	2・3・4前	4	2	—	—	
107	兼任	講師	スズキ ヨウジ 鈴木 陽二 <令和6年4月>		文学修士 (韓国)		韓国・朝鮮語1 韓国・朝鮮語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	天理大学 国際学部准教授 (令和4年3月ま で)	—	
108	兼任	講師	ヨシカワ マスヒコ 吉川 万寿彦 <令和6年4月>		文学修士		多文化理解と言語(韓 国・朝鮮語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理教会会本部 内統領室 次長 (令和3年10月)	—	
109	兼任	講師	イヌイ タクヤ 乾 拓也 <令和6年4月>		修士 (文学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—	
110	兼任	講師	スズシマ アズサ 鈴嶋 梓 <令和6年4月>		博士 (英文学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—	
111	兼任	講師	ヒオキ ナオコ 日沖 直子 <令和6年4月>		博士 (宗教美術) (米国)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—	
112	兼任	講師	ヤマシタ ダイスケ 山下 大輔 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		多文化理解と言語(ドイ ツ語)	1・2・3・4前・後	4	2	大阪大学大学院 医学研究科 特任研究員 (令和3年5月)	—	
113	兼任	講師	イシダ マサコ 石田 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化学) ※		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	3 3	3 3	—	—	
114	兼任	講師	オギノ アヤ 荻野 綾 <令和6年4月>		修士 (外国語 教育学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	2 2	—	—	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 選当たり平 均日数
115	兼任	講師	カムラ マサコ 家村 雅子 ＜令和6年4月＞		修士 (言語文化学)		教養アカデミック英語1	1・2・3・4前・後	2	2	—	—
							教養アカデミック英語2	1・2・3・4前・後	2	2		
							実践アカデミック英語2	1・2・3・4前	1	1		
116	兼任	講師	コバヤシ カズヨ 小林 和代 ＜令和6年4月＞		文学修士		中国語1	1・2・3・4前	1	1	—	—
							中国語2	1・2・3・4後	1	1		
117	兼任	講師	ゴトウ サヤコ 後藤 朗子 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		英語1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語2	1・2・3・4後	3	3		
118	兼任	講師	ナイトウ タカオ 内藤 貴夫 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		英語1	1・2・3・4前	4	4	—	—
							英語2	1・2・3・4後	4	4		
119	兼任	講師	ノダ トモコ 野田 智子 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		英語1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語2	1・2・3・4後	3	3		
120	兼任	講師	ヒキダ タカヤス 疋田 隆康 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
121	兼任	講師	ヤマカワ マサシ 山川 仁 ＜令和6年4月＞		博士 (人間・ 環境学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
122	兼任	講師	ヤマグチ ノリカズ 山口 徳一 ＜令和6年4月＞		修士 (英文学) ※		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
123	兼任	講師	ヤマムラ セイジ 山村 誠治 ＜令和6年4月＞		博士 (英語学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
124	兼任	講師	サカイ タカヒデ 坂井 隆秀 ＜令和6年4月＞		体育学士		健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	8	4	—	—
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	8	4		
125	兼任	講師	ヤマダ サダコ 山田 貞子 ＜令和6年4月＞		教育学修士		健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	4	2	—	—
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	4	2		
							レクリエーションナルス スポーツ	2・3・4前	1	1		
							ニューススポーツ	2・3・4前	1	1		

別記様式第3号（その2の1）

教 員 の 氏 名 等																					
(人文学部社会教育学科)																					
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称		配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 適当なり平 均日数								
1	専	教授 (学部長)	ヤマナカ ヒデオ 山中 秀夫 <令和6年4月>		博士 (学術)		社会教育基礎演習1	1前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日									
							社会教育基礎演習2	1後	2	1											
							社会教育特講3	2・3・4前	2	1											
							生涯学習特論7	2・3・4前	2	1											
							図書館情報学概論	1・2・3・4前	4	2											
							図書館サービス概論	1・2・3・4後	4	2											
							図書館マネジメント論	2・3・4前	4	2											
							図書館とメディアの歴史	2・3・4前	2	1											
							地域産業論	3・4前	2	1											
							地域金融論	3・4後	2	1											
							広報・PR論	3・4前	2	1											
							臨地文化施設実習	1後	1	1											
							プロジェクト実習6	3・4休	1	1											
							社会教育課題研究1	4前	2	1											
							社会教育課題研究2	4後	2	1											
							情報資源組織論	3・4前	4	2											
							情報資源組織演習1	3・4後	4	2											
情報資源組織演習2	3・4後	4	2																		
図書館情報学特論	4前	2	1																		
2	専	教授 (学科学主任)	イシトビ カズヒコ 石飛 和彦 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		基礎ゼミナール2	1後	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成9年4月)	5日									
							教育学概論1	1・2・3・4前	2	1											
							社会教育基礎演習1	1前	2	1											
							生涯学習支援論2	2後	4	2											
							文化スポーツ支援論1	3前	2	1											
							文化スポーツ支援論2	3後	2	1											
							社会教育特講1	2・3・4前	2	1											
							生涯学習特論2	2・3・4後	2	1											
							臨地文化施設実習	1後	1	1											
							プロジェクト実習4	2・3・4休	1	1											
							社会教育演習1(文化スポーツ支援)	3前	2	1											
							社会教育演習2(文化スポーツ支援)	3後	2	1											
							社会教育課題研究1	4前	2	1											
							社会教育課題研究2	4後	2	1											
							卒業課題研究	4休	4	1											
							卒業論文	4休	6	1											
							3	専	教授	ササキ ヤスタカ 佐々木 保孝 <令和6年4月>				修士 (教育学) ※		基礎ゼミナール1	1前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
生涯学習概論1	1前	2	1																		
生涯学習概論2	1後	2	1																		
社会教育基礎演習1	1前	2	1																		
生涯学習支援演習1	2前	2	1																		
生涯学習支援演習2	2後	2	1																		
社会教育経営論1	3前	4	2																		
社会教育経営論2	3後	2	1																		
生涯学習特論4	2・3・4後	2	1																		
プロジェクト実習2	1・2・3・4休	1	1																		
地域協働実習	2・3・4休	1	1																		
社会教育実習1	3前・休	2	1																		
社会教育演習1(コーディネーター支援)	3前	2	1																		
社会教育演習2(コーディネーター支援)	3後	2	1																		
4	専	准教授	スギヤマ シンペイ 杉山 晋平 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※						基礎ゼミナール2	1後				2	1	天理大学 人間学部准教授 (平成30年4月)	5日		
											社会教育基礎演習1	1前				2	1				
											社会教育基礎演習2	1後				2	1				
							生涯学習支援論1	2前	2	1											
							社会教育経営論3	3前	2	1											
							社会教育経営論4	3後	2	1											
							社会教育特講2	2・3・4後	2	1											
							生涯学習特論1	2・3・4前	2	1											
							生涯学習特論3	2・3・4前	2	1											
							生涯学習特論8	2・3・4後	2	1											
							臨地文化施設実習	1後	1	1											
							プロジェクト実習1	1・2・3・4休	1	1											
							社会教育実習2	3前・休	2	1											
							社会教育課題研究1	4前	2	1											
							社会教育課題研究2	4後	2	1											

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
5	専	講師	タナカ リエ 田中 梨絵 <令和6年4月>		修士 (世界遺産学) ※		基礎ゼミナール1	1前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和5年4月)	5日
							社会教育基礎演習1	1前	2	1		
							社会教育基礎演習2	1後	2	1		
							生涯学習支援演習1	2前	2	1		
							生涯学習支援演習2	2後	2	1		
							社会教育経営論2	3後	2	1		
							生涯学習特論5	2・3・4前	2	1		
							生涯学習特論6	2・3・4後	2	1		
							文化政策学概論	2・3・4前	2	1		
							プロジェクト実習3	2・3・4休	1	1		
							社会教育演習1(文化行政)	3前	2	1		
							社会教育演習2(地域文化共創)	3後	2	1		
							社会教育課題研究1	4前	2	1		
							社会教育課題研究2	4後	2	1		
6	兼任	教授	オカダ マサヒコ 岡田 正彦 <令和6年4月>		Ph.D (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		
7	兼任	教授	ヒガシババ イクオ 東馬場 郁生 <令和6年4月>		Doctor of Philosophy (History of Religions) (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
							天理教概説2	1・2・3・4後	4	2		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		
8	兼任	教授	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和6年4月>		文学修士 ※		博物館実習1	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成11年4月)	5日
							博物館実習1	3前	2	1		
9	兼任	教授	ハタカマ カズヒロ 幡鎌 一弘 <令和6年4月>		修士 (文学)		宗教と芸能	1・2・3・4後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成8年4月)	5日
							博物館実習1	3前	2	1		
10	兼任	教授	オダギ ハルタロウ 小田木 治太郎 <令和6年4月>		文学修士		博物館実習1	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成21年4月)	5日
11	兼任	教授	カナヤマ モトハル 金山 元春 <令和6年4月>		博士 (心理学)		生徒指導・進路指導の理 論及び方法	2・3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成31年4月)	5日
12	兼任	教授	セキモト カツヨシ 関本 克良 令和6年4月>		博士 (学術)		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (平成22年4月)	5日
							ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1		
							国際協力入門	1・2・3・4前	2	1		
							国際協力実習	1・2・3・4休	2	1		
							国際協力演習1	1・2・3・4前	2	1		
							国際協力演習2	1・2・3・4後	2	1		
							国際ボランティア論	2・3・4後	2	1		
							キャリアプランニング	1・2・3前・後	8	4		
基礎からわかるレポート 作成	1・2・3・4前	2	1									
13	兼任	教授	ソヤマ ノリコ 曾山 典子 <令和6年4月>		博士 (理学)		データサイエンス・AI入 門	1前・後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	12	6		
							情報処理	2・3・4前・後	4	2		
14	兼任	教授	ウエダ ノブヒコ 上田 喜彦 <令和6年4月>		学士 (教育学)		天理大学特別講義1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
							天理大学特別講義2	1・2・3・4前	2	1		
							天理大学特別講義3	1・2・3・4前	2	1		
							天理大学特別講義4	1・2・3・4前	2	1		
							インターンシップ1	1・2・3休	1	1		
							インターンシップ2	1・2・3休	2	1		
							海外インターンシップ1	2・3・4休	1	1		
							海外インターンシップ2	2・3・4休	2	1		
							教職論	1前・後	10	5		
							教育課程論	3・4前・後	8	4		
							教育方法学(情報通信技 術を活用した教育の理論 及び方法を含まず)	3前・後	4	2		
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 適当たり平 均日数
15	兼担	教授	タケムラ カゲキ 竹村 景生 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (令和3年4月)	5日
							ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1		
							生徒指導・進路指導の理 論及び方法	2・3・4後	4	2		
							教育実習講義	3後	2	2		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習(中・高)	4後	14	7		
							学校教育支援	2・3・4休	1	1		
							特別活動・総合的な学習 の時間の指導法	2・3・4前・後	8	4		
16	兼担	教授	ナカ アツシ 仲 淳 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		学校教育心理学	2・3・4前・後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成17年4月)	5日
							教育相談の理論及び方法	2・3・4前・後	8	4		
							教育実習講義	3後	1	1		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1		
							教育実習1	4休	2	1		
							教育実習2	4休	2	1		
							学校教育支援	2・3・4休	1	1		
17	兼担	教授	コガ タカシ 古賀 崇 <令和6年4月>		修士 (教育学) Master of Library Science (米国) ※		図書館情報学基礎特論	2・3・4後	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成24年4月)	5日
							図書館情報システム論	2・3・4後	4	2		
							情報サービス論	3・4前	4	2		
							情報サービス演習1	3・4後	4	2		
							情報サービス演習2	3・4後	4	2		
							図書館情報資源概論	2・3・4前	4	2		
							図書館情報資源特論	3・4前	2	1		
18	兼担	教授	ノゼウオン 魯ゼウオン <令和6年4月>		博士 (社会学)		カルチュラルスタディ ーズ	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成19年4月)	-
19	兼担	教授	ノヅ コウジ 野津 幸治 <令和6年4月>		M.A. (タイ)		多文化理解と言語(タイ 語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成4年4月)	-
20	兼担	教授	オクシマ ミカ 奥島 美夏 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		多文化理解と言語(イン ドネシア語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	-
							キャリアデザイン2	2・3・4後	2	1		
21	兼担	教授	モリ ヨウメイ 森 洋明 <令和6年4月>		言語学 (意味論) 修士 (フランス)		多文化理解と言語(フラン ス語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	-
							天理異文化伝道	2・3・4前	2	1		
22	兼担	教授	ノグチ シゲル 野口 茂 <令和6年4月>		Magister en Historia (ベネズエラ)		多文化理解と言語(スベ イン語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	-
23	兼担	教授	キタモリ エリ 北森 絵里 <令和6年4月>		修士 (地域研究)		多文化理解と言語(ボル トガル語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成8年4月)	-
24	兼担	教授	オカダ タツキ 岡田 龍樹 <令和6年4月>		教育学修士 ※		日本事情1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成3年4月)	-
							日本事情2	1・2・3・4後	2	1		
							生涯学習概論1	1前	2	1		
							生涯学習支援論1	2前	2	1		
							社会教育特講4	2・3・4後	2	1		
							プロジェクト実習5	3・4休	1	1		
25	兼担	教授	キクチ ノリユキ 菊池 律之 <令和6年4月>		修士 (言語学) ※		日本語学入門	1前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	-
							日本語文法論1	2前	2	1		
							日本語文法論2	2後	2	1		
							日本語音声学	2後	2	1		
							言語の対照研究	3前	2	1		
							日本語指導法	4前	2	1		
							日本語教育実習	4休	2	1		
26	兼担	教授	マツナガ トシヤ 松永 稔也 <令和6年4月>		博士 (言語文化学)		多文化理解と言語(日本 語)	1・2・3・4前	2	1	宮崎大学 多言語多文化教育 研究センター 准教授 (令和3年4月)	-
27	兼担	教授	オクダ マキコ 奥田 真紀子 <令和6年4月>		修士 (学術) ※		保健医療の仕組みと健康 づくり	1・2・3・4後	2	1	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	-
28	兼担	教授	マスタニ ヒロシ 増谷 弘 <令和6年4月>		博士 (医学)		基礎からわかる生物・化 学	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	-

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学の職務に従事する適当たり平均日数
29	兼担	教授	ホリウチ ミドリ 堀内 みどり <令和6年4月>		哲学博士 (インド)		ジェンダー・セクシャリティ	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成元年4月)	—
30	兼担	教授	カネコ アキラ 金子 昭 <令和6年4月>		博士 (哲学)		哲学概論1 哲学概論2 倫理学1 倫理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 6 4	1 1 3 2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成3年4月)	—
31	兼担	准教授	サワイ ジロウ 澤井 治郎 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1 天理教概説2 建学の精神と天理大学の あゆみ 英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 2 1 1	1 1 1 1 1	天理大学 人間学部准教授 (平成26年4月)	5日
32	兼担	准教授	クロイワ ヤスヒロ 黒岩 康博 <令和6年4月>		博士 (文学)		基礎からわかる近代史	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 文学部准教授 (平成25年4月)	5日
33	兼担	准教授	ハコダ テツ 箱田 徹 <令和6年4月>		博士 (学術)		キャリアプランニング 基礎からわかる現代社会 社会学 哲学概論1 哲学概論2	1・2・3前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4 4 4 4	2 2 2 2 2	天理大学 人間学部准教授 (平成29年4月)	5日
34	兼担	准教授	オノ アキコ 小野 朗子 <令和6年4月>		博士 (理学)		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編 ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編 データサイエンス・AI入 門 データサイエンス・AI応 用 データリテラシー 数学と論理 統計学1 統計学2	1・2・3・4休 2・3・4休 1前・後 2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 8 4 4 4 2 2	1 1 4 2 2 1 1	天理大学 人間学部准教授 (令和5年4月)	5日
35 ①	兼担	講師	フクイ コウゾウ 福井 孝三 <令和6年4月>		修士 (言語教育 情報学)		日本語教育入門 日本語語彙論	1前 2後	2 2	1 1	天理大学 国際学部講師 (平成25年4月)	—
35 ②	兼担	准教授	キン シュ 金 珠 <令和8年4月>		博士 (日本語・ 日本文化)		日本語教育入門 日本語語彙論 日本語教授法1 日本語教授法2 第二言語習得論 日本語教育評価法	1前 2後 3前 3後 3前 4後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	大阪大学 日本語日本文化 教育研究センター 招聘研究員 (令和元年9月)	—
36	兼担	准教授	ナカムラ ヒサミ 中村 久美 <令和6年4月>		Ph. D in Anglo-Irish Literature and Drama (アイルランド)		英語1 英語2 多文化理解と言語(英 語) 世界の文学1 世界の文学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 4 4 4	1 1 2 2 2	天理大学 国際学部准教授 (平成25年4月)	—
37	兼担	准教授	ヨシダ チカ 吉田 智佳 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語1 英語2 実践アカデミック英語1 実践アカデミック英語2 アカデミック英語上級	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	1 1 2 1 2	1 1 2 1 2	天理大学 国際学部准教授 (平成16年4月)	—
38	兼担	准教授	カワカミ コウジ 川上 晃司 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学2 ニュースポーツ	1・2・3・4後 2・3・4前	2 1	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成31年4月)	—
39	兼担	准教授	ウメザキ サユリ 梅崎 さゆり <令和6年4月>		博士 (学術)		健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポー ツの役割	1・2・3・4前 1・2・3・4前	2 2	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成24年4月)	—
40	兼担	准教授	アナイ タカマサ 穴井 隆将 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学1 国際社会におけるスポー ツの役割	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成26年4月)	—
41	兼担	准教授	ヨモギダ タカマサ 蓬田 高正 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学1 健康スポーツ科学2 アウトドアスポーツ 野外教育実習	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4休 1・2・3・4休	4 2 1 1	2 1 1 1	天理大学 体育学部准教授 (平成28年4月)	—
42	兼担	准教授	オバタ オサム 小畑 治 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学1 レクリエーションナルス ポーツ	1・2・3・4前 2・3・4前	4 1	2 1	天理大学 体育学部准教授 (令和4年4月)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 適当たり平 均日数
43	兼任	講師	フカヤ コウジ 深谷 耕治 <令和6年4月>		修士 (社会学) 修士 (宗教学) (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和2年4月)	5日
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		
							伝道実習1	1・2・3・4休	1	1		
							伝道実習2	1・2・3・4休	1	1		
							伝道実習3	2・3・4前	1	1		
44	兼任	講師	サワイ マコト 澤井 真 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 講師 (平成31年4月)	5日
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		
							宗教と現代社会	1・2・3・4前・後	4	2		
							教育学概論1	1・2・3・4前	2	1		
							教育原理	2・3・4前・後	8	4		
45	兼任	講師	スナガ サトシ 須永 哲思 <令和6年4月>		博士 (教育学)		教育史	2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和4年4月)	5日
							学校教育社会学	2・3・4前・後	8	4		
							教育実習講義	3後	2	2		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1		
							学校教育支援	2・3・4休	1	1		
							教育史特論	2・3・4後	2	1		
							キャリアデザイン1	2・3・4前	2	1		
							日本国憲法	1・2・3・4後	8	4		
							法学	1・2・3・4前	10	5		
46	兼任	講師	オゼキ コウヘイ 小関 康平 <令和6年4月>		博士 (法学)		行政法1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和5年4月)	5日
							行政法2	1・2・3・4後	2	1		
							健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	6	3		
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	6	3		
47	兼任	講師	マツキ ユウヤ 松木 優也 <令和6年4月>		修士 (体育学) ※		健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	10	5	天理大学 体育学部講師 (令和4年4月)	-
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	6	3		
48	兼任	助教	カネコ リュウダイ 金子 竜大 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	6	3	天理大学 体育学部助教 (令和5年4月)	-
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	6	3		
49	兼任	講師	サイ ハイセイ 蔡 珮菁 <令和6年4月>		博士 (文学)		多文化理解と言語(中国語)	1・2・3・4前・後	4	2	中国文化大学 日本語学科准教授 (平成23年8月)	-
							多文化理解と言語(ロシア語)	1・2・3・4前・後	4	2		
50	兼任	講師	ザベレジナヤ オリガ Zaberezhnaia Olga <令和6年4月>		博士 (文化学) (ロシア)		多文化理解と言語(ロシア語)	1・2・3・4前・後	4	2	国立研究大学 高等経済学院 国際経済国際政治学 部東洋学部 上級講師 (令和2年4月)	-
							天理教概説1	1・2・3・4前	2	1		
51	兼任	講師	イノウエ ナルト 井上 成人 <令和6年4月>		文学士		天理教概説2	1・2・3・4後	2	1	天理教校 (平成18年4月)	-
							天理教概説1	1・2・3・4前	2	1		
52	兼任	講師	イハシ ユキエ 伊橋 幸江 <令和7年4月>		文学士		天理教学1	2・3・4前	2	1	天理教校 (平成2年4月)	-
							天理教学2	2・3・4後	2	1		
53	兼任	講師	ウエハラ ミチノブ 上原 道延 <令和7年4月>		教育学士		天理教学1	2・3・4前	2	1	-	-
							天理教学2	2・3・4後	2	1		
54	兼任	講師	ウメダ マサユキ 梅田 正之 <令和7年4月>		文学士		天理教学1	2・3・4前	2	1	-	-
							天理教学2	2・3・4後	2	1		
55	兼任	講師	カトウ マサト 加藤 匡人 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理教外部 (平成30年4月)	-
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
56	兼任	講師	サワイ イチロウ 澤井 一郎 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理教校 (平成25年4月)	-
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
57	兼任	講師	マツヤマ ツネノリ 松山 常教 <令和6年4月>		学士 (宗教学)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理教校 (平成19年4月)	-
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
58	兼任	講師	ヤスイ モトナオ 安井 幹直 <令和6年4月>		M.A (文学修士) (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	6	3	天理教一広分教会 会長 (令和元年5月)	-
							天理教概説2	1・2・3・4後	6	3		
59	兼任	講師	アラタ メグミ 荒田 恵 <令和9年4月>		修士 (文学)		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成31年4月)	-
							博物館実習2	4休	1	1		
60	兼任	講師	イヌイ セイジ 乾 誠二 <令和9年4月>		文学士		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成10年4月)	-
							博物館実習2	4休	1	1		



調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
61	兼任	講師	ナカオ ノリヒト 中尾 徳仁 <令和9年4月>		学士 (教育学)		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成11年4月)	—
62	兼任	講師	イマジ シュウヘイ 今治 周平 <令和6年4月>		法務博士		民法1 民法2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	やすらぎ法律 事務所 (令和元年5月)	—
63	兼任	講師	カド カツアキ 角 克明 <令和6年4月>		教育学修士 ※		地理学1 地理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—
64	兼任	講師	カトウ ヤスシ 加藤 康 <令和6年4月>		修士 (商学) ※		経営学1 経営学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	京都経済短期大学 経営情報学科 教授 (平成27年4月)	—
65	兼任	講師	カタオカ サチコ 片岡 佐知子 <令和6年4月>		博士 (理学)		科学と現代	1・2・3・4前・後	8	4	—	—
66	兼任	講師	サカテ セイジ 坂手 誠治 <令和6年4月>		博士 (学術)		生活の中の科学	1・2・3・4前・後	8	4	京都女子大学 家政学部教授 (令和2年4月)	—
67	兼任	講師	スズキ フミコ 鈴木 史子 <令和6年4月>		修士 (臨床心理学) ※		心理学1 心理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—
68	兼任	講師	タケムラ カズヤ 竹村 和也 <令和6年4月>		修士 (法学) ※		日本国憲法 法学	1・2・3・4後 1・2・3・4前	8 6	4 3	—	—
69	兼任	講師	トウイ ノブオ 東井 申雄 <令和6年4月>		修士 (人間科学)		心理学1 心理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	天理教教会本部 (平成28年8月)	—
70	兼任	講師	ナガサワ カズエ 長沢 一恵 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		基礎からわかるレポート 作成 近現代の遺産と未来	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	8 8	4 4	—	—
71	兼任	講師	ナカムラ タカハル 中村 珍晴 <令和6年4月>		博士 (スポーツ 科学)		障害学	1・2・3・4前	2	1	合同会社エクスビ ジョン代表 (令和3年3月)	—
72	兼任	講師	ニシ ナオミ 西 直美 <令和6年4月>		博士 (グローバル 社会研究)		基礎からわかるレポート 作成 政治学	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	2 4	1 2	同志社大学 法学部嘱託講師 (令和2年4月)	—
73	兼任	講師	フクシマ サワミ 福島 沢美 <令和6年4月>		学士 (教育学)		日本手話A 日本手話B	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	6 2	3 1	天理教教会本部 社会福祉課 (平成27年4月)	—
74	兼任	講師	フジイ ミノル 藤井 稔 <令和6年4月>		博士 (文学)		基礎からわかるレポート 作成	1・2・3・4後	2	1	—	—
75	兼任	講師	ミヤケ マサオ 三宅 正夫 <令和6年4月>		博士 (工学)		基礎からわかる数学	1・2・3・4前・後	4	2	—	—
76	兼任	講師	ヤギ ヒデジ 八木 英治 <令和6年4月>		修士 (教育学)		障害学	1・2・3・4後	2	1	奈良市子ども未来 部児童相談所設置 推進課 (令和3年4月)	—
77	兼任	講師	ヤスダ トモヒロ 安田 智博 <令和6年4月>		学士 (文学)		キャリアプランニング 労働と社会	1・2・3前 1・2・3・4前・後	2 6	1 3	—	—
78	兼任	講師	ヨシダ カズヒロ 吉田 和弘 <令和6年4月>		博士 (農学)		地球環境論	1・2・3・4前・後	8	4	国立大学法人 奈良国立機構 奈良女子大学 特任助教 (令和3年7月)	—
79	兼任	講師	ヨシモト エツコ 持元 江津子 <令和6年4月>		博士 (経済学)		コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	8	4	—	—
80	兼任	講師	ワタナベ ミツル 渡邊 碩 <令和6年4月>		修士 (経済学)		経済学1 経済学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
81	兼任	講師	イケダ ハナコ 池田 華子 <令和7年4月>		博士 (教育学)		臨床教育学特論	2・3・4休	2	1	大阪公立大学 国際基幹教育機構 准教授 (令和4年4月)	—
82	兼任	講師	オクモト タケヒロ 奥本 武裕 <令和6年4月>		修士 (文学)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	—	—
83	兼任	講師	カナヤマ サキコ 金山 佐喜子 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		特別な支援の必要な生徒 の理解	1前・後	8	4	—	—
84	兼任	講師	キタグチ マナブ 北口 学 <令和6年4月>		学士 (芸術)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 4 4	1 1 2 2	(株)アジール フィリア 代表取締役 (平成27年9月)	—
85	兼任	講師	コジマ ゲンイチロウ 小島 源一郎 <令和8年4月>		教育学士		教育方法学(情報通信技 術を活用した教育の理論 及び方法を含む)	3前・後	18	9	—	—
86	兼任	講師	トミタ ミノル 富田 稔 <令和6年4月>		修士 (都市政策)		人権と差別1 人権と差別2 教職実践演習(中・高) 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 4 4	1 1 1 2 2	—	—
87	兼任	講師	マツエ タクオ 松枝 拓生 <令和8年4月>		博士 (教育学)		道徳の理論及び指導法	3・4前・後	8	4	(株)山嘉企画 取締役 (平成24年4月)	—
88	兼任	講師	イスカイ マコト 犬飼 誠 <令和6年4月>		文学士		矯正概論 矯正保護教育(施設参観 を含む)	1・2・3・4前 3・4後	2 2	1 1	奈良少年院法務教 官専門官 (令和3年4月)	—
89	兼任	講師	タカハシ ヒデキ 高橋 秀紀 <令和7年4月>		文学士		矯正保護支援実践論	※ 2・3・4後	0.8	1	—	—
90	兼任	講師	ナカムラ ヒロコ 中村 寛子 <令和6年4月>		学術修士 ※		更生保護概論	1・2・3・4前	2	1	—	—
91	兼任	講師	ホウジョウ マサタカ 北條 正崇 <令和7年4月>		学士 (法学)		犯罪被害者支援論	2・3・4後	2	1	やすらぎ 法律事務所 (平成12年10月)	—
92	兼任	講師	ヤマモト ミチツグ 山本 道次 <令和7年4月>		体育学士		矯正保護支援実践論	※ 2・3・4後	1.2	1	社会福祉法人白梅学 園副園長・児童養護 施設長 (平成12年7月)	—
93	兼任	講師	サトウ トシエ 佐藤 敏江 <令和7年4月>		文学士		児童・YAサービス論	2・3・4前	4	2	—	—
94	兼任	講師	スズキ ヨウジ 鈴木 陽二 <令和6年4月>		文学修士 (韓国)		韓国・朝鮮語1 韓国・朝鮮語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	天理大学 国際学部准教授 (令和4年3月ま で)	—
95	兼任	講師	ヨシカワ マスヒコ 吉川 万寿彦 <令和6年4月>		文学修士		多文化理解と言語(韓 国・朝鮮語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理教会本部 内統領室 次長 (令和3年10月)	—
96	兼任	講師	イヌイ タクヤ 乾 拓也 <令和6年4月>		修士 (文学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—
97	兼任	講師	スズシマ アズサ 鈴脇 梓 <令和6年4月>		博士 (英文学)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—
98	兼任	講師	ヒオキ ナオコ 日沖 直子 <令和6年4月>		博士 (宗教美術) (米国)		英語1 英語2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	—	—
99	兼任	講師	ヤマシタ ダイスケ 山下 大輔 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		多文化理解と言語(ドイ ツ語)	1・2・3・4前・後	4	2	大阪大学大学院 医学研究科 特任研究員 (令和3年5月)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
100	兼任	講師	イシダ マサコ 石田 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化学) ※		英語1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語2	1・2・3・4後	3	3		
101	兼任	講師	オギノ アヤ 荻野 綾 <令和6年4月>		修士 (外国語 教育学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
102	兼任	講師	カムラ マサコ 家村 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化学)		教養アカデミック英語1	1・2・3・4前・後	2	2	—	—
							教養アカデミック英語2	1・2・3・4前・後	2	2		
							実践アカデミック英語2	1・2・3・4前	1	1		
103	兼任	講師	コバヤシ カズヨ 小林 和代 <令和6年4月>		文学修士		中国語1	1・2・3・4前	1	1	—	—
							中国語2	1・2・3・4後	1	1		
104	兼任	講師	ゴトウ サヤコ 後藤 朗子 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		英語1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語2	1・2・3・4後	3	3		
105	兼任	講師	ナイトウ タカオ 内藤 貴夫 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		英語1	1・2・3・4前	4	4	—	—
							英語2	1・2・3・4後	4	4		
106	兼任	講師	ノダ トモコ 野田 智子 <令和6年4月>		博士 (文学)		英語1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語2	1・2・3・4後	3	3		
107	兼任	講師	ヒキダ タカヤス 正田 隆康 <令和6年4月>		博士 (文学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
108	兼任	講師	ヤマカワ マサシ 山川 仁 <令和6年4月>		博士 (人間・ 環境学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
109	兼任	講師	ヤマグチ ノリカズ 山口 徳一 <令和6年4月>		修士 (英文学) ※		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
110	兼任	講師	ヤマムラ セイジ 山村 誠治 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
111	兼任	講師	サカイ タカヒデ 坂井 隆秀 <令和6年4月>		体育学士		健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	8	4	—	—
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	8	4		
112	兼任	講師	ヤマダ サダコ 山田 貞子 <令和6年4月>		教育学修士		健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	4	2	—	—
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	4	2		
							レクリエーション スポーツ	2・3・4前	1	1		
							ニュースポーツ	2・3・4前	1	1		

別記様式第3号（その2の1）

教 員 の 氏 名 等													
(人文学部社会福祉学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称		配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
1	専	教授 (学科 主任)	ワタナベ カズクニ 渡辺 一城 <令和6年4月>		修士 (社会福祉学)		社会福祉学演習1	2前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成13年4月)	5日	
							社会福祉学演習3	4前	2	1			
							社会福祉学演習4	4後	2	1			
							地域福祉と包括的支援体 制1	2・3・4前	2	1			
							地域福祉と包括的支援体 制2	2・3・4後	2	1			
							公的扶助論	2・3・4前	2	1			
							ソーシャルワーク演習5	4前	2	1			
							ソーシャルワーク実習指 導1	2後	2	1			
							ソーシャルワーク実習指 導2	3前	2	1			
							ソーシャルワーク実習指 導3	3後	2	1			
							ソーシャルワーク実習2	3休	4	1			
							天理教社会福祉論	1・2・3・4前	2	1			
							卒業論文	4休	6	1			
2	専	教授	セキモト カツヨシ 関本 克良 <令和6年4月>		博士 (学術)		ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部教授 (平成22年4月)	5日	
							ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1			
							国際協力入門	1・2・3・4前	2	1			
							国際協力実習	1・2・3・4休	2	1			
							国際協力演習1	1・2・3・4前	2	1			
							国際協力演習2	1・2・3・4後	2	1			
							国際ボランティア論	2・3・4後	2	1			
							キャリアプランニング	1・2・3前・後	8	4			
							基礎からわかるレポート 作成	1・2・3・4前	2	1			
							社会福祉学演習1	2前	2	1			
3	専	教授	マツバラ コウイチロウ 松原 浩一郎 <令和6年4月>		修士 (社会福祉学) ※		基礎ゼミナール1	1前	2	1	九州保健福祉大学 社会福祉学部教授 (令和4年10月)	5日	
							基礎ゼミナール2	1後	2	1			
							社会福祉学演習2	3後	2	1			
							障害者福祉論	1・2・3・4前	2	1			
							権利擁護を支える法制度	2・3・4前	2	1			
							ソーシャルワーク演習3	3前	2	1			
							ソーシャルワーク演習4	3後	2	1			
							ソーシャルワーク実習指 導1	2後	2	1			
							ソーシャルワーク実習指 導2	3前	2	1			
							ソーシャルワーク実習指 導3	3後	2	1			
							ソーシャルワーク実習1	2休	2	1			
							ソーシャルワーク実習2	3休	4	1			
							4	専	教授	ヨシダ ハツエ 吉田 初恵 <令和6年4月>			
社会福祉学演習1	2前	2	1										
社会福祉学演習2	3後	2	1										
社会福祉学演習3	4前	2	1										
社会福祉学演習4	4後	2	1										
社会福祉概論1	1・2・3・4前	2	1										
社会福祉概論2	1・2・3・4後	2	1										
社会保障論1	2・3・4前	2	1										
社会保障論2	2・3・4後	2	1										
医療福祉論	2・3・4前	2	1										
地域連携実習	2・3・4休	2	1										
5	専	教授	モリモト ノブエ 森元 伸枝 <令和6年4月>		修士 (経営学) ※		基礎ゼミナール1	1前	2	1	大手前大学 経営学部准教授 (平成27年4月)	5日	
							基礎ゼミナール2	1後	2	1			
							社会福祉学演習3	4前	2	1			
							社会福祉学演習4	4後	2	1			
							社会福祉調査法	3・4前	2	1			
							福祉経営論	4前	2	1			
							地域連携実習	2・3・4休	2	1			
6	専	教授	ノボリ ヒロシ 昇 寛 <令和6年4月>		博士 (保健医療学)		社会福祉学演習1	2前	2	1	帝京科学大学 医療科学部 (令和5年3月まで)	5日	
							社会福祉学演習2	3後	2	1			
							社会福祉学演習3	4前	2	1			
							社会福祉学演習4	4後	2	1			
							人体の構造と機能及び疾 病	2・3・4前	2	1			
							地域連携実習	2・3・4休	2	1			
7	専	教授	イシイ タカヒロ 石井 孝弘 <令和6年4月>		修士 (学術)		社会福祉学演習1	2前	2	1	帝京科学大学 医療科学部 (平成23年4月)	5日	
							社会福祉学演習2	3後	2	1			
							社会福祉学演習3	4前	2	1			
							社会福祉学演習4	4後	2	1			
							地域連携実習	2・3・4休	2	1			
							精神障害リハビリテー ション論	2・3・4前	2	1			

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学の職務に 従事する 適当なり平 均日数
8	専	准教授	モリグチ ヒロミ 森口 弘美 <令和6年4月>		博士 (社会福祉学)		社会福祉学演習3	4前	2	1	天理大学 人間学部准教授 (平成31年4月)	5日
							社会福祉学演習4	4後	2	1		
							ソーシャルワーク論1	1・2・3・4前	2	1		
							ソーシャルワーク論2	1・2・3・4後	2	1		
							ソーシャルワーク実習指 導2	3前	2	1		
							ソーシャルワーク実習指 導3	3後	2	1		
							ソーシャルワーク実習2	3休	4	1		
							精神保健福祉援助演習1	2・3後	2	1		
							精神保健福祉援助演習2	3・4前	2	1		
							精神保健福祉援助実習A	3・4休	5	1		
							精神保健福祉援助実習B	4休	3	1		
							精神保健福祉援助実習指 導1	2・3後	2	1		
精神保健福祉援助実習指 導2	3・4前	2	1									
精神保健福祉援助実習指 導3	3・4後	2	1									
9	専	准教授	キタガキ トモキ 北垣 智基 <令和6年4月>		修士 (社会学) ※		社会福祉学演習3	4前	2	1	天理大学 人間学部准教授 (平成31年4月)	5日
							社会福祉学演習4	4後	2	1		
							ソーシャルワーク論3	2・3・4前	2	1		
							ソーシャルワーク論4	2・3・4後	2	1		
							ソーシャルワーク演習1	2前	2	1		
							ソーシャルワーク演習2	2後	2	1		
							ソーシャルワーク演習3	3前	2	1		
							ソーシャルワーク演習4	3後	2	1		
							ソーシャルワーク実習指 導1	2後	2	1		
							ソーシャルワーク実習指 導2	3前	2	1		
							ソーシャルワーク実習指 導3	3後	2	1		
							ソーシャルワーク実習1	2休	2	1		
ソーシャルワーク実習2	3休	4	1									
10	専	准教授	フカヤ ヒロカズ 深谷 弘和 <令和6年4月>		博士 (社会学)		社会福祉学演習3	4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (平成30年4月)	5日
							社会福祉学演習4	4後	2	1		
							児童福祉論	1・2・3・4前	2	1		
							精神保健福祉の原理1	2・3・4前	2	1		
							精神保健福祉の原理2	2・3・4後	2	1		
							ソーシャルワーク理論と 方法(専門)1	3・4前	2	1		
							ソーシャルワーク理論と 方法(専門)2	3・4後	2	1		
							精神保健福祉制度論	2・3・4後	2	1		
							精神保健福祉援助演習3	3・4後	2	1		
							精神保健福祉援助実習A	3・4休	5	1		
							精神保健福祉援助実習B	4休	3	1		
							精神保健福祉援助実習指 導1	2・3後	2	1		
精神保健福祉援助実習指 導2	3・4前	2	1									
精神保健福祉援助実習指 導3	3・4後	2	1									
11	専	准教授	フクイ ヤスヒロ 福井 康博 <令和6年4月>		文学士		基礎ゼミナール1	1前	2	1	奈良県北葛城郡 広陵町教育委員会 指導主事 (令和4年4月)	5日
							社会福祉学演習2	3後	2	1		
							地域連携実習	2・3・4休	2	1		
12	専	講師	タネムラ リタロウ 種村 理太郎 <令和6年4月>		修士 (社会福祉学) ※		基礎ゼミナール1	1前	2	1	関西福祉科学大学 社会福祉学部講師 (平成31年4月)	5日
							ソーシャルワーク論5	3・4後	2	1		
							ソーシャルワーク論6	3・4後	2	1		
							高齢者福祉論	1・2・3・4後	2	1		
							ソーシャルワーク演習1	2前	2	1		
							ソーシャルワーク演習2	2後	2	1		
							ソーシャルワーク演習3	3前	2	1		
							ソーシャルワーク演習4	3後	2	1		
							ソーシャルワーク演習5	4前	2	1		
							ソーシャルワーク実習指 導2	3前	2	1		
							ソーシャルワーク実習指 導3	3後	2	1		
							ソーシャルワーク実習1	2休	2	1		
ソーシャルワーク実習2	3休	4	1									
13	兼担	教授	オカダ マサヒコ 岡田 正彦 <令和6年4月>		Ph. D (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		
14	兼担	教授	ヒガシババ イクオ 東馬場 郁生 <令和6年4月>		Doctor of Philosophy (History of Religions) (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
							天理教概説2	1・2・3・4後	4	2		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就任する適当たり平均日数
15	兼任	教授	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和6年4月>		文学修士 ※		博物館実習 1	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成11年4月)	5日
	兼任	講師	サイトウ ジュン 齊藤 純 <令和9年4月>				博物館実習 1	3前	2	1	天理大学 人文学部教授 (令和9年3月まで)	-
16	兼任	教授	ハタカマ カズヒロ 幡鎌 一弘 <令和6年4月>		修士 (文学)		宗教と芸能	1・2・3・4後	2	1	天理大学 文学部教授 (平成8年4月)	5日
17	兼任	教授	オダギ ハルタロウ 小田木 治太郎 <令和6年4月>		文学修士		博物館実習 1	3前	2	1	天理大学 文学部教授 (平成21年4月)	5日
18	兼任	教授	カナヤマ モトハル 金山 元春 <令和6年4月>		博士 (心理学)		生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成31年4月)	5日
19	兼任	教授 (学部長)	ヤマナカ ヒデオ 山中 秀夫 <令和6年4月>		博士 (学術)		情報資源組織論	3・4前	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							情報資源組織演習 1	3・4後	4	2		
							情報資源組織演習 2	3・4後	4	2		
							図書館情報学特論	4前	2	1		
20	兼任	教授	ソヤマ ノリコ 曾山 典子 <令和6年4月>		博士 (理学)		データサイエンス・AI入門	1前・後	8	4	天理大学 人間学部教授 (平成10年4月)	5日
							コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	12	6		
							情報処理	2・3・4前・後	4	2		
21	兼任	教授	ウエダ ノブヒコ 上田 喜彦 <令和6年4月>		学士 (教育学)		天理大学特別講義 1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成20年4月)	5日
							天理大学特別講義 2	1・2・3・4前	2	1		
							天理大学特別講義 3	1・2・3・4前	2	1		
							天理大学特別講義 4	1・2・3・4前	2	1		
							インターンシップ 1	1・2・3休	1	1		
							インターンシップ 2	1・2・3休	2	1		
							海外インターンシップ 1	2・3・4休	1	1		
							海外インターンシップ 2	2・3・4休	2	1		
							教職論	1前・後	10	5		
							教育課程論	3・4前・後	8	4		
							教育方法学(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	3前・後	4	2		
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1		
							22	兼任	教授	タケムラ カゲキ 竹村 景生 <令和6年4月>		
ローカリーアクト天理 SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1									
生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3・4後	4	2									
教育実習講義	3後	2	2									
介護等体験	3休	1	1									
教職実践演習(中・高)	4後	14	7									
学校教育支援	2・3・4休	1	1									
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3・4前・後	8	4									
学校教育心理学	2・3・4前・後	8	4									
教育相談の理論及び方法	2・3・4前・後	8	4									
23	兼任	教授	ナカ アツシ 仲 淳 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		教育実習講義	3後	1	1	天理大学 人間学部教授 (平成17年4月)	5日
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1		
							教育実習 1	4休	2	1		
							教育実習 2	4休	2	1		
							学校教育支援	2・3・4休	1	1		
							図書館情報システム論	2・3・4後	4	2		
							情報サービス論	3・4前	4	2		
24	兼任	教授	コガ タカシ 古賀 崇 <令和6年4月>		修士 (教育学) Master of Library Science (米国) ※		情報サービス演習 1	3・4後	4	2	天理大学 人間学部教授 (平成24年4月)	5日
							情報サービス演習 2	3・4後	4	2		
							図書館情報資源概論	2・3・4前	4	2		
							図書館情報資源特論	3・4前	2	1		
							カルチュラルスタディーズ	1・2・3・4前・後	4	2		
25	兼任	教授	ノゼウオン 魯ゼウオン <令和6年4月>		博士 (社会学)		多文化理解と言語(タイ語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成19年4月)	-
26	兼任	教授	ノヅ コウジ 野津 幸治 <令和6年4月>		M.A. (タイ)		多文化理解と言語(インドネシア語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成4年4月)	-
27	兼任	教授	オクシマ ミカ 奥島 美夏 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		キャリアデザイン 2	2・3・4後	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	-

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
28	兼任	教授	モリ ヨウメイ 森 洋明 <令和6年4月>		言語学 (意味論) 修士 (フランス)		多文化理解と言語(フランス語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	-
							天理異文化伝道	2・3・4前	2	1		
29	兼任	教授	ノグチ シゲル 野口 茂 <令和6年4月>		Magister en Historia (ベネズエラ)		多文化理解と言語(スペイン語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成22年4月)	-
30	兼任	教授	キタモリ エリ 北森 絵里 <令和6年4月>		修士 (地域研究)		多文化理解と言語(ポルトガル語)	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 国際学部教授 (平成8年4月)	-
31	兼任	教授	オカダ タツキ 岡田 龍樹 <令和6年4月>		教育学修士 ※		日本事情1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部教授 (平成3年4月)	-
							日本事情2	1・2・3・4後	2	1		
32	兼任	教授	キクチ ノリユキ 菊池 律之 <令和6年4月>		修士 (言語学) ※		日本語学入門	1前	2	1	天理大学 国際学部教授 (平成23年4月)	-
							日本語文法論1	2前	2	1		
							日本語文法論2	2後	2	1		
							日本語音声学	2後	2	1		
							言語の対照研究	3前	2	1		
							日本語指導法	4前	2	1		
33	兼任	教授	マツナガ トシヤ 松永 稔也 <令和6年4月>		博士 (言語文化学)		多文化理解と言語(日本語)	1・2・3・4前	2	1	宮崎大学 多言語多文化教育 研究センター 准教授 (令和3年4月)	-
34	兼任	教授	オクダ マキコ 奥田 真紀子 <令和6年4月>		修士 (学術) ※		保健医療の仕組みと健康づくり	1・2・3・4後	2	1	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	-
35	兼任	教授	マスタニ ヒロシ 増谷 弘 <令和6年4月>		博士 (医学)		基礎からわかる生物・化学	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 医療学部教授 (令和5年4月)	-
36	兼任	教授	ホリウチ ミドリ 堀内 みどり <令和6年4月>		哲学博士 (インド)		ジェンダー・セクシャリティ	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成元年4月)	-
37	兼任	教授	カネコ アキラ 金子 昭 <令和6年4月>		博士 (哲学)		哲学概論1	1・2・3・4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 教授 (平成3年4月)	-
							哲学概論2	1・2・3・4後	2	1		
							倫理学1	1・2・3・4前	6	3		
							倫理学2	1・2・3・4後	4	2		
38	兼任	准教授	サワイ ジロウ 澤井 治郎 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部准教授 (平成26年4月)	5日
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
							建学の精神と天理大学のあゆみ	2前	2	1		
							英語1	1・2・3・4前	1	1		
							英語2	1・2・3・4後	1	1		
39	兼任	准教授	クロイワ ヤスヒロ 黒岩 康博 <令和6年4月>		博士 (文学)		基礎からわかる近代史	1・2・3・4前・後	4	2	天理大学 文学部准教授 (平成25年4月)	5日
40	兼任	准教授	ハコダ テツ 箱田 徹 <令和6年4月>		博士 (学術)		キャリアプランニング	1・2・3前・後	4	2	天理大学 人間学部准教授 (平成29年4月)	5日
							基礎からわかる現代社会	1・2・3・4前・後	4	2		
							社会学	1・2・3・4前・後	4	2		
							哲学概論1	1・2・3・4前	4	2		
							哲学概論2	1・2・3・4後	4	2		
41	兼任	准教授	オノ アキコ 小野 朗子 <令和6年4月>		博士 (理学)		ローカリーアクト天理SDGs 森に生きる入門編	1・2・3・4休	1	1	天理大学 人間学部准教授 (令和5年4月)	5日
							ローカリーアクト天理SDGs 森に生きる実践編	2・3・4休	1	1		
							データサイエンス・AI入門	1前・後	8	4		
							データサイエンス・AI応用	2・3・4前・後	4	2		
							データリテラシー	2・3・4前・後	4	2		
							数学と論理	1・2・3・4前・後	4	2		
							統計学1	1・2・3・4前	2	1		
							統計学2	1・2・3・4後	2	1		
42 ①	兼任	講師	フクイ コウゾウ 福井 孝三 <令和6年4月>		修士 (言語教育 情報学)		日本語教育入門	1前	2	1	天理大学 国際学部講師 (平成25年4月)	-
							日本語語彙論	2後	2	1		
42 ②	兼任	准教授	キン シュ 金 珠 <令和8年4月>		博士 (日本語・ 日本文化)		日本語教育入門	1前	2	1	大阪大学 日本語日本文化 教育研究センター 招聘研究員 (令和元年9月)	-
							日本語語彙論	2後	2	1		
							日本語教授法1	3前	2	1		
							日本語教授法2	3後	2	1		
							第二言語習得論	3前	2	1		
							日本語教育評価法	4後	2	1		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
43	兼任	准教授	ナカムラ ヒサミ 中村 久美 <令和6年4月>		Ph. D in Anglo-Irish Literature and Drama (アイルランド)		英語 1	1・2・3・4前	1	1	天理大学 国際学部准教授 (平成25年4月)	-
							英語 2	1・2・3・4後	1	1		
							多文化理解と言語 (英 語)	1・2・3・4前・後	4	2		
							世界の文学 1	1・2・3・4前	4	2		
							世界の文学 2	1・2・3・4後	4	2		
44	兼任	准教授	ヨシダ チカ 吉田 智佳 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語 1	1・2・3・4前	1	1	天理大学 国際学部准教授 (平成16年4月)	-
							英語 2	1・2・3・4後	1	1		
							実践アカデミック英語 1	1・2・3・4前・後	2	2		
							実践アカデミック英語 2	1・2・3・4後	1	1		
							アカデミック英語上級	1・2・3・4前・後	2	2		
45	兼任	准教授	カワカミ コウジ 川上 晃司 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学 2	1・2・3・4後	2	1	天理大学 体育学部准教授 (平成31年4月)	-
							ニュースポーツ	2・3・4前	1	1		
46	兼任	准教授	ウメザキ サユリ 梅崎 さゆり <令和6年4月>		博士 (学術)		健康スポーツ科学 1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 体育学部准教授 (平成24年4月)	-
							国際社会におけるスポー ツの役割	1・2・3・4前	2	1		
47	兼任	准教授	アナイ タカマサ 穴井 隆特 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学 1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 体育学部准教授 (平成26年4月)	-
							国際社会におけるスポー ツの役割	1・2・3・4後	2	1		
48	兼任	准教授	ヨモギダ タカマサ 蓬田 高正 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学 1	1・2・3・4前	4	2	天理大学 体育学部准教授 (平成28年4月)	-
							健康スポーツ科学 2	1・2・3・4後	2	1		
							アウトドアスポーツ	1・2・3・4休	1	1		
49	兼任	准教授	オバタ オサム 小畑 治 <令和6年4月>		修士 (教育学)		健康スポーツ科学 1	1・2・3・4前	4	2	天理大学 体育学部准教授 (令和4年4月)	-
							レクリエーションアル スポーツ	2・3・4前	1	1		
50	兼任	講師	フカヤ コウジ 深谷 耕治 <令和6年4月>		修士 (社会学) 修士 (宗教学) (米国)		天理教概説 1	1・2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和2年4月)	5日
							天理教概説 2	1・2・3・4後	2	1		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		
							伝道実習 1	1・2・3・4休	1	1		
							伝道実習 2	1・2・3・4休	1	1		
							伝道実習 3	2・3・4前	1	1		
						伝道実習 4	2・3・4後	1	1			
51	兼任	講師	サワイ マコト 澤井 真 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説 1	1・2・3・4前	2	1	天理大学附属 おやさと研究所 講師 (平成31年4月)	5日
							天理教概説 2	1・2・3・4後	2	1		
							建学の精神と天理大学の あゆみ	2前	2	1		
							宗教と現代社会	1・2・3・4前・後	4	2		
52	兼任	講師	スナガ サトシ 須永 哲思 <令和6年4月>		博士 (教育学)		教育原理	2・3・4前・後	8	4	天理大学 人間学部講師 (令和4年4月)	5日
							教育史	2・3・4前	2	1		
							学校教育社会学	2・3・4前・後	8	4		
							教育実習講義	3後	2	2		
							介護等体験	3休	1	1		
							教職実践演習 (中・高)	4後	2	1		
							学校教育支援	2・3・4休	1	1		
							教育史特論	2・3・4後	2	1		
53	兼任	講師	オゼキ コウヘイ 小関 康平 <令和6年4月>		博士 (法学)		キャリアデザイン 1	2・3・4前	2	1	天理大学 人間学部講師 (令和5年4月)	5日
							日本国憲法	1・2・3・4後	8	4		
							法学	1・2・3・4前	10	5		
							行政法 1	1・2・3・4前	2	1		
						行政法 2	1・2・3・4後	2	1			
54	兼任	講師	マツキ ユウヤ 松木 優也 <令和6年4月>		修士 (体育学) ※		健康スポーツ科学 1	1・2・3・4前	6	3	天理大学 体育学部講師 (令和4年4月)	-
							健康スポーツ科学 2	1・2・3・4後	6	3		
55	兼任	助教	カネコ リュウダイ 金子 竜大 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康スポーツ科学 1	1・2・3・4前	10	5	天理大学 体育学部助教 (令和5年4月)	-
							健康スポーツ科学 2	1・2・3・4後	6	3		
56	兼任	講師	サイ ハイセイ 蔡 珮菁 <令和6年4月>		博士 (文学)		多文化理解と言語 (中国 語)	1・2・3・4前・後	4	2	中国文化大学 日本語学科准教授 (平成23年8月)	-
57	兼任	講師	ザベレジナヤ オリガ Zaberezhnaia Olga <令和6年4月>		博士 (文化学) (ロシア)		多文化理解と言語 (ロシ ア語)	1・2・3・4前・後	4	2	国立研究大学 高等経済学院 国際経済国際政治学 部東洋学部 上級講師 (令和2年4月)	-
58	兼任	講師	アカホ ミツフミ 赤穂 光郁 <令和9年4月>		修士 (人間福祉学)		ソーシャルワーク演習 5	4前	2	1	四天王寺悲田院 ケアプランセンター 支援長 (平成30年4月)	-



調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学の職務に 従事する 週当たり平均 日数
59	兼任	講師	エノモト ヒロタカ 榎本 悠孝 <令和7年4月>		修士 (学術) ※		精神医学と精神医療1	2・3・4前	2	1	-	-
							精神医学と精神医療2	2・3・4後	2	1		
							現代の精神保健の課題と 支援1	2・3・4前	2	1		
							現代の精神保健の課題と 支援2	2・3・4後	2	1		
60	兼任	講師	シライ ミチヨ 白井 三千代 <令和7年4月>		修士 (社会学)		ソーシャルワーク演習1	2前	2	1	湊川短期大学 人間生活学科 准教授 (平成24年4月)	-
							ソーシャルワーク演習2	2後	2	1		
61	兼任	講師	スガワ コウイチ 須河 浩一 <令和7年4月>		学士 (社会福祉学)		刑事司法と福祉	2・3・4後	2	1	-	-
62	兼任	講師	マエダ タカヒロ 前田 崇博 <令和6年4月>		博士 (社会学)		社会学と社会システム	1・2・3・4後	2	1	大阪城南女子短期 大学 現代生活学科教授 (平成14年4月)	-
							現代家族論	1・2・3・4後	2	1		
63	兼任	講師	イノウエ ナルト 井上 成人 <令和6年4月>		文学士		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理教校 (平成18年4月)	-
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
64	兼任	講師	イハシ ユキエ 伊橋 幸江 <令和7年4月>		文学士		天理教学1	2・3・4前	2	1	天理教校 (平成2年4月)	-
							天理教学2	2・3・4後	2	1		
65	兼任	講師	ウエハラ ミチノブ 上原 道延 <令和7年4月>		教育学士		天理教学1	2・3・4前	2	1	-	-
							天理教学2	2・3・4後	2	1		
66	兼任	講師	ウメダ マサユキ 梅田 正之 <令和7年4月>		文学士		天理教学1	2・3・4前	2	1	-	-
							天理教学2	2・3・4後	2	1		
67	兼任	講師	カトウ マサト 加藤 匡人 <令和6年4月>		博士 (文学)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理教海外部 (平成30年4月)	-
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
68	兼任	講師	サワイ イチロウ 澤井 一郎 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理教校 (平成25年4月)	-
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
69	兼任	講師	マツヤマ ツネノリ 松山 常教 <令和6年4月>		学士 (宗教学)		天理教概説1	1・2・3・4前	2	1	天理教校 (平成19年4月)	-
							天理教概説2	1・2・3・4後	2	1		
70	兼任	講師	ヤスイ モトナオ 安井 幹直 <令和6年4月>		M.A (文学修士) (米国)		天理教概説1	1・2・3・4前	6	3	天理教一広分教会 会長 (令和元年5月)	-
							天理教概説2	1・2・3・4後	6	3		
71	兼任	講師	アラタ メグミ 荒田 恵 <令和9年4月>		修士 (文学)		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成31年4月)	-
72	兼任	講師	イヌイ セイジ 乾 誠二 <令和9年4月>		文学士		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成10年4月)	-
73	兼任	講師	ナカオ ノリヒト 中尾 徳仁 <令和9年4月>		学士 (教育学)		博物館実習2	4休	1	1	天理大学附属 天理参考館 学芸員 (平成11年4月)	-
74	兼任	講師	イマジ シュウヘイ 今治 周平 <令和6年4月>		法務博士		民法1	1・2・3・4前	2	1	やすらぎ法律 事務所 (令和元年5月)	-
							民法2	1・2・3・4後	2	1		
75	兼任	講師	カド カツアキ 角 克明 <令和6年4月>		教育学修士 ※		地理学1	1・2・3・4前	4	2	-	-
							地理学2	1・2・3・4後	4	2		
76	兼任	講師	カトウ ヤスシ 加藤 康 <令和6年4月>		修士 (商学) ※		経営学1	1・2・3・4前	4	2	京都経済短期大学 経営情報学科 教授 (平成27年4月)	-
							経営学2	1・2・3・4後	4	2		
77	兼任	講師	カタオカ サチコ 片岡 佐知子 <令和6年4月>		博士 (理学)		科学と現代	1・2・3・4前・後	8	4	-	-
78	兼任	講師	サカテ セイジ 坂手 誠治 <令和6年4月>		博士 (学術)		生活の中の科学	1・2・3・4前・後	8	4	京都女子大学 家政学部教授 (令和2年4月)	-

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
79	兼任	講師	スズキ フミコ 鈴木 史子 <令和6年4月>		修士 (臨床心理学) ※		心理学1 心理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—
80	兼任	講師	タケムラ カズヤ 竹村 和也 <令和6年4月>		修士 (法学) ※		日本国憲法 法学	1・2・3・4後 1・2・3・4前	8 6	4 3	—	—
81	兼任	講師	トウイ ノブオ 東井 申雄 <令和6年4月>		修士 (人間科学)		心理学1 心理学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	天理教会会本部 (平成28年8月)	—
82	兼任	講師	ナガサワ カズエ 長沢 一恵 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		基礎からわかるレポート 作成 近現代の遺産と未来	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	8 8	4 4	—	—
83	兼任	講師	ナカムラ タカハル 中村 珍晴 <令和6年4月>		博士 (スポーツ 科学)		障害学	1・2・3・4前	2	1	合同会社エクスビ ジョン代表 (令和3年3月)	—
84	兼任	講師	ニシ ナオミ 西 直美 <令和6年4月>		博士 (グローバル 社会研究)		基礎からわかるレポート 作成 政治学	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	2 4	1 2	同志社大学 法学部嘱託講師 (令和2年4月)	—
85	兼任	講師	フクシマ サワミ 福島 沢美 <令和6年4月>		学士 (教育学)		日本手話A 日本手話B	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	6 2	3 1	天理教会会本部 社会福祉課 (平成27年4月)	—
86	兼任	講師	フジイ ミノル 藤井 稔 <令和6年4月>		博士 (文学)		基礎からわかるレポート 作成	1・2・3・4後	2	1	—	—
87	兼任	講師	ミヤケ マサオ 三宅 正夫 <令和6年4月>		博士 (工学)		基礎からわかる数学	1・2・3・4前・後	4	2	—	—
88	兼任	講師	ヤギ ヒデジ 八木 英治 <令和6年4月>		修士 (教育学)		障害学	1・2・3・4後	2	1	奈良市子ども未来 部児童相談所設置 推進課 (令和3年4月)	—
89	兼任	講師	ヤスダ トモヒロ 安田 智博 <令和6年4月>		学士 (文学)		キャリアプランニング 労働と社会	1・2・3前 1・2・3・4前・後	2 6	1 3	—	—
90	兼任	講師	ヨシダ カズヒロ 吉田 和弘 <令和6年4月>		博士 (農学)		地球環境論	1・2・3・4前・後	8	4	国立大学法人 奈良国立機構 奈良女子大学 特任助教 (令和3年7月)	—
91	兼任	講師	ヨシモト エツコ 持元 江津子 <令和6年4月>		博士 (経済学)		コンピュータ入門	1・2・3・4前・後	8	4	—	—
92	兼任	講師	ワタナベ ミツル 渡邊 碩 <令和6年4月>		修士 (経済学)		経済学1 経済学2	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	—	—
93	兼任	講師	イケダ ハナコ 池田 華子 <令和7年4月>		博士 (教育学)		臨床教育学特論	2・3・4休	2	1	大阪公立大学 国際基幹教育機構 准教授 (令和4年4月)	—
94	兼任	講師	オクモト タケヒロ 奥本 武裕 <令和6年4月>		修士 (文学)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	—	—
95	兼任	講師	カナヤマ サキコ 金山 佐喜子 <令和6年4月>		修士 (教育学) ※		特別な支援の必要な生徒 の理解	1前・後	8	4	—	—
96	兼任	講師	キタグチ マナブ 北口 学 <令和6年4月>		学士 (芸術)		人権と差別1 人権と差別2 人権教育論1 人権教育論2	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 4 4	1 1 2 2	(株)アジュール フィリア 代表取締役 (平成27年9月)	—
97	兼任	講師	コジマ ゲンイチロウ 小島 源一郎 <令和8年4月>		教育学士		教育方法学(情報通信技 術を活用した教育の理論 及び方法を含む)	3前・後	18	9	—	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学の職務に 従事する 週当たり平均 日数	
98	兼任	講師	トミタ ミノル 富田 稔 <令和6年4月>		修士 (都市政策)		人権と差別1	1・2・3・4前	2	1	-	-	
							人権と差別2	1・2・3・4後	2	1			
							教職実践演習(中・高)	4後	2	1			
							人権教育論1	2・3・4前	4	2			
							人権教育論2	2・3・4後	4	2			
99	兼任	講師	マツエ タクオ 松枝 拓生 <令和8年4月>		博士 (教育学)		道徳の理論及び指導法	3・4前・後	8	4	(株)山嘉企画 取締役 (平成24年4月)	-	
100	兼任	講師	イヌカイ マコト 大飼 誠 <令和6年4月>		文学士		矯正概論	1・2・3・4前	2	1	奈良少年院法務教 官専門官 (令和3年4月)	-	
							矯正保護教育(施設参観 を含む)	3・4後	2	1			
101	兼任	講師	タカハシ ヒデキ 高橋 秀紀 <令和7年4月>		文学士		矯正保護支援実践論	※	2・3・4後	0.8	1	-	-
102	兼任	講師	ナカムラ ヒロコ 中村 寛子 <令和6年4月>		学術修士 ※		更生保護概論		1・2・3・4前	2	1	-	-
103	兼任	講師	ホウジョウ マサタカ 北條 正崇 <令和7年4月>		学士 (法学)		犯罪被害者支援論		2・3・4後	2	1	やすらぎ 法律事務所 (平成12年10月)	-
104	兼任	講師	ヤマモト ミチツグ 山本 道次 <令和7年4月>		体育学士		矯正保護支援実践論	※	2・3・4後	1.2	1	社会福祉法人白梅学 園副園長・児童養護 施設長 (平成12年7月)	-
105	兼任	講師	サトウ トシエ 佐藤 敏江 <令和7年4月>		文学士		児童・YAサービス論		2・3・4前	4	2	-	-
106	兼任	講師	スズキ ヨウジ 鈴木 陽二 <令和6年4月>		文学修士 (韓国)		韓国・朝鮮語1	1・2・3・4前	1	1	天理大学 国際学部准教授 (令和4年3月ま で)	-	
							韓国・朝鮮語2	1・2・3・4後	1	1			
107	兼任	講師	ヨシカワ マスヒコ 吉川 万寿彦 <令和6年4月>		文学修士		多文化理解と言語(韓 国・朝鮮語)		1・2・3・4前・後	4	2	天理教会会本部 内統領室 次長 (令和3年10月)	-
108	兼任	講師	イヌイ タクヤ 靉 拓也 <令和6年4月>		修士 (文学)		英語1	1・2・3・4前	1	1	-	-	
							英語2	1・2・3・4後	1	1			
109	兼任	講師	スズシマ アズサ 鈴島 梓 <令和6年4月>		博士 (英文学)		英語1	1・2・3・4前	1	1	-	-	
							英語2	1・2・3・4後	1	1			
110	兼任	講師	ヒオキ ナオコ 日沖 直子 <令和6年4月>		博士 (宗教美術) (米国)		英語1	1・2・3・4前	1	1	-	-	
							英語2	1・2・3・4後	1	1			
111	兼任	講師	ヤマシタ ダイスケ 山下 大輔 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		多文化理解と言語(ドイ ツ語)		1・2・3・4前・後	4	2	大阪大学大学院 医学研究科 特任研究員 (令和3年5月)	-
112	兼任	講師	イシダ マサコ 石田 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化学) ※		英語1	1・2・3・4前	3	3	-	-	
							英語2	1・2・3・4後	3	3			
113	兼任	講師	オギノ アヤ 荻野 綾 <令和6年4月>		修士 (外国語 教育学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	-	-	
							英語2	1・2・3・4後	2	2			
114	兼任	講師	カムラ マサコ 家村 雅子 <令和6年4月>		修士 (言語文化学)		教養アカデミック英語1	1・2・3・4前・後	2	2	-	-	
							教養アカデミック英語2	1・2・3・4前・後	2	2			
							実践アカデミック英語2	1・2・3・4前	1	1			
115	兼任	講師	コバヤシ カズヨ 小林 和代 <令和6年4月>		文学修士		中国語1	1・2・3・4前	1	1	-	-	
							中国語2	1・2・3・4後	1	1			
116	兼任	講師	ゴトウ サヤコ 後藤 朗子 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		英語1	1・2・3・4前	3	3	-	-	
							英語2	1・2・3・4後	3	3			
117	兼任	講師	ナイトウ タカオ 内藤 貴夫 <令和6年4月>		修士 (文学) ※		英語1	1・2・3・4前	4	4	-	-	
							英語2	1・2・3・4後	4	4			

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均日数
118	兼任	講師	ノダ トモコ 野田 智子 <令和6年4月>		博士 (文学)		英語1	1・2・3・4前	3	3	—	—
							英語2	1・2・3・4後	3	3		
119	兼任	講師	ヒキダ タカヤス 疋田 隆康 <令和6年4月>		博士 (文学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
120	兼任	講師	ヤマカワ マサシ 山川 仁 <令和6年4月>		博士 (人間・ 環境学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
121	兼任	講師	ヤマグチ ノリカズ 山口 徳一 <令和6年4月>		修士 (英文学) ※		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
122	兼任	講師	ヤマムラ セイジ 山村 誠治 <令和6年4月>		博士 (英語学)		英語1	1・2・3・4前	2	2	—	—
							英語2	1・2・3・4後	2	2		
123	兼任	講師	サカイ タカヒデ 坂井 隆秀 <令和6年4月>		体育学士		健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	8	4	—	—
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	8	4		
124	兼任	講師	ヤマダ サダコ 山田 貞子 <令和6年4月>		教育学修士		健康スポーツ科学1	1・2・3・4前	4	2	—	—
							健康スポーツ科学2	1・2・3・4後	4	2		
							レクリエーション スポーツ	2・3・4前	1	1		
							ニュースポーツ	2・3・4前	1	1		

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(人文学部宗教学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	—	—	—	—	—	2人	—	2人	
	修 士	—	—	—	—	1人	—	—	1人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
准教授	博 士	—	—	1人	—	—	—	—	1人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
講 師	博 士	—	—	1人	—	—	—	—	1人	
	修 士	—	—	1人	—	—	—	—	1人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
助 教	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
合 計	博 士	0人	0人	2人	0人	0人	2人	0人	4人	
	修 士	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(人文学部国文学国語学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	—	—	—	1人	1人	—	—	2人	
	修 士	—	—	—	1人	—	—	—	1人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
准教授	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	—	—	1人	—	—	1人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
講 師	博 士	—	—	1人	—	—	—	—	1人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
助 教	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
合 計	博 士	0人	0人	1人	1人	1人	0人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(人文学部歴史文化学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	—	—	—	1人	—	—	—	1人	
	修 士	—	—	—	1人	1人	2人	—	4人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
准教授	博 士	—	—	—	1人	—	—	—	1人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
講 師	博 士	—	—	1人	—	—	—	—	1人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
助 教	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
合 計	博 士	0人	0人	1人	2人	0人	0人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	0人	1人	1人	2人	0人	4人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(人文学部心理学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	—	—	1人	1人	2人	—	—	4人	
	修 士	—	—	—	1人	1人	—	—	2人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
准教授	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
講 師	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
助 教	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
合 計	博 士	0人	0人	1人	1人	2人	0人	0人	4人	
	修 士	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	



専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(人文学部社会教育学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	—	—	—	—	—	1人	—	1人	
	修 士	—	—	—	1人	1人	—	—	2人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
准教授	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	1人	—	—	—	—	1人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
講 師	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	1人	—	—	—	—	1人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
助 教	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
合 計	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	
	修 士	0人	0人	2人	1人	1人	0人	0人	4人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(人文学部社会福祉学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	—	—	—	1人	—	1人	—	2人	
	修 士	—	—	—	1人	1人	3人	—	5人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
准教授	博 士	—	—	1人	1人	—	—	—	2人	
	修 士	—	—	1人	—	—	—	—	1人	
	学 士	—	—	—	—	1人	—	—	1人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
講 師	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	1人	—	—	—	—	1人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
助 教	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
合 計	博 士	0人	0人	1人	2人	0人	1人	0人	4人	
	修 士	0人	0人	2人	1人	1人	3人	0人	7人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(人文学部)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	—	—	—	—	—	1人	—	1人	
	修 士	—	—	—	2人	—	1人	—	3人	
	学 士	—	—	—	—	—	1人	—	1人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
准教授	博 士	—	—	—	2人	—	—	—	2人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
講 師	博 士	—	—	2人	—	—	—	—	2人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
助 教	博 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	修 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	学 士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	短期大士	—	—	—	—	—	—	—	0人	
	その他	—	—	—	—	—	—	—	0人	
合 計	博 士	0人	0人	2人	2人	0人	1人	0人	5人	
	修 士	0人	0人	0人	2人	0人	1人	0人	3人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	
	短期大士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	